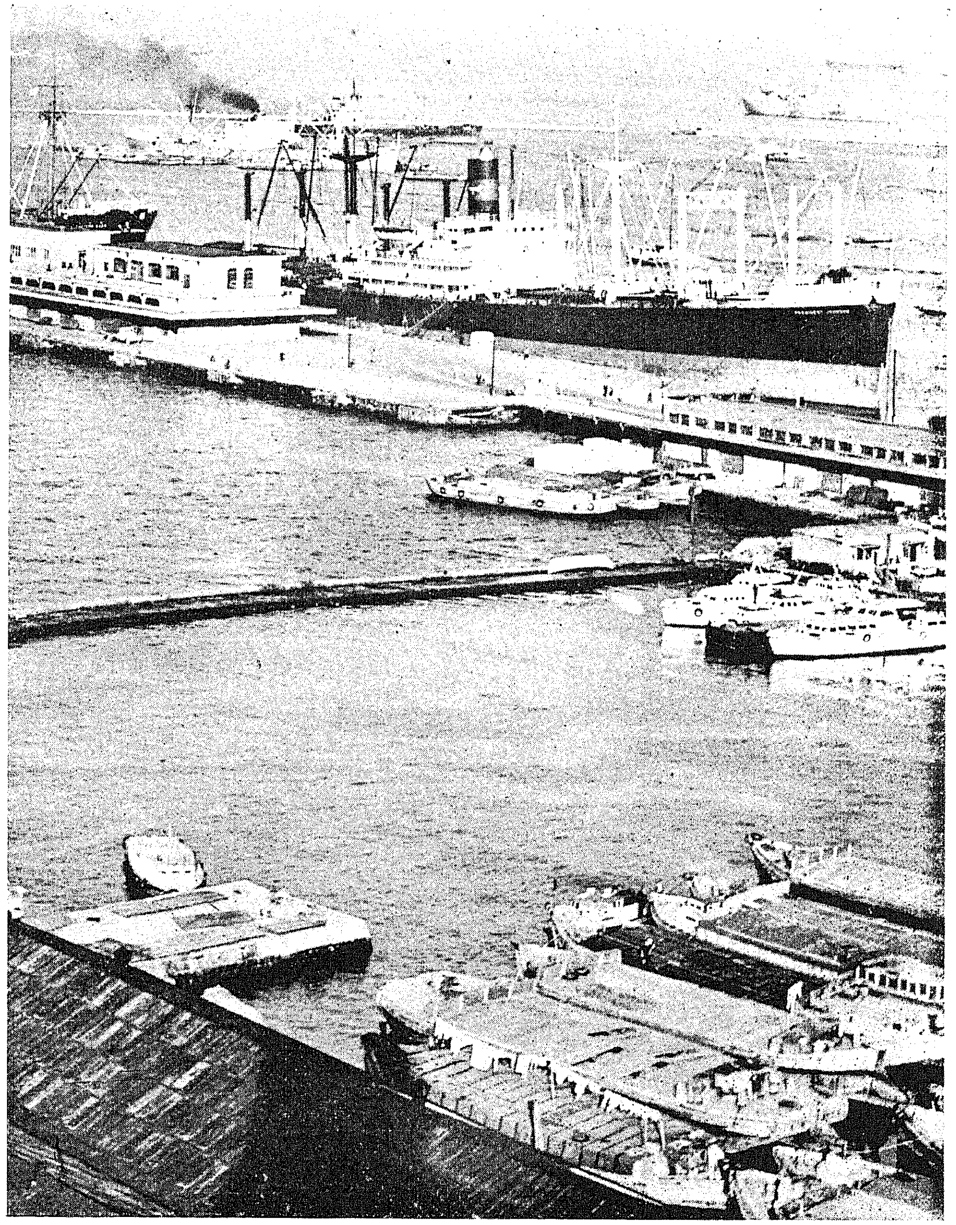
KY376
39

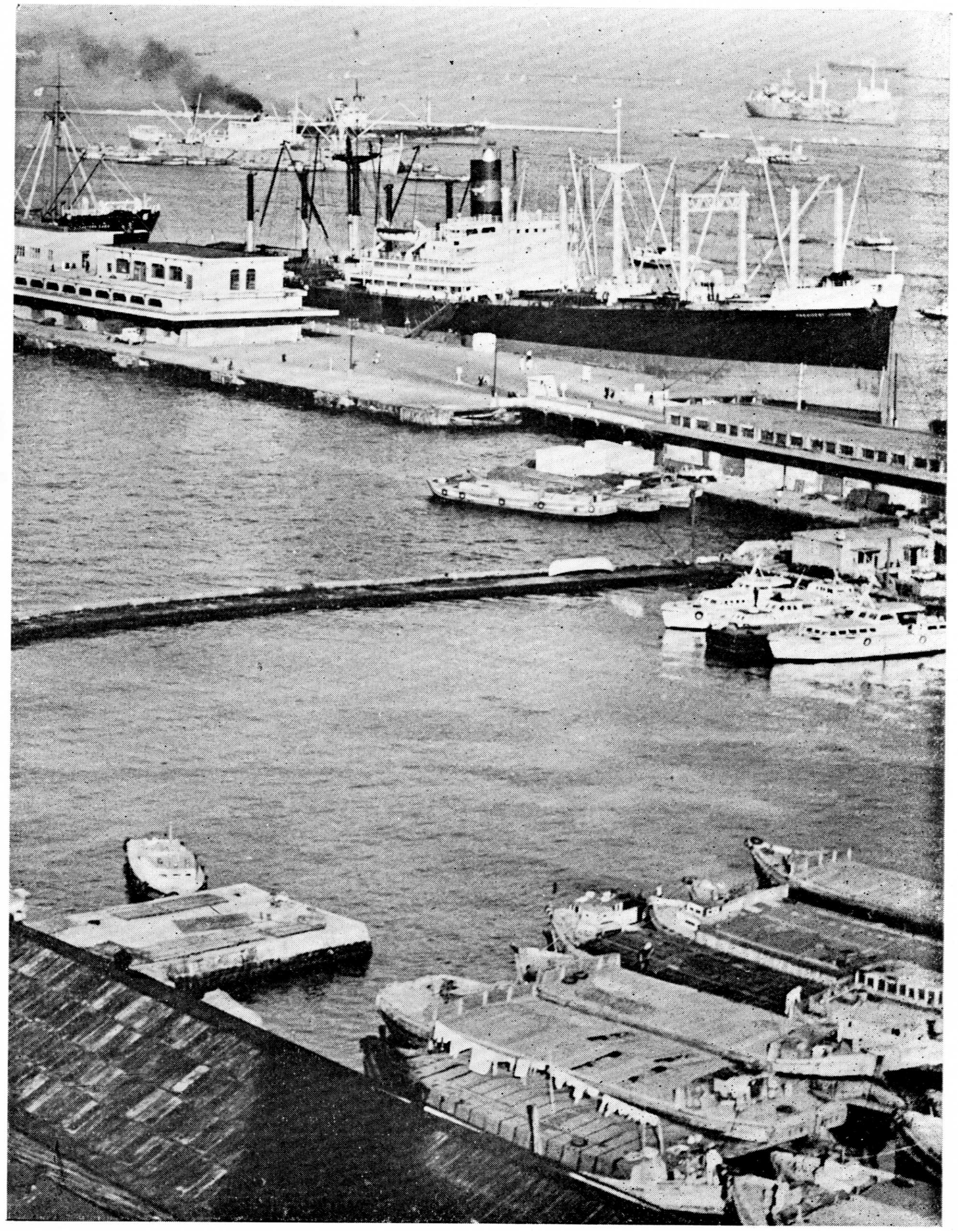
横浜市立図書館
0003019004

KY376
39

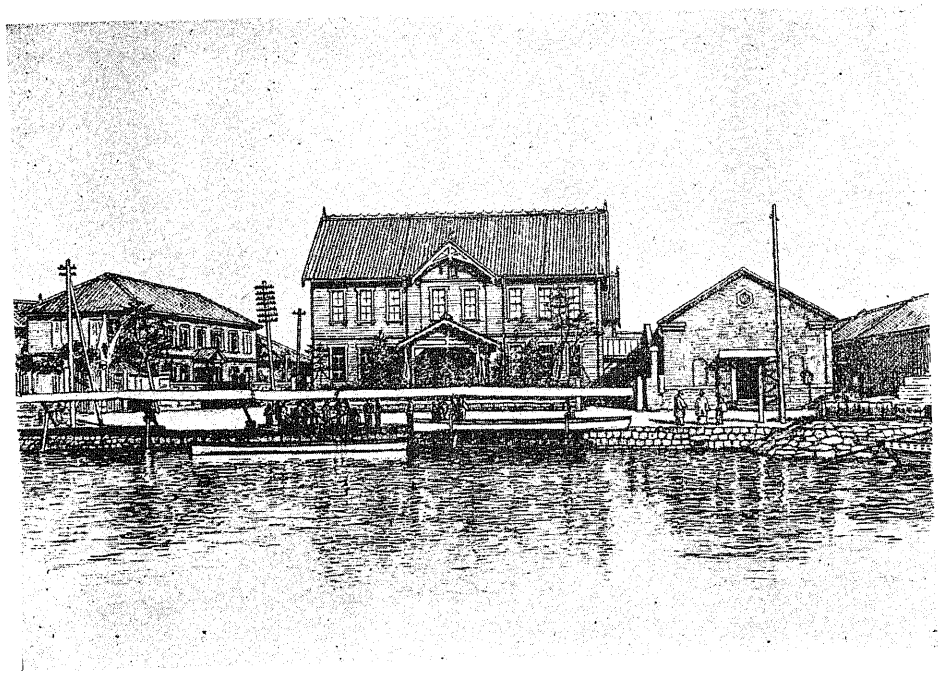
抚顺市学校沿革誌



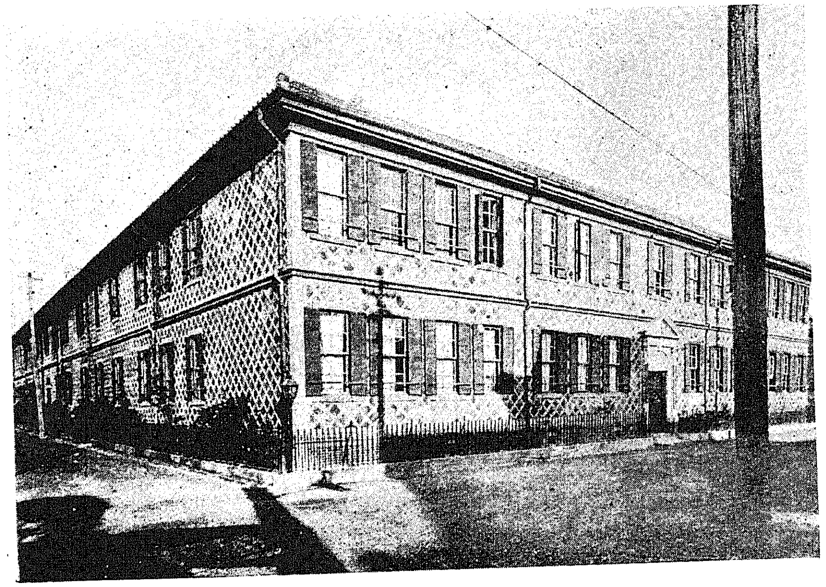
躍進を続ける横浜港



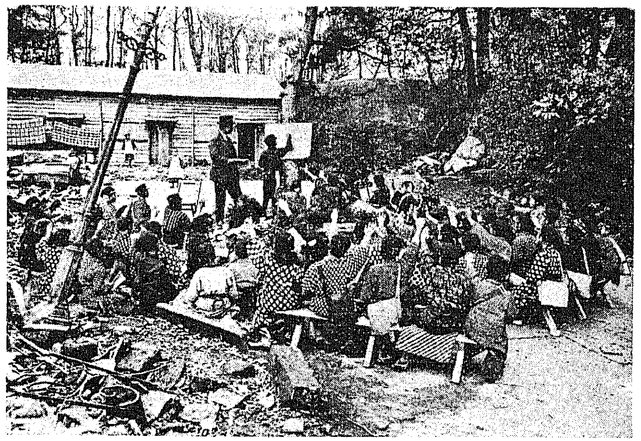
躍進を続ける横浜港



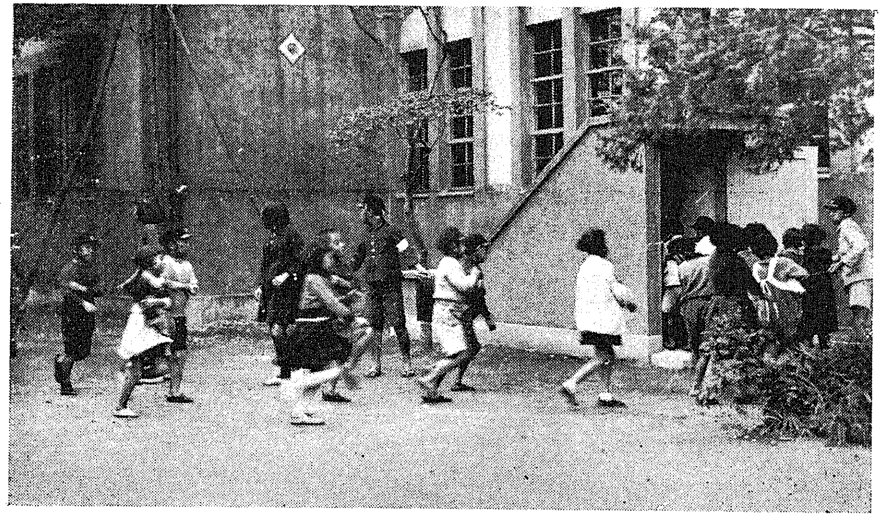
明治三十年に新築された横浜商業学校

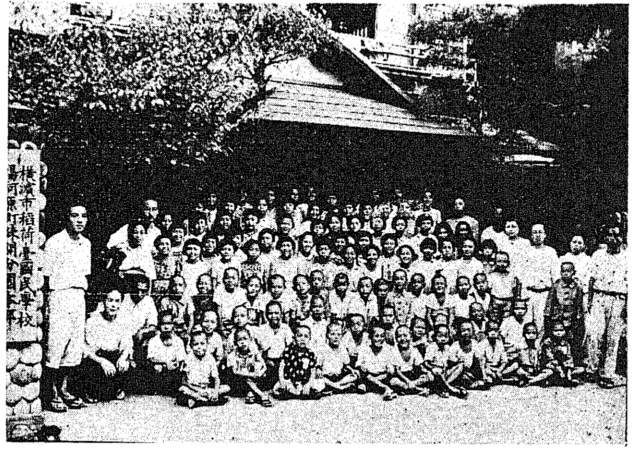


明治四〇年頃の吉田小学校



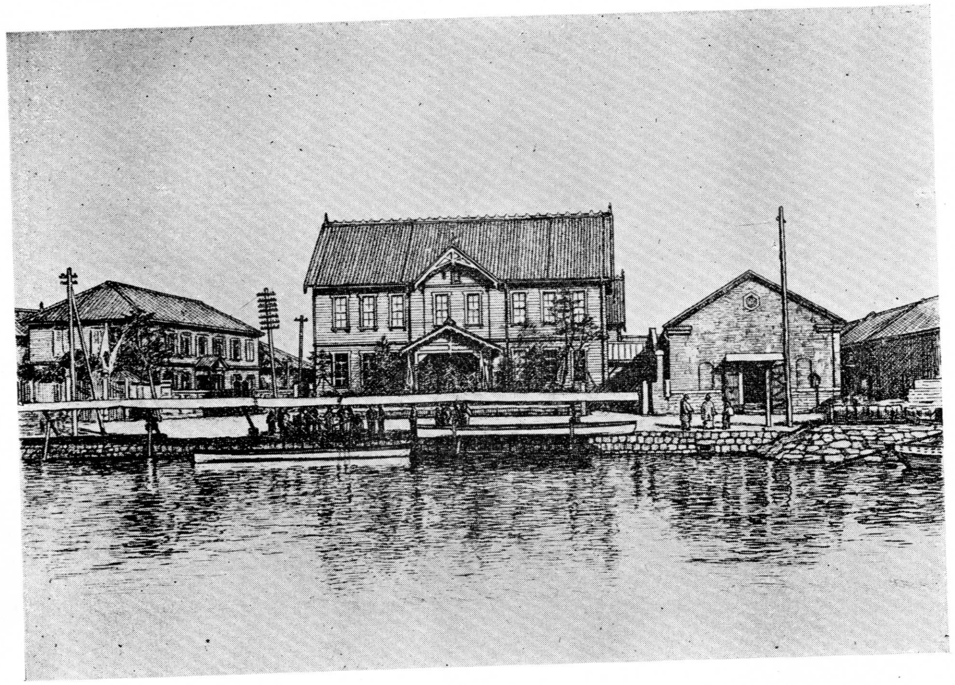
震災後の露天授業



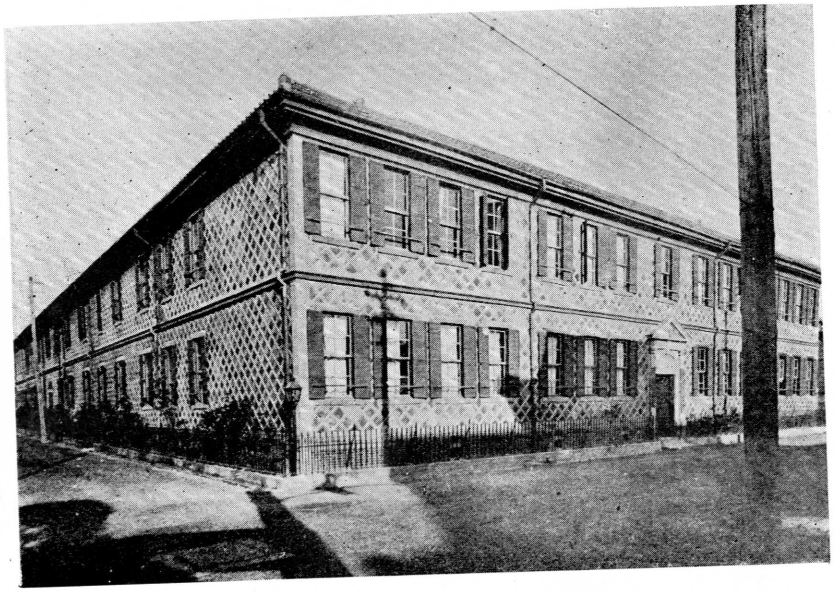

横濱市稲荷臺國民學校

右　戦時中の学童疎開

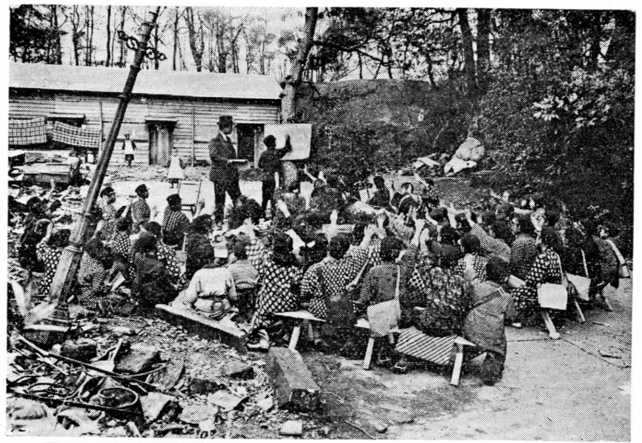
上　空襲に備えての避難訓練



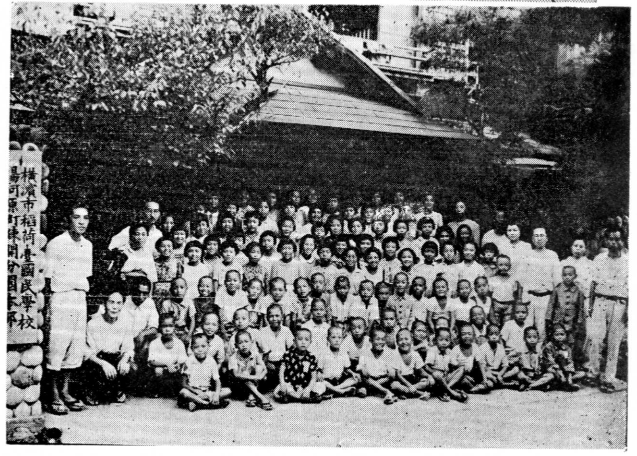
明治三十年に新築された横浜商業学校



明治四〇年頃の吉田小学校



震災後の露天授業


横濱市稲荷台國民學校
湯河原町疎開分園本部

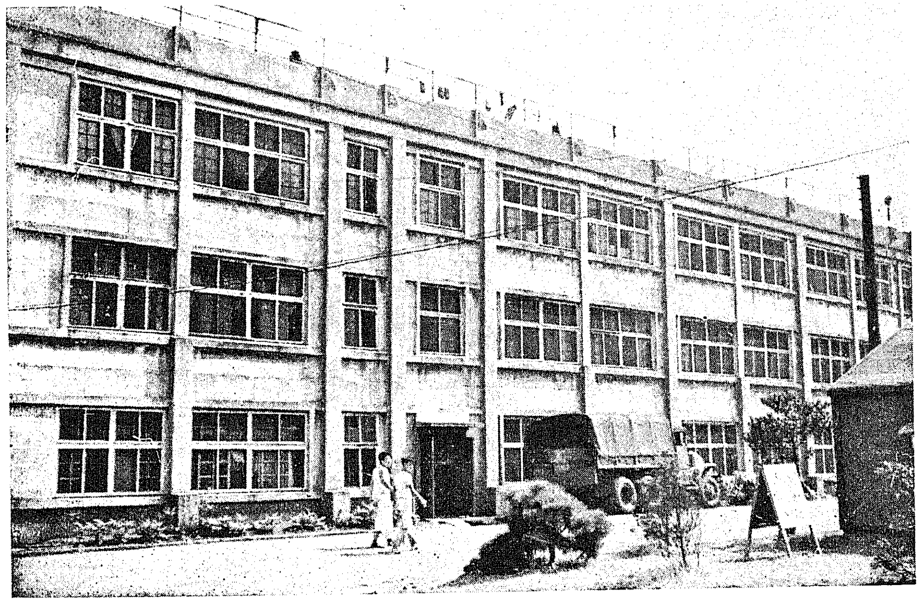
右　戦時中の学童疎開

上　空襲に備えての避難訓練

戦後新築された鉄筋校舎

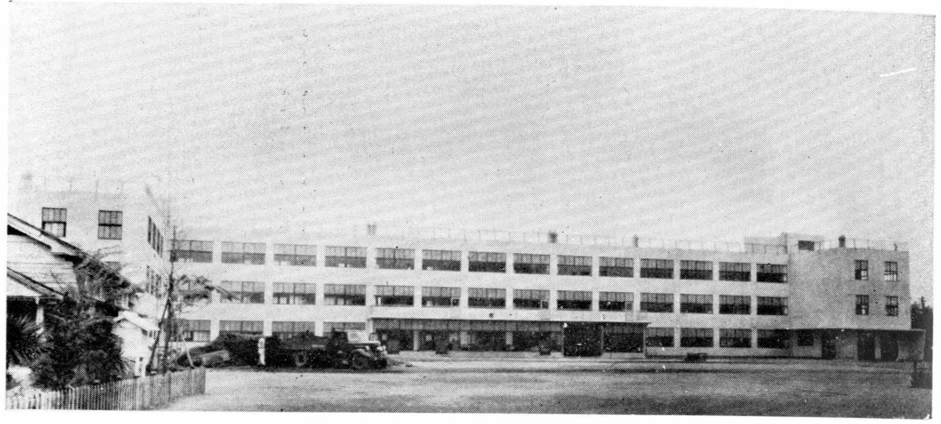
上　杉田小学校
下　大鳥中学校

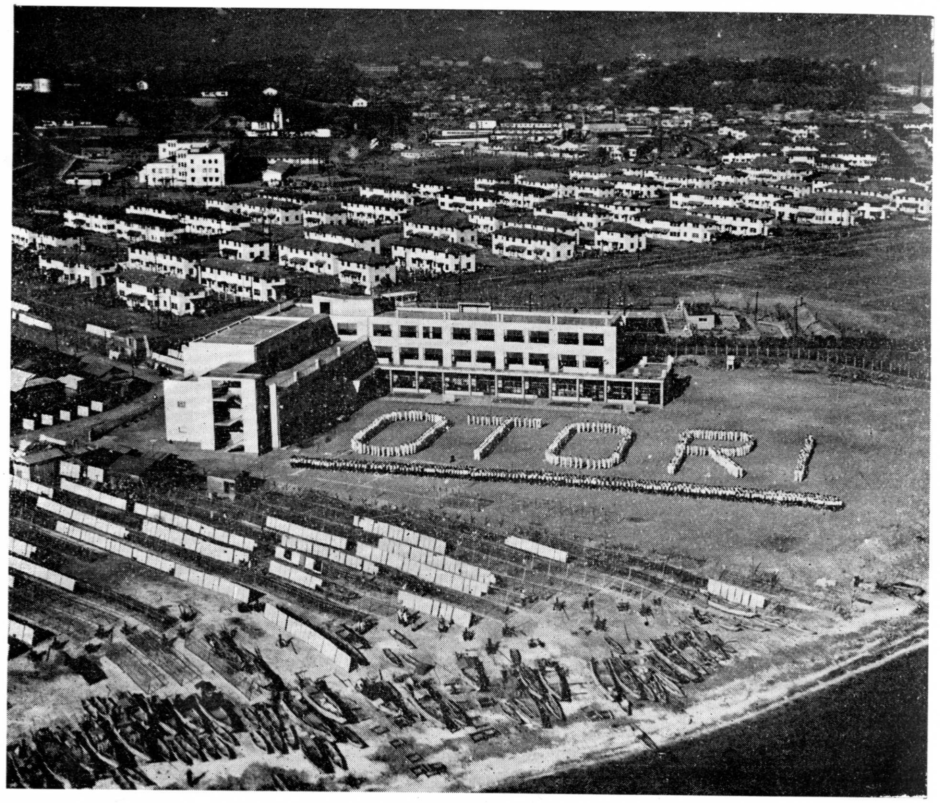
戦災をうけた横浜市の中心街



接収当時の旧寿小学校　（昭和三一年五月四日解除）

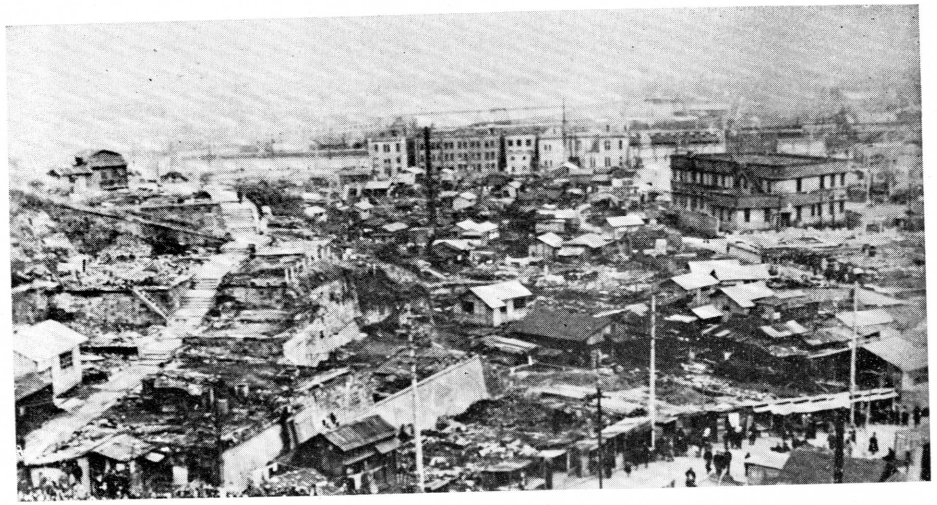
本校は横浜市最初の鉄筋校舎である（大正九年建設）



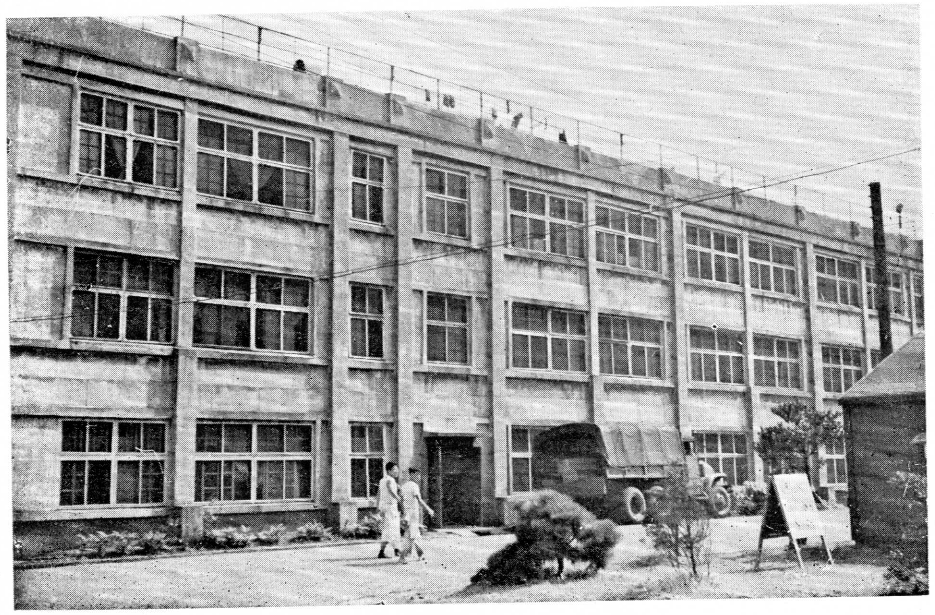


戦後新築された鉄筋校舎

上　杉田小学校
下　大鳥中学校

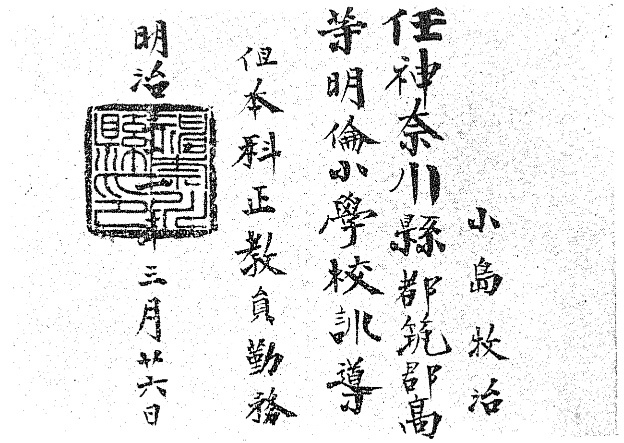


戦災をうけた横浜市の中心街



接収当時の旧寿小学校　（昭和三一年五月四日解除）

本校は横浜市最初の鉄筋校舎である（大正九年建設）



小島牧治

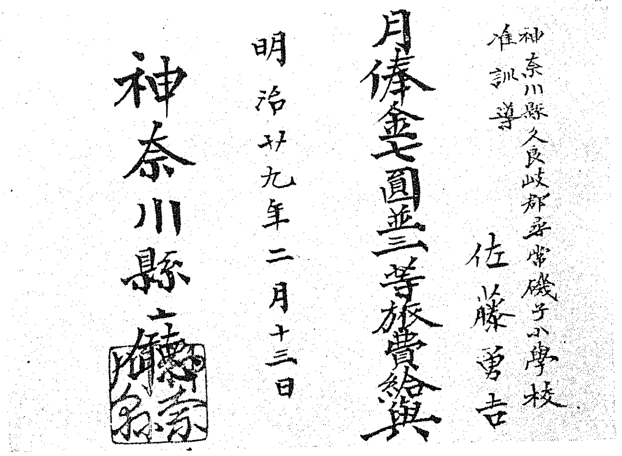
任神奈川縣都筑郡高等明倫小學校訓導

但本科正教員勤務

明治

三月廿六日

教員辞令



神奈川縣久良岐郡尋常磯子小學校

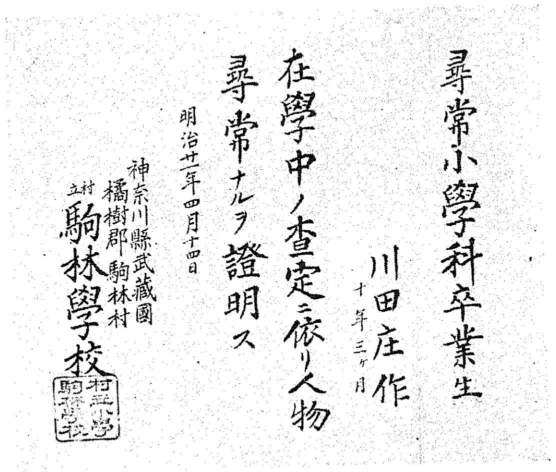
准訓導　佐藤勇吉

月俸金七圓並ニ三等旅費給與

明治廿九年二月十三日

神奈川縣

給与辞令



尋常小學科卒業生

川田庄作（十年三ヶ月）

在學中ノ査定ニ依リ人物

尋常ナルヲ證明ス

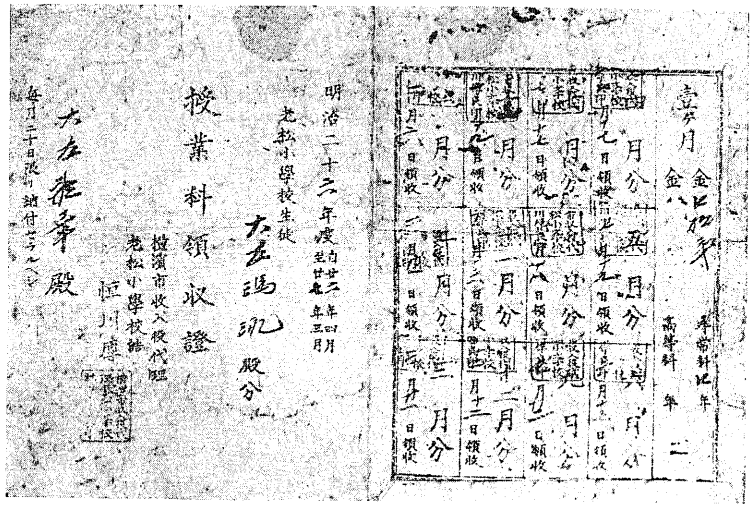
明治廿一年四月十四日

神奈川縣武藏國

橘樹郡駒林村

（村立）駒林學校

人物証明書



壹ヶ月　金

尋常科　年

高等科　年　二

月分　日領收

明治二十二年度（自廿二年四月　至廿三年三月）

老松小學校生徒

大友瑞功　殿分

授業料領収證

横濱市收入役代理

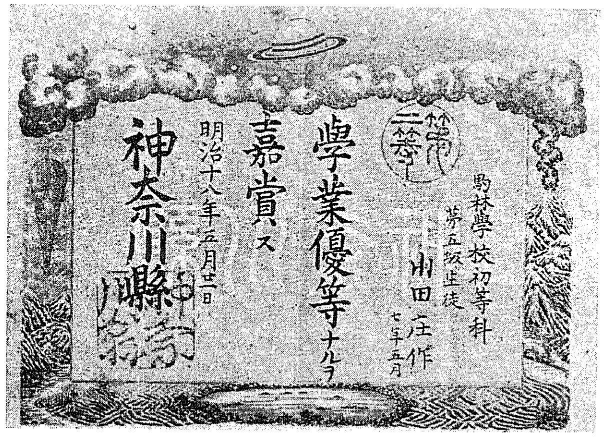
老松小學校詰

恒川

大友雅峯　殿

每月二十日限リ納付セラルヘシ

授業料領収書



駒林學校初等科

第五級生徒

川田庄作（七年五月）

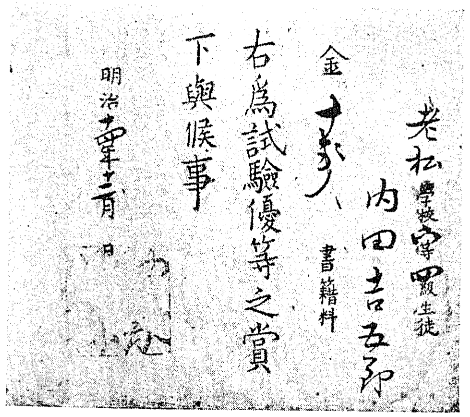
學業優等ナルヲ

嘉賞ス

明治十八年五月廿一日

神奈川縣

優等賞状



老松學校第四級生徒

内田吉五郎

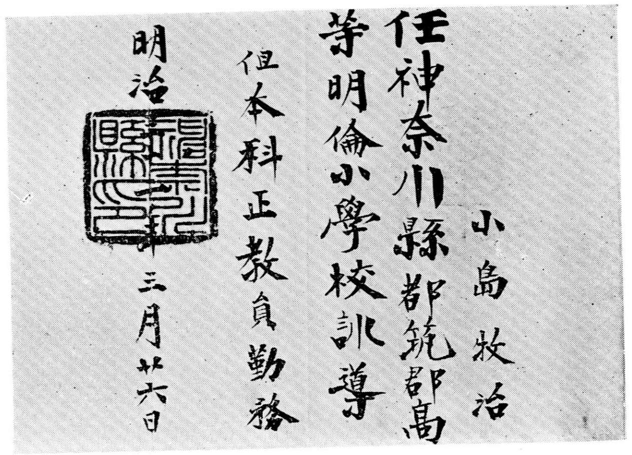
金十戔　書籍料

右爲試驗優等之賞

下與候事

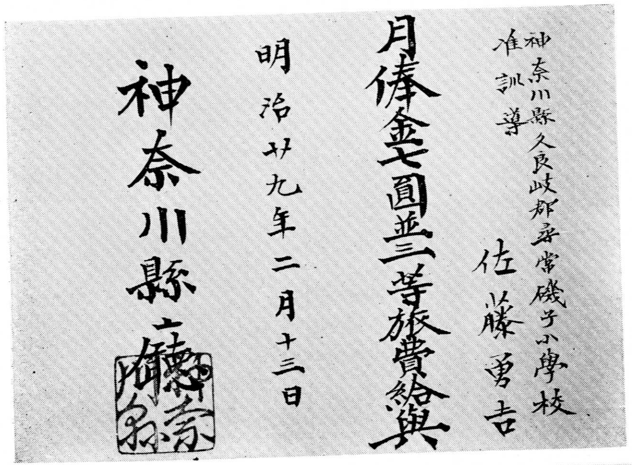
明治十一年十二月　日

褒賞状



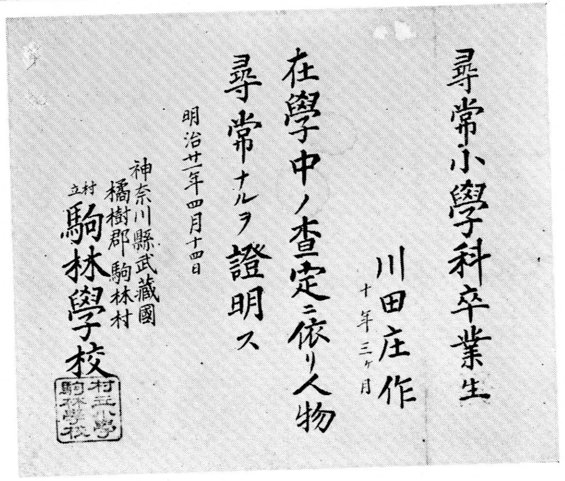
小島牧治
任神奈川縣都筑郡高
等明倫小學校訓導
但本科正教員勤務
明治　三月廿六日

教員辞令



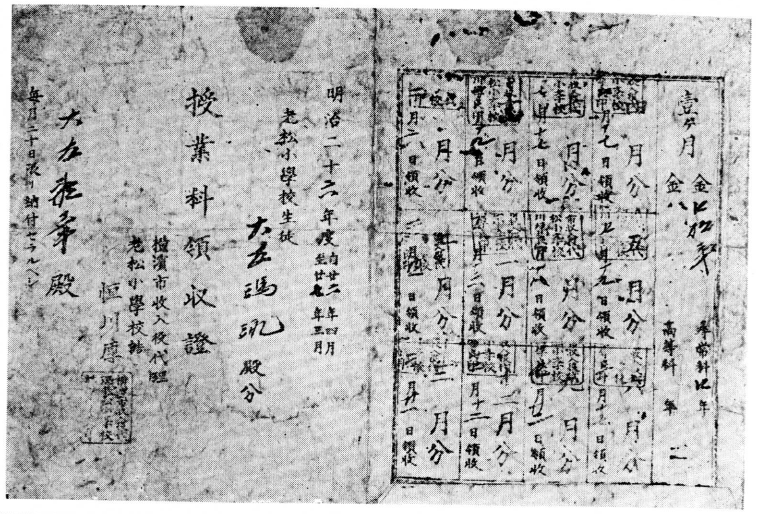
神奈川縣久良岐郡尋常磯子小學校
准訓導
佐藤勇吉
月俸金七圓並三等旅費給與
明治廿九年二月十三日
神奈川縣

給与辞令



尋常小學科卒業生
川田庄作（十年三ヶ月）
在學中ノ査定ニ依リ人物
尋常ナルヲ證明ス
明治廿一年四月十四日
神奈川縣武藏國
橘樹郡駒林村
村立駒林學校

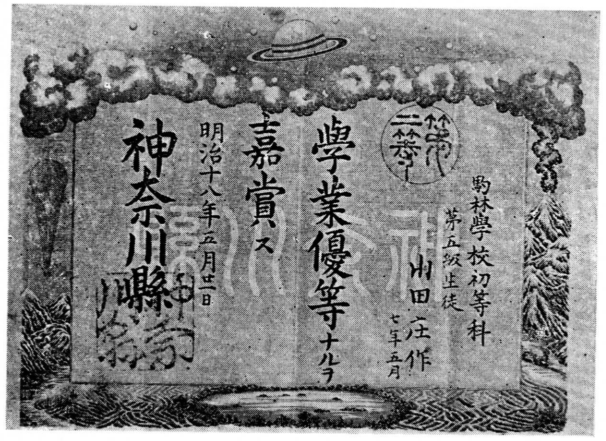
人物証明書



壹ヶ月　金七拾錢
金八
尋常科　年
高等科　年　二

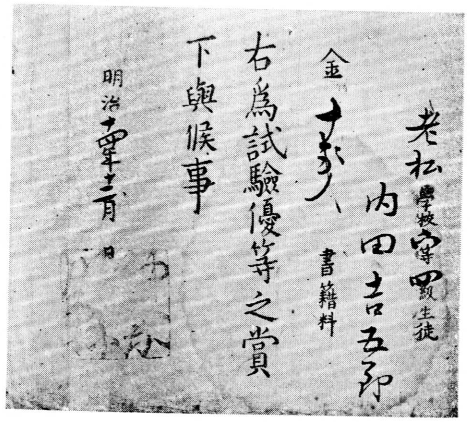
明治二十二年度（自廿二年四月　至廿三年三月）
老松小學校生徒
大丘瑪玑　殿分
授業料領収證
横濱市收入役代理
老松小學校長
恒川庸
大丘[illegible]殿
毎月二十日限リ納付セラルヘシ

授業料領収書



第二等
駒林學校初等科
第五級生徒
川田庄作（七年五月）
學業優等ナルヲ
嘉賞ス
明治十八年五月廿一日
神奈川縣

優等賞状



老松學校第四級生徒
内田吉五郎
金十錢　書籍料
右爲試驗優等之賞
下與候事
明治十三年十二月　日

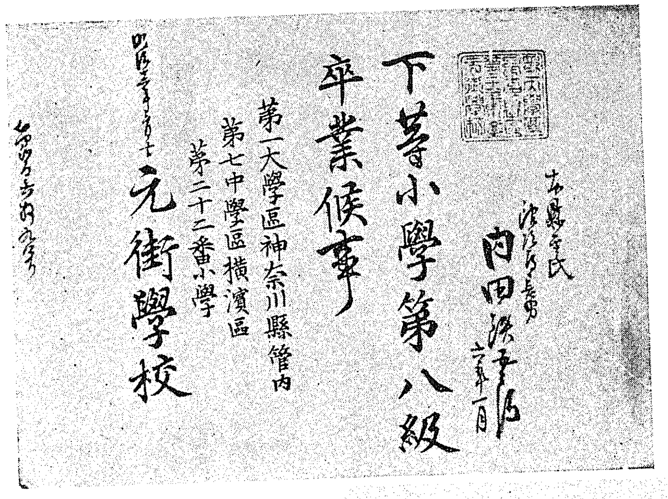
褒賞状

序

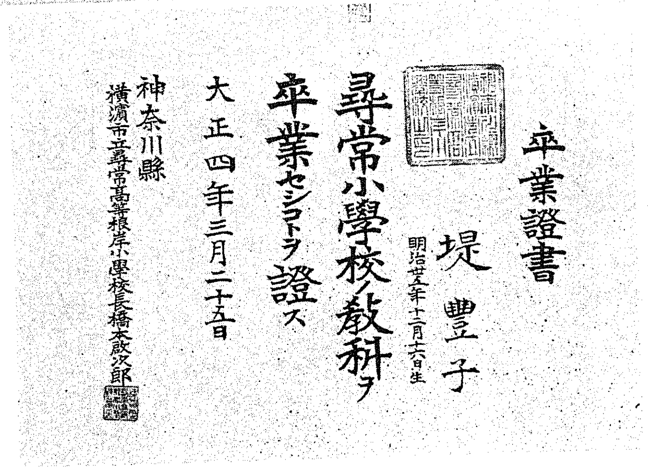
これまで、横浜市立学校沿革誌の刊行を望む声は相当に強かつたが、その着手をはばむ第一の壁は、正しい資料を収集することが極めて困難であるということであつた。

戦争は、幾多の尊い人命と巨額の富と、そして、再び求めることのできない貴重な資料を犠牲にした。教育に関するものも、もちろんその例外ではなかつた。

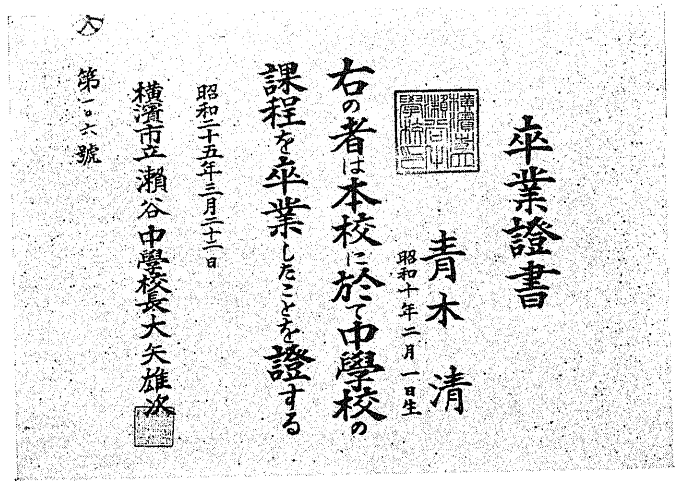
顧みるに、本市学校教育の変せんは、日本の学制八十余年の沿革と一致する。従つて、本市には、名実共に校歴八十余年を数える学校も十指に余り、その形態、内容共に開国の歴史につながるものも少くない。それは、横浜が持つ誇の一つでもあるが、今は、これらをしのぶ貴重な資料が、敗戦の悪夢の中に消え去ろうとしている。そして、我々の脳裏に去来するものは、胸の痛むような思い出ばかりである。かの児童疎開、学徒動員、校舎転用、戦災、それに接収などは、八十余年の教育の年譜の中にくつきりと暗い影を投じて、過去の輝きを消失する役目を演じ、その上に戦後の教育再建の生々しい苦難が今日まで続いている。しかし、幾多の諸先輩は、筆舌も及ばぬ苦難を踏越え、難関を突破して、過去の輝きにもまさる業績をあげつつある。その一例を校舎の建設にみるに、現在横浜市の児童生徒数二十二万余人に対し、学校数は二百余校の多数に及ぶ状態であり、小学校については、二部授業の苦しみはあるとしても、その程度は、昭和初期のそれに比べて大差のない状態となつている。これは、まさに諸先輩の労苦と、全市民の教育に対する深い理解と絶大なる支援によるものであつて、これを思い、かれをしのべば、まことに感慨無量のものがある。


本縣平民
[illegible]長男
内田[illegible]
[illegible]
下等小學第八級
卒業候事
第一大學區神奈川縣管内
第七中學區横濱區
第二十二番小學
元街學校
明治[illegible]

明治時代の卒業証書


卒業證書
堤豊子
明治卅五年十二月十六日生
尋常小學校ノ教科ヲ
卒業セシコトヲ證ス
大正四年三月二十五日
神奈川縣
横濱市立尋常高等根岸小學校長橋本啟次郎

大正時代の卒業証書


卒業證書
青木清
昭和十年二月一日生
右の者は本校に於て中學校の
課程を卒業したことを證する
昭和二十五年三月二十二日
横濱市立瀬谷中學校長大矢雄次
第一〇六號

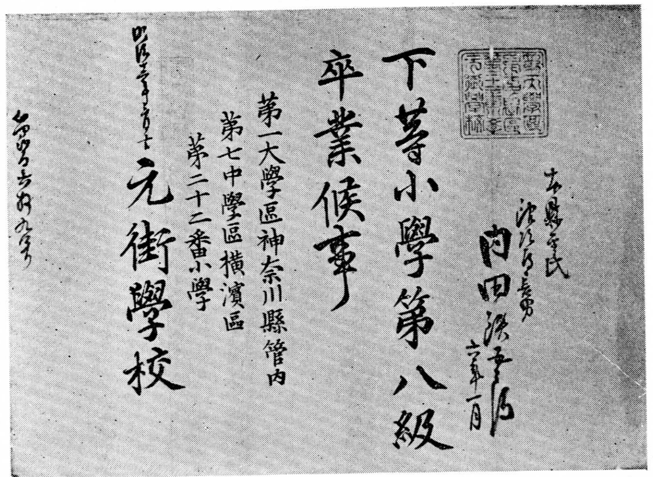
新学制下の卒業証書

序

これまで、横浜市立学校沿革誌の刊行を望む声は相当に強かつたが、その着手をはばむ第一の壁は、正しい資料を収集することが極めて困難であるということであつた。

戦争は、幾多の尊い人命と巨額の富と、そして、再び求めることのできない貴重な資料を犠牲にした。教育に関するものも、もちろんその例外ではなかつた。

顧みるに、本市学校教育の変せんは、日本の学制八十余年の沿革と一致する。従つて、本市には、名実共に校歴八十余年を数える学校も十指に余り、その形態、内容共に開国の歴史につながるものも少くない。それは、横浜が持つ誇の一つでもあるが、今は、これらをしのぶ貴重な資料が、敗戦の悪夢の中に消え去ろうとしている。そして、我々の脳裏に去来するものは、胸の痛むような思い出ばかりである。かの児童疎開、学徒動員、校舎転用、戦災、それに接収などは、八十余年の教育の年譜の中にくつきりと暗い影を投じて、過去の輝きを消失する役目を演じ、その上に戦後の教育再建の生々しい苦難が今日まで続いている。しかし、幾多の諸先輩は、筆舌も及ばぬ苦難を踏越え、難関を突破して、過去の輝きにもまさる業績をあげつつある。その一例を校舎の建設にみるに、現在横浜市の児童生徒数二十二万余人に対し、学校数は二百余校の多数に及ぶ状態であり、小学校については、二部授業の苦しみはあるとしても、その程度は、昭和初期のそれに比べて大差のない状態となつている。これは、まさに諸先輩の労苦と、全市民の教育に対する深い理解と絶大なる支援によるものであつて、これをしのべば、まことに感慨無量のものがある。

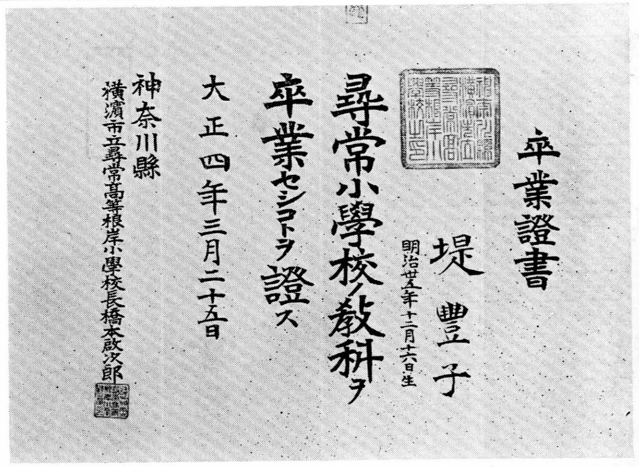


本縣平民
次郎吉長男
内田源三郎
六年一月

下等小學第八級
卒業候事

第一大學區神奈川縣管内
第七中學區横濱區
第二十二番小學
元街學校

明治時代の卒業証書



卒業證書

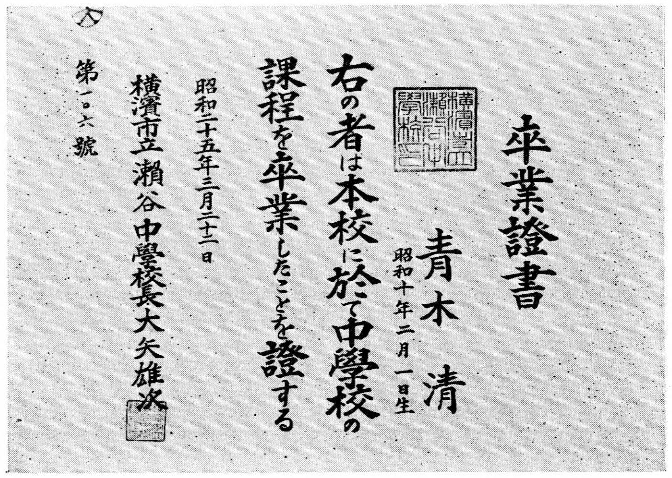
堤　豊子
明治廿五年十二月十六日生

尋常小學校ノ教科ヲ
卒業セシコトヲ證ス

大正四年三月二十五日

神奈川縣
横濱市立尋常高等根岸小學校長橋本啓次郎

大正時代の卒業証書



卒業證書

青木　清
昭和十年二月一日生

右の者は本校に於て中學校の
課程を卒業したことを證する

昭和二十五年三月二十二日

横濱市立瀬谷中學校長大矢雄次

第一〇六號

新学制下の卒業証書

横浜市の教育の内容は、新学制実施十周年の今日、たしかに長足の進歩をしたといいうることは、幾多の実績がこれを示している。この際、我々はより一層の進歩をめざし、あらためて先輩の努力の跡をしのびつつ、よりよきものを打建てるべく、本市教育八十余年の貴重な資料を収集し、新学制十周年記念事業の一つとして、学校沿革誌の刊行を計画した。校長会は、率先この計画に賛成し、編集委員会を設け、膨大な資料を我々に提供された。我々は、諸種の事情により、その取捨選択に充分な時間と経済的の余裕をもちえなかつた事をうらみとしたが、取りあえず学校沿革誌の骨格だけをまとめあげた。その余のことについては、将来、各界からの叱正をえて、補正する機会をもち、この計画を完成したいと念じている。

なお、この学校沿革誌は、当初から刊行に参画された多数の編集委員諸氏の努力に負うところ極めて大きくこの点、心から感謝の意を表する次第である。

昭和三二年一二月

横浜市教育委員会教育長

大砂吉雄

まえがき

一、本市における教育史は昭和七年に刊行された「横浜市史稿」教育編が刊行されて以来なく、その後の度々の学制改革、戦争、戦災、駐留軍による占領政策、接収等のめまぐるしい変革があり、これらを詳にする資料が必要とされて、本書の刊行が企画された。

一、本書は学制頒布より昭和三十年に至る八十余年間にわたる横浜市の教育の発展を記述したもので、横浜市教育概要編と市立各学校沿革編の二部に分かれている。

一、固有名詞その他やむをえないものを除き本書の記述はなるべく現代かなづかいおよび当用漢字によつた。

一、横浜市の教育概要については、開港から大震災までは、前記「横浜市史稿」教育篇を主として参考にし、他は横浜市教育要覧、横浜市年鑑、横浜市教育時報、横浜市統計書などを参考にした。

一、各学校の沿革は、一定様式により各学校から提出された資料にもとづいたが、左記の点については規制した。

1、各学校の内容は、昭和三十一年七月以後変化のあつたものおよび、独立した学校については出来うるだけ入れた。

2、小学校の校名は、明治六年よりその呼称が変化しているが各学校の沿革にもれているものがあるので、前文、及び年表に記した。

3、青年学校については、資料がなく青年学校篇を設ける予定であつたが、やむなく、各小学校の統併合、分離、併設状況欄に記入するにとゞめた。

4、校長の就任退職日については、当時の辞令月日により記入した。

5、生徒数教職員数は、各学校の創立、横浜市編入時、分離、統合など、学校自体変化のあつた時のほかは、五年間隔とし、昭和三十年までとした。

6、その他の項については、疎開、および全市的な催しによるもののみを取上げ、その他の施設については、禽舎、プール植物室、校長住宅、図書館（室）、給食調理室など、おもなものだけにした。

7、新学制による中学校へ校舎の転用又は接収などにより統廃合された学校については、まとめて収録した。

8、分校については、特殊な形態の小野・沢渡・二ッ橋の三分校を除いては全部本校に含めた。

9、中学校の設置月日については法令にもとづいて四月一日とした。

一、年表については、教育概要、各学校沿革の補足説明の範囲にした。

一、本書の背および扉の題字は、横浜市長平沼亮三氏の筆による。

一、口絵の写真は鹿野光英氏及び各学校の御好意により提供していたゞいた。

一、本書の編集委員、編集の経過などについては後記にしるした。

学校沿革誌目次

題字　横浜市長　平沼亮三

序

まえがき

横浜市教育概要編

開港から大震災まで……一

震災の復興から終戦まで……二〇

戦後の再建から現在まで……四五

市立学校沿革編

小学校の部

鶴見区

生麦小学校……一

豊岡小学校……五

鶴見小学校……八

潮田小学校……一一

下野谷小学校……一五

下野谷小学校小野分校……一九

市場小学校……二一

平安小学校……二六

末吉小学校……二九

上末吉小学校……三四

下末吉小学校……三六

旭小学校……三八

東台小学校……四二

岸谷小学校……四八

矢向小学校……五一

入船小学校……五四

寺尾小学校……五七

神奈川区

三ッ沢小学校……六〇

青木小学校……六五

青木小学校沢渡分校……七〇
二谷小学校……七二
幸ヶ谷小学校……七六
浦島小学校……七九
子安小学校……八三
白幡小学校……八九
神橋小学校……九二
池上小学校……九七
西寺尾小学校……一〇〇
大口台小学校……一〇二

西　区

東　小学校……一〇五
稲荷台小学校……一一〇
富士見台小学校……一一四
西前小学校……一一七
平沼小学校……一二一
宮谷小学校……一二五
戸部小学校……一三一
一本松小学校……一三六
浅間台小学校……一四〇

中　区

本町小学校……一四二
山元小学校……一四七
元街小学校……一五一
北方小学校……一五七
大島小学校……一六二
間門小学校……一六七
立野小学校……一七一

南　区

南吉田小学校……一七五
石川小学校……一七九
中村小学校……一八四
日枝小学校……一八七
蒔田小学校……一九一
大岡小学校……一九四
桜岡小学校……二〇〇
日下小学校……二〇四
日野小学校……二〇八
永野小学校……二一二
井土ヶ谷小学校……二一七
南太田小学校……二二〇
太田小学校……二二四
南　小学校……二三〇

保土ヶ谷区

保土ヶ谷小学校……二三三
帷子小学校……二四〇
岩崎小学校……二四四
峯　小学校……二四八
星川小学校……二五二
川島小学校……二五七
都岡小学校……二六一
二俣川小学校……二六六
今井小学校……二七〇
市沢小学校……二七三
桜台小学校……二七八
白根小学校……二八〇
希望ヶ丘小学校……二八三

磯子区

滝頭小学校……二八五
磯子小学校……二八八
浜　小学校……二九三
杉田小学校……二九七
根岸小学校……三〇一
屏風浦小学校……三〇六

金沢区

富岡小学校……三〇八
金沢小学校……三一二
八景小学校……三一七
文庫小学校……三一九
六浦小学校……三二一
釜利谷小学校……三二七
大道小学校……三三二
瀬ヶ崎小学校……三三五

港北区

城郷小学校……三三七
大綱小学校……三四一
綱島小学校……三四六
日吉台小学校……三四八
港北小学校……三五一
菊名小学校……三五四
新田小学校……三五六
高田小学校……三六〇
中川小学校……三六三
山内小学校……三六八
鉄　小学校……三七一
谷本小学校……三七五
山下小学校……三八〇
川和小学校……三八四
都田小学校……三八六
折本小学校……三九一
鴨居小学校……三九三
中山小学校……三九七

新治小学校……四〇一
長津田小学校……四〇五
田奈小学校……四〇八
奈良小学校……四一二

戸塚区

本郷小学校……四一五
豊田小学校……四一九
戸塚小学校……四二四
東戸塚小学校……四二九
大正小学校……四三一
中和田小学校……四三六
中田小学校……四四〇
瀬谷小学校……四四三
瀬谷小学校二ッ橋分校……四四七
上瀬谷小学校……四四九
原小学校……四五二
岡津小学校……四五四
川上小学校……四五九
西本郷小学校……四六二
三ッ境小学校……四六四

新学制により廃校になつた小学校

鶴見国民学校……四六七
神奈川国民学校……四六七
栗田谷小学校……四六九
斎藤分小学校……四七〇
西大口国民学校……四七〇
岡野小学校……四七一
西戸部小学校……四七二
老松小学校……四七三
吉田小学校……四七四
横浜国民学校……四七五
寿国民学校……四七六
本牧小学校……四七八
三吉小学校……四七九
共進小学校……四七九
平楽小学校……四八〇
中村高等小学校……四八一
宮田国民学校……四八二

中学校の部

鶴見区

市場中学校……四八三
鶴見中学校……四八五
末吉中学校……四八八
寺尾中学校……四九一
生麦中学校……四九三
潮田中学校……四九六

神奈川区

神奈川中学校……四九九
栗田谷中学校……五〇一
浦島丘中学校……五〇五
六角橋中学校……五〇八
松本中学校……五一〇

西区

・岡野中学校……五一二
西中学校……五一四
老松中学校……五一七
岩井原中学校……五一九

中区

吉田中学校……五二二
大鳥中学校……五二五
港中学校……五二八

南区

平楽中学校……五三一
共進中学校……五三三
港南中学校……五三六
南中学校……五三九
蒔田中学校……五四三

保土ヶ谷区

保土ヶ谷中学校……五四六
岩崎中学校……五四九
鶴ヶ峯中学校……五五二
宮田中学校……五五四

磯子区

根岸中学校……五五七
浜中学校……五五九
岡村中学校……五六二

金沢区

金沢中学校……五六五
六浦中学校……五六八

港北区

日吉台中学校……五七〇
大綱中学校……五七二
城郷中学校……五七四
新田中学校……五七六
中川中学校……五七九
都田中学校……五八一
山内中学校……五八四
谷本中学校……五八六
田奈中学校……五八八
中山中学校……五九〇

戸塚区

戸塚中学校……五九二

本郷中学校……五九五
岡津中学校……五九七
大正中学校……五九九
中和田中学校……六〇二
瀬谷中学校……六〇四
原中学校……六〇六

高等学校・特殊学校の部

横浜商業高校（通常）……六〇九
横浜商業高校（定時制）……六一五
鶴見工業高校（通常）……六二〇
鶴見工業高校（定時制）……六二四
戸塚高校（通常）……六二六
戸塚高校（定時制）……六二九
桜ヶ丘高校（通常）……六三〇
金沢高校（定時制）……六三五
横浜工業高校（定時制）……六三七
港高校（定時制）……六四一
南高校（通常）……六四五

特殊学校の部

盲学校……六四七
ろう学校……六五〇

附載資料

教育附属機関……一
  横浜市図書館
  横浜市教育研究所
  横浜市婦人会館
  中央教材園
  学校厚生寮
歴代教育委員一覧……四
横浜市教育行政機構の変遷……五
児童生徒教職員数年度別表……一〇
横浜市教育費累年比較表……一五
横浜市教育年表……一六
編集後記……二九

横浜市教育概要編

開港から大震災まで

一、学制頒布以前の教育

1　開港以前の教育

開港前の横浜は、市歌にも、「むかし思えば苫屋の煙、ちらりほらりと立てりし処」とあるように、街道筋からはずれた一寒村に過ぎなかつた。その横浜が、開港とともにわずか一世紀の間に、全国屈指の大都会として発展したのは、全く異例のことといつてもよく、その反面開港以前の横浜には、教育上見るべきものが少かつた。

明治以前の教育機関としては、武士には藩校が、庶民には寺子屋があつた。寺子屋は庶民の教育機関の総称であるが、これも一村ごとに設けられたわけではなく、宿場等の地方の政治経済の中心地に設けられ、村役人・肝煎・庄屋・年寄の子弟や、経済力を持つ百姓の子弟が通うだけで、国民の一人一人が義務教育として通学する今日とは、とうてい比較にならないのである。

寺子屋　開港以前にあつた横浜の代表的な寺子屋としては、天明・寛政の頃、すでに開かれていたものもあるが、文化文政年間には清墨庵（保土ケ谷）・愚明舎（本牧）・洞雲閣（笹下）等があつた。また開港の翌年万延元年には青雲堂（元町）が、慶応二年には松泉堂（横浜）、同三年には竹林軒（釜利谷）が開かれている。

児童数も、本牧の愚明舎では男一二〇、女三〇、保土ケ谷の清墨庵では男一七五、女七五（嘉永五―六調査）となつている。

寺子屋では手習、あるいは筆子などという言葉の示す通り、教科は主として習字で、それを基本として素読に入り、消息文を通して人倫道徳―公民的訓練を施した。

外国語学校　安政六年横浜が開港すると、各地から世界各国民が集つて来たため、国民にとつては、外国語に習熟することは必要欠くことのできないものとなつてきた。そのため、外国語を習得するための外国語学校が、次ぎ〳〵に開設されていつたのは当然である。万延元年二月、幕府は仏国通弁官の勧誘によつて、通訳官養成の目的で、洲乾弁天内の官舎に仏語学校を設立している。また文久二年十月に、幕府は英国領事の勧誘によつて、運上所前の官舎に英学校を設置している。続いて慶応二年十一月、仏蘭西語学伝習所が海辺通二丁目に、ヘボン夫妻の英語塾が、横浜居留地に開設された。明治に入つて三年にはメレー・キダの英語塾が、六年には山手町にブラウン塾が、相次いで開設され、当時としては先進的な外国語教育が盛んになつた。

漢学教授所　外国語学校が数多く設立され、外国語を習得する途が増えた一方、これに対して漢学生養成所も設立されていつた。慶応二年には、修文館が伊勢山下に開設されて、役人の子弟に漢学の教授が行われた。明治三年には、太田の文学所が太田村に創立された。しかし、これらは時勢の影響で、次第に外国語を主とする学校に変つていつた。

明治四年十二月に、高島嘉右衛門が、高島学校を設立した。これは藍謝堂ともいい、第一校舎を伊勢山下に、第二校舎を入船町に設け、英仏独語のほかに漢学科も設けたので、その評判がすこぶる良く、一時は生徒数も七百余名にのぼつた。後明治六年、これを市へ寄附したので、横浜市学校と改称した。その隣地に附属小学校を設立して、登榥舎と名づけたが、横浜に小学校の設置をみたのはこれが最初である。

2　学制頒布への黎明

明治二年二月に発布された、「府県施政順序」の中に、「小学校を設くる事」の一箇条があり、翌三年二月大学（文部省の前身）では、小学校規則を定めた。

これによると子弟は八才で小学校に入学し、十五才で終り、中学に入ることを定めてあるが、この規則は学則伺出の者に便宜写し取ることを許されただけで、頒布には至らなかつた。しかしこの頃から、近代教育の黎明は、徐々にその幕をあげていつたのである。

郷学校の設置　明治三年八月、県下二十七箇所に、郷学校設置方を県から諭達された。これには神奈川県管轄武州郷学校とあり、武州久良岐郡横浜町と記されている。この設置令によつて、各町村では組合をつくつて郷学校を設立したが、これは最寄りの寺院や明き座敷が教室に使われ、新築の校舎を持つものはほとんどなかつた。また教師は、組合衆の評議によつて、相応の人物を選ぶようになつている。入門料は米一升、毎月料二合となつていて、現金でも米によつてもよいことになつている。教科は手習・読本並びに暗誦・数学・洋単語・会話であつた。明治五年学制発布とともに、これらの郷学校はあるいは廃止され、あるいは小学組織に改めて継続された。

二、学制時代

1　学制領布と当時の教育

明治五年八月三日、文部省は全国に学制を頒布した。これによると、従来学校の設けはあつたが、当時の人民が学

問の必要を知らず、学問は士人以上のことであり、農工商および婦女子に至つてはこれを度外において、学問の何たるかを知らなかつた。また士人以上の者も、学問は国家の為にするのであると考え、教育が身を立てる基であることを知らなかつた。そうした風潮を一掃し、父兄は必ずその子弟に対して学問に従事させるよう書かれてあり、教育は特殊の者だけにあるのではなく、国民全体に必須なものであることを力説している。また小学校に従事せしめないのは、父兄の落度であるとも記してある。

学制と教育内容　学制は全国を大分して八大区に分け、これを大学区と称し、一区ごとに大学を置くこととした。第一大学区は、東京府神奈川県足柄県…計一府十三県を含んでおり、本県は第一大学区に属した。次に一大学区を三十二中区に分け中学区と称し、区ごとに中学校一所を置いた。一中学区を分けて二百十小区とし、これを小学区と称し区ごとに小学校一所を置いた。

教科については、下等小学校においては字綴・習字・単語・会話・読本・修身・書読・文法・算術・養生法講義・地学大意・理学大意・体術・唱歌・国体学を教え、上等小学校ではさらに史学大意・幾何学罫画大意・博物学大意・化学大意を加えることになつている。

翌六年小学教則を布達して、修業年限・教科内容・一週の授業時数等について示しているが、これによると下級小学を四年八級・上等小学を四年八級とし、各教科の指導の内容を示している。なお一日の授業時数を五時間、一週の授業時数を三十時間とし、日曜を除くとある。

小学校の創立と校舎　明治六年学制頒布に伴い、本市では次のように小学校を設立した。

北仲通	第一番小学	壮行学舎
弁天通	第二番小学	如春学舎
住吉町	第三番小学	同文学舎
野毛町	第九番小学	敬業学舎
戸部町	学区番号不明	自彊学舎
内田町	学区番号不明	鶴鳴学舎
太田村	学区番号不明	立志学舎

以下多くの小学校を創立しているが、これらの学校はその後生徒数の増加に伴つて、分校を設け校舎を新築し、あるいは合併している。学校の名称は、当初第何大学区第何中学区第何番小学何々学舎と称したのであるが、明治八年に地名と文義を用いるもののうち、文義によるものは村名に代え、学舎は学校と改称するように通達があつて、壮行学舎は横浜学校に、立志学舎は太田学校に、存心学舎は吉田学校にというように校名を改称した。なお、明治九年十二月本県布達により校名の上に公立の二字を加えることになつた。

校舎については、明治十年六月の「小学校建設補助申請の伺書」の中に、「…其建造全修ニ至ルモノ横浜学校ノ新築ニ止リ、通常家屋ヲ以テ学校ニ換ユル、即（吉田、自彊敬業合校、太田、鶴見）ノ四校ニ過ギズ…」とあり、通常家屋を学校に換えたり、寺院の堂宇を校舎に使用したりして、新築校舎は横浜学校一校に過ぎなかつた。他は学校とは名ばかりの狭隘なものであつたろうと、推察される。

全国について調べて見ると、明治八年には

寺院を借用せるもの	四〇%
民家を借用せるもの	三三%

となつており、また教師については

一校一人	五八%
〃　二人	二二%
〃　三人以上	二〇%

で、学校とはいうものの、一人の教師が教えているものが、半数以上を占めていることが分る。結局少数の教師が借用した校舎で、授業を行つているのが実情であつた。

就学事情　学制頒布はあつたが、教育の普及徹底の面では欠けるところがあつて、当時就学期を迎えても、就学しない者が多かつた。そこで本県でも敷地建物を下付したり、補助金を出したりなど、種々の方法で就学督励をしている。明治六年には、政府は小学扶助委託金として九十円（一人に付九厘）を支出し、府県に委託した。後これは、小学補助金と改称された。また本県でも学資補助のため、桑楮漆あるいは梅桃栗柿を、自分に相応して栽培することを奨励している。これは学制では、諸学校の経費は生徒が弁うことを原則として、全国一律に授業料を徴収することが決められていた。当時の授業料は一ケ月五十銭、貧者には二十五銭、一軒で二人の子弟を入学させた場合は二十五銭、三人以上あるときは二人だけ授業料を収めるのである。五十銭といえば、当時の貨幣価値で米一斗五升に当るので、これを納めるのはなかく困難であつたろうと思われる。また地芝居、手踊り等には多分の冗費をかけるのに、学校入費というと僅かのことでも苦情を唱えるが、そのような心得違いのないようにとの触書さえ出されている。

師範学校・中学校　学制第三十九章に、「小学校ノ外師範学校アリ。此校ニアリテハ小学校ニ教ル所ノ教則及其教授ノ方法ヲ教授ス。当今ニ在リテ要急ナルモノトス。此校成就スルニ非ザレバ小学校ト雖モ完備ナル能ハズ」とあつて、教員養成機関としての師範学校設置の急務であることを示している。もちろんこれには猶予期間もあり、従来の教員については試験の上小学教師に採用する便法も採られたのであるが、正規の教員としての師範学校卒業生に期待するところは大きかつたのである。そこで明治七年には、県下に四箇所教員養成所が設置された。その第四として横浜に設置されたものは、啓行堂と称し、さきの修文館内に置かれたという。同年九月には神奈川県師範学校と改称したが、全国府県立師範学校の嚆矢である。

これに対して中学校は、学制により各中学区に一校を設置する定めであつたが、容易にその機運が開けないでいた。明治十一年十二月、横浜師範学校内に中学校を設置することになつたが、入学志願者が僅少のため、時の県令野村靖の名を以て就学奨励の布達さえ出されたくらいであつた。しかし県下の状勢は、まだ中学の必要を感ずるところまで行かなかつたものと見え、十三年七月遂に廃止されてしまつた。現在の希望ケ丘高校、すなわち神奈川県立横浜第一中学校が創立されたのは、実にこれより十七年後の、明治三十年六月のことである。

外国人による女子教育　わが国における女子教育の先駆として、山手居留地を中心に設立された、いくつかの外国人経営の女学校は、学制頒布の時代はすでにその呱々の声をあげていた。開港都市としての特殊性から、宣教師等の手に成つたものが多かつたが、充実した設備をもち、生徒数も当時としては多かつた。

フエリス女学校は、明治三年、米国最初の単身婦人宣教師メレー・キダが、横浜に一戸を構えて、日本語を学ぶ傍ら、英語の教授を行つたのに端を発している。

共立女学校は、明治四年八月、米国婦人連合伝道協会の手によつて設立された。当時は日本婦女英学校と唱えていたが、後、共立女学校と改称した。

横浜英和女学校は、明治十三年、米国婦人宣教師ハリエット・デー・ブリテンが創立したものであり、また明治二十年には、捜真女学校が、三十二年には、紅蘭女学校が設立された。

三、教育令時代

1　教育令の布告

明治十二年九月、政府は教育令を布告して、明治五年の学制を廃止した。これは従来の学制が、欧米の教育制度に則つて定められたもので、規模は宏大で秩序も整然としていたが、その理想があまりにも高遠であり、当時の現実から遊離していたことと、施設の不備、就学率の不振等に加えて、いたずらに地方の経費の増大を招いたためである。しかも当時、自由民権の思想が漸く勃興して来たため、政府としても制度の改廃を考慮するに至つたものである。

教育令の特色　教育令は、学制と異りわずか四十四条から成り、きわめて簡単である。今、その相違する主なものをあげて見ると、

1、学制は、大中小学区に分け、各学区に一校を設けるように規定されていたが、これは実情に副わないため、新令では各町村あるいは数町村が連合して設置することとした。またその町村に私立小学校がある場合は、別に公立小学校を設置しなくてもよいとした。資力の乏しい町村では、教員巡回の方法を設けてもよいとした。

2、学制では各中学区に学区取締を置いたが、新令ではこれに代つて学務委員を置くことにした。

3、学制は、八箇年の学期は必ず卒業すべきものとした。しかし新令ではこの八箇年を、四箇年まで短縮できるようにし、しかも毎年四箇月以上授業し十六箇月普通教育を受ければ、就学の義務を完了するものと認めた。

4、学制の教科目は繁雑であつたから、新令ではこれを簡約にした。

5、学制は授業料を納めるのを本体としたが、新令では、収めるのと収めないのとは、便宜にまかせた。

6、学制にはなかつたが、新令では体罰を禁じた。

なお、明治十三年春季試験後から新令が実施されたので、各小学校は学科課程を改め学区番号の称を廃し公立何々学校と改めた。学制によつて、各中学区内に十名ないし十二・三名置かれていた学区取締は、前述の通り新たに学務委員を置くことに代つた。この学務委員の設置については、人員の多寡とか給料の有無は町村の適宜とされたが、その選出方法は学校令第十一条に「学務委員ハ其町村人民ノ選挙タルベシ」と規定され、はつきり公選制をとつている。当時の自由民権思想のたい頭と、関連を持つものと考えられる。

公立小学校の廃合と私立学校の設立　前述のように学制で定められていた大・中・小学区の制度は、教育令では町村あるいは数町村連合して一校を設けるよう規定されたため、小学校の改廃が行われた。明治十二年十月程ヶ谷分校が廃止され、十三年六月吉川学校が分離して、吉田・寿・石川・中村の四校となつた。吉田学校は旧位置浪花町に再興し、寿学校は寿町に仮校舎を設けて開校し、石川・中村の両校は合同して校舎を石川町に建設して開校した。

また私立学校を認め、私立小学校のある場合は公立小学校を設けなくてもよいことになり、なお私立小学校にも補助金配布の制度をとつたため、私立小学校の設置が盛んになつた。そこで十二年十月には若米彦太郎が若米分舎を松影町に、十三年一月には上野宏三郎が光風館を神奈川駅に、同六月には山崎良吉が変則小学山崎学校を福富町に開くなど、次々に私立学校が設置され、十二年には三校十三年には九校が、新しく開校された。

2　教育令の改正

学制頒布以来、七ヶ年を経て公布された教育令は、当時の国力民情および文化の程度に基いて制定されたので、そ

れらの点ではよく実情に即し趣旨の徹底をはかることが出来たのであるが、その反面学校の設置および管理教科の内容等については、あまりにも自由放任に失したため、その精神とした自由主義がかえつて当時の人々に曲解され、教育の進歩を阻止する結果となつた。そこで僅か一年余で、早くも十三年十二月には教育令の改正をみるに至つた。

改正の焦点　今その改正の主なものをあげると、

1、学校の設置については、府知事県令の指示に従い、その廃止についても認可を受けることになつた。

2、農学校・商業学校・職工学校等の実業学校を加えることによつて、産業教育振興の基盤をつくつた。

3、父母後見人は、学令児童が三箇年の課程を終らない間は、やむを得ない場合を除いて就学させなくてはならないとし、就学についての責任を厳にした。

4、授業日数および一日の授業時数を定めた。

となつている。本県では、翌十四年文部省から小学校教則綱領が頒布されたので、これに基いて小学教則を制定して、十月十二日布達した。これにより区内の小学校は、秋季試験後直ちにこれを準行し、等科を改めて初等・中等・高等として、初等科・中等科を各六級三箇年ずつとし、高等科を四級二箇年に定め、八箇年とした。また公立小学校を町（村）立小学校と改称した。

公立学校の状況　教育令改正後、明治十八年当時における、本市公立小学校の生徒数は、北仲通にある横浜学校の男子五六〇名、女子三四三名、計九〇三名が最高である。最低は鶴鳴学校の、男子四八名、女子一九名、計六七名となつている。全市総計は二、八四四名、内男子は一、七五八名で約六〇%を占め、男子に比較して女子の就学率が低い。一校平均の生徒数も、三百五十名程度でまだ普及度の低いことを示している。

再度の教育令改正　明治十八年八月に、再び教育令が改正された。これは明治十年の西南戦役後、我国の経済界は好況に向い農村も好景気に恵まれたが、その反動が十五六年頃から現れ、漸く不況を呈してきた。十七八年頃には、民間はかなり疲弊を示したので、地方教育費の節減を計る必要から、この改正になつたのである。その主な点をあげると、

1、各町村は、府知事県令の指示に従つて、一箇もしくは数箇の小学校、または小学校教場を設置すべしとなつている。小学教場とあることにより、経済的に貧困な町村に対する考慮が払われている。

2、学務委員を廃止して、教員進退の申請は戸長が行うこととした。

3、初等科三年、中等科三年、高等科二年であつた小学校の学期を、三箇年以上八箇年以下とした。

社会事情とその影響　西南戦役後の数年は、前述のように通貨の膨張を来たし、米価地価の暴騰は、当時の農村に意外の好況を与えたため、帰農する者はすこぶる多かつた。これを本市人口に見ると、明治十五年には六万三千余名を数えていたものが、十六年には四千四百名減、十七年には二百八十名減と引き続き減少している。しかしまもなく、政府が急激な通貨の縮少を断行したため、その反動として米価地価の暴落を見、また農村を離れる者が多くなり、労働力を要求する都市へ集中の傾向が強くなつた。すなわち明治十八年には九万一千人、十九年には十万九千人と急激な人口増加を招いた。また当時起つた自由民権の思想は、教育者や生徒の間にもまんえんする傾向があつたため、これに警告を与える告示が次々に出されている。その主なものは、県令沖守固より告示された、「学校生徒ニシテ政治ニ関係スル事項ヲ講談論議スル集会ニ臨席シ又ハソノ社ニ加入スル件ハ既ニ公布ヲ以テ禁止相成居候処、近来生徒中往々心得違ノ輩アリ…」とか、明治十五年の「集会条例改正追加」に、「学術会其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラズ多数集会スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ之ニ臨監スルコトヲ得…」とあつて、学生生徒の政治集会への出席禁止、あるいは学術会その他の名義にかくれて集会する者への警察官の臨監等、政

府の対策が明らかになつている。また女教員生徒の服装について、「地方ニヨリテハ女教員及女生徒ノ内ニハ袴ヲ着ケ靴ヲ穿チソノ他異様ノ装ヲナスモノアリ」と習慣に従い質素を旨とするよう達示があるのは、いささか異様な感じがしないでもない。

四、学校令時代

1　諸学校令の公布

明治十九年に至つて、これまでの教育令が廃止されて、新しく諸学校令が制定された。この学校令は、学制頒布、教育令と数度にわたる改正によつて、ようやく充実を加えてきた我が国教育制度の確立という点で、注目すべき法令である。そして昭和十六年、時局の緊迫に伴つて国民学校令が公布されるまで、幾度かの改正はあつたが実に五十余年の長きにわたつて、わが国教育制度の根幹となつたものである。十九年三月一日には帝国大学令、四月十日には師範学校令・小学校令・中学校令および諸学校令通則が公布され、これを総称して学校令というのである。

学校令の公布によつて、我が国教育の体系はまつたく整備された。すなわち、小学校・中学校・高等学校は、いづれも尋常高等の二級に分れ、尋常小学校・高等小学校・尋常中学校・高等中学校、大学と一本化した体系をとつた。別に高等小学校から、尋常師範学校・高等師範学校に進むものが、これに加えられた。

小学校令　小学校令は、明治十九年四月九日に、勅令を以て公布された。修業年限は、尋常小学校を四年、高等小学校を四年、計八箇年と定めた。本市では、区内の小学校をいずれも尋常高等併置に改め、当時郡部に属していた区外の小学校も、あるいは尋常に、あるいは尋常高等併置に改めた。また従来の町村立を、公立と改称した。

小学校令による尋常小学校の学科は、修身・読書・作文・習字・算術・体操とし、土地の状況によつては図画・唱歌・裁縫の一科、もしくは数科を加えるも可とした。高等科は、これらに地理・歴史・理科を加え、土地の情況によつては英語・農業・手工・商業の一科もしくは二科を加えるも可とした。そして初めて、学級編制のことを規定した。

なお小学校の経費については、父母、後見人は小学校の経費に充てるため、その児童の授業料を支弁すべきものとし、その金額は府知事県令の定める所とした。

御影並びに勅語下賜　明治十年西南の役の後に起つた自由民権の思想は、漸く高まつてきて種々の弊害も起つたので、これに対する取締令も出されてきたが、さらに欧化思想の高潮、基督教の興隆をみるに至つた。これに対し、保守思想のたい頭をも招いたので、両思想の対立は、国民の思想をいたずらに紛糾させていつた。そこで明治二十三年十月三十日、教育に関する勅語が渙発されて、国家主義の道徳、国粋主義の教育が明示された。国民はその赴くところを知り、教育はその本義を確固することが出来たのである。

これより先、五月六日には横浜小学校に、天皇皇后両陛下の御影を下賜された。本市小学校で御影拝戴の光栄に浴したのは、これが初めである。なお二十七年には、太田・戸部・石川の各校にも下賜されている。

小学校令の改正　明治十九年公布の小学校令は、二十二年四月に市制町村制が施行されたので廃止され、二十三年十月、新小学校令が公布された。本市では、市会の決議を以て小学区域を八区に分け、各区独立経済で維持することとした。すなわち戸部・太田・老松・吉田・寿・石川・元街・横浜の八校である。（戸部校は所在地が久良岐郡戸太村に属していたが、通学区域に横浜市域も含まれ市町村組合であつた。）なお二十五年学期初めより、校名を次のように改称した。

神奈川県横浜市立尋常高等何々小学校

なお、他に「私立小学校代用規則」、「小学校祝日大祭日儀式規程」、「小学校教則大要」、「学級編制等に関する規則」等多くの諸法規が、文部省令をもつて出されている。

しかしこの新小学校令は、三十三年八月に至つて再び改正された。これは二十三年の改正以来、すでに十年の年月を経過したため、この間における実施上の経験と、日清戦役後の国力の発展充実に基くものである。この改正に伴つて、八月二十一日文部省令をもつて小学校令施行規則を定めたが、この改正の主なものは、

1、義務教育の年限を一ケ年延長して、従来の三年を四年とした。

2、従来は、読書・作文・習字となつていたものを、国語の一科に包含させた。

3、漢字を制限し、字音仮名遣いが簡易になつた。

4、従来は授業料を徴収することを本体としたのを、今後は徴収しないのを原則とした。

5、小学校の職員に、正教員准教員のほか代用教員を認めた。

二部教授と私立小学校の代用　明治二十七年八月、清国に対して宣戦の詔勅が渙発された。日清戦役である。このため、当時の産業界は活況を呈し、人口の増加も甚しく生徒数も急増した。そこで二十九年には戸部小学校の増築、三十年には吉田小学校の増築を行つたが、とうてい生徒数の増加に追いつけず、しかも当時市内の小学校八校で児童の全数を収容することが出来なかつたため、吉田・寿・元街・石川・太田の各校は二部教授の制度をとることになつた。なお、公立小学校の設備が、まだ完全でなかつたので、次の私立小学校十校を代用に充て、その経費を補助することに定めた。

立正小学校（戸部町）　育材小学校（戸部町）
三省小学校（吉田町）　平沼小学校（吉岡町）
山内小学校（寿　町）　明道小学校（吉田町）
篠崎小学校（石川町）　自牧小学校（老松町）
三育小学校（元　町）　他一校不明

2　震災前までの教育

市域拡充と学校の急増　日清日露の両戦役をはさみ、人口の増加と貿易の躍進は、本市の発展を飛躍的ならしめた。これに伴い、明治三十四年四月一日には市域が拡張され、次の各町を編入した。

神奈川町・青木町・浅間町・岡野町・根岸町・本牧町・北方町・中村町・南太田町・南吉田町・久保町・西戸部町・尾張屋町・西平沼町

これにより、神奈川・根岸・本牧・北方の四校が新たに市に編入されたので、学校数は計十二校となつた。

校舎の新増築も多くなり、三十四年には戸部小学校の新築、神奈川小学校の増築、吉田小学校の新築を行つた。三十五年には、根岸小学校の増築、老松小学校の増築等があつた。

明治三十八年、市は従来の小学校における高等科を分離して、新たに六校の単独高等小学校を設立して、市費の経営とした。そこで四月一日横浜小学校を初め全市の十二小学校を尋常小学校に改めて、新しく六校の高等小学校を設置した。

日露戦役後における日本の勝利は、国力の増大を促し、教育全般に著しい拡充を示した。明治四十年、政府は小学校令の一部を改正し、尋常小学校の修業年限を六箇年に延長し、高等小学校の修業年限を二箇年とし、場合によって

は三箇年となしうるようにした。これは従来の四箇年では、義務教育の本旨を全うすることが困難であると認めた結果で、早くから要望されていたことでもあつた。同時に教科目の改正が行われ、小学校令施行規則を改正した。

そこで四十一年に、市は従来の尋常小学校の区費維持を廃して、全市の共通に改め、単独の高等小学校を廃して、高等科は尋常小学校に併置することにした。かくて本市の学校数は二十校になつた。

明治四十四年四日には、さらに第二期の市域拡張が行われ、次の各町を編入した。

子安町・大岡町・蒔田町・堀ノ内町・井土ヶ谷町・弘明寺町・滝頭町・磯子町・岡村町

このため新設校を併せて計二十三校となり、大正九年には三十六校に増加した。なお、大正十二年四月一日より各小学校は校名を何々尋常（尋常高等）小学校と改称した。

第一次大戦後の教育　第一次大戦を契機として、我が国教育制度の上に、今までに見られなかつた改革の気運がつくり出された。特に大正六年九月、内閣に設けられた臨時教育会議では、明治三十年代に整備された教育制度について検討を加え、国力の増大に伴う内容の整備に重点を置きながら、教育を進展させる方策が常に考えられた。今後は六箇年の義務教育のみで学校を終る者は少くなり、高等科二年の課程を望むことは必須であるとみられていたが、高等小学校義務制は実施せず、実質的に義務就学に近い線をたどることとした。しかも高等小学校の生徒数は、著しく増加を見た。臨時教育会議は、次の各項を根本方針として進んだ。

1国民道徳の徹底　2児童身体の発達　3智識技能教育における理解と応用の重視　4教育施設方法の地方適応

特に技能をあげ、応用をあげているのは、第一次大戦における近代科学兵器の出現とその威力に眼をみはり、科学教育の必要を痛感したものである。また精神教育身体教育によつて、国民教育を推進しようとした。この臨時教育会議が大正期に果した役割は、極めて大きかつたと云える。

小学校以外の学校　本市における中学校は、日清戦役までは師範学校内に設けたり、また私立中学校の設置もあつたが、継続することが出来なかつた。しかるに三十年六月に、神奈川尋常中学校が開校式をあげ、三十三年神奈川県第一中学校となり（小田原町に第二中学校設置のため）、三十四年、神奈川県立第一中学校となつた。続いて大正二年には、神奈川町に、県立第二横浜中学校が開校し、大正十二年には、県立第三中学校が開校の運びとなつた。

女学校については、明治三十一年、高等女学校設立の計画案があつたが、成立をみるに至らなかつた。翌三十二年二月、高等女学校令の公布があつてからその機運が高まり、三十三年五月、岡野町に、神奈川県高等女学校が開校した。

商業学校については、明治十一年七月、茂木惣兵衛、西村喜三郎が、南仲通に商法夜学舎を設立した。明治十五年、商業学校設立の気運が熟し、美沢進が校長に就任して、横浜町会所内に、横浜商法学校が設立された。明治二十一年、横浜商業学校と改称した。

商法学校夜間部は、横浜商業補習学校となり、大正十四年三月、横浜市立商業専修学校となつた。これは、昼間諸種の業務に従事し、就学出来ない者に対して、商業上必要な知識技能を授けた。独立校舎を補習学校として、設備の完全な点において類例を見なかつた。

工業方面では、神奈川県立工業学校を神奈川町に設置し、明治四十五年四月開校された。大正九年には、安部幸兵衛が公共事業基金として金百万円を寄贈したので、これにより大正十年十月、県立商工実習学校（現在の商工高等学校）が開校した。

小学校に附設された実業補習学校としては、大正八年に元街・吉田・戸部小学校に、商業補習学校を附設した。大正九年には、神奈川・岡野小学校に、工業補習学校が附設された。同十一年には、寿小学校に商業補習学校が附設さ

れた。

就学状況　学制実施後二十年を経て、明治二十四年に至つて、小学校の就学率は始めて五〇・三％に達した。その後は、国力の増進に伴い、国民もまた教育の必要を認識して、明治三十五年には九一・六％となり、ついに九〇％台に達した。大正年代に入つてからも、大正二年の九八・二％を基礎として着々と上昇を続けた。教育に対する、国民の理解と熱意が充分にうかがわれる。

なお、大正九年当時、横浜市小学校の一学級当平均児童数は、六十六人に達している。これは東京の五十六人、大阪の五十三人、神戸の五十五人、名古屋の五十七人、京都の五十六人に比較して、六大都市中最高である。

さらに二部教授を行つている学級は二割三分に達し、東京、大阪、名古屋の一割ないし二割に比較すると多い。京都はこの点特によく、皆無に近いまでの成績をあげている。

また、経済的理由その他で、小学校に昼間通学困難な児童のため、本市では明治四十四年四月、初めて石川、吉田、北方、太田、西戸部、青木の六学校に夜間部を設置して、就学の便をはかつた。次いで大正七年四月、西平沼、根岸、神奈川の三校に、さらに大正九年、第三南吉田（三吉）・第一日枝（日枝）に増設した。これで市内小学校の夜間部は十一校となつた。

教育研究の実情　明治二十一年三月、本市教育の普及改善発達をはかる目的で、教育関係者および一般有志によつて、横浜市教育会が発足している。会員数は約二千人であつた。大正年代に入ると、研究発表・研究授業と、教員の自主的研究も盛んになつてきた。大正九年五月には、小学校長会において、横浜市教育研究会組織の件が一決して、翌大正十年五月に設立をみた。この研究会は、本市教育の進歩発展を図ることを目的とし、大いに効果をあげた。同年十一月には、全市小学校の連合で、開校記念館を会場として児童音楽会が開催された。また、同じ月に図画手工教育品展覧会が開かれた。

大正八年より、毎年七月に児童水泳場を、本牧・間門・磯子の三箇所に開催して、水泳を指導した。児童水泳大会・児童衛生展覧会・夏季臨海保養所等・保健体育関係の施設も開催された。研究発表会も、読方算術等のほかに、体育方面や音楽・図画工作等の発表会も多くなつてきた。

指導体制の変遷　明治三十四年四月、市域拡張を行う以前は、教育事務は市役所第二課で処理されていた。明治三十五年十一月、本市処務規程の改正によつて、教育課が新設され一切の事務は同課で処理されるようになつた。その後、課内に学務・経理・学籍の諸係が整備され、大正十年には、新たに社会教育係を新設し、市民体育・青少年体育等を管掌することになり、次第に充実するにいたつた。昭和二年十月、区制実施に伴つて、学籍事務は区役所に移管された。

震災の復興から終戦まで

一、震災と教育復興

1　大地震の災害

壊滅にひんした横浜　開港以後、あたかも国勢を象徴するように飛躍的に発展した横浜に、一大衝撃を与えたのは関東の大地震であった。

大正十二年九月一日、突如として起った地震は一瞬の間に、この国際都市を地獄の相に変えてしまった。家屋は倒れ傾き、あるいは大破したあとに、いたるところから火の手があがったので、総戸数の約六割、六万二千戸が焼失した。市の中心部は一面の焼野原となり、市役所をはじめ、銀行・会社・工場・商店街などの主要な建物は全くあとかたもなくなってしまった。

なかでも、市の生命ともいうべき港湾施設が長く復旧できないほどの災害を被ったことは、その後の市の復興にとっても大きな支障となった。

また、とくに痛ましかったことは、この地震と劫火のために、学童九百、教職員十五、その他多くの市民の尊い魂が奪われたことであった。

家をつぶされ、焼かれた市民のなかには、親類や知人をたずねて、避難したものも多かった。交通・通信はまったく杜絶の状態であったので、四辺に通ずる道路を、着のみ着のままで、子供を負い、老人の手をひく避難の姿はまことに悲惨であった。

校舎の被害　当時の横浜市の小学校数は三十六、教室は約八百であったが、震災によって、

全焼　十七校
全壊　三校
一部焼失　一校　一部大破　一校
その他（一部倒壊、一部破損等）

の大害をうけ、応急処置によって使用に堪えるものは、教室として四十、雨天体操場で七ケ所を数えるに過ぎなかった。この時、寿小学校一校はコンクリート建であったために、焼失をまぬがれ、それが後の学校建設計画の場合、コンクリートだてにする最も有力な証言をつとめることになった。

また、市立商業学校も倒壊し、市立仮図書館も焼失した。

2　震災後の復興と学校教育の再開

青空教室・バラック教室・天幕教室　夢にも思わなかった大災であったが、市民の復興の意気はたかく、焦土に焼けトタン、焼けぐいのバラックがまず建てられ、政府や自治体による復興策もいち早く建てられた。国内はもとより、遠く諸外国からも、同情や慰問品がぞくぞくおくられてきた。こうして、一時はまったく、施こす術もなかろうと考えられた無惨な廃墟にたちまち復興のつちおとが勇ましく響きわたってきた。

教育に携わる人人も、ほとんどは、住む家もなく、家族を避難させながらも、教育は一日もゆるがせに出来ないと不眠不休の活動をつづけた。

まず焦土と化した学区をまわって児童の実態を調査することから始まって、教科書・学用品はもとより、教室・机・腰掛から、履物・衣料にさえことかく灰燼の中で、教育を再開するまでの苦心は筆舌の尽くすところでなかった。

こうした中で、残存学校はもちろん被災学校のなかでも、早くも九月なかばから残存教室や、青空の下で、教育を再開したところもあった。教育課は、九月十五日に残存校舎の調査をおわり、まずバラック校舎建設の計画を進め、残存校舎の補修を加えて、全市域にわたっての教育再開に懸命の努力をそそいだ。

十月十一日、授業を行うことのできた学校は

浦島、西平沼、本牧、南太田、大岡、戸部の六校敷地にバラック教室、七九

子安、二谷、神奈川、青木、宮谷、稲荷台、太田（南太田）、石川、江古田、立野、大鳥、根岸、磯子

計十九校、二百六十九教室であった。

その後、避難地からの復帰は急速に進み、十一月十二日の調査によると、震災前、五万四千名であった小学校児童数は、その七割、三万七千名を数えるにいたった。

市も、学童三百名以上に達した旧学区には独立開校させる方針をとったので、同年十二月八日には、本町・横浜の二校を最後に、震災前の三十六校にかえった。

この間、あまりにも急テンポの学童の復帰、増加に、校舎建築は追いつけず、露天授業が引きつづいて行われ、のちには、雨の日や、寒さにそなえて、天幕を使用することになり、一時はその数三百を超える状態であった。

小学校の復興計画　第一次大戦後の好景気の反動は、横浜にも激しくあらわれてきた。大正九年には、市内の銀行・会社等に、破産、休業するものがつぎつぎにあらわれ、十年・十一年には、ますます深刻の度を加えた。このような際に大震災に見舞われただけに、市の財政面の困窮は想像に絶するものがあった。

かかる中にあって、市長、有吉忠一氏は市会にはかり、横浜振興百年の計は教育にありとして、画期的な学校復興計画をたてた。

1、小学校（コンクリートだけ二十二教室、建築費約二十三万円）三十一校

2、商業学校（コンクリートだて、建築費七十二万円）

3、その他備品整備

予算総額　千二百万円

この復興計画は、将来の人口増加を考え、そのいずれも三十二学級までの拡張に備え、また、校地も震災前の五万五千余坪に対し、約九万八千坪とするものであった。このほか、プール・トラックの設営、外さく、門などに至るまで、雄大で細心の用意がされたものであった。この後、計画は着々進められ、コンクリート校舎はぞくぞく竣功した。

大正十五年	三吉、本牧、南吉田、子安
昭和 二 年	北方、本町、浦島、平楽、東、平沼、大岡、吉田
昭和 三 年	滝頭、横浜、戸部、大鳥、神奈川、石川、元街
昭和 四 年	岡野、幸ケ谷、宮谷、南太田、栗田谷、老松、間門、共進
昭和 五 年	西前、西戸部、日枝

市当局はこれと平行して、二部授業の解消のため異常な熱意をこめ、政府から四百万円の融資をうけて、教室増設にあてた。このため長く二部授業をつづけ、その数日本一といわれた汚名をようやくそそいで、昭和五年には九パーセントまで減少した。

二、大正末期から昭和初期の教育

1　経済不況と横浜

第一次大戦後の好景気の反動はたちまちあらわれた。ほとんど戦わずに戦勝国に加わった日本は、好景気の波も高かったが、その反動もはげしかった。

その上に欧米の先進国に追いつくことに急であったために、経済的な基盤が整っていなかったので、戦後の世界的不況に際しての混乱は一層深刻なものとなった。

とくに横浜は震災によって港湾施設を破壊され、その生命とする貿易の業務を神戸その他にゆずらざるを得なかった。このために、貿易を支えとしていた商社・銀行は大打撃をうけ、商店街にも昔日の活況はみられなくなった。

2　多彩な教育思潮と横浜の教育

経済不況と教育思潮　大正の中期以後の教育は自由をたつとび、児童の個性を重んじ、その創造性を伸ばす点にもつとも特長を示した。

童話・童詩・児童劇・自由画等が子供の心情に培うものとして、学習の中で比重を増してきていた。これに加えて戦後は、国際協調、永久平和の理念が教育の上にも強く影響した。

ところが世界的な不況の波が高まり、特に日本において、それが深刻にあらわれてくるにしたがって、生活の不安、社会への不信、経済に対する危惧が生まれてきて、童心至上・自由謳歌・個性尊重の教育に対して、果して次代を背負う者の教育たりうるかに疑問が持たれてきた。そして一方に、日本の情勢に即応し、その運命を開拓する人材をつくる教育への指向があらわれてきて、それぞれの立場にしたがい、良心的な論争が盛んに行われるようになった。

横浜における教育研究　当時、横浜にも次ぎのような主義主張がつよく実践の上に反映した。

個性を重んじ、その能力に即した教育計画をたてようとするもの、これにはドルトンプランの精神を地域の実態に応じて生かそうとするものなどがあった。

子供の創造性をのばすことこそ、人間性を養い、進んで文化をつくりあげる所以であるとするもの。

社会協同生活の体験を通してこそ、社会人の育成が可能であるとして、生活、とくに協同生活の体験を重んずるもの。

作業・勤労の教育的意義、社会生活的意義を重視して、教育の方法とし、目的として、これを中核にすえようとするもの。

作業の中に創造性を重んじ、情操を養い、総合的な人間教育を果たそうとするもの。

郷土に学び、郷土を知り、郷土に働き、郷土を愛し、郷土の振興に努める人材を養おうとするもの。

郷土の観念を発展させ、国土愛・民族愛の精神を養うことを教育の核心とするもの。

かくて、この時代は、経済的・思想的には混迷期であり、苦難な時代であったが、教育実践においては、かえって百花りょうらん、それぞれの主張が実践を通して研究され、市指定や県指定による学校の研究発表のほかに、学校の自発的な発表会も盛んで、研究熱横溢し、活気みなぎる時代を現出した。

当時の研究を「研究紀要」によってみると、次のような題目があってその変遷を語っている。

大正十四・五年

辨証法的にみた訓育

知能の個人差
自治教育
綴方における自由選題と課題

昭和二年
修身教育
学級生活
勤労主義に立脚した教育

昭和三年
郷土化公民教育
国民精神と教育

昭和四年・五年
教育勅語の研究（教育勅語の四十周年にあたつているので、その研究が集中的にされている。）
自治訓練に関する研究

昭和六年
教育の生活化の研究
教育の郷土化の研究

昭和七年
郷土教育の研究
勤労教育の研究
日本精神の研究

これらのほか、各教科ごとの教育研究部には、担当教科の視学が部長となつて、教授細目の作製や研究授業を行うなど、教科指導の実践を高めるための研究が進められた。

教育面の諸活動　教育面の行事にも、教育思潮の推移がそのまま反映している。童心の尊重、創造性の重視は、小学校児童う手工・工業成績展覧会を一層盛んなものにし、音楽会・学芸会も盛大に行われた。児童の身体的活動・自治的活動も重んじられ、体を通しての学習に高い価値が認められた。体育大会や対外競技等も華やかに行われるようになつた。これらの会場には横浜公園のほかに、保土谷遊園も使われた。保土谷遊園は、市内の全児童からも醵金されて出来たもので、体育大会ばかりでなく、遠足や子供の遊び場としても使用されるように作られていた。教職員の体操の実技や指導法の講習会もたび〳〵行われた。

教具不足を補う意味もあつて、震災後の数年間、教職員の教具製作展覧会が毎年開かれて、創意にみちた力作が数多く製作されたが、教材教具に対する理解を深めるためにも役立つた。

勤労、作業教育が唱導されるにしたがつて、職業科・商業・工業への関心も高まり、職業指導委員会ができ、講習会等がひらかれた。

横浜市立女子専修学校がもうけられたのは昭和三年三月で、小学校および女学校卒業程度の女子を収容して商業・家政・家庭の専門教育をほどこすこととなつた。この学校は十一年に横浜市立女子高等専修学校と改称、さらに十九年には横浜市立第一女子商業学校と改称され、商業教育を主とすることになつた。

横浜市立聾学校は、昭和十五年三月私立として設立されたが、昭和二年に市教育課が継承し、はじめ本町小学校内

に校舎をつくつたが、昭和八年に独立して、横浜市立聾唖学校となり、九年に旧横浜女子商業学校校舎に移転した。

つめこみ教育から、直観、体験が尊とばれるようになり、四年四月には石川小学校隣接地に中央教材園が作られた。小学校の教材として出てくる植物を網羅してあり、随時学童に見学させたり、また実験材料を学校に配布したりして、とかく実物を離れて指導しがちな都市の理科教育の欠陥を是正するために役立てた。また横浜映画研究会が市教育映画協会に改組されて活発な活動をするようになつた。

また、個性を尊重することから、児童の実態について科学的な研究をすることが盛んになつたが、本市でも商業専修学校内に教員養成所と並んで、児童の調査と研究を目的とする児童研究所が設置された。所長は教育課長が兼務し、専任所員として教育心理専攻の学者や練達の教員が任命され、学力テスト・知能テスト・診断テストの研究など活発に行われた。

横浜市教員講習所　横浜市は大正七年十月に、横浜市教員講習所規定をもうけて、小学校教員の学力補充と、新たな養成を開始した。学力補充は第一部として、随時開設されたが、教員養成の第二部は、期間一年半として、十月、横浜小学校を仮校舎として開講され、同九年三月に第一回修了生三十名を出した。第二回以降は講習期間を一年に短縮して、爾来、一学級（三十名）ないし二学級を入所せしめ、大正十二年の震災の年までに四回の終了生を市内小学校に送つた。震災の結果、児童数が減少したので、一時、閉鎖したが、復興のすすむにつれて、たちまち人口は増加し、教員不足を来たしたので、大正十五年に、教員養成だけを目的に、寿小学校を仮校舎として、再び開講することとなつた。この後、昭和二年に、横浜市立商業専修学校校舎が山下町に新設されたのを機会に同校内に移転して、昭和六年三月までに五回の修了生をだした。かくて前後あわせて九回四百四十名の教員を養成した。

3　市域の拡張

昭和二年四月、横浜市は橘樹郡・久良岐郡および都筑郡の一部をあわせた。これで六大都市中もつとも地域が狭かつた横浜市はようやく大市なみとなつた。しかし、こうしたことよりも、貿易依存の都市から、大工場をかかえる近代工業都市に転換しようとするところに、この市域拡張の大きな意義があつた。

この合併によつて、小学校数は十八校を増加して五十六校となり、児童数は約二万名を増加して七万一千名となつた。

なお、程ケ谷町立実科高等女学校は、この編入とともに市に移管され、横浜市立実科高等女学校と改称し、後、昭和九年高等女学校令による五ケ年制の高等女学校になり、横浜市立高等女学校と改めた。

4　青年訓練所の誕生

青年訓練所の誕生　昭和二年にはジュネーブにおける軍縮会議が決裂し、山東への出兵があつた。三年には済南事変が勃発し、又張外霖の爆死事件が起つた。昭和五年にはロンドンにおける海軍軍縮会議が成立したものの、日本はこれによつて定められた劣勢を補うための対策に狂奔することとなつた。

青年訓練所はこうした時代的背景のもとに誕生し、成長した。

大正十五年七月一日、発足当時の青年訓練所は十五ケ所に分所が一ケ所あつたが、翌年三月には四訓練所が開かれ、同年四月の鶴見町外八ケ町村の編入によつて十五訓練所が本市に加わつた。

訓練所の教育　訓練所はほとんど実業補習学校と竝置され、主事に学校長が任命され、職員には、教科を指導する専任や兼任の教諭や指導員のほかに、教練のための専任として在郷軍人が任命された。

訓練所は十六才から二十才までの男子について、四年間にわたつて訓練するもので、教授および訓練科目として、

修身・公民・教練・普通学科・職業科が置かれ、設置は市町村の責任とされたが、私人の設置も許可された。

訓練所の修了者に対しては、半年間の在営年限の短縮が認められたが、そのために、訓練所の実績について査閲が行われ、国防につながる訓練に対する強い要求がなされた。

昭和三年四月、県立工業学校校庭で東久邇宮の査閲があり、四年には横浜市青年訓練所の合同野外演習が辻堂で行われ、天皇の御親閲をうけた。

三、事変下の教育

1　満州事変から支那事変へ

昭和六年九月十八日、柳条溝の爆破を導火線として、たちまち戦火は満州全土をおおつた。翌七年、日本は満州国を承認したが、列国の認めるところとならず、とくに中華民国との間には、事件がつぎつぎに発生し、次第に全面的衝突の機運となつた。

満州を生命線と称し、支那大陸に武力進出を企てようとする動きに対して、これを阻止しようとするものあつて、国内における摩擦相剋は激しいものがあつた。

昭和五年、浜口首相は東京駅で狙撃され、昭和六年には、財界の巨頭がつぎつぎに襲われ、犬養首相は青年将校のために射殺された。昭和十一年には在京部隊を動員して、反乱をはかつたいわゆる二・二六事件がおこつた。かくして軍部、とくに陸軍は次第に対立勢力をおさえ、その政治支配を確立した。ついに勢のおもむくところ、大陸侵攻は避くべからざるものとなつた。昭和十二年七月に盧溝橋事件が突発、これをきつかけに、日支の全面的戦争が開始された。

2　事変下の教育

教育実践に対する強力な支配　満州事変後の教育界には、なお幾多の主義主張が入り乱れていた。個性尊重・社会性の重視・作業・勤労教育・体験教育・郷土教育が実績の中にその意義を誇る時期に進んでいた。

しかし、事変が大陸に拡大し、長期化するにしたがつて、教学に対する有形無形の国家統制はようやく強力になり、昭和九年四月には、小学校教員精神大会が宮城前で行われ、十年には教学刷新評議会が設けられ、十一年には日本諸学振興委員会が設置された。

「日本精神の本義に基き、各種の学問の内容及方法を研究批判し、我が国独自の学問、文化の創造、発展に貢献し、ひいて教育の刷新に資する」

という、その設立趣旨はもつとも明確に当時の指導方針を示している。

昭和十二年七月、日支事変に突入するや、九月に国民精神総動員運動の訓令が発せられ、教育はすべて、軍部を推進力とする極端な国家主義の方向に統一され、上からの命令によつて、その実践は進められることになつた。

教育刷新の指標　文部省は昭和十二年五月に「国体の本議」をおおやけにして、教育の向かうところを示した。巻頭に、

「本書は国体を明徴にし、国民精神を涵養振作すべき刻下の急務に鑑みて編さんした。」

とあり、わが国体について、

「大日本帝国は、万世一系の天皇皇祖の神勅を奉じて永遠にこれを統治し給う。これ我が国万古不易の国体である。而してこの大義に基づき、一大国家として億兆一心聖旨を奉体して、よく忠孝の美徳を発揮する、これ我が国体の精華とするところである。」

とあるとおり、教育はすべてこの国体の本義にのつとり、身命を捨てて皇謨を翼賛する臣民を錬成することにあるとされた。絶対随順、滅私奉公、八紘一宇というような言葉が教育界を蔽い、不言実行、行的鍛錬が実践を特色づける言葉となつた。

横浜の教育も、次第に緊迫しつつある時局下に戦時色一色にぬりつぶされ、「時局即応の教育」あるいは「日本精神の教育」の名のもとに教育実践が進められた。

校下少年団の結成　昭和四年、横浜にはすでに二十二の少年団があり、その聯合組織が計画されたが、昭和七年十二月に文部省から「児童生徒の校外生活指導に関する事項について」の訓令が発せられ、昭和八年二月の平楽小学校の少年団を始めとして、つぎつぎに小学校単位の学校少年団が結成された。

学校少年団は校長が団長となり、上級生を団員として、校外生活を指導し、社会生活に関する訓練を施すことを目的とし、敬神崇祖・勤労愛好・社会奉仕・規律節制・軍人援護の如き項目について、具体的目標をたてて実践した。

また、これら各少年団の連絡をはかり、その活動の強化をはかるために聯合少年団を結成することになり、九年の天長節に横浜公園音楽堂で発団式をあげた。

聯合少年団に参加した少年団数は六十六、団員数は男三万一千五百九十八人、女二万九千二百十五人で、団長には市長大西一郎氏がなり、事務所は教育課内に置かれた。

連合少年団では特に指導者の指導に力をいれ、指導精神・指導方法から、登山・天幕生活・野外訓練等の実技にわたつて、しばしば講習会をひらいた。

実業補習学校は青年学校と改称　実業補習学校は長い歴史をもつているが、大正十五年に青年訓練所が発足するに及んで、同一年令のものを対象にし、指導者も兼務のものが多く、二者共存するのは何かと困難を伴うことが多かつた。その上、時局はますます緊迫して、軍人につづく第二の軍人として青年の訓練の重要性は加わつてきたので、昭和十年四月一日、青年学校令が公布され、文部省は陸軍省と協力してこれを推進することにした。

横浜においても、これに応じて、青年訓練所を廃止し、実業補習学校を青年学校と改称して新たな発足をした。新たに青年学校として発足した公立学校は四十四校で、

男女別学校数

男子	二八
女子	なし
男女併設	一六

職業科課程別学校数

商	一九
農	一〇
工	五
商工	五
農水産	二
商農	一
商工理容	一
商理容	一

ほかに私立が七校であつた。

3　二部授業の増加

鶴見の埋立工事の完成や、事変の進展等に促されて、横浜には大工場がぞくぞくつくられ、これに伴つて人口も急増した。

横浜市立鶴見工業学校が設立されたのも、この実態に応じたもので、昭和十一年三月、乙種工業学校として発足、はじめ横浜市立鶴見工業実習学校といい、十五年四月から鶴見工業学校と改称された。

また、高等科の実業教育の振興が叫ばれ、卒業後直ちに実社会で役立つために、基礎的な機械器具等の扱いにも習熟すべきであるとされ、これがため、高等科を分散せず、中村・宮田・鶴見等の特設高等小学校を開校した。これらの学校は必要な施設を備え、産業教育の充実をはかり、高等科の特性を生かした学校経営が行われた。

さて昭和三年から同十七年にいたるまで、市の人口急増は続いて、学童についてみても、毎年、ほぼ四千人に近い増加数を示した。

このため、市も乏しい財政の中で、極力校舎の増築を行い、昭和二年に五十六校であつた小学校は六十六校に及んだ。しかし、これでもとうていその増加には追付けず、二部授業はまた急増せざるを得なくなつた。

元来横浜における二部の歴史は非常に古いが、大正九年ごろは特に多く、もちろん六大都市の最高率をしめていた。それが地震後の学校復興計画によつて減少し、昭和五年には、一時、九パーセントまで低下した。

しかし、八年には再び増加して十九パーセント、十一年には二十四パーセントになり、六大都市中、またも最高率をしめるに至つた。

一学級当りの児童数も大体、同じような傾向で、大正二年、五十三人であつたものが、十年には六十四人、十二年には六十八人と急増した。それが昭和初頭に一時減少して、三年には五十三人になつたが、それから再び増加の傾向をたどり、昭和十一年には六十二人となり、これまた、六大都市中、もつとも多人数を収容する学級組織をもつ都市となつている。

4　大横浜市となる

周辺地域の編入　昭和二年の大きな地域拡張が行われたのち、小規模の編入は行われたが、最も大きな地域の拡張は、昭和十四年になつて行われた。

編入地域は、旧鎌倉郡の一部（戸塚区全部）都筑郡の大部分で人口として約十万であつた。

この編入地域は、周辺の農村が大部分であつたが、日常の生活物資や工場、会社の労力の補給地として、大横浜形成の重要地域であつたし、その後の工場、ならびに住宅の発展地、設営地としても重要な地域であつた。

この編入によつて、横浜の小学校は二十三校、児童数にして約二万人を増加した。

また、この編入によつて、戸塚にあつた町立実科高等女学校は市に移管されて、横浜市立実科高等女学校と改称された（十八年横浜市立戸塚高等女学校となる）

地域拡張に伴う機構改革　この市域の拡張にともなつて、教育課の機構も改められた。これよりさき昭和十一年、社会教育係が独立して課に昇格し、学務係・視学係が合して教育課となつていたが、十四年四月、この地域拡張に伴う機構改革によつて、教育課・社会課をあわせて部とし、この中に、庶務・学務・社会教育の三課をおいたが、十月、さらに改めて、学務課・教学課・社会教育課・体育課の四課とした。こうした機構はしばらくつづいたが、十七年に至つて、社会課は青年教育課となり十八年、学務・教学は教学課の一課に整理された。これがさらに、二十年の終戦直前に市の機構が全面的に改正され、あらゆる部局に庶務課が置かれたことに伴つて、庶務課・教学課と、体育課・青年教育課を併合した錬成課との三課となつた。

四、大戦下の教育

1　国民学校の発足

国民学校の発足と世界大戦の勃発　日支事変勃発の翌昭和十三年に教育審議会は国民学校の要綱を答申し、文部省は諸般の準備を整えて、十六年四月から、これを実施することにした。

国民学校は、その名称の示すように、少国民に、国民生活に必要な教育を施し、その基礎的錬成をはかることを目的とした。このような教育はすでに事変下、着々と実現されつつあつたが、ここに至つて法令化されて、名実ともに、戦時体制の教育にきりかえられたのであつた。

教科書もこの新制度に伴つて全面的に改訂されることになり、十五年度にまず一・二年用が新刊された。これらの教科書は、全面的に、また強力に、日本の世界的使命をうたい、指導国民としての自覚を高め、心情を養い、生活技術を身につけることをねらいとした。

また、指導方法は教師用書によつて、詳細に記述され、その上、実践についての指導監督も強化されたので、指導技術上に多少の工夫する余地は残されていたが、指導の大綱はすべて一率となり、全国、全く戦時色の一色に塗りつぶされることになつた。

かくて、国民学校の二年目、昭和十六年十二月八日、日本は米英にむかつて宣戦を布告し、独・伊二国とともに世界を相手とする大戦に自ら突入した。

国民学校の教育　戦局が支那の大陸全部にひろがつて抜きさしできない情況下に、国民学校は発足した。

教育者は、行くさきしれぬ情勢の中で、困難にめげず、次代に望みをかけて、日日精進をつづけた。

修身・国語・国史・地理は統合されて、国民科と言われ、道義の面・歴史の面・国土の面から万国に卓越した所以を学ばせ、言だまを身につけて、指導国民としての自覚をもたせる最も枢要な教科とされた。ここには、神の創り給うた国、神の子によつて治められる、選ばれたる民の意識を強くうえつけるよう企図されていた。算数・理科は理数科となり、生活について、正確な考察処理の力を養つて、国運発展に貢献する素地をやしなうものとされた。

体錬科は献身奉公の実践力としての心身を練磨することを目的とした。ここでは団体訓練が特に重視され、三年から教練が課され、五年以上には武道（剣道・柔道）が課されることになつた。

芸能科は、従来の図工・音楽・習字をその内容とし、用美一体といいながらも、従来に比して用の面が重視され、また、国民的情操を醇化することに究極のねらいをおいた。

また、教材のすべてにわたつて西欧的なものを極端に排斥し、文学・歌曲・科学等に関係する、偉大なる芸術家科学者についても、その作品、学説に対しても、ことごとく西欧のものを避け、日本的なものをとりあげることにつとめた。

四大節をはじめとする式は、御真影を奉安して、神いますがごとく厳粛に行われた。

開戦後、しばらくして毎月八日が大詔奉戴日と定められたが、この日、学校では、団体訓練とか奉仕作業・軍人援護等の行事が多くとりあげられ、伊勢山皇太神宮はじめ、鎮守の宮への参拝祈念もさかんに行われた。神社参拝は、このほか〇〇陥落、〇〇〇の大海戦など報ぜられるごとに、感謝や祈願のためにしば〳〵行われた。

出征兵士の見送りも当初のうちは花々しく行われ、出征家族の援護や出征軍人への慰問等も教育の一環として考えられた。

遠足は交通・輸送が極端に窮屈になつた事情も加わつて、ほとんど鍛錬を目的とした強行遠足となつた。ただ卒業期の関西旅行だけは神廟への参拝として、このような困難な状況下でも、市として特別列車の参拝団を編成するなどして、国民学校になつた後まで行われたことがあつた。

運動会は名も体錬大会と銘うつて、団体訓練（特に教練）武道などに特色をもつた運営にかわつた。

2　大戦の推移と国民学校

戦局の悪化と動員　昭和十七年四月十八日、はじめてアメリカの飛行機が横浜の上空にあらわれた。ほとんど被害はなかつたが、戦勝気分によつていた市民には大きな驚きであつた。破竹の進軍をつづけた日本軍も、ミッドウェーにやぶれて後は、次第に攻守ところをかえ、太平洋の拠点はつぎつぎに奪い還された。十九年には、サイパン島が本土偵察のための航空基地となるにいたつた。

戦況がますます不利となるにつれて、まず軍需品が欠乏し、食料が不足し、衣料・建築資材等、すべて日常生活に事欠くに至つた。

資材のみならず、壮丁はつぎつぎに召集され、人力の不足も甚だしくなつた。世界を相手にし、戦線は限りなくひろがつたので、まず兵士が足りず、軍需・民需の生産に従う人も、いちぢるしく不足になり、通信も円滑に行われず、運輸、官公庁の仕事も停滞する状態になつてきた。

ここにおいて、銃後にある者は、教育に携わる者も学業に従う者も、挙げて増産に従うことが要請されてきた。中学校以上の学生は、農山村に奉仕隊として出動し、国民学校の生徒も空地や校庭を耕して、寸地も食料増産のために利用した。

昭和十九年には、国民学校高等科および中学校の生徒は生産のために動員されることになり、ほとんど、市内の軍需工場に通つて、あるいは電線つくりに、軍糧食の包装に、電気機具づくりなどに従い、教育は一時停止の状態となつた。

学校給食と物資の補給　戦局不利の情勢下において、物資の欠乏は深刻になつたので、統制経済を強化し、食料・衣料、その他生活必需品はことごとく配給制度となつた。

このような時局下、もつとも憂慮されたのは食料不足による発育ざかりの学童の体位の低下、気力の喪失であつた。

このため神奈川県は全国にさきがけて、食料の補給をはかるため、まず、ミソ汁を学童に補給させることとし、これに海藻や野菜等を加え、後には米も配給して雑炊を与えることにした。このため、校庭にカマドをつくり、庭の桜などを切り倒してその燃料を用意するなど、苦心さんたんして学校給食が実施された。

学童服や、履物等も、学童のための特別の配給があつて、現物で、あるいは切符で渡すのであつたが、多数の不足者に対して僅かな品なので、抽せんなどによつて、その順番を定めて、配給するような方法がとられた。

教職員の職場離脱　戦局が進むにつれて、教職員の職場離脱は次第に増加した。

軍需工業が銃後では何よりも優先され、青少年が多くこの方面に吸収されるに従つて、工場に設けられた青年学校の教官として転出するもの、専門技術を直接増産に生かさんとするため職場を変えるもの等、本市が大工場を多く抱え、あるいはそれに隣接するために、その方面に転出するものは他の地域に比して多数にのぼつた。

しかも、師範学校の生徒も動員に加わり、教壇への補充要員はまつたくなくなつてきた。その上、さらに十九年ごろから教職員の動員も次第に多くなつてきた。このため学校は、婦人が多く残つて後をまもらざるを得なくなつてきた。

3　学童の疎開

疎開の計画とその実施　サイパンの陥落も必至となり本土空襲はすでに時間の問題となつた。昭和十九年六月末、政府は「一般疎開の促進を図るのほか、特に国民学校初等科児童の疎開を強度に促進する。」ことを閣議決定した。市教育部は通牒にもとづいて、早急に鶴見・神奈川・西・南・中・保土ヶ谷・磯子・金沢にある大部分の学校の学童の疎開計画をたて、十九年七月から八月下旬までにその処置を終了した。

　輸送の極端に悪化した当時、多数の児童の集団を短日月で、疎開地に送り届けた当事者の苦心は想像に余りあるものがあつた。

　疎開の方針としては、第一に縁故疎開を勧奨し、これが不可能なものについては、三年以上の児童は集団疎開としてできる限り地方に移すことにした。東京都のような場合、集団疎開地は非常に遠隔地となつたが、神奈川県の場合は、すべて県内に宿舎を求めることができたことは不幸中の幸であつた。

　横浜市内各区の学童が行つたおもな集団疎開先は次表の通りである。

区名	疎開先
鶴見区	足柄上郡中井村他九町村
神奈川区	津久井郡内郷中野湘南村、足柄下郡湯ヶ原町、港北区、神奈川区
西区	足柄下郡元箱根村他三町村
中区	〃　箱根湯本他八村
南区	足柄下郡温泉村六町村、小田原市内、学区内
保土ヶ谷区	戸塚区、保土ヶ谷区内
磯子区	中郡秦野町他四村
金沢区	中郡土沢村他二、足柄上郡、学区内
港北区	五校実施、全部港北区内
戸塚区	四校実施、全部戸塚区内

残留児童　集団疎開直前には、すでに家族の出征や動員、統制による職場転換、住宅の強制疎開等のための転居、子供の安全を願うための家族疎開等のため、学童数は減少していたが、この強制的な処置によつて、国民学校初等科の学童はすべて避難することになつた。しかし、一・二年の集団疎開に加わることのできない学年、および三年以上で、身体その他の事情で疎開できないものが、残留児童として、なお一部市内にとどまり、通学を続けられることになつた。

　かくて、農家地帯を除くほとんど大部分の学校は疎開によつて学童が激減したので、校舎の一部が他に使用されることになつた。あるものは軍用の倉庫・兵舎になり、また役所・工場等に使われたものもあり、なかには、二校の児童を一校舎に収容し、空屋となつた一校舎全部を転用したものもあつた。

疎開地の生活と教育　集団疎開児童の宿舎にあてられたのは旅館・寺・神社・公会堂などであつた。このうち、設備の点でととのつていたのは旅館で、箱根・湯河原等の温泉地では、ほとんどこれが利用された。寺院や神社、公会堂の建物の中には、りつぱな宿泊設備のものもあつたが、多くはもともとそのために建てられたものでないので、集団の宿泊には全く不都合であつた。

　建築のための資材がほとんどなかつたので炊事場や便所の設営にもことを欠き、壁も雨戸もないままに月余を過ごさざるを得ない所も少くなかつた。

こうした貧しい生活の運営にあたる組織としては、各宿舎ごとに教員と寮母と作業員をおき、教員は教科および生活全般の指導にあたり、寮母は母親に代つて日常生活を世話し、作業員は炊事その他の作業にあたつた。また、一校全部が一施設に収容されることは少く、いくつかの宿舎に分宿して班と称し、班長には訓導があたり、一校の疎開集団全体を〇〇小学校疎開分団と称して、教頭が多く分団長となつた。

疎開とともに、食糧・調味料・燃料等の配給物資は疎開地に割当られた。しかし、これらは極端に緊縮された量であつたので、そのいずれも、伸びざかりの子供たちの要求を満たすには不足であつた。このために、農村にあるものは、僅かの土地を求めて種を蒔き、山村にあるものは、山菜を求めて惣菜とし、険しい山に登つて薪をとつて、その補いをつけようとした。

疎開生活の教師の合言葉は、「子供に暇を与えるな。」ということであつた。僅か八才の子供から、父母兄弟のもとを離れて、明日知れぬ運命の中で、しかも、すべてに事欠く生活を続けなければならなかつたのであるから、暇があれば、いつか家郷を思い、涙ぐみ、なかには、家をたずねて寮を抜け出すということもあつた。

教師や寮母は、このため、まず起きれば乾布まさつや体操，読書をさせ、話し合いをし、その土地の学校に通つて勉強させ、帰れば、ともに運動し、耕し、薪きりなどに従い、ともに風呂に入り、ともに寝、まつたく子供たちが故郷恋しさの心の生ずる暇を与えないことに努めたのであつた。

こうした生活をつづけた教師たちの生活は第一線以上の苦闘の連続であつた。家族を空襲下に放置したまま、多数の児童の生命をあずかり、ほとんど三食雑炊をつづけなければならないほどの食料難のなかで、衣料から燃料の調達はもちろん、病気に対処し、しかもその中で教育も果そうとしたのであるから、その労苦は全く言語に絶するものであつた。しかし教師の辛労も、子供たちの苦闘も、親たちのなげきも、五月二十九日の横浜の大空襲に及び、「疎開のおかげで」ということばによつてせめて、なぐさめられたのであつた。

4　大空襲と横浜

昭和二十年を迎える頃から、本土の空襲は次第に激しさを加え、次ぎ次ぎに大都市が爆撃された。五月二十九日、横浜は六百の米機による大空襲を受け、震災後ようやく復興を進め、大横浜として誇るに至つた市街もふたたび廃墟と化してしまつた。

この空襲は焼夷弾を主として爆弾を交え、周辺農村地帯を除く全地域にわたつて徹底的に行われた。このためほとんどの建物は灰燼となり、コンクリートの建物も残骸に化してしまつた。

横浜の戦災人口は四十四パーセント、焼失戸数は九万八千に及んだ。小学校初等科の児童のほとんどは疎開したために、空襲の犠牲者は少なかつたが、高等科の児童や、中学校以上の生徒と学生はほとんど工場に動員されていたので、この空襲下に国の前途を憂いつつ、若き命を散らしたものも少くなかつた。

この空襲による校舎の被害は小学校一一〇校中、全焼二五校・半焼一〇校・大破一校で、中等学校・ろう学校は全焼二・半焼一で、教室の全半焼七四二、講堂四、坪数は実に三三、二五五坪にも達した。

横浜の空襲後も、米機の爆撃はますます激しさを加え、全国到るところの都市を焼き、県下の平塚・小田原にまで及んできたので、疎開先まで空襲の危険がせまり、その上、本土上陸は相模湾を指向しているともいわれ、再疎開の必要まで考慮されるようになつた。

5　終　戦

昭和十七年五月のサンゴ海、六月のミッドウェーの海戦に敗れて後は、戦局はにわかに我が国に不利となり、十八

年二月にガダルカナルを退却してからは、後退につぎ後退をもつてした。島々に上陸していた部隊の玉砕の悲報がつぎつぎに伝えられた。十八年九月には、ともに戦つたイタリヤが無条件降伏し、十九年には、わがトラック島基地が米海軍の攻撃で全く破壊され、次第にB二十九の本土攻撃がせまつた。

二十年三月、東京は空襲され、四月一日からは、国民学校の初等科をのぞいて教育は原則として停止され、ことごとく勤労に動員されることになつた。

三月、硫黄島の守備隊は全滅し、四月には米軍は沖縄に上陸を開始した。この頃、空襲は昼となく夜となく繰り返され、本市出身の学徒も、特攻隊として空に海に出動し、なかには国土のみたてとして散るもののもあり、空襲下、工場に身を挺して働くものもあつた。

五月に至つて、ドイツもまた無条件降伏し、日本はひとり世界を相手に戦うことになつた。

五月二十二日に戦時教育令が公布され、学校報国隊をもつて直接本土防衛することが要請された。

東京空襲以後、空襲の規模はますます大きくなり、また頻繁になつた。かくて、五月二十九日には、本市が大空襲をうけ、壊滅したのであつた。

疎開地にあつた児童たちは、家族の消息に一喜一憂した。戦災地に送ろうと山をあさつて山菜などを集めるけなげな子もあつた。

八月六日、広島に原子爆弾が投下され、つづいて長崎も同じ悪魔の洗礼をうけた。

かくて八月十四日、日本はアメリカにむかつて無条件降伏を通告し、終戦の大詔が十五日下されたのであつた。

十五日には、横浜の教職員の多くは、県下の疎開地で、学童とともにラジオを囲んでこの詔勅をきいたのである。教育史にいまだかつてない戦争による悲劇はここに幕を閉じた。

戦後の再建から現在まで

一、新教育の胎動

1　戦時教育体制の廃止

太平洋戦争終結という歴史的大変革は、当然教育界にも未だかつてない一大変革をきたした。八月十六日に文部省では、直ちに「学徒勤労動員」の解除をし、続いて「戦時教育令」「軍事教育並びに戦時体練および防空関係訓令」などの廃止をした。また九月には「新日本教育建設の教育方針」を発した。これは、すみやかに国家主義的な思想および教育施策を排除して、今後の教育は文化国家、平和国家の建設を目ざさなければならないことを示したものである。さらに「教科用図書の取り扱い方」の通牒によつて、国防、軍備等を強調した教材、戦意高揚に関する教材、国際和親をさまたげる恐れのある教材等の全部または一部が削除された。

本市においても終戦の大詔に基づいて八月十七日、市役所会議室で緊急校長会が開催され、終戦に伴う各学校の処置や集団疎開復帰の時期について協議した。これにより各学校はそれぞれ実状に即した計画を立て、九月中にはおおむね授業を再開したが、出席者は僅少であつた。

一方集団疎開は終戦後当分継続されていたが、九月二十六日に文部省から「疎開学童復帰に関する指示」があつた。そこで本市の集団疎開学童復帰も十月十五日から十月末日までを目標とし、遅くも十一月初旬には復帰を完了させることとなつた。なお、疎開地の食糧事情・輸送の方法・宿舎の処置・児童の健康状況・職員の処置・戦災孤児の

取り扱い・住居変更による転退学児童の取り扱い・学校の受け入れ準備などを十分考慮することとなつた。

この計画にもとづいて懐しい父母と別れ、郷里から離れて非常な困苦欠乏に耐えて生活していた児童のほとんどが十一月中に横浜へ帰つたのである。

縁故疎開児童も疎開先の事情によつては肩身のせまい思いをしていたことであろうが、漸次に帰郷するようになり、動員生徒も復校して徐々に平常の体制に復した。

また、当時は交通機関が十分復旧していなかつたし、住居の関係もあつて教員の通勤について非常な不便があつたため、十一月末には本市空前の教員大異動が行われた。

2　学校教育と連合軍の指令

学校教育と主要な指令　連合軍は各種の管理政策を発表して、迅速にわが国の革新を押し進めた。特に教育に対しては民間情報部または軍政部が当り、指令の徹底を図つた。次に主要な指令を列挙すれば、

- 日本教育制度の管理政策に関する指令　（二〇・一〇・二二）
- 教員及び教育関係官の調査・除外・認可に関する指令　（二〇・一〇・三〇）
- 国家神道・神社神道に対する政府の保障・支援保全に関する指令　（二〇・一二・三一）
- 修身・日本歴史及び地理停止に関する指令　（二〇・一二・三一）
- 宣伝用刊行物の没収に関する指令　（二一・三・一七）

等である。このほか各種の指令が昭和二十六年九月、日本が独立するまでには相当多数に達した。これらの指令は必ず全職員が署名捺印して必読するとともに常時校内に掲示することを強制された。

要するに、過去における日本の発展が、教育に由来したことを認識した占領軍が、日本を根底から革新する為めに、教育に格段の努力を注いだとみるべきであろう。

これらの指令を一貫する精神は、個人の自由を尊重し、従来の画一主義的教育内容や方法を打破して、各教育機関および教師の自主的、自発的な創意くふうを強調したものであつた。

占領軍の指導態度　本市に関係が深かつた指導官は、ベーカー・マックマナス・クルック・プランク各氏である。これらの人々は、児童、生徒や学校、地域の実態をよく観察するとともに、科学的な基礎資料に基づいて、助言と指導をした。同時に指令の実施については実に峻厳な態度で臨んだ。また各種協議会や講演会には女教員や婦人の参加を奨励し、自分自ら新教育の理論や指導法について講演をした。しかしながら混乱期にあつた現場でもあつたし、言語・習慣等の差異などからくる誤解もあつて、ある時は必要以上の脅威や反撥を感じたこともあつた。またこの結果ついに教職追放という事態も出てしまつた。

当時の公文書中には「その筋からの達しにより…」とか「…は望ましくない。」「…は望ましい」という言葉が多かつた。これらは助言の形式で指令と同様の内容をもつていて、現場の教師は被占領国民の悲哀を満喫したのである。

3　新教育方針の普及

新教育方針の伝達　文部省は昭和二十年十月に、全国の教員養成諸学校長および地方視学官の参集を求め、新教育中央講習会を開催した。

本市でもこれに基づき、同年十月下旬から十一月上旬にかけて、各学校長および幹部教員を対象として市内三ヶ所

で伝達講習会が開催された。また「民主主義講習会」「新日本世界観講座」「現代かなづかいと教育」などの講演会や軍政部主催の各種協議会などが開催された。

新教育指針　教科書からは、軍国主義的箇所は削除され、体練科の教練は禁止された。「気を付け、休め」はもちろんのこと大声で号令をかけることも、いけないのであろうかなどと萎縮していた。このような時に、やや具体的な手引として出されたものが新教育指針であつた。

この手引は二部に分れていて、第一部には、過去の教育がいかに間違つていたかを追求し、今後の教育では個性・公民教育・科学教育・体力の増進・芸能文化の振興・勤労教育の革新などが必要であることが力説された。第二部は主として指導法を中心とし、特に討議法について実例を挙げて説明し、付録として占領軍の指令がつけてあつた。これは新教育のあり方について、ある程度具体的な資料として価値があつた。

4　保健・衛生

終戦前後の惨めな食糧生活「いものつるや葉」「野草料理」「お米代りの砂糖」「飼糧や肥料の豆粕」など当時の飢餓状態は、当然保健、衛生上の欠陥を生じた。本市では、これらの事情を考慮して昭和二十六年十月に臨時身体検査を実施した。その結果多数の児童・生徒が栄養失調または結核性疾患者と認められた。そこでとりあえず、学校では栄養剤ビタミンＡＤの有償希望配給をした。間もなく同年十一月にはツ反応およびＢＣＧ接種を実施し、結核予防実践運動も全市民に呼びかけて実施したのである。

占領軍の特に注目したのは、環境衛生で、なかでも伝染病予防のため、蠅・蚊・ねずみなどの駆除が厳しく要求された。飛行機や消毒用自動車によるＤ・Ｄ・Ｔの撒布、便所のふた、水溜の土埋など、およそ今まで日本人が想像もしなかつたことまで要求された。特に墓地の花立から出る蚊の発生を絶滅させるために花立に土を埋させた。これには全市の小学校児童が使われ短時日の間に全市の墓地に実施されたのである。

学校衛生の推進についても具体的な実施計画を立てさせ、その実施は一週間という期限つきで励行させられた。この効果を一層高めるために軍政部と市当局の共催で、養護教員講習会、学校衛生講習会等を幾度も開催したが、これらを恒常化する必要から、学校衛生協議会（後の横浜市学校衛生会）が誕生したのも、この頃である。

5　児童・生徒・職員の厚生

集団疎開中戦災によつて、家の焼失した児童の悲嘆もさることながら、両親を失しなつて孤児となつた学童の精神的打撃は、はかり知れないものがあつた。

本市では一時これらの孤児を各疎開地に集団合宿させていた。（小田原方面は小田原市内、玉宝寺）昭和二十二年九月には戦災孤児・引揚げ児童・生活困窮者の子弟を対象として、市内金沢区富岡町に富岡学園を設置した。その後昭和二十五年一月に、この施設は教育委員会から民生局へ移管されたのである。

当時は衣生活においても一般的に困窮していた。特に被戦災児童生徒については著るしかつたので、これらを対象として衣料品の配給が行われた。学用品も極度に不足していた。店頭には黒ずんだ悪質の仙化紙があるだけで、学習用のノートや半紙などは、戦後一年間ぐらいは絶無の状態であつた。学用品として出て来たものは鉛筆や消ゴムなどで、児童、生徒に対して配給された。これに続いて野球用具や運動靴が配給され、履物をはいて運動ができるように漸次なつて行つた。一方教員に対しても背広やスカートの生地などの配給があつた。住居を失なつた教員の中には、校内居住をする者も相当数あつたが、軍政部の示唆に基づいて、これが禁止された。そこで市当局は富岡寮などの幹

旋をしたが住居の問題を解決するにはほど遠いものであつた。

6　新学制への準備

政府は教育刷新委員会の答申に基づいて作製した教育基本法並びに学校教育法を、国会の議決を経て昭和二十二年三月三日公布した。これに基づいて新学制、いわゆる六・三制は同年四月一日から発足することになつたわけである。

本市においては二月初旬から関係学校長会を開催して準備に当つた。三月中旬「学年末、学年始、授業を行わざる日の臨時措置」が発せられた。例年の学年末、学年始の休業日は三月二十六日から四月三日までとなつているが、本年に限り四月十六日から四月末日までとなり、この間に急いで新学制実施の諸準備をすることとなつた。

二、新教育制度の発足と基盤の育成

1　六三制の発足

教育基本法・学校教育法の公布　教育勅語はわが国の六十年にわたる教育を一貫する基本原理であつた。しかるに終戦後明治憲法と共に、この教育勅語が否定されたので、教育の根本原理をどこに求めるかが問題となつた。刷新委員の中には、新たな勅語によつて教育の根本精神を示すべきだという意見もあつたが、民主主義の原則に基づいて新憲法を教育の根本精神とすることに定められた。その結果、教育基本法・学校教育法が法制化されて公布されたのである。

教育基本法によつて「人間性の開発を目ざし、民主的平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義とを愛し、個人の尊厳を尊び、勤労と協和とを重んずる。心身共に健康な国民の育成を期する。」という今後の教育の目的が明示された。

また学校教育法によつて、六・三・三・四の学制が明確に位置づけられ、従来の複雑な学校体系は単純化されるとともに、教育の機会も均等化された。なお義務教育は九ヶ年に延長され、特殊教育も義務化されたのである。かつては「男女七才にして席を同じくせず」とされ、男女は中等学校以上別学であつたが新学制においては男女共学が奨励されたのも従来と著るしく異つた点である。

これらの改革は文化国家として日本を再建するためにも、ぜひ果さなければならないことではあるが、敗戦後窮乏のどん底にあつた日本だけに、その実施に当つては、深刻な問題を投げたことも見逃してはならない。

新学制実施準備協議会　文部省教学局は「新学制実施準備の案内」というパンフレットを配布した。これによつて県・市・区に「新学制実施準備協議会」が設置されたのである。市内各区の構成員は、地域内、官公私立学校ごとに校長、教師各一名、一般人男女各一名であつた。本市の各区で実際に協議会が活動を展開したのは四月になつてからである。討議された内容は「学区域の設定」、「区内の新制中学校数と設置場所」、「設備」、「教員の配置方法」、「開校までの手順」などであつた。

制度はたしかに民主的であり、理想的であつたとしても、現実には「本市復興の見透し」「昔の学校に対する思慕の情」「男女共学制に対する不安」などの諸問題があつた。その結果、区によつては、意見の調整が円滑にいかなくて、お互に骨身を削ずる思いをした所もあつた。このような難問題がきわめて短い日数の間に、協議会が議事を進めることのできたのは一つには軍政部の強い要望があつたものの、一つには、この時こそ国家再建の為に、教育制度

の改革がすべてに優先しなければならない、という市民の熱意と覚悟が表わされたものと言わなければならない。

一方、県新学制実施準備協議会の第二回目が四月二十二日に開催された。その席上第八軍当局から「新制中学校は五月五日に開校、校長・副校長は二十三日までに決定、二十八日に就任、以後新入学生徒の学級編成・教育課程の決定をして、一週間以内に新しい学校の経営方針を樹立すべきである。」と指示された。指示は当時としては絶対的な命令として受けとられた。この指示に基いて当局も学校も関係者のすべてが懸命の努力を払つた。

小学校の統併合　問題は新制中学校の校舎の不足であつた。所によつては、かつての軍施設等を使用したのもあつたが、その多くは小学校に依存する以外に急場の策は無かつた。そこで止むを得ず戦災によつて児童数の減少した小学校、または接収地との関係などを考慮して小学校の統併合を行い、余つた校舎を新制中学に充当したが、独立の校舎で発足した中学校は九校で、多くの新制中学校は小学校に同居するという状態であつた。なお当時統併合された小学校は左の通りである。

校舎焼失により他校に統合されたもの　十一校
帷子（保土ケ谷）一本松（戸部）西大口（浦島）斎藤分（二谷）太田（南太田）中村高小（日枝）立野（元街）
鶴見高小（豊岡）西潮田（潮田）宮田高小（宮谷）入船（下野谷）

接収されたもの　五校
横浜（吉田）本牧（間門）寿（南吉田）横浜市立女子商業（横商）神奈川（浦島）

中学校に転用されたもの　九校
吉田（本町）根岸（磯子）岡野（平沼）蒔田（日枝）共進（日枝）六浦（大道）栗田谷（二谷）西戸部（戸部）
平楽（石川）

他に転用されたもの　二校
三吉（南吉田）横浜医大校舎に転用、老松（本町）市役所に転用、（二十六年老松中学校になる）

教員の配置転換　校舎や設備も必要であるが、さらに重要なことは「教員をどうするか」という問題であつた。そこで旧制中等学校および青年学校、小学校等の教員からの配置転換がなされたが、小学校教員からの転換が最も多数にのぼつた。このため中学校の教員がなお不足しているばかりでなく、小学校の運営も相当な痛手を蒙つた。当時教員募集のため「若き青年男女諸君、横浜市教育復興のために諸君の叡智と情熱に期待する」の名文句が電車広告に掲示されて市民の目を見張らせたのである。

諸般の事情から止むを得なかつたとは言え、この為多数の助教諭（昭和二十六年度でさえ二三%）中でもその多くが女教員（昭和二十八年度でさえ五四%）であつたが、それらの人々が小学校教育に当る結果となつたのである。二十五年度には新免許法が施行され、これらの助教諭も認定講習、教員養成講習会等によつて逐次教諭の資格を与えられたのであるが、とにかく教員のこのような補充は二十四年三月末まで、数の補充だけに苦慮する状態であつた。

新制中学校の発足　昭和二十二年四月三十日、本市では四十三名の新制中学校長が任命された。赴任に際し学校長に渡されたものは、「ローマ字書きの校名板」と、「紙五百枚」「準備金」（金額は二千円から五千円まで学校規模により異つた）だけであつた。

中学校へ転任の教員も、五月四日頃前任校の校長から、赴任校名と場所だけを口頭で知らされたのみであつた。その当時独立校舎をもつたのは僅少で、小学校や旧制中学校に間借をするのが大部分であつたことは前にも述べた。校長以下の教員が五月四日に赴任しても、テーブルも椅子も無かつた。簡単なあいさつを交した後早速明日の開校式に使用する机・腰掛等の準備をしたのである。荒れ果てた校舎の中での開校式、恐らく教育史上、未曾有の無準

備の開校式が、新制中学入学の希望に燃えた生徒の為に行われたのである。このようにして市場中学校以下四十三校の本市新制中学校は、昭和二十二年五月五日一斉に開校式を挙行したのであつた。

旧制中等学校および青年学校　青年学校は昭和二十二年四月一日から休校となつて、翌年の三月三十一日に廃止されたので、希望者は新制中学校または新制高等学校の定時制に吸収されることになつた。旧制中等学校の二・三年生は新制中学校の教科課程を、四・五年生は生徒の希望に応ずるように旧制中等学校と新制高等学校との両方の教科課程を平行して実施することになつた。そのため、旧制中等学校は新制中学校併置の臨時措置をとつたのである。したがつて旧制中等学校では昭和二十二・三年度の生徒募集をしなかつた。

新制高等学校の発足　新制高等学校は昭和二十三年度から実施された。当初には、当時の高等専門学校程度を目標とした「恒久基準」と、旧制中等学校を無理なく移行させるための「暫定基準」の二本建であつた。しかし諸般の状勢から昭和二十六年三月末までは後者によることにした。

新制高等学校は新制中学校卒業者で進学を希望するすべての者に対して、広く開放されるべき学校として生れたのであるから、当然通学区域制を取ることや、普通課程・職業課程、全日制や定時制（夜間を含む）等の区別を生じた。当時全日制の高等学校としては、「県立横浜第一・同第二・同第三高校、同鶴見高校・同神奈川工業高校、同商工高校、同横浜第一女子高校・同第二女子高校・市立鶴見工業高校・同戸塚高校・同桜ヶ丘高校・同横浜商業高校等の十二校であつた。なお定時制高校としては、市立横浜商業高校以下八校で昭和二十五年四月には、さらに新制中学または小学校に分校を設けた。新制高校発足にあたつて問題となつたのは、男女共学による設備もさることながら学区制や入学者選抜の問題が大きく取り上げられた。

高等学校の学区制と入学者の選抜　この問題は昭和二十三年十一月に教育委員会が発足した時から大きくとり上げられたのである。まず県当局から二十四年三月に横浜市を二分した大学区制案が市教育委員会に示された。これに対して本市教育委員会は、新制高等学校設置の趣旨などから再検討を加え、十一月一日に、県教育委員会に対して小学区制採用を正式に要請した。県・市両教育委員会は数次にわたる協議の結果、十一月三十日に共同声明を発表して、「従来小学区制の実現のために努力すると共に市民の協力を期待した。また世論喚起のため、新しい高等学校では、「従来の学校差をなくすこと」「地域社会の向上を、はかることが必要なこと」などを骨子として大学区制より小学区制のほうが妥当であるということを強調したリーフレットを各家庭に配布した。

そこで県としても諸般の状勢から本市の高等学校の収容可能数や、進学希望者数、その他通学上の便等を考慮して十二月二十四日に小学区制を決定した。さらに具体案として「高等学校通学区域実施要領」が定められたのである。

また入学者選抜の方法も小学区制採用により従来の試験地獄を再現することなく、中学校側から送付する指導要録によつて決定されることになつたのである。

2　教育内容の改造と積極的教育活動

指導要領一般編並びに各科編　学校教育法に示された小・中・高等学校の目的と目標を達成するための教育課程の基準は、学習指導要領によることになつた。そこで昭和二十二年四月新学制に関する諸法令と相前後して指導要領一般編や各科編が文部省から示された。

一般編は小・中学校を対象としたものであつた。その内容は各学校の目標・教科・時間数・指導法・評価の方法・一日の学習計画などで、従来の学科課程を新しい観点から大改造したものである。なおこれらの性格は従来のような画一的、規制的なものではなく、各地域や各学校で自主的に教育課程を構成する際の基準や参考であるとされた。

高等学校については、時日の関係で無理があつたので二十六年七月の改訂版に示された。

一般編に続いて各科編が配布されたが、社会科編が間に合わなかつたので社会科の授業は同年九月までその実施を延期された。

これらの指導要領は、教育改革発足当時早急に作製されたものであるから、文部省は、刊行直後「使用状況」「児童の能力や環境」「実験学校の結集」「実際教育家の意見」などを聞いて、昭和二十六年に改訂版を出した。各科編もまた各教科の性格や実際指導の結果およびその他の要求を参考として以後二・三回改訂された。とにかく指導要領によつて各学校では新教育指針以上の具体的な方向を見出したのである。

小学校の教育内容　小学校の教科基準は、国語・社会・算数・理科・音楽・図工・家庭・体育及び自由研究（後の教科以外の活動）と定められた。従来の修身・国史・地理・公民（戦後一時的に実施された）という教科は廃止されて、新しく社会科・家庭科・自由研究が誕生した。特に社会科の性格・目標・内容・指導法などが従来の教科と著るしく異なつていたので教育界に大きな波紋をまき起した。児童の生活経験を基にして、「民主的な社会生活を正しく理解させ、望ましい人間関係を実現して、社会生活を進歩向上させて行く態度能力を身につけさせる」という社会科は、新しい教育課程の中核的存在であるとも解釈された。

また従来の国民学校では女子にのみ課せられていた家事裁縫が、望ましい民主的家族の一員としての責任を自覚させ、明かるい家庭生活を営むために必要な理解・態度・技能を身につけさせるべく、女子だけでなく男子にも家庭科として学習させることになつた。

教科の名称や時間内では、実施不可能と予想される児童の自主的活動を、自由研究として設けたのも大きな改造であつた。

各教科の目標や内容も知識偏重的な面は一掃され、社会生活をするに必要な理解・能力・態度が強調された。例えば、国語科では、聞く・話すことが重視され、カタカナ先習がひらがな先習に改められ、毛筆の必習を廃し硬筆かき方を指導することとなり、ローマ字学習を四年以上に奨励するなど、国語教育を一新させたのである。各教科の時間配当は一年間の総時間数で表わされ、一日の学習計画も学習の進度や児童の興味、必要に応じて種々の変化ある活動が望ましいとされ、年間を通じて全体としての調和がとれれば良いと改められた。

中学校の教育内容　新制中学校の教科は、必修教科として国語・社会・理科・音楽・図工・体育および職業科が、選択教科として外国語・習字・職業および自由研究が基準として定められた。

時間数は小学校と同じように、各教科の年間総時間数で示された。二十四年になつて体育は保健衛生をも含めて、保健体育となつた。また職業科は農業・商業・水産・工業・家庭の五つにわけられ、その中の一または二以上を学習することになつていたのを、栽培・食品加工・手技・工作・経営・記帳・調理を加えて十二項目とし、いつそう実生活に役だつように改め、その名称も職業家庭となつた。自由研究も二十四年には特別教育活動という名称のもとに教科学習とならんで重要視された。

新制高等学校の教育内容　新制高等学校の教育課程の特色は、生徒の将来の進路に対応することと、個性の伸張を小・中学校より、いつそう図ることにある。

そこで必修教科を国語・社会・数学・理科・保健体育の五教科に縮少し、選択教科を中学校よりさらに拡張して、芸能・外国語・家庭・農業・工業・商業・水産・家庭技芸など細分した。また単位制を採用して卒業までに八十五単位以上を修得することとし、そのうち三十八単位は必修教科で占めることになつた。また従来の実業関係の学科制を廃して、職業課程を置き当該職業の分野にある科目を当該学校の定めるところによつて、合計三十単位以上履修すべ

きものと定められた。

積極的な教育活動の展開　新しく出された指導要領の性格によつて、教育者は未だかつてない大きな任務の遂行のために、積極的な教育活動を展開した。本市としても、さつそく指導要領についての伝達講習会を開催したが、各学校で実際に新年度の計画を立てて指導に当つてみると、幾多の疑問点を生じた。そこでこれらを一括集約して二十二年七月に文部省の指示を受けて各学校に伝達した。それには、「地域行事と指導計画の立て方」「授業日数の計算方法」「授業時間のきめ方」「単位時間の計算方法」「一日の学習計画の立て方」「単元という意味」などが、戦前の教育と比較して解説され、とにかく真剣に実践した後に批判すべきであると述べてある。

このような問題はあつたとしても地域の実態に即した教育課程の構成は、各学校における大きな課題であつた。理論的な面では「教育編成論・社会科の地方計画・カリキュラム論・ガイダンス概論などが愛読され、教育課程の類型がはなばなしく論議された。また、川口プランが発表されると地域や学区域の実態調査が各種の観点から実施され、それを資料にして教育課程の構成に着手した。

学習指導法も「為すことによつて学ぶ」ということが強調され、児童の生活経験と興味欲求とを基礎にした問題解決学習が従来の一斉教授に代つて出現した。この結果「ゴッコ遊び・構成活動・現場見学・グループ学習話し合い学習などが盛んとなつた。中学校・高等学校においては、職業教育・科学教育などが重要視されると共に生徒指導等も強調された。このような積極的な研究の成果は自発的に各学校で発表された。その結果スコープ・シークェンス・コアカリキュラム・ガイダンス・トライアウトコース・ホーム・ルームなどの新教育語が流行して盛んに使われた。

また、実証的な社会科が叫ばれたために地域の古墳や史蹟・墓地などが無届けで発掘されたり、自由教育の誤解から「六三制、野球ばかりがうまくなり。」などと悪口を言われるようなこともあつた。このような行き過ぎはあつたとしても新教育の芽は日に月に育つたのである。

3　教育委員会の発足と活動

地方教育行政の改革と教育委員の選挙　わが国の教育が後進性を取り戻して、長足の進歩を遂げたのは、たしかに中央集権的な教育行政の結果であつた。しかし真の民主主議教育を進めるためには、官僚独善の教育や政党の不当支配を脱却して、地方の実状に即した教育行政を行うことが必要である。この要請によつて、生れたのが教育委員会である。本市の教育委員会は、昭和二十三年十月五日に委員五名の選挙を行い、十一月一日に発足したのである。なお教育委員の選出と言つてもその趣旨が一般市民に理解されていなかつたので、教育委員会趣意書を配布したり啓蒙のための講演会等を開催した。

教育委員会発足によつて、終戦時は学事厚生部、二十一年十一月に文教部（庶務・初等教育・高等教育・社会教育の四課制）二十二年八月に教育局と変化した事務担当局も、ここに一変して横浜市教育委員会事務局となり、庶務・調査・学務（研究所、富岡学園を含む）社会教育（図書館を含む）施設の五課と指導室の一室五課制をとり各区に出張所を設けて活動を開始したのである。

教育委員会の活動　教育委員会発足と同時に旧来の視学制度は廃止され、任務も一変した指導主事制度が生れた。昭和二十四年五月には、公正な民意のもとに前途の困難を打開して、教育を守るという教育委員会の基本的信条や本市の教育目標および行政施策をかかげた教育委員会綱領なるものを発表した。また二十四年度以降教育現場の動向を察知して、指導の重点を年々かかげると共に実験学校・研究指定校等を設けた。二十四年十一月一日には教委発足一周年紀念教育高揚週間を催し、教職員等の表彰も復活した。教育内容面については二十四年度末から本市教育課

程構成を進め、足かけ四年の歳月を研究についやして、小・中学校分を完成した。また六・三制発足にあたつて教育施設面についての活動は活発に展開された。高等学校の学区制および選抜に関しては前述の通りである。

また学校教育と表裏一体的存在である社会教育については、教育委員会綱領（二十四年五月発表）の「教育行政が学校教育にかたよる弊風を打破し、社会教育の重要性に鑑み、その運営の刷新を図り、公民教育・婦人教育の徹底を期すること。」をもとに活動を展開した。

社会教育事業としては成人学校を開き教養・趣味・職業等の課目を設定し、年三期制（一期三ヶ月）として市民の欲求にこたえた。

また青少年の校外指導強化のため、各中学校を一単位とした横浜市青少年指導対策委員会（昭和二十九年に法にもとづく青少年問題協議会となる）を組織化したり、全日教育寮を設置したりして、戦後の混乱期にあつた青少年の教育に力を尽くした。

昭和二十四年六月に社会教育の充実発展を期するため「社会教育法」が公布された。この法に基づいて、本市でも二十五年八月に「横浜市社会教育委員会議規則」「横浜市社会教育委員の設置並びに費用弁償に関する条例」が制定された。この結果二十六年八月に第一期の社会教育委員が委嘱され、以後二年ごとに交替して活動している。

昭和二十七年度に市民の体育および文化事業が教育委員会の所管に移され、市民生活に直結できるようになつて総合的効果をあげる方向に前進した。

昭和二十八年度には「社会教育施設の設置及び運営・集会の開催・資料の作成配布・地域社会の文化的向上・地域の自主的活動の助長及び組織団体の連絡調整」などの諸施策を推進して、社会教育の総合的発展を目標とした。この結果二十九年六月に「横浜市社会教育協力委員会規則」が作られ、市民の自発的な社会教育活動進展の基盤が確立したのである。

地域に自主的に結成された婦人団体も、二十八年五月には「横浜市婦人団体連絡会」を結成した。現在では二百二十一団体、約八万人の婦人が主婦とし、母として港都市民にふさわしい教養と文化的水準向上のために活発に活動している。

市民の芸術、芸能、文化教育においても、昭和二十八年に「横浜市文化団体連絡協議会」が結成され、毎年秋には音楽・演劇・文芸・美術・舞踊等の発表が行われるようになつた。

また毎年三月には、本市の教育、学術・芸術・産業・スポーツ等文化の向上発展に尽力した功績顕著な個人や団体を選んで、「横浜文化賞」を贈呈することとなつた。

三、教育内容及び施設の改善と補充

1　教育研究の動き

終戦後における教育理念の一大転換と共に教育原理や教育方法について、いろ〳〵な主張が唱えられたり学制の改革があつたりして、やや混乱を来した教育現場も、昭和二十五年頃から落ちつきをみせて来た。

まず、従来とは異なつた観点から基礎教科の課程が重要視されたことである。小・中・高の各学校では、教育課程の中で今までよりも一層多くの時間を配当すると共に指導法のくふうを進めた。これは新教育の反省から出た必然の結果とも考えられるが、小学校長会が実施した全市小学校児童に対する国語算数の学力検査、中学校におけるアチー

ブメントテストなどの客観的な評価の示唆によるものとも考えられる。

問題解決の能力や実践力を伸ばす教科においても、設備・備品の不足の中で、教師自身の問題意識や自主性・実践力の確立の必要が認識されてきた。それと同時に産業教育の振興や、科学教育・創造的自己表現および情操教育向上のためにも教師自身の技術習得の必要が認識されて、講習会・研究会が開催された。

保健体育方面においても単なる技術や競技的な教材から脱皮して、健康教育という広い立場から教育課程が構成されるようになり、設備でも保健衛生用具や遊びの用具が各学校とも整備されるようになつた。

これらの教科指導と相まつて教科活動・特別教育活動が教育課程の中に正しく位置づけられて、生活指導、道徳指導の重要な場とされ、その研究や実践も盛り上がつた。

また児童・生徒の自発的な学習意欲を満足さると共に、多方面の資料を総合的・現実的に活用させるための図書館および視聴覚教具利用についての研究も伸展した。

これら各学校の積極的な研究と共に、個々の学校や教員各自の横の連絡向上、および小・中・高相互に指導内容やその取り扱いを縦に関連づける意味で、自発的に研究団体が発足して活動を展開した。この研究会のはじめは、同好会という名称で生れ、昭和二十二年頃は組合活動の一分野として設けられた。二十四年から二十五年にかけて組合活動とは別個の立場で、小・中・高の学校種別ごとに多少の差異はあるが、国語・社会・理科・数学（算数）音楽・図工（美術）職業家庭・保健体育（体育）英語・視聴覚・教科外・生徒指導・図書館・特殊教育などの各研究会が発足した。これらの研究会は、まつたく教員自身の研修を自らの手で高めていこうとする熱意と協力の活動であつて、ともすると閉鎖的で沈滞しがちな教育界に清新な気風と切嗟琢磨の機会を与えたのである。また本市の教育課程が構成されるにあたつては、その基盤として果した役割は大きなものがある。

2　横浜市教育課程の構成

学校教育法によれば、「教育の内容及びその取り扱い」については「学習指導要領の基準による」となつている。また教育委員会法では、同じ事柄を教育委員会の責任と権限に求めている。

この一連の法に根拠をもち、地方化された民主的教育理念に裏づけされて、現場のこの部面における努力と労作に奉仕するために、本市教育委員会は教育課程構成の活動を昭和二十四年度末に開始した。まず指導主事会議を数次にわたつて開催すると共に、小・中・高各学校長代表や教育研究所の意見を聞くと同時に、主要都道府県や都市の現状把握に努めた。その結果、この計画は将来の本市学習指導要領になるように育てること。組織は単純化すること。初年度は小学校のみとすること。ただし、全体の構造は小・中・高を通じて考えること。などの基本的態度を定めた。

二十五年七月下旬から八月にかけては企画委員会（指導主事の一部・研究所員の一部）・研究員（小学校の各教科主任）構成委員会（小学校長・教諭・研究所員・指導主事の代表）原理委員会（学識経験者・ＰＴＡ代表・学校長代表・教育委員会代表）代表者会（目標設定委員会）等が組織化された。

代表者会は、教育理論・法規規準・教育調査の四部門に分れて基礎研究に没頭した。この研究結果と資料とを基にして横浜市教育目標原案を作成し、特に設けられた目標設定小委員会に諮り、教育委員会の裁定を経て草案ができ、以後所定手続を完了して本市教育目標試案を設定したのである。構成委員会の各分科会は七月以来各分野にわかれ、各教科の態度・構造・基盤・内容等について真剣な討議を続け、十二月以降においては、各教科の内容を目標試案に適応させるために指導内容の抽象化・目標分析・全体構造の統一などに苦心しながら教科の体系を組み上げたのである。

その間に過去数年間にわたる市内各小学校や研究機関による労作が十分活用されたことはもちろんであるが、また

その間に培かわれた実際教育家の全能力が構成委員を通じて最大限に奉仕されたのである。企画委員会や代表者会は勿論のこと、各構成委員は各委員長を中心に努力と苦労を重ね二十五年度には完成をみた。

中学校の教育課程は二十六年十月から組織的に着手された。第一期（二十六年十一月から二十六年十二月まで）原理的（基礎的）研究、第二期（二十七年一月から二十七年五月まで）調査研究、第三期（二十七年六月から二十七年九月まで）構成、第四期（二十七年十月から二十七年十二月まで）完成とした。第一期は、中学校の教育目標・各教科の目標資料の蒐集・教育課程の構造・学習内容の基礎的研究などをした。第二期は調査の目的・項目・形式・範囲などを検討して質問紙を作成、六月上旬教師・生徒・父兄に実施、八月には教育課程構成資料集として配布した。第三期はこれらの資料を基にして八十数名の構成委員が十分科会に分れ各教科の内容構成に当つた。代表者による小委員会の設定もあつた。これらの活動は非常な苦労を重ね第四期に突入した。以後小委員会は改訂された本市の教育目標との関連調整を図り、足かけ三年の労作を経て、その完成を見た。

かくして、本市小・中学校の教育課程試案は総説篇、各教科および教科外活動・特別教育活動篇試案として一応完成をみたのである。しかしながら、本市教育課程構成の年次計画や教育現場の真剣な実践と批判とにこたえて、改訂する必要のあることは言うまでもない。そこで教育委員会は試案完了と同時に改訂委員を依嘱し、教育目標以下各科篇の第一次改訂に着手し、およそ昭和三十年度末までにその改訂を完了した。

高等学校の教育課程については、昭和三十一年四月から実施し、コース制に対処して各学校ごとに原案は作成されたが、職員の配置や施設の不備、高等学校の特色などから、本市として一本化されるまでにはいたらず。管理カリキュラムの作成に留まつた。

3　校舎および諸施設の拡充

校舎の建設　戦災によつて本市は、小学校の全半焼三六校、（戦前一一〇校）六九二教室、三一・六二七坪。旧制中学校および韓学校の全半焼三校、一、六二八坪の校舎を失なつた。このほか、戦時中および終戦後の校舎転用は、軍による接収分を含めて、九、九七二坪におよんだので、昭和二十一年度当初においては、九四、七八二人の小学校児童が使用できる教室は、わずかに一、二〇〇教室に満たない状態であつた。

しかも本市は、(1)戦災の度が六大都市中の首位を占めた。(2)中心地域の接収による人口の移動が大巾であつた。(3)直接（占領軍）間接（官公署、戦災住宅）の校舎接収・転用が異例的に多かつた。などの特殊事情によつて、教室難は深刻をきわめ、二部授業は普通の現象で、三部・四部授業を余儀なくされる所さえあつた。

これに対して、市文教部は校舎復興復旧三ケ年計画（昭和二十三年までに、二部授業を三年生まででくいとめる）を立てた。ところが第一年次計画が完了しなかつたにもかかわらず、六・三制の発足で新制中学校四三校が開校したのである。新制中学はその大部分が小学校に併設された。このため小学校および新制中学校は、さらに言語に絶する教室地獄となつたことは当然である。加うるに財政的に疲弊した本市にとつて第二年次計画の起債予定額（五千万円）が、政府の資金統制によつて、半減されたことは大きな傷手であつた。また中学校建設に対して政府に予算措置はなかつたのである。児童・生徒数は急増すること、などからくる不安と焦躁に、父兄の代表は、校舎建設の件を陳情し続けたのである。

しかしながら、物価の騰貴・財源の制約・資金の困難・資材の統制・敷地の問題、校舎の転用問題・残存校舎の保全等いずれも解決困難な問題が山積していたのである。

この難局をどう突破するか、「市民総力の結集」結論はこれであつた。かくして校舎建設のための市民全体の協力態勢は漸次つくられていつた。

その表われは、「六・三制貯蓄」や「学校復興たからくじ」などに遺憾なく発揮された。

昭和二十二年十二月には「教育振興会方式案」が市会で審議可決され、市民有志の出資によつて、昭和二十四年九月末までに十校が新・増築を完了したのである。

　その他「建設資金の提供」「建築物の無償提供」「敷地の購入と提供」「整地工事の担当」等、現在までには莫大な積極的寄付があつた。これらの寄付の資金中には、バザー等の収益金も含まれているのである。とにかく「用地の調査・買収の折衝」「農作物、工作物の補償」など地元有志、父兄の苦労は並みたいていではなかつた。このような涙ぐましい市民の熱意と協力、市当局の努力が展開された結果、教室地獄の危機を一応脱したのである。昭和三十年度末までには小学校一一二校・分校二六校、中学校四十九校の多数の校舎があるいは新築され、あるいは増築修理された。しかしながら、二部授業・不正常授業は未解決のまま残された。そこで次には二部授業不正常授業解消五ヶ年計画が立てられた。それによると「総経費約十九億をもつて、小学校五〇八教室、中学校三一八教室、計八二六教室（三八・三一三坪）を建築すると共に、これに必要な用地の確保並びに備品の整備を行う」とある。かつての市民の熱意や市当局の努力はかくしてこの計画遂行にも表われようとしている。

諸施設備品の改善補充

○戦前から行われていた給食は、主として貧困児の救済または栄養補給という立場で行われた。施設もきわめて不備なもので、使丁室のかまど、バケツなどを利用したものであつた。

　戦後の給食はララ物資の寄贈によつて、昭和二十一年十二月から始まつた。その後味噌汁・パン・ミルク・給食料理とその内容も逐年向上し、昭和二十五年七月には、全国にさきがけて、パンとミルクを骨子とする完全給食が実施された。学校給食の意義も単なる栄養補給の域を脱して、日常生活における食事の正しい理解、社交性の涵養、食生活の合理化、栄養の改善等と変つた。また給食が学校教育として重要なことが父兄にも理解されるようにもなつた。

　その結果、ガリオア資金打切りによる給食費の値上りや集団中毒などもあつたが、昭和二十九年六月に給食法の施行をみるに及んで、各学校の給食調理室や動力利用による機械、その他の諸施設も整備されるようになつた。これらの諸施設は国庫または市の補助金もあつたが、その多くは父兄の協力の賜である。

　調理もはじめは、教師・父兄が協力して当つたが、昭和二十五・六年頃から専任の調理夫が置かれ、栄養士も従事するようになつた。また保健衛生中毒予防の立場から保健所との連絡を密接にして、食品の保管・調理室内の検査・従事者の検便等も実施された。

○戦後の教育方法として実地見学が重要視されると同時に間接経験、マスコミの立場から視聴覚教具の活用がどの学校でも盛んとなつた。

　本市においても戦後いち早く、映画教育研究会が復活して、映画・幻燈の教材用フィルム、スライドなどの斡旋（ライブラリーの設置）映写機の斡旋およびその使用技術講習会等を開催した。

　また放送教育研究会も発足して、学校受信機の整備拡充・学校放送の聴取と指導方法、校内放送の設備や実施方法等にも研究が進められた。その後、この両者は合体して視聴覚教育研究会となつた。このような活動と共に、各学校も視聴覚教具活用の重要性を再認識して設備の充実を図り、二十九年には鶴見区を中心にして全国視聴覚研究大会が開催された。

○児童・生徒の自発的学習の向上や、読書意欲の満足・読書指導の適正を図るために、地域図書館や学校図書館の蔵書冊数の増加や設備の充実が促進された。各学校は経費の捻出方法や、教室不足などの困難を打開して、その充実を図つた。その間昭和二十九年には、学校図書館法が公布され、国および市費から補助金が基準冊数にみたない学

校に交付された。このような結果、昭和二十五年度には、一人当り冊数、小学校〇・五冊、中学校一・〇冊であったのが三十年度には小学校一・四冊、中学校一・九冊と増加した。また図書館利用の研究指定校・実務講習会・研究会等が設けられて向上策が図られている。

○昭和二十八年度には科学教育向上のため、理科教具最低設備調査委員会が設けられて教具の現有調査が実施された。その後理振法の施行と共に理科備品の整備補充も漸次各学校で行われるようになった。また中央教材園も運営委員会が昭和二十六年六月に組織され、その後分園も設置されて設備も活動も戦前に比較して一新された。しかしながら、観察と実験とを生命とし日常生活の合理化、科学的基礎能力、教養の向上を図るためには、今後理科関係設備はさらに充実する必要がある。

○教育の機会均等・生活指導の伸展は当然、特殊児童への配慮に関心は高まった。市立聾学校はすでに昭和八年に、盲学校は二十五年に本市に移管された。これらの学校は経費の貧弱にもかかわらず、教師の教育愛と犠牲的奉仕によって、着々とその実を上げつつあり、全く地味な、そしてくふうと根気を要する仕事である。

身体虚弱児を対象としての養護学級はすでに昭和のはじめから、市内の間門小等七校に設置されていたが、昭和二十三年十二月に瀬谷小学校分校として二つ橋学園が設置された。本園は開設以後、結核初期感染の発病予防に特別な設備と教育課程とをもって当り、その効果を上げ、父兄からも感謝されている。

各学校における忘れられた児童、精神薄弱児に対しては、昭和二十五年頃から着目されていたが、昭和二十九年度にいたり、各区ごとに小学校児童は一学級ずつ、中学校生徒は保土ヶ谷区のみに一学級それぞれ特設された。

経済的貧困等のため、義務教育を受けることができない児童生徒の為に、本市ではすでに明治四十四年頃、市内六小学校に付属夜間部が設置された。戦後新制中学発足と共に、このような生徒の為に、昭和二十五年度には市立中学校に特別学級（夜間十学級）を設置して義務教育の徹底を図った。高等学校における定時制（夜間を含む）教育も本市の実態に即して、その向上発展策を講ぜられている。

また横浜市の特殊性から、従来と事情を異にした混血児が、昭和二十八年に、元街小学校を筆頭に市内二十九校に五十八名入学した。これらの混血児は数こそ少ないが、いろ〳〵な点で多くの問題を持っている。これらの教育に当っては国際的な見地、人道愛、などからの深い愛情をもって接する必要がある。

4　教科書の採択制度

終戦直後の暫定措置　戦前における教科書は、言うまでもなく国家の強い統制下におかれた。内容も軍国主義的色彩が濃厚で、国民精神の作興に中心がおかれていた。またその取り扱いも教科書中心、教師中心であった。

終戦後占領軍の指令によって、これらのことは否定された。まず教科書の削除（すみでぬられた教科書）が行われ、参考図書の強制的な回収が何回も実施された。その後修身・日本歴史および地理の授業が禁止されて、現場は相当な混乱を来した。このような時に文部省から新教育指針が配布されて有力な手がかりになったことはすでに述べた。

文部省では昭和二十年十二月頃から暫定教科書の編集に着手した。当時は教科書の内容を決定する根拠も明らかにされていない上に、用紙の不足、印刷施設の不備、占領軍との交渉などの問題があった。それでも文部省は非常な苦労をしてパンフレット式の暫定教科書を何分冊かにわけて昭和二十一年四月頃から現場に配布した。

二十一年六月には地理の授業が再開されたので、その暫定教科書を作成した。また同月には修身科に代る公民科の授業が許可されたので、小学校公民科教師用書が刊行された。また国民学校用には「くにのあゆみ」が、中等学校用には「日本の歴史」の暫定教科書が編集されたので同年十月には日本歴史の授業も再開された。

指導要領の編集と新しい教科書の性格　昭和二十二年四月には六・三制が発足して教育内容にも大きな改革が加えられた。戦後の暫定教科書は新教育方針からみて不適切な箇所を訂正したにすぎないものであつた。新教育制度が発足するにあたつて、新しい教育課程に即するためにも、この暫定措置をそのままにしておくことはできなかつた。そこで小・中・高等学校の全学年にわたつて一度に文部省は新しい教科書を編集発行することになつた。

学習指導要領が発行されて教科の性格は従前と大いに異なり、目的資料から方法資料に変り、絶対の権威から資料提供、または学習事項の整理や体系づけたりするものとなつた。すなわち、教科書は単なる参考書ではないが、しかし、もつともよく整備された教育的に有効な参考書という性格になつた。そして各学校が児童生徒の実態、地域社会の実状に応じた指導計画を作り、その計画に従つて教科書を使いこなしていくことが重要なことになつた。

新しい教科書検定制度と採択制度　学習指導要領はそれを基準とすることを要求しながらも、学校が教師の自主的な指導計画を尊重する立場をとつている。このような新教育の立場から考えると、一種類の国定教科書だけを使用させる制度は当然廃止されなければならなかつた。

そこで文部省は検定基準の作製、検定手続の改正、検定処理機関の設置、教科書展示会の実施、需要数の集計方法等について審議決定し、昭和二十四年度用のものから教科書の検定並びに採択制度を実施した。

本市においては教科書の展示会が昭和二十三年度（八月二十五日頃）に開催された。当時は各学校ごとに採択希望を市・都道府県を通じて文部省に申し込みをしたのである。昭和二十三年には教育委員会が発足し、教育委員会法によつて教科書の採択が教育委員会の重要な使命となつた。

そこで本市教育委員会では昭和二十五年度用教科書採択のため、学識経験者、教委事務局担当者、教員代表等をもつて教科書採択委員会を組織した。これとは別に各教科より三名ないし七名の教科書調査委員を依嘱して調査結果の報告書の提出を求めた。また学校においても学校単位に小委員会等を構成して希望教科書名を事務局に報告した。教科書採択委員会は調査員の報告による順位、と各学校の希望順位の両者を勘案し、さらにその他の観点から慎重に考慮して採択教科書の答申案を作り、教育委員会はこの報告をもとにして最後決定をした。

昭和二十九年度には、この採択委員会を教科書採択審議会と改め、人員も増加してます〱慎重を期した。なお展示会には父兄の参加も希望し、長期間研究の為に教科書センターおよびその臨時分館を現在は設置した。

このような教科書採択制度は世論の一部に批判の声もあるが、教育の民主化、教科書そのものの進歩には大いに役立つたと言える。

5　教員の身分待遇と団体活動

教員の身分　従来公立学校の校長・教員の身分は待遇官吏とされていたが、公立学校官制（昭和二十一年四月一日）の制定等により官立学校同様純然たる官吏とされ、地方教官の身分を有するに至つた。昭和二十二年十月に国家公務員法が公布され、公立学校教員も国家公務員となり、同法による人事の取扱いを受けることとなつた。

昭和二十四年一月には教育の特殊性を尊重して教育公務員特例法が公布された。その結果、公立の学校長・教員・教育長および専門的教育職員は教育公務員特例法と地方公務員特例法の両者が適用されるようになつた。

これによつて教員は、その職務と責任の特殊性にかんがみ、その地位が確立され職務に専念できるようになつた。

現職教育と資格　終戦直後占領軍は「教員及び教育関係官の調査・除外・認可に関する件」の指令を発した。これは日本の教育機構中から軍国主義的、極端な国家主義的影響を払拭すると共に、このような思想の継続の可能性を防止するために教員等を調査し適格者を認可すべきことを命じたものである。

この指令によつて本県にも教職員の適格審査委員会が設置され、当時の教職員は数度にわたつて審査され、その影響は相当大なるものがあつた。

また戦後における新しい教育体制を整え、これを進めていくに当つて、その中心となるべき教員が新しい教育の理念を理解し、その方法について習熟した者でなければならないことは言うまでもないことである。したがつて教員の再教育は戦後最も緊要な問題であつた。文部省では第一次教育使節団の報告書にもとづいて全国の教職員の再教育計画（昭和二十一年十月から三ケ年計画）を立てた。

本市においてもすでに再教育とは別に新教育に関する各種講習会、研究会、講演会が開催されて新教育精神の理解や指導技術の向上が図られていた。

再教育は昭和二十二年の八月から全市の教員を対象として開催された。またこの再教育とは性格と目標を異にするが、昭和二十五年から初任者の講習会が開催された。昭和三十一年度からは理科・図工・音楽・体育等の技術講習会も開催され、指導技術の向上が図られている。

教育職員となるに必要な最低基準を定めた教職員免許法は昭和二十四年に制定された。本市においてはすでに二十三年の八月に認定講習会が開催され、二十五年六月には認定講習土・日講座も開講された。

新学制発足にともなつて無資格者が小学校教員に採用されたので、これらの助教諭に対しても講習会が開催され、その資質の向上が図られた。

教員の自主的な活動が促進されると共に、その資質を向上させるための現職教育が戦後は特に重要な問題となつた。その方法にはいろ〱あるが、本市では各学校ごとに、または教育委員会・各教科研究会・区の研究会等が、いろいろな内容で研究の機会を作つている。

教職員の団体活動　教職員の団体性格によつて教育研究を目的として結合された団体と、労働組合としての教職員組合がある。

前者についてはすでに述べたので省略するが、本市小・中・高等学校各校長会および副校長会も、それぞれの立場にふさわしい活動を展開しつつある。

これらの職能団体に対して、その性格・規模および活動において、最も注目すべき団体は教職員組合である。教育の目標や内容が変革され教員の自主的活動が促進されるに従つて、真の民主的教育の建設をめざすと同時に自己の職責を全うするための生活権擁護の運動は、本市においては終戦の年、昭和二十年の十二月頃から起つた。

その活動は三つのコースをたどつて展開された。一つは旧教育会の流れをくむ校長会の動きであり、一つは教育内容面からの動き、つまり教育革新連盟の動きであり、もう一つは純然たる労働組合としての動きであつた。

小・中学校においてはこれらの三つの動きは、その後、各区の活動を促進して昭和二十一年一月三十日に横浜市教員組合（現在の横浜市教職員組合の前身）が結成された。その後教員組合全国連盟（教全連）が結成されたので本市教員組合はこれに参加した。

ついで昭和二十二年六月に日本教職員組合が結成された。これによつて、かつての教育会は解散されて労働組合としての性格が明らかにされたのである。本市教員組合としても、小・中分離説等の問題があつたが、これらを解決して昭和二十二年七月十二日に、新学制に伴う改組一切の準備を完了して現在の横浜市教職員組合が誕生したのである。また高等学校においても、これと前後して高等学校教職員組合を結成し、市従業員組合に参加した。

以後十年、幾多の教育上の諸問題に対して、浜教組・浜高教組としての立場、現場の実状の直視、組合員の団結をもつて、公正にして、しかも建設的に着実な活動を展開して現在にいたつたのである。

四、学校教育の再検討と今後の課題

昭和二十六年九月には平和条約は締結され、わが国は独立国として再出発した。このことは、教育が自主性を回復すべきであるという要請を一層たかめ、占領下の教育を再検討するとともに、わが国独自の教育を進めることとなつたのである。

戦後数年間に進められてきたわが国の教育改革は、占領下において外国の管理政策のもとに実施された。したがつて本市教育の歩みをみても必ずしもわれ〳〵の創意によつたものではないこともあり、あるいは何か実施しようとしても、その通りに行かなかつたこともあつた。独立後、すでに五年、是正すべき点は速かに改善すべきである。しかしながら学校教育の機会を均等にするという新しい教育の原則は新学制の存続と施設面の改善によつて、その成果を期待しなければならないものである。

教育内容面については、戦後これを生活の現実からとりあげて教育課程の内容構成をすることになつた。本市並びに各学校が非常な苦労を重ねて構成した教育課程が現場の努力と研究によつて改善され、ます〳〵活用されなければならない。道徳教育の振興が本市においても重要な課題となつている。この具体策は単なる復古的な修身科復活であつては断じてならない。と同時に現実から遊離したあまりにも理想的観念的なもの、机上計画的なものであつてもならない。日々成長しつつある児童・生徒に新しい道徳をいかにして身につけさせるか、そこに困難な、そして重要な課題が存在している。

学校諸施設備品についても未だ不完全であり、本市の二部授業不正常授業解消五ヶ年計画も四ヶ年に短縮されたとは言え、その解決も簡単なものではない。

現在の学校教育は、これと表裏一体である社会教育と重要な関係にあることは言うまでもないことである。戦後社会教育が重要視され、その施設の充実や活動も追い〳〵展開されているが、これが充実して学校教育と並んで大きな教育力を表わすためには、さまざまな課題をになつていると言わなければならない。

教育委員会制度も昭和三十一年十月には改革されたが果して妥当であつたであろうか、戦後の教育に現われたさまざまな改革と実践のあとを振返つた時、そこにわれ〳〵の残した大きな足取りを認めつつも、今後解決しなければならない重要な問題の存在することを認識しなければならない。その解決の方向は、新教育の体制にきびしい批判を加えると同時に新教育を成長させるべきものでなければならない。明治以後の本市教育七十年と戦後十余年の教育を静かに考えたとき、新教育に対して注がれた教育関係者と市民の熱意と努力は、必ずや立派に結実するにいたることを信じて疑わない。

市立学校沿革編

小学校の部

横浜市立生麦（なまむぎ）小学校

横浜市鶴見区生麦町七〇七番地
電話鶴見⑤二二七九番

一、設置状況

1 創立　大正一二年二月一二日
2 開校　大正一三年四月一日
3 設置の概況

大正一二年二月一二日、郡令第二号をもつて本校の位置が指定され同年九月の大震災により新築工事は一時中止されたが、大正十三年四月一日、鶴見尋常高等小学校校舎を借用して開校、校舎完成と同時に六月一四日、新校舎に移り発足するに至つた。

二、校名の変遷

大一三・四・一	橘樹郡生麦尋常小学校	
昭　二・四・一	横浜市生麦尋常高等小学校	横浜市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市生麦国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立生麦小学校	

三、位置（校地）の変遷

大一二・二・一二	神奈川県橘樹郡鶴見町生麦町七〇七番地	二、六三一坪
昭　二・七・一	横浜市鶴見区生麦町七〇七番地	六九二坪を買収

総坪数　三、三二三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一三・四・一	新築	木造二階建	六一五	・教室一二、特別教室二、その他八
大一三・五・三〇	借用			・鶴見尋常高等小学校の教室六、同年六月十三日まで
昭三・一二・一	増築	木造二階建	一〇二	・教室四
昭七・二・一一	増築	木造二階建	二三七	・教室七、手工室一、教具室一、便所一
昭七・二・一	新築	木造平家建	一二〇	・講堂
昭一六・一二・三〇	増築	木造二階建	三三七	・教室七、特別教室二（理科・手工）便所一
昭一九・一〇・二	借用			・疎開残留児童の教育を行うため岸谷国民学校を昭和二〇年八月一七日まで
昭一九・一〇・二〇	貸与		九六四	・教室二一、講堂、昇降口、廊下、使丁室等の諸設備を東京芝浦電気株式会社重電機製造所へ二〇年九月三〇日まで
昭二〇・不詳	貸与			・昭和二二年一二月八日まで日本大学第四中学校第四商業学校へ教室五及び講堂
昭二二・四・三〇	貸与			・横浜市立生麦中学校へ教室一二、次年度一三室昭和二四年七月二三日まで

総坪数　一、四五二・七五坪（教室三五、その他七）

五、併設状況

大一四・四・三〇	鶴見町立特殊夜学校を併設
大一五・七・一	鶴見町立生麦青年訓練所を併設
昭二・四・一	横浜市に編入により横浜市立生麦青年訓練所と改めた。
昭一〇・一〇・一	横浜市立生麦青年学校を併設
昭二三・三・三一	学校教育法施行に伴い青年学校廃止となる。

六、学区及びその変遷

大一三・四・一	花月園前通り以南、鉄道線路以東
昭一六・四・一	岸谷国民学校設置により従来の学区から明神前、原西地区、住宅地区を除いた。高等科の全部が岸谷校の区域となる。
昭一七・四・一	生麦町のうち、芦穂崎国民学校の区域であつた地域を本校の区域とした。即ち、生麦町のうち国有鉄道以東の地区（ただし原西以南を除く）と大黒町全域。

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	栗原　義助	大一二・八・一五	昭七・三・三一	橘樹郡田島尋常小学校訓導より就任、退職。
二	杉山和三郎	昭七・四・一九	昭一七・八・二六	本町尋常高等小学校訓導より就任、退職。
三	金子　松平	昭一七・八・二六	昭二二・四・三〇	浜町国民学校訓導より就任、矢向小学校長へ転任。
四	出口　大甚	昭二二・四・三〇	昭二九・四・三〇	南太田小学校長より就任、都岡小学校長へ転任。
五	小林　鶴蔵	昭二九・五・一		神奈川県教育委員会指導主事より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
大一三	一四	七三九（一二）	一四七	—	九七	—
昭二	二〇	九四八（一七）	一六二	五八	一一一	五二
昭五	二四	一、二九三（二一）	一七八	一〇五	一三六	五七
昭一〇	三二	一、八四四（三〇）	二七八	一八六	二一一	一六〇
昭一五	三八	二、一七二（三六）	三三〇	一六九	二九四	一四一
昭一六	二八	一、五〇八（二六）	二八七	—	二一三	岸谷国民学校設置のため尋常科の一部と高等科全部移る。
昭一八	三四	一、九七五（三一）	三二八	—	二八八	—

昭二〇	二五	六六三（一二）	不詳	—	二五五	—
昭二二	三一	一、五一三（二九）	三一九	—	二七一	—
昭二五	四一	一、八九八（三六）	三八七	—	二四一	—
昭三〇	四七	二、一八八（四二）	四二六	—	三五三	—

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
生麦小学校教育後援会	大一四・六・二六	「生麦小学校教育会」として発足、昭和六年改称
生麦小学校ＰＴＡ	昭二三・二・二四	

一〇、そ　の　他

昭一九・八・一一　神奈川県足柄上郡中井村泰翁寺、広翁院、米倉寺、大泉寺、玄張寺、清岩寺へ集団疎開、教員一六名、児童四一三名、残留組は岸谷小学校の四教室を借用したが、当時の戦況下では無理であったので学区内の石綿貫寿氏宅と鶴見区役所の地区事務所の二ヵ所で一、二年の授業を行った。登校した児童は三〇名足らずであった。昭和二〇年一〇月二七日、疎開を完了し引き揚げる。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一四・七・一六	プール		昭和一四年六月三日着工、同年七月一六日完工、経費八、九五五円、長さ二五メートル、幅一〇メートル、深さ一メートル
昭二二・一・不詳	給食調理場	一二坪	給食開始につき設置二六年四月、四・五坪程拡張、二八年八月パン置場（六坪）を新たに設置した。

横浜市立豊岡小学校

横浜市鶴見区鶴見町三八四番地
電話鶴見(5)二一三〇番

一、設置状況

1　創立　大正一二年二月一二日
2　開校　大正一三年七月一〇日
3　設置の概況

鶴見の海岸方面が埋立され、それにつれて工場地帯として急激な発展をし山手方面も住宅が増加し、今迄の鶴見尋常高等小学校だけでは児童収容困難となり、鶴見町では同時に二校新設が可決され、大正一二年六月に現在の位置へ校舎の基礎工事が始められたが同年九月一日の大地震で基礎工事の一部が破壊されたので、更に修理し建築工事に着手、大正一三年六月三〇日に落成した。同年六月一四日、鶴見尋常小学校同生麦尋常小学校、鶴見尋常高等小学校の三校分校式を行った。

二、校名の変遷

大一二・二・一二	橘樹郡鶴見尋常小学校	
大一四・四・一	橘樹郡豊岡尋常小学校	現在地の字名をとり校名改称
昭二・四・一	横浜市豊岡尋常高等小学校	横浜市に編入され、同時に高等科が併置されたため
昭一一・四・一	横浜市豊岡尋常小学校	高等科廃止により校名変更
昭一六・四・一	横浜市豊岡国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立豊岡小学校	

三、位置（校地）の変遷

大一二・二・一二	橘樹郡鶴見町三四五番地　外三二筆	三、〇二七坪を池貝鉄工場より購入
昭五・三・六	横浜市鶴見区鶴見町三八四番地	地番改正
昭五・七・五	二、九八八坪	市有地となつたので実測の結果三九坪減少

総坪数　二、九八八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一三・五・三〇	新築	木造二階建	五六九	・教室一三
昭二・一・八	増築	木造二階建	四一三	・教室一二
昭九・一・一〇	増築	木造二階建	一八四	・教室六
昭九・一・一〇	新築	木造平屋建	一二〇	・講堂

総坪数　一、三一〇・五坪（教室三一、その他六室）

五、併設、分離状況

大一五・六・一	豊岡青年訓練所を併設
昭六・一・一〇	芦穂崎小学校が新設されたので教職員六名、児童五一二名が分離
昭一〇・一〇・一	豊岡青年学校を併設
昭二〇・四・一五	芦穂崎国民学校、鶴見青年学校を戦災のため併設
昭二一・三・三一	鶴見青年学校は生麦青年学校へ統合
昭二二・四・一	豊岡中学校を併設
昭二三・一〇・一九	芦穂崎小学校は新校舎が落成したので分離
昭二五・七・一五	豊岡中学校は新校舎が落成したので分離

六、学区及びその変遷

大一三・四・一	鶴見全域、東寺尾町字寺谷
昭二・一・一〇	芦穂崎小学校新設により鶴見町のうち、上・中・下町を減じ鶴見町の大半と東寺尾字寺谷とする。但し、高等科はそのまま豊岡小学校の区域とする。
昭二一・四・一	鶴見町の大半と（鉄道線路より山手側）と東寺尾町寺谷

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	岩田孝一	大一二・八・一五	昭一〇・一・二九	病気のため退職
二	永島才司	昭一〇・一・二九	昭一九・六・三〇	吉田尋常高等小学校訓導より就任、元街国民学校長へ転任
三	渡辺末雄	昭一九・六・三〇	昭二二・四・三〇	戸部国民学校訓導より就任、生麦中学校長へ転任
四	内藤清治	昭二二・四・三〇	昭三〇・二・一	高座郡茅ケ崎小学校長より就任、退職
五	上原連	昭三〇・二・二		豊田小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
大一三	一四	八二一（一三）	一九二	—	九九	—
昭二	三一	一、五七三（二八）	三三六	一三五	一六七	四九
昭五	二八	一、四二〇（二四）	三二四	二〇五	二二六	八五
昭一〇	三四	二、〇七八（三三）	二八三	不詳	二三五	一八七
昭一五	三二	一、八二八（三一）	三二八	—	二九七	—
昭一八	三四	一、八七〇（三二）	三三〇	—	三〇九	—
昭二〇	二三	三七九（一一）	一一七	—	一七九	—
昭二二	三二	一、六〇六（二九）	二九八	—	二五七	—
昭二五	四三	二、〇七七（三八）	四二六	—	二二八	—
昭三〇	五〇	二、三四八（四五）	四三〇	—	四〇三	—

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
豊岡小学校後援会	大一四・一一・一〇	会員二、六八五名

豊岡小学校父兄と先生の会　昭二二・四・一　会員二、九六三名

一〇、その他

昭七・二・二三	横浜教育研究会指定修身研究発表会
昭一四・六・二八	県指定地理研究発表会
昭一七・五・九	県指定軍事援護教育研究指定校
昭一八・一〇・二一	県指定軍事援護教育研究発表会
昭一九・七・一五	足柄上郡岡本村へ教職員、寮母四二名、児童五〇五名集団疎開、岡本村小学校を中心に六ヶ所に分宿、教室八を借用して授業を行う。
昭二八・一〇・二三	学校視覚教育全国大会を本校会場として行つた。参会者二千数百名、一一学級の授業を行う。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・六・一五	給食調理室	二五

横浜市立鶴見小学校

横浜市鶴見区鶴見町一二〇四番地
電話鶴見(5)二八〇六番

一、設置状況

1 創立　昭和六年一月一〇日
2 開校　昭和六年一月一〇日
3 設置の際の概況

鶴見町の児童数の増加に伴い、豊岡尋常高等小学校の児童のうち、鶴見町の上町・仲町・下町居住の児童五一二名を分離して横浜市芦穂崎尋常小学校が創立された。尚、開校記念日は第二期工事により、全校舎の竣工、落成式を行つた同年一一月一八日としている。

二、校名の変遷

昭六・一・一〇	横浜市芦穂崎尋常小学校	
昭一六・四・一	横浜市芦穂崎国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立芦穂崎小学校	
昭二八・六・一	横浜市立鶴見小学校	行政町名をとつて校名改称

三、位置（校地）の変遷

昭六・一・一〇	鶴見区鶴見町一二〇四番地	二、五四四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭六・一・一〇	新築	木造二階建	五三七	
昭六・一〇・二一	新築	木造平屋	不詳	・講堂
昭二〇・四・一五	罹災			・空襲により全焼
昭二〇・一〇・一〇	借用			・豊岡国民学校に併設される。二三年一一月一九日まで
昭二三・一一・一九	新築	木造二階建	五〇一	・教室一五
昭二三・一一・一九	貸与			・豊岡中学校に教室二貸与、二六年四月一日移転
昭二七・五・一九	増築	木造二階建	七五	・教室二
昭二九・四・五	増築	木造二階建	五一	・教室二

総坪数　七四六・五坪（教室一九、その他四）

五、学区及びその変遷

昭六・一・一〇　横浜市鶴見区鶴見町の仲町・上町・下二、下三町の全部（国鉄線路以東）

昭　六・三・三一	通学上便利のため鶴見区生麦町の中北町、仲町及び平安町、菅沢町の児童を学区に編入する。
昭一二・七・三一	平安尋常小学校新設のため平安町、菅沢町分離
昭一七・三・三一	生麦町の学区統一のため生麦町北町（北部・中部地区）を生麦小学校へ分離する。

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	和田 佐助	昭　五・一二・二三	昭一六・九・二八	幸ヶ谷国民学校長へ転任
二	三浦 幹雄	昭一六・九・二九	昭二一・二・一九	西戸部国民学校長より就任、退職
三	南雲 正策	昭二一・二・二〇	昭二二・九・一一	宮田国民学校長より就任、鶴見区教育課長兼横浜市視学へ転任
四	青木 常雄	昭二二・九・三〇	昭二四・四・一四	西前小学校副校長より就任、退職
五	山口 義雄	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	川和小学校長より就任、三ッ沢小学校長へ転任
六	鈴木 良助	昭三一・九・一		新田小学校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭　六	不詳	五一二（不詳）	不詳	―
昭一〇	一二	三八二（不詳）	不詳	不詳
昭一五	三〇	一、五一五（二六）	不詳	不詳
昭一八	三一	一、五二九（二六）	不詳	不詳
昭二〇	一二	四二二（一〇）	不詳	八〇
昭二二	一九	五四八（一〇）	不詳	一一八
昭二五	二〇	九八二（一八）	二〇九	一一九
昭三〇	二六	一、一三七（二三）	二一三	一九二

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
芦穂崎小学校建設委員会	昭二三・不詳	戦災で焼失した校舎建設のため、昭和二四年二月校舎落成につき解散
芦穂崎小学校母の会	昭二四・不詳	P・T・Aに発展解散
芦穂崎小学校後援会	昭二四・不詳	P・T・Aに発展解散、
鶴見小学校PTA	昭二七・二・一六	会員一、二〇九名
鶴見小学校図書館建設委員会	昭二八・不詳	学校図書館設立のため、三〇年一月二八日図書館落成につき解散

九、その他

昭一九・八・八　神奈川県足柄上郡南足柄町関本四〇〇番地へ児童疎開、南足柄小学校、外五ヶ所へ宿泊、教職員一五名、児童二六〇名（三年以上）で残留職員一一名、児童（一・二年）約三〇〇名であった。昭和二〇年一一月一日復帰

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・七・一一	プール	七五	板沢亀吉氏寄贈　二五米×一〇米×一米
昭二九・一二・一〇	学校図書館	七六	蔵書数三、一八八冊

横浜市立潮（うしお）田（だ）小学校

横浜市鶴見区向井町三丁目一六〇番地
電話鶴見(5)二一二九番

一、設置状況

1 創立　明治二六年四月一日
2 開校　明治二六年四月一日
3 廃校　明治四五年四月八日

4　復活　大正八年五月十五日

5　設置の際の概況

現在の横浜市立潮田小学校は大正八年五月十五日、当時の橘樹郡町田村町田尋常高等小学校より分離独立して、橘樹郡町田村第二町田尋常高等小学校として開校した。しかし、それ以前の教育道場として明治六年の学制頒布以来、学舎、独立校、分教場と形は種々に変つたが綿々と続いて本地域の教育の中心をなした本校の前身ともいうべきものがある。学制の頒布以前には大聖寺（現在の鶴見保健所前）に於て寺小屋授業を行つていたが明治六年六月六日真明学舎（後の市場小）が発足し明治二六年四月一日に市場小学校より潮田小学校として独立した。これを以つて本校の創立としたが、明治四五年四月十八日に一村一校となつたため、潮田・矢向の二校は町田小学校へ合併され、同校の分教場となつた。

その後、潮田方面の発展により児童数が増加し独立校として、大正八年五月十五日再度開校した。

二、校名の変遷

明二六・四・一	潮田小学校	
明四五・四・一八	橘樹郡町田小学校潮田分教場	
大八・五・一五	橘樹郡町田村第二町田尋常高等小学校	
大一二・四・一	橘樹郡潮田尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市潮田尋常高等小学校	市編入のため
昭一〇・一一・一	横浜市潮田尋常小学校	高等科の鶴見高等小学校へ分離のため
昭一六・四・一	横浜市立潮田国民学校	
昭一八・一〇・一九	横浜市立西潮田国民学校	東西両潮田国民学校に分離のため校名改称
昭二一・四・一	横浜市立潮田国民学校	西潮田国民学校に東潮田国民学校併合のため校名改称
昭二二・四・一	横浜市立潮田小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二六・四・一	詳細不明であるが現在地より潮田公園寄りにあつたらしい。	
大八・五・一五	横浜市鶴見区向井町三ノ一六〇	二、七八九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二六・不詳	不詳	不詳	不詳	・詳細不明
大八・不詳	新築	木造平屋建	不詳	・詳細不明
昭二〇・四・一五	罹災			・戦災により全校焼失
昭二〇・一〇・二六	借用			・下野谷小学校に於いて授業を行う。（昭和二二年十月三十一日迄）
昭二二・一一・一	新築	木造平屋建	一四四	・教室五
昭二三・七・二〇	増築	木造二階建	二一六	・教室四、職員室、医務室、当直室
昭二四・六・三〇	新築	鉄骨木造平屋	四二	・教室三、P・T・Aにより建築、教室に代用、市に寄付
昭二五・四・五	増築	木造二階建	一三一	・教室四
昭二六・四・五	増築	木造二階建	一三六	・教室四
昭二七・四・二	増築	木造二階建	一八七	・教室六
昭二八・二・一八	増築	木造二階建	五三	・教室二
昭二九・四・二	増築	木造二階建	七八	・教室二
昭二九・四・一四	改築・移転	鉄骨木造建	四二	・代用教室として使用していたが、十二坪を物置として他を鶴見工業に移築
昭三〇・三・二四	増築	木造二階建	五二	・教室二

総坪数　一、〇五〇・三坪（教室二九、その他七）

五、分離・併設状況

大一五・不詳	青年訓練所併設
昭一〇・四・一	青年学校と改称
昭二二・三・三一	青年学校廃止

六、学区及びその変遷

昭二七・六・一〇　向井町一、二、三、四丁目、潮田町二、三　四丁目、仲通二丁目、大東町、朝日町二丁目、栄町一、二、三丁目

（当初は現市場小学校、生麦小学校と学区を接し広範囲の潮田全域であつたが、大正一五年四月下野谷小学校、昭和三年八月浜町小学校、昭和一二年一〇月平安小学校の開校により、それぞれその周辺を分離、戦後平安小学校の一時休校により栄町の全域を学区にふくめたが、昭和二七年六月平安小学校の開校により栄町の一、二、三丁目を残し分離した。）

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中島　義雄	大　八・三・三一	大一一・三・三一	町田小学校長より就任、退職。
二	山田　武臣	大一一・三・三一	昭　六・四・三〇	第一町田小学校より就任、退職。
三	西島健太郎	昭　六・四・三〇	昭一六・四・三〇	市役所人事係長より就任、退職。
四	原　嘉市	昭一六・五・　六	昭一九・三・二六	平楽国民学校より就任、吉田国民学校長へ転任。
五	上杉　定礎	昭一九・五・二〇	昭二一・二・二〇	栗田谷国民学校より就任、旭国民学校長へ転任。
六	鈴木　豊平	昭二一・二・二〇	昭二九・四・三〇	東潮田国民学校長より就任、石川小学校長へ転任。
七	小林錠太郎	昭二九・五・　一		幸ケ谷小学校長より就任。

八、児童・教育員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
大一四	四六	不詳	不詳	不詳
昭二〇	一四	五一一（一二）	六一	八〇
昭二二	一五	六七一（一三）	一三八	一二八
昭二五	二七	一、二七八（二三）	二七九	一六六
昭三〇	三八	一、七四五（三五）	三一六	二九五

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
潮田小学校愛育会	昭二二・四・一	会員二、一五三名

一〇、その他

昭一九・八・九	児童疎開、西潮田校、足柄上郡清水村、教職員九名、児童二一〇名、残留者一〇九名 東潮田校、足柄上郡金田村、教職員一九、児童二四四名
昭二〇・一〇・二六	疎開児童引揚げ
昭二六・一一・二〇	戦後第一回体育研究発表会
昭二九・一〇・二六	体育研究指定校として研究発表会

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・六・二〇	給食調理室	二〇
昭二六・七・一	図書室	一八
昭二八・五・九	国旗掲揚塔	一
昭三〇・三・一五	禽舎	一

横浜市立下（した）野（の）谷（や）小学校

横浜市鶴見区下野谷町二丁目四九番地
電話鶴見(5)二三一二番

一、設置状況

1　創立　大正一四年三月三一日

2　開校　大正一五年九月　二日

潮田町一円の就学児童数が激増したため新設校の必要が認められ、潮田町下野谷に橘樹郡々令第二号を以つて指定され、潮田尋常小学校より児童九一一名、職員一九名が分離、創立された。

二、校名の変遷

大一四・三・三一	橘樹郡下野谷尋常高等小学校	
昭　二・四・一	横浜市下野谷尋常高等小学校	横浜市に編入されたため
昭一五・四・一	横浜市下野谷尋常小学校	鶴見高等小学校へ高等科分離のため
昭一六・四・一	横浜市下野谷国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立下野谷小学校	

三位置（校地）の変遷

大一四・四・不詳	橘樹郡鶴見町潮田町第一四五五番地外一六筆	三、七五六坪	
昭　二・四・一	横浜市鶴見区下野谷町二丁目四九番地	三、七六二坪	町名地番の改正

総坪数　三、七六二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一五・七・八	新築	木造二階建	九七七	・教室一九、職員室、講堂、理科室、作業員室、物置、便所
昭　五・一〇・二六	増築	木造二階建	二〇一	・教室六
昭　九・四・三〇	増築	木造二階建	二六四	・教室九
昭一八・一一・一二	増築	木造平屋	一七三	・教室六

総坪数　本校、一六一五坪（教室三九、その他五）分校三八〇坪（教室七、その他七）

五、分校、分教場の設置廃止状況

昭二四・一一・一一	小野分校を鶴見区小野町一〇に設置（別記）
昭二九・四・三〇	汐入分校を鶴見区汐入町二の八五に設置、校舎坪数三八〇、教室三、児童数三一〇名
昭二九・一一・一六	汐入分校、昭和三一年八月二三日に教室三を増築、児童三五〇名

六、併設分離状況

昭　八・四・一	下野谷工業専修学校を併設
昭一一・四・一	下野谷工業専修青年学校と改称
昭一四・四・一	下野谷青年学校と改称
昭一九・一〇・一五	戦災により校舎焼失のため浜町国民学校を併設
昭二〇・一〇・二六	戦災により校舎焼失のため潮田国民学校を併設
昭二〇・一二・一五	鶴見朝鮮学院を併設
昭二〇・一二・一五	戦災により校舎焼失のため鶴見国民学校を併設
昭二一・一・三一	浜町国民学校鶴見国民学校は休校となり、下野谷小学校に統合
昭二三・二・一	潮田小学校の新校舎が完成したので移転
昭二三・四・一	潮田中学校を併設
昭二三・一〇・不詳	鶴見朝鮮学院は小野町の新校舎へ移転
昭二五・九・二五	潮田中学校の新校舎が完成したので移転

七、学区及びその変遷

大一五・九・二	橘樹郡鶴見町、汐田町本町一―三丁目、入宮町、小野町、南仲通一・二丁目、汐入町、南町
昭　二・四・一	横浜市鶴見区本町通り一―四丁目、汐田一丁目、仲通町一丁目、下野谷一―四丁目、小野町、末広町二丁目
昭二一・一・三一	浜町国民学校統合による前記学区にその区域を追加する。
昭二五・四・一	入舟小（旧浜町国民学校）が分離のため次の区域となる。横浜市鶴見区本町通一―四丁目、汐田一丁目、仲通一丁目、小野町、汐入町一丁目、下野谷一―四丁目、末広町一丁目

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	八木寿三郎	大一五・七・一	昭　六・九・二〇	死亡退職。

二	佐藤　緑	昭　六・一一・一〇	昭一三・　八・三〇	幸ヶ谷小学校長へ転任。
三	佐藤　忠一	昭一三・　八・三一	昭二一・　二・一九	老松小学校教頭より就任、退職。
四	八木時次郎	昭二一・　二・二〇	昭二三・　四・二九	市場小学校長より就任、旭小学校長へ転任。
五	中田　仁平	昭二三・　四・三〇	昭三一・　八・三一	根岸小学校長より就任、退転。
六	西島　万雄	昭三一・　九・　一		峯小学校長より就任。

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者		
			尋常科	高等科	尋常科	高等科	
大一五	二一	九二五（一八）	不詳	不詳	不詳	—	
昭二	二四	一、〇四八（二〇）	一八九	八〇	一一六	五三	
昭五	二八	一、五七八（二六）	二五五	二五	一五九	九五	
昭一〇	三九	二、一七〇（三八）	二四五	一三五	二四三	一三〇	
昭一五	五〇	二、七五二（四七）	三四〇	—	三四二	—	高等科分離
昭一八	四五	二、五一三（四三）	三九六	—	三九八	—	
昭二〇	二〇	一、三九四（二五）	二一七	二五六	二〇八	一二〇	鶴見高小統合
昭二二	三四	二、五一七（三八）	五一〇	—	三五二	—	
昭二五	五四	二、五〇二（四七）	五二三	—	二八四	—	
昭三〇	六一	二、八四〇（四八）	五九〇	—	四八六	—	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
下野谷小学校愛育会	昭二三・　二・一三	二四年四月五日にPTAに事務引継ぎ発展的に解消
下野谷小学校PTA	昭二四・　四・　五	会員二、五〇〇名
汐入分校建設促進委員会	昭二八・　五・　一	汐入分校の建設設備を充実、会員四、五〇〇名、資金約二三〇万円を集め、目的を達成し昭和三〇年度末をもつて解散

一一、その他

昭一九・八・七　神奈川県足柄上郡南足柄町大雄山最乗寺、大和屋旅館、岩下旅館、浦山会館へ児童疎開、教職員二一名、児童七〇〇名・残留児童四五〇名

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・一〇・不詳	給食調理室	二二	PTA費用で増築
昭二七・一二・二四	学校図書館		蔵書数約三千冊

横浜市立下野谷小学校小野（おの）分校

横浜市鶴見区小野町一〇番地
電話鶴見(5)四二六九番

一、設置状況

1　創立　昭和二四年一一月一一日

2　開校　昭和二四年一一月一一日

3　設置の際の概況

終戦後、朝鮮人はその子弟を集め鶴見朝鮮学院と称し、児童数六五、教師三名にて横浜市立下野谷小学校を借用して民族教育と称する教育をした。その後、次第に児童数も増加し下野谷小学校よりも立のきをせまられ、二二年一〇月、鶴見区小野町一〇番地に校舎を建設し、朝鮮人初等学校として開校した。しかし二四年一〇月一九日、政府指令により朝鮮人学校は閉鎖され、その財産は接収された。朝鮮人子弟は教育基本法及び学校教育法により公立学校に就学することになり接収建物の許可を得て、分校設置をなし、集団的に収容教育を授けるため、昭和二四年一一月一一日、横浜市立下野谷小学校分校として開校した。

二、校名の変遷

昭二〇・一二・一五	鶴見朝鮮学院
昭二三・一〇・不詳	朝鮮人初等学校
昭二四・一一・一一	下野谷小学校小野分校

三校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二四・一一・不詳	新築	木造平屋建	一七四・	・教室一〇、建設当初、朝鮮人が資材を出し合つて建設した校舎であつてバラック式仮校舎に過ぎない。

四、学区及びその変遷

昭二四・一一・一一　横浜市鶴見区に居住する朝鮮人を対象とする。

五、歴代分校長（下野谷小学校副校長）

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	斉藤止女男	昭二四・一一・一一	昭二六・九・一	永野小学校長へ転任。
二	富岡律郎	昭二六・九・一	昭三二・四・三〇	生麦中学校より就任、退職。
三	大下德義	昭三二・五・一		

六、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数	入学者	卒業者
昭二五	八	一九七	三〇	三二
昭三〇	八	二〇五	五二	二五

七、学校協力団体

団体名	発足年月日
在日朝鮮人総聯合鶴見支部	昭三〇・不詳
在日朝鮮民主女性同盟鶴見支部	昭三〇・不詳
在日朝鮮青年同盟鶴見支部	昭三〇・不詳
鶴見朝鮮人小学校ＰＴＡ	昭二四・一一・一一

横浜市立市場（いちば）小学校

横浜市鶴見区市場町六七九番地
電話鶴見(5)二一〇七番

一、設置状況

１　創立　明治六年六月六日

２　開校　明治六年六月六日

３　設置の際の概況

神奈川県橘樹郡市場村の一家屋（梶木か津）の一室を借り受け真明学舎と称し、同郡市場村、菅沢村を学区として開校した、

二、校名の変遷

明六・六・六	第一大学区第七中学区一三三番、小学真明学舎	
明八・六・二九	市場学校	
明一二・九・一〇	小学市場学校	
明一四・四・五	橘樹郡町田村立市場学校	
明二五・四・一	橘樹郡町田村立尋常高等市場小学校	
明四二・二・一〇	橘樹郡町田村立尋常町田小学校	
明四三・三・三一	橘樹郡町田村立尋常高等町田小学校	高等科を併置
大八・四・一	町田村立尋常高等第一町田小学校	

大一二・四・一	潮田町立尋常高等市場小学校	町田村は町制施行で潮田町となる
大一四・四・一	鶴見町立市場尋常高等小学校	潮田町は鶴見町と併合のため校名改称
昭二・四・一	横浜市市場尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市市場国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立市場小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・六・六	橘樹郡市場村	六〇坪熊野神社境内
明一二・九・一〇	同右	
明三九・一二・一〇	橘樹郡町田村市場四八六番地	一、〇九〇坪
明四五・四・一八	橘樹郡町田村潮田二〇七四番地	三六三坪潮田分教場敷地
明四五・四・一八	橘樹郡町田村矢向五二一番地	一九三坪矢向分教場敷地
大一四・七・二〇	橘樹郡鶴見町市場六七九番地	三、九六二坪校地変更
昭二・四・一	横浜市鶴見区市場町六七九番地	三、九六二坪横浜市編入

総坪数　三、九六二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・六・六	借用	木造平屋	不詳	・梶木か津氏宅
明一二・九・一〇	新築	木造平屋	不詳	・熊野神社境内に建立
明三九・一二・一〇	新築	木造平屋	不詳	・教室七
大三・八・一五	増築	木造平屋	四五〇	・教室四
大一二・九・一	倒潰			・関東大震災により全校舎倒潰
大一四・七・二〇	新築	木造平屋	不詳	・教室十六
昭七・一・一〇	増築	木造平屋	不詳	・教室四
和一一・四・一五	増築	木造二階	不詳	・教室五
昭一五・六・一七	増築	木造二階	不詳	・教室四
昭二二・五・一	貸与			・市場中学校へ教室一〇、昭和二四年六月迄

総坪数　一、六六一坪（教室三一、その他九）

五、分教場の設置廃止状況

明四五・四・一八　町田村立尋常高等町田小学校潮田分教場を町田村潮田二〇七四番地に設置、校舎坪数一七八坪、教室三、児童一五五名

明四五・四・一八　町田村立尋常高等町田小学校矢向分教場を町田村矢向五二一番地に設置、校舎坪数四九坪、教室二、児童八六名

大八・四・一　潮田分教場は人口増加のため尋常第二町田小学校として独立した。

大九・四・一　矢向分教場は廃止となり本校に併合

六、統併合・分離・併設状況

明四五・四・一八	尋常潮田小学校を併合、児童数一五五名
明四五・四・一八	尋常矢向小学校を併合、児童数八六名
大八・四・一	人口増加により尋常潮田小学校を分離
大九・四・一	尋常高等潮田小学校併設、高等科を分離
大一五・六・三〇	鶴見町立市場青年訓練所併設
昭一〇・四・一	横浜市立市場青年学校併設、（昭和二一年二月一日豊岡青年学校に統合）
昭一九・四・一	矢向国民学校独立し分離
昭二一・一・一九	校舎戦災焼失のため、鶴見国民学校は廃校となり本校に統合
昭二一・一・一九	校舎戦災焼失のため、平安国民学校休校となり本校に併合す。
昭二七・六・一〇	平安小学校舎新築し本校より分離

七、学区及びその変遷

明六・六・六　橘樹郡市場村、菅沢村全部

明四五・四・一八	橘樹郡町田村市場、菅沢、潮田、矢向、江ヶ崎、平安（潮田小・矢向小を併合のため）
大八・四・一	橘樹郡町田村市場、菅沢、矢向、江ヶ崎、平安（潮田小独立分離）
大一四・七・二〇	鶴見町市場、菅沢、矢向、江ヶ崎、平安（潮田町は鶴見町と合併）
昭一九・四・一	鶴見区市場町全域（矢向小独立分離）
昭二一・一・一九	鶴見区市場町、菅沢町、平安町、栄町四—五丁目（鶴見国民学校平安国民学校の統合）
昭二七・六・一〇	鶴見区市場町（富士見を除く）の全域（平安小独立分離）

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	梶木 辰三	明 六・六・六	明一一・一二・二五	退職。
二	荒木 義諦	明一二・一・一〇	明一四・四・五	退職。
三	北島 吉蔵	明一四・四・五	明二六・一一・二三	退職。
四	片山 勇吉	明二六・一二・不詳	明二七・三・不詳	不詳
五	本多 恵学	明二七・四・不詳	明二九・七・不詳	不詳
六	森田 政吉	明二九・八・不詳	明四二・一〇・一一	市場小学校訓導より就任、退職。
七	小田倉謙太郎	明四二・一〇・一二	大 元・一〇・二七	大綱小学校長より就任、転任。
八	中島 義雄	大 元・一〇・二八	大 八・三・三一	東京より就任、退職。
九	武 進太郎	大 八・五・一四	大 九・九・一六	橘樹郡視学より就任、退職。
一〇	山田 武臣	大 九・九・二一	大一一・三・三一	津久井郡視学より就任、潮田小学校長へ転任。
一一	久保田順作	大一一・四・五	昭 四・四・三〇	神奈川県農務課より就任、退職。
一二	佐藤 緑	昭 四・四・三〇	昭 六・一一・一〇	市場小学校首席訓導より就任、下野谷小学校長へ転任。
一三	田中 銀蔵	昭 六・一一・一〇	昭一九・六・二一	幸ヶ谷小学校首席訓導より就任、退職。
一四	八木時次郎	昭一九・六・二二	昭二一・二・二〇	星川国民学校長より就任、下野谷国民学校長へ転任。
一五	小島 睲治	昭二一・二・二〇	昭二五・六・一	下野谷国民学校教頭より就任、高座郡渋谷村小学校長へ転任。
一六	島村志計雄	昭二五・六・一	昭三〇・五・三一	鎌倉郡玉縄小学校長より就任、大綱小学校長へ転任。
一七	北村嘉代吉	昭三〇・六・一	昭三一・八・三一	保土ヶ谷小学校長より就任、退職。
一八	加藤 英男	昭三一・九・一		市場小学校副校長より就任。

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	・卒業者
明 六	一	不詳（一）	不詳	—
大 元	一三	五七八（一一）	不詳	八二
大 八	一二	五二三（一〇）	不詳	一〇七
大 九	一二	四五七（一〇）	不詳	八五
大一〇	一四	四九一（一一）	不詳	八三
昭 二	二〇	七九八（一六）	一七八	一三九
昭 五	二一	一、一七五（一九）	二九七	一六六
昭一八	四三	二、五六七（四〇）	不詳	四三七
昭一九	二九	一、三五五（二七）	不詳	二四八
昭二三	三三	一、七三四（三〇）	不詳	二三九
昭二五	四四	二、〇四四（三八）	不詳	二四二
昭二七	三六	一、七〇二（三四）	二八一	三五九
昭三〇	三九	一、八三〇（三四）	三六八	二九七

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
市場小学校子供のための会	昭二三・四・一	ＰＴＡに発展解消
市場小学校ＰＴＡ	昭二四・四・一六	会員一、四〇〇名

一一、その他

昭一九・八・八　足柄上郡南足柄町へ学童疎開、教職員一二、寮母七、作業員七、児童初三年以上二七三名、縁故五五二名

昭二〇・一〇・二九　復帰

昭二七・一〇・ 六	神奈川県統計協会より統計協力学校の指定を受ける。
昭二九・ 五・不詳	学校図書館研究学校の指定を受ける。
昭三〇・ 三・一七	学校図書館コンクールに於いて施設経営優秀なので入賞した。（県市教育委員会）
昭三〇・一一・ 三	神奈川県学校新聞コンクール入賞

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一六・ 七・不詳	プール兼防火用水溜		
昭一九・ 四・ 五	給食場	一四	
昭二六・一二・二五	倉庫	四	
昭二七・一〇・ 六	図書室	二〇	蔵書数二、八三一冊
昭二八・ 八・ 三	プール	一七五平方米	長さ二五米、幅七米、深さ一米

横浜市立平安（へいあん）小学校

横浜市鶴見区平安町二丁目八番地ノ三
電話 鶴見 (5) 四二四四番

一、設置状況

1 創立 昭和一二年一〇月一三日
2 開校 昭和一二年一〇月一三日
3 廃校 昭和二二年 三 月三一日 戦災により校舎焼失のため
4 復活 昭和二七年 六 月 一 日

5 設置の際の概況

平安尋常小学校は人口増加に伴い、学区を栄町一、二、三、四丁目、菅沢町、富士見町、平安一、二丁目として現在地に昭和一二年一〇月一三日創設され、市場、潮田、芦穂崎（現在の鶴見小学校）の各小学校に通学中の五年以下の児童九〇〇名を収容して開校した。

昭和二〇年四月一五日、太平洋戦争の戦災は熾烈をきわめ、ついに空襲により全校舎を焼失した。まもなく戦争は終つたが学区内の住民は地方転出により人口はいちじるしく減少、しかも諸物資の不足により校舎再建の見通しもつかなかつたため、昭和二一年一月一九日本校学区は市場国民学校に併合され、休校の措置がとられた。あけて二二年三月三一日ついに廃校と決定された。

学区内住民も漸次復帰し、更に新しく転入するものも増え、児童数も増加したので、地元民に再建の要望が起り、昭和二五年五月平安小学校復興促進会が結成され、再建の運動が強力に展開されることとなつた。積立貯金の励行など再建費用の捻出にあたるとともに校地を拡張、校舎建設に奔走し、市教委はじめ関係各方面の理解ある協力を得て昭和二七年六月一日、ここに横浜市立平安小学校として再出発できたのである。

二、校名の変遷

昭一二・一〇・一三	横浜市平安尋常小学校
昭一六・ 四・ 一	横浜市平安国民学校
昭二一・ 一・一九	市場国民学校に統合され休校となつた。
昭二七・ 六・ 一	横浜市立平安小学校

三、位置（校地）の変遷

昭一二・一〇・一三	横浜市鶴見区平安町二ノ八番地	三、一四三坪	市有地
昭二五・ 六・ 七	同	一〇五坪	敷地の西側道路沿の私有地を買取

総坪数 三、二四八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一二・一〇・ 一	新築	木造二階	五一六	・教室二八、講堂等延坪九〇八坪

昭二〇・四・一五	罹災	木造二階	五一六	・戦災により全部焼失
昭二七・六・一	新築	木造二階	一三三	・教室一〇
昭二七・六・一	新築	木造平家	四九	
昭二八・四・一一	増築	木造二階	七〇	・教室二
昭二九・四・一二	増築	木造二階	五四	・教室三
昭三一・八・二	増築	木造二階	七八	・教室六

総坪数　七八七坪（教室二一、その他八）

五、統併合状況

昭二一・一・一九　戦災により市場国民学校に併合、児童数二〇〇

六、学区及びその変遷

昭一三・一〇・一　平安町一・二丁目、市場町（国道以南）菅沢町、栄町一・二・三・四丁目

昭二七・六・一　平安町一・二丁目、市場町（富士見町）菅沢町、栄町三・四丁目

旧学区であつた栄町一・二丁目は隣接潮田校の学区に変更

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	内藤　清治	昭一二・七・三一	昭一六・五・二一	神奈川県視学へ転任。
二	鈴木　直吉	昭一六・五・二三	昭二二・三・三一	平安国民学校教頭より就任、青木中学校長へ転任。
新一	小梨　治作	昭二七・六・一		石川小学校副校長より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭一二	二〇	九〇〇（一六）	一五〇	—	創立年度五年生まで
昭一五	二六	一、二六〇（二四）	二一〇	二一四	
昭一八	二六	一、三一二（二四）	二一五	二五二	
昭二七	一五	六二九（一三）	九六	—	創立年度五年生まで
昭三〇	二五	一、〇九〇（二二）	二六一	一八〇	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
平安小学校復興促進会	昭二五・五・一	地元民が開校を促進するために結成したもの、会員五〇〇名、昭和二七年七月一五日廃止
平安小学校ＰＴＡ	昭二七・七・一五	会員九四〇名
平安小学校同窓会	昭二八・一・一五	会員一、四五二名

一〇、その他

昭一九・九・二一	児童疎開、足柄上郡酒田村開成小学校、公会堂、農事事務所に分宿、教職員一三名、児童二〇〇名、なお残留職員一一、児童九〇〇名
昭三〇・一〇・一	ＮＨＫ音楽コンクール横浜市予選神奈川予選に優良校として入選
昭三〇・一二・七	生活指導に立脚した教科外活動の研究発表会開く

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・五・一一	給食調理室	一九	
昭三〇・七・三〇	プール	六〇	昭和一三年七月既設のプール修理し開設、一〇米×二五米×一米

横浜市立末吉（すえよし）小学校

横浜市鶴見区上末吉町一五四五番地
電話鶴見(5)二二四四番

一、設置状況

1　創立　明治六年四月一日

2 開校 明治 六年 不 詳
3 廃止 明治四一年三月三十一日
4 復活 昭和 四 年八月 二 六日
5 設置の際の概況

明治六年学則により第三六区七番組上末吉村に末吉学舎を創立、これが本校の前身で、明治八年末吉学校と改称した。明治八年四月一日に到り上末吉村、下末吉村二村で上末吉村八九三番地に末吉学校を建設した。

改正小学校令によって明治二十五年橘樹郡旭村立末吉尋常小学校と改称し、明治四十一年馬場、駒岡両校と共に廃校となり、旭尋常小学校の分教場となり、昭和四年再び旭小学校より独立した。

二、校名の変遷

明 六 不 詳	末吉学舎	
明 八・四・一	末吉学校	
明二二・六・一	村立末吉尋常小学校	市町村制施行により校名改称
明二五・四・一	尋常末吉小学校	
明四一・四・一	尋常高等旭小学校末吉分教場	旭小学校に統合され分教場となる
昭 二・四・一	横浜市旭尋常高等小学校末吉分教場	横浜市に編入のため改称
昭 四・八・二六	横浜市末吉尋常小学校	旭小学校より分離独立
昭一六・四・一	横浜市末吉国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立末吉小学校	

三、位置（校地）の変遷

明 八・四・一	橘樹郡上末吉村八九三番地	創立 坪数不詳
明一七・八・七	橘樹郡上末吉村九〇九番地	二三三坪、移転
昭 二・三・一〇	横浜市鶴見区上末吉町九〇九番地	移転
昭 五 不 詳	横浜市鶴見区上末吉町一五四五	一、七〇二坪、移転借用
昭 七・不詳		七九三坪 借用
昭一三・九・		六五四 借用

総坪数 三、一四〇・二二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明 六・四・一	不詳	不詳	不詳	不詳
明一〇・四・一	新築	不詳	不詳	不詳
明一七・八・七	新築	木造二階 わらぶき	四四	
昭 二・三・一〇	新築	木造平屋	一七三	・教室四、上末吉町一五四五番地に新築移転
昭 四・九・一	増築	木造平屋	一一二	・教室四
昭 八・三・三一	増築	木造二階	九二	・教室五
昭一三・五・一	増築	木造平屋	四〇	・教室二
昭一五・四・一	増築	木造二階	六五	・教室四
昭一六・七・五	増築	木造二階	一七二	・教室一〇
昭一六・一〇・一〇	改築	木造二階	五五	・木造平屋二教室を改築し二階建教室四とした。
昭二九・七・一七	増築	木造二階	六九	・教室四
昭二九・一一・一〇	改築	木造平屋	一一二	・昭和四年建築の木造平屋教室四が老朽校舎となつたため、改造して講堂及び図書室とした。

総坪数一、二二二坪（教室三〇、その他一〇）

五、統併合・併設状況

昭一四・六・一	末吉青年学校を併設
昭一九・一・三一	末吉青年学校は豊岡青年学校に統合された。
昭二二・四・一	末吉中学校を併設

昭二四・七・一一	末吉中学校移転
昭二六・四・一	上末吉小学校設置のため児童七六九名分離
昭二七・七・一	下末吉小学校設置のため児童七五五名分離

六、学区及びその変遷

昭四・八・二六	鶴見区上末吉町、下末吉町、矢向町の内鶴見川以西、及び駒岡町の一部
昭二六・四・一	上末吉町一―一二六〇及び駒岡町を上末吉小学校分離独立により本校学区より除く。
昭二七・七・一	下末吉町のうち京浜第二国道東南部を下末吉小学校分離独立により学区より除く。

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	鈴木董藤	昭四・一〇・一	昭八・九・五	池上小学校より就任、死亡退職。
二	浅葉政五郎	昭八・九・五	昭一一・八・三一	東小学校より就任、宮谷小学校へ転任。
三	石井吉蔵	昭一一・八・三一	昭一六・四・五	立野小学校より就任、立野小学校へ転任。
四	大塚光徳	昭一六・四・五	昭一九・一一・三〇	池上小学校より就任、滝頭国民学校長へ転任。
五	古田諒	昭一九・一一・三〇	昭二〇・一二・一四	神橋国民学校より就任、死亡退職。
六	小泉作三	昭二一・二・六	昭二二・四・三〇	子安国民学校より就任、市場中学校長へ転任。
七	上杉定礎	昭二二・五・四	昭二五・一二・二	旭小学校より就任、死亡退職。
八	沼田武児	昭二六・二・一七	昭二九・四・三〇	市場小学校より就任、退職。
九	江藤正一	昭二九・五・一		平沼小学校より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
明六	不詳	不詳（不詳）	不詳	不詳	
明二二	不詳	不詳（不詳）	不詳	不詳	
大一〇	不詳	一二〇（不詳）	不詳	不詳	
大一三	不詳	一一九（不詳）	不詳	不詳	
昭二	不詳	一三二（不詳）	不詳	不詳	
昭五	八	三八二（七）	五七	三七	
昭一〇	一四	七五〇（一三）	一九一	八四	
昭一五	二四	一、四二七（二四）	二八九	一八七	
昭一八	三三	一、九四六（三一）	二七四	二七三	
昭二〇	二一	六二四（二〇）	三四七	二四六	
昭二三	四一	二、一八九（三八）	二七八	三六二	
昭二五	五八	二、九六五（五三）	三二〇	三三五	
昭二六	四七	二、六八〇（四五）	二七四	三二一	上末吉小学校分離独立
昭二七	三七	二、三七五（三二）	二四七	二七〇	下末吉小学校分離独立
昭三〇	四五	一、九四二（三八）	三七九	三〇九	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
末吉小学校ＰＴＡ	昭二三・五・二〇	会員一、三八三名

一〇、その他

昭一八・一一・一一	県指定体練科の研究会を開き準日本一の賞辞を受けた。
昭一九・八・一五	児童疎開、足柄上郡松田町松田町国民学校、延命寺、同郡上秦野村東光院、浄徳院、青年会館に教職員一九、児童三六六名
昭二〇・四・一	第二次・四月二二日、第三次・六月二五日、第四次学童疎開

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二二・一一・三〇	給食調理場	一八	昭二五、二六年に増築

昭二九・一一・一〇	図書室	二三	蔵書数一、九六三冊
昭三一・七・一六	プール		七米×二五米×一米

横浜市立上末吉（かみすえよし）小学校

横浜市鶴見区上末吉町二六番地
電話鶴見(5)三九三八番

一、設置状況

1 創立　昭和二六年四月一日
2 開校　昭和二六年四月一日
3 設置の際の概況

戦後末吉小学校の学区域には住宅が急激に増加し児童数もそれに伴って増加、多く二部授業によつて教室不足を補つていた。市教育委員会では、こうした二部授業を緩和するため昭和二四年八月、分校設置を決定し、とりあえず、寺尾方面校と仮称し敷地の選定に着手したが、候補とえらんだ敷地がいずれも交渉難航し、昭和二五年八月ようやく鶴見区上末吉町二六番地外の耕地、山林約五千坪の買収交渉成立、整地及び校舎の新築にとりかかつた。あけて昭和二六年四月一日、当初の分校設置の方針を独立校新設と決定、横浜市立上末吉小学校として創立、開校することになつた。しかし校舎は未だ建築中だつたため末吉小学校に同居し授業を開始、同年四月二〇日、新校舎落成と同時に移転した。

二、校名の変遷

昭二六・四・一　横浜市立上末吉小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二六・四・一　横浜市鶴見区上末吉町二六番地　三、〇八六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二六・四・一	借用			・新校舎未完成につき末吉小学校を四月二十日迄
昭二六・五・一	新築	木造	二一〇	・教室一〇
昭二八・一〇・二八	増築	木造	六〇	・教室二
昭二九・三・二二	増築	木造	四八	・教室四

総坪数　五七四坪（教室一六、その他四）

五、学区及びその変遷

昭二六・四・一　鶴見区上末吉町一―一二六〇（但し八七〇―九六〇・一二六〇以上、一〇六六―一〇八二、八〇九、八一〇を除く）駒岡町二二四〇―二五〇一を末吉小学校学区より分離して本校の学区とした。

昭二七・四・一　駒岡町七一〇―七一六、七六〇―九四五、一一六二―一二三九を旭小学校学区より分離本校学区に加える。

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	猪俣 昊	昭二六・四・一		港南中学校副校長より就任。

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二六	一八	八〇〇（一六）	一三〇	一〇六
昭三〇	二三	一、〇〇四（二〇）	一九二	一六八

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
上末吉小学校PTA	昭二六・四・一	会員七三〇名

上末吉小学校賛助会	昭二六・四・一	昭三〇・四・一、上末吉小学校後援会に発展解消
上末吉小学校後援会	昭三〇・四・一	

横浜市立下末吉（しもすえよし）小学校

横浜市鶴見区下末吉町七八八番地
電話鶴見(5)六四七七番

一、設置状況

1 創立　昭和二七年七月一日

2 開校　昭和二七年七月一日

3 設置の際の概況

戦後、末吉小学校の学区域内には住宅が急激に増加し、それにともない児童数も増加の一途をたどり、二部授業の学級数も次第に多くなつてきた。その上、京浜第二国道の交通頻繁のため国道以南の通学には非常な危険をともなうようになり、登校、下校の際には父兄までが応援して交通整理にあたるというような状況だつた。こうしたことから小学校新設のための促進委員会が組織され、市に対して強力に働きかけることになつた。昭和二六年七月一日、促進委員会の名で市当局に陳情書を提出。昭和二六年九月二六日、横浜市立下末吉小学校設立が決定され、同年一一月一〇日に日本ペイント所有の土地を借用、校舎敷地とされ、昭和二十七年七月一日創立された。

二、校名の変遷

昭二七・七・一　横浜市立下末吉小学校　下末吉町の町名「下末吉」をとつて決定したものである。

三、位置（校地）の変遷

昭二六・一一・一〇　横浜市鶴見区下末吉町七八八番地　三、一一九坪、私有地（日本ペイント所有）

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二七・八・一五	新築	木造二階建	三二七	・教室一二
昭二八・二・一四	増築	木造平屋建	一五	
昭二九・一・六	増築	木造二階建	二四	・教室二
昭三〇・一二・一七	増築	木造二階建	三四	・教室二

総坪数　六四五坪（教室一六、その他七）

五、学区及びその変遷

昭二七・七・一　鶴見区下末吉町の内、京浜国道南部地区、市場町九五〇―一〇〇〇、鶴見川以南の地区

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	原山　三郎	昭二七・七・一	星川小学校副校長より就任。

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二七	一六	七四三（一五）	―	一〇八
昭三〇	二〇	七六四（一八）	一三一	一五四

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
下末吉小学校PTA	昭二七・九・二三	会員五五〇名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・二・一四	給食場	一五	給食調理室及び配膳棚
昭二八・四・一	学校図書館	二八	蔵書数一、八七三冊

横浜市立旭小学校

横浜市鶴見区北寺尾町一〇六五番地
電話鶴見(5)四一三一番

一、設置状況

1 創立　明治三四年四月一八日
2 開校　明治三四年四月一八日
3 設置の際の概況

本校の創立以前、この地域に駒岡、馬場、末吉の三校が設置されていた。これらの学校は何れも尋常科の公立学校で生徒数も少なかつたようである。その後、町村合併が行われ、これ等の学区が旭村となつた。それにともない中心地に本校が創立された。創立当初は高等科のみで前記三校の高等科生徒が通学していたが、当局の要請で学校統合が計られ、本校に尋常科を設置し、駒岡・馬場の二校が廃校となり末吉学校は地元の強い要望でそのまま存続した。

二、校名の変遷

明三四・四・一八	橘樹郡旭村立高等旭小学校	
明四一・三・三一	橘樹郡尋常旭小学校	小学校令改正のため
明四一・四・一	橘樹郡尋常高等旭小学校	高等科併置のため
大一二・四・一	橘樹郡旭尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市旭尋常高等小学校	横浜市編入のため
昭一六・四・一	横浜市旭国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立旭小学校	

三、位置（校地）の変遷

明三五・五・二三	橘樹郡旭村字北寺尾一〇六一—一〇六七番地	一七〇八坪、私有地、本校校地
昭二二・九・一	横浜市鶴見区北寺尾町一〇六六番地	四〇九坪、私有地、本校々地、運動場拡張のため
昭二六・一二・八	横浜市鶴見区北寺尾町一一九二番地	二五一三坪、市有地、分校々地
昭二九・九・八	〃	三四四坪、市有地、分校々地、運動場拡張のため
昭三〇・五・一九	〃	三五坪、市有地、分校々地、プール建設用地として三菱石油会社より購入

総坪数　本校二、一一七坪　分校二、八九二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三四・四・一八	借用	木造平屋	四〇	・教室一、旭村字駒岡長松寺を借用。
明三五・五・二三	新築	木造平屋	三〇〇	・教室一〇
大五・一・一八	火災			・校舎全焼
大五・一一・二〇	借用	木造平屋		・長松寺（駒岡）光明寺（獅子ケ谷）を借用。
大六・六・二九	新築	木造平屋	三〇〇	・教室一〇
大一二・七・一	増築	木造平屋	五〇	・教室二
昭二四・二・二五	増築	木造平屋	六〇	・教室二、地下室一
昭二六・九・三	増改築	木造平屋	一一二	・給食場の増改築
昭二六・一二・八	新築	木造平屋	四二九	・教室一〇、分校設置
昭三〇・三・八	増築	木造平屋	一一九	・教室四
昭三一・四・一四	増築	木造平屋	六六	・教室二
昭三一・五・五	撤去	木造平屋	一二〇	・教室六、老朽のため取りこわし。

総坪数　本校二一〇坪（教室四、その他四）　分校六一六坪（教室一五、その他六）

五、分校の設置状況

昭二三・九・一三	校舎改修のため、橘女学校（獅子ケ谷町八八五番地）に分教場を設置、坪数五〇坪、教室二、児童八〇名
昭二三・一二・一八	右分教場を廃止

昭二五・　二・一三　教室不足のため橘女学校分教場を設置、坪数五〇坪、教室二、児童八〇名

昭二六・一二・　七　右分教場廃止

昭二六・一二・　八　本校老朽校舎と教室不足のため北寺尾分校を鶴見区北寺尾一一九二に設置、坪数六一六、教室一五、児童八一九名

六、併設状況

大　二・　八・一八　旭小学校附設女子高等裁縫補習学校を併設、大正一五年七月一日廃止

大一五・　七・　一　旭村旭青年訓練所を併設、昭和一〇年一〇月一日、横浜市立旭青年学校と改称。昭和二二年四月三〇日、豊岡青年学校に統合のため廃止となる。

七、学区及びその変遷

明三四・　四・一八　獅子ヶ谷町、師岡町、駒岡町、上末吉町、下末吉町、馬場町、北寺尾町、西寺尾町、東寺尾町の一部。

昭　三・　四・　一　西寺尾町は子安尋常高等小学校へ、師岡町は大綱尋常高等小学校へ学区変更。

昭　四・一一・一四　上末吉町、下末吉町は末吉尋常小学校へ学区変更。

昭一七・　四・　一　東寺尾町、馬場町、北寺尾町の一部は東台国民学校へ学区変更。

昭二六・　九・二〇　北寺尾町上の宮は菊名小学校へ学区変更。

昭二七・　四・　一　駒岡町の一部は上末吉小学校へ学区変更

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	八木下喜重	明三四・　四・一八	明三六・　三・三一	生見尾小学校より就任、子安小学校へ転任。
二	小田倉謙太郎	明三六・　三・三一	明三八・　五・三〇	生見尾小学校より就任、大綱小学校長へ転任。
三	小松　隆男	明三八・　五・三一	明四四・　五・一〇	子安小学校より就任、生見尾小学校長へ転任。
四	滝川松之助	明四四・　五・一〇	昭一二・　八・三一	生見尾小学校より就任、退職。
五	小永井直治	昭一二・　八・三一	昭二一・　二・二〇	栗田谷小学校より就任、大綱国民学校長へ転任。
六	上杉　定礎	昭二一・　二・二〇	昭二二・　四・三〇	西汐田小学校長より就任、末吉小学校長へ転任。
七	八木時次郎	昭二二・　四・三〇	昭二四・　四・一五	下野谷小学校長より就任、退職。
八	槇田　静見	昭二四・　四・一五	昭二七・　四・三〇	新田小学校より就任、鴨居小学校長へ転任。
九	安藤　民三	昭二七・　五・　一		鉄小学校長より就任。

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明三四	不詳	不詳	不詳	不詳	—	—
大一〇	一五	六八二（一二）	六三四	九八	五九八	八四
大一三	一八	七二三（一四）	六一一	一一六	六二五	九八
昭　二	一八	七一六（一五）	五七六	一二〇	六〇五	一一一
昭一〇	一〇	三一九（七）	二七〇	六九	二六五	五四
昭一五	一一	三九一（八）	三四五	七二	三三三	六八
昭一八	一三	四八六（一〇）	三八二	八〇	四〇三	八三
昭二〇	一八	八五一（一四）	六〇六	九四	七五七	九四
昭二二	一四	六三二（一二）	六二三	—	六三二	—
昭二五	一九	七四六（一八）	七一三	—	七四六	—
昭三〇	二二	一、〇一九（二〇）	一、〇二一	—	一、〇一九	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
旭小学校双和会	昭二三・　二・一四	（P・T・A）会員四五〇名

一一、その他

大　五・一一・二八　生麦町八木下佐右衛門氏畠五三一坪、旭小学校実習地として寄附。

昭一五・　七・二四　獅子ヶ谷町横溝秀夫氏グランドピアノ一台寄贈。

昭二〇・　二・　一　勤労動員のため二池附近の松根油工場に高等科男子出勤、女子勤労奉仕に農家へ出動。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二二・四・二四	給食場	八	
昭二六・一二・八	北寺尾分校給食場	一二	
昭二七・四・一	学校図書館	二五	蔵書数七二九冊
昭三〇・一〇・二五	プール	一二四	元本校実習地（市財産）を買却して建設

横浜市立東台小学校

横浜市鶴見区東寺尾町二〇五二番地
電話鶴見(5)二二一九番

一、設置状況

1 創立　明治二七年七月二日
2 開校　明治二七年七月二日
3 設置の際の概況

本校は明治二七年、鶴見、生麦両小学校を併合して設置したもので、はじめは橘樹郡生見尾村立尋常高等生見尾小学校と称して生麦一四一〇番地に校舎を建てた。それ以前は生麦、鶴見の両村にそれぞれ生麦小学校、鶴見小学校があつたが明治二二年六月一五日市町村制実施の際生麦村、鶴見村、東寺尾村は合併して一村となり、各部落の文字を一字ずつとつて生見尾村と命名され、前記小学校合併の議がでたので両校の区域と旭村馬場小学校の区域であつた東寺尾とを合わせて明治二七年七月二日に生見尾小学校を設立したのである。

この学校の位置は現在花月園入口になつているところで当時は三部落の中央にあたり交通も便利で地の利を得ていたところである。当時の児童総数は男二〇四、女一五六名、計三六〇名でこれを六学級にわけて編成した。

附記

〇旧鶴見小学校の沿革……明治五年一〇月郷学校規則に基き鶴見村大王院（現在の鶴見町五四〇番地）の本堂を仮校舎として弘明塾が創立され、明治六年七月八日弘明学舎と改称され八年六月鶴見学校となり、一二年五月校舎を新築二〇年小学校令の施行により尋常小学校となり、二七年生麦小学校と合併して生見尾小学校となる。

〇旧生麦小学校の沿革……明治六年生麦学舎として創立され、八年六月生麦学校と改称、一二年五月一五日校舎新築、二〇年尋常小学校に改められ、二七年鶴見小学校と合併し生見尾小学校となつた。

二、校名の変遷

明二七・七・二	橘樹郡生見尾村立尋常高等生見尾小学校	
大一〇・四・一	橘樹郡尋常高等鶴見小学校	町制実施に伴い（生見尾村が鶴見町に）校名改称
大一二・四・一	橘樹郡鶴見尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市鶴見尋常高等小学校	横浜市に編入されたため校名改称
昭四・四・一	横浜市東台尋常高等小学校	新築移転により校名改称
昭六・四・一	横浜市東台尋常小学校	高等科廃止により
昭一六・四・一	横浜市東台国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立東台小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二七・七・二	橘樹郡生見尾村生麦一四一〇番地外四筆	七八一坪（私有地）
昭三・一〇・五	横浜市鶴見区東寺尾町東台二〇五二の二外三筆	二七五八坪（市有地）移転のため買収
昭一四・一・一七	横浜市鶴見区東寺尾町東台二〇六四番地	三二坪（市有地）
昭二四・不詳	横浜市鶴見区東寺尾町東台二〇五八の二	一三八坪（市有地）P・T・Aより寄付
昭二五・七・不詳	横浜市鶴見区東寺尾町東台二〇六五の三外、	三九〇坪（市有地）
昭二六・四・一	横浜市鶴見区東寺尾町東台二〇五二の一	七〇・五九坪（借地）給食調理場敷地

総坪数　三、三五八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二七・七・二	新築	木造平屋	一三四	・教室八
明三一・不詳	増築	木造二階	一〇三	・教室四
大四・三・不詳	増築	木造二階	三三二	・教室一〇
大一三・四・一	貸与			・生麦、豊岡小学校がともに本校から分離独立したが校舎建設中につき当分本校校舎の一部を貸与六月十四日校舎落成移転。
大一二・九・不詳	貸与			・関東大震災で被害の少なかつた本校に附近の学校が当分の間本校校舎の一部を使用。
昭三・一〇・五	新築	木造二階	五六五	・教室一四
昭六・四・一	廃止			・旧校舎を廃止、本館は子安小建築に移した。他はとりこわし。
昭一〇・七・二	増築	木造二階	一四五	・教室六
昭一四・六・三	増築	木造二階	二八七	・教室九及び講堂
昭一九・不詳	貸与			・講堂を中央食糧営団の倉庫に貸与
昭一九・一〇・不詳	貸与			・児童疎開により学校閉鎖後校舎の一部を東京芝浦電気株式会社に貸与、約三〇〇坪
昭二〇・不詳	貸与			・軍隊に貸与、教室六
昭二二・五・四	貸与			・横浜市立寺尾中学校に昭和二四年七月まで教室六と準備室二を貸与
昭三一・七・一六	増築	木造二階	一六三	・教室四

総坪数一、一六〇・三一四坪（教室三三、その他九）

五、分校・分教場の設置廃止状況

昭二六・六・一五	生徒増のため東台小学校東台分校として鶴見学園（東寺尾八三四）の一〇教室、約四三〇坪を借用、五六四名の児童を収容開設
昭二九・八・一	東台小学校第二分校を東寺尾町八八四外四筆に設置四五八坪、児童数一一名
昭三〇・四・一	第二東台分校廃止して横浜市立寺尾小学校として独立
昭三〇・一〇・一	東台分校は寺尾小学校寺尾分校となる。

六、併設状況

明四五・七・一五	尋常高等生見尾小学校附設特殊夜学校を併置、家庭の情況により昼間通学できない児童を収容した。大正一三年生麦小学校の創立分離に伴い生麦小学校に移転
大五・五・二一	女子実業補習学校を併設
大一五・不詳	鶴見町立青年訓練所を併設
昭二・四・一	横浜市立鶴見実業補習学校を併設、女子実業補習学校を改称、男子部設置
昭六・三・二一	横浜市東台青年訓練所を廃止（昭和四年四月一日鶴見青年訓練所を東台青年訓練所と改称）
昭一〇・一〇・一	神奈川県横浜市立東台青年学校を併設、横浜市立東台実業補習学校を改称、昭和一八年三月三一日横浜市立東台青年学校は横浜市立豊岡青年学校に統合さる。

七、学区及びその変遷

明二七・七・一	橘樹郡生見村字生麦、鶴見、東寺尾、馬場の一部
大一三・四・一	東寺尾、生麦町（一部）鶴見町（一部）馬場、北寺尾町（生麦、豊岡両校新設のため）
昭六・一・一一	右学区から生麦の一部、鶴見の一部を芦穂崎校新設のため分離
昭一六・四・一	右学区から生麦町岸谷の一部及び東寺尾の一部を岸谷国民学校新設のため分離
昭二九・四・一	右学区に岸谷小学校学区の一部、東寺尾の京浜第二国道以西本校に編入
昭三〇・四・一	東寺尾町の大部、北寺尾町の一部、生麦町と岸谷の一部、鶴見町の一部（寺尾小学校新設のため）

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	荒井梅次郎	明二七・七・二	明二九・九・五	神奈川小学校校長より就任、南加瀬小学校長へ転任。
二	大久保義郎	明二九・九・五	明三三・四・一	馬場小学校長より就任、津久井郡視学へ転任。
三	小泉　善平	明三三・四・二	明三八・四・四	東台小学校訓導より就任、南加瀬小学校長へ転任。

四	小泉美彌次	明三八・四・二四	明四四・五・一	城郷小学校長より就任、二谷小学校長へ転任。
五	小松隆男	明四四・五・一二	大四・六・三〇	旭小学校長より就任、田島小学校長へ転任。
六	吉田清太郎	大四・九・三〇	大一〇・三・三一	高津小学校長より就任。
七	小宮喜八郎	大一〇・三・三一	大一五・五・三一	退職。
八	和田佐助	大一五・六・三〇	昭五・一二・二四	橘樹郡視学より就任、芦穂崎尋常小学校長へ転任。
九	坪田英俊	昭五・一二・二四	昭一二・七・三一	本町尋常高等小学校長より就任、青木尋常小学校長へ転任。
一〇	保谷二郎	昭一二・七・三一	昭二四・四・一四	蒔田尋常高等小学校訓導より就任、退職。
一一	平野健三	昭二四・四・一五	昭三〇・五・三一	戸部小学校副校長より就任、大岡小学校長へ転任。
一二	千葉勝夫	昭三〇・六・一		日吉台小学校長より就任。

九、児童・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
明二七	七	三六〇（六）	不詳	四一	
大一〇	二七	二、四〇六（二六）	不詳	不詳	
大一三	不詳	一、〇二〇（二〇）	不詳	不詳	生麦、豊岡小学校分離
昭二	不詳	一、一六一（二二）	二〇七 七八	二五二 五七	横浜市に編入
昭六	不詳	七〇七（一二）	一二三	一〇七	高等科廃止、芦穂崎小学校分離
昭一〇	不詳	一、〇〇八（一七）	一九二	一四二	
昭一五	二八	一、五二〇（二五）	二六六	二三五	
昭一六	二六	一、一九五（二一）	二一五	一六七	岸谷国民学校分離
昭一八	三〇	一、三五〇（二三）	二三五	一八八	
昭二〇	二九	一、四三八（二四）	二七一	二五一	
昭二二	三八	一、六六二（三〇）	三四六	二七一	
昭二五	五四	二、五一八（四六）	五二八	二八二	
昭二九	六一	二、九九一（五六）	六七三	四七九	寺尾小学校が独立分離
昭三〇	四〇	二、一一三（四〇）	四三一	三八三	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
東台小学校PTA	昭二二・四・一	会員二、九五〇名
新校建設促進会	昭二五・一・一五	二部授業を解消するために東台方面校の新設促進運動をおこす目的で発足したが、適当な校地が得られず、その間せっかく獲得した市の予算も繰越を重ねて、ついに他に流用されるに至り昭和二六年三月二七日会の維持経費の面から解散した。会員一、九〇〇名。
東台小学校創立六〇週年記念整備期成会	昭二八・一〇・四	東台小学校の創立六十週年に際して、その記念事業として本校の校具教材を整備する。昭和二九年一二月二五日所期の目的を達して解散、会員四、〇〇〇名。

一一、その他

明四一・不詳	二部授業の開始（一、二年生）生徒の激増による。
昭一八・不詳	学校給食をはじめた。
昭一九・八・一四	集団学童疎開、足柄上郡曽我村、曽我小学校、大通寺、清源寺、瑞雲寺、竺土寺に教師一〇名、児童一八六名。
昭二〇・四・一五	六年生卒業し新らしく入団者再編成、前記場所の外保安寺、真福寺、公会堂に教師一〇名、児童一七二名。
昭二〇・五・五	残留児童四七九名を山さ寮、宝蔵院、燈台寮、日本鋼管第六鶴扇寮、会社寮の五ヶ所に収容して残留教師一三名で戦時教育所を開設して指導にあたる。終戦により昭和二〇年九月三〇日閉鎖。
昭二五・一・一九	県下学校競書大会で学校賞第三位、昭二八年第二位、昭二九年第二位受く。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二三・二・不詳	給食調理場	二三	昭和二六年四月増改築五坪
昭二九・七・不詳	職員住宅	一三	創立六十周年記念整備期成会にて寄付

昭三一・九・不詳	学校図書館	四八	大蔵省払下げのカマボコ兵舎を移築改造して開館、蔵書数三八〇〇冊

横浜市立岸谷（きしや）小学校

横浜市鶴見区生麦町二〇〇四番地
電話鶴見(5)三三〇一番

一、設置状況

1 創立　昭和一六年一月一四日
2 開校　昭和一六年四月　一日
3 設置の際の概況

生麦小学校、東台小学校の児童数が増加してきたこと、また当時生麦小学校で高等科を分離させる必要が生じた事などにより、本校が設置された。そして生麦、東台両校の尋常科児童一部及び生麦小学校高等科児童、東台小から本校学区に編入となつた高等科児童を収容して授業を開始した。これよりさき、生麦町二、〇〇四番地に昭和一五年三月校舎の新築工事に着手したが、戦時中のため最初設計したより規模をせばめて校舎の落成をみたのである。

二、校名の変遷

昭一六・一・一四	横浜市立岸谷尋常高等小学校
昭一六・四・一	横浜市岸谷国民学校
昭二二・四・一	横浜市立岸谷小学校

三、位置（校地）の変遷

昭一六・一・一四　横浜市鶴見区生麦町二〇〇四番地　三〇五九坪、私有地を買収

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一五・三・一六	新築	木造	八三八	・教室二二
昭三〇・三・一六	増築	木造	一四六	・教室四

総坪数　九八四坪（教室二七、その他五）

五、併設・分離状況

昭一九・九・三〇	生麦青年学校を併設、昭和二〇年八月一七日分離
昭一九・一〇・一一	疎開残留児童の教育を行うため、昭和二〇年八月一七日まで生麦小学校に四教室貸与
昭二二・四・三〇	市立生麦中学校を併設、昭和二四年二月一九日まで七教室貸与

六、学区及びその変遷

昭一六・三・二四	東寺尾町飯山七一五―七四五、八〇七、八一六、八一七、八二八、生麦町一―三三五、三九八、四二六、四三五、四五〇、四五一、四五三、四五四、生麦町つゝじ丘一九二〇―二〇五〇、一九一九、生麦町岸、一五二二―一五三〇、一七六九―一八九三
昭二九・四・一	東台小東台分校設置のため第二京浜国道以北を学区から分離、現在の学区次の通り、東寺尾町六四五―六四八、六五一、六五七、六五九、生麦町一―三三五、三九二―四一〇、四二六、四三五、四四六―四六七、四七三、五二九―五五四、生麦町岸一五二〇―一五三一、一七六九―一九〇〇、生麦町つゝじ丘、一九一九―二〇五〇

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	宮本　銀一	昭一六・一・三一	昭二一・二・一九	生麦尋常高等小学校より就任、退職。
二	柳堀悦太郎	昭二一・二・二〇	昭二二・九・三〇	東汐田国民学校教頭より就任、小田原市早川小学校長へ転任。
三	塚本　英時	昭二二・九・三〇	昭二七・四・三〇	富岡小学校長より就任、桜岡小学校長へ転任。
四	金子　松平	昭二七・五・一	昭二九・四・三〇	矢向小学校長より就任、退職。
五	重田　俊一	昭二九・五・一		新治小学校長より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
昭一六	二三	一、二五五（二〇）	八三八	四一七	一一〇	一六二
昭一八	二四	一、三五二（二〇）	一七六	二〇八	一四四	一四六
昭二〇	二〇	五二七（一五）	七六	五七	一一四	一〇二
昭二三	二三	一、一〇三（一八）	一七二	—	一七三	—
昭二五	三二	一、三一一（二五）	二七五	—	一五九	—
昭三〇	三三	一、四一〇（二九）	二八四	—	二四一	—

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
岸谷小学校PTA	昭二三・二・一六	会員一、〇二六名
岸谷小学校PTA協力会	昭二九・九・二〇	会員一、〇九七名

一〇、その他

昭一九・四・五	学校給食の開始
昭一九・八・一二	第一次児童疎開、神奈川県足柄上郡酒田村大長寺へ教職員六、児童（女）七一名、同郡吉田島村農林学校へ教職員三、児童（男）四八名、同郡福沢村大松寺へ教職員三、児童（男）四五名
昭一九・八・一二	第二次疎開により追加、教職員二、児童四一名
昭二〇・四・一	第三次疎開により追加、前記疎開先に各々教職員三児童（女）四五名、教職員一、児童（男）二六名、教職員二、児童（男）四一名
昭二三・二・二六	県指定新教育研究発表会を開く。
昭二四・一一・一二	朝日新聞社より健康優良学校として表彰さる。
昭二七・三・三一	給食施設及び衛生状態優良につき市長より表彰さる。二八年三月、三〇年一一月にも同様主旨で表彰さる。
昭三一・一・三一	三〇年度、三一年度現職教育研究指定を市教委よりうけ、その研究発表会を開催

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・三・三一	給食調理室	一四	使丁室を改造
昭三一・六・三〇	文化センター	二三	元裁縫室を改装図書室兼映写室とした。（昭二五年九月一六日北辰一六ミリトーキー映写機購入）

横浜市立矢向（やこう）小学校

横浜市鶴見区矢向町六二四番地
電話鶴見(5)四六七二番

一、設置状況

1 創立 昭和一八年六月一八日
2 開校 昭和一九年四月一日
3 設置の際の概況

明治六年矢向に矢向学校が設置され、土地の子弟の教育がなされていたが明治四五年四月一八日町田町立尋常高等町田小学校（現在の横浜市立市場小学校）の矢向分教場となり更に大正九年四月一日同分教場は廃止された。その後矢向には学校がなく当地区の児童は市場小学校に通学していた。しかしその後の矢向町の急激な発展により児童数は次第に増加し市場小学校では収容不可能となり小学校新設が急務となつた。折しも大東亜戦争で国運急をつげていたが、市当局、地元民の一致協力により建築資材の不足など幾多の困難をきりぬけて昭和一八年六月一八日矢向小学校（当時矢向国民学校）の創立をみたのである。

二、校名の変遷

昭一八・六・一八　横浜市矢向国民学校

昭二二・四・一　横浜市立矢向小学校

三、位置（校地）の変遷

昭一八・六・一八　横浜市鶴見区矢向町六二四番地　三、一七九坪、森本祐憲氏外七名の私有地を買収

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一九・三・二四	新築	木造二階建	六三二	・教室一四
昭二四・七・二三	増築	木造二階建	一八九	・教室六
昭二五・二・二七	罹災	木造二階建	二三八	・教室八を出火焼失
昭二六・八・三一	増築	木造二階建	三二五	・教室一〇
昭二七・七・一一	増築	木造二階建	一二三	・教室四
昭二九・五・二一	増築	木造二階建	一〇四	・教室二
昭三〇・四・八	増築	木造二階建	五二	・教室二

総坪数　一、一七六・五六坪（教室三〇、その他七）

五、学区及びその変遷

昭一九・四・一　鶴見区矢向町、江ヶ崎町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中島　義正	昭一八・一一・三〇	昭二二・四・二九	平安国民学校教頭より就任、富岡中学校長へ転任。
二	金子　松平	昭二二・四・三〇	昭二七・四・三〇	生麦国民学校長より就任、岸谷小学校長へ転任。
三	中島　時郎	昭二七・五・一		豊田小学校副校長より就任。

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭一九	二〇	一、〇三四（一八）	一、〇三四	八二
昭二〇	二二	六七一（不詳）	一二〇	一四一
昭二二	二七	一、三二八（二五）	二五九	二〇四
昭二五	三五	一、六〇五（三〇）	三〇七	一九五
昭三〇	四七	一、九五三（三九）	四〇二	三三五

28184

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
矢向小学校父母と先生の会	昭二二・六・二八	会員一、三二八名
矢向小学校校舎増築委員会	昭二三・三・七	校舎増築促進運動展開のため結成、会員八五四名、昭二四・七・二三廃止
矢向小学校災害復旧対策委員会	昭二五・三・六	火災焼失後の対策について協議するため結成、委員三五名、昭二五・六・一六、校舎復興促進委員会に組織変更
矢向小学校校舎復興促進委員会	昭二五・六・一六	校舎復興促進運動展開のため、委員三五名、昭二六・八・一八廃止
矢向小学校創立十周年記念特別委員会	昭二八・七・四	創立十周年記念事業完遂のため結成、昭二八・一二・一六廃止
矢向小学校分校建設促進委員会	昭二九・八・五	分校建設運動展開のため、委員二五名

九、その他

昭一九・八・一〇　児童疎開、県下足柄上郡桜井村東柏山曽比、教職員一一、児童二〇四名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・八・三一	学校図書館	一三	蔵書数二、五〇〇冊
昭二六・一二・二二	給食調理場	三〇	昭和三〇年一二月一日八坪を増築三〇坪となる
昭三一・九・五	放送室	三	礼法室改造により

横浜市立入（いり）船（ふね）小学校

横浜市鶴見区浜町一六番地
電話鶴見(5)三五三九番

一、設置状況

1 創立 昭和 三 年六月三〇日
2 開校 昭和 三 年九月 一 日
3 休校 昭和二一年一月三一日
4 復活 昭和二五年四月三〇日
5 復活設置の際の概況

鶴見町時代において潮田町の急激な膨張により、児童も増加し、潮田下野谷両小学校では到底これを収容出来なくなつた。そこで新校創設の計画が立てられ、昭和三年九月一日、潮田小学校より児童八三八名を分離して浜町尋常小学校として開校した。しかし昭和二〇年四月一五日の戦災により全校舎焼失したので昭和二一年一月二一日下野谷小学校に、児童約四〇〇名が、統合され本校は休校の措置がとられた。

その後戦後の復活につれて児童数が増加し、又通学の不便と危険から地元民より新設校の要望が高まり、浜町小学校復興期成会を起し、市当局にその建設方を陳情したので、昭和二五年五月一日入船小学校として再出発した。

二、校名の変遷

昭 三・ 六・三〇	横浜市浜町尋常小学校
昭一六・ 四・ 一	横浜市浜町国民学校
昭二五・ 五・ 一	横浜市立入船小学校

創立当時は「浜町」という町名はまだなかつたと思われるが、学校の近くまで海が来ていたので、浜町と呼ばれ校名にとられた。

下野谷小学校に合併されていた浜町国民学校は入船小学校として再出発することになつた。その当時、学校設置の一帯は入船地区と呼ばれ、区劃整理がおこなわれると浜町という町名は消滅する気運があつたので、校名を入船小学校とした。

三、位置（校地）の変遷

昭 三・ 六・三〇	鶴見区潮田町二丁目五七番地外三二筆	二七一七坪
昭二五・ 五・ 一	鶴見区浜町一六番地	四、二一三坪

旧校地に復活の際一、四九六坪増加した。しかし戦災者寮が建てられていたため旧校地の全部を包含していない。

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭 三・ 七・二八	築新	木造二階建	五五四	・教室一五
昭 五・ 八・三〇	増築	木造二階建	一六三	・教室六
昭 六・一〇・ 四	増築	木造平屋建	一二三	・講堂兼屋内体操場
昭一一・ 四・一三	増築	木造二階建	一六一	・教室六
昭一五・ 七・ 二	増築	木造二階建	二一〇	・教室八
昭一九・一〇・一五	借用			・児童疎開により残留児童四〇〇名、下野谷小を借用。
昭一九・一〇・一五	貸与			・ヂーゼル自動車工員宿舎に貸与。
昭二〇・ 四・一五	罹災			・戦災により全校舎焼失。
昭二五・ 五・ 九	新築	木造二階建	三五五	・教室九
昭二六・ 四・一一	増築	木造二階建	一五〇	・教室四
昭二七・ 四・一〇	増築	木造二階建	一八四	・教室六
昭三一・ 六・一五	増築	鉄筋二階建 木造二階建	一九二	・教室六

総坪数　八八一坪（小教室二五、その他五）

五、学区及びその変遷

昭　四・　四・三〇	鶴見区潮田町の一部、末広町の一部、安善町
昭一六・　四・三〇	鶴見区小野町辨天町、浜町、朝日町一丁目、汐入町三丁目、仲通り三丁目、潮田四丁目、安善町、寛政町
昭二五・　三・三〇	汐入町、二・三丁目、仲通二・三丁目、潮田四丁目、大東町、朝日町、寛政町、安善町、弁天町、末広町二丁目、浜町
昭二九・　三・不詳	鶴見区仲通三丁目、汐入町二・三丁目、朝日町一丁目、末広町二丁目、弁天町、浜町、寛政町、安善町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	足立　嘉一	昭　三・　六・三〇	昭一二・　三・三一	横浜尋常小学校より就任、東尋常高等小学校へ転任。
二	小松　直之	昭一二・　三・三一	昭一四・　八・三一	浜町尋常小学校より就任・退職。
三	柳川　金磨	昭一四・　八・三一	昭一九・　五・二〇	鶴見高等小学校より就任、南吉田国民学校長へ転任。
四	野口　英雄	昭一九・　五・二〇	昭二一・　一・三一	保土ケ谷国民学校より就任、日野国民学校長へ転任。
五	川井長三郎	昭二五・　五・　一		下野谷小学校より就任。

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭　三	一五	八四六（一四）	—	九九	
昭　五	一九	一、一九四（一九）	二三〇	一四六	
昭一〇	二七	一、七九八（二八）	三四七	二四一	
昭一五	三六	一、九〇七（三二）	三一一	三〇三	
昭一八	三三	一、八九二（三〇）	三二七	二九五	昭二〇年四月一五日の空襲により全焼し、昭和二一年一月二一日、児童約四〇〇名は下野谷国民学校へ転校する。
昭二五	二〇	八二三（一七）	—	八六	二五年五月二二日、下野谷小学校より児童七七六名を収容独立する。
昭三〇	二九	一、三〇〇（二六）	二四二	二二六	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
入船小学校ＰＴＡ	昭二五・　五・　一	会員九五〇名、賛助会員八六〇名

九、その他

昭一九・　八・一四　児童疎開により三年以上の二七名が足柄下郡福沢村へ疎開、残留児童約四〇〇名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・　六・不詳	給食場	二〇・五	
昭二八・　五・　一	図書館	一六・五	蔵書数一、八七六冊

横浜市立寺（てら）尾（お）小学校

横浜市鶴見区東寺尾町八八四番地
電話鶴見(5)七〇八四番

一、設置状況

1　創立　昭和三〇年四月一日

2　開校昭和三〇年四月一日

3　設置の際の概況

昭和二六年六月一五日横浜市立東台小学校東台分校が設置され、横浜市鶴見区東寺尾町八四三番地、鶴見学園の校舎一部一〇教室を借用して開校した。更に昭和二九年一月九日に横浜市立東台小学校東台第二分校新設の許可があり、直ちに校舎新築工事に着手、同年七月二日に落成式を挙行九月一日より一・二・三・六年の六四二名を収容して授業を開始した。東台第二分校の開校により東台分校には四・五年の三一六名を収容した。

翌昭和三〇年四月一日横浜市立東台小学校東台第二分校は東台小学校から分離独立して横浜市立寺尾小学校となり、更に同年一〇月一日横浜市立東台小学校東台分校は本校寺尾分校となつた。

二、校名の変遷

昭三〇・四・一　横浜市立寺尾小学校　学区民より校名募集、多数意見により「寺尾小学校」と決定

三、位置（校地）の変遷

昭二八・九・二一　横浜市鶴見区東寺尾町八八四番地四、八三二坪、東台第二分校校地

昭三〇・四・一　右校地は寺尾小学校々地となる

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭三〇・四・一	借用	木造二階建	不詳	・総持寺学園より四三〇坪、一二教室借用
昭三〇・四・一	新築	木造二階建	三五八	・教室一一
昭三〇・一〇・七	増築	木造二階建	二八六	・教室八

総坪数　本校七四四坪（教室一八、その他四）　分校、四三〇坪（教室一〇その他二）

五、分校設置状況

昭三〇・一〇・一　横浜市立寺尾小学校寺尾分校を鶴見区東寺尾町八四三番地に設置、校舎坪四三〇、教室一〇、児童数四三三名（東台小学校東台分校が現状のまま寺尾小学校寺尾分校となつた）

六、学区及びその変遷

昭三〇・四・一　鶴見区東寺尾町四—二四四、二九〇—三九〇、三九六、四〇〇—四六七、五一三、五一五、五二六、五三三—五四七、五四九—五五四、五五六、五五七、六〇四、六一四—六一七、六二六—六二九、六三三—六三五、六四〇、六四八、六六七、六六八、六七〇、六七四、六七六、六七九、六八二、六八八、六九二、六九八、七〇一、七〇二、七一二、七一九、七二九—七三一、七三五、七三七、七四一、七四四、七四五、七四九—七五四、七六七、七七〇、七七二、七七三、七九一—七九七、八〇〇—八一三、八一七、八二一、八二五、八二九、八三二—八三九、八四〇—八四五、八六〇、八六一、八七〇—八七二、八九八、九〇三—一五〇七（東台小学校区域にまたがる）生麦町一七八二—一七八四、一七九二—一七九四、一七九六、一七九七、北寺尾町一四九九—一五〇一、一六四〇（飛地）一六六一、一六六三、一六六九、一六八六、一七〇五、一七〇八、一七一一、馬場町一八六、一八八、一九九、二二二、二七〇、三二四、四〇〇—六九七、七七七

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	鈴木　秀秋	昭三〇・四・一	東台小学校副校長より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭三〇	二五	一、〇四三（二三）	二一五	一七〇	創立年度

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
寺尾小学校ＰＴＡ	昭三〇・四・一	会員七四三名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二九・七・七	給食調理室	七

横浜市立三ッ沢小学校

横浜市神奈川区三ッ沢中町三〇番地
電話神奈川(4)三四四六番

一、設置廃止状況

1 創立 昭和八年六月一五日
2 開校 昭和八年六月一五日
3 設置の際の概況

明治八年（月日不詳）橘樹郡神奈川村青木三ッ沢三一五八番地山田佐平治氏屋敷内に木造平屋建一棟、およそ一六坪を建設し、これに一級より五級に至る児童約五〇名を収容した。明治一二年一一月一五日、三ッ沢の組頭が発起人となり全村僅か五七戸の農家にはかつて、労力と費用四五〇円をだしあつて青木三ッ沢三一四九番地外の藤巻孫右衛門氏の所有地を借用、木造平屋一棟（二八坪）を新築し、青木小学校三ッ沢分教場となり、教員住宅を併設し、これに移つた。その後、改正小学校令により神奈川小学校分教場となり、あるいは青木小学校三ッ沢分教場となるなど幾変遷を経、その間に児童数僅少のため廃校にするという市の計画に町民こぞつて存置方を陳情し、ようやくその存置を認められるというようなこともあつた。昭和五年に至り旧石川小学校の校舎を移築し、昭和八年六月一五日青木小学校より分離独立した。

二、校名の変遷

明一二・一一・一五	青木学校三ッ沢分教場	
明二五・四・不詳	神奈川小学校第二分教場	改正小学校令による
明四一・二・一	尋常第二神奈川小学校三ッ沢分教場	尋常第二、第三神奈川小学校設置による
明四一・四・一	尋常高等青木小学校三ッ沢分教場	第二神奈川小学校に高等科設置のため
明四三・四・一	尋常青木小学校三ッ沢分教場	尋常高等青木小学校の高等科を二谷小学校に移したため
大一二・四・一	青木尋常小学校三ッ沢分教場	
大一三・四・一	青木尋常高等学校三ッ沢分教場	青木尋常小学校に高等科併置による
昭八・六・一五	横浜市三ッ沢尋常小学校	青木尋常高等小学校より分離独立のため
昭八・七・一	横浜市三ッ沢尋常高等小学校	高等科併置による
昭一六・四・一	横浜市三ッ沢国民学校	
昭二二・五・一	横浜市立三ッ沢小学校	

三、位置（校地）の変遷

明八・不詳	橘樹郡神奈川村青木三ッ沢三一五八番地	坪数不詳
明一二・一一・一五	橘樹郡神奈川村青木三ッ沢三一四九番地	坪数不詳
昭五・九・八	神奈川区三ッ沢中町三〇番地外	一、五二一坪
昭一一・五・一	神奈川区三ッ沢中町三一番地外六筆	五四八坪
昭一一・六・一	神奈川区三ッ沢中町二〇の一番地外一二筆	六七二坪
昭一二・四・一	神奈川区三ッ沢中町	二〇坪
昭二五・一一・九	神奈川区三ッ沢中町三五番地外	二三五坪
昭二五・一一・九	神奈川区三ッ沢上町一番地	三四三坪
昭二六・一・三一	神奈川区三ッ沢上町一番地	一一四坪
昭二六・一一・三〇	神奈川区三ッ沢中町三四番地	四〇坪
昭二七・四・一	神奈川区三ッ沢中町三〇の三番地	六三坪
昭二九・二・不詳	神奈川区三ッ沢中町三二―上町五番地	六三二坪
昭二九・一一・不詳	神奈川区三ッ沢中町三〇番地	六三坪

総坪数 四、二五〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明八・不詳	新築	木造平屋	一六	・教室一
明一二・一一・一五	新築	木造平屋	二八	・教室二
昭五・九・八	改築	木造二階	一一二	・旧石川小学校々舎を移築改修、教室六

昭八・四・一	増築	木造二階	二〇五	・教室六
昭一一・三・一〇	増築	木造二階	四一七	・教室十二
昭一二・六・四	増築	木造二階	六五九	・教室六及び室内体操場
昭二〇・五・二九	罹災			・戦災により全焼
昭二三・六・二五	新築	木造平屋	二〇〇	・教室五
昭二三・一〇・二〇	増築	木造平屋	三五二	・教室五
昭二五・三・一	増築	木造二階	四八二	・教室四
昭二五・一一・一八	罹災	木造平屋	二八三	・火災により教室五焼失
昭二六・五・一五	増築	木造二階	四二二	・教室四
昭二六・八・二九	増築	木造二階	四九二	・教室二及び給食調理場
昭二七・四・七	増築	木造二階	六九二	・教室五
昭二七・一二・一五	増築	木造平屋	六九四	・湯沸場
昭三〇・四・三〇	増築	木造二階	九〇四	・教室六

総坪数　九〇四・五坪（教室二四、その他六室）

五、分校設置廃止状況

昭二三・一〇・二九　三ッ沢小学校青木分校を神奈川区桐畑三六に設置、校舎坪数二五一、教室八、児童五三六名

昭二三・一一・一五　横浜市立青木小学校として分離

六、統併合・分離・併設状況

昭一八・五・一　三ッ沢青年学校を併設

昭二一・一・一五　青木国民学校を統合（児童約五〇〇名を編入）

昭二三・三・三一　三ッ沢青年学校廃止

昭二三・一一・一五　青木分校独立分離（児童五三六名青木小学校へ）

七、学区及びその変遷

昭八・六・一五　神奈川区三ッ沢上、中、下、東、西、南町全部、保土ケ谷区峯岡町の一部

昭八・七・一　高等科は左記区域のほか松本、栗田谷、松ケ丘、沢渡、泉町、反町、上反町、桐畑、台町、鶴屋町、高島台を加える。

昭一二・九・一　松本町の一部、松ケ丘の一部、北軽井沢、宮ケ谷の一部を加える。

昭二一・一・一五　青木小学校統合により松ケ丘の一部、沢渡、泉町、上反町、桐畑、高島台、台町、鶴屋町を加える。

昭二一・一・一五　通学距離の関係から星川小学校学区の峯沢、岡沢、常盤台を本校学区へ編入

昭二一・一・一五　片倉町、神大寺、羽沢町を神橋小学校学区より本校学区に編入

昭二三・一一・一五　青木小学校分離独立により松ケ丘三七―八五、沢渡、泉町、上反町、桐畑、高島台、台町、鶴屋町を分離

昭二八・三・一五　神奈川区三ッ沢上、中、下、東、西（但し一三六を除く）南町、松本町二四―四五、二一を含む、七七―八三七六を含む、松ケ丘二〇―三六、保土ケ谷区峰沢町、岡沢町一―二二五、二八〇以上、常盤台一四

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	矢部清一郎	昭八・八・一四	昭一五・三・三一	大綱小学校長より就任、平楽小学校長へ転任。
二	富田茂雄	昭一五・三・三一	昭一七・八・二六	三ッ沢小学校訓導より就任、池上国民学校長へ転任。
三	山本逸義	昭一七・八・二六	昭二三・五・一五	池上国民学校長より就任、桜岡小学校長へ転任。
四	室田哲	昭二三・五・一五	昭二七・四・三〇	桜岡小学校長より就任、釜利谷小学校長へ転任。
五	矢ヶ崎きぬ	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	東小学校長より就任、神橋小学校長へ転任。
六	山口義雄	昭三一・九・一		鶴見小学校長より就任。

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者		
			尋常科	高等科	尋常科	高等科	
昭五	不詳	二八五（不詳）	不詳	不詳	―	―	
昭八	不詳	五〇八（不詳）	七一	一三一	五三	不詳	独立
昭一〇	不詳	六六七（不詳）	一〇二	一四五	四九	八四	
昭一五	二六	九八四（不詳）	一二二	一七九	一〇二	一二五	

昭二〇	不詳	不詳（不詳）	一七九	不詳	一七九	六九	
昭二二	二二	一、一一三（不詳）	二二三	―	二二三	―	
昭二三	三一 一八	一、二六四（不詳） 七二八（不詳）	一〇六	―	一〇六	―	青木小分離独立
昭二五	二四	九四七（二二）	一六六	―	一三七	―	
昭三〇	三一	一、三九四（二七）	二七四	―	二一八	―	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
三ッ沢小学校教育助成会	昭二二（月日不詳）	昭和二四年四月一七日PTAに統合
三ッ沢小学校PTA	昭二三・一〇・二五	会員数約八五〇名

一一、その他

昭一一・一〇・一七	神奈川県師範学校主催競技会で女子部優勝
昭一三・七・一〇	本市体育大会で昭和一二年に引続き優勝（児童遊園地で開催）
昭一四・一一・五	県下小学校競技大会で昭和一三年に引続き女子部優勝
昭一九・八・一九	児童疎開々始、疎開先神奈川区羽沢町（東泉寺羽沢会館）同区菅田町（専称寺、長導寺、菅田会館）教職員九、児童五二〇名、残留児童は本校で授業継続
昭二〇・一〇・二三	疎開先より引揚終了
昭二六・七・二四	三ッ沢子供郵便局表彰された。
昭二八・三・三一	学校給食状況、食品衛生管理状況優良につき市長より表彰された。
昭二八・一一・一四	創立二十週年記念式典挙行
昭二九・一一・一三	健康教育発表会開催

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・八・二九	給食調理場	二九	

昭三〇・四・三〇	図書室	二九	蔵書数 一、九八〇冊

横浜市立青木（あおき）小学校

横浜市神奈川区桐畑三六番地
電話神奈川(4)四三五〇番

一、設置・廃止状況

1	創立	明治六年四月	
2	開校	明治六年四月	
3	廃校	明治二五年四月一日	橘樹郡神奈川町立尋常高等小学校の分教場となる
4	復活	明治三九年六月一日	神奈川小学校より独立
5	休校	昭和二一年一月一五日	戦災により校舎全焼のため三ッ沢小学校に統合
6	復活	昭和二三年一一月一五日	三ッ沢小学校より独立

7 設置の際の概況

神奈川宿内青木町倉屋敷内に長屋造りの建物を校舎とし、通称「お倉の学校」と称された、半官半私の郷学校が明治五年の学制の頒布により、その儘の状態にて開校した。

二、校名の変遷

明六・四・不詳	第七五番小学青木学舎
明七・六・不詳	第七中学区第八二番小学青木学舎
明八・六・二九	第八二番青木学校
明九・一二・一八	公立青木学校
明一四・一〇・一二	町立青木学校

明二〇・一・二五　公立青木学校
明二五・四・一　神奈川町立尋常高等神奈川小学校青木分教場、明三八年一一月一五日廃校
明三九・六・一　横浜市立尋常第二神奈川小学校
明四一・四・一　尋常高等青木小学校
明四三・四・一　尋常青木小学校　高等科が二ッ谷小学校に分離により校名改称
大一二・四・一　青木尋常小学校
大一三・四・一　青木尋常高等小学校
昭一六・四・一　横浜市青木国民学校
昭二一・一・一五　三ッ沢小学校に統合により休校
昭二三・八・一〇　横浜市立三ッ沢小学校分校　戦災により校舎全焼の為旧校地に校舎新築して分校になる。
昭二三・一一・一五　横浜市立青木小学校　旧校名の下に独立した。

三、位置（校地）の変遷

明　六・七・不詳　神奈川宿内青木町倉屋敷
不　詳　神奈川宿内青木町滝の町
不　詳　神奈川宿内青木町宮の河岸
明三九・三・二七　青木町反町四六四—四六六番地　一四七一坪
不　詳　青木町反町四六四—四六六番地　五一〇坪を拡張
昭二四・九・不詳　神奈川区桐畑三六番地　六四〇坪を拡張
昭二七・七・不詳　神奈川区桐畑三六番地　二三一坪を拡張
総坪教　二、八一一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明一六・四・不詳	新築	木造平屋建	七六	・現神奈川変電所の位置
明四一・四・一	新築	木造二階建	二八七	・教室一六
明四一・七・八	増築	木造平屋建	一〇四	・体操場
大九・五・二七	増築	木造二階建	不詳	・教室六
昭五・二・一	改築	木造二階建		・雨天体操場
昭二〇・五・二九	罹災	木造二階建		・全焼
昭二三・八・一〇	新築	木造平屋建	一八八	・教室五
昭二三・一〇・二〇	増築	木造平屋建	六三	・教室三
昭二四・四・一	増築	木造二階建	一七三	・教室四
昭二五・四・五	増築	木造二階建	一一六	・教室四
昭二六・四・三〇	増築	木造二階建	一三八	・教室四
昭二七・六・一三	増築	木造二階建	一二八	・教室四
昭二九・六・一〇	改増築	木造二階建	一九一	・教室六
昭三〇・四・七	増築	木造二階建	一六一	・教室一

総坪数　一、〇五八坪（教室三〇、その他六）

五、分校・分教場の設置廃止状況

明一二・一一・不詳　公立青木学校三ッ沢分校を青木町字三ッ沢に設置、明治二五年四月本校と共に神奈川小学校の分教場となる
明四一・二・一　尋常第二神奈川小学校三ッ沢分教場を青木町字三ッ沢に設置
明四一・二・一　尋常第二神奈川軽井沢分教場及び芝生分教場を設置
明四一・四・不詳　軽井沢及び芝生分教場廃止、両分教場は統合して尋常青木小学校（現在の宮谷小学校）となつた。
昭　八・六・一五　三ッ沢分教場は三ッ沢小学校として独立のため廃止
昭二四・一一・一一　沢渡分校を設置（別記）

六、統併合・分離・併設状況

明四一・四・一　軽井沢、芝生両分教場を分離
明四三・四・一　高等科を二ッ谷小学校へ移し分離

明四四・　四・不詳	附属夜学部を併設
大一五・　七・　一	青木青年訓練所を併設
昭　四・　一・一八	幸ヶ谷尋常高等小学校へ一部分離、職員九、児童六二七名
昭　四・　七・　一	栗田谷尋常小学校へ一部分離、職員一一、児童八五一名
昭一〇・一〇・　一	青木青年学校を併設
昭一八・　五・　一	青木青年学校、三ッ沢青年学校に統合
昭二一・　一・一五	校舎全焼により三ッ沢小学校に統合、職員七、児童約五〇〇名

七、学区及びその変遷

明四一・　四・　一	台町上、下反町、松本町、栗田谷鶴屋町、幸ヶ谷七軒町、洲崎町、三ッ沢町
昭四二・　五・不詳	幸ヶ谷宮前町、栄町、青木通分離（幸ヶ谷小学校の新設により）
昭　四・　七・　一	栗田谷松本町（一部）反町（一部）分離（栗田谷小学校の新設により）
昭　八・　六・一五	三沢上・中・下町、松ヶ丘（一部）分離（三ッ沢小学校の独立により）
昭二四・　九・　一	反町、栗田谷、松本町、松ヶ丘三七―八五、桐畑、高島台、台町

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	斎藤　三郎	明四一・　一・　八	明四三・一〇・　七	神奈川小学校へ転任。
二	林　光徳	明四三・一〇・　七	大　二・　一・二二	不詳、
三	本田　恵学	大　二・　三・二九	大一四・　三・一〇	死亡退職。
四	纐纈　準	大一四・　三・一二	昭　二・　四・　三	横浜市視学へ転任。
五	斎藤　元近	昭　二・　五・二〇	昭　八・一〇・二五	戸部小学校長へ転任。
六	砂川　孝平	昭　八・一〇・二五	昭一一・　一・二四	死亡退職。
七	寿　金平	昭一一・　三・三一	昭一二・　五・二二	死亡退職。
八	坪田　英俊	昭一二・　七・三一	昭一七・　九・　七	平沼小学校長へ転任。
九	荒波　階三	昭一七・　九・　七	昭二一・　二・二〇	平沼小学校より就任、退職。
一〇	梅野　力哉	昭二三・一一・一五	昭三一・　八・三一	磯子小学校副校長より就任、杉田小学校長へ転任。
一一	安達　英雄	昭三一・　九・　一		間門小学校長より就任。

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明　六	二	不詳（不詳）	不詳		不詳	
明一六	七	一六五（不詳）	不詳		不詳	
明一八	六	一八九（不詳）	不詳		不詳	
明四一	一七	九六二（一五）	不詳		不詳	
明四二	二四	一、〇九三（二一）	一七七	一三五	八三	九四
大一〇	三〇	一、六三四（三五）	二九八	―	二一七	―
昭二三	一五	五三六（一二）	不詳	―	九三	―
昭二五	二九	一、三九八（二六）	三一四	―	一四九	―
昭三〇	四五	二、一一〇（四〇）	四三二	―	三八五	―

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
青木小学校教育助成会	昭二三・一一・一五	昭和二五年三月廃止
青木小学校ＰＴＡ	昭二四・　四・　一	会員九八五名

一一、その他

昭一九・　八・一九	足柄下郡湯河原町宮上に児童疎開をする。教職員一七、児童三三四名
昭二三・一一・一五	明治六年七月創立であるが当時の開校日がはっきりしないので戦後の復興記念日十一月二十五日を開校記念日と定める。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭　三・　三・一九	児童博物館	九七

昭一二・七・一九	プール	七米×二五米×一米
昭三〇・六・八	給食調理室	三八

横浜市立青木（あおき）小学校沢渡（さわたり）分校

横浜市神奈川区沢渡二一番地
電話神奈川⑷七五八六番

一、設置状況

1 創立 昭和二四年一一月一一日
2 開校 昭和二四年一一月一一日
3 設置の際の概況

昭和二三年はじめ頃から、横浜市在住の北鮮系朝鮮人連合は、その子弟に母国語による民族教育を実施しようとして、現在の地に横浜朝鮮小学校を設立、運営していたが、昭和二四年一〇月一九日、政府指令に基づく朝鮮人学校閉鎖によつて閉鎖され、その財産は接収された。よつて在学中の子弟は教育基本法及び学校教育法によつて公立学校に就学させることになつたために接収建物の使用許可を得て横浜市立青木小学校沢渡分校として設置開校された。

二、校名の変遷

昭二四・一一・一一　横浜市立青木小学校沢渡分校

三、位置（校地）の変遷

昭二四・一一・一一　横浜市神奈川区沢渡二一　二、四四四坪（国有地）

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二四・一一・一一	借用	木造平屋建	二六二	・法務庁より借用　教室六
昭二六・三・七	増築	木造平屋建	三	

総坪数　二六五坪（教室六、その他三）

五、学及区びその変遷

昭二四・一一・一一　鶴見区を除く全市

六、歴代分校長（青木小学校副校長）

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	加藤　房治	昭二四・一一・一一	昭二六・九・一	青木小学校より就任、青木小学校副校長へ転任。
二	豊田国太郎	昭二六・九・二	昭二八・八・一〇	青木小学校沢渡分校より昇任、根岸小学校副校長へ転任。
三	榎本　知男	昭二八・八・一一	昭二八・九・一〇	青木小学校より就任、青木小学校教諭へ転任。
四	後藤　隆	昭二八・九・一一	昭三〇・四・三〇	青木小学校より就任、桜台小学校副校長へ転任。
五	内海　健児	昭三〇・五・一		生麦小学校副校長より就任。

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二四	八	二七九　（六）	五五	三二
昭二五	八	二一二　（六）	二二	二六
昭三〇	八	三二五　（六）	五〇	三〇

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
青木小学校沢渡分校ＰＴＡ	昭二四・一一・一一	会員一二〇名

横浜市立二谷（ふたつや）小学校

横浜市神奈川区平川町三六番地
電話子安（49）八九四八番

一、設置状況

1 創立　明治三八年三月三一日
2 開校　明治三八年四月一日
3 設置の際の概況

明治三八年、横浜市は従来の小学校における高等科を分離し、あらたに六箇の単独高等小学校を設立し、尋常小学校は旧により学区の維持に任せ、高等小学校は市費の経営とすることに定めた。これによつて六箇の高等小学校の一つとして神奈川町字平尾前二五七二番地に本校が設置された。

二、校名の変遷

明三八・四・一	横浜市第六高等小学校	
明四一・四・一	横浜市尋常高等二谷木学校	
大九・一・一	横浜市尋常二谷小学校	高等科を尋常高等浦島小学校へ分離のため
大一二・四・一	横浜市二谷尋常小学校	神奈川県の通達による
大一三・四・一	横浜市二谷尋常高等小学校	関東大震災後の処置として高等科を併置
昭一六・四・一	横浜市二谷国民学校	
昭二〇・一・二八	横浜市栗田谷国民学校	栗田谷国民学校と統合のため
昭二二・七・一	横浜市立栗田谷小学校	
昭二四・七・四	横浜市立二谷小学校	校舎を栗田谷中学校に転用、現在地に移転、校名を変更

三、位置（校地）の変遷

明三八・四・一	神奈川区平尾前二五七二番地外一〇筆、一、二九七坪
昭元・不　詳	校地買収拡張により延一、四九四坪
昭三・三・不詳	校地追加指定により延一、六九六坪
昭七・四・一	神奈川区平川町三六番地、町名改正による
昭二一・一・二八	神奈川区栗田谷七番地　三、二九三坪、栗田谷小学校と統合
昭二四・七・一五	旧二谷校地平川町三六番地に新築移転
昭二八・七・不詳	区画整理の結果校地拡張（延二六一九坪）

総坪教　二、六一九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三八・四・一	新築	木造平屋建	不詳	
明四四・一二・一四	増築	木造平屋建	不詳	
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により大破
大一三・不　詳	補修			
昭三・三・不詳	新築		一二一	・講堂兼雨天体操場
昭二〇・五・二九	罹災			・戦災により校舎焼失
昭二一・一・二八	移転	鉄筋三階建	一、二四八	・普通教室二四、特別教室他八、その他（栗田谷国民学校へ）
昭二四・七・一五	新築	木造二階建	六四二	・教室一七、宿直室、職員室、使丁室、衛生室調理室各一
昭二六・九・七	新築	木造二階建	一一四	・教室四
昭二七・五・六	新築	木造二階建	八四	・教室二
昭二八・五・二三	新築	鉄筋二階建	五二	・教室二

総坪数　八九二坪（教室二六、その他六）

五、統併合、分離、併設状況

昭一〇・四・一	二谷青年学校併設
昭一八・五・一	二谷青年学校を三ッ沢青年学校に統合
昭二〇・一・二八	栗田谷国民学校と統合

六、学区及びその変遷

明三八・三・三一	神奈川町、青木町
大九・一・一	神奈川町、青木町、高等科は浦島小学校へ分離
大一二・四・一	二谷町、平川町、西神奈川町一—五丁目、白楽、青木町、広台太田町、下反町、斉藤分、二本榎、旭ヶ丘
昭四・一一・一	横浜市栗田谷尋常小学校設置に伴い学区縮少し、二谷町、平川町、西神奈川町一—五丁目、下反町一部、白楽となる
昭一七・四・不詳	横浜市斉藤分国民学校設置に伴い学区縮少し二谷町、平川町南部、西神奈川一—四丁目となる
昭二一・一・不詳	三谷町、二本榎、旭ヶ丘、栗田谷、平川町北部、南部、広台太田町、西神奈川町一—四丁目、下反町一部、松本町一部（横浜市栗田谷国民学校と統合に伴い旧二谷校の学区は栗田谷校の学区となる）
昭二二・五・不詳	二谷町、平川町北部、南部、広台太田町、旭ヶ丘、二本榎、西神奈川一—四丁目、斉藤分南部、白楽、中丸下反町一部（横浜市斉藤分国民学校の焼失によりその学区はそのまま栗田谷国民学校の学区となる）
昭二四・七・不詳	校名、位置変更により栗田谷小学校の学区は下反町の一部をのぞいてそのまま二谷小学校の学区となる
昭二六・九・不詳	二谷町、平川町南北、広台太田町、旭ヶ丘、二本榎、中丸、西神奈川町一—四丁目、白楽（一—八九）斉藤分町（六五—一六四）
昭二九・三・不詳	二谷町、平川町南北、広台太田町、旭ヶ丘、二本榎、中丸、西神奈川町一—四丁目、白楽分町（六五—一六八）

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	石渡幸太郎	明三八・四・一	明四一・四・二〇	退職
二	内田伊之助	明四一・四・二〇	明四四・五・三	一本松小学校へ転任
三	小泉美彌次	明四四・五・三	大五・三・七	休職
四	三好広吉	大五・三・一五	大一三・三・三一	退職
五	石黒保義	大一三・三・三一	昭四・七・三一	根岸小学校長へ転任
六	森久保詮	昭四・七・三一	昭一五・九・三〇	退職
七	安藤為次	昭一五・九・三〇	昭一七・六・六	退職
八	宮原久四郎	昭一七・六・二五	昭二二・四・一六	大正小学校長へ転任
九	北村喜代吉	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一五	岡野小学校長より就任、保土ヶ谷小学校長へ転任
一〇	細野清作	昭二四・四・一五	昭二九・四・三〇	浜小学校長より就任、新治小学校長へ転任
一一	原政吉	昭二九・五・一		瀬谷小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明三八	一五	五九九（一三）	不詳	五九九	不詳	—
大一〇	二三	一、三三六（二二）	二六六	不詳	一六四	不詳
昭二	三八	二、一六六（三六）	四一九	一二四	二六五	八四
昭五	二七	一、五五九（二五）	二四八	一四七	一三一	七六
昭一五	三二	一、六八〇（三〇）	一七四	二二八	一一二	一三九
昭一八	三五	一、八七〇（三三）	一九二	一三三	二一二	二二五
昭二〇	三五	一、六〇〇（三三）	一九八	一四〇	二二六	不詳
昭二五	三一	一、三七〇（二七）	二五五	—	一九一	—
昭三〇	三三	一、六三五（三三）	三二五	—	三〇四	—

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
二谷小学校ＰＴＡ	昭二二・一一・一〇	会員一、一五四名
二谷小学校教育振興会	昭二五・五	昭和二七年三月末ＰＴＡの成長発展により解散

一〇、その他

昭一九・八・一八　神奈川県津久井郡内郷村清光寺、正覚寺、洪福寺へ集団疎開教職員一〇名、児童一五〇名、残留職員二五、児童一、四〇〇名

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・一〇・五	学校図書館	一七	蔵書数三、八七四冊
昭二八・六・不詳	給食調理室	一五	

横浜市立幸ケ谷小学校

横浜市神奈川区幸ケ谷一六番地
電話神奈川(4)三一七〇番

一、設置状況

1　創立　昭和三年一一月三〇日
2　開校　昭和四年一月一五日
3　設置の際の概況

昭和元年、本校新設の計画がたてられ、敷地二、二七一坪を買収して昭和三年一月三〇日校舎新築工事に着手した。あけて四年一月一五日高等科が併置され、神奈川、青木、二ッ谷の三校児童の一部を収容して開校した。ただし開校後三日間は前記三校で授業し同月一八日新校舎落成と同時に移転、五月二三日開校式を挙行した。

二、校名の変遷

昭　三・一一・三〇　横浜市幸ケ谷尋常小学校
昭　四・一・一五　横浜市立幸ケ谷尋常高等小学校　高等科併置
昭一六・四・一　横浜市立幸ケ谷国民学校
昭二二・四・一　横浜市立幸ケ谷小学校

三、位置（校地）の変遷

昭　三・一一・三〇　横浜市神奈川区一六番地　一、九〇八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭　四・一・二三	新築	鉄筋コンクリート四階建	五二五	・教室二九
昭一九・一〇・一五	貸与	鉄筋		・昭和二四年六月一三日まで神奈川区役所に教室一六を貸与。
昭二二・五・一	貸与	鉄筋		・昭和二四年六月三〇日まで横浜市立青木中学校へ教室一〇貸与。
昭二五・六・一	貸与	鉄筋		・昭和三一年三月三一日まで横浜市立桜丘高等学校幸ケ谷分校へ四教室貸与。
昭二五・九・一	貸与	鉄筋		・横浜市立教育研究所へ教室三貸与現在に至る。

総坪数　一、二一一坪（教室二八、その他一〇）

五、併設分離・統併合

昭一二・四・一　幸ケ谷青年学校を併設、昭和一九年一月三一日神奈川青年校学校へ統合
昭二三・五・一　青木中学校を併設、昭和二四年六月三〇日栗田谷小学校へ移転
昭二五・六・一　市立桜ケ丘高等学校幸ケ谷分校併設、昭和三一年三月三一日廃止

六、学区及びその変遷

昭　四・一・一五　神奈川区幸ケ谷、青木通り、宮前町、栄町一・二・三四丁目、大野町、山ノ内、浜町一・二丁目、星野町、棉花町一・二丁目、橋本町、飯田町、御殿町、東神奈川、神奈川通一・二・三四丁目、金港町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	金子政次郎	昭 三・一一・三〇	昭一三・八・三一	平沼尋常高等小学校長より就任、退職。
二	佐藤　緑	昭一三・八・三一	昭一六・九・二九	退職。
三	和田 佐助	昭一六・九・二九	昭二一・二・二〇	芦穂崎国民学校長より就任、退職。
四	黒川 銃三	昭二一・二・二〇	昭二四・四・一五	大正国民学校長より就任、退職。
五	小林錠太郎	昭二四・四・一五	昭二九・四・三〇	富岡小学校長より就任、潮田小学校長へ転任。
六	藤本せつ子	昭二九・五・一		保土ケ谷小学校副校長より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
昭　五	二八	一、一七二（二三）	二〇四	七八	一三八	五四
昭一〇	三四	一、五八四（二七）	一九五	二三七	一九六	一四五
昭一五	三四	一、六〇九（二八）	二二九	二〇五	二〇三	一五八
昭一八	三四	一、五八三（二八）	二一四	二〇〇	二一六	一六〇
昭二〇	一五	五一七（一二）	三八	四四	五三	五六
昭二三	一四	五七七（一一）	一一六	—	九九	—
昭二五	二〇	七八七（一六）	一五七	—	九二	—
昭三〇	二六	一、〇七九（二三）	二二八	—	一六五	—

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
幸ケ谷小学校PTA	昭二二・五・一〇	会員 七七五名

一〇、その他

昭一九・八・一〇　神奈川県津久井郡中野村に疎開、教職員一六、生徒二六五名、残留児童初等科五〇、高等科一〇〇

昭三〇・一二・三　県主催児童創意工夫展覧会において学校賞を授与された。
昭三一・七・一四　県主催、よい歯の学校コンクールに最優良校として表彰を受けた。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一二・一二・二二	学校給食	三二	昭和二五年九月改修
昭二三・四・三〇	放送設備	四	
昭二五・九・二五	学校図書館	二五	

横浜市立浦島小学校

横浜市神奈川区浦島丘一六番地
電話子安(49)八四二六番

一、設置状況

1 創立　大正九年一月一日
2 開校　大正九年一月九日
3 設置の際の概況

大正九年一月一日、神奈川、二谷、子安の三小学校より児童一、四七三名を分離して本校が創立された。一月九日より授業を開始したが二月一一日開校記念式を挙行した。

二、校名の変遷

大　九・一・一	横浜市尋常高等浦島小学校
大一二・四・一	横浜市浦島尋常高等小学校

昭一六・四・一　横浜市浦島国民学校
昭二二・四・一　横浜市立浦島小学校

三、位置（校地）の変遷

大　九・一・一　神奈川町浦島丘一、四四〇外一九筆　坪数不詳
昭　三・三・三〇　横浜市神奈川区白幡町字亀久保九九五番地外一九筆　三、七六八坪に変更指定
昭　七・一・一　横浜市神奈川区浦島丘一六番地　（町名地番変更による）
総坪教　三、七六八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大　九・一・一	新築	木造二階建	不詳	
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により焼失
大一三・七・二	新築	木造平屋建	三一八	・仮校舎として建設
昭　三・三・一〇	新築	鉄筋三階建	一、四六二	・教室三八
昭一九・一〇・三〇	貸与			・神奈川国民学校へ移転、鶴見工業学校が使用。
昭二〇・一〇・　五	借用			・本校々舎連合軍（米軍）に接収されたため子安国民学校三階教室四を借用。
昭二〇・一〇・二九	返還			・連合軍撤退
昭二〇・一二・　一				・復帰授業開始

総坪数　一、四六二坪（教室三八、その他六）

五、統併合・分離併設状況

昭　九・四・一　横浜市立浦島青年訓練所を併設
昭一〇・四・一　横浜市浦島青年学校と改称
昭一九・一・三一　横浜市浦島青年学校を神奈川青年学校に統合
昭二一・二・二〇　横浜市神奈川国民学校及び西大口国民学校を統合
昭二二・四・一　横浜市立浦島丘中学校を併設
昭二七・二・二八　横浜市立浦島丘中学校は新築移転

六学区及びその変遷

昭　四・一・一八　学区変更あるも詳細不明
昭　五・四・一　学区変更あるも詳細不明
昭三一・八・一　神奈川区立町、鳥越、浦島丘、富家町、神明町、守屋町一丁目、神奈川通り五丁目―九丁目、稲荷町、子安通一丁目一―一〇二、亀住町一―二四、七島町、白幡町（東南西）千若町、新浦島町、出田町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	服部富次郎	大　八・一二・三一	大　九・一一・三〇	寿小学校長へ転任。
二	高城　研	大　九・一一・三〇	大一二・　五・　九	退職。
三	吉田清太郎	大一二・　五・　九	昭　六・　五・　五	二谷小学校首席訓導より就任、退職。
四	平戸喜太郎	昭　六・　五・　五	昭　九・　七・三一	神奈川女子師範附属小学校主事より就任、退職。
五	杉田栄次郎	昭　九・　七・三一	昭一四・　三・三一	退職。
六	小林　貞一	昭一四・　三・三一	昭二一・　二・二〇	山元小学校長より就任、退職。
七	大矢　雄次	昭二一・　二・二〇	昭二三・　四・三〇	神奈川国民学校長より就任、瀬谷中学校長へ転任。
八	長谷川唯一	昭二三・　四・三〇	昭二四・　四・一五	中村小学校長より就任、退職。
九	倉沢　晟哉	昭二四・　四・一五	昭三一・　八・三一	岡野中学校副校長より就任、滝頭小学校長へ転任。
一〇	和田　義男	昭三一・　九・　一		谷本小学校長より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
大　九	不詳	一、四七三（不詳）	不詳	不詳
大一〇	二九	一、六六六（不詳）	不詳	不詳

大一三	三一	一、七六八（不詳）	不詳	不詳
昭二	三四	一、八三七（不詳）	不詳	不詳
昭五	三七	一、八五六（不詳）	不詳	不詳
昭一〇	四〇	二、四四〇（不詳）	不詳	不詳
昭一四	四二	二、四七一（三九）	不詳	不詳
昭一八	四四	二、四四八（三九）	不詳	不詳
昭二〇	二三	六九七（不詳）	不詳	不詳
昭二三	三一	一、六〇四（不詳）	三三七	二八六
昭二五	五〇	二、〇三一（三八）	三九一	二四四
昭三〇	五八	二、六九一（五二）	五四五	四六三

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
浦島小学校整備協力会	昭二七・五・二三	会員一、七八四名
浦島小学校PTA	昭二四・一二・一	会員一、二九二名

一〇、その他

昭一九・八・一九	児童疎開実施、神奈川県津久井郡東照寺、光明寺、安養寺、功雲寺、来迎寺、薬師寺稲生倶楽部へそれぞれ教師二八、児童三九五名、その他縁故疎開児童八四六名、残留児童二五八名
昭二〇・一〇・二五	集団疎開先より復帰

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・四・一一	給食調理場	二〇	
昭二七・四・一四	学校図書館	三六	蔵書数　三、六〇〇冊

横浜市立子安（こやす）小学校

横浜市神奈川区新子安二〇番地
電話神奈川(4)〇九九三番

一、設置状況

1　創立　明治二七年一月一五日

2　開校　明治二七年二月　五日

3　設置の際の概況

学制の頒布により明治六年一〇月第三大区四小区の東子安、西子安、新宿（後合併して子安村となる）が子安学舎（子安三、〇七七番地、敷地一七六坪）を創立した。

明治八年六月二十九日県達により第一大区神奈川県管内第七中学区橘樹郡子安村、第八十九番子安学校と改称し、翌七月現在の子安通二ノ二三二番地（敷地四三三坪）に校舎を新築した。（校舎は現存し飯田実氏の住宅となつている）

明治十三年橘樹郡子安公村立子安学校と称した。

明治十七年学校設置区域内に白幡村を加え明治二〇年尋常小学校に改め西寺尾を学区に加えた。明治二十五年橘樹郡子安村立尋常子安小学校と改称し、明治二十七年一月子安村大字子安字入江川一、四七八番地に校舎を新築、二月五日開校した。従来この年を本校の創立と定めている。

二、校名の変遷

明二七・一・一五	橘樹郡子安村立尋常子安小学校	
明三四・九・不詳	橘樹郡子安村立尋常高等子安小学校	
明四四・四・一	横浜市尋常高等子安小学校	横浜市編入による校名改称
大九・一・一	横浜市尋常子安小学校	高等科を浦島小学校へ分離

大一二・四・一	横浜市子安尋常小学校	
昭　二・四・一	横浜市子安尋常高等小学校	高等科を設置
昭一六・四・一	横浜市子安国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立子安小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二七・一・一五	橘樹郡子安村大字入江川第一四七八番地	私有地、四五〇坪
明三六・不詳	橘樹郡子安村大字入江川第一四七八番地	私有地、八三五坪
明四六・不詳	橘樹郡子安村子安一四七八番外三筆	私有地、九三五坪
明四四・四・一	横浜市子安町一四七八番外三筆	横浜市編入により町名地番変更
大　五・不詳	横浜市子安町溝下一四七八番外三筆	
大　六・不詳	横浜市子安町溝下一四七八番外三筆	私有地、一〇一八坪
大一四・不詳	横浜市子安町溝下一九〇七番地	市有地、三九〇三坪
大一五・一二・不詳	横浜市子安町溝下一九〇八番地	森啓一郎氏所有地と校地の一部交換
昭　二・一〇・一	神奈川区子安町字溝下一九〇七番地	
昭　二・三・一〇	神奈川区子安町字溝下一九〇七番地外六筆	
昭一一・一一・一	神奈川区新子安七〇番地	町名地番変更

総坪数　四、〇六一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二七・一・不詳	新築	木造平屋建	九一	・教室三
明三〇・不詳	改築	木造平屋建	三〇	・教室二
明三四・七・不詳	増築	木造平屋建	四五	・教室二
明三五・六・不詳	増築	木造平屋建	七〇	・教室三
明四二・九・不詳	増築	木造二階建	三五	・教室二
明四五・二・一九	改築	木造平屋建	不詳	・教室四、他に職員室、宿直室、応接室、使丁室など。
大　二・九・三〇	増築	木造平家建	不詳	
大一二・一〇・一五	罹災	木造二階建	三五	・教室二、震災により使用不能のため撤去。
大一三・七・一五	改築	木造平屋建	不詳	・教室三
大一五・一二・一七	新築	鉄筋二階建	三八一	・教室二九、他に講堂一棟一六七坪。
昭　三・一二・三	増築	木造平屋建	三〇	・教室一
昭　六・八・二〇	増築	木造二階建	一四〇	・教室一一
昭二〇・五・二九	罹災	木造二階建	一四〇	・教室一一、戦災により焼失。
昭二六・九・二九	新築	木造平屋建	三一	・教室一
昭二七・六・一二	改築	木造二階建	一三九	・教室八、戦災校舎復旧一棟、便所、渡廊下

総坪数　一、五一二坪（教室三七、その他七）

五、統併合・分離・併設状況

明二七・一・不詳	補習科併設、地理、歴史、理科の大要を教え三ケ年で卒業
大一五・五・一	附属夜学部を併設、児童四年以上六年まで三八名、昭和一八年廃止
昭　三・一二・三	子安女子青年裁縫所併設
昭　九・四・一	横浜市立子安青年訓練所併設
昭一〇・一〇・一	横浜市立子安青年学校併設、青年訓練所を改称し、新に女子を加う。
昭一一・六・二四	白幡小学校創立に伴い児童五七二名分離
昭一七・四・一	西大口国民学校創立に伴い高等科生徒を分離
昭二一・一・一四	西大口国民学校戦災により生徒一八〇名統合
昭二二・五・一七	子安青年学校は三ッ沢青年学校に統合
昭二四・七・一八	港北小学校創立に伴い児童八一名分離
昭二五・五・八	西寺尾小学校創立に伴い児童四〇〇名分離

六、学区及びその変遷

明二七・一・一五	橘樹郡子安村
明四〇・不詳	子安、西寺尾、白幡
明四一・不詳	子安村
明四四・四・一	横浜市子安町、橘樹郡旭、西寺尾、大綱、白幡、（横浜市編入により学区変更）
明四五・不詳	子安町
昭三・四・一	西寺尾編入
昭五・四・二二	子安町七島の一部を分離
昭一一・六・二四	白幡校創立のため、大口の一部を分離
昭二四・七・一八	港北校創立のため、西寺尾の一部を分離
昭二五・五・八	西寺尾創立のため、西寺尾、神ノ木、神ノ木台を分離
昭三一・八・三一	神奈川区、新子安、子安台、子安通一・二・三丁目、守屋町二・三・四丁目、入江町一・二丁目、大口通（一部を除く）宝町、恵比須町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	馬場 三樹	不詳	不詳	不詳
二	梅沢 玉吉	明二八・三・不詳	明二九・一〇・不詳	退職。
三	二橋菱三郎	明二九・一一・不詳	明三三・四・不詳	退職。
四	黒江 成康	明三三・九・四	明三四・六・一四	不詳
五	福泉 義飽	明三四・七・二三	明三六・四・一七	中郡吾妻小学校長に転任。
六	八木下喜重	明三六・五・八	大一四・三・二七	旭小学校長より就任、退職。
七	中村 謙三	大一四・三・二七	昭一一・八・三一	北方小学校訓導より就任、退職。
八	石川 平八	昭一一・八・三一	昭一七・八・二六	一本松小学校教頭より就任、退職。
九	遠藤 隆景	昭一七・八・二六	昭二七・四・三〇	横浜国民学校教頭より就任、大岡小学校長に転任。
一〇	臼井 模平	昭二七・五・一		二俣川小学校長より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明二七	四	一四〇（四）	一四〇	―	二八	―
明三四	五	三五六（六）	一〇一	五二	五八	一
明四四	一三	六六一（一一）	九七	二八	五八	二三
大九	一三	七〇四（一二）	一五六	―	九三	―
大一〇	一七	七八九（一四）	一六六	―	九五	―
大一三	一九	九七七（一七）	一七六	―	一二六	―
昭二	二五	一、四七八（二三）	三二七	一一三	一八七	不詳
昭五	三一	二、〇七七（三一）	四〇七	一二〇	二三六	不詳
昭六	三六	二、四〇一（三五）	四一七	一三二	二七四	不詳
昭一〇	四七	三、一一九（四八）	五二六	二二五	三九三	不詳
昭一二	四三	二、六五九（四〇）	四一九	一九〇	三七四	一〇三
昭一五	五一	三、一六六（四七）	四四八	二二四	四三二	一九三
昭一八	四七	二、九〇九（四四）	五四三	不詳	四五三	一八二
昭二〇	三七	九八七（不詳）	二〇七	不詳	二七六	一七〇
昭二二	三八	二、二五六（二三）	四四六	―	三八五	―
昭二五	六四	二、八八五（五四）	五四一	―	二八四	―
昭三〇	五〇	二、二八三（四五）	四六九	―	三七七	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
子安小学校父母と教師の会	昭二三・四・一	会員一、六七〇名

第二国道子安小学校入口信号機設置委員会　昭二九・一〇・二三　昭和三〇年三月解散

一〇、その他

明四二・不　詳	四月より九月まで尋常一・二年二部授業実施
大　七・四・不詳	二部授業を尋常科一・二・三年に実施
昭　八・九・二九	教育研究会の研究発表会開催
昭一九・七・三一	児童疎開により教師二五、児童八二六名が港北区新吉田町、新羽町、勝田町、茅ケ崎、等八ヶ寺に分散疎開 （疎開児童数は年度により多少の変動あり）
昭二二・三・九	関東児童唱歌コンクール地方予選に第二位入選
昭二三・一〇・一九	神奈川県下児童唱歌コンクール第一位入選
昭二四・一〇・一六	全国唱歌ラジオコンクール小学校の部神奈川県コンクール第三位入選
昭二五・五・二九	横浜市教育委員会より学校経営の指定校となる。
昭二六・一〇・七	全国唱歌ラジオコンクール小学校の部神奈川県コンクール第三位入選
昭二七・一・三〇	学校経営研究発表会開催
昭二八・一〇・二五	全国唱歌ラジオコンクール小学校の部神奈川県コンクール第二位入選
昭三〇・一〇・一	全国唱歌ラジオコンクール小学校の部神奈川県コンクール第三位入選

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・一〇・不詳	図書室	三〇	図書数二、〇四五冊
昭二六・九・二九	給食調理場	三一	

横浜市立白幡（しらはた）小学校

横浜市神奈川区白幡上町二一三番地
電話子安（49）九六〇二番

一、設置状況

1　創立　昭和一一年六月二五日
2　開校　昭和一一年六月二五日
3　設置の際の概況

白幡及び篠原地区は田と畠が多く人家はまばらであつたが、昭和三年に東横線が高島町まで開通した頃から人家が激増したので、子安、浦島、大綱、二谷小学校児童数緩和のため、学校建設運動が起り、昭和一〇年三月認可され、一一年六月竣工した。児童は子安小学校より五六六名、大綱小学校一一二名、浦島小学校五〇二名、二谷小学校八四名、計一、二六四名を収容した。

二、校名の変遷

昭一一・六・二五	横浜市立白幡尋常高等小学校
昭一六・四・一	横浜市立白幡国民学校
昭二二・四・一	横浜市立白幡小学校

三、位置（校地）の変遷

昭一〇・三・一九	神奈川区白幡町上ノ谷一〇八二番地	三、〇六〇坪
昭一三・四・一	神奈川区白幡上町二一三番地	三、〇六〇坪、町名変更による。
昭二八・七・二三	神奈川区白幡向町二四〇番地	三九八坪、PTAにて購入、二八年一二月一〇日、横浜市教育委員会に寄付、三、四五八坪となる。
昭二八・五・七	港北区篠原町四六〇番地	三、三一一坪分校建設敷地として決定。三〇年三月三一日、大口台小学校として独立のため分校廃止。

総坪数　三、四五八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一一・六・二八	新築	木造二階建	一、一四九	・教室二九
昭二六・四・六	増築	木造二階建	一六〇	・教室四
昭二九・四・五	新築	木造二階建	二七六	・白幡分校として建築 昭和三〇年四月一日、大口台小学校として独立

総坪数　一、三〇九坪（教室三四、その他一二）

五、分校・分教場の設置廃止状況

昭二九・四・五　白幡分校を港北区篠原町四六〇に設置、校舎坪数二七六、児童生徒数四四七名

昭三〇・三・三一　横浜市立大口台小学校として独立のため、白幡分校廃止

六、学区及びその変遷

昭一一・六・二四　白幡町上ノ谷、向根、中道、上久保、西ノ谷、子安町大口、篠原町榎本、富士塚、仲手原、菊名町籠久保

昭一三・四・一　白幡町、大口西、大口仲町、大口通、篠原町、菊名町（町名変更による新学区）

昭一四・四・一　篠原町、菊名町は港北区に編入となる。（区制改正）

昭一七・四・一　白幡町東町内会、白幡町南町内会、白幡町西町内会は、西大口国民学校新設のため通学区域変更により分離

昭二三・三・一　神奈川区白楽編入

昭二四・七・一八　港北区菊名町、富士塚、榎本は、港北小学校新設により分離。

昭三〇・四・一　神奈川区西大口、大口仲町、大口通は、大口台小学校新設により分離。

昭三〇・四・一　篠原町台町（一三―二八）編入。

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	長谷川雷助	昭一一・六・一五	昭一三・四・九	元街尋常高等小学校訓導より就任、神奈川県視学へ転任。
二	大矢　正純	昭一三・四・九	昭一五・九・三〇	平楽尋常高等小学校訓導より就任、都田尋常高等小学校長へ転任。
三	石崎　勇蔵	昭一五・九・三〇	昭二二・四・三〇	青木尋常高等小学校訓導より就任、池上国民学校長へ転任。
四	川田　公助	昭二二・四・三〇	昭二三・八・三一	立野国民学校長より就任、神奈川区教育課長へ転任。
五	大塚　喜作	昭二三・九・三〇	昭二九・四・三〇	杉田国民学校教頭より就任、西前小学校長へ転任。
六	新倉　正彦	昭二九・五・一		磯子小学校副校長より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
昭一一	三二	一、二六四（二〇）	一、〇八六	一七八	―	―
昭一五	三七	二、〇八五（三二）	三六六	一〇六	二三二	二三二
昭一八	三九	二、一五三（三三）	三八〇	一二一	二九七	一一四
昭二〇	三五	一、七一九（三〇）	二四三	八八	二一三	五六
昭二二	三七	一、九四二（三三）	四一〇	―	三〇九	―
昭二五	四八	二、〇一六（四三）	四一二	―	二四三	―
昭三〇	三七	一、七〇九（三二）	三二三	―	三〇四	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
白幡小学校後援会	昭一一・七・一八	昭和二四年四月二八日、PTAに発展的解消。
白幡小学校PTA	昭二三・三・三一	会員一、四〇〇名

一〇、その他

昭一二・四・一　尋常一年四学級、教室不足のため二部授業を行う。

昭一五・四・一　昭和十九年八月まで尋常一・二年二部授業を行う。

昭一九・八・二八　港北区下市ヶ尾町朝光寺、東福寺へ児童疎開、教職員七、児童八四名、残留学級初等科七、又、同日、港北区川和町の瑞雲寺、妙蓮寺へ、教職員一〇、児童九七名が疎開、残留学級初等科四学級、港北区池ノ辺町福聚院へは教職員四、児童三八名が集団疎開、残留学級初等科二学級、高等科四学級、昭和一九年九月三〇日、東福寺班を廃止、下谷本町谷本小学校に移す。

昭二〇・一〇・二〇　集団疎開引揚げ。

昭二五・一一・二一　子供郵便局関東地区代表として大蔵大臣及び日本銀行総裁より表彰された。

昭二九・一一・三　野毛山遊園地衛生大会に入賞。

昭三〇・九・一　全国音楽ラジオコンクール横浜地区及び県コンクール優良賞を受けた。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二三・九・一	学校図書館	二六・〇	旧工作準備室を利用する。昭和三〇年七月一三日、旧理科室を改造して図書館とする。坪数二六となる。
昭二六・四・六	子供郵便局	七・五	
昭二六・五・三	給食場	二一・八	市教育委員会より補助金二七万円を受けて新築、二九年八月一二日、増築二一・八坪となる。

横浜市立神橋（かみはし）小学校

横浜市神奈川区六角橋町四四七番地
電話子安（49）九四四九三番

一、設置状況

1　創立　明治三三年五月
2　開校　明治三三年五月
3　廃校　大正九年一一月　　城郷小学校の分教場となつたため
4　復活　昭和二年四月一日
5　設置の際の概況

神奈川県橘樹郡城郷村立岸根小学校の分教場として明治一九年一二月設置した。校舎がない為六角橋西町八二四宝秀寺の庫裏を借り校舎に使用、児童数は六〇人位で六角橋、神大寺両字の子弟を教えた。校舎の建設は明治二八年八月に起工し、翌年一二月落成、明治三三年五月独立して、尋常神橋小学校と称し、神大寺、六角橋を学区とした。大正九年一一月、城郷尋常高等小学校の分教場となり、昭和二年四月一日、旧城郷村は横浜市に編入され、横浜市立神橋尋常小学校と称し、独立した。

二、校名の変遷

明一九・一二・不詳	神奈川県橘樹郡城郷村立岸根小学校分教場	
明三三・五・不詳	神奈川県橘樹郡城郷村立尋常神橋小学校	
大九・一一・三〇	城郷尋常高等小学校神橋分教場	
昭二・四・一	横浜市神橋尋常小学校	旧城郷村が横浜市に編入
昭一四・四・一	横浜市神橋尋常高等小学校	高等科併設
昭一六・四・一	横浜市神橋国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立神橋小学校	

三、位置（校地）の変遷

明一九・一二・不詳	橘樹郡城郷村六角橋寺下、	坪数不詳	宝秀寺の庫裏を借用、同日、宝秀寺の隣接地一〇〇坪位を借用。
昭三・七・二七	神奈川区六角橋町四四七	二六三六	現在の場所に当る地を借用。
昭一六・五・不詳	神奈川区六角橋町四四七	三一二	学校園として隣地を借用。
昭二九・六・不詳	神奈川区六角橋町四四七	三九五	校地増加（借地）図書館及び教室建設

総坪教　三、三四三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二九・一二・不詳	新築	木造平屋建	四〇	・教室二、宝秀寺の隣りへ創設
昭三・七・二七	新築	木造二階建	七一六	・教室一四
昭七・五・三一	増築	木造二階建	一一二	・教室六
昭一四・一・一五	増築	木造二階建	一二一	・教室六
昭二〇・四・二四	罹災	木造二階建	七一六	・戦災により焼失
昭二一・五・五	増築	木造	四四七	・教室一四、戦災により焼失したものの補充
昭二一・五・五	貸与			・六角橋中学校に教室九
昭二二・四・一	貸与			・六角橋中学校に教室一一
昭二四・三・三	罹災			・火災により建坪九一坪教室四を焼失
昭二四・四・五	返却			・六角橋中学校新築移転のため教室一一返却された。
昭二五・五・八	増築	木造二階建	一一一	・教室四、火災により教室四焼失した校舎の補充
昭二六・三・二五	増築	木造二階建	一八五	・教室六
昭二七・三・二八	増築	木造二階建	一一六	・教室四
昭二八・三・二五	増築	木造二階建	一二四	
昭二八・一二・七	罹災	木造二階建	四六〇	・教室一六、戦災で残つた校舎全部、図書室を含む。
昭二九・六・不詳	増築	木造二階建	一七四	・教室六、火災で焼失した校舎の補充
昭二九・九・不詳	増築	木造二階建	一四九	・教室四、バラック校舎を全部取こわし増築
昭二九・一二・四	新築	木造平屋建	五七	・ＰＴＡ及び地元の有志協力により図書館を新築
昭三〇・四・一一	増築	木造二階建	一六四	・教室六、校舎不足、児童数激増による。

総坪数　九八一（教室二三、その他七）

五、統併合・分離・併設状況

昭一七・三・三一	斉藤分国民学校新設により西神奈川通町、仲町及び斉藤分の一部と六角橋町南町の一部、約五〇〇名が分離、昭和二一年、戦災により同校焼失のため分離した児童は又元に帰る。

六、学区及びその変遷

明三三・一二・不詳	橘樹郡城郷村、神大寺、六角橋二字
昭二・九・一	神奈川区六角橋町全部、神大寺町、片倉町
昭四・一・一五	六角橋町全部、神大寺町、片倉町、西神奈川五丁目の一部
昭四・四・九	六角橋町全部、神大寺町、片倉町、篠原町の一部
昭七・四・一	六角橋町全部、神大寺町、斉藤分一―六四、西神奈川全部
昭一七・三・三一	斉藤分町一―六四、西神奈川町五丁目、斉藤分国民学校へ分離
昭二一・五・一	斉藤分国民学校廃校により斉藤分町及び西神奈川町五丁目編入

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	木村一三郎	明三三・五・不詳	大九・一一・不詳	分校場となつたため本校へ復帰
二	落合　庄作	昭二・七・二六	昭六・五・五	青木小学校訓導より就任、退職。
三	池沢　哲二	昭六・五・五	昭一五・九・三〇	本町小学校訓導より就任、退職。
四	大島　芳造	昭一五・九・三〇	昭二四・四・一五	日野小学校長より就任、退職。
五	平本　志伸	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	西中学校教頭より就任、稲荷台小学校長へ転任。
六	矢ヶ崎きぬ	昭三一・九・一		三ッ沢小学校長より就任。

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
昭五	一四	八〇六（一二）	不詳	―	一〇〇	―
昭一〇	二三	一、三五九（二二）	不詳	―	二〇二	―

昭一五	三三	一、九〇二（不詳）	不詳	不詳	二六六	一一七
昭一八	三一	一、七八二（二八）	不詳	不詳	二三五	一二〇
昭二〇	二四	不詳（不詳）	不詳	不詳	二〇九	七一
昭二二	二九	一、七三〇（二九）	不詳	―	二八九	―
昭二五	三九	二、〇四二（三七）	四一八	―	二五六	―
昭三〇	五二	二、三六八（四六）	四九三	―	四〇六	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
特別整備後援会	昭二二・四・不詳	会員一七〇〇名、昭和二四年三月廃止
焼失復興会	昭二四・六・不詳	焼失した四教室の設立並びに備品の購入、会員二三〇〇名、昭和二五年三月解散
校地拡張委員会	昭二七・一・不詳	校地の拡張、門、扉、垣根の整備、会員二三〇〇名、昭和二七年一月解散
焼失復興促進会	昭二九・一・不詳	焼失した図書館の再建及び備品の整備、会員二五〇〇名、昭和二九年一〇月解散
神橋小学校ＰＴＡ	昭二四・四・一	会員二、三〇〇名

一〇、その他

昭一九・七・三〇	縁故疎開の出来ない三年生以上は全部、港北区中山へ集団疎開、教職員一二名、児童一二〇人位
昭二〇・五・三〇	津久井郡湘南村へ教職員一〇、児童一五〇名位集団疎開
昭二六・五・一〇	図書館及び資料室、聴視覚教室の完成
昭二八・二・二七	神奈川県学校図書館コンクールに於て表彰受彰。
昭二八・一二・七	教室の不足により分散教室にて授業を行う。六角橋プール、教会、香蘭幼稚園、斉藤分の浦賀ドック寮六角橋中学校の五ケ所二年から五年まで二部授業一年生だけ三部授業（昭和二九年六月まで）

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・五・不詳	給食場	二二	
昭二九・一二・不詳	図書館	五七	蔵書数約七、四〇〇冊

横浜市立池（いけ）上（うえ）小学校

横浜市神奈川区菅田町一三九三番地
電話　小　机　五　二　番

一、設置状況

1 創立　昭和二年四月一日
2 開校　昭和二年四月一日
3 設置の際の概況

本校の前身は橘樹郡城郷尋常高等小学校（現在の横浜市立城郷小学校）の菅田仮教場で、菅田、羽沢、三枚の尋常科四年以下の児童を収容し職員三名三学級で授業を続けていたが昭和二年四月一日城郷村が横浜市に編入されるにおよんで菅田仮教場も市に移管され、同日付をもつて横浜市立池上尋常小学校として開校した。

しかし校舎は明治九年に建てられた老朽校舎だつたため、市では新校舎建設を計画、菅田町、羽沢町、三枚町のほぼ中央である菅田町池上に校地を定め、ただちに工事に着手した。学区民は新校舎建設を喜び整地作業には進んで勤労奉仕し昭和三年四月着工以来僅かに六ケ月余を費し同年一一月竣工をみた。新校舎落成と共に仮校舎から移転し同年一二月一日落成式を挙げ、この日をもつて本校創立記念日としている。

二、校名の変遷

昭　二・四・一	横浜市立池上尋常小学校	橘樹郡城郷村が横浜市に編入されたため創立
昭一六・四・一	横浜市池上国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立池上小学校	

三、位置（校地）の変遷

昭 二・四・一　横浜市菅田町一六七六番地　二二八坪（借地）
昭 三・一一・一〇　横浜市神奈川区菅田町一三九三番地　一、五九五坪新築のため移転
昭三〇・二・一　横浜市神奈川区菅田町一三九〇番地　五四五坪増築のため拡張
総坪数　二、一四〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭 二・四・一	転用	木造平屋建	九〇	・教室四、明治九年四月創立の菅田学校校舎を使用
昭 三・一一・一〇	新築	木造平屋建	二八〇	・教室八
昭三〇・二・一	増築	木造平屋建	七五	・教室三

総坪数　三五五坪（教室一一、その他四）

五、学区及びその変遷

昭 二・四・一　神奈川区菅田町、羽沢町
昭 四・四・一　神奈川区三枚町一九八以上を編入

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	鈴木 菫蔵	昭 二・七・二六	昭 四・一〇・二三	根岸尋常小学校より就任、末吉尋常小学校へ転任。
二	山下 平吉	昭 四・一〇・二三	昭一二・八・三一	平楽尋常高等小学校より就任、川島尋常高等小学校へ転任。
三	大塚 光徳	昭一二・八・三一	昭一六・三・三一	宮谷尋常高等小学校より就任、末吉尋常小学校へ転任。
四	山本 逸義	昭一六・三・三一	昭一七・八・二六	白幡尋常高等小学校より就任、三ッ沢国民学校長へ転任。
五	富田 茂雄	昭一七・八・二六	昭二二・四・三〇	三ッ沢国民学校より就任、三ッ沢青年学校へ転任。
六	石崎 勇蔵	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一五	白幡小学校より就任、退職。
七	飯田 一寿	昭二四・四・一五	昭二七・四・三〇	川和青年学校より就任、退職。
八	西ヶ谷輝夫	昭二七・五・一		折本小学校より就任。

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭 二	四	一二〇（四）	一二〇	―	創立当時尋四以下
昭 三	八	二一三（六）	三六	二二	学区変更
昭 五	八	二〇六（六）	二二	二六	
昭一〇	八	二二五（六）	三九	三一	
昭一五	九	二五三（六）	四九	三六	
昭一八	八	二五八（六）	四九	四〇	
昭二〇	九	二七五（六）	五一	四七	
昭二二	九	二九一（六）	五八	五三	
昭二五	一〇	三〇七（七）	六五	四六	
昭三〇	一三	四三一（一一）	一〇二	七二	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
池上小学校ＰＴＡ	昭二三・五・一	会員四五五名

九、その他

昭二九・一二・二三　池上小学校子供銀行神奈川県知事より表彰された。

一〇、その他の他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二四・九・一	給食調理室	七

横浜市立西寺尾小学校

横浜市神奈川区西寺尾町二八〇番地
電話神奈川(4)三二四五番

一、設置状況

1 創立　昭和二五年四月一日
2 開校　昭和二五年五月八日
3 設置の際の概況

終戦後、子安小学校への通学児童は次第にその数を増し、昭和二三年度には収容児童数二、二〇〇名を突破し四年まで二部授業を実施して教室不足を補うという現状だつた。このままでいくと昭和二五年度には収容能力も飽和点に達することは火をみるより明らかで、児童教育上憂うべき状態となつた。そこで学区民一丸となつて小学校新設を市に陳情し、昭和二四年八月二日ようやく子安方面校新設が市会で議決された。同年一一月三〇日に全子安地区の有志により建設委員会が結成され、校地、校舎の建設に地元民の絶大な支援と協力とによつて創立した。

二、校名の変遷

昭二五・四・一　横浜市立西寺尾小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二五・四・一　横浜市神奈川区西寺尾町二八〇番地　二、三五九坪
昭二七・一一・一九　横浜市神奈川区西寺尾町二八〇番地　三六一坪
総坪数　二、七一九・五三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二五・四・一九	新築	木造二階建	一四九	・教室五
昭二六・二・二三	増築	木造二階建	一四八	・教室八
昭二七・四・二五	増築	木造二階建	二二	・教室二
昭二八・五・二〇	増築	木造二階建	四〇	・教室二
昭二九・五・二九	増築	木造二階建	二四	・教室二
昭三〇・三・二八	増築	木造二階建	三八	・教室二

総坪数　八二八坪（教室二一、その他七）

八、学区及びその変遷

昭二五・・四一　神奈川区西寺尾町、
昭二六・四・一　神奈川区神ノ木台、神ノ木町（校舎増築に伴い更に子安小学校の学区のうち前記二町が本校学区に編入）

九、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	小泉 俊策	昭二五・四・一	昭三一・七・二六	潮田小学校より就任、死亡退職。
二	小杉 幹夫	昭三一・九・一		中川小学校長より就任。

一〇、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二五	一三	四〇一（一〇）	八一	五七
昭三〇	三二	一、四一八（二九）	二九一	二三三

一一、学校協力団体

団体名	発足年月日	
西寺尾小学校建設実行委員会	昭二四・一一・三〇	新設工事に協力、昭和二五年七月解散
西寺尾小学校ＰＴＡ	昭二五・四・一	会員二六七名

西寺尾小学校増設実行委員会　昭二五・一一・二七　昭和二六年三月三一日解散

一三、その他

昭二九・一一・一九　昭二九年度健康優良校として神奈川県教育委員会より表彰された。

一四、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・一・一〇	学校図書館	七六	ＰＴＡ会員並びに地元の有志の寄付により一六八万円で完成、蔵書数約三、〇〇〇冊

横浜市立大口台（おおぐちだい）小学校

横浜市港北区篠原町四六〇番地
電話子安（49）九七九八番

一、設置状況

1　創立　昭和三〇年四月一日

2　開校　昭和三〇年四月一日

3　設置の際の概況

昭和二九年四月一日横浜市立白幡小学校白幡分校として開校、西大口、大口仲町、大口通の三町の三年以下の児童四四九名を収容して授業を開始した。昭和三〇年四月一日には白幡小学校分校から独立して横浜市立大口台小学校として発足した。

二、校名の変遷

昭三〇・四・一　横浜市立大口台小学校

三、位置（校地）の変遷

昭三〇・四・一　横浜市港北区篠原町四六〇番地　三、三一一坪　市有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二九・四・五	新築	木造二階建	一五三	・教室六、横浜市立白幡小学校分校設置により新築された。
昭三〇・四・一九	新築	木造二階建	一四一	・教室六
昭三一・七・一一	新築	木造二階建	一三三	・教室八

総坪数　七六一坪（教室二〇、その他六）

八、学区及びその変遷

昭三〇・四・一　港北区西大口、大口仲町、大口通（横浜市立白幡小学校分校当時の学区をそのままひきつぐ）

九、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	加藤　房治	昭三〇・四・一	白幡小学校副校長より就任。

一〇、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭三〇	二三	九六一（二二）	一八八	一五六

一一、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大口台小学校ＰＴＡ	昭三〇・五・二一	会員八四〇名

大口台小学校整備後援会　昭三一、五・一九　会員一、五三〇名

一三、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・四・一	給食場	二二	分校当時のものを転用、昭和三〇年五月増改築
昭三一・七・一二	図書室	一〇	増築校舎完成と同時に予備室を図書室に転用して開設、蔵書数四五〇冊

横浜市立東（あづま）小学校

横浜市西区東ヶ丘五九番地
電話長者町(3)四八四六番

一、設置状況

1　創立　明治三八年三月三一日
2　開校　明治三八年四月　一日
3　設置の際の概況

明治三十八年、従来の小学校の高等科を分離し、新たに市内に、第一から第六まで六個の高等小学校が設立され、市費により経営されることになつた。本校はその中の一つで、第二高等小学校として創立された。

開校式は六高等小学校合同で明治三九年四月一一日、第一、第二高等小学校の境界塀を撤去し、両校の運動場を併せて、全児童を集合させ市原市長により行われた。本校はこの日を創立記念日と定めている。

明治四十年、小学校令の一部改正により、高等科は尋常小学校に併置されることになり、四十一年四月本校は尋常高等南吉田小学校と改称された。

二、校名の変遷

明三八・四・一	横浜市第二高等小学校	
明四一・四・一	横浜市尋常高等南吉田小学校	単独の高等小学校廃止により尋常科を併設のため校名改称
明四四・四・一	横浜市尋常第一南吉田小学校	
大一二・四・一	横浜市南吉田第一尋常高等小学校	
昭　二・四・一	横浜市東尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市東国民学校	

昭二二・四・一　横浜市立東小学校

三、位置（校地）の変遷

明三八・四・一	南吉田町字四ッ目七六七番地	坪数不詳
明四四・四・一	右同	坪数不詳
昭　二・三・二二	中区南太田町字東耕地二一二三番地	二、九八五坪

総坪数　二、九八五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三八・四・一	借用		不詳	・吉田小学校に本部をおき、吉田、寿、石川の三校に分散授業
明三八・九・一	新築	木造二階建	四〇〇	・教室二四
明四一・三・三一	増築	木造平屋建	五五	・教室二
大一〇・四・一	増築	木造平屋建	六五	・教室三
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により全焼
大一二・一一・一五	借用	木造平屋建	一二〇	・教室七
大一三・四・一七	新築	木造二階建	二八七	・教室二二
大一四・四・一〇	改築	木造平屋建	八〇	・教室四
昭　二・三・二二	新築	鉄筋三階建	一、一五五	・教室二九
昭一九・九・二五	借用	鉄筋三階建	不詳	・吉田国民学校の一部を借用
昭一九・九・二五	貸与			・市役所に二〇年五月二九日まで
昭二〇・五・二九	罹災	鉄筋三階建	一、一五五	・戦災
昭二一・八・二〇	改修	鉄筋三階建	三九四	・教室五（校舎が戦災により使用不能なので一階を改修）
昭二二・一一・三〇	改修	鉄筋三階建	一、一五五	・教室二九（同じく二、三階を改修）
昭二四・七・八	増築	木造二階建	三〇〇	・教室六

総坪数　二、五八六坪（教室三二、その他八）

五、分教場の設置、廃止状況

大一二・一〇・一八　太田分教場を三春台四二番地に設置、校舎坪数六〇坪、教室数二、児童四五八名
大一二・一一・一五　太田分教場全部引上げる
大一二・一一・一五　吉岡町分教場を曙町三丁目に設置、校舎坪数一二〇坪、教室七、児童一六八名
大一三・四・一七　吉岡町分教場を廃止

六、統併合、分離、併設状況

明四四・四・一　尋常高等第二日枝小学校併設、尋常吉田小学校より尋常二年以上各学年男女二学級宛一〇学級を併合
大一五・七・一　南吉田青年訓練所第一分所併設
昭　二・一二・二一　老松尋常高等小学校舎新築のため尋常六年二学級併設
昭　二・四・一　東青年訓練所併設
昭一〇・四・一　横浜市立東青年学校併設
昭二二・五・一　老松中学校併設
昭二五・一一・二〇　横浜市役所反町移転につき老松中学校分離し元老松小学校舎に復帰

七、学区及びその変遷

明三八・四・一　吉田町、伊勢佐木町、羽衣町、不老町、松影町、石川町、根岸町、南吉田町、南太田町、日の出町
明四四・四・一　吉田町、伊勢佐木町、羽衣町、南吉田町、南太田町、日の出町、長者町一、二、三、四丁目、足曳町、久方町、賑町、若葉町各一丁目
大一二・四・一　吉田町、伊勢佐木町、羽衣町、南吉田町、南太田町、日の出町、長者町一、二、三、四丁目、足曳町、久方町、賑町、若葉町各一丁目、吉岡町（現曙町）
昭　二・一一・二四　南太田町の内東耕地、谷原耕地（自二〇六〇　至二一一〇）二二六五、二二八八、日の出町三丁目、初音町一、二、三丁目、霞町一、二丁目、英町一、二丁目、三春台一、二丁目、黄金町一、二、三丁目、清水町、末吉町一、二、三、四、五、六丁目、長島町、一、二、三、四、五、六丁目、南吉田町の内北五ッ目の六二

	八、南五ッ目、吉岡町電車通以北一丁目、二丁目、三丁目、若葉町二、三丁目、賑町二丁目、雲井町二丁目足曳町二丁目、久方町二丁目、駿河町
昭一九・四・一	西区霞ヶ丘、赤門町二丁目、東ヶ丘、中区伊勢佐木町五、六、七丁目、初音町一、二、三丁目、赤門町一丁目、英町、黄金町、日の出町二丁目、末吉町一、二、三、四丁目、曙町三、四、五丁目、若葉町二、三丁目
昭二二・五・一	西区霞ヶ丘、赤門町二丁目、東ヶ丘、中区伊勢佐木町五、六、七丁目、初音町一、二、三丁目、赤門町一丁目、英町、黄金町、日の出町二丁目、末吉町一、二、三、四丁目、曙町三、四、五丁目、若葉町二、三丁目 南区前里町、西仲町、白金町、三春台の一部
昭二九・三・三一	西区霞ヶ丘、赤門町二丁目、東ヶ丘、中区伊勢佐木町五、六、七丁目、初音町一、二、三丁目、赤門町一丁目、黄金町、日の出町二丁目、末吉町一、二、三、四丁目、曙町三、四、五丁目、若葉町二、三丁目

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	三留　喜之	明三八・三・三一	明三九・四・二七	尋常高等吉田小学校長より就任、休職
二	稲波　柳吉	明三九・四・二七	明四〇・九・一	尋常吉田小学校長より就任、第三高等小学校長へ転任
三	青木　林蔵	明四〇・九・一二	明四一・三・三一	三浦郡視学より就任、尋常高等戸部小学校長へ転任
四	大久保義郎	明四一・四・二五	大　五・三・一	市教育課より就任、退職
五	川戸　今吉	大　五・三・一五	大一〇・三・三一	尋常高等本町小学校訓導より就任、尋常西戸部小学校長へ転任
六	石黒　保義	大一〇・三・三一	大一三・三・三一	尋常西戸部小学校長より就任、尋常高等二谷小学校長へ転任
七	池田市三郎	大一三・三・三一	昭一二・三・三一	尋常江吾田小学校長より就任、退職
八	足立　嘉一	昭一二・三・三一	昭一五・六・一〇	浜町小学校長より就任、横浜青年学校長へ転任
九	中村　邦司	昭一五・六・一一	昭二〇・三・一九	本校首席訓導より就任、退職
一〇	原　政吉	昭二〇・三・二〇	昭二二・四・二九	山内尋常高等小学校長より就任、田奈青年学校長へ転任
一一	若林　喜助	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一五	一本松小学校長より就任、岩崎小学校長へ転任
一二	矢ヶ崎きぬ	昭二四・四・一五	昭二七・四・三〇	岩崎小学校教諭より就任、三ッ沢小学校長へ転任
一三	井上　治郎	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	大岡小学校長より就任、退職
一四	布川　正作	昭三一・九・一		日枝小学校長より就任

九、児童、教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明三九	不詳	不詳（二四）	不詳	不詳	不詳	不詳
大一〇	二九	一、五〇〇（二五）	二四〇	—	二〇八	—
大一三	二七	一、三四二（二八）	二四五	七〇	一七三	四九
昭　二	三〇	一、一八九（二五）	二五〇	七〇	一七六	六〇
昭　五	三〇	一、二〇八（二五）	二五五	七四	一五一	七一
昭一〇	三二	一、五七五（三〇）	一九〇	八〇	一八六	一五四
昭一五	三一	一、五二七（二六）	一八七	八一	二〇九	一二三
昭一八	二九	一、五七四（二七）	一五五	八〇	二三一	九三
昭二〇	二一	五四七（一四）	九〇	四一	七四	二九
昭二二	一五	六五七（一二）	一三〇	—	一〇六	—
昭二五	二五	一、〇五七（二〇）	一九五	—	一二〇	—
昭三〇	三〇	一、二六一（二七）	二七九	—	二〇九	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
東小学校後援会	昭　四・四・一	児童教育の促進と協力、昭二三・九・二八解散
東小学校父母と教師の会	昭二三・九・二九	家庭と学校の緊密、児童教育への協力、会員九七八名
東小学校講堂建設促進会	昭二八・六・一	講堂体育館建設、会員一、五六〇名
東小学校同窓会	昭三一・二・三	卒業生の親睦と向上を図り、併せて母校に対する後援と協力

一一、その他

昭一九・八・一七　児童疎開を足柄下郡元箱根村姥子秀明館へする。教職員一四、寮母、作業員一三、児童二五五名、残留者教員一三名、児童五八四名

昭二〇・四・一六　右同所へ教職員一四、寮母作業員一四、児童数三三五名

昭二〇・七・二九　右同所へ教職員一二、寮母作業員一〇、児童数一九四名

昭二三・三・一九　県知事より給食状況優良校として表彰される。

昭二七・二・五　県教育委員会より給食状況優良校として表彰される。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二七・一・一九	給食調理室	二五
昭二七・一〇・一	図書室	二〇
昭三一・八・三一	放送室	一一

横浜市立稲荷（いなり）台（だい）小学校

横浜市西区藤棚町二丁目二二〇番地
電話長者町(3)一八二二番

一、設置状況

1　創立　大正一〇年四月一日
2　開校　大正一〇年四月一日
3　設置の際の概況

戸部、西戸部、一本松、西前の四校及び橘樹郡保土ケ谷小学校より一、三四四名の児童を収容、大正一〇年四月一日より授業を開始し、七月九日開校記念式を行つた。この日を本校の開校記念日としている。

大正一二年の関東大震災には、格別の被害はなかつたが、昭和二〇年の戦災により校舎は焼失し、保土ケ谷区岩井町に工事を中止していた岩間小学校の建設予定地に移転、昭和二六年旧校地に稲荷台分校を設置、二八年稲荷台小学校として独立、岩井町より移転した。前校舎は富士見台小学校として発足した。

二、校名の変遷

大一〇・四・一	横浜市尋常高等稲荷台小学校
大一二・四・一	横浜市稲荷台尋常高等小学校
昭五・四・一	横浜市稲荷台尋常小学校
昭一六・四・一	横浜市稲荷台国民学校
昭二二・四・一	横浜市立稲荷台小学校

三、位置（校地）の変遷

大一〇・四・一	横浜市中区藤棚町六九番地	一、七八四坪
昭二・一〇・不詳	横浜市中区藤棚町六九番地	一、三五四坪
昭七・四・一	横浜市中区藤棚町一の六九番地	三、一三八坪
昭一五・九・不詳	横浜市中区藤棚町一の六九番地	二五〇坪
昭二三・四・一五	横浜市保土ケ谷区岩井町三〇七番地	三、一七九坪岩間小学校予定地へ移転
昭二六・四・一	横浜市西区藤棚町二の二二〇番地	三、四六七坪稲荷台分校
昭二七・一〇・二三	横浜市西区久保町一一二番地	四二坪
昭二八・四・一	横浜市西区藤棚町二の二二〇番地	三、五〇八坪現在の稲荷台小学校

総坪教　三、五〇八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一〇・三・不詳	新築	木造二階建	八一九	・教室二三
昭二・一〇・不詳	増築	木造二階建	一三七	・教室八

昭七・一一・一	増築	木造平屋建	八五	・教室五
昭一九・一〇・二六	貸与	木造二階建	一、一四六	・三菱青年学校及びその寮に貸与
昭一九・一〇・二六	借用	鉄筋	不詳	・西前国民学校を借用
昭二〇・五・二九	罹災	木造二階建	一、一四六	・戦災により焼失
昭二三・四・一五	改築	木造二階建	六八八	・工事中止中の校舎（岩間小学校として予定されていたもの）を改築
昭二三・一〇・三	新築	木造二階建	二二四	
昭二六・三・七	新築	木造二階建	二一八	・稲荷台分校教室六
昭二六・不詳	増築	木造平屋建	一〇	・教室六、物置
昭二七・五・一三	増築	木造二階建	一三〇	・教室四
昭二八・四・三	増築	木造二階建	一三五	・教室四
昭二九・六・二一	増築	木造二階建	二五二	・教室六
昭三〇・七・一五	増築	木造二階建	二六二	・教室五
昭三一・三・二七	増築	木造二階建	七二	・教室二

総坪数　一、〇七九坪（教室二七、その他九）

五、分校の設置、廃止状況

昭二六・四・一	稲荷台分校を西区藤棚町二の二二〇番地に設置、校舎坪数二一八坪、教室六、児童五九八名
昭二八・四・一	現在の本校となる。

六、統併合、分離、併設状況

大一二・不詳	西前小学校へ高等科の一部分離
大一三・不詳	西平沼小学校へ高等科の一部分離
大一四・不詳	戸部小学校へ高等科の一部分離
大一五・四・一	稲荷台青年訓練所併設
昭三・三・三一	西平沼青年訓練所統併合
昭五・四・不詳	残部高等科分離
昭一〇・四・不詳	稲荷台青年学校併設（昭和二〇年六月戦災により西前国民学校へ移転）

七、学区及びその変遷

大一〇・四・一	稲荷台、富士塚、境の谷、西の原、古井戸、藤棚町、浜松町、関面、塩田、反町、道上、東台、外荒具、大丸、林越、池上、大谷
昭一一・不詳	境の谷、藤棚一、二丁目、久保町、東久保町、西久保町、元久保町、浜松町、西久保町、岩井町
昭二八・四・一	境の谷、藤棚町、久保町

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	五十嵐米八郎	大一〇・三・二五	大一二・一二・二八	正修小学校長より就任、川崎小学校長へ転任
二	久芳 龍蔵	大一三・六・一三	昭四・一二・二六	岡野小学校長より就任、死亡退職
三	高田 文哉	昭五・六・二〇	昭八・九・五	保土ケ谷小学校長より就任、大岡小学校長へ転任
四	土屋 義周	昭八・九・五	昭一九・四・一〇	一本松小学校長より就任、退職
五	田川 貢	昭一九・五・二五	昭二三・五・一五	神奈川小学校副校長より就任、新治小学校長へ転任
六	松岡秋節夫	昭二三・五・一五	昭三一・八・三一	磯子小学校教頭より就任、間門小学校長へ転任
七	平本 志伸	昭三一・九・一		神橋小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
大一〇	二六	一、三四四（二一）	五五九	二五六
大一三	二七	一、五六七（二四）	三八八	三〇六
昭二	三五	一、九二三（三二）	五一九	三一八
昭五	二九	一、八五九（二七）	三九七	二一二
昭一〇	三四	二、三七九（三五）	四八五	三〇七
昭一五	四七	二、七七一（四四）	四二七	三七六
昭一八	四七	二、七〇五（四四）	四七〇	四一六

昭二〇	四四	一、三八八（二四）	二一二	二三三
昭二二	二四	一、八〇五（三一）	三三三	三一四
昭二五	四五	二、一五三（四〇）	三七四	二五八
昭二八	二四	一、〇四八（二一）	二四七	不詳
昭三〇	三二	一、四五四（二九）	二九八	二一九

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
稲荷台小学校後援会	昭二三・三・五	従来のものを継続昭和二二年七月一七日廃止
稲荷台小学校「父母と先生の会」	昭二三・七・一七	会員一、一五〇名
稲荷台小学校ＰＴＡ	昭二四・二・二四	分教場設置のため
稲荷台分教場設置期成同盟	昭二七・五・二一	戦災者共同住宅の解決と分校独立のため、昭和二九年五月一七日廃止
稲荷台小学校共同住宅対策委員会		

一一、その他

昭一九・八・一七	児童疎開を湯ヶ原温泉へ実施、教職員二一、寮母作業員二一、児童数五四〇名
昭二〇・一〇・二六	疎開復帰

横浜市立富士見台小学校

横浜市保土ヶ谷区岩井町三〇七番地
電話長者町(3)七九六九番

一、設置状況

1 創立　昭和二八年四月一日

2 開校　昭和二八年四月一日

3 設置の際の概況

本校の前身たる稲荷台小学校は昭和二〇年五月二九日戦災により焼失し、しばらく西前小学校の校舎を借用していたが、昭和二二年四月一五日現在の富士見台小学校々舎に移転した。この校舎は昭和一五年頃横浜市岩間国民学校の校舎として建築を始めたが、太平洋戦争が激しくなるにつれて建築資材の不足を来たし、工事は中止され竣工をみないまま放置されていたもので、戦後稲荷台小学校々舎として利用するため急修築したのである。昭和二六年四月一日稲荷台小学校の旧校地（西区藤棚町一ノ一二二番地）に「稲荷台小学校稲荷台分校」が設置され逐年児童数増え、内容も整備されてきたので、昭和二八年四月一日稲荷台分校は横浜市立稲荷台小学校として独立、移転し、旧校舎を富士見台小学校として本校の創立を見たのである。

二、校名の変遷

昭二八・四・一　横浜市立富士見台小学校　市教委告示第六号により稲荷台小学校を富士見台小学校と改称

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一五　横浜市保土ヶ谷区岩井町三〇七番地、三一七九坪、市有地（元横浜市岩間国民学校々地）

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二一・一一・五	改築	木造二階建	九一二	・教室二六、岩間国民学校建設の予定で昭和一六年着工したが、太平洋戦争で資材不足のため工事を中止していたものを修築した。
昭二八・四・一	貸与			・教室七、昭和二九年七月七日まで岩井原中学校に貸与
昭三〇・四・一	貸与			・教室七、昭和三〇年一一月一二日まで岩井原中学校に貸与

五、学区及びその変遷

昭二八・四・一　西区東久保町、元久保町、保土ヶ谷区岩井町（一七八以上）

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	横溝鉀一	昭二八・四・一	稲荷台小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二八	三〇	一、四一六（二六）	二〇四	四五〇	創立年度
昭三〇	二九	一、三二八（二七）	二六五	二二一	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
富士見台小学校PTA	昭二八・五・九	会員九六五名

九、その他

昭二六・四・一六　横浜市中央教材園の西区分園指定校となる

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・五・三一	給食調理室	一三	
昭二八・四・一	図書室	二〇	蔵書数一、九七〇冊

横浜市立西（にし）前（まえ）小学校

横浜市西区杉山町三丁目八八
電話神奈川(4)五九〇一番

一、設置状況

1　創立　明治四四年四月一日
2　開校　明治四四年四月一日
3　設置の際の概況

新設校舎位置が西戸部町西前一〇六九番地に決定し、明治四四年四月に起工、同年一二月に竣工、其の間西戸部小学校を借りて授業を行つたが、十二月二四日新校舎落成したのでこれに移つた。翌年二月一五日一本松小学校講堂において一本松、西前両校の落成祝賀式をあげこの日をもつて開校記念日とするにいたつた。

二、校名の変遷

明四四・四・一	横浜市尋常西前小学校
大一一・四・一	横浜市尋常高等西前小学校
大一二・四・一	横浜市西前尋常高等小学校
昭一六・四・一	横浜市西前国民学校
昭二二・四・一	横浜立市西前小学校

三、位置（校地）の変遷

明四四・四・一	横浜市西戸部町一〇六一番地外九筆	
昭　五・四・一	横浜市西区杉山町三ノ八八番地	区画整理により町名番地変更

総坪教　二、七〇一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明四四・四・一	借用			・西戸部小学校借用
明四四・一二・二四	新築	木造平屋建	一、三〇八	・教室二〇
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により校舎全焼
大一三・四・一五	新築	バラック建	三〇〇	・教室一四
大一五・九・一	増築	木造平屋建	不詳	・教室三
昭二・四・一	増築	木造平屋建	不詳	・教室一
昭四・一二・二〇	新築	鉄筋三階建	一、二九九	・教室二八
昭九・三・不詳	増築	木造二階建	不詳	・教室五
昭一六・七・七	貸与	（体操場）		・稲荷台国民学校へ昭和一八年一〇月五日まで
昭一九・一〇・二六	貸与			・稲荷台国民学校へ昭和二二年四月一五日まで
昭二〇・五・二九	羅災	木造二階建	不詳	・空襲により体操場の一部と共に焼失
昭三二・四・四	新築	鉄筋二階建	一、九六五	・教室六

総坪数　二、八四五・五坪（教室三四、その他六）

五、統併合、分離、併設状況

大　九・一二・不詳	横浜工業専修学校併設（三菱青年学校）昭和一三年四月三菱造船所内に移る
昭二〇・六・不詳	稲荷台青年学校を併設、昭和二三年三月三一日廃止
昭二二・五・一	横浜市立西戸部小学校を統合

六、学区及びその変遷

明四四・四・一	西戸部、西前、塩田、横枕、西ノ原、池ノ坂、稲荷台、山王山の一部、久保町山王山の一部、税関官舎（学区変更により一本松小学校区へ）
大一〇・不詳	久保町、稲荷台、横枕の一部、塩田の一部、稲荷台小学校開校により学区変更、又西戸部小学校より扇田町の一部入る
昭　五・四・一	西前二、三、四丁目、扇田二、三丁目、藤棚町の一部、杉山二、三、四丁目、浜松町、西戸部町、西ノ原の一部、町名変更による
昭一〇・七・一	西戸部三丁目、藤棚一丁目、町名変更による
昭二二・五・一	西戸部一、二丁目の一部、西前杉山一丁目、伊勢町三、四丁目の一部、石崎天神紅梅二丁目、西戸部小学校と統合により
昭二六・九・不詳	浜松町、西前町一、二、三丁目、杉山町、扇田町、西戸部二丁目、三丁目、藤棚町一丁目の一部、石崎町二丁目、紅梅町二丁目の一部、天神町二丁目、伊勢町三丁目、四丁目の一部

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	退・転職年月日	
一	高橋松五郎	明四四・四・二二	大一・二・六	西平沼小学校長より就任、病気退職
二	和田奈々吉	大一・二・六	大六・一〇・五	老松小学校訓導より就任、寿小学校長へ転任
三	高城　研	大六・一〇・五	大九・一二・八	市役所教育課首席書記より就任、浦島小学校長に転任
四	三見善三郎	大九・一二・八	大一三・三・三一	西平沼小学校長より就任、死亡退職
五	小山　清亮	大一三・三・三一	大一五・四・一三	神奈川県橘樹郡視学より就任、退職
六	西川　豊吉	大一五・四・一三	昭三・一〇・一九	寿小学校訓導より就任、石川小学校長に転任
七	飯島　利八	昭三・一〇・一九	昭八・八・一四	元街小学校訓導より就任、死亡退職
八	蔦田　公男	昭八・八・一四	昭一〇・一一・二六	西前小学校訓導より昇任、神奈川県視学に転任
九	猪俣　操	昭一〇・一一・二六	昭一一・六・一九	南太田小学校長より就任、神奈川県平塚第一中学校長に転任
一〇	三嶌　三郎	昭一一・六・一九	昭二一・二・二〇	神奈川県平塚第一小学校長より就任、退職
一一	板倉　外雄	昭二一・二・二〇	昭二三・四・三〇	杉田国民学校長より就任、北方中学校長に転任
一二	三輪捨三郎	昭二三・四・三〇	昭二九・四・三〇	横浜市視学より就任、退職
一三	大塚　喜作	昭二九・五・一		白幡小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明四四	不詳	不詳（一四）	不詳	―	六〇	―
大一〇	不詳	不詳（不詳）	不詳	―	一一四	―
大一三	不詳	不詳（二二）	不詳	不詳	一四八	六四
昭二	不詳	不詳（二二）	不詳	不詳	一五七	一〇九
昭五	不詳	不詳（二七）	不詳	不詳	一七三	一一六
昭一〇	不詳	二、〇二四（三二）	不詳	不詳	一九九	二二〇
昭一五	四〇	二、〇五八（三四）	不詳	不詳	二四一	三三三
昭一八	四〇	二、〇二九（三三）	不詳	不詳	二四四	二五〇
昭二〇	不詳	七五一（一八）	不詳	不詳	八七	一一一
昭二二	不詳	一、二七八（二四）	不詳	―	二五〇	―
昭二五	三七	一、七九八（三三）	二九〇	―	二六〇	―
昭三〇	四五	一、九七三（三七）	三六四	―	三一九	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
西前小学校後援会	大一二・四・一	会員一二〇〇名、昭和二三年三月三一日発展的解消
西前小学校幸福会	昭二三・四・一	会員一四〇〇名、昭和二四年六月三日解消
西前小学校PTA	昭二四・六・四	会員一四〇〇名

一〇、その他

大二・不詳	市教具展に算術教授資料、童話掛図、明治歴史教授資料を出品し、各賞状受領
大四・不詳	大正博覧会に明治歴史教授資料を出品し、銀牌を受領
昭五・六・一五	全市ドッチボール大会にて優勝
昭七・六・一九	全日本児童排球大会に高女優勝
昭一四・五・一九	逓信局長より郵便貯蓄奨励に関し感謝状を受領
昭一五・二・一五	国民貯蓄奨励に関し局長より表彰を受けた
昭一七・一〇・七	神奈川県知事より軍人援護教育に功績ありとして表彰された
昭一八・二・一一	軍人保護院総裁より軍人援護教育優良校として表彰された
昭一八・一一・二一	大日本青少年団長より貯蓄成績優秀により表彰された
昭一九・八・一九	集団疎開として神奈川県湯ケ原（小松屋、東屋、梅屋、都館、高杉別荘）へ教師一五、児童三五六名が疎開、同時に高等科一五〇名は学徒動員により工場へ勤務す。昭二〇・一一・二二全員引揚げ
昭二七・二・二三	教育委員会より給食施設完備につき感謝状をうけた
昭二七・一一・三	二六年度PTA諸施設に関し教育委員会より感謝状を受けた
昭二九・三・一二	校庭修理、足洗場、顔洗場等の施設完備につきに対し教育委員会より感謝状をうけた

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一九・七・五	学校プール	二五米×七米×一米	防火貯水兼用として後援会が建設
昭三一・一一・一八	図書室	四〇	蔵書数、二五米×七米册
昭三一・一一・一八	放送室	五	

横浜市立平沼小学校

横浜市西区平沼町五丁目一七六番地
電話神奈川(4)二八〇四番

一、設置状況

1 創立　明治三九年一〇月二七日

2　開校　明治三九年一〇月二七日

3　設置の際の概況

横浜市の発展にともない児童の増加著しく、明治三八年にいたつてようやく本校創立の議が起り、校地を当時の西平沼一、二三四五番地に決定、しかし、この土地は広漠たる塩田であつたので埋立に着手、翌三九年三月に完了、四月より校舎建築に着手されたが度重なる暴風の強襲にあい、一〇月に及んで竣工するという有様であつた。そこで前の戸部小学校を第一戸部小学校とし、本校を尋常第二戸部小学校と命名して、同月二七日に開校式をあげるに至つた。

二、校名の変遷

明三九・一〇・二七	横浜市尋常第二戸部小学校	
明四一・　四・　一	横浜市尋常西平沼小学校	小学校令施行規則の改正により、従来小学校は区費により維持されていたが、市費に改め、単独高等小学校を尋常小学校に併置し、市内二十一校の校名変更を行う。
大一二・　四・　一	横浜市西平沼尋常小学校	
大一三・　四・　一	横浜市西平沼尋常高等小校	
昭　六・　四・　一	横浜市平沼尋常高等小学校	
昭一六・　四・　一	横浜市平沼国民学校	
昭二二・　四・　一	横浜市立平沼小学校	

三、位置（校地）の変遷

明三九・一一・二七	横浜市西平沼町一ノ五番地	一、〇〇〇坪	
大　三・　三・一六	横浜市西平沼町一ノ五番地	六〇〇坪	校地拡張
昭　三・　二・　七	横浜市西区平沼町五ノ一七六番地	二、五六二坪	市有地に移転

総坪教　二、五六二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三九・一〇・二七	新築	木造平屋建	二二五	・教室七
明四二・　七・不詳	増築	木造平屋建	三五〇	・教室二
大　三・　三・一六	罹災	木造平屋建	一五〇	・校舎類焼し教室七失う
大　三・一二・一五	改築	木造二階建	七八四	・教室二〇
大一二・　九・　一	罹災	木造二階建	七八四	・教室二〇、関東大震災により二階建校舎全壊し、僅に教室四を残す。
大一二・一〇・不詳	新築	バラック建		・教室二〇
昭三　・　五・一九	新築	鉄筋三階建	一、一一〇	・教室二八
昭一九・　七・不詳	貸与			・古河電線綜合社寮として貸与
昭二〇・　八・不詳	接収			・進駐軍に接収二〇年一一月解除、講堂は二七年五月解除
昭二〇・　一・　一	貸与			・横浜市立高女に教室一三貸与、二三年八月二五日解除

総坪数　一、六三〇坪（教室三〇、その他八）

五、分校、分教場の設置廃止状況

昭二〇・一一・不詳　平沼国民学校岡野分教場を岡野国民学校に設置（岡野、南浅間町一、二年児童を収容）昭和二三年三月三一日廃止

六、統併合、分離、併設状況

明四四・一二・二六	西戸部小学校および宮ヶ谷小学校にそれぞれ児童分離
大　九・一一・不詳	岡野小学校創立により児童分離
昭　五・　三・二八	岡野小学校高等科を併合
昭一四・　六・　一	平沼青年学校併設
昭二二・　七・一七	稲荷台青年学校に併合

七、学区及びその変遷

明三九・一〇・二七	平沼町、西平沼町、仲町、材木町、尾張屋町、高島町、戸部六、七丁目、西戸部町
明四二・不　　詳	高島町一、二、三、四丁目、桜木町七丁目、花咲町一一、一二、岡野町、青木町、西戸部、石崎、桜木町七丁目、青木町内海、西戸部、扇田町、六神山を分離
昭　三・　五・一九	平沼、西平沼、高島、表高島、裏高島、高等科は上記のほか岡野、南幸、南浅間町を加える
昭二一・　五・　一	岡野町全部、南浅間町を岡野小学校休校により編入

昭二六・九・一　西平沼町、平沼町、高島通、一、二丁目、岡野町、南浅間町

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	飯島　浅吉	明三九・六・一三	明三九・一〇・五	戸部小学校訓導より就任、死亡退職
二	高橋松五郎	明三九・一〇・六	明四四・四・二六	西前小学校へ転任
三	近藤力彌二	明四四・四・二七	大　六・三・三〇	久良岐郡視学より就任、退職
四	金子政次郎	大　六・三・三一	昭　三・一〇・一八	太田小学校長より就任、幸ケ谷小学校へ転任
五	荒波　階三	昭　三・一〇・一九	昭一七・九・六	石川小学校長より就任、青木国民学校へ転任
六	坪田　英俊	昭一七・九・七	昭一八・一一・二五	青木国民学校長より就任、退職
七	大貫　正武	昭一八・一一・二六	昭二一・二・一九	平沼国民学校教頭より就任、退職
八	大塚　光徳	昭二一・二・二〇	昭三〇・二・一	滝頭国民学校長より就任、退職
九	小野口正市	昭三〇・二・二		南太田小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明三九	八	四七二（不詳）	不詳	不詳	四六	不詳
大一〇	二六	一、五一三（不詳）	不詳	不詳	一七八	不詳
大一三	二七	一、五五六（不詳）	不詳	不詳	二〇〇	不詳
昭二	三〇	一、七四四（不詳）	不詳	不詳	一九七	七七
昭五	二五	一、三四一（不詳）	不詳	不詳	一八六	一五七
昭一〇	三〇	一、五八四（不詳）	不詳	不詳	一六九	不詳
昭一五	二六	一、三四八（不詳）	不詳	不詳	一七九	不詳
昭二〇	二五	五八三（不詳）	不詳	不詳	七二	五二
昭二二	二六	一、二四六（不詳）	不詳	—	二二五	—
昭二五	三五	一、四八四（二九）	三三五	—	一九八	—
昭三〇	三九	一、七六八（三六）	二六三	—	三〇七	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
平沼小学校後援会	大一一・五・二二	
平沼小学校ＰＴＡ	昭二三・二・二七	会員九五〇名

一一、その他

昭一九・七・不詳　児童疎開により神奈川県下足柄下郡下中村へ教師一六、児童四三二名が疎開

昭二七・一一・二二　健康優良学校として県教育委員会より表彰さる

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	備考
昭一六・不詳	給食室	三〇	
昭一六・六・不詳	水泳プール	五七	四四立米
昭二三・五・不詳	学校図書館	一〇	蔵書数二三〇冊

横浜市立宮（みや）谷（がや）小学校

横浜市西区宮ケ谷一七番地
電話神奈川(4)二四六八番

一、設置状況

1　創立　明治四一年四月一日

開校　明治四一年四月一日

設置の際の概況

本校は尋常高等青木小学校の分教場であつた芝生、軽井沢の二分教場が併合して、明治四十一年四月一日創立を見たのであるが、創立当時は校舎が完成されていなかつたので、前記二分教場に児童を収容した。明治四一年六月二十八日に、青木町東軽井沢二、〇一〇に新校舎が建てられ、移転した。その日を本校の開校記念日としている。本校の前身である芝生分教場は、芝生学舎と称して明治六年に創立され、浅間町字芝生にあつた。又軽井沢分教場は、益進学校として、明治十三年以前に創立された事は判つているが、詳細不明で、青木町軽井沢にあつた。この両学校は、明治二十五年改正小学校令の施行により、橘樹郡神奈川町立尋常高等神奈川小学校分教場となり、明治四十一年二月一日、尋常第二神奈川小学校の設立により、その分教場となつた。

二、校名の変遷

明四一・四・一	横浜市尋常青木小学校	
明四二・三・一五	横浜市尋常宮谷小学校	尋常青木小学校（本校）と尋常高等青木小学校とが同じ町内にあつてまぎらわしいため改称された
明四四・四・一	横浜市尋常高等宮谷小学校	
大　九・一一・二〇	横浜市尋常宮谷小学校	
大一二・四・一	横浜市宮谷尋常小学校	
昭　二・四・一	横浜市宮谷尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市宮谷国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立宮谷小学校	

三、位置（校地）の変遷

明四一・四・一	芝生、軽井沢分教場に分散して設置した		
明四一・六・二八	横浜市青木町東軽井沢二、〇一〇―二、〇一九番地		坪数不詳
昭　三・二・一七		二、六〇八・三五坪	校舎新築のため私有地買収
昭　七・一・一	横浜市西区宮ヶ谷一七番地	町名地番改称	
昭二一・不詳		三、〇二坪	私有地買収

総坪数　二、九一〇・七〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明四一・四・一	不詳	不詳	不詳	・開校当時は芝生、軽井沢分教場に分散されていた。
明四一・六・二八	新築	木造平屋建	不詳	・教室六
明四四・七・二五	罹災	木造平屋建	不詳	・明治四四年五月六教室増築に着工したが、暴風雨のため在来の一教室をあわせて倒潰したが、更に着工し、九月三〇日竣工、教室一二となつた。
明四四・九・三〇	新築	木造平屋建	不詳	・教室七
大一二・九・一	罹災	木造平屋建	不詳	・教室九、関東大震災により三教室を残し倒潰教室の復旧の細かい事は不明であるが、十月十五日授業開始の時はバラック校舎の他、テントを張つて授業を行つた。
大一三・不詳	増築	木造平屋建	不詳	・教室一八
大一四・不詳	撤去	木造平屋建	不詳	・教室一一
昭二・不詳	増築	木造平屋建	不詳	・教室一二
昭三・不詳	増築	木造平屋建	不詳	・教室二
昭四・三・二五	新築	鉄筋三階建	一、三一〇	・教室二八
昭四・四・四	撤去	木造平屋建	不詳	・新校舎建設により三教室を取り除いた
昭一八・不詳	撤去	木造平屋建	不詳	・戦時疎開の対象として木造校舎三教室全部撤去
昭一九・一〇・六	貸与		二〇〇	・教室一一、三階全部宮田国民学校に二一年一月まで貸与、又十九年頃より日清製粉、軍、食糧

営団に各一部を貸与したが、詳細不明

昭二八・七・一五	新築	木造二階建	三一八	・教室六、宮谷分校として設立
昭三〇・四・二五	増築	木造二階建	四六五	・教室四、宮谷分校四教室を増築して教室一〇となる。昭和三一年四月一日分校独立によって分離

総坪数　一、三一〇坪（教室二四、特別教室四、その他二）

五、分校、分教場の設置、廃止状況

昭一〇・四・一	鹿島分教場	神奈川区横浜市浅間町字鹿島六七三番地に元私立隣徳尋常小学校を転用、教室五、児童二一四名
昭一六・三・三一		校舎老朽と人員が少いため鹿島分教場廃止
昭二八・七・一五	横浜市立宮谷小学校宮谷分校	横浜市西区浅間町三ノ二三七番地に設置、校舎坪数三一八、教室六、児童四三〇名にて発足、昭三〇年独立のため廃止

六、統併合、分離、併設状況

昭一五・五・三一	横浜市立宮谷青年学校	二一年廃止

七、学区及びその変遷

明四一・四・一	青木町（東軽井沢、西軽井沢、台町下、内海、南幸町、北幸町、鶴屋町）浅間町（浅間下、神明下、霜下、大新田、社宮司、鹿島、追分、大窪、隠谷戸、打越）
明四五・四・一	岡野町追加
大　四・四・一	岡野町西平沼小学校区となる
大　九・一一・二〇	青木町（台町下、鶴屋町、内海、南幸町、北幸町）浅間町（霜下、大新田、社宮司、鹿島）を岡野小学校設立のため分離
昭　五・四・一	青木町（北幸町）を岡野尋常小学校より本校に編入
昭　七・四・一	宮ケ谷、楠町、南軽井沢、北軽井沢、北幸町、浅間町（浅間下、神明下、追分、大窪、隠谷戸、打越）町名改正により変更
昭　九・四・一	浅間町（鹿島、霜下の一部）を岡野尋常小学校より編入
昭一二・四・一	北軽井沢、宮ケ谷の一部、三沢小学校学区域へ分離
昭一四・四・一	浅間町三、四丁目を岡野尋常小学校より本校に編入
昭二一・四・一	楠町、南軽井沢、北軽井沢、宮ケ谷、北幸町、浅間台、浅間町一、二、三、四、五丁目、保土ケ谷区鎌谷町
昭二二・四・一	南幸町を岡野小学校廃止のため編入
昭三一・四・一	浅間町二、三、四、五丁目、宮谷分校独立のため分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	森　豊八	明四一・四・六	明四二・三・二五	尋常高等元街小学校訓導より就任、尋常第三南吉田小学校長に転任
二	石黒　七郎	明四二・三・二五	大　三・四・八	横浜市書記より就任、退職
三	大房　正治	大　三・四・八	大一〇・三・三一	尋常高等南吉田第一小学校訓導より就任、立野小学校長に転任
四	高島　硯司	大一〇・三・三一	昭一一・八・三一	横浜小学校訓導より就任、退職
五	淺葉政五郎	昭一一・八・三一	昭一六・九・二九	末吉小学校長から就任、西戸部国民学校長に転任
六	西川金之助	昭一六・九・二九	昭二一・二・二〇	山元国民学校長から就任、退職
七	鴫志田栄作	昭二一・二・二〇	昭二二・九・三〇	北方国民学校教頭から就任、港中学校長に転任
八	臼木　芳司	昭二二・九・三〇	昭三〇・二・一	金沢小学校教頭から就任、南太田小学校長に転出任
九	松浦　政吉	昭三〇・二・二		川島小学校副校長から就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明四一	六	三八〇（六）	三八〇	―	―	―
明四四	不詳	六五八（一二）	一二三	四〇	四五	不詳

明四五	不詳	七九二（一五）	一六〇	五八	七四	三六
大四	不詳	八八〇（一五）	一六〇	五二	八八	三六
大九	不詳	一、二三四（二〇）	一九〇	不詳	五五	不詳
大一〇	不詳	六九四（一二）	一二〇	不詳	八六	不詳
大一三	不詳	七九八（一四）	一五三	不詳	一〇三	不詳
昭二	二〇	九五七（一八）	一七〇	七九	一一三	不詳
昭四	二七	一、二一一（二三）	一七三	七九	一五四	六一
昭五	二八	一、四一五（二四）	一七六	一六〇	一五一	八三
昭一〇	三四	一、九二九（三一）	三〇一	一二二	二〇六	九六
昭一二	三五	二、〇一四（三一）	三一三	一四〇	二六二	一三九
昭一五	三三	一、七七二（三〇）	三二三	不詳	二六五	不詳
昭一八	三六	一、九二四（三一）	三三一	不詳	二八〇	六一
昭二〇	三三	七九三（不詳）	一七四	不詳	一二六	六一
昭二五	四四	一、九〇〇（三八）	三六一	—	二六一	—
昭二八	四五	二、〇三一（四一）	三二六	—	三五二	—
昭三一	三七	一、六三五（三一）	三三七	—		—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
宮谷小学校ＰＴＡ	昭二四・三・五	会員一、四〇〇名
宮谷小学校後援会	大一五・四・八八	

一一、その他

明四四・四・二	二部授業を開始
大一二・九・一	関東大震災により校舎一部倒潰、児童二名死亡
昭一九・八・二一	集団疎開により神奈川県足柄下郡湯河原町に教職員一二、児童三九〇名が疎開
昭二〇・四・三〇	第二次児童疎開として同地へ教職員一七、児童三九〇名が疎開、昭和二〇年一〇月三日全員帰校

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一八・不詳	給食調理室	一五	
昭三〇・一・三一	学校図書館	三〇	蔵書数三、〇〇〇冊

横浜市立戸（と）部（べ）小学校

横浜市西区伊勢町二丁目一一五番地
電話長者町(3)四五一五番

一、設置状況

1　創立　明治一二年五月
2　開校　明治一二年五月
3　設置の際の概況

明治六年学制に従い、第一区二番組の中、戸部町、伊勢町、平沼新田尾張屋新田は聯合して戸部町（願成寺或は林光寺、或は東光寺と言い、不詳）に自彊学舎を創立した。これが本校の起因となるに至つた。

明治七年一〇月野毛町の大聖院内にあつた老松小学校の前身である敬業学舎と合同、宮川町第一〇六号地券地に校舎を新築し、敬業自彊学舎と併称した。翌八年、大聖院及び林光寺（東光寺とも云う）を仮校舎として移転、さらに明治九年野毛町第三七一号地に移転、明治九年より一一年三月の間に両学舎は合同して老松小学校となり分校を戸部に置いた。

明治一二年五月分校を分離し、七月戸部四丁目に一校を設立して、戸部学校と称した。これを本校の創立とする。開校記念日は創立月日が明治一二年五月で日が不詳のため、校舎が新築された明治一三年四月一二日とあわせ、五月一二日としている。

二、校名の変遷

明一二・七・七	戸部学校	老松小学校より分離
明二五・四・一	尋常高等戸部小学校	小学校令改正により校名改称
明三四・四・一	尋常戸部小学校	尋常戸部、高等戸部の二校に分割
明三九・六・一	尋常第一戸部小学校	尋常第二戸部小学校の設立による（現在の平沼小学校の前身）
明四一・四・一	尋常戸部小学校	高等科併置
明四四・四・一	尋常戸部小学校	高等科廃止により校名改称
大一二・四・一	横浜市立戸部尋常小学校	
大一四・四・一	横浜市立戸部尋常高等小学校	高等科併置
昭七・四・一	横浜市立戸部小学校	
昭一六・四・一	横浜市戸部国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立戸部小学校	

三、位置（校地）の変遍

明一一・三・不詳	老松学校戸部分校として戸部に置かれた
明一二・七・不詳	戸部町四丁目（以下不詳）
明二二・四・一	久良岐郡戸太村戸部町村制施行による
明三四・四・一	西戸部町一二五番地、横浜市編入のため
明三八・五・不詳	戸部町三丁目八五番地、追加買収
大一四・不詳	西戸部町反目一〇八番地、校地拡張
昭三・三・三〇	西戸部町反目九五九九番地、追加買収
昭三・九・一	中区伊勢町二丁目一一五番地、町名変更

総坪教　二、九六六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六	借用	木造平屋建		・寺院を借用、詳細不明
明七・一〇・不詳	新築	木造平屋建		・宮川町第一〇六号地
明八・不詳	借用			・宮川町大聖院林光寺内移転
明九・不詳		不詳		・官舎二棟
明一〇・不詳		不詳		
明一三・四・一	新築	木造平屋建	一五四	
明二五・四・不詳	改築	木造平屋建		
明二九・不詳	増築	木造平屋建	五五	
明三〇・七・不詳	増築	木造平屋建	三〇	
明三四・三・不詳	新築	木造二階建		
明四二・五・不詳	増築	木造平屋建		
大元・七・七	改築	木造二階建		
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により全潰
昭元・一・一五	新築	木造平屋建	一六一	
昭三・八・一三	新築	鉄筋三階建	五七〇	

総坪数　二、七四二坪（教室三一、その他八）

五、分校の設置状況

昭二六・四・一	戸部小学校一本松分校を西区西戸部町一ノ一一五番地に設置、校舎坪数一〇九坪、教室六、児童五八七名
昭二七・四・一	一本松分校は独立のため廃止

六、統併合、分離、併設状況

明一二・五・不詳	老松学校より分離
明一九・四・不詳	私立鶴鳴学校統合
大八・四・一	戸部商業補習学校併設、大正一五年四月、戸部商業専修学校と改称
大一五・七・一	青年訓練所を合併
昭一〇・一〇・一	戸部商業専修青年学校と改称、青年訓練所を併設

昭二一・三・三一	戸部商業専修青年学校を分離、稲荷台青年学校へ統合

七、学区及びその変遷

明一二・不詳	野毛村分離
明二二・四・一	伊勢町、戸部町、平沼町、仲町、材木町、高島町、桜木町、内田町、長住町、緑町、橘町、裏高島町、久良岐郡戸太村
明三四・四・一	伊勢町、戸部町、桜木町、緑町、内田町、長住町、橘町、高島町、裏高島町、平沼町、材木町、仲町、西戸部町、尾張屋町、西平沼町、入船町、表高島町
明四一・四・一	伊勢町、戸部町、桜木町、内田町、長住町、橘町、西戸部町
明四五・五・二二	西戸部町分離
昭七・四・一	石崎町一丁目、紅梅町一丁目、天神町一丁目新たに学区に加わる
昭一八・不詳	内田町、緑町、長住町、桜木町分離
昭二二・四・一五	西戸部町一、二丁目、霞ヶ丘、藤棚町二丁目、境の谷一本松小統合のため加わる。
昭二七・四・一	一本松小学校分離により霞ヶ丘、藤棚町二丁目、境ノ谷二丁目分離し、戸部町、伊勢町一、二、三丁目、御所山町、石崎町、天神町、紅梅町等各一丁目、西戸部町一、二丁目となる

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	吉見　友兄	不詳	不詳	
一	近藤　忠明	明一二・九・不詳	不詳	
二	岡田　台三	明一四・五・不詳	明一九・四・不詳	死亡退職
三	竹内　米吉	明一九・四・不詳	明二四・一〇・不詳	元街小学校長へ転任
四	辻村　得三	明二四・一一・不詳	明二五・五・不詳	退職
五	竹内　米吉	明二五・一一・不詳	明三四・三・二四	高等戸部小学校長に転任
六	小原春三郎	明三四・三・二四	明四一・三・三一	不詳
七	竹内　米吉	明四一・三・三一	明四一・五・一四	退職
八	青木　林蔵	明四一・五・一四	明四三・五・一三	東小学校長より就任、県視学へ転任
九	伊東　覚念	明四三・五・一三	昭八・九・三〇	県視学より就任、退職
一〇	斉藤　元近	昭八・一〇・二五	昭二一・二・二〇	青木小学校長より就任、退職
一一	長谷川雷助	昭二一・二・二〇	昭二三・四・三〇	蒔田国民学校長より就任、岡野中学校長へ転任
一二	足立　直寿	昭二三・四・三〇	昭二七・九・一五	磯子小学校長より就任、退職
一三	森　治三郎	昭二七・九・一五		杉田小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明一三	不詳	一三八（不詳）	不詳	不詳	｜	｜
明一四	不詳	不詳（不詳）	不詳	不詳	三	不詳
明二二	不詳	不詳（不詳）	不詳	不詳	一〇	不詳
大一〇	不詳	不詳（不詳）	不詳	不詳	三二三	不詳
大一三	不詳	一、六六三（二五）	二六四	不詳	二三二	不詳
昭二	不詳	二、一〇七（三五）	三四五	一七九	二七七	一四一
昭五	不詳	一、八二七（二八）	三一七	一三三	二一二	九九
昭一〇	三七	一、五九二（二五）	二六七	不詳	二五四	不詳
昭一五	三一	一、六四二（二八）	二八四	不詳	二四四	不詳
昭一八	三三	一、七二九（三〇）	不詳	不詳	二六六	不詳
昭二〇	一六	六〇六（一二）	不詳	不詳	一一二	不詳
昭二三	三二	一、六六四（二七）	不詳	｜	二八五	｜
昭二五	四二	一、九〇一（三七）	二八九	｜	二七三	｜
昭二七	三三	一、五一七（二八）	一八五	｜	二七一	｜
昭三〇	三六	一、五八六（三〇）	三二〇	｜	二八一	｜

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
戸部小学校PTA	昭二三・不詳	会員八九三名

一一、その他

明四四・三・三一	教授訓育の成績が優良と認められて神奈川県知事から奨励旗を受けた
昭一五・二・一一	文部大臣松浦鎮次郎氏並に学校体操表彰会長平沼亮三氏より体操の振作に努力したる旨を以て表彰を受けた
昭一九・八・二六	児童疎開により足柄下郡元箱根村駒ヶ岳ホテルへ教師九、初三以上児童一七〇名が疎開す。亦同日足柄下郡箱根村橋本屋旅館へ教師八、児童二〇〇名が疎開
昭二〇・五・不詳	駒ヶ岳分団、橋本分団統合、戦争苛烈になるに及んで半強制的に縁故疎開を勧め児童一六名に減少、昭和二〇年一〇月二九日疎開より帰校

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一九・七・二五	プール	三〇	防火用水施設として一二・五米×七・五米×一・〇米
昭二五・九・一三	給食場	一八	
昭二九・六・一九	図書館	二七	蔵書数一、五〇〇冊

横浜市立一本松小学校

横浜市西区西戸部一丁目一一五番地
電話長者町(3)七〇三四番

一、設置、廃止状況

1 創立　明治四四年四月一日
2 開校　明治四四年四月一日
3 休校　昭和二二年五月一日
4 復活　昭和二七年四月一日
5 設置の際の概況

西戸部町字一本松八四六番地外二筆字大松久保八四二番の二外三筆に校地を設定、明治四四年四月一日開校するにいたつた。但し当時は校舎設立間に合わず一時戸部、老松、太田、本町の四小学校を借りて開校、明治四五年一月二七日新校舎落成におよび独立校としての面目を一新するにいたつた。昭和二二年校舎が戦災により焼失したので休校した。昭和二二年戸部小学校に統合され昭和二六年四月一日旧校地に戸部小学校一本松分校として設置され昭和二七年四月一日独立復活した。

二、校名の変遷

明四四・四・一	横浜市立尋常高等一本松小学校
大一二・四・一	横浜市立一本松尋常高等小学校
昭　五・四・一	横浜市立一本松尋常小学校
昭一六・四・一	横浜市一本松国民学校
昭二二・四・一	横浜市立一本松小学校
昭二二・五・一	横浜市立戸部小学校へ統合
昭二六・四・一	横浜市立戸部小学校一本松分校
昭二七・四・一	横浜市立一本松小学校

三、位置（校地）の変遷

明四四・四・一	横浜市中区西戸部町字一本松八四六番地
昭一九・四・一	横浜市西区西戸部町一丁目一一五番地
昭一九・不詳	横浜市西区西戸部町一丁目一〇四番地、拡張

総坪数　一、〇九五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明四四・四・一	借用			・戸部、老松、太田、本町の各校を借用

明四五・一・二七	新築	木造二階建	不詳	
大一三・不詳	修築	木造二階建		・関東大震災により修理
大一五・四・一四	新築	木造平屋建	一六二	・屋内体操場として設立
昭一二・不詳	改築	木造二階建	不詳	・教室二四、老朽校舎のため改築
昭二〇・五・二九	罹災	木造二階建	九八九	・戦災により校舎全焼
昭二〇・五・三〇	借用	鉄筋		・戸部小学校を借用
昭二六・三・三一	新築	木造二階建	二九九	・教室六
昭二七・六・五	増築	木造二階建	一七七	・教室五
昭二八・四・二三	増築	木造二階建	七一	・教室二
昭二九・三・一三	新築	木造平屋建	八三	
昭二九・四・一二	増築	木造二階建	五三	・教室二
昭三〇・四・五	増築	木造二階建	六六	・教室二

総坪数　七四八坪（教室一七、その他一二）

五、統併合、分離状況

昭二二・五・一	戦災により校舎焼失のため戸部小学校に統合
昭二七・四・一	校舎新築に及び戸部小学校より分離

六、学区及びその変遷

明四四・四・一	中区西戸部町字一本松八四六外二筆、字大松久保八四二の二外三筆
昭一九・四・一	境之谷、藤棚町二丁目、西戸部一丁目、二丁目、霞ケ丘
昭二七・四・一	西区境之谷、藤棚町二丁目、西戸部町一丁目、二丁目、霞ケ丘
昭三一・八・不詳	西区境之谷一―五三、藤棚町二丁目一七七―一九七、西戸部町一丁目七六―一一六、西戸部町二丁目一九三―二五一、霞ケ丘一―一〇、三〇―一一〇

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	竹内　米吉	明四四・四・一	大一二・五・九	不詳
二	高木　研	大一二・五・九	大一四・三・一〇	不詳
三	本田　恵学	大一四・三・一〇	大一四・八・一五	不詳
四	土屋　義周	大一四・八・一五	大八・九・五	本校教頭より昇任、稲荷台尋常小学校長へ転出
五	西方　貞直	昭八・九・五	昭一七・八・二六	岩崎尋常小学校長より就任、退職
六	北川　若松	昭一七・八・二六	昭一九・九・二二	本町国民学校教頭より就任、横浜市視学へ転出
七	若林　喜助	昭一九・九・二三	昭二二・三・三〇	本校教頭より昇任、東小学校長へ転出
八	阿部　三千	昭二七・四・一	昭三一・八・三一	戸部小学校副校長より就任、帷子小学校長へ転出
九	神谷鉦太郎	昭三一・九・一		鶴見小学校副校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科

（昭一七年前は書類焼失により不明）

昭一八	二七	一、二〇四（二四）	二〇四	不詳	不詳	不詳
昭二七	一九	八五〇（一七）	一二七	―	本校は五年生まで収容卒業者なし	
昭三〇	二五	一、一八一（二三）	二六五	―	一六三	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
一本松小学校ＰＴＡ	昭二七・四・一二	会員六二五名

一〇、その他

昭一九・八・二〇	児童疎開により神奈川県足柄下郡湯河原町（楽山荘、中屋、末広屋、成多屋）等へ教師六、児童二四九名が疎開、同時に六三三名を縁故疎開させた。
昭二〇・一〇・二八	湯河原町より児童、教師共に復帰

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二九・三・一三	図書館	八三	図書数二、八〇〇冊

横浜市立浅（せん）間（げん）台（だい）小学校

横浜市西区浅間町三丁目二三七番地
電話神奈川(4)六八四八番

一、設置状況

1　創立　昭和三一年四月一日
2　開校　昭和三一年四月一日
3　設置の際の概況

昭和二二年度における宮谷小学校在籍児童数は一三〇〇名であったが、新学制実施に伴い隣接岡野小学校が中学校に転換され、その学区域の一部編入と戦後平和が回復されるに従い、疎開先から帰浜するもの又は新たに転入する者激増し、児童数は年々増加、昭和二六年度には二、一〇〇名となり、二部授業は四年まで二八学級に及ぶに至つた。このため地元住民はＰＴＡを中心として小学校増設の問題をとりあげ、強力な運動を展開することとなつた。昭和二六年五月分校設立委員会が結成され、市当局に陳情し、迂余曲折をへて昭和二七年三月眺望絶佳な現敷地の決定をみた。同年一二月校舎新築に着手し、翌昭和二八年六月竣工、七月一五日、横浜市立宮谷小学校を宮谷分校として開校、昭和三十年には第二期増築工事も完了、独立の体勢も整つたので昭和三一年四月一日横浜市立浅間台小学校として開校した。

二、校名の変遷

昭三一・四・一　横浜市立浅間台小学校　所在町名と地形が考慮され、命名された。

三、位置（校地）の変遷

昭二八・七・一五　横浜市西区浅間台三丁目二三番地　七、五八七坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二八・六・一七	新築	木造平屋建	三一八	・教室六
昭三〇・四・二五	増築	木造平屋建	一四四	・教室四
昭三一・九・一五	増築	木造平屋建	一二九	・教室四

総坪数　五九一坪（教室一四、その他四）

五、学区及びその変遷

昭三一・四・一　西区浅間町二、三、四、五丁目

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	平野雄一郎	昭三一・四・一	宮谷小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭三一	一九	七八〇（一六）	一六五	―

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
浅間台小学校ＰＴＡ	昭三一・四・一	会員六七四名
浅間台小学校後援会	昭三一・四・一	会員六九九名

横浜市立本町小学校

横浜市中区花咲町三丁目八六番地
電話長者町(3)一四一一番

一、設置状況

1 創立　明治三八年三月三一日
2 開校　明治三八年四月一日
3 設置の際の概況

明治三八年三月三一日従来の区設尋常高等小学校の高等科を分離し、新らたに六箇の単独高等小学校を設立し、尋常小学校は旧に依り、学区の維持に任せ高等小学校は市費により経営することになつた。そのため全市一二小学校を尋常小学校に改め、六箇の高等小学校が設置された。その一つの第一高等小学校が本校の前身となつた。

二、校名の変遷

明三八・三・三一	横浜第一高等小学校	
明四一・四・一	横浜市尋常高等本町小学校	単独の高等小学校は廃止となり、尋常科を併設
大一二・四・一	横浜市本町尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市本町国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立本町小学校	

三、位置（校地）の変遷

明三八・三・三一	横浜市北仲通六丁目七四番地	一、四一九坪、市有地、尋常科併設によりその位置を北仲通六丁目七四、七六番地に指定された。校地の増減については不明
昭二・八・三一	横浜市中区花咲町三丁目八六番地	二、八〇〇坪、市有地、関東大震災により校舎新築のため校地移転
		戦時中、学校周辺の民家の強制立退が実施され、校地に編入されたため増加一、一八六坪

総坪数　三、九八六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三八・三・三一	改築	木造二階建	一、〇四六	・元横浜商業学校の全部と横浜小学校の一部を改築、教室二四
大一二・九・一	罹災	木造二階建	一、〇四六	・関東大震災により全校舎倒壊、全焼
大一三・二・二〇	新築	木造平屋建	三三八	・焼跡に仮校舎として一〇教室設立
大一三・六・三〇	増築	木造平屋建	一四七	・教室四
昭二・八・三一	新築	鉄筋三階建	一、三〇一	・教室二八（校地移転）
昭二・一二・一九	新築	木造平屋建	一五六	・聾部仮校舎として設立、昭和八年四月一日市立聾唖学校となり、昭和九年一〇月一九日新築移転した。
昭二・一二・二三	貸与			・老松小学校新築工事のため教室九貸与、昭和四年七月八日復帰
昭一九・九・二〇	貸与			・老松国民学校市役所接収により教室二貸与（昭和二二年五月一日本校に統合まで）
昭三一・四・一〇	増築	鉄骨モルタル	二一	・教室一

総坪数　一、三三〇・六坪（教室三二、その他一〇）

五、分校、分教場の設置、廃止状況

昭二二・五・一　吉田分校を横浜市中区羽衣町三ノ八四（吉田中学校内）に設置、教室一、児童数三九名、新学制の実施により吉田小を本町小に統合の際、吉田小学校父兄の反対をうけ、暫定措置として吉田小一、二年児童を分校に収容した。

昭二三・三・三一　分校の不便と吉田中学校の学級増加及び父兄の理解により分校を廃止、本校に合流

六、統併合、分離、併設状況

昭　二・四・一	聾部を併設
昭　八・四・一	聾部は横浜市立聾唖学校として分離、併設された。
昭　九・一〇・一九	聾唖学校は宮川町に新築移転
昭二二・五・一	吉田小学校、老松小学校を統合（横浜小学校は昭和二二年二月一日吉田国民学校に統合された）

七、学区及びその変遷

明三八・三・三一	本町境町、南仲通、北仲通、海岸通、元浜町、弁天通、太田町、相生町、住吉町、常盤町、尾上町、真砂町、港町、老松町、宮川町、野毛町、福島町、宮崎町、花咲町、月岡町
明四一・四・一	本町四—六丁目、南仲通四、五丁目、北仲通四—六丁目、海岸通四、五丁目、元浜町四丁目、弁天通四—六丁目、太田町四—六丁目、相生町五、六丁目、住吉町五、六丁目、常盤町五丁目、尾上町五、六丁目、港町五、六丁目、新港町、花咲町一—四丁目、福島町、桜木町（高等科は関内一円）
昭　三・四・一	校地移転につき花咲町五—一〇丁目、宮崎町を追加
昭　四・四・一	紅葉丘、橘町、緑町、長住町、入舟町、内田町、花咲町六丁目の一部、七丁目、桜木町七丁目を追加
昭二二・五・一	中区花咲町一—三丁目、桜木町一—三丁目、日出町一丁目、宮川町一—三丁目、長者町五—九丁目、羽衣町一—三丁目、末広町一—三丁目、吉田町、野毛町一—四丁目、曙町一、二丁目、彌生町一—二丁目、伊勢佐木町一—四丁目、尾上町一—六丁目、吉浜町、若葉町、本町一—六丁目、北仲通一—六丁目、元浜町一—六丁目、海岸通一—六丁目、蓬来町、真砂町一—六丁目、港町一—六丁目、常盤町一—六丁目、住吉町一—六丁目、相生町一—六丁目、太田町一—六丁目、弁天通一—六丁目、南仲通一—六丁目、日本大通 西区西戸部町一ノ二五—三〇、五四—七五、老松町、花咲町四—七丁目、橘町、内田町、長住町、緑町、宮崎町、紅葉ケ丘、桜木町四—七丁目、
昭二六・九・一	中区花咲町一—三丁目、桜木町一—三丁目、日の出町一丁目、宮崎町、宮川町一—三丁目、長者町五—九丁目、羽衣町、末広町、花咲町一—三丁目、吉田町、野毛町一—四丁目、曙町一、二丁目、彌生町一、二丁目、伊勢佐木町一—四丁目、日本大通、本町、蓬来町、弁天通、常盤町、太田町、尾上町、若葉町、海岸通、吉浜町、山吹町、北仲通、真砂町、南仲通、住吉町、福富町、港町、相生町、新港町、元浜町、西区西戸部町一丁目二五—三〇、五四—七五、老松町、花咲町四—七丁目、橘町、内田町、長住町、緑町、桜木町四—七丁目、宮崎町、紅葉丘、入船町

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	元泉　久吉	明三八・三・三一	大　六・五・五	横浜小学校長より就任、退職
二	秋山兵三郎	大　六・七・一二	昭一三・八・三一	大分県師範学校附属主事より就任、退職
三	西川　豊吉	昭一三・八・三一	昭二二・一〇・二二	石川小学校長より就任、退職
四	高橋　林蔵	昭二二・一〇・二二	昭三〇・二・一	横浜市視学より就任、退職
五	伊沢新一郎	昭三〇・二・二		城郷小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
大一三	二〇	八五三（一八）	八四	一七一	一〇六	一〇八
昭　二	二〇	九七六（一八）	一一二	一六八	一〇六	一一五
昭　五	二四	一、三〇一（二二）	一七五	六一	一六五	五九
昭一〇	二八	一、四三二（二四）	一八六	一五六	一八一	一五八
昭一五	二九	一、五三三（二五）	一七九	二二五	一九〇	一五四
昭一八	三二	一、五一二（二六）	二〇八	一八七	一九八	一四八
昭二〇	二〇	五五六（一六）	六一	八三	八二	七三
昭二二	三三	一、二八五（二六）	二〇八	—	二九四	—
昭二五	三七	一、四六七（三一）	二六九	—	一七四	—
昭三〇	三六	一、七一九（三三）	三五三	—	三〇〇	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
本町小学校教育奨励会	明三八・四	会員一、三二一名

一一、その他

明四一・二・一一	教授訓練の成績優良に付神奈川県より普通教育奨励旗を授与された。
明四三・八・一	図書館を設置した（大正一二年震災により全焼）
大一二・一一・一〇	老松小学校焼跡において授業を開始した。参集児童三一四名
大一二・一二・一〇	元横浜小学校運動場に移転し、天幕内で授業を行つた。（大正一三年二月仮校舎の新築迄）
昭一九・八・一八	児童疎開により箱根湯本満寿福、古川屋の二旅館に教職員一〇、児童二〇七名疎開
昭二〇・五・二〇	箱根湯本より北足柄村に移転、本部宿舎北足柄国民学校分宿舎江月院
昭二四・一〇・一七	ユニセフ給食指定校となる
昭二七・二・五	学校給食優良のため県教育委員会より表彰された
昭二八・一・四	長岡市表町小学校他三校と赤十字児童交換会を始めた
昭二九・一二・二三	本校ＰＴＡの学校給食施設に対する協力著顕により内閣総理大臣より褒状をうけ、横浜市長よりの伝達式が行われ、同市長より副賞として金一封が授与された

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一五・一〇・五	学校プール	一六八	二五米プール
昭一九・四・五	給食調理室	三五	雨天体操場の手洗場を改造
昭二二・一〇・一	図書室	九	蔵書数一、〇二八冊
昭二七・一二・二五			全校のガス暖房施設完成
昭三一・八・三〇	放送室	六	完全防音装置の録音室を設け、機械器具を整えた。
昭三一・八・三〇	視覚資料室	三	視覚関係の資料充実と共にその整備をはかり、映画の試写が出来るよう工夫した

横浜市立山元小学校

横浜市中区山元町三丁目一五二番地
電話本局 (2) 三八四一番

一、設置状況

1　創立　大正一〇年四月一日
2　開校　大正一〇年四月一日
3　設置の際の概況

本校現在の学区は、元来平楽小学校の通学区域であつたが、土地の発展にともない就学児童が激増し、校舎の狭隘を感ずる様になつた。大正九年平楽小学校通学区域の一部を割いて本校創立が決定され、根岸町江吾田二九四二番地外五筆の土地一、三九六坪に校舎が新築され、大正九年一二月二一日落成、翌年四月一日より授業を開始する事となつた。

二、校名の変遷

大一〇・四・一	横浜市尋常江古田小学校	
大一二・四・一	横浜市江古田尋常小学校	
昭二・四・一	横浜市江古田尋常高等小学校	高等科併設のため
昭八・九・一	横浜市山元尋常高等小学校	区画整理による町名変更により校名改称
昭一六・四・一	横浜市山元国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立山元小学校	

三、位置（校地）の変遷

大一〇・四・一	横浜市中区根岸町字江古田二、九四二番地外五筆	一、四三九・六一坪、市有地	
大一四・一〇・不詳	横浜市中区根岸町字江古田二九四二番地外一〇筆	一、〇七三・三九坪、市有地	校地拡張

昭八・九・一　横浜市中区山元町三丁目一五二番地　区画整理町名変更
昭三〇・一〇・二八　横浜市中区山元町三丁目一五二番地　四五〇・一八坪、私有地、新校舎建築のため校地拡張
総坪数　二、九六三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	摘要
大一〇・四・一	新築	木造二階建	五一三	・教室一三
昭三・七・不詳	増築	木造二階建	三一四	・教室一一及び雨天体操場
昭一九・三・二八	改築			・校舎の破損甚しく一棟を除いて全部改築
昭二〇・五・二九	戦災		七四二	・校舎の三分の二を焼失、最も古い棟（一〇室）だけ残る
昭二四・四・七	増築	木造二階建	一一八	・教室三
昭二六・五・一	増築	木造二階建	八五	・教室三
昭二九・四・一九	増築	木造二階建	一五九	・教室二
昭三一・一一・一九	増築	鉄筋三階建	二三五	・老朽校舎教室一〇撤去による見返りとして増築
昭三一・一二・一三	撤去	木造二階建	二七九	・老朽校舎として教室一〇、撤去

総坪数　五九七・四〇坪（教室一三、その他八）

五、統併合、分離、併設状況

大一五・四・一　附属夜間部併設
昭一三・四・一　山元青年学校併設
昭一九・一・三一　山元青年学校は元街青年学校に併合
昭一九・三・三一　附属夜間部廃止

六、学区及びその変遷

大一〇・四・一　中区山元町一、二丁目、中村町相沢、根岸町塚越、上猿田、猿田、大芝台、箕沢、仲丸、江古田、西竹の丸
昭二九・九・一　相沢
大平町、大芝台、塚越、根岸台、旭台、寺久保、西竹之丸、山元町一丁目―四丁目、山手町二七九―二八八
箕沢
昭三一・八・一　大平町、大芝台、塚越、根岸台、根岸旭台、寺久保、西竹之丸、山元町一―五丁目、箕沢

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	池田市三郎	大一〇・四・一	大一三・三・三一	平楽小学校訓導より就任、南吉田第一小学校長に転任
二	平山　春吉	大一三・三・三一	昭　二・七・二六	磯子小学校首席訓導より就任、南吉田小学校長に転任
三	萩野　覚衛	昭　二・七・二六	昭　四・三・一八	戸部小学校首席訓導より就任、病気退職
四	軽部雅太郎	昭　四・三・一八	昭　五・六・二〇	本校首席訓導より昇任、保土ケ谷小学校長に転任
五	小林　貞一	昭　五・六・二〇	昭一四・三・三一	青木小学校首席訓導より就任、浦島小学校長に転任
六	西川金之助	昭一四・三・三一	昭一六・九・二九	南吉田小学校首席訓導より就任、宮谷国民学校長に転任
七	柳下　荘一	昭一六・九・二九	昭二一・九・三〇	杉田国民学校長より就任、六ツ浦国民学校長に転任
八	大石　国平	昭二一・九・三〇	昭二七・四・三〇	共進国民学校教頭より就任、退職
九	若林　喜助	昭二七・五・一	昭三〇・五・三一	岩崎小学校長より就任、退職
一〇	佐藤　之一	昭三〇・六・一		二谷小学校教諭（市教育研究所）より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
大一〇	一五	八五六（一三）	二〇〇	―	一三四	―
大一三	一六	九一八（一六）	一六一	―	一二二	―
昭　二	一八	九二六（一七）	一三六	七七	一二四	―
昭　五	二〇	一、〇一五（一八）	一六六	八一	一二四	五六
昭一〇	二四	一、〇八四（二一）	一五三	七一	一三〇	四二

昭一五	二七	一、二七〇（二三）	一六二	一一六	一七三	八八
昭一八	二五	一、二六九（二三）	一七七	一二三	一八五	一〇一
昭二〇	二八	六七九（一五）	九四	六六	七八	三八
昭二二	一三	五七七（一二）	一一三	—	九八	—
昭二五	二一	七一八（一七）	一三五	—	八一	—
昭三〇	二三	九六二（一九）	二二一	—	一四八	—

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
山元小学校父母と先生の会	昭二三・七・一〇	会員父母四八三名、学区会員三九一名

一〇、その他

昭一九・八・一六	児童疎開により神奈川県足柄下郡下曽我村及田島村へ教師一一、児童二六二名疎開と同時に県外、県内に及び縁故疎開を実施、児童二九二名が疎開完了
昭二〇・三・一三	六年児童卒業を機に疎開地より引揚げた
昭二〇・一〇・三〇	終戦により疎開終了、職員、児童一一〇名復帰した
昭二七・一二・一一	神奈川県知事より子供銀行の業績優秀につき表彰された

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二七・二・一三	学校給食場	一七

横浜市立元街小学校

横浜市中区山手町三六番地
電話本局(2)三四六七番

一、設置状況

1 創立　明治六年四月

2 開校　明治六年四月

3 設置の際の概況

学制に従い明治六年四月、第一区六番組の中、元町の四丁目阿彌陀堂内に三到学舎、山手観音堂内に明衛学舎の二学舎が設置され、明治八年六月にこの二学舎が合併して元街学校となつた。

二、校名の変遷

明　六・四・不詳	三到学舎、明衛学舎	
明　八・六・不詳	横浜区公立元街学校	
明二五・四・不詳	横浜市尋常高等元街小学校	
明三八・四・一	横浜市尋常元街小学校	高等科分離により校名改正
明四一・四・一	横浜市尋常高等元街小学校	高等科併設により校名改正
大一二・四・一	横浜市元街尋常高等小学校	
昭　八・四・一	横浜市元街尋常小学校	
昭一六・四・一	横浜市元街国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立元街小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　六・四・不詳	元町四丁目一五七番地	（阿弥陀堂）三到学舎

明六・四・不詳	山手町九四番地	（山手観音堂）明衛学舎
明八・六・不詳	元町一丁目一三番地	増徳院境内
明一五・一二・一	元町四丁目一五一－一五二番地	移転
明三九・五・一六	横浜市山手町二七番地	二、三八七坪　移転
昭四・五・四	横浜市中区山手町三六番地	三、三一七坪　私有地を買取

総坪数　三、三一七坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・四・不詳	借用	木造	｜	・三到学舎は阿弥陀堂、明衛学舎は観音堂
明八・六・不詳	新築	木造	不詳	・増徳院境内に移転
明一五・一二・一	新築	木造二階	一六四	・移転
明二三・一二・不詳	増築	木造	四八	
明三一・四・不詳	改築	木造	二一二	・校舎大半を改築
明三九・五・一六	新築	木造	一、〇四七	・移転、教室三四
大一二・九・一	罹災			・関東大震災のため全潰後焼失
大一二・一〇・一五	借用	木造	｜	・立野小学校教室五借用
大一二・一一・二三	仮校舎	テント	｜	・一九張り、山手公園内に移転授業開始
大一三・二・一二	仮校舎	木造バラック	一五七	・教室一一、旧校舎跡にバラック校舎建設
昭四・五・四	新築	鉄筋三階建	一、三一一	・教室二九
昭一九・一〇・一四	貸与	｜	｜	・立野小学校に教室一六
昭二〇・四・二〇	貸与	｜	｜	・十全病院薬品倉庫として教室一貸与
昭二〇・五・一〇	貸与	｜	｜	・市経済局物資課倉庫として教室三貸与
昭二〇・六・一九	借用	｜	｜	・空襲激化の為、元町大神宮、石川大丸谷、柏葉町内会事務所妙香寺等に分散授業
昭二〇・六・二一	貸与	鉄筋	｜	・横浜高等女学校へ教室三貸与
昭二〇・七・五	貸与	鉄筋	｜	・本牧中学校へ教室三貸与
昭二八・五・二	新築	木造平屋	一八一	・立野分校設置教室四
昭二九・二・一七	増築	木造平屋	｜	・立野分校教室二
昭三〇・四・九	増築	木造平屋		・立野分校教室四（三一年三月三一日立野分校、独立分離）

総坪数　一、三一一坪（教室二九、講堂一、その他五）

五、分校の設置状況

昭二八・五・二	立野分校を旧立野小学校の校地横浜市中区立野七二番地に設置、坪数一八一、教室四、児童一七一名
昭三一・三・三一	立野分校児童数の増加にともない立野小学校として独立のため、分校廃止

六、統併合・分離・併設状況

明八・六・不詳	三到学舎、明衛学舎併合
明一七・九・不詳	三協学校を併合（三協学校は明治一四年八月の創立で千代崎町にあった。）
明四二・一〇・一〇	私立元街実業補習学校を併設、同四三年に閉校
大八・四・一	元街商業補習学校付設、同一五・四・一校名改称により横浜市立元街商業専修学校と改称
大一五・七・一	横浜市元街青年訓練所併設
昭一〇・一〇・一	横浜市元街商業専修青年学校併設
昭二一・二・二八	元街青年学校は大鳥青年学校に統合
昭二二・五・一	戦災のため立野小学校を統合
昭三一・三・三一	立野小学校独立分離

七、学区及びその変遷

明六・四・不詳	第一区六番組とあり町名不詳

明一七・九・四	元町、石川仲町、石川町、山元町、諏訪町、千代崎町、久良岐郡中村、北方村、本牧、本郷村、根岸村
明四四・四・一	平楽、立野の二校新設されたため、元町、山手、山下、石川一―三、石川仲一―三、北方中村の一部となる。
昭　二・四・一	根岸町字柏葉及び麦田町を編入
昭　三・四・一	上野町の一部を編入
昭　三・四・一	山下町を横浜小学校へ分離
昭　七・四・一	麦田町を立野小学校へ分離
昭二二・五・一	立野小学校区域麦田町、鷺山、竹の丸、大和町、立野西之谷、豆口台、仲尾台、矢口台、滝の上、根岸加曽台、山元町五丁目、吉田小学校区域山下町を編入
昭二三・四・一	上野町一―二丁目、西之谷を北方小へ分離、滝之上、豆口台、仲尾台、根岸加曽台、矢口台を間門小学校へ分離
昭二八・五・一六	緑ヶ丘を大鳥小学校へ分離、滝之上、根岸加曽台、矢口台、豆口台、仲尾台を立野分校学区として編入
昭二九・二・一	山元町五丁目を山元小学校へ、山手町八六、八八を北方小学校へ分離し、山手町二七九―二八八を編入
昭三一・四・一	立野分校独立につき麦田町。鷺山、竹の丸、大和町、立野、豆口台、仲尾台、滝之上、根岸加曽台を立野小学校へ分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	守屋　道	明一七・不　詳	明一七・不　詳	創立より守屋氏迄不詳
二	田中鉎太郎	明一七・不　詳	明二三・八・不詳	退職
三	山本　肇	明二三・一〇・不詳	明二四・七・不詳	退職
四	竹内　米吉	明二四・九・不詳	明二五・九・不詳	戸部小学校長より就任、戸部小学校長へ転任
五	三好　昌直	明二五・一一・不詳	明二六・三・不詳	退職
六	池田勝次郎	明二六・三・不詳	明三八・四・一	横浜小学校長より就任、第四高等小学校長へ転任
七	森　豊八	明三八・四・一	明四一・四・一	本校訓導より昇任、宮谷小学校長へ転任
八	池田勝次郎	明四一・四・一	明四四・一・二〇	第四高等小学校長より就任、退職
九	森　豊八	明四四・二・一五	明四四・一二・一五	尋常第三南吉田小学校長より就任、死亡退職
一〇	山内　鶴吉	明四四・一二・三一	昭　四・六・二七	愛媛県松山市第二尋常高等小学校長より就任、退職
一一	金子　馨	昭　四・六・三一	昭一〇・一・二九	神奈川師範学校付属小学校主事より就任、市立専修商業学校長へ転任
一二	井上　幸八	昭一〇・一・二九	昭一三・八・三一	神奈川小学校長より就任、岡野小学校長へ転任
一三	丸木　常蔵	昭一三・八・三一	昭一五・六・一〇	岡野小学校長より就任、元街商業専修学校長へ転任
一四	亀谷　春吉	昭一五・六・一一	昭一九・五・三一	神奈川小学校長より就任、退職
一五	永島　才司	昭一九・六・三〇	昭二九・四・三〇	豊岡国民学校長より就任、退職
一六	佐野　孝	昭二九・五・一		滝頭小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明　六	不詳	不　詳（不詳）	不詳	―	―	―
明二二	不詳	不　詳（不詳）	不詳	―	不詳	―
明四四	不詳	二、一四五（三三）	不詳	不詳	不詳	不詳
大一〇	不詳	二、六一九（四一）	不詳	不詳	不詳	不詳
大一三	二九	一、五三五（二四）	二一一	一三五	二〇八	九〇
昭　二	二九	一、五六七（二八）	二三六	一二四	二二〇	八三
昭　五	二七	一、五二九（二五）	二五九	九七	一六九	七八
昭一〇	二五	一、三八二（二二）	二四八	―	二四二	―
昭一五	二九	一、四七八（二六）	二七四	―	一九二	―
昭一八	二九	一、五四五（二六）	二二六	―	二六三	―
昭二二	二七	一、六四七（二九）	一八四	―	二九二	―
昭二三	三一	一、四〇二（二九）	二七四	―	二一三	―

昭二五	三四	一、六八三（三二）	三三六	二二三
昭三〇	五二	二、三〇〇（四六）	五一〇	三四九

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
元街小学校父母教師会	昭二三・五・四	会員一、一四九名
元街小学校同窓会	昭二八・五・五	復活

一一、その他

明四二・三・不詳	トラホーム治療開始、全市小学校に卒先
昭一九・八・一五	児童疎開のため、神奈川県足柄下郡温泉村底倉、梅屋旅館、仙石屋旅館へ教職員一五、児童三一一名
昭二〇・四・二	疎開地、教職員一六、児童三四八名、残留者は元町大神宮、大丸谷広場、妙香寺焼跡、柏葉町会事務所で分散授業を行う。同年一〇月二六日全員帰校
昭二四・二・二三	国社算理の四教科関連カリキュラム研究発表
昭二六・一一・二九	全教科関連カリキュラム研究発表
昭二七・二・五	学校給食優良校として表彰された。
昭二八・一二・八	子供銀行県知事より表彰された。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭一六・七・三〇	プール	七六
昭二三・二・九	放送設備一式	
昭二三・一一・二三	給食調理場	二七
昭二八・五・四	図書館	三〇

横浜市立北（きた）方（がた）小学校

横浜市中区諏訪町二九番地
電話本局 (2) 二九六六番

一、設置状況

1 創立 明治六年二月一〇日
2 開校 明治六年二月一〇日
3 設置の際の概況

明治五年学制頒布により明治六年二月一〇日第七番組内北方村に設置されたもので仮校舎を北方村字天沼東漸寺に借地してつくられ、第一大学区第七中学区二五番小学就蘭学舎として創立した。当時教員一児童数十名未満であつたが、間もなく首座教員他二・三名増員され、児童も九〇余名となつた。

二、校名の変遷

明六・二・一〇	第一大学区第七番中学区二五番小学就蘭学舎	
明八・六・二九	公立北方学校	
明一四・九・不詳	北方村立北方学校	
明二〇・四・不詳	北方尋常小学校	
明二五・四・一	久良岐郡本牧村立尋常北方小学校	
明三四・四・一	横浜市尋常北方小学校	市編入により校名改称
大一二・四・一	横浜市北方尋常小学校	
昭二・四・一	横浜市北方尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市北方国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立北方小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・二・一〇	北方村字天沼東漸寺	坪数不詳	寺地借用
明八・二・不詳	上野町妙香寺	坪数不詳	東漸寺火災のため一時借用
明九・三・不詳	北方村字泉、千代崎町二丁目	坪数不詳	民家二ヶ所借用
明一四・八・不詳	北方村四四〇番地	坪数不詳	新築のため移転
明三四・四・一	横浜市北方町四四〇番地イ号	坪数不詳	横浜市編入のため
明三六・一二・不詳	横浜市北方町四四二番地	坪数不詳	追加指定
明三七・五・不詳	横浜市北方町四六一番地	坪数不詳	追加指定
明四一・一・不詳	横浜市北方町四五七、四五九	坪数不詳	追加指定
明四四・九・不詳	横浜市北方町字竹ノ花四三五	一、〇六三坪	
大一二・一〇・一	横浜市北方町字泉	一二七坪、	校地として借用
大一三・九・一	横浜市北方町字竹ノ花五五五	八一〇坪、	校地買収
大一四・一〇・不詳	横浜市北方町天沼五八〇	二、九二八坪、	移転のため校地買収
昭三・三・三〇	横浜市中区北方町天沼五八〇	六四八坪、	校地買収
昭一三・四・三〇	横浜市中区諏訪町二九	一四二坪、	町名変更
昭一八・一一・不詳	横浜市中区諏訪町三一 横浜市中区千代崎町一ノ二五、二一四	四八五坪、	学習園として地元民の寄附

総坪数　三、七一七坪七八

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・二・一〇	新築	木造平屋	不詳	・東漸寺境内
明八・二・不詳	罹災	不詳	不詳	・東漸寺火災のため類焼
明八・二・不詳	借用	不詳	不詳	・上野町妙香寺の一部
明九・三・不詳	借用	不詳	不詳	・千代崎町民家二ヶ所
明一四・八・不詳	新築	木造平屋	不詳	・教室四
明三九・不詳	増築	木造平屋	不詳	・教室六
明四四・九・不詳	増改築	木造平屋	三九四	・老朽の校舎廃止教室十八となる
大一二・九・一	罹災			・関東大震災のため倒潰全焼、大鳥小学校借用及び露天で授業
大一二・一〇・一	新築	木造平屋	一二七	・仮校舎を千代崎町箕輪氏邸内に
大一三・九・一	新築	木造平屋	三五七	
大一五・一〇・三〇	新築	鉄筋三階	五五三	・教室二八（移転）
昭二・二・二五	新築	鉄筋一階	一九八	・講堂
昭二〇・四・八	貸与			・小島製靴工場、東京芝浦製作所、海軍軍需部に三階全部二階一部及び講堂を昭二〇年一〇月二五日まで
昭二一・一二・二三	新築	木造平屋	一三	・給食場
昭二二・五・五	貸与			・市立北方中学校へ三階全部を昭和二三年三月三一日まで
昭二三・四・一	貸与			・市立大鳥中学校へ三階全部、昭和二三年一〇月七日まで
昭二六・八・二〇	増築	木造平屋	八	・給食場
昭二八	増築	木造平屋	一五	・物置

総坪数　一、二八九坪（教室二八、その他八）

五、統併合・分離・併設状況

大一二・四・一	横浜市立北方尋常小学校附属夜学部併設
昭一四・六・一	横浜市北方青年学校併設
昭一八・三・三一	青年学校を大鳥青年学校に統合
昭二二・三・三一	尋常小学校高等科附属夜間部を廃止
昭二二・五・五	横浜市立北方中学校併設
昭二三・四・一	横浜市立大鳥中学校併設、北方中学校は港中学校に併合

昭二三・一〇・七　大鳥中学校分離

六、学区及びその変遷

明六・二・一〇	第一区七番組
明七・不詳	第一大区五小区
明九・不詳	第一大区三小区
明一二・一・一一	学校組合を設けたが区域不詳
明一四・八・六	上野町、千代崎町、久良岐郡北方村、本牧村字北方
明三四・四・一	本牧町、北方町
昭一〇・四・三〇	中区千代崎町、北方町一・二丁目、新山下町全部、小港山手町一部
昭一一・四・三〇	山下町一部
昭一三・四・三〇	諏訪町全部
昭二三・四・一	山下町、小港町一部、西ノ谷町、上野町一・二丁目全部

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	加藤常次郎	不詳	不詳	
二	加藤　誠一	不詳	不詳	
三	田中録之助	不詳	不詳	
四	内島勝次郎	不詳	不詳	（明治十六年在職）
五	佐伯　毅一	不詳	不詳	（明治十七・十八年在職）
六	板谷　房吉	不詳	不詳	（以上は首座教員）
七	笹本　寛敏	明二八・不詳	明三一・不詳	
八	河部　友幾	明三一・不詳	大六・四・不詳	
九	渡辺市五郎	大六・四・四	大一三・三・三一	元街小学校長より就任、日枝小学校長へ転任
一〇	猪瀬　久三	大一三・三・三一	昭四・三・三一	市教育課音楽指導員より就任、退職
一一	相沢　次郎	昭四・七・三一	昭七・三・三一	根岸小学校長より就任、横浜小学校長へ転任
一二	桜井　助	昭七・三・三一	昭一〇・七・七	寿小学校長より就任、死亡退職
一三	高橋　林造	昭一〇・九・二	昭一六・九・二四	峯小学校長より就任、横浜市視学へ転任
一四	府川　勝蔵	昭一六・九・二四	昭二四・四・一五	井土ケ谷小学校長より就任、退職
一五	斉藤　孝忠	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	県教育委員会教職員課長より就任、日枝小学校長へ転任
一六	丸山　四郎	昭三一・九・一		岩崎小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明六	一	一〇（不詳）	不詳	―
明二二	五	九〇（不詳）	不詳	不詳
明三四	五	一〇〇（不詳）	不詳	不詳
大一〇	一七	六二九（不詳）	五六	八五
大一二	二一	九九七（不詳）	一八五	一四〇
昭二	二一	一、〇一三（不詳）	二八八	一一六
昭五	二五	一、三一五（不詳）	三三一	三二二
昭一〇	二八	一、四〇二（不詳）	三八五	三二四
昭一八	三一	一、六一〇（二六）	四〇〇	三五三
昭二〇	三一	一、三七〇（不詳）	二八六	二一八
昭二三	一九	一、〇九六（不詳）	一六二	一三〇
昭二五	三一	一、二四一（二五）	二五九	一四六
昭三〇	三四	一、五五七（三一）	三二二	二七一

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
社団法人北方小学校教育奨励会	明四三・一二・二三	昭和二四年四月二三日発展的解散
北方国民学校母姉会	昭一三・六・二五	北方小学校父母と教師の会に昭和二四年合流

北方小学校父母と教師の会　昭二二・一二・一二　会員一、〇六一名
北方小学校八〇周年記念の事業後援会昭二七・四・二六　昭和二八年五月解散

一〇、その他

昭一九・八・一三　児童疎開を足柄下郡宮城野村強羅、教職員一四、児童二八六名
昭二二・一二・二三　衛生行政協力により市より表彰された。
昭二五・一二・一二　子供郵便局に対し知事より表彰された。
昭二七・五・五　子供郵便局功績に対し東京郵便局より表彰された。
昭三一・四・二五　交通安全運動実施に対して表彰された。（県公安委より）
昭三二・二・五　学校給食優良校として県給食会より表彰された。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・四・一〇	図書館	三〇	蔵書数三、七七〇冊
昭二一・一二・二三	給食調理室	二〇・八五	

横浜市立大鳥（おおとり）小学校

横浜市中区本牧町一丁目二五一番地
電本局話(2)二七〇〇番

一、設置状況

1 創立　大正一〇年四月一日
2 開校　大正一〇年四月一日
3 設置の際の概況

学令児童の増加にともない、大正七年七月一九日横浜市本牧町大鳥一五七一番地外一七筆に新築の許可を得た。大正一〇年三月校舎が落成し、諸般の準備を完了すると共に、北方・立野・本牧小学校より児童を分離し、新入児童一三〇名、二年以上八六四名を以て四月一日開校した。

二、校名の変遷

大一〇・四・一　横浜市尋常高等大鳥小学校
大一二・四・一　横浜市大鳥尋常高等小学校
昭一六・四・一　横浜市大鳥国民学校
昭二二・四・一　横浜市立大鳥小学校

三、位置（校地）の変遷

大七・七・一九　横浜市本牧町大鳥一五七一番地外一七筆　私有地二、一七一坪を買収
大一四・三・二三　横浜市本牧町一五七二番地の二号、一五七八番地の二筆の一二一坪を買収
昭二・一一・二五　校舎改築のため三七七坪を買収
昭八・四・一　横浜市中区本牧町一丁目二五一番地　町名改正
昭二一・一一・一三　横浜市中区本牧町一丁目二二八番地　私有地を一九四坪買収

総坪数　二、八六三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一〇・三・一六	新築	木造二階	九四三	・教室二三
大一二・九・一	罹災			・大震災のため北側校舎一棟半壊、他は倒壊した。雨天体操場やや安全
大一二・一〇・一五	修理			・雨天体操場の修理をし、教室六にした。
大一二・一一・一九	修理	木造平屋	二二八	・北側一棟を修理し五年以下二部授業
大一三・一・一五	罹災			・強震のため北側校舎破損し使用不能となる。

大一三・四・一九	改築	木造平屋		
大一三・六・三〇	新築	木造平屋	五八〇	・教室一五
昭二・四・四	借用			・北方、本牧両小学校一部を借用
昭三・一一・二八	新築	鉄筋三階	一、二八〇	・教室二九
昭二〇・一・一四	貸与			・海軍に校舎貸与、児童は本牧国民学校の八教室借用（終戦まで）
昭二〇・一〇・四	貸与			・米駐留軍野戦病院となり本牧国民学校の教室一三借用、二一年二月八日駐留軍松屋百貨店へ移転のため本校復帰
昭二一・四・五	貸与			・朝鮮人学校のため西側教室三貸与、二四年三月二七日転出
昭二二・五・一	貸与			・県立三中に三階教室一〇を貸与、二三年九月三〇日移転
昭二三・一一・一六	貸与			・大島中学校に三階教室一〇を貸与、二四年四月一五日移転
昭二四・一〇・不詳	貸与			・横浜商業高等学校理容科に教室五貸与、二八年六月二八日移転

総坪数　一、二八〇坪（教室二九、その他九）

五、統併合・分離・併設状況

大一五・七・一　大鳥青年訓練所併設

昭五・一・一一　間門小学校、本牧小学校に一部児童分離

昭一二・四・三〇　大鳥青年訓練所を大鳥青年学校と改称、昭二三年三月三一日廃止

六、学区及びその変遷

大一〇・四・一　本牧町の上台、台、箕輪下、天徳寺の一部、箕輪、大鳥、台山、満坂、大久保、池田、配郷、荒井、長久保、間門、一の谷、向、二の谷、北方町小港の一部

昭五・一一・九　本牧町の池田、配郷、荒井、間門、一の谷、二の谷、本牧町天徳寺の一部、北方町小港の一部を間門本牧校へ

昭八・四・一　本郷町一・二・三丁目、本牧町一・二・三丁目、本牧満坂、本牧緑ヶ丘、小港町三丁目

昭八・一二・一八　本牧町三丁目、本牧緑ヶ丘を間門、本牧校へ

昭二三・四・一　本牧緑ヶ丘、小港町一丁目の一部

昭二六・九・二〇　本牧三丁目、小港一丁目の残部、小港二丁目

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	市毛金太郎	大一〇・四・一〇	大一〇・一〇・二六	山口県宝積師範附属小主事より就任、退職
二	水島　藤吉	大一一・四・二四	大一二・五・九	神奈川県師範学校教諭より就任、退職
三	長野　宏	大一二・五・二六	昭一五・三・三一	本校訓導より昇任、退職
四	杉崎　精治	昭一五・三・三一	昭二一・一・二九	立野小学校長より就任、退職
五	長塚　文蔵	昭二一・二・二〇	昭三〇・五・三一	帷子国民学校長より就任、退職
六	遠藤　隆景	昭三〇・六・一		大岡小学校長より就任

八、児童数・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
大一〇	二一	九九四（一七）	一三〇	―	―	―
大一三	二三	一、〇九一（一七）	一六五	一六五	一二八	九六
昭三	二六	一、三一二（二三）	二三五	七七	一四一	五八
昭四	二三	一、一一四（二〇）	二二九	五九	一五七	五七
昭五	二二	一、一〇五（一九）	一八八	六六	一三四	三四
昭一〇	二五	一、三九三（二三）	二一五	一〇一	一七〇	八〇
昭一五	二八	一、四九一（二五）	一九六	一〇二	一九八	八九

昭一八	二九	一、四九四（二六）	二〇六	一一八	一九四	一〇二
昭二〇	二六	八一三（不詳）	不詳	不詳	七四	三〇
昭二三	一九	六九九（一六）	一四三	―	一四七	―
昭二五	二四	九六八（二〇）	二〇六	―	一四三	―
昭三〇	二八	一、二四一（二六）	二五八	―	二一七	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大島小学校PTA	昭二三・二・一〇	会員六一二名

一〇、その他

昭一九・八・一八	児童疎開により箱根小湧谷三河屋旅館へ教師一六名、児童二五四名
昭一九・一二・一	第二次疎開教師一八名、児童八六名
昭二〇・四・二二	第三次疎開により教師一八名、児童三二名、高等科は勤労動員、残留四九七名は学区内に分散授業。
昭二三・三・一九	学校給食一周年記念式に成績優秀をもつて表彰された。
昭二七・四・二二	市公安委員より交通安全班表彰された。
昭二七・一一・三	子ども郵便局大蔵大臣より表彰された。
昭二八・四・一	中央教材園分園となる。
昭二八・五・五	子ども郵便局、郵政大臣賞を受けた。
昭二八・九・二八	発明工夫展で学校賞を受けた。
昭二九・五・五	子ども郵便局が東京郵政局長より表彰された。
昭二九・一〇・二	第一三回青少年発明工夫展で学校賞を受けた。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二一・一二・二三	給食調理室	二四	
昭二九・一一・三	図書室	三〇	蔵書数四、四三一冊

横浜市立間（ま）門（かど）小学校

横浜市中区間門町二丁目二二二番地
電話本局(2)二一〇九番

一、設置状況

1 創立　昭和四年七月二日

2 開校　昭和五年一月一三日

3 設置の際の概況

昭和二年一二月二日市当局より委嘱せられた特殊教育施設に関する調査報告書が有吉市長に提出されるにおよび、その関心が高められ、ことに関東大震災後の復興条件等もあつて、海浜で森林に囲繞されているところから普通小学校として児童を収容するほか、身体後位児童で組織する臨海学級を併置し特殊教育の使命をおびて本校が創設されるにいたつたもので、本市復興計画によつて新設された五校の一つである。

二、校名の変遷

昭　四・七・一一	横浜市間門尋常小学校
昭一六・四・一	横浜市間門国民学校
昭二二・四・一	横浜市立間門小学校

三、位置（校地）の変遷

昭四・七・一一　横浜市中区本牧町二ノ谷四、一六〇番地　市有地
昭八・四・一　横浜市中区間門町二丁目二二二　横浜市告示第四六号により地番改称
総坪数　八、三七一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭四・八・六	新築	鉄筋三階	一、一二五	・教室数二八
昭四・八・六	新築	鉄筋平屋	一八六	
昭一九・一二・五	貸与			・東京芝浦電気通信機会社に貸与二〇年九月返還
昭二〇・三・二〇	貸与			・第二海軍技術廠に貸与二〇年八月返還
昭二〇・五・三〇	貸与			・教室七、県立第三中学校に貸与二四年六月返還

総坪数　一、三一一坪（教室二九、その他九）

五、分校の設置廃止状況

昭二二・五・一　横浜市立間門小学校本牧分校を横浜市中区本牧町天徳寺六八二番地に設置、校舎一二八七坪、教室二八、児童六九三名を収容する。
昭二二・七・一八　横浜市立間門小学校本牧分校を廃止する。

六、統併合・分離・併設状況

昭五・六・二一　臨海学級（養護学級）を併設市内小学校より一四六名を四学級に編成し収容する。
昭二〇・三・三一　臨海学級（養護学級）廃止

七、学区及びその変遷

昭五・一・七　本牧町字池田、矢、八王寺、下里、真福寺、配郷、荒井、間門、一ノ谷、二ノ谷、三ノ谷、大谷戸、八王子奥の一部、向、根岸町加曽台、加曽ノ上、豆口、清水、池袋、矢口台の一部、沢畑の一部
昭九・四・一　本牧元町の一部、本牧大里町、本牧三ノ谷、本牧荒井、本牧和田の一部、間門町、根岸町一・二丁目、根岸加曽台、矢口台の一部、池袋、豆口台の一部、滝ノ上の一部
昭一〇・四・一　本牧元町の一部、緑ヶ丘の一部、豆口台、矢口台をそれぞれ本牧小・大鳥小・立野小に分離
昭二二・九・一　池袋、本牧元町、本牧和田、本牧十二天、本牧大里、本牧三ノ谷、本牧荒井、根岸町一・二丁目、間門、本牧四丁目（本牧小学校の統合による）
昭二三・四・一　豆口台、仲尾台、矢口台、滝ノ上根岸加曽台を編入
昭二八・五・一　加曽台、豆口台、滝ノ上、矢口台、仲尾台、元街小学校立野分校区となり分離
昭二九・二・一〇　本牧町三丁目を編入

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	宮田直次郎	昭四・一一・六	昭一二・七・三一	佐賀師範学校教諭より就任、横浜市視学に転任
二	平戸喜太郎	昭一二・七・三一	昭一七・八・二六	浦島尋常小学校長より就任、退職
三	山田　磯吉	昭一七・八・二六	昭二四・四・一五	帷子国民学校長より就任、退職
四	安達　英雄	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	岩崎小学校教頭より就任、青木小学校長に転任
五	松岡秋節夫	昭三一・九・一		稲荷台小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入・学者		卒・業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
昭四	二一	六九六（一一）	六九六	―	―	―
昭五	一八	八一八（一八）	二六五	―	一一三	―
昭一〇	二四	一、一一六（二〇）	二二〇	―	一六七	―
昭一五	二五	一、三一七（二三）	二五三	―	二一〇	―
昭一八	二七	一、三四七（二四）	二七二	―	二〇三	―
昭二〇	二四	七一〇（一六）	一三三	―	一一三	―
昭二二	二五	一、二二〇（二三）	二五三		二一五	

昭二五	三三	一、四一四（二八）	三〇九	―	一六九	―
昭三〇	三六	一、五八五（三三）	二九三	―	二九七	―

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
間門小学校ＰＴＡ	昭二三・三・一一	会員一、一〇九名
間門小学校事業後援会	昭二九・二・一	会員　六四五名

一一、その他

昭七・八・一三	本校教育の一部を撮影した全四巻のタイトルが仏国ニュースにおいて開催の第六回世界新教育会議で発表さる。
昭一〇・一一・二	帝国学校衛生会より学校衛生優秀校として表彰された。
昭一九・八・一六	児童疎開により神奈川県足柄下郡温泉村宮ノ下奈良屋旅館へ、教師七、児童三二五名が疎開
昭二〇・四・一五	第二次集団疎開として同地へ教師二、児童一〇四名が疎開、同年一〇・二七全員帰校
昭二〇・五・二九	戦災により、校舎の被害が軽微であつたので多数の難民を収容した。
昭二六・一一・二四	神奈川県教育委員会・朝日新聞社より本年度県下健康最優良校として表彰された。
昭二七・一一・二二	神奈川県教育委員会・朝日新聞社より本年度県下健康最優良校として表彰された。
昭二八・三・二一	日本体育指導者連盟より保健体育研究により表彰を受けた。
昭二八・一一・三	朝日新聞社（文部省後援）より全日本健康優良特選校として表彰された。
昭二八・一一・二八	神奈川県・神奈川県教育委員会・朝日新聞社より本年度県下健康最優良校として表彰された。
昭二九・三・三一	横浜市長より食品取扱及び施設の衛生状態優秀と認められ表彰された。
昭三〇・二・八	横浜市長より食品取扱及び施設の衛生状態優秀と認められ表彰された。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・二・一一	学校給食用厨房	一五	昭和二六年三月四坪増築一九坪となる

昭二八・三・二〇	学校図書室	三八	蔵書数四、三四二冊

横浜市立立野小学校

横浜市中区立野七六番地
電話本局(2)八三九〇番

一、設置・廃止状況

1	創立	明治四四年四月一日
2	開校	明治四四年四月一日
3	休校	昭和二二年五月一日
4	復活	昭和三一年三月三一日

5　設置の際の概況

明治四四年一一月に根岸町立野に起工し翌四五年三月に竣工、五月五日開校式を挙行するに至つた。昭和二〇年五月の戦災により校舎全燒し昭和二二年五月一日元街小学校に統合されたが、その間学区内の復興にともない住宅も増加するにつれ、児童数が激増したので、地元民の要望もあつて旧立野小学校跡に元街小学校立野分校を設置、昭三一年四月一日立野小学校として独立開校するにいたつた。

二、校名の変遷

明四四・四・一	横浜市尋常高等立野小学校
大一二・四・一	横浜市立野尋常高等小学校
昭一六・四・一	横浜市立野国民学校
昭二二・五・一	元街小学校に統合
昭二八・五・二	元街小学校立野分校

昭三一・四・一　横浜市立立野小学校

三、位置（校地）の変遷

明四四・四・一	横浜市根岸町立野　三二五七番地	市有地
昭一〇　不詳	横浜市中区立野七六番地	町名変更により改正

総坪数　四、七六九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明四五・三・三一	新築	木造二階	二八一	
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により倒潰
大一三・一・二一	新築	バラック		
大一三・一二・二五	増築	木造二階		
大一五・八・一二	増築	木造平屋		
昭三・七・一〇	増築	木造平屋		
昭五・五・四	増築	木造平屋		
昭一四・二・一五	改築	木造平屋		・校舎老朽により教室一六改築
昭一九・一〇・一三	借用			・日本造船並びに軍に全部提供
昭二〇・五・二九	罹災			・戦災により全校舎焼失
昭二八・五・二	新築	木造平屋	一八一	・元街小立野分校として教室四
昭二九・二・一七	増築	木造平屋		・教室二
昭三一・四・一	新築	木造二階	四〇三	・教室一一
昭三一・六・一九	新築	木造二階	一六七	・教室三

総坪数　五七〇坪（教室一四、その他二）

五、学区及びその変遷

大一二・一二	北方町、西谷の一部、上野町、根岸谷豆口、清水仲尾、竹ノ丸、柏葉、麦田、鷺山、立野、仲田、矢口台、沢畑
昭三・四・一	根岸町の内麦田、柏葉を除く
昭四・四・一	上野町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目の一部を除く
昭七・四・一	学区変更により麦田町を編入
昭三一・四・一	麦田町一・二・三・四丁目、鷺山、竹之丸、大和町一・二丁目、立野、豆口台、仲尾台、矢口台、滝の上、根岸、加曽台

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	大山　政和	明四四・四・一	大八・五・四	戸部小学校首席訓導より就任、老松小学校長に転任
二	小宮喜八郎	大八・五・五	大一〇・三・三一	寿小学校首席訓導より就任、生見尾小学校長に転任
三	大房　正治	大一〇・三・三一	大一四・一一・一	宮ヶ谷小学校長より就任、死亡退職
四	森久保　詮	大一四・一一・一二	昭四・七・三一	立野小学校首席訓導より就任、二谷小学校長に転任
五	杉崎　精治	昭四・七・三一	昭一六・三・三一	石川小学校首席訓導より就任、大鳥小校校長に転任
六	石井　吉蔵	昭一六・三・三一	昭二一・二・二三	末吉小学校長より就任、退職
七	川田　公助	昭二一・二・二三	昭三二・四・三〇	栗田谷国民学校教頭より就任、白幡小学校長に転任
八	小宮　三蔵	昭三一・四・一		岡野中学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明四四	二三	一、一一六（不詳）	二三五	一七三	六七	—
大一〇	二六	一、四九四（不詳）	二四三	一一二	一三二	一六四
大一三	二六	一、一六二（不詳）	一四一	一三一	一四一	六一
昭二	二六	一、一五三（不詳）	二五四	九二	一七一	六四
昭五	二三	一、〇三二（不詳）	一二七	九二	一五五	六七
昭一〇	二三	一、一二九（不詳）	一八一	一二三	一六一	九七

昭一五	二八	一、三二四（不詳）	一七四	一四二	一六〇	一一四
昭一八	二八	一、四八七（二四）	二二三	一一九	一八一	一五七
昭二〇	一八	六九八（不詳）	一一六	八四	六九	五〇
昭三一	二〇	八〇二（一七）	一七九	―	―	―

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
立野小学校PTA	昭三一・四・一	会員八五〇名

九、その他

昭一九・八・二〇　児童疎開により神奈川県足柄下郡宮城野村強羅及び同足柄下郡宮城野村木賀里に教師七、児童二五五名が疎開

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭三一・六・一九	給食場	二一

横浜市立南吉田（みなみよしだ）小学校

横浜市南区高根町二丁目一四番地
電話港(8)〇四五二番

一、設置状況

1　創立　明治三八年四月一日
2　開校　明治三八年四月一日
3　設置の際の概況

日露戦争酣なる際横浜市では高等小学校新設の計画がなされた。従来学区において経営していた尋常高等小学校の高等科を廃し、新たに単独校としての高等小学校が設置されることになつた。本校はその一として創立され女子部として発足した。明治三九年四月一一日新設の六の高等小学校合同で開校式を行つた。（東小学校設置の際の概況参照）本校はこの日を創立記念日としている。

二、校名の変遷

明三八・四・一	横浜市立第三高等小学校、
明四一・四・一	横浜市立尋常高等南吉田小学校
明四二・三・三一	横浜市立尋常南吉田第二小学校
大一二・四・一	横浜市南吉田第二尋常小学校
大一五・四・一	横浜市南吉田尋常高等小学校
昭八・四・一	横浜市南吉田尋常小学校
昭一六・四・一	横浜市南吉田国民学校
昭二二・四・一	横浜市立南吉田小学校

三、位置（校地）の変遷

明三八・三・一一	横浜市南吉田町四ッ目七六七外一二筆	
大一五・一・一五	横浜市高根町二ノ一四番地	私有地（白妙町二丁目にまたがる運動場）
昭二〇・一一・二九	横浜市中区高根町二ノ一四番地	西側疎開地買収、二〇〇・二四坪
昭二三・三・二三	横浜市中区高根町二ノ一四番地	西側疎開地買収、三七七・〇三坪

総坪数　三、一六二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三八・四・一	借用	不詳	不詳	・吉田、寿、石川、太田の小学校に分散
明三八・九・一	新築	木造二階建	不詳	・教室二〇
大一二・九・一	罹災			・関東大震災のため焼失
大一五・八・三〇	新築	鉄筋三階建	一、三九九	・教室三一

総坪数　一、四一五坪（教室二八、その他一〇）

五、統併合・分離・併設状況

昭一〇・一〇・一	横浜市立南吉田青年学校併設
昭一八・三・三一	横浜市立南吉田青年学校廃止
昭二一・一・一五	横浜市寿国民学校の児童一五〇名統合
昭二三・四・三〇	横浜市立三吉小学校の児童七八三名統合

六、学区及びその変遷

明三八・四・一一	南吉田町全部
明四一・四・一	真金、永楽、山田、富士見、山吹、千歳、三吉の七ヶ町
明四二・四・二二	千歳町、三吉町、尋常第三南吉田小学校開設により分離。
明四四・一一・一〇	山吹町は分離、父兄の要望により尋常吉田小学校へ分離
昭五・四・一	富士見町、山田町、真金町、永楽町、高根町全部、白妙町、弥生町、曙町の一部
昭二三・一・一五	学校統合により寿小の学区万代、不老町、扇町、翁町、寿、町松影町を統合
昭二二・四・三〇	三吉町、千歳町、浦舟町、白妙町の一部、中村町三、四、五丁目
昭二六・九・一一	中村小学校開設のため中村町三、四、五丁目分離
昭三一・八・一	松影町、寿町、扇町、翁町、不老町、万代町、長者町一―四丁目、三吉町、千歳町、山田町、富士見町、弥生町、三―五丁目、曙町三丁目三一、三三―三九、四二―四四、四丁目四七―四九、五四―五七、五九―六二、五丁目六四―六七・七二・七三（南区）永楽町、万世町、真金町、浦舟町、白妙町、高根町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	小野権次郎	明三八・三・三一	明四〇・九・一	吉田小学校長に転任
二	稲波　柳吉	明四〇・九・一	大　六・三・　五	第二高等小学校長より就任、退職
三	内田伴之助	大　六・三・　五	昭　二・七・二六	退職
四	平山　春吉	昭　二・七・二六	昭一五・三・三一	退職
五	森　冨太郎	昭一五・三・三一	昭一九・三・三一	磯子小学校長より就任、退職
六	柳川　金麿	昭一九・五・一八	昭二二・四・三〇	浜町小学校長より就任、磯子小学校長へ転任
七	清水　進	昭二二・四・三〇	昭三一・八・三一	吉田小学校長より就任、退職
八	小林　兼二	昭三一・九・一		帷子小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明三八	不詳	不　詳	不詳	不詳		不詳
大一〇	不詳	不　詳	不詳	―	二〇五	―
大一三	二〇	一、〇七〇（不詳）	一七二	―	一四四	―
昭　二	三一	一、四七九（二四）	二九四	一一三	一八五	一〇二
昭　五	三四	一、五九七（二七）	二八四	一二七	一六六	九一
昭一〇	二七	一、三八四（二四）	二七三	―	一三三	―

昭一五	二七	一、四九〇（二四）	二二五	―	一五四	―
昭一八	二八	一、五二八（二四）	二六〇	―	二四五	―
昭二〇	一九	二一八（六）	不詳	―	五七	―
昭二三	二九	一、六五三（二五）	三一五	―	二八八	―
昭二五	四六	二、〇二七（四二）	三六〇	―	二五六	―
昭二六	三五	一、六二七（二六）	二二六	―	三二一	―
昭三〇	三三	一、四二〇（二八）	二七一	―	二三八	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
南吉田小学校育友会	昭二三・三・不詳	会員一、五〇〇名、PTA発足と共に解散
南吉田小学校PTA	昭二四・不詳	会員二、五九八名

一〇、その他

昭一九・七・二五　児童疎開により神奈川県足柄下郡温泉村蔦屋、明星、藤木、万平寺に教職員一二名、児童二九四名が疎開第二次・第三次として、同年一二月二〇年四月、教職員二名、児童八〇名が疎開、二〇年一〇月全員帰校。

昭二八・二・二七　神奈川県図書館協議会より学校図書館優良校として表彰さる。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一四・七・一五	児童水泳場	五四	
昭二四・八・三一	児童体育遊園地	二〇〇	
昭二四・八・三一	給食調理室	一六	
昭二六・八・三一	児童図書館	三八	蔵書数五、〇七〇冊

横浜市立石川小学校

横浜市南区中村町一丁目六六番地
電話港(8)四七二五番

一、設置状況

1　創立　明治六年
2　開校　明治六年
3　設置の際の概況

学制頒布の当時、石川町、石川仲町、久良岐中村の三ケ町村が聯合して、中村の玉泉寺の境内に、第一大学区第七中学区第二〇番小学養賢学舎を創立、石川町四丁目に長屋を打抜いて分校を置いた。

明治一〇年七月吉田学校と合併して、旧横浜裁判所敷地に吉川学校を創立した。

明治一三年六月吉川学校を分離して、吉田、寿、石川、中村の四校になり、本校と中村は、石川町、石川仲町及び中村の三箇町村を合同し、石川仲町七丁目に校舎を新築、石川中村学校と併称した。一四年八月、石川中村学校を石川、中村の両校とした。

二、校名の変遷

明　六・不　詳	養賢学舎	
明　八・　六・二九	石川学校	
明一〇・　七・不詳	吉川学校	
明一三・一〇・二一	石川中村学校	
明一四・不　詳	石川学校	石川、中村分離による校名改称
明二五・　四・　一	石川小学校	

明三八・三・三一	横浜市尋常石川小学校	
大一〇・四・二五	横浜市尋常高等石川小学校	高等科併置による校名改称
大一二・三・二六	横浜市石川尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市石川国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立石川小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・不詳	久良岐郡中村玉泉寺境内	
明一〇・七・不詳	旧横浜裁判所敷地	市有地
明一四・八・不詳	久良岐郡中村玉泉寺墓地東寄り道路	石川、中村分離時代
明二三・一・一三	石川町七丁目	私有地
明三一・一二・不詳	中村町一、四三〇番地	内務省及び私有地
明三八・一二・二八	中村町一、四四八番地	私有地
昭三・一〇・二五	横浜市中区中村町一丁目六六番地	市有地　三、五〇〇坪

総坪数　三、五〇〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・不詳	改築	木造平屋建	不詳	
明一〇・七・不詳	転用	木造平屋建	不詳	・旧横浜裁判所家屋
明一三・一〇・二一	新築	木造平屋建	不詳	
明一四・八・不詳	新築	木造平屋建	不詳	・中村学校校舎
明一九・一〇・一二	移築	木造平屋建	不詳	・中村学校校舎を本校に移築
明二〇・八・一一	改築		九三	
明二三・一・一三	改増築		一九一	
明二六・八・一一	増築	木造二階建	二二七	・教室二
明二七・八・一五	借用	木造		
明三一・一二・不詳	新築	土蔵二階建		
明三八・一二・二八	改築	木造平屋建		
明四〇・七・一五	増築	木造平屋建	五七七	
大八・五・五	貸与			・校舎の一部を寿小学校へ
大一二・一〇・一五	貸与			・吉田小学校へ大正一二年一一月一一日まで、南吉田小学校大正一二年一一月一三日まで、寿小学校大正一四年二月一九日まで
昭三・一〇・二五	新築	鉄筋二階建		
昭四・九・一六	改築	木造平屋建		・旧校舎の一棟を移築
昭二二・七・不詳	貸与			・西側校舎二・三階全部を本牧中学に貸与
昭二三・四・不詳	貸与			・横浜市立教育研究所に貸与二五年六月八日返還

総坪数一、二八五坪（教室二九、その他一一）

五、分校・分教場の設置廃止状況

明一八・不詳	中村玉泉寺境内に中村学校を分校とし、三二坪、二〇六名の児童を収容。
明一九・三・不詳	分校中村学校を廃止
明三一・一二・不詳	中村町一、四三〇番地に分教場を設置、当時の児童九〇五名
明三八・六・五	分教場を廃止
昭二二・四・三〇	平楽小学校休校により統合し、旧平楽小学校に分校設置
昭二三・九・三	旧平楽小学校の分校を廃止

六、統併合・分離・併設状況

明一〇・七・不詳	吉田学校併合
明一三・一〇・二一	吉田学校分離
明一四・八・不詳	中村学校分離

明四四・　五・一六	平楽小学校分離、児童一、三四六名
明二二・　四・二〇	平楽国民学校統合、児童一、五九八名
昭二六・　九・一一	中村小学校設立のため分離、児童二〇九名

七、学区及びその変遷

明一三・一〇・二一	石川町、石川仲町、中村
明三八・　三・三一	石川町、石川仲町、中村町
明四四・　四・　一	石川町、石川仲町、三・四・五・六・七丁目、中村町の一部、松影町、吉浜町
大一〇・　四・　一	石川町、石川仲町四・五・六・七丁目、中村町の一部、長者町一・二丁目
昭　三・　四・　一	石川町、石川仲町四・五・六・七丁目、中村町の一部、山手町の一部
昭一一・　四・　一	石川町、山手町、唐沢の一部、中村町一丁目、（町名変更に伴い学区の改称）
昭二二・　四・三〇	石川町三・四・五丁目、打越、唐沢、山谷、平楽、山手、中村町一・二丁目、八幡町
昭二六・　九・一一	石川町三、四、五丁目、平楽、唐沢、山手町、打越、中村町一・二丁目（中村小学校分離にともない学区調整）

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	守屋　道	明一八・一二・　九	明一九・　八・三〇	元街小学校長にて本校と兼任
二	坂部権次郎	明一九・　八・三〇	明三一・　八・二一	本校訓導より就任、退職
三	板谷里次郎	明三一・　八・二一	大一三・一一・二四	本校訓導より就任、退職
四	荒波　階三	大一三・一一・二五	昭　三・一〇・一九	西平沼小学校訓導より就任、平沼小学校長へ転任
五	西川　豊吉	昭　三・一〇・一九	昭一三・　八・三〇	西前小学校長より就任、本町小学校長へ転任
六	浪崎　義一	昭一三・　八・三一	昭一七・　九・一八	帷子小学校長より就任、退職
七	矢ヶ崎国民	昭一七・　九・一八	昭二一・　二・二〇	退職
八	中島　利信	昭二一・　二・二〇	昭二二・　四・三〇	稲荷台国民学校訓導より就任、六浦中学校へ転任
九	斉藤　通有	昭二二・　四・三〇	昭二九・　四・三〇	三吉国民学校長より就任、滝頭小学校長へ転任
一〇	鈴木　豊平	昭二九・　五・　一	昭三一・　八・三一	潮田小学校長より就任、退職
一一	山口　豊誠	昭三一・　九・　一		文庫小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明一四	一	七七（不詳）	不詳	不詳	四	―
明一八	六	二〇六（不詳）	不詳	不詳	一〇	―
明二二	一〇	三〇四（不詳）	不詳	不詳	二七	三
明三三	不詳	一、二七二（不詳）	不詳	不詳	一五九	四二
明三八	不詳	一、四四七（不詳）	不詳	―	三〇四	―
明四四	不詳	一、三四六（不詳）	一四三	―	一三二	―
大一〇	不詳	一、三八一（二五）	一五四	一四〇	二一〇	六二
大一三	不詳	一、四二一（二三）	一四三	一八五	二一〇	六七
昭二	不詳	一、二八二（二三）	一八六	一〇七	一六〇	一一七
昭五	不詳	一、二九〇（二一）	一八三	八六	一五八	九二
昭一〇	不詳	一、四五五（二四）	二〇一	一二三	一九〇	一五二
昭一五	三四	一、四四七（二六）	不詳	一二二	二〇六	一一八
昭一八	三一	一、四一三（二五）	不詳	一二二	一五五	一一六
昭二五	三二	一、九三一（三八）	二九四	―	二三四	―
昭三〇	四〇	一、七八二（三六）	三五一	―	二九四	―

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
石川小学校後援会	昭二二・　六・一〇	昭和二四年四月一〇日廃止
石川小学校ＰＴＡ	昭二三・　七・一七	会員一、四〇二名

一一、その他

昭五・六・二七	貧困による欠食児童の給食開始
昭六・五・八	促進学級特設
昭八・四・一	養護学級特設
昭一〇・二・一一	虚弱児童養護施設経営について知事より表彰された。
昭一九・八・二一	児童疎開により神奈川県箱根宮城野村強羅へ教職員二一名、児童三五四名疎開、翌二〇・一〇・二三全員帰校
昭二四・一一・一七	県知事内山岩太郎氏より子ども銀行について表彰された。
昭二九・六・三	「はえとり運動」で平沼横浜市長より表彰された。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭四・四・二七	中央教材園	一、二五〇	石川小学校わき地の山や谷の埋立、整地と開こんを昭和二年七月より行い、本校落成式と同時に開園式を行つた。戦時中休園、昭和二六年再開
昭二六・不詳	厚生寮	二七	中央教材園の中にあり、児童の全日教育指導を行つている。社会教育課所管
昭二七・一〇・一八	給食場	二〇	
昭三〇・三・一四	図書室	三〇	蔵書数二、三〇〇冊

横浜市立中（なか）村（むら）小学校

横浜市南区中村町四の二二一番地
電話港(8)一九八五番

一、設置状況

1 創立 昭和二六年九月一〇日

2 開校 昭和二六年九月一一日

3 設置の際の概況

昭和二六年三月三一日、中村方面校の起工式を行い、同年九月一〇日創立、校長以下職員一四、児童六九二名を南吉田小学校と石川小学校より収容して開校した。

二、校名の変遷

昭二六・九・一〇　横浜市立中村小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二六・九・一〇　南区中村町四の二二一番地　四、〇七四坪、市有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二六・六・二六	新築	木造二階建	二八一	・教室七
昭二七・四・三	増築	木造二階建	一七一	・教室六
昭二八・四・六	増築	木造二階建	一五〇	・教室四
昭二九・四・一	増築	木造二階建	一三七	・教室四
昭三一・一一・一九	増築	鉄筋三階建	二九一	・教室六

総坪数一、〇三〇坪（教室二三、その他六）

五、学区及びその変遷

昭二六・九・一〇　中村町三—五丁目、山谷、八幡町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	山口　孝	昭二六・九・一〇	南吉田小学校副校長より就任。

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二六	一四	六九二（一二）	六九二	—	南吉田小より四八三、石川小より二

〇九名を収容

昭三〇　三〇　一、三八二（二八）　二六二　二二八

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
中村校建設委員会	昭二六・一〇・九	中村小学校落成式迄の諸準備、落成式終了と同時に解消。
中村小学校ＰＴＡ	昭二六・一〇・二〇	会員一、五三〇名

九、その他

昭二七・一〇・八	栃木県横川中央小学校青少年赤十字団と本校ＪＲＣ交歓会を催した。
昭二八・九・九	混血児問題について渡辺教諭と一年児童との会話をＮＨＫ婦人の時間に放送した。混血児童は四名在学
昭二九・六・三	「はえとり」運動で平沼横浜市長より表彰された。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・七・三〇	給食調理室	一〇	
昭二八・四・一	学校図書室	九	蔵書数一、一〇三冊

横浜市立日枝（ひえ）小学校

横浜市南区山王町五丁目三一番地
電話港(8)四九五六番

一、設置状況

1　創立　明治四四年四月一日

2　開校　明治四四年四月一日

3　設置の際の概況

明治四四年四月一日尋常第一日枝小学校として創立、旧南吉田町の大部分、末吉、長島、吉岡、駿河、南太田の一部を学区域とし、旧南吉田町七ツ目に校地を定め建築に着手、仮に太田小学校、南吉田小学校内に児童約九〇〇名を収容し授業を開始した。

明治四四年一一月一〇日新校舎が落成したので、一一月一〇日を開校記念日とした。

二、校名の変遷

明四四・四・一	横浜市尋常第一日枝小学校
大一二・四・一	横浜市日枝第一尋常小学校
大一五・四・一	横浜市日枝第一尋常高等小学校
昭　四・九・一	横浜市日枝尋常高等小学校
昭一三・四・一	横浜市日枝尋常小学校
昭一六・四・一	横浜市日枝国民学校
昭二二・四・一	横浜市立日枝小学校

三、位置（校地）の変遷

明四四・四・一	横浜市南吉田町南七ツ目八七	一、六四一坪
昭　五・五・九	横浜市中区山王町五ノ三一	一、九二三坪

昭二二・四・一　横浜市南区山王町五ノ三一　三三二坪　追加

総坪数　二、二五五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明四四・四・一	借用			・太田小学校、南吉田小学校を借用
明四四・一一・一〇	新築	木造平屋建	五五一	・教室二〇
大一二・九・一	罹災	木造平屋建	五五一	・大震災により全校舎倒壊
大一三・一・一五	新築	木造バラック建	四五一	・教室一五
昭五・五・九	新築	鉄筋建	一、三〇二	・教室二八
昭二二・五・一	借用	鉄筋三階建		・教室四、昭和二六年三月三一日まで蒔田中学校を借用
昭二七・八・三〇	増築	木造平屋建	二五	・給食場

総坪数　一、三二七坪（教室三二、その他八）

五、分校の設置廃止状況

昭二五・四・二五　蒔田分校を横浜市南区蒔田町三度台一〇二〇番地に設置、建坪一二二、教室六、児童三二〇名

昭二六・三・一三　蒔田分校、第二事工事として建坪一六九坪、教室一〇、児童五五二名

昭二六・三・三一　蒔田分校独立のため廃止

六、統併合・分離・併設状況

大八・四・一　横浜市尋常第一日枝小学校附属夜間部設置

昭四・四・一　附属夜間部廃止

大一五・七・一　横浜市日枝青年訓練所併設、昭一〇年七月一日廃止

昭二二・五・一　日枝、共進、蒔田三校統合し日枝小学校となる。

七、学区及びその変遷

明四四・四・一　旧南吉田町の大部分、末吉町、長島島、吉岡町、駿河町、南太田町の一部

昭五・五・九　日枝町、南吉田町、山王町、吉野町、新川町、二葉町、高砂町

昭二二・四・一　南吉田町、日枝町、山王町、吉野町、新川町、二葉町、高砂町、睦町一・二丁目、共進町一丁目、東蒔田町、堀ノ内町一・二丁目の大部、宮元町一・二・三・四丁目、共進町一・二・三丁目、榎町一・二丁目、堀ノ内二丁目の一部、蒔田町

昭二六・四・一　日枝町、南吉田町、山王町、吉野町、二葉町、新川町、高砂町、睦町一・二丁目、東蒔田町、共進町一丁目、宮元町一丁目

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	鈴木　鶴蔵	明四四・四・一	大八・七・一	老松小学校長より就任、死亡退職
二	室田秀次郎	大八・七・七	大一三・三・三一	戸部小学校訓導より昇任、退職
三	渡辺市五郎	大一三・三・三一	昭一一・八・三一	北方小学校長より就任、退職
四	東本　貞治	昭一一・八・三一	昭一六・九・二九	横浜市視学より就任、浦島青年学校長へ転任
五	小島八五郎	昭一六・九・二九	昭一九・一・二〇	南太田国民学校長より就任、退職
六	佐々木高尚	昭一九・一・二〇	昭二〇・一〇・二	宮田国民学校教頭より就任、死亡退職
七	長谷川和一	昭二一・一・三一	昭二四・四・一四	横浜国民学校教頭より就任、大道小学校長へ転任
八	布川　正作	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	金沢小学校長より就任、東小学校長へ転任
九	斎藤　孝忠	昭三一・九・一		北方小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明四四	一九	九〇〇（一八）	—	—	一八〇	—
大一三	一四	八八八（一六）	一〇五	—	一二三	—
昭二	二六	一、一四四（二一）	一三五	三五	一五〇	三二
昭五	二五	一、一一七（二一）	一一二	四三	一三一	五四

昭一〇	三一	一、六四六（二九）	二七四	一二三	一七二	一四五
昭一五	二四	一、三二七（二四）	二三〇	―	二一四	―
昭一八	二九	一、四八五（二七）	二一五	―	二〇八	―
昭二〇	二〇	九〇五（一八）	一四八	―	八八	―
昭二二	一二	五六八（一〇）	一二六	―	九九	―
昭二五	六一	二、八四二（五七）	五七七	―	三〇五	―
昭二六	三八	一、八一五（三五）	二四〇	―	二六五	―
昭三〇	三九	一、八五二（三五）	三六二	―	三二二	―

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
日枝小学校PTA	昭二一・五・一四	会員約千名
日枝小学校同窓会	昭三〇・一一・一〇	会員約二千名

一一、その他

昭一九・八・二〇　児童疎開のため神奈川県足柄下郡芦湯へ教職員一六名、児童七〇〇名、及び縁故疎開一〇〇名。

昭二七・六・四　神奈川県より歯牙優良校として表彰を受く。

昭二八・一・三　新潟県南魚沼郡土樽小学校と生活交換会開始。

昭二八・四・三　横浜市長より学校給食成績優秀により表彰を受く。

昭二九・一〇・三　学校給食場施設優良により内閣表彰を受く。

昭三〇・一一・二八　神奈川県優良学校として表彰を受けた。

昭三一・三・一一　全国保健体育優良校として日本体育指導者連盟より表彰を受けた。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一一・六・一〇	プール	一一七	市営プールとして設立されたが昭和一七年より学校プールとして許可された。二五米×一五米×一米
昭二七・九・三〇	給食室	二九	
昭三一・三・二〇	図書館	三一	創立四五周年記念行事の一環として三階の特別教室を利用して設置

横浜市立蒔田小学校

横浜市南区蒔田三度台一〇二〇番地
電話長者町（3）七三〇〇番

一、設置状況

1　創立　昭和二六年四月一日
2　開校　昭和二六年四月一〇日
3　設置の際の概況

本校は昭和二五年六月一日、日枝小学校蒔田分校として蒔田地区内の児童のうち五・六年三二三名を収容して授業を開始した。昭和二五年一月一三日校舎建設第一期工事竣工、翌二六年三月一三日、第六期工事を完成し、同年四月一日、蒔田小学校として創立した。

二、校名の変遷

昭二六・四・一　横浜市立蒔田小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二四・一二・三一　南区蒔田町三度台一〇二〇番地　三、三六〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二五・四・二五	新築	木造二階建	一二二	・教室六、医務室一、給食室一
昭二六・三・一三	増築	木造二階建	一六九	・教室一〇、応接室一
昭二七・六・二三	増築	木造二階建	一一一	・教室六

総坪数　四〇二坪（教室二二、その他六）

五、学区及びその変遷

昭二六・四・一　堀之内町一・二丁目、榎町一・二丁目、共進町二・三丁目、宮元町二・三・四丁目、蒔田町、宿町、花の木町、大岡町字永窪

昭二九・二・一〇　花の木町を南太田校学区に変更

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	田島　純凞	昭二六・四・一	昭三一・八・三一	日枝小学校副校長より就任、井土ケ谷小学校長へ転任
二	瀬戸　薫	昭三一・九・一		杉田小学校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二六	二七	一、二三五（二四）	一六六	二〇六
昭三〇	三二	一、五三四（三一）	三二八	二八九

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
蒔田小学校父母と教師の会	昭二六・四・一	会員一、五〇〇名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二五・四・二五	給食調理室	一六

（旧蒔田小学校沿革）

旧蒔田小学校は、関東大震災後における本市教育施設の長期計画により、市内三十一校に、一校平均二十四教室の鉄筋校舎を建設した中の一つで、昭和四年四月一日、横浜市蒔田尋常高等小学校として創立、横浜商業学校バラック内にて開校、六月四日、新校舎が落成した。

創立当時の位置は、横浜市中区花ノ木町二丁目四五番地（当時は中区に属していた）二五七一・三四坪で、建坪一三〇四・八七坪児童一、三五五名、学級二四、教職員二九名で、学区は、花ノ木町、宿町、宮元町、共進町、榎町、蒔田町の中、原、山ノ根、門田、雑色八反目、伊勢山、東谷、会下、谷戸田、三度台、谷戸田上、西であつた。

歴代校長は、安江政吉（昭四・四・三一、吉田小学校より就任、昭一五・三・三一退職）長谷川雷助（昭一五・三・三一、県視学より就任、昭二一・二・二〇、戸部国民学校長へ転任）鈴木直吉（昭二一・二・二〇、平安国民学校長より就任、昭二二・四・三〇、青木中学校長へ転任）

昭和二二年四月三〇日、新学制により、蒔田中学校に校舎を転用され、児童、教職員は、日枝小学校に統合された。

横浜市立大岡（おおおか）小学校

横浜市南区大橋町三丁目四九番地
電話長者町（3）〇八七六番

一、設置・廃止状況

1　創立　明治六年
2　開校　明治六年
3　設置の際の概況

明治六年学制に従い、第二区三番組の内下大岡、堀之内、蒔田の三ヶ村は連合して下大岡村（南区通町二ノ二六）宝積勇方住宅を仮校舎として、大岡学舎を創立し、二番組の内最戸、別所、久保及び三番組の内上大岡の五ヶ村は連合して最戸村来迎寺内へ最戸学舎を創立し、二番組の内井土ヶ谷、弘明寺二ヶ村は連合して井土ヶ谷日切地蔵内に井谷学舎を創立し、永田村、引越村は連合して、永田学舎を創立した。これらが本校の前身である。同年一一月一日、永田学舎は井谷学舎に合併。八年六月二九日の県達によつて、各学舎は学校と改称した。

明治九年大岡学校校舎を新築、明治一四年最戸学校々舎新築、教育令の改正により明治二〇年四月より、大岡学校を尋常高等併置の学校とし、井谷、最戸二校を尋常小学校とし、同時に村立を公立に改めた。

明治二三年、大岡、井谷、最戸の三校を合併して大岡川学校とし、校舎を下大岡字中島に設置した。当時の三校の状況は次の通りである。

大岡学校	敷地一三一坪、	生徒尋常科	男五六、女三四、高等科　男三四、女四、教員、校長一、授業生一、傭一
井谷学校	敷地二一〇坪、	生徒尋常科	男七四、女四九、教員、訓導一、授業生一
最戸学校	敷地二六六坪、	生徒尋常科	男四三、女一六、教員、訓導一、授業生一

二、校名の変遷

明　六・不　詳	大岡学舎	
明　八・　六・二九	大岡学校	
明一三・不　詳	公立大岡学校	
明一四・不　詳	村立大岡学校	
明二〇・不　詳	公立大岡学校	
明二三・一〇・二八	久良岐郡大岡川村公立大岡川学校	
明二五・　四・　一	久良岐郡大岡川村立尋常高等大岡川小学校	
明四四・　四・　一	横浜市立尋常大岡小学校	横浜市編入により校名改称
大一五・　四・　一	横浜市大岡尋常高等小学校	高等科併置
昭　五・　四・　一	横浜市大岡尋常小学校	高等科廃止による校名改称
昭一六・　四・　一	横浜市大岡国民学校	
昭二二・　四・　一	横浜市立大岡小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　六・不　詳	久良岐郡下大岡村字大橋詰一一九番地	神職宝積勇氏住宅を仮校舎として創立、（現在地番南区通町二ノ二六）
明　九・不　詳	久良岐郡下大岡村字石畠二四三番地	私有地、一三一坪
明二三・　七・二八	久良岐郡大岡川村字中島四六二番地	一、二七七坪
明四四・　四・　一	横浜市大岡町字中島四六二	横浜市編入による町名改正
昭　三・　三・三一	横浜市中区大橋町三ノ四九番地	三、〇九八坪　大震災により倒壊し現在地に変更指定された。
昭一八・一二・　一	横浜市南区大橋町三ノ四九番地	南区新設による改正

総坪数　三、五六九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　六・不　詳	借用	不詳	不詳	・下大岡村大橋詰一一九神職宝積勇氏宅を仮校舎として創立
明　九・不　詳	新築	木造平屋建	不詳	

明一五・九・一五	罹災	木造平屋建	不詳	・台風により倒壊し、宝積勇氏、平戸清八氏外一氏の住宅を仮用し分散授業を行う。
明二〇・不詳	改造	木造平屋建	四九	・下大岡村谷戸の民家を移築改造
明二三・七・二八	新築	木造平屋建	不詳	
明三三・一二・二七	増築	木造二階建	三二一	・教室一四
大一二・九・一	罹災			・大震災により倒壊焼失
大一三・四・一	新築	木造バラック建	二七八	・教室九
大一四・四・一	増築	木造バラック建	四〇三	・教室一二
大一五・四・一	増築	木造バラック建	四四六	・教室一九
昭　二・四・一	増築	木造バラック建	五三七	・教室二二
昭　二・一〇・一五	新築	鉄筋三階建	四七三	・教室三七
昭　三・二・一五	新築	鉄筋平屋建	一八一	・講堂

総坪数　一、五六八坪（教室三七、その他八）

五、分校・分教場の設置・廃止状況

昭二五・九・一	大岡分校を、横浜市南区中里町六四番地に設置、校舎坪数四四八坪、教室一二
昭三〇・八・三一	南小学校として独立のため、大岡分校を廃止

六、統併合・分離・併設・状況

明二三・七・二八	最戸学校、井谷学校を市町村制施行により統合
明四〇・一〇・一	実業補習学校を併設　明治四五年三月三一日廃止
大一五・四・一	高等科夜間部併設　昭和一九年六月二三日廃止
大一五・七・一	大岡青年訓練所併設
昭　二・不詳	横浜市南太田小学校併設、昭和四年南太田小学校が建築されたので分離
昭一〇・三・三一	大岡青年訓練所廃止
昭一〇・四・一	大岡青年学校併設
昭一八・三・三一	大岡青年学校廃止、南青年学校に統合
昭二〇・三・一七	横浜市井土ヶ谷小学校併設、昭和二三年九月二二日井土ヶ谷小学校の増築落成のため分離
昭三〇・九・一	横浜市立南小学校分離独立する。

七、学区及びその変遷

明　六・不詳	堀内村、蒔田村、下大岡村
明二二・五・不詳	大岡川村、明治二二年五月市町村制施行により、堀内村、蒔田村、下大岡村、弘明寺村、引越村、井土ヶ谷村、永田村、上大岡村、久保村、最戸村、別所村、中里村の一二ヶ村合併して大岡川村と称した。
明四四・四・一	堀内町は共進尋常高等小学校学区となる。
明四五・四・一	大岡町、蒔田町、弘明寺町、井土ヶ谷町
昭　二・四・一	永田町を桜岡小学校より本校学区に編入、大岡町の一部が桜岡小学校学区となる。
昭　四・四・一	蒔田町、榎町、宮元町、共進町、宿町、花の木町、蒔田尋常高等小学校新設開校のため同校学区となる
昭　四・一〇・一	井土ヶ谷町の一部（四反町、八反町、川田、南橋、宿村、高免、下の前、宮の前、宿の前、蒔田橋、一二天脇）南太田小学校学区に変更される。
昭　九・一〇・一	井土ヶ谷町の一部（坂本、永田下、町田、法心下、沖田、宮の下、山の根）永田町、横浜市井土ヶ谷尋常高等小学校新設開校され同校学区となる。
昭二七・四・一	大岡町（永窪）蒔田小学校学区となる。
昭二九・四・一	井土ヶ谷下町、南太田小学校学区となる。
昭三〇・九・一	弘明寺町一四八―二六七、大岡町七〇三―一九八八、二二三四―二三一九は南小学校の独立により分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	谷亀平三郎	明二二・一一・二六	明二三・一一・五	老松小学校長へ転任
二	飯田　道左	明二三・一一・五	明二四・二・不詳	退職
三	武林宇三郎	明二四・三・二	明三三・四・一	久良岐郡視学へ転任

四	内田伊之助	明三三・四・二五	明三三・一一・二一	本校首席訓導より昇任、戸部小学校長へ転任
五	小松久五郎	明三三・一一・二四	明三四・七・一六	元街小学校長へ転任
六	金子　梅吉	明三四・七・二〇	明三六・八・不詳	死亡退職
七	清水亀太郎	明三六・九・二	明三九・八・二	退職
八	山口寿之助	明三九・一〇・一八	明四五・四・一	第二日枝小学校長へ転任
九	大塚大五郎	明四五・四・一	大　元・一二・三	病気により休職
一〇	鈴木　重幸	大　元・一二・四	大　三・二・一二	退職
一一	山本保太郎	大　三・二・一二	大一三・三・三一	横浜小学校訓導より就任、退職
一二	森　冨太郎	大一三・三・三一	昭　四・四・三〇	西戸部小学校訓導より就任、磯子小学校長へ転任
一三	荒井　林蔵	昭　四・四・三〇	昭　八・九・五	磯子小学校長より就任、退職
一四	高田　文哉	昭　八・九・五	昭一六・七・二九	稲荷台小学校長より就任、死亡退職
一五	井上　治郎	昭一六・九・二四	昭二七・四・一	神奈川県視学より就任、東小学校長へ転任
一六	遠藤　隆景	昭二七・五・一	昭三〇・六・一	子安小学校長より就任、大島小学校長へ転任
一七	平野　健三	昭三〇・六・一		東台小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明　五	不詳	三〇（不詳）	不詳	不詳	不詳	—
明二二	九	二五〇（不詳）	七二	不詳	六八	一
明三三	七	二五八（不詳）	六九	一五	七五	四
明四四	一九	八八七（不詳）	一四六	五三	一一五	二七
明四五	一四	五一〇（不詳）	一〇八	—	六二	—
大一三	二〇	一、一五一（一八）	二一九	—	一四四	—
昭　二	三二	二、一一八（三二）	四三〇	一一九	二一一	九五
昭　五	三五	二、二三〇（三四）	四四九	—	三六八	—
昭一〇	三五	二、二三一（三四）	四二二	—	三〇九	—
昭一五	四六	二、八五九（四三）	四八八	—	四一七	—
昭一八	四七	二、九四四（四五）	四六九	—	四六八	—
昭二〇	四一	二、二五六（三六）	三六七	—	三七〇	—
昭二二	四四	二、四五三（三八）	四五九	—	四五三	—
昭二五	六二	二、九七九（五七）	五七〇	—	四〇八	—
昭三〇	四八	二、一四四（四〇）	三九五	—	三九四	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大岡小学校父母教師の会	昭二三・二・一一	会員一、五〇〇名
大岡小学校後援会	昭二九・一・二三	会員一二ヶ町内会の団体をもつて組織する。

一一、その他

昭一九・八・二七	児童疎開により小田原市東泉院他、一二寺院に分散疎開、教職員二〇名、児童四三二名。
昭二〇・一〇・二五	終戦により全員引揚げる。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一三・七・二七	プール	八八・六	縦二五米、横一一・五米、深さ一・〇米
昭二五・一〇・九	給食調理場	二三	

横浜市立桜岡小学校

横浜市南区大久保町一三番地
電話長者町（3）一四二二番

一、設置状況

1　創立　明治四五年四月一日
2　開校　明治四五年四月八日
3　設置の際の概況

明治四四年四月一日、久良岐郡大岡川村立尋常高等大岡川小学校は、所在地（下大岡字中島）が横浜市に編入されるに及び一時存続の学校となり、翌明治四四年大岡町字中島四六二番地に位置の指定をうけて四月一日横浜市立尋常大岡小学校となつた。同時に中里に一校を設立旧名をついで独立したのが本校の起源である。

二、校名の変遷

明四五・四・一	大岡川村立尋常高等大岡川小学校	
大一二・四・一	久良岐郡大岡川尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市桜岡尋常高等小学校	横浜市編入による校名改称
昭一六・四・一	横浜市桜岡国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立桜岡小学校	

三、位置（校地）の変遷

明四五・四・一	神奈川県久良岐郡大岡川村中里向田六四番地	一、〇七二坪
昭一五・七・一〇	横浜市中区大久保町一三番地に移転	三、〇六六坪内五〇坪は私有地

昭一八・一二・一　区の増設により横浜市南区大久保町一三番地となる

総坪数　三、〇六六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明四五・四・一	新築	木造平屋及び二階建	二六〇	・教室一〇
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により二階建校舎を除き全潰
大一四・一一・一	新築	六造平屋建	三六四	・教室一〇
大一五・四・一	増築	木造平屋建	一二	・教室一
昭二・五・一	増築	六造平屋建	一一四	・教室四
昭一七・一〇・二四	新築	木造二階建	九〇〇	・教室二二、校地移転
昭一九・五・一九	増築	木造平屋建	一一六	・教室四
昭二二・五・七	貸与			・四教室、港南中学校教室不足につき貸与、同年七月一日返還
昭二三・四・六	貸与			・五教室、港南中学校に貸与、同二四年六月五日返還
昭二六・八・三	増築	木造二階建	七五	・教室二
昭二七・九・六	増築	木造二階建	五〇	・教室二
昭三〇・五・四	撤去	木造平屋建	一〇	・第二便所
昭三〇・八・三〇	増築	木造二階建	七〇	・教室二
昭三〇・一一・一五	増築	鉄筋二階建	五七	・教室二

総坪数　一、二五一坪（教室三四、その他九）

五、統併合・分離・併設・状況

大八・四・一五	実業補習学校（附設）入学者二〇名
昭一〇・四・一	実業補習学校廃止

昭一〇・四・一　市立桜岡青年学校併設
昭一八・三・三一　市立桜岡青年学校は中里町旧校舎に移転

六、学区及びその変遷

明四五・四・一　引越、永田、最戸、久保、上大岡、中里、別所
明二・四・一　引越、永田、をそれぞれ井土ヶ谷、永野小学校区に変更、大岡町の一部（千保、藤ノ木）追加
昭二七・六・一七　笹下町の一部
昭三〇・二・四　中里町を南小学校区に変更

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	田口国三治	明四五・四・二	大七・三・三一	西前小学校訓導より昇任、退職
二	古平　敬爾	大七・四・一	大九・三・三一	久良岐郡尋常富岡小学校長より就任、久良岐郡尋常高等三分小学校長へ転任
三	荒井吉太郎	大九・四・一	大一一・三・三一	久良岐郡尋常富岡小学校長より就任、久良岐郡尋常高等日下小学校長へ転任
四	安室　晋治	大一一・四・一	昭一七・八・二五	久良岐郡尋常高等森中原小学校訓導より昇任、退職
五	清水　一作	昭一七・八・二六	昭二二・四・三〇	今井国民学校長より就任、峯小学校長へ転任
六	室田　哲	昭二二・四・三〇	昭二三・五・一五	井土ヶ谷小学校長より就任、三ツ沢小学校長へ転任
七	山本　逸義	昭二三・五・一五	昭二七・四・三〇	三ツ沢小学校長より就任、二俣川小学校長へ転任
八	塚本　英時	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	岸谷小学校長より就任、大道小学校長へ転任
九	長谷川和一	昭三一・九・一		大道小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明四五	八	三四五（七）	四六	一七	四七	一二
大一〇	九	四一六（七）	六二	三八	五一	二六
大一三	一〇	四九五（七）	六七	四五	六三	二〇
昭二	一四	六〇五（一〇）	一〇九	四一	五九	二八
昭五	一六	六九四（一四）	一〇七	六四	八八	四四
昭一〇	一七	八二七（一五）	一二二	八一	一〇三	五三
昭一五	一七	九六五（一五）	一五八	八七	一二二	八六
昭一八	二一	一、一一〇（一八）	二〇一	一一四	一四〇	七九
昭二〇	二九	一、二五五（二三）	一八二	一二六	一九六	一一五
昭二二	二六	一、四七五（二六）	三〇七	―	二一二	―
昭二五	三五	一、七四八（三二）	三三八	―	二四〇	―
昭三〇	五一	二、三二二（四五）	四四四	―	四〇九	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
桜岡小学校教育後援会	昭　三・四・一五	昭和二三年五月三〇日ＰＴＡに発展的解消
桜岡小学校ＰＴＡ	昭二三・五・三〇	会員一、四一八名

一〇、その他

昭一九・八・二二　児童疎開により箱根宮城野村へ教職員二名、児童五六名が疎開、翌二〇年八月帰校
昭二〇・四・一　第二次疎開として箱根宮城野村へ教職員二名、児童五〇名が疎開、同四月二四日足柄上郡寄村弥勒寺へ移動
昭二〇・四・二六　第二次二団として同足柄上郡寄村弥勒寺へ教職員五名、児童一〇〇名が疎開、同年一〇月三一日全員引揚げ
昭二五・九・五　子供銀行により知事賞を受けた。
昭二八・九・一六　防火作文により市長より優勝校として賞状を受く。
昭三〇・三・一七　第三回神奈川県図書館コンクールに入選県及び三市教委より表彰状を受けた。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一九・一二・一五	貯水池		
昭二四・九・五	給食調理室	二三	昭二六年八月改築三三坪となる
昭二七・九・二四	学校図書館	二〇	伊沢ユワヱ氏寄贈の諸品を旧理科室に整備して開館

横浜市立日（ひ）下（した）小学校

横浜市南区笹下町四三六一番地
電話長者町 (3) 一〇七六番

一、設置状況

1 創立　明治三六年三月三一日
2 開校　明治三六年五月　五　日
3 設置の際の概況

笹下、上笹下の二校を合併して日下村笹下第四三六一番地外六筆の地に校舎を新築して尋常日下小学校と名づけて創立開校した。笹下小学校は明治六年五月から笹下東樹学舎と称して笹下東樹院を仮校舎としていた。その後校舎の新築、焼失等、度々あつて校名も笹下小学校、ついで尋常笹下小学校と改称し合併の際は松本の正覚寺を仮校舎としていた。一方、上笹下小学校は明治一二年一二月栗木、氷取沢、峯の三小学校を合併して一つの小学校として設立上笹下小学校と称していた。その後の校舎の変遷は不明であるが合併の際には田中の妙蓮寺を仮校舎としていた。

二、校名の変遷

明三六・三・三一	久良岐郡尋常日下小学校	
大一〇・四・一	久良岐郡尋常高等日下小学校	高等科併置により改称
大一二・四・一	久良岐郡日下尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市日下尋常高等小学校	横浜市に合併により改称
昭一六・四・一	横浜市日下国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立日下小学校	

三、位置（校地）の変遷

明三六・三・三一	久良岐郡日下村笹下四三六一番外六筆	七五一
明四五・五・五	久良岐郡日下村笹下四三六一番外八筆	一、二〇三
昭一〇・六・二五	横浜市南区笹下町四三六一番外一〇筆	一、九三六、私有地（一部市有地）

総坪数　一、九三六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三六・三・三一	新築	木造平屋建	一七二	・教室五
明四三・不詳	増築	木造平屋建	一八二	・教室六
明四四・四・二	借用	木造平屋建	二〇四	・教室六、教室不足のため成就坊を借用
明四五・五・五	増築	木造平屋建	二六〇	・教室七
大一二・六・二五	増築	木造平屋建	二八九	・教室八
昭九・六・二五	増築	木造二階建	三四五	・教室一六
昭二〇・八・八	貸与			・昭二〇年一〇月一日まで、横浜裁判所、県交易営団、日飛等に貸与
昭二五・九・不詳	増築	木造平屋建	一九	・給食場物置
昭二六・三・一〇	撤去	木造平屋建	九二・五	・旧校舎腐朽したので撤去、教室二

総坪数　五一一・九〇坪（教室一四、その他六）

五、統併合・分離・併設状況

大六・九・一　久良岐郡日下村立尋常日下小学校附設補習学校を併設、児童男二三、女一一、計三四名

大一〇・四・一	久良岐郡日下村立日下実業補習学校を併設
大一五・四・一	久良岐郡日下村立日下青年訓練所を併設
昭　二・四・一	日下村横浜市編入により横浜市立日下実業補習学校と改称生徒数男三五、女二一、計五六名
昭一〇・一〇・一	横浜市立日下青年学校を併設、昭和一八年三月三一日横浜市立桜岡青年学校に統合される。

六、学区及びその変遷

明三六・五・五	久良岐郡日下村上笹下（上中里、氷取沢、峯、栗木、田中、矢部野）笹下（関、松下、雑色）
昭　四・八・二	磯子区栗木町、上中里町、氷取沢町を杉田小学校の学区に編入

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	板倉簡四郎	明三六・五・五	明三九・一〇・一八	吉田小学校へ転任
二	石田　半蔵	明三九・一〇・一九	明四一・三・三	磯子小学校訓導より就任、校長兼任解除される
三	内田　寅蔵	明四一・五・一九	明四五・八・一九	久良岐郡尋常高等日野小学校訓導より就任、宮谷小学校へ転任
四	小倉甚之助	明四五・八・一九	大一〇・四・一	三浦郡尋常高等西浦小学校より就任、退職
五	安室　晋二	大一〇・四・一	大一一・三・三一	森中原小学校訓導より就任、大岡川小学校へ転任
六	荒井吉太郎	大一一・三・三一	大一四・三・三一	大岡川小学校より就任、日野小学校へ転任
七	福島房五郎	大一四・三・三一	昭一七・三・三一	日野小学校長より就任、退職
八	高田　新作	昭一七・三・三一	昭二二・四・三〇	日下国民学校長より就任。南太田小学校長へ転任
九	高橋　明三	昭二二・四・三〇	昭二七・四・三〇	釜利谷小学校長より就任、退職
一〇	高橋　達	昭二七・五・一		井土ケ谷小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者		
			尋常科	高等科	尋常科	高等科	
明三六	六	二〇二（四）	二〇二	—	四二	—	創立
大一〇	八	三四八（七）	五三	三一	五二	—	高等科設置
大一三	八	四二九（七）	六三	四〇	五一	二三	
昭　二	一〇	四七五（八）	六九	三七	六七	三〇	横浜市に編入
昭　五	一一	不詳（八）	不詳	不詳	不詳	不詳	
昭一〇	一二	四五一（一〇）	八三	四二	四九	二五	
昭一五	一三	五〇七（一一）	八一	四六	五七	五一	
昭一八	一四	五一七（一一）	五七	五三	七六	五五	
昭二〇	一七	七二三（一四）	八三	四四	九八	五四	
昭二三	一七	五四九（一二）	八八	—	九五	—	
昭二五	一七	六四二（一四）	一二二	—	一三〇	—	
昭三〇	一八	七三三（一六）	一四二	—	一二三	—	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
日下小学校後援会	不　詳	昭和二三年四月一日廃止
日下小学校母の会	不　詳	昭和二四年五月五日廃止
日下小学校父母と先生の会	昭二三・四・二五	会員一、〇五四名

一〇、その他

昭二〇・五・一	学区内の寺院八ヶ所に教職員八名、児童四一五名疎開、残留五年以下の一九九名と教職員六名
昭二〇・九・八	前記疎開先に教職員三名、児童一九九名、残留なし
昭二〇・一〇・一	全児童疎開先より復校

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二五・九・二八	給食調理場	一〇

横浜市立日野小学校

横浜市南区日野町一〇五〇番地
電話長者町(3)一一一八番

一、設置状況

1 創立 明治六年五月一〇日
2 開校 明治六年五月一〇日
3 設置の際の概況

本校創立以前の村内の教育は、日野徳恩寺、及び隣村笹下村洞雲閣においての寺子屋であつたが、明治五年学制要領に基き、校舎新築の計画をなし、村民相談して校地を日野学区の中央の宮の前に選定、明治五年一一月工事に着手し、翌明治六年五月一〇日竣工し、第一大学区第七中学区第五五番小学日野学舎と称し開校式を挙げ聖福寺院に仮設された仮校舎より移転した。

二、校名の変遷

明 六・五・一〇 第一大学区第七中学区第五五番小学日野学舎
明 八・六・二九 日野学校
明一三・四・一 公立日野学校
明一八・八・不詳 村立日野学校
明二五・四・不詳 日下村立尋常日野小学校
明三四・四・二七 久良岐郡日下村立日野尋常高等小学校
大一二・四・一 久良岐郡日下村立日野尋常高等小学校
昭 二・四・一 横浜市日野尋常高等小学校 横浜市編入による校名改称
昭一六・四・一 横浜市日野国民学校
昭二二・四・一 横浜市立日野小学校

三、位置（校地）の変遷

明 六・五・一〇 久良岐郡日下村字宮の前二〇四七番地
明三五・五・一〇 久良岐郡日下村字宮の前二〇六五番地
昭 四・一〇・一八 横浜市中区日野町一〇五〇番地に移転

総坪数 二、一九七坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明 六・五・一〇	新築	木造平屋建	不詳	・教室二
明三五・五・一〇	新築	木造平屋建	二二四	・教室七
大 六・七・三	増築	木造平屋建	七七	・教室二
昭 四・一〇・一八	新築	木造二階建	六五七	・教室一三

総坪数 六五七坪（教室一三、その他四）

五、統併合・分離・併設状況

明三二・四・一 補習科併設
明三四・五・四 補習科廃止
明四三・四・八 実業補習学校女子部併設
大一〇・一・一四 実業補習学校男子部併設
大一〇・四・一 久良岐郡日下村立日野実業補習学校、（文部省令実業補習学校令規則による改称）
大一五・七・一 日野青年訓練所
昭一〇・四・一 日野青年学校
昭一七・三・三一 日野青年学校は桜岡青年学校に統合

六、学区及びその変遷

大一〇・四・一 笹下、矢部野、栗木、田中、中里、氷取沢を日下小学校へ（高等科併置により分離）

昭二・四・一	中区日野町（横浜市併合により）
昭二六・九・一	日野町、笹下町（松本の大谷戸、室木、田中、小日野）
昭三一・八・一	日野町、笹下町（大谷戸、室木、田中、小日野、中の丸二〇三五―二一三八・二四〇〇）

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	楠　襲禅	明六・五　不詳	明一二・六　不詳	退職
二	真清田秀直	明一二・六　不詳	明一三・一　不詳	退職
三	木村七十郎	明一三・二　不詳	明一三・五　不詳	退職
四	山村駒次郎	明一三・六　不詳	明一四・二　不詳	退職
五	早川享太郎	明一四・三　不詳	明一五・一〇　不詳	退職
六	小管犄世雄	明一五・一〇　不詳	明一六・一　不詳	退職
七	佐伯　毅一	明一六・一　不詳	明一六・三　不詳	退職
八	鈴木　弘	明一六・五　不詳	明一六・一一　不詳	退職
九	竹内　米吉	明一七・四　不詳	明一九・一　不詳	退職
一〇	竹内　孝平	明一九・二　不詳	明一九・四　不詳	退職
一一	鶴田　房吉	明一九・七　不詳	明二〇・四　不詳	森中原小学校へ転任
一二	斎藤宇太郎	明二〇・一一　不詳	明二四・五　不詳	退職
一三	田村　秀継	明二四・五　不詳	明二五・四　不詳	退職
一四	和田米次郎	明二五・五　不詳	明二六・一一　不詳	退職
一五	寺田徳太郎	明二六・一一　不詳	大一二・三・三一	退職
一六	福島房五郎	大一二・三・三一	大一四・三・三一	日下小学校長に転任
一七	荒井吉太郎	大一四・三・三一	昭九・九・三〇	日下小学校長より就任、星川小学校長に転任
一八	大島　芳造	昭九・九・三〇	昭一五・九・三〇	神奈川小学校訓導より就任、神橋小学校長に転任
一九	高橋　時雄	昭一五・九・三〇	昭二一・二・二〇	幸ヶ谷国民学校訓導より就任、退職
二〇	野口　英雄	昭二一・二・二〇	昭二七・四・三〇	浜町国民学校長より就任、退職
二一	小沢　達蔵	昭二七・五・一		大正中学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明六	不詳	五〇（不詳）	不詳	―	不詳	―
明一七	二	九三（四）	不詳	―	不詳	―
明二六	不詳	不詳（不詳）	二五	―	一二	―
明三二	不詳	一四八（五）	三〇	―	一八	―
明三四	不詳	一九一（四）	二九	七七	二〇	―
大一二	九	三三八（七）	四四	二〇	四八	二四
昭二	一〇	三三六（八）	三九	二五	四六	二六
昭五	一一	三四〇（八）	五〇	三七	四八	三五
昭一〇	一一	三六四（八）	五六	三六	五三	三六
昭一五	一一	三七三（八）	五三	三六	五三	三三
昭一八	不詳	三三八（八）	五六	四一	四二	三七
昭二〇	一三	四三四（一三）	不詳	不詳	二九	三四
昭二二	一四	三七六（一一）	六七	―	五七	―
昭二五	一四	四〇八（一一）	七八	―	四六	―
昭三〇	一五	五二二（一二）	九八	―	八五	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
日野小校校ＰＴＡ	昭二三・五・一	会員五二七名

一〇、その他

明四一・三・一	神奈川県知事より教育奨励規程により奨励旗を授与
昭二八・七・一二	横浜国大書道部主催神奈川県下競書大会に団体一位を獲得し、秩父宮下賜の硯を授与
昭二九・六・二〇	横浜国大書道部主催第五回県下学校競書大会に小学校の部二位、内山知事賞を受けた。
昭三〇・六・二五	同右、二位知事賞を受けた。
昭三一・七・一	同右、二位知事賞を受けた。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・一〇・一〇	図書室	二五	八〇周年記念行事として、家庭科室を改造、蔵書数一、〇二九冊
昭二六・四・五	給食調理室	一二	昭二三年五坪の給食室をＰＴＡが寄贈した増築完成した。
昭三二・七・一五	プール		二五米×七米×一米

横浜市立永野（ながの）小学校

横浜市南区上永谷町三六〇九番地
電話長者町 (3) 五〇三〇番

一、設置状況

1 創立 明治二五年一一月三日
2 開校 明治二五年一一月三日
3 設置の際の概況

明治五年学制頒布により、鎌倉郡永谷村では棲心庵を仮校舎として授業を開始、明治一二年四月一〇日漸く校舎新築し、永谷学校と称した。一方上下野庭村では、下野庭部落の正応寺を仮校舎として野庭学校が誕生、明治一〇年には校舎新築した。

明治二二年永谷学校・野庭学校が合併し、野庭学校はその分教場に当てられることとなり、明治二四年一一月学校設備準則が公布されたので、それに伴つて村の中央に一校を設置する計画をたて翌年校舎一棟を現在の位置に建築し一一月三日開校式を挙行するにいたつた。

二、校名の変遷

明二五・一一・三	永野学校	
明二六・二・不詳	尋常永野小学校	
大 四・四・一	鎌倉郡尋常高等永野小学校	高等科併置による改称
昭一一・一〇・一	横浜市永野尋常高等学校	横浜市編入による校名改称
昭一六・四・一	横浜市永野国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立永野小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二五・一一・三	鎌倉郡上永谷町三六〇九外四筆	三五〇坪	私用地
明四一・不詳	鎌倉郡上永谷町三六〇七外二筆	二四二坪	私用地
大一四・不詳	地番不詳	八九一坪	私有地
昭 三・不詳	地番不詳	四五坪	私有地
昭一一・一〇・一	横浜市中区上永谷町三六〇六外一〇筆	九〇五坪	横浜市編入のため市有地となる
昭二七・九・不詳	横浜市南区上永谷町三六一四外三筆	四三八坪	瀬之間氏より借入
昭二八・九・不詳	横浜市南区上永谷町三五八二外一筆	一五一坪	奈良橋氏より借入
昭二八・一一・不詳	横浜市南区上永谷町五一七八ノ二外一筆	二三七坪	市有地

総坪数 三、二五八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二五・一一・三	新築	木造平屋建	六六	・教室二

明四一・不詳	改築	木造平屋建	一二	・教室一、教室以外を改築
明四二・五・一五	増築	木造平屋建	六六	・教室二
大一四・九・不詳	増築	木造平屋建	一一九	・教室二、便所・宿直室・職員室等同時に建てる
昭四・不詳	改増築	木造平屋建	七六	・教室二、便所・作業員室を増改築
昭一一・一〇・一	転用	木造平屋建	六五	・教室
昭二九・八・九	増築	木造平屋建	八三	・教室三

総坪数　四七六坪（教室一一、その他七）

五、統併合・分離・併設状況

明三九・四・二〇	農業補習学校を併設
明四一・四・一	農業補習学校廃止
明四四・九・一八	農業補習学校併設
大四・一・一四	実業補習学校と改称、女子部加設
昭一〇・三・三〇	実業補習学校を永野村立青年学校と改称
昭一一・一〇・一	横浜市立永野青年学校と改称
昭一八・三・三一	横浜市立永野青年学校を横浜市立桜岡青年学校に統合

六、学区及びその変遷

明二五・一一・三	鎌倉郡永野村（大字、永谷、下野庭、上野庭）
昭一一・一〇・一	横浜市中区下永谷町、上永谷町、野庭町（市編入のため町名改正）以後昭和十八年区名を南区に改めた。

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	平野 直吉	明二五・一一・三	明二五・一二・二〇	本校教員より昇任、鎌倉郡由比ヶ浜小学校長へ転任
二	沼 亀次郎	明二五・一二・二四	明二九・六・二	小笠原母島尋常高等小学校長へ転任
三	武谷長十郎	明二九・八・二四	明三五・九・一	二俣川小学校訓導より就任、中和田小学校長へ転任
四	亀野 源量	明三五・九・一	大一四・一〇・三一	生見尾小学校訓導より就任、退職
五	山口 治助	大一四・一〇・三一	昭四・五・七	小坂小学校訓導より就任、退職
六	高松良太郎	昭四・五・七	昭九・九・三〇	戸塚小学校訓導より就任、中和田小学校長へ転任
七	亀野 寛量	昭九・九・三〇	昭二六・八・三一	戸塚小学校訓導より就任、退職
八	斎藤止女男	昭二六・九・一		下野谷小学校副校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明二五	不詳	九八（二）	不詳	―	―	―
大四	五	一九四（四）	不詳	―	不詳	―
大一〇	四	二四一（四）	二五	三二	三五	六
大一三	七	二三一（四）	二六	二四	三四	一三
昭二	八	二四一（五）	四二	一五	一九	二〇
昭五	九	二四七（六）	五二	一六	二三	一三
昭一〇	九	二九三（七）	四一	二一	二三	二九
昭一一	九	二八一（七）	三二	四五	五五	一三
昭一五	九	二九〇（七）	三〇	二八	三七	三一
昭一八	一〇	二九四（七）	四〇	三二	四二	二八
昭二〇	一〇	四九七（七）	五〇	―	五三	三〇
昭二三	一二	三九二（九）	六六	―	六六	―
昭二五	一四	三八二（一一）	六四	―	五六	―
昭三〇	一七	四〇八（一一）	七二	―	六六	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
永野小学校ＰＴＡ	昭二二・九・二〇	会員三七二名
永野小学校校舎増築協力委員会	昭二六・九・不詳	会員八三名、老朽校舎改築のため設立されたが、三〇年三月三一日廃止
六〇周年記念事業委員会	昭二七・六・不詳	会員五九名、二八年三月三一日廃止

一〇、その他

昭二四・一一・一七　子供協同組合の貯金成績優良のため県知事及び通貨安定委員会長より表彰さる

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二二・七・一	児童図書館	一六	蔵書数二〇〇冊
昭二三・八 不詳	給食場	一四	旧役場一の室を改造
昭二九・九・一三	学校図書館	一六	旧役場を改修、書架三購入、蔵書数三〇〇冊
昭二九・九・一三	校内放送施設		原田貞次（卒業生）葛谷一郎両氏の寄贈
昭三〇・六・一	防火用貯水槽	一二	円形

横浜市立井土ヶ谷小学校

横浜市南区井土ヶ谷上町一二五番地
電話長者町(3)七七三〇番

一、設置状況

1　創立　昭和九年一〇月一日

2　開校　昭和九年一〇月一日

3　設置の際の概況

井土ヶ谷町は、従来、大岡、南太田両小学校に、永田町は大岡、桜岡両小学校の通学区域としていたが、通学に不便な上、近来この方面の発展はいちぢるしく、学齢児童が、甚だしく増加したので市当局においても学校新設の必要を認めて、現在地に位置を指定、昭和九年九月、第一期工事を完成し同年一〇月一日、尋常五年以下六三一名を収容する。

同年一一月二六日開校式を行い、この日を開校記念日としている。

二、校名の変遷

昭　九・一〇・一	横浜市井土ヶ谷尋常小学校
昭一〇・一一・一	横浜市井土ヶ谷尋常高等小学校
昭一六・四・一	横浜市井土ヶ谷国民学校
昭二三・四・一	横浜市立井土ヶ谷小学校

三、位置（校地）の変遷

昭　八・一二・一二	中区井土ヶ谷町字法心下一三四の二外三筆		二、九三五坪
昭一一・一一・一	中区井土ヶ谷上町一二五番地	二、九三五坪	町名地番改正
昭一八・一二・一	南区井土ヶ谷上町一二五番地	二、九三五坪	南区設置のために中区より南区となる。
昭二七・一・一	南区井土ヶ谷上町一二〇番地	一九九坪、川井カヨ氏より借用、校地拡張	

総坪教　三、一三四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭　九・九・二〇	新築	木造二階建	五七二	・教室一五
昭一〇・九・二〇	増築	木造二階建	七〇五	
昭二〇・三・一七	貸与	木造二階建	一、二七七	・東京電機株式会社に貸与
昭二〇・五・二九	罹災	木造二階建	九八二	・大空襲により罹災
昭二三・五・二六	増築	木造二階建	一一〇	・教室四
昭二三・九・二七	増築	木造二階建	一一四	・教室二
昭二四・六・二四	増築	木造二階建	一九三	・教室四、職員室・医務室
昭二六・四・一四	増築	木造二階建	一三六	・教室四
昭二七・六・一四	増築	木造二階建	一〇八	・教室四
昭二七・八・三一	増築	木造平屋建	一四	・宿直室・作業員室
昭二九・三・三一	増築	木造二階建	七七	・教室二

総坪数　一、〇四五坪（教室二八、その他五）

五、学区及びその変遷

昭　九・一〇・一	井土ヶ谷上町、永田町全域、中町四三―五八、一一七―一六八、下町一三七―一四五、二一二―二二五（尋常科学区）
昭一〇・四・一	高等科学区は大岡校学区、南太田校学区（男）
昭一四・四・一	尋常科学区、井土ヶ谷上町、永田町及び中里四三―四五、四七―五六、中町五八、一一七―一六三、井土ヶ谷下町一三七―一四五、二一二―二一六、二二四―二二五
昭一九・四・一	六ッ川町編入

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	田島　太一	昭　九・九・三〇	昭一三・八・一五	星川尋常高等小学校長より就任、退職
二	府川　勝蔵	昭一三・八・一五	昭一六・九・二三	岩崎尋常高等小学校長より就任、北方国民学校長へ転任
三	室田　哲	昭一六・九・二三	昭二二・四・三〇	太田国民学校長より就任、桜岡小学校長へ転任
四	兵頭　政志	昭二二・四・三〇	昭二四・六・三〇	平楽小学校長より就任、退職
五	高橋　達	昭二四・七・五	昭二七・四・三〇	本校教諭より就任、日下小学校長へ転任
六	岩本　正義	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	戸塚中学校長より就任、本郷小学校長へ転任
七	田島　純熈	昭三一・九・一		蒔田小学校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
昭　九	一二	六三六（一一）	｜	｜	｜	｜
昭一〇	二〇	一、〇四五（一五）	一九八	一二〇	一一六	｜
昭一五	三三	一、六二四（二八）	一〇四	二四〇	一九八	二三〇
昭一八	三三	一、七八九（二九）	二〇三	一八八	一九四	二五四
昭二〇	二五	一、四一一（二五）	一九八	一一二	一〇六	一二六
昭二二	二六	一、三七九（二六）	二八三	｜	二四一	｜
昭二五	三三	一、六〇〇（三〇）	三一三	｜	一九三	｜
昭三〇	四四	二、〇五二（三九）	四〇二	｜	三四一	｜

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
井土ヶ谷小学校父母と先生の会	昭二二・一〇・三〇	会員九〇三名
井土ヶ谷小学校講堂建設後援会	昭三一・四・二一	会員一、四四三名及び学区有志

九、その他

昭一九・八・二六　元箱根町武蔵屋、富士見荘、一宇荘、杉吉舘へ教職員一七名、児童三四二名集団疎開。翌二〇年一一月二六日疎開地より帰る。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二三・九・三〇	給食場	一七	
昭二四・六・二六	プール	二一	一二米×五米×一米
昭二九・一〇・一	図書館	一七	

横浜市立南(みなみ)太(おお)田(た)小学校

横浜市南区南太田二丁目一二〇番地
電話長者町 (3) 四二二四番

一、設置状況

1 創立 大正一〇年三月一五日
2 開校 大正一〇年四月 一日
3 設置の際の概況

大正九年五月、現在地（当時の町名、横浜市南太田町清水耕地八三六番地）に市の設計によつて校舎建築に着工翌一〇年三月末落成。太田、第一日枝、第二日枝、大岡小学校の児童の各一部を収容し開校した。教職員は一本松、第一日枝小学校から選ばれて構成され九五〇名の児童を一五学級に編成し授業を開始した。

二、校名の変遷

大一〇・三・一五	横浜市尋常南太田小学校
大一二・四・一	横浜市南太田尋常小学校
大一三・四・一	横浜市南太田尋常高等小学校
昭一六・四・一	横浜市南太田国民学校
昭二二・四・一	横浜市立南太田小学校

三、位置（校地）の変遷

大九・五不詳・	横浜市南太田町清水耕地八三六番地	一、五三〇坪	市有地
昭四・三・二七	横浜市中区南太田町清水耕地八三六番地	四一三坪	復興計画による区画整理のため拡張された。市有地
昭二九・三・一七	横浜市南区南太田町二ノ一二〇番地	六六六坪	区画整理に伴い校地拡張、市有地

総坪数 二、六〇九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一〇・四・一	新築	木造二階建	不詳	・教室一八、校舎一棟及び雨天体操場
大一二・九・一	罹災	木造二階建		・関東大震災により雨天体操場を残して全壊、火災は免がれる。
大一二・一一・一五	新築	木造平屋建	不詳	・全壊した校舎のあとにバラック二棟建てられる
大一三・二・一〇	増築	木造平屋建	不詳	・横浜商業学校々地にバラック一棟建てられる
大一四・四・一	増築	木造平屋建	不詳	・教室四、横浜商業学校々地にバラック一棟
昭二・四・一	借用	鉄筋三階建		・教室八、横浜商業学校々舎の一部を借用、尋五以上の児童を収容
昭三・四・六	借用	鉄筋三階建		・本校々舎新築中につき大岡小学校々舎を借用して高等科児童を収容
昭四・三・二七	新築	鉄筋三階建	五五八	・教室二八、雨天体操場を含む
昭一九・一〇・三〇	貸与	鉄筋三階建	五五八	・教室二八、神奈川県食糧営団に全校舎を貸与
昭一九・一〇・三〇	借用	鉄筋三階建		・教室一三、食糧営団に校舎を貸与したため疎開残留児童の授業を蒔田小学校々舎北半分を借用して行う。昭二〇年九月一四日本校々舎に復帰

総坪数 一、三一〇坪（教室二八、その他五）

五、分校設置廃止状況

昭二五・八・三	南太田小学校太田分校を南区三春台四二に開設校舎坪数一五九、教室五、児童四四一名
昭二七・三・三一	横浜市立太田小学校として独立のため太田分校を廃止

六、学区及びその変遷

大一〇・四・一	南太田町、井土ヶ谷町の大部分、宮元町、蒔田町、花ノ木町、宿町の各一部
昭　四・四・一	蒔田町を蒔田小学校学区に変更
昭　四・一〇・一	井土ヶ谷町の一部を大岡小学校学区より編入
昭　八・四・一	宮元町、花ノ木町、宿町の一部を蒔田小学校学区に分離
昭　九・四・一	井土ヶ谷町の一部（現井土ヶ谷上町中町の一部）を井土ヶ谷小学校新設により分離
昭二二・五・一	三春台、庚台、清水ヶ丘（一部）白金町、前里町、西仲町を加える。（太田小学校を併合したため）
昭二七・四・一	三春台、庚台、清水ヶ丘（一部）白金町、前里町、西仲町を除く、（太田小学校分離独立のため）
昭二九・四・一	花ノ木町一－三丁目を加える。（蒔田小学校の児童増加を緩和するため）

七、統併合・併設状況

大一五・四・一五	南太田尋常高等小学校附属夜学部を併設、児童二〇名、昭和一八年三月三一日南吉田小学校附属夜学部に統合
昭一五・七・一	南太田青年学校を併設、昭和一九年三月三一日、桜岡青年学校に統合
昭二二・五・一	太田小学校を本校に併合、昭和二七年四月一日太田分校分離太田小学校として独立

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	松尾　林蔵	大一〇・三・一五	昭　四・三・五	一本松小学校訓導より就任、退職。
二	猪俣　操	昭　四・三・六	昭一〇・一一・二四	南太田小学校訓導より就任、西前小学校長へ転任。
三	小島八五郎	昭一〇・一一・二五	昭一六・九・二八	平沼小学校訓導より就任、日枝国民学校長へ転任。
四	小村　憲治	昭一六・九・二九	昭二一・二・一九	岡野国民学校訓導より就任、退職。
五	出口　大甚	昭二一・二・二〇	昭二三・四・二九	東国民学校訓導より就任、生麦小学校長へ転任。
六	高田　新作	昭二三・四・三〇	昭二四・四・一四	日下小学校長より就任、退職。
七	小野口正市	昭二四・四・一五	昭三〇・二・二	大鳥中学校長より就任、平沼小学校長へ転任。
八	臼木　芳司	昭三〇・二・二		宮谷小学校長より就任。

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者		
			尋常科	高等科	尋常科	高等科	
大一〇	一七	九五〇（一五）	一六〇	—	一四一	—	創立
大一三	二四	一、三二〇（二二）	二四五	—	一五二	—	
昭　二	三〇	一、六六五（二八）	二九四	一〇八	二五五	一〇〇	高等科併置
昭　五	二六	一、四三一（二四）	二三六	九七	一九〇	六六	高等科女子のみとなる
昭一〇	二八	一、四八二（二六）	二四五	六三	二三一	五〇	
昭一五	二九	一、五〇六（二六）	二五五	六〇	二四八	七一	
昭一八	三〇	一、五四二（二八）	二六四	五八	二四五	五三	
昭二〇	三〇	九二八（二三）	不詳	四二	一二七	三三	
昭二二	三五	一、八六九（三二）	二四〇	—	三二三	—	太田小を統合
昭二五	五〇	二、四一四（四四）	四五二	—	二七七	—	
昭二八	三四	一、三八五（二七）	二二〇	—	二六二	—	太田小分離独立
昭三〇	三七	一、五九三（三一）	三四八	—	二七〇	—	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
南太田小学校奨励会	昭二二・七・一八	会員一、一三〇名
南太田小学校父母と教師の会	昭二三・三・二〇	会員一、二三五名

一一、その他

昭一九・八・二三	児童疎開、足柄下郡仙石原村俵石閣、麻布区立林間学校校舎、教職員一二名、児童三〇五名、縁故疎開五七九名、残留児童七二三名
昭一九・一二・二	第二次児童疎開、前記場所へ教職員一名、児童三二名
昭二〇・四・一五	第三次児童疎開、前記場所へ児童一五名、残留児童の授業中止、高等科女子勤労動員
昭二〇・一〇・二七	疎開先より復帰
昭二七・一・二九	科学教育研究発表会を行う。
昭二九・三・二三	給食による集団中毒事件発生罹患者職員一五名、児童一〇三名（死亡四名）病因は泉熱らしいが感染系統不明

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二二・一二・一八	給食調理場	一三	
昭三〇・一二・一	図書室	三八	蔵書数一、二〇〇冊

横浜市立太田小学校

横浜市南区三春台四二番地
電話長者町(3)六八九〇番

一、設置状況

1 創立 明治六年
2 開校 明治三八年五月二七日
3 休校 昭和二二年四月三〇日 戦災により南太田小学校に統合
4 復活 昭和二七年四月一日
5 設置の際の概況

学制に従い久良岐郡太田村東福寺に仮校舎を設け立志学舎と称した。以後明治、大正、昭和と七〇余年の歴史を誇っていたが、昭和二〇年五月二九日の戦災により校舎全焼し、二二年四月南太田に統合された。昭和二五年同校太田分校となり、二七年独立した。

二、校名の変遷

明六・不詳	立志学舎	
明八・六・二九	太田学校	
明九・一二・不詳	公立太田学校	
明一四・不詳	町立太田学校	
明二〇・四・一	公立太田	
明二五・四・一	尋常高等太田小学校	
明三四・四・一	横浜市立尋常高等太田小学校	久良岐郡戸太町は横浜市に編入
大一二・四・一	横浜市太田尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市太田国民学校	
昭二二・四・三〇	横浜市立南太田小学校に併合	
昭二五・八・三	横浜市立南太田小学校太田分校	
昭二七・四・一	横浜市立太田小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・不詳	久良岐郡太田村東福寺内	不詳
明八・六・二九	三春町一丁目	不詳
明二二・不詳	英町三丁目二四番地	三六〇坪
明二九・不詳	霞町三丁目一四番地	八四坪
明三八・五・二七	横浜市南太田町西仲耕地一六九五番地	一、〇九五坪

明四〇・四・不詳	横浜市南太田町西仲耕地一六九五番地	三七〇坪
明四四・四・不詳	横浜市南太田町西仲耕地	一六九五・六三坪
大九・四・二〇	横浜市南太田町西仲耕地一八四一番地	一、七八九坪
大一〇・四・二二	横浜市南太田西仲耕地一八四一番地	一八九坪
昭一三・一・二二	横浜市中区南太田西仲耕地一八四一番地	二八二坪
昭二二・四・三〇	横浜市立南太田小学校へ統合	
昭二七・四・一	横浜市南区三春台四二番地	二、一三八坪
昭三〇・一一・二六	横浜市南区三春台三八番地	四二四坪

総坪数　二、五六二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・不詳	不詳	木造平屋建	不詳	
明八・六・二九	借用	木造平屋建	不詳	
明一二・不詳	新築	木造平屋建	不詳	
明一八・一一・不詳	増築	木造平屋建	不詳	
明三二・九・不詳	改築	木造平屋建	不詳	
明三三・一一・二〇	新築	木造二階建	不詳	
明三八・二・一五	罹災	木造二階建	不詳	・類焼
明三八・五・二七	新築	木造二階建	三一六	・教室二〇
明四〇・四・不詳	増築	木造二階建	一五五	・不詳
大九・四・二〇	新築	木造二階建	五一九	・教室二七、校地変更、講堂を含む
大一二・九・一	罹災	木造二階建	五一九	・関東大震災により講堂を除き倒壊、又は半壊
大一二・一〇・一五	新築	木造バラック建	不詳	・教室八
大一四・三・三〇	新築	木造二階建	一三八	・教室一〇、半壊の教室も修理完了
昭一六・三・二五	改築	木造二階建	六五八	・教室二三
昭二〇・五・二九	罹災			・空襲により全焼
昭二五・八・三	新築	木造二階建	一五九	・教室六、南太田小学校太田分校として新築
昭二六・一・三一	増築	木造二階建	一三三	・教室四
昭二七・四・四	増築	木造二階建	二五三	・教室九
昭二八・二・六	増築	木造二階建	七〇	・教室二
昭二八・七・七	増築	木造二階建	一四七	・教室四
昭三〇・四・二八	増築	木造二階建	八九	・教室二
昭三一・四・三〇	増築	木造二階建	一〇三	・教室四

総坪数　九六八坪（教室二五、その他七）

五、併設状況

明四四・五・二二　附属特殊夜学部を併設し昭和四年四月一日廃止

六、学区及びその変遷

明一二・不詳	区域不詳
明一七・九・四	久良岐郡太田村外三一ヶ町村
明三四・四・一	三春町、英町、霞町、清水町、黄金町、初音町、日の出町、南太田町、南吉田町、久保町
明四一・不詳	日の出町、南太田町東耕地を老松小学校学区に分離 南吉田町の一部を第二南吉田小学校の学区に分離
大九・三・三一	霞耕地全部、庚耕地、西仲耕地のうち台地一帯を一本松小学校の学区に分離
昭二七・四・一	前里町、西中町、白金町、三春台、伏見町、庚台、清水ヶ丘（五一番地以上）

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中村 耕二	不詳	不詳	不詳
二	戸塚吉太郎	明三七・不詳	不詳	不詳
三	須山 新吉	明三〇・四・不詳	明四五・四・不詳	老松小学校訓導より就任、休職
四	金子政次郎	明四五・四・不詳	大六・四・不詳	寿小学校訓導より就任、西平沼小学校長へ転任
五	宮川 仁三	大六・四・不詳	大一三・三・三一	石川小学校訓導より就任、吉田小学校校長へ転任
六	砂川 孝平	大一三・三・三一	昭八・一〇・二五	南吉田第一小学校訓導より就任、青木小学校長へ転任
七	三橋 嘉一	昭八・一〇・二五	昭二二・四	太田小学校訓導より就任、蒔田中学校長へ転任
八	福部喜四郎	昭二七・四・一	昭三〇・五・三一	南太田小学校副校長より就任、大正小学校長へ転任
九	村杉 貞子	昭三〇・六・一		浜小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明六	不明	不詳（不詳）	不詳	不詳	不詳	不詳
明二二	不明	不詳（不詳）	不詳	不詳	不詳	不詳
大一〇	不明	不詳（不詳）	不詳	不詳	二一六	不詳
大一三	不明	不詳（不詳）	不詳	不詳	二一三	八二
昭二	不明	不詳（不詳）	不詳	不詳	二三二	八八
昭五	不明	不詳（不詳）	不詳	不詳	二三九	一〇五
昭一〇	不明	不詳（不詳）	不詳	不詳	一九六	一一一
昭一五	三六	不詳（不詳）	不詳	不詳	二七三	一三一
昭二七	二三	一、一一八（二一）	一六八	｜	二三八	｜
昭三〇	三一	一、四三九（三〇）	二三八	｜		｜

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
太田小学校PTA	昭二七・四・一	会員一、八〇〇名

一〇、その他

昭一九・七・不詳	箱根神山ホテル、芙蓉亭に児童疎開、高等科勤労動員、男―古河電線、女―石渡真空管製作所
昭二〇・四・二	第二次疎開により箱根神山ホテル、芙蓉亭に分散疎開
昭二〇・一〇・三一	疎開児童引揚げ帰校

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・一・三一	給食調理室、配膳室	一〇	
昭三〇・四・一	図書室	一八	蔵書数六〇〇冊

横浜市立南（みなみ）小学校

横浜市南区中里町七二番地
電話長者町（3）〇三七三番

一、設置状況

1　創立　昭和三〇年九月一日
2　開校　昭和三〇年九月一日
3　設置の際の概況

昭和二五年九月一日、横浜市立港南中学校新築移転により、大岡小学校二部授業緩和のため、その校舎に大岡小学校分校を設置した。昭和二七年五月一日より独立校への運動を進め、第一・第二・第三期改築工事を経て昭和三〇年七月一九日、独立学校設置に関する申請書を提出、同年八月一一日、第四期改築工事竣工、九月一日、独立校として開校した。

二、校名の変遷

昭三〇・九・一　横浜市立南小学校　大岡小学校分校より独立

三、位置（校地）の変遷

昭三〇・九・一　横浜市南区中里町七二番地　二、〇四五坪、私有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭三〇・九・一	新築	木造二階建	三八五	・教室一九
昭三一・四・三	増築	木造二階建	二八	・教室二

総坪数　四一三坪（教室一九、その他八）

五、学区及びその変遷

昭三〇・九・一　弘明寺町一四八—二二四、山下二六〇—二六七、二三四—二三六、大岡町堰上七〇三—七一〇、七一三、七一五—七二〇、七二七—七三〇、大岡町岩井下八一〇—九五〇、大岡町七枚畠九五一—一〇四九、二三六九—二三三三、二三五二、大岡町五枚一八〇五—一八五二、一〇五〇—一一一九、二三〇五—二三一〇、大岡町浅間山一八五三—一九二一、二三一六—二三一九、中里町全部、三角田二三二一—二三二八
（大岡小学校分校独立により大岡小学校区域弘明寺観音通以南を南小学校学区とする。）

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	片山　光男	昭三〇・九・一	横浜市教育委員会指導主事より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭三〇	二六	一、一三五（二三）	二四六	二〇一

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
南小学校PTA	昭三〇・九・一	会員一、二八〇名
南小学校後援会	昭三一・六・九	

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭三〇・九・一	給食場	一九

横浜市立保土ケ谷小学校

横浜市保土ケ谷区月見台二八八番地
電話神奈川(4)〇二一一六番

一、設置状況

1 創立　明治六年五月五日
2 開校　明治六年六月五日
3 設置の際の概況

明治六年五月学制に従って保土ケ谷外三ケ町の有志が相はかつて、一校が保土ケ谷町二五九六番地の軽部庫次郎宅地内に新築され、第一大学区第七中学区七六番小学程ケ谷学舎として創立した。

二、校名の変遷

明六・五・不詳	第一大学区第七中学区七六番小学程谷学舎	
明八・六・二九	程ケ谷学校	
明二五・四・一	橘樹郡尋常高等程ケ谷小学校	
大一二・四・一	橘樹郡程ケ谷尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市程ケ谷尋常高等小学校	横浜市編入による改称
昭三・四・一	横浜市保土ケ谷尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市保土ケ谷国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立保土ケ谷小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・五・不詳	保土ケ谷町二五九六番地	軽部庫次郎宅地借用

明六・一二・不詳	帷子町三二一八番地	帷子学舎として香象院に分校を開設し、後に帷子学舎とした。
明一〇・五・不詳	帷子町三二三五番地	二二八坪、岡野勘四郎氏寄付、程谷、帷子の両校を併合して新築移転
明一二・一二・不詳	保土ヶ谷町二五九六番地	分校廃止により軽部氏に宅地返却
明一七・一〇・不詳	保土ヶ谷町三九五番地	九六坪、清宮与市氏の所有地を借用（分校敷地として）
明二一・二・不詳	隣接、遍照寺	六四五坪、遍照寺所有地を借入れ校地、運動場を拡張
大四・五・不詳	保土ヶ谷町三八五番地	四二〇坪、分教場新設のため（現在の岩崎小学校々地）
大一二・七・二五	神戸原九四二番地	三、〇〇〇坪、第二校舎新築のため
大一二・九・一	関東大地震のため校舎全潰し、前記神戸原、帷子町、保土ヶ谷町、遍照寺等の借用校地返却	
大一四・六・五	神戸坂下六六六番地	一、五六五坪、内遍照寺より八七坪借用、その後帷子町三二三五番地の二二八坪と遍照寺借用、三二坪を合併する。
昭一五・一一・一	横浜市保土ヶ谷区月見台二八八番地	町名地番改正による

総坪数　一、八二五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・五・不詳	新築	木造平屋建	五五・三	・教室二、軽部庫次郎氏宅地内に建築する
明六・一二・不詳	借用		不詳	・保土ヶ谷分校として香象院を借用、明治一〇年五月廃止
明一〇・五・不詳	新築	木造平屋建	六二	・教室四
明一一・五・不詳	増築	木造二階建	二五	・教室三
明一二・一二・不詳		木造平屋建		・明治六年建築の軽部氏宅の旧校舎を廃校
明一七・一〇・不詳	新築	木造平屋建	二〇	・分校として設立、一教室
明二三・七・不詳	改築	木造二階建	一四二	・教室九
明二八・三・不詳	移築	木造平屋建	二〇	・分校々舎を本校に移築
明二九・一・二六	寄付	木造平屋建	五〇	・教室二、明治二七・八年戦没凱旋式場を式後、記念として寄付される
明三六・一一・二五	改築	木造二階建	三六四	・教室一〇
明三六・一一・不詳	売却	木造二階建	一四〇	・詳細不明
明三六・一一・不詳	売却	木造平屋建	二〇	・詳細不明
明三六・一一・不詳	新築	木造平屋建	不詳	・職員住宅として一棟設置
明三九・七・不詳	売却	木造平屋建	不詳	・職員住宅売却、その後に小使住宅を設立
明四四・一〇・不詳	新築	木造平屋建	四一・五	・職員室、宿直室、物置等として建設
大四・五・四	新築	木造平屋建	四六	・教室一、保土ヶ谷町三八五番地に分教場を新設
大四・五・四	増築	木造二階建	六六	・教室四
大一二・七・二五	新築	木造二階建	四〇五	・教室九、神戸原九四二番地に第二校舎として増設
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により分校を含め全校舎倒潰
大一二・一〇・不詳	借用			・児童の一部を大仙寺、天徳院の本堂を借用して授業を行う（同年十一月十六日迄）
大一二・一一・一六	新築	木造バラック建	三七四	・教室一四
大一三・一二・二四	借用	木造バラック建		・横浜警備隊兵舎跡を本校舎新築まで借用
大一三・一二・二四	撤去	木造バラック建	三七四	
大一四・六・五	新築	木造二階建	八八六	・教室二七
大一四・一二・一五	新築	木造二階建	四九八	・教室一二、大正四年五月建築した分教場敷地に建築、昭和五年岩崎小学校となる
昭四・一二・不詳	新築	木造二階建	一三四	・講堂として建設
昭一六・一二・不詳	借用			・校舎改築のため帷子小学校講堂及び数教室を昭十七年十二月迄借用
昭一七・六・不詳	改築	木造二階建	四三七	・教室八

昭一七・一二・不詳	改築	木造二階建	四七三	・教室一八
昭二〇・六・不詳	貸与	木造二階建	一八八	・教室六、帷子小学校焼失により本校に併設（昭和二一年四月一日本校に併合迄）
昭二九・三・二一	罹災	木造二階建	三六二	・教室一二、午前一〇時原因不明の出火により北側校舎焼失、午前一一時頃第一校舎防火壁により消火する
昭二九・五・一	改造	木造平屋建	一三四	・教室五、校舎焼失により講堂を改造、臨時教室に変更する
昭二九・八・二〇	増築	木造平屋建	二	・作業員室として増設
昭二九・八・二七	増築	木造二階建	九〇	・教室二
昭二九・九・一	借用	木造平屋建	一六〇	・校舎焼失により桜ヶ丘高校々舎六教室を借用、同三〇年三月迄
昭三〇・一〇・二〇	新築	鉄筋三階建	一九二	・教室六

総坪数　一、〇二五・六坪（教室二一、その他七）

五、分校、分教場の設置、廃止状況

明　六・一二・不詳　程ヶ谷学舎保土ヶ谷分校を橘樹郡帷子町三、二一八番地に設立、教室一、児童八八名（明治七年一〇月帷子学舎と改称）

明一〇・　五・不詳　程ヶ谷学校と帷子学校を合併して程谷学校となり、新築移転したので旧程ヶ谷学校の校舎を程ヶ谷分校として橘樹郡保土ヶ谷町二、五九六番地に設置、校舎坪数五五坪、教室二、児童数不詳

明一二・一二・不詳　程ヶ谷学校程ヶ谷分校を廃止

明一七・一〇・不詳　保土ヶ谷町三九五番地に分校を設置、校舎一九・五坪、教室一

明二八・　三・不詳　分校々舎を本校に移築したため分校廃止

大　四・　五・　四　程ヶ谷小学校岩崎分教場を橘樹郡保土ヶ谷町三九五番地に設置、校舎坪数四九八坪、教室一二、児童三一三名

昭　五・　四・　一　保土ヶ谷小学校岩崎分教場、岩崎小学校として独立

昭二六・　八・　七　保土ヶ谷小学校帷子分校を保土ヶ谷区天王町一ノ八七に設置、校舎坪数二八〇坪、教室六、児童四〇六名

昭二六・一〇・　一　保土ヶ谷小学校帷子分校、帷子小学校として独立

六、統併合、分離、併設状況

明四三・　四・不詳　帷子小学校設置につき尋常科児童の一部を分離

大　七・不　　詳　橘樹郡程ヶ谷町立女子実業補習学校を併設、後大震災により倒壊し廃校となる。

昭　五・　四・　一　岩崎分教場が分離して、岩崎小学校として独立

昭　五・　六・不詳　横浜市立青年訓練所併設

昭一三・　四・不詳　横浜市青年学校を併設、昭二一年廃校となる

昭二〇・　三・不詳　帷子小学校戦災により併設、翌二一・四・一帷子小学校廃校となり統合

昭二六・一〇・　一　帷子小学校再独立のため児童の一部を分離

昭三〇・　四・　一　桜台小学校設置のため児童の一部を分離

七、学区及びその変遷

明　六・　五・不詳　保土ヶ谷町、帷子町、神戸町、岩間町

明一二・　一・不詳　保土ヶ谷町、帷子町、神戸町、岩間町、岡野新田

明一七・　七・不詳　保土ヶ谷町、帷子町、神戸町、神戸上、下町、岩間町、岩井町、高等科は芝生、星川の両校の区域が加へられた

大　四・　五・　四　帷子町、神戸町、神戸上、下町、岩間上、下町、岩井町の一部、町内区画改正により町名変更

昭二五・　一・　一　神戸町、月見台、桜ヶ丘、花見台、霞台、帷子町一、二丁目、瀬戸ヶ谷町、西久保町、岩間町一、二丁目、岩井町の一部、町内区画改正により町名変更

昭二六・一〇・　一　神戸町の一部、月見台、桜ヶ丘、花見台、霞台、帷子町一、二丁目、瀬戸ヶ谷町、西久保町の一部、岩間町二丁目、帷子小学校開校による学区変更

昭三〇・　四・　一　岩井町一―六三、一〇九―二七七、帷子町一、二丁目、四七―六七、七八―九八、月見台一―三〇、四七―

四八、一〇八—一〇九、一一二—一一六、一七五—二〇五、二一五—二四五、二五六以上、神戸町八五以上
六三—六四、西久保町五七以上、岩間町二丁目以上、桜台小学校開校による学区変更

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	加藤　貢	明　六・五・不詳	明二二・四・不詳	不詳、退職
二	岡野欣之助	明二二・四・不詳	明二六・七・不詳	本校訓導より昇任、退職
三	小泉太一郎	明二七・一・不詳	明三〇・三・不詳	本校訓導より昇任、退職
四	広瀬佐太郎	明三〇・四・不詳	明三一・七・不詳	本校訓導より昇任、吉田小学校長へ転任
五	星野彦太郎	明三一・七・不詳	明三三・七・不詳	足柄下郡小田原小学校長より就任、足柄上郡視学へ転任
六	日野　順海	明三三・七・不詳	明三七・七・不詳	都筑郡中川小学校長より就任、足柄下郡視学へ転任
七	青木　幹	明三七・七・不詳	明三九・一〇・一五	本校訓導より昇任、大阪府女子師範学校へ転任
八	関　忠四郎	明三九・一一・不詳	大一二・一〇・三〇	東京市三笠小学校長より就任、退職
九	斉藤　元近	大一二・一〇・三一	昭　二・三・三〇	田島小学校長より就任、青木小学校長へ転任
一〇	高田　文哉	昭　二・四・　一	昭　五・六・一九	横浜市視学より就任、稲荷台小学校長へ転任
一一	軽部雅太郎	昭　五・六・二〇	昭二一・二・一九	江古田小学校長より就任、退職
一二	原　嘉市	昭二一・二・二〇	昭二四・四・一五	吉田小学校長より就任、金沢小学校長へ転任
一三	北村嘉代吉	昭二四・四・一五	昭三〇・六・　一	栗田谷小学校長より就任、市場小学校長へ転任
一四	渋谷　将	昭三〇・六・　一		間門小学校副校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科	
明　六	四	八八（四）	八八	—	—	—	
明一六	八	二一一（不詳）	不詳	—	不詳	—	
明二二	八	一九一（八）	二七	—	二三	—	
大一〇	三一	一、二九〇（二八）	二三三	一六六	二三六	八〇	
大一三	三〇	一、二四五（二七）	二〇三	一一〇	二九三	一〇五	
昭　二	四〇	一、八一九（三五）	二五五	八八	一八六	六〇	
昭　五	三七	一、七七八（三四）	二三八	九五	二二三	七〇	
昭一〇	三九	一、八二二（三五）	二七三	七一	一九一	六三	
昭一五	四一	一、九一七（三七）	二八六	八二	一九四	六九	
昭一八	三七	一、七九一（三四）	二二五	九九	二三四	八五	
昭二〇	四〇	一、八〇九（三五）	二五七	八三	二一七	八九	
昭二三	三六	一、七一五（三三）	二六四	—	一八六	—	
昭二五	四四	一、八〇二（三六）	三三五	—	二一九	—	
昭二六	三二	一、三一三（二八）	三三五	—		二八九	帷子小学校独立のため一部分離
昭三〇	三一	一、一九一（二六）	一八一	—	二五七	—	桜台小学校独立のため一部分離

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
保土ヶ谷小学校ＰＴＡ	昭二三・三・一二	会員九六〇名
保土ヶ谷小学校復興促進会	昭二九・三・二二	会員三、〇〇〇名

一一、その他

明三四・四・一	一年、二年の二部編制を認可され、全国二部授業の嚆矢となる
昭一九・八・二七	児童疎開により戸塚区川上地区および大正地区一一ヶ所に分散疎開、教職員一六、児童三七七名
昭二〇・五・二五	戸塚区疎開引揚げ
昭二〇・五・三一	津久井郡へ再疎開、児童三一四名、教職員二〇名

昭二〇・一〇・二二	児童疎開全員引あげ
昭二五・四・一	特殊学級を設置して学業不振児、精薄児の指導をした
昭二九・四・三〇	昭和二八年度学校基本調査の実施について優良と認められ、文部大臣より表彰状を受けた

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一九・二・一	給食調理室	一三	昭和二四年五月増築二九坪となる。

横浜市立帷（かた）子（びら）小学校

横浜市保土ヶ谷区天王町二丁目八七番地
電話 神奈川(4)五二一六番

一、設置、廃止状況

1 創立 明治四三年四月一日
2 開校 明治四三年四月一〇日
3 廃校 昭和二一年一月一五日
4 創立 昭和二六年一〇月一日
5 設置の際の概況

明治三九年に帷子町の耕地整理が完了し、帷子川利用による富士紡績工場が設置され、その表門に商店街が誕生した。従つて町の発展と共に児童も増加し、保土ヶ谷小学校に収容しきれなくなつた。そこで帷子川以北の児童を通学区域としての学校建設が必要となり、耕地整理後の帷子町表門通り北側にある水田を敷地として埋立工事を始め、その完了と共に建築にかかり明治四三年三月末完了、四月保土ヶ谷小学校より分離し開校するに至つた。昭和二〇年四月一五日戦災により校舎焼失し、保土ヶ谷小学校を借りて授業を続けたが、昭和二一年一月一五日保土ヶ谷小学校に統合され、校地は駐留軍に接収された。戦後保土ヶ谷小学校学区においても児童激増し、二部授業を行うようになつたので、地元父兄間に学校建設の議が起り、帷子小学校建設促進委員会が昭和二五年一一月二一日に結成され、昭和二六年七月一〇日保土ヶ谷小学校分校として旧帷子小学校々地に設置され、同年一〇月一日新たに帷子小学校として発足した。

二、校名の変遷

明四三・四・一	橘樹郡保土ヶ谷尋常帷子小学校	
大一二・四・一	橘樹郡保土ヶ谷町立帷子尋常小学校	
昭 二・四・一	横浜市帷子尋常小学校	横浜市編入による校名改称
昭一六・四・一	横浜市帷子国民学校	
昭二一・一・一五	廃校	戦災により校舎全焼及び住民の減少のため
昭二六・七・一〇	横浜市立保土ヶ谷小学校帷子分校	
昭二六・一〇・一	横浜市立帷子小学校	

三、位置（校地）の変遷

明四三・四・一	神奈川県橘樹郡帷子町	
昭 二・四・一	横浜市保土ヶ谷町帷子	横浜市編入による
昭 二・一〇・一	横浜市保土ヶ谷区宮田町一四二番地	区制施行及び町名地番改正による
昭二六・一〇・一	横浜市保土ヶ谷天王町二ノ八七	新たに創立（旧帷子小学校々地）

総坪数 一、六六一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明四三・四・一〇	新築	木造平屋建	一五七	・教室五

大　四・四・一	増築	木造平屋建	一一五	・教室四
大一一・四・一	増築	木造二階建	一〇〇	・教室六
大一二・九・一	罹災			・大震災により校舎全潰
大一二・一〇・二〇	新築	木造平屋建	一九〇	・教室九
大一三・一二・一五	改築	木造二階建	二六四	・教室一四
昭一〇・六・六	増築	木造二階建	七〇	・教室五
昭一二・不詳	新築	木造平屋建	一四四	・教室
昭二〇・四・一五	罹災			・戦災により校舎全焼
昭二六・八・七	新築	木造二階建	一七二	・教室六
昭二七・四・七	増築	木造二階建	七五	・教室四
昭二七・六・二七	増築	木造二階建	七二	・教室四

総坪数　三一九・三一坪（教室一四、その他五）

五統併合、分離、併設状況

大一三・七・一三	横浜市峯小学校が設置され、児童の一部を分離
大一五・七・一	保土ヶ谷町立帷子青年訓練所併設
昭　二・四・一	横浜市立帷子商工専修学校併設
昭一〇・七・一	帷子商工専修青年学校併設
昭一九・七・不詳	帷子青年学校は星川青年学校に統合

六、学区及びその変遷

明四三・四・一	帷子川以北、帷子町（三沢、峯、山下、川岸）
大一三・七・一三	天王町、宮田町、峯小学校設立による
昭二六・一〇・一	大王町、宮田町の一部、岩間町、神戸町、西久保町の一部

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	木村　坦平	明四三・四・一	大一・一〇・三〇	保土ヶ谷小学校訓導より就任、退職
二	小田倉鎌太郎	大元・一〇・三一	大一四・六・三〇	退職
三	山崎　佐	大一五・七・三	昭二・六・二五	不詳
四	内田慶次郎	昭二・七・二九	昭八・八・三〇	川崎小学校長へ転任
五	浪崎　義一	昭八・九・一	昭一三・八・三一	大島小学校副校長より就任、石川小学校長へ転任
六	山田　磯吉	昭一三・八・三一	昭一七・八・三一	間門小学校副校長より就任、間門国民学校長へ転任
七	長塚　文蔵	昭一七・九・一	昭二一・一・一五	大島国民学校副校長より就任、大島国民学校長へ転任
◇		◇	◇	◇
一	小林　兼二	昭二六・一〇・一	昭三一・八・三一	保土ヶ谷小学校副校長より就任、南吉田小学校長へ転任
二	阿部　三千	昭三一・九・一		一本松小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明四三	五	三三〇（七）	不詳	―	不詳	―
大一一	一八	一、〇六三（一八）	不詳	―	不詳	―
大一三	一五	七二〇（一六）	不詳	―	不詳	―
昭二	一九	九六七（一七）	不詳	―	不詳	―
昭五	一八	一、一三三（一八）	不詳	―	不詳	―
昭一〇	一九	一、〇七三（一八）	不詳	―	不詳	―
昭一八	二一	一、一八九（一八）	不詳	―	不詳	―
昭二〇	一〇	一九一（六）	不詳	―	不詳	―
昭二六	一二	四九一（一〇）	―	―	―	― 五年生まで
昭三〇	一八	七三三（一五）	一四〇	―	一一八	―

八、学校協力団体

団体名	発足年月日

帷子小学校ＰＴＡ　昭二六・一二・一〇　会員五五〇名

九、その他

昭一九・八・二三　児童疎開により横浜市戸塚区倉田町、下倉田、飯島町、金井町、四谷町、本郷町等へ分散、教職員一一名、児童八五名が分れて授業をなす

昭二九・不詳　ＮＨＫより放送教育研究指定校になり、昭和三〇年二月一四日研究発表をした

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・一〇・一	給食施設	一四・三	
昭二七・一・一〇	学校図書館	一〇	蔵書数二、三二六冊

横浜市立岩崎（いわさき）小学校

横浜市保土ヶ谷区岩崎町二三番地
電話神奈川(4)四一五三番

一、設置状況

1　創立　昭和五年四月一日

2　開校　昭和五年四月一日

3　設置の際の概況

大正四年保土ヶ谷町岩崎綳手に保土ヶ谷小学校分教場として設置されたが、大正一二年大震災で全潰、同年一一月に仮校舎一棟が建設され、大正一四年に至り本建築落成、昭和四年当地に現在校の位置を指定され、昭和五年開校の運びとなつた。

二、校名の変遷

昭　五・三・三一　横浜市岩崎尋常小学校
昭一二・四・一　横浜市岩崎尋常高等小学校
昭一六・四・一　横浜市岩崎国民学校
昭二二・四・一　横浜市立岩崎小学校

三、位置（校地）の変遷

昭　五・四・一　横浜市保土ヶ谷区岩崎町二三番地、二、四四六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一四・一二・一五	新築	木造二階建	四九八	・保土ヶ谷小学校分教場として新築、教室一二
昭　八・七・不詳	増築	木造二階建	一八一	・教室七
昭一〇・一二・不詳	増築	木造二階建	三一二	・教室八
昭一〇・一二・不詳	増築	木造平屋建	一三六	・講堂
昭二二・五・不詳	貸与			・岩崎中学校へ四教室
昭二三・四・不詳	貸与			・岩崎中学校へ七教室、二三年一〇月移転まで
昭二六・不詳	新築	木造平屋建	二七	・調理室

総坪数　一、一六三坪（教室二七、その他七）

五、統併合、分離、併設状況

昭三〇・四・一　桜台小学校設立により児童四四五名分離

六、学区及びその変遷

昭　五・四・一　岩井町の一部、瀬戸ヶ谷町、狩場町、霞台、藤塚町、岩崎町、初音ヶ丘、権太坂、法泉町、境木町、桜ヶ丘

	の一部、帷子町の一部、保土ケ谷町一、二、三丁目、仏向町の一部
昭一二・四・一	今井町、市沢町、高等科併設に伴い増加
昭二二・三・三一	新学制により高等科廃止のため今井、市沢分離
昭三〇・四・一	桜ケ丘、初音ケ丘の一部、岩崎町の一部、霞台の一部を横浜市立桜台小学校設置により分離

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	西方 貞直	昭 五・三・三一	昭 八・九・五	平沼尋常高等小学校訓導より就任、一本松尋常小学校長へ転任
二	府川 勝蔵	昭 八・九・五	昭一三・八・一五	磯子尋常高等小学校訓導より就任、井土ケ谷尋常高等小学校長へ転任
三	岡野頴次郎	昭一三・八・一五	昭一八・五・一五	本校訓導より昇任、退職
四	後藤 勇吉	昭一八・五・一五	昭二四・四・一五	青木国民学校教頭より就任、川島小学校長へ転任
五	若林 喜助	昭二四・四・一五	昭二七・四・三〇	東小学校長より就任、山元小学校長へ転任
六	丸山 四郎	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	釜利谷小学校長より就任、北方小学校長へ転任
七	佐野 光蔵	昭三一・九・一		北方小学校副校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭 五	一四	七五一（一二）	六九〇	七三
昭一〇	二二	一、〇二二（一九）	二二二	一五四
昭一五	二九	一、五三四（二七）	三六八	三二七
昭一八	三二	一、五七三（二八）	三七六	三六三
昭二〇	二九	一、二〇八（二六）	二九四	二八四
昭二二	三〇	一、四五一（二八）	二三五	二一一
昭二五	三三	一、四九六（三〇）	二五一	二〇一
昭三〇	三三	一、四一〇（二九）	二五七	三〇一

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
岩崎小学校後援会	昭 五・四・一〇	昭和二三年三月二〇日に廃止
岩崎小学校父母と先生の会	昭二三・三・三一	会員一、〇二〇名
給食場建設委員会	昭二三・九・一	昭和二四年一〇月六日廃止

一〇、その他

昭一九・八・二七	児童疎開、保土ケ谷区二俣川三仏寺、妙蓮寺、浄性院、長昌寺へ教職員一七名、児童三二〇名、その他縁故疎開児童五五五名
昭二六・九・二一	横浜市野毛山遊園地建設協力のため横浜市長より感謝状を受けた
昭二七・二・五	学校給食状況優良を認められ、神奈川県教育委員会より表彰された
昭二七・二・二二	本市学校給食振興のため給食施設を寄付し、本市教育委員会の施設に貢献したので横浜市教育委員会より感謝状を受けた
昭二九・五・五	こども郵便局成績優秀のため東京都郵便局長より感謝状を受けた

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一〇・一〇・六	プール	二一	
昭二四・一〇・二四	給食調理室	一八	その他付属施設として昭和二六年五月二〇日一五・五坪増築
昭二七・四・一〇	図書室	二六	蔵書数二、四四三冊
昭三一・五・二〇	温室	二	

横浜市立峯（みね）小学校

横浜市保土ヶ谷区峯岡町一丁目四四番地
電話神奈川⑷五八六八番

一、設置状況

1　創立　大正一二年七月一三日
2　開校　大正一三年四月一日
3　設置の際の概況

大正一二年七月一三日設置が認可され、校舎の新築工事に着工したが、同年九月一日の大震災により新築中の校舎が全部倒潰したので、改めて工事に着工した。大正一三年三月三一日、高等科が併置されることになり、橘樹郡帷子峯尋常高等小学校と改称し、翌年大正一三年四月一日より開校した。しかし校舎不足のために尋常科一〇学級五五九名は帷子小学校へ、高等科三学級八三名は保土ヶ谷小学校へ教室借用して授業する有様であつたが、大正一三年五月三日新築落成するに及び、この日を創立記念日とするに至つた。

二、校名の変遷

大一二・七・一三	橘樹郡帷子峯尋常小学校	
大一三・三・三一	橘樹郡帷子峯尋常高等小学校	高等科併置のため校名改称
大一四・四・一	橘樹郡峯尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市峯尋常高等小学校	保土ヶ谷町が横浜市に合併のため校名改称
昭一四・四・一	横浜市峯尋常小学校	高等科が宮田高等小学校に分離のため、校名改称
昭一六・四・一	横浜市峯国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立峯小学校	

三、位置校地の変遷

大一二・七・一三　横浜市保土ヶ谷区峯岡町一丁目四四番地、三、一四二・二八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一二・七・一三	新築	木造	四〇七	・教室一〇
大一二・九・一	罹災			・大震災のため全部倒潰
大一三・三・三一	新築	木造平屋建	四〇七	・教室一〇
昭七・一一・一八	増築	木造二階建	一八〇	・教室八
昭二〇・四・一五	罹災			・空襲により罹災
昭二〇・一〇・二七	借用			・星川小学校教室五講堂を借用（二二年一〇月八日まで）
昭二二・一二・八	新築	木造平屋建	一七七	・教室六
昭二三・五・八	増築	木造平屋建	三九	
昭二四・七・七	増築	木造二階建	一二五	・教室四
昭二五・二・一〇	増築	木造二階建	七七	・教室二
昭二六・八・一八	増築	木造二階建	一三五	・教室四
昭二六・一〇・三一	増築	木造平屋建	一七	・給食室
昭二九・四・二二	増築	木造二階建	九六	・教室四

総坪数　六四九・八坪（教室二〇、その他八）

五、統併合、併設状況

大一四・七・六	峯青年訓練所併設さる、青年所員約七〇名
昭二・四・一	峯青年訓練所は帷子青年訓練所に併合された

六、学区及びその変遷

大一三・四・一	帷子の一部、宮田町一、二、三丁目、峰岡町一、二丁目、岡沢町、川辺町、高等科は和田町、坂本町、仏向町、帷子町、下星川町、岩間町の一部を加える
昭一四・四・一	宮田町一、二、三丁目、帷子町の一部、峰岡町一、二丁、川辺町、高等科廃止による
昭二六・九・三〇	宮田町一、二、三丁目、岡沢町二二六―二七九、峰岡町一、二丁目、川辺町、天王町二丁目一五〇―一六一三丁目二九八―三一七、鎌谷町二二三
昭二六・一〇・八	帷子小学校設置のため天王町二、三丁目及び宮田町二、三丁目の一部を分離する

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	足立 直寿	大一二・八・一五	昭 六・五・五	川崎市宮前小学校訓導より就任、平楽小学校長へ転任
二	高橋 林造	昭 六・五・五	昭一〇・九・一	本校首席訓導より昇任、北方小学校長へ転任
三	赤地彦太郎	昭一〇・九・二	昭二〇・二・七	横浜小学校訓導より就任、退職
四	椎名邦三郎	昭二〇・二・七	昭二二・四・三〇	今井国民学校長より就任、末吉中学校長へ転任
五	清水 一作	昭二二・五・一	昭二四・四・一五	桜岡小学校長より就任、退職
六	西島 万雄	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	保土ヶ谷小学校教頭より就任、下野谷小学校長へ転任
七	石綿 芳治	昭三一・九・一		横浜市教育委員会指導主事より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
大一三	一四	七四二（一三）	七四二	―	一二〇	―
昭二	一六	七九二（一四）	一五〇	九〇	一三〇	八〇
昭五	二五	一、三二〇（二二）	二二〇	一三〇	二〇〇	一二〇
昭一〇	三八	一、九三〇（三四）	三一〇	一五〇	二九〇	一四〇
昭一五	三五	一、四〇〇（二四）	二七〇	―	二五〇	―
昭二〇	二一	六七〇（一八）	八〇	―	九五	―
昭二二	一四	七四九（一二）	一二〇	―	一一五	―
昭二五	二五	一、〇四六（二一）	一八四	―	一五一	―
昭三〇	二八	一、一〇二（二三）	一九〇	―	一七二	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
峯小学校ＰＴＡ	昭二三・五・一三	会員八一〇名
峯小学校同窓会	昭二九・一一・七	会員六〇〇名

一〇、その他

昭一九・八・二五	児童疎開、戸塚区上矢部町、名瀬町へ教職員一五名、児童二〇〇名
昭二〇・一〇・二七	児童疎開解除
昭二三・一〇・二六	全国児童唱歌コンクルール三位入賞
昭二四・一〇・九	神奈川県児童唱歌コンクール一位入賞
昭二四・一〇・一六	全国児童唱歌コンクール神奈川県予選に第二位入賞
昭二五・一一・二六	神奈川県唱歌コンクールに三位入賞

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・一〇・三一	給食室	一七

横浜市立星川小学校

横浜市保土ヶ谷区星川町三丁目三六四番地
電話　神奈川(4)三七四一番

一、設置状況

1　創立　明治六年
2　開校　明治六年四月八日
3　設置の際の概況

明治六年学制に従つて第三区二番組のうち下星川村、和田村、坂本村、仏向村を聯学区として星川学舎が創設せられた。

二、校名の変遷

明六・不詳	星川学舎	
明八・六・二九	星川学校	県達に基き校名改称
明九・不詳	公立星川学校	
明一五・不詳	村立星川学校	改正教育令施行により校名改称
明二五・四・一	橘樹郡宮川村、矢崎村組合立尋常星川小学校	
大一二・四・一	橘樹郡星川尋常小学校	
昭二・四・一	横浜市星川尋常小学校	横浜市編入による校名改称
昭一四・三・三一	横浜市星川尋常高等小学校	高等科併設
昭一六・四・一	横浜市星川国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立星川小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・不詳	星川学舎当時の地番不詳なるも下星川山崎台附近と推定される	
明八・一一・不詳	地番不詳	官有地下付
明一一・八・不詳	橘樹郡下星川村	一八〇坪、私有地
明四二・一一・二〇	橘樹郡下星川字山崎台五三九番地	六六三坪、町有地
大九・五・一七	橘樹郡下星川字山崎台五三九番地	二二六坪、校舎増築のため私有地借用
大一四・一・一	橘樹郡下星川字山崎台五四二番地	二六二坪、校舎増築のため私有地借用
昭二・一・二五	横浜市保土ヶ谷町下星川字犬丸六六四番地	二、五一〇坪、市有地、校舎新築移転のため
昭一五・一一・一	横浜市保土ヶ谷区星川町三ノ三六四番地	町名地番改正

総坪数　二、五一〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・不詳	不詳	不詳	不詳	
明一一・八・不詳	新築	木造平屋建	五一	・教室四
明四四・四・八	新築	木造平屋建	一三七	・教室四
大九・八・五	増築	木造平屋建	七二	・教室二
大一二・九・一	罹災	木造平屋建		・関東大震災のため校舎大破、地元民の協力により一〇月五日復旧
大一四・三・二三	増築	木造平屋建	一三二	・教室四
昭三・八・一五	新築	木造二階建	八三六	・教室一六、校地移転
昭九・三・三一	改築	木造二階建	二四二	・教室八
昭一五・七・三〇	増築	木造二階建	一三五	・教室四
昭二〇・四・三〇	貸与			・峯小学校焼失により二二年一〇月八日まで六教室を貸与
昭二〇・六・不詳	貸与			・食糧営団保土ヶ谷綜合配給所に講堂貸与、移転

昭二四・四・一　貸与
昭二五・四・一　貸与

日は不詳
・宮田中学校に五教室貸与、同年六月移転
・宮田中学校教室不足のため再び四教室を使用、同年七月移転

五、統併合、分離、併設状況

総坪数　一、一五二坪（数室二六、その他八）

大一五・六・三〇	星川青年訓練所併設、生徒約七〇名
昭　二・三・三一	星川青年訓練所廃止
昭一四・六・一	星川青年学校併設
昭二二・四・三〇	星川青年学校は川島青年学校に統合

六、学区及びその変遷

明　六・不詳	下星川村、和田村、坂本村、仏向村
明一七・九・四	芝生村を編入
明二二・四・一	宮川村、矢崎村（町村制施行により村名改称）
大　三・四・一	保土ケ谷町、帷子の一部（常盤園一円）を編入
昭　六・四・一	坂本町、峯岡町の一部を川島小学校学区に編入
昭一五・一一・一	星川町、明神台、花見台、和田町、仏向町、常盤台、峯岡三丁目、町名変更により改正
昭二九・四・一	星川町一、二、三丁目、明神台、花見台、和田町、常盤台、但し一四を除く、仏向町（一、二五〇―一、三五〇を除く、仏向町字坂本台、一、七六八―一、九三四、一七二七を除く）峯岡町三丁目、釜台町一一〇―一二七、神奈川区羽沢町三一八、三二三、三四一、三四三

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	首座教員
	井田　秀生	明一六・不詳	不詳	
	佐伯八百蔵	明一八・不詳	不詳	
一	二宮　宇八	明二九・七・九	大四・二・二二	尋常星川小学校訓導より就任、退職
二	森　富太郎	大四・二・二二	大七・三・三一	尋常高等程谷小学校訓導より就任、西戸部小学校へ転任
三	高根　正教	大七・三・三一	大一〇・四・三〇	尋常大綱小学校訓導より就任、尋常高等宮前小学校へ転任
四	田島　太一	大一〇・四・三〇	昭九・九・三〇	尋常高等程谷小学校訓導より就任、井土ケ谷小学校長へ転任
五	荒井吉太郎	昭九・九・三〇	昭一五・一一・一〇	日野尋常高等小学校長より就任、死亡退職
六	八木時次郎	昭一五・一一・三〇	昭一九・六・三〇	吉田尋常小学校訓導より就任、市場国民学校長へ転任
七	石井　直吉	昭一九・六・三〇	昭二二・四・三〇	星川国民学校教頭より就任、岡津小学校長へ転任
八	桜井　キン	昭二二・四・三〇	昭三〇・二・一	中村青年学校長より就任、退職
九	広瀬　林	昭三〇・二・二		瀬谷小学校副校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明四〇	二	一五四（三）	三八	—	二五	—
大五	四	二五八（五）	四二	—	三八	—
大一〇	八	三五七（七）	七〇	—	四二	—
大一三	八	四五七（八）	七七	—	六四	—
昭二	一四	五九六（一二）	一二一	—	八五	—
昭五	一六	九四四（一六）	一八四	—	一〇八	—
昭一〇	二一	一、二一五（三〇）	二一六	—	一八二	—
昭一五	三〇	一、七七〇（三六）	二九一	一三一	二一二	一一三
昭一八	三八	一、八一六（三八）	二四七	一二二	二五三	一一一
昭二〇	二四	九一〇（二二）	一四五	一〇六	一九四	一四二
昭二二	二六	一、二八九（二四）	二一四	—	二一三	—
昭二五	三四	一、四五〇（二九）	二七四	—	二一一	—

昭三〇	三九	一、七六一（三五）	三三九	――	三〇二	――
昭三一	四一	一、八四一（三六）	三六二	――	不詳	――

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
星川小学校父母と先生の会	昭二三・三・二五	会員二、三四一名
星川小学校校友会	昭二八・一一・一五	会員一、〇五〇名
常盤台小学校（仮称）建設委員会	昭二九・一二・七	星川、川島両校の二部授業解消を目標として新設促進をはかる。会員五九名

一〇、その他

昭一九・八・五	児童疎開により区内川島町川井町今宿町等の寺院七ヶ所に分散、教職員一六名、児童二六九名が分散授業を行い、昭和二〇年九月二八日全員帰校
昭二三・三・一九	神奈川県知事より学校給食につき表彰を受けた
昭二四・一一・三	横浜市教育委員会より科学展学校賞を受けた。昭和二五年にも再度の賞をうけた。
昭二九・三・一五	神奈川県教育委員、横浜、川崎、横須賀三市教育委員会より学校図書館施設運営の研究につき表彰状を受けた

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二二・六・二六	給食調理場	九	昭和二六年改築して二二坪となる。
昭二八・一一・七	児童図書館	三九	旧裁縫室を改造、本校創立八〇周年記念事業の一つとして企画、蔵書数三、〇二二冊

横浜市立川島小学校

横浜市保土ヶ谷区川島町八八〇番地
電話神奈川(4)〇二三八番

一、設置状況

1 創立　明治八年四月一五日

2 開校　明治八年四月一五日

3 設置の際の概況

明治五年の学制に従つて川島山髄流院及び川島笠の禅導庵において地元の子弟に対して教育を授けていたが、明治八年に至り現在地に校舎が新築され、第七大区第一小区のうち川島村、上星川村聯学区の川島学校として創立した。

二、校名の変遷

明八・四・一五	川島学校	
明二五・四・一	都筑郡尋常川島小学校	小学校令改正による校名改称
明二六・四・一五	都筑郡尋常高等川島小学校	高等科併設
大一二・四・一	都筑郡川島尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市立川島尋常高等小学校	横浜市編入による校名改称
昭一六・四・一	横浜市川島国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立川島小学校	

三、位置（校地）の変遷

明八・四・一五	神奈川県都筑郡西谷村八八〇番地	坪数不詳
明四三・九・一	神奈川県都筑郡西谷村八八〇番地	校地前面の谷を埋めて拡張して八八五坪となる

大八・三・不詳		児童増加により運動場拡張一、一六二坪となる
昭二・四・一	横浜市保土ヶ谷区川島町八八〇番地	横浜市編入のため地番改称
昭三・一二・二五	横浜市保土ヶ谷区川島町八八〇番地	校舎増築に伴い校地を拡張、二、一八九坪
昭二五・一〇・三一	横浜市保土ヶ谷区川島町八八〇番地	学校地下抗道埋立完了（昭和二四年一〇月二八日に調査の結果、校庭に広範な地下抗道が発見され、二五年四月より埋立）
昭二六・三・三一	横浜市保土ヶ谷区川島町八八〇番地	八九四坪、給食室増築のため私有地借用
昭三一・九・一	横浜市保土ヶ谷区川島町白根向二、三〇六	三、〇九一坪、鶴ヶ峯分校開設による

総坪数　本校三、〇八三坪、分校三、〇九一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明八・四・一五	新築	木造二階建	六五	・教室三、校長住宅
明四三・九・一	増築	木造平屋建	一四九	・教室六
大一二・四・三〇	増築	木造平屋建	六〇	・教室三
昭三・一二・二五	新改築	木造二階建	四四八	・旧校舎二階建二教室を廃し、教室六、その他七
昭一三・五・二七	増改築	木造二階建	五〇一	・教室一〇、その他四
昭二九・四・不詳	増築	木造二階建	四二	・教室二
昭三〇・四・不詳	増築	木造二階建	四三	・教室二
昭三一・八・三一	増築	木造二階建	二〇四	・教室四、その他
昭三一・八・三一	改築	木造二階建	四九	・教室二

総坪数　九一一坪（教室二八、その他一一）

五、分校の設置、廃止状況

昭三一・八・三一　横浜市立川島小学校鶴ヶ峯分校を横浜市保土ヶ谷区川島町白根向二、三〇六番地に設置、校舎二五六坪、教室七、児童三二六名

六、統併合、分離、併設状況

明三九・四・一	川島実業補習学校を併設	生徒一〇名
大四・一一・二〇	川島女子補習学校を併設	生徒四三名
大一五・七・一	川島青年訓練所を併設	生徒四八名
昭一〇・四・一	川島青年学校を併設	昭和二二年三月三一日廃止

七、学区及びその変遷

昭三〇・九・一九　釜台町（但し一一〇—一二七）を除く。坂本町、上星川町、川島町（但し二、二一六）を除く。港北区上菅田町一—六一四、六四六—一〇八九、仏向町一、七六八—一、九四三、一七二七、神奈川区羽沢町二八三、三八六、四一〇、四九五、五二五、五八〇、五八三、六三〇、三友田町二九三—三四九を加える

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中田　義鏡	明一七・四・不詳	明三八・一〇・一	戸部小学校訓導へ転任
二	福田　正作	明三八・一〇・一	明四〇・三・三一	川島小学校訓導より就任、青木小学校訓導へ転任
三	鈴木　薫蔵	明四〇・四・五	明四二・四・八	都筑郡義胤小学校長より就任、根岸小学校訓導へ転任
四	二宮　親蔵	明四二・四・二八	明四三・五・一八	二俣川小学校長より就任、退職
五	栗原　義助	明四三・九・八	明四五・三・三一	川島小学校訓導より就任、本町小学校訓導へ転任
六	英　藤吉	明四五・三・三一	大二・三・三一	本校訓導より就任、子安小学校訓導へ転任
七	三村　信吉	大二・三・三一	大四・三・三一	二俣川小学校訓導より就任、白根小学校長へ転任
八	大矢助次郎	大四・三・三一	大九・五・三一	白根小学校長より就任、横須賀市沢山小学校長へ転任
九	宮代　芳男	大九・六・一七	昭二・三・三一	帷子小学校長より就任、中郡国府津小学校長へ転任
一〇	小川　猶吉	昭二・三・三一	昭八・九・五	中郡国府津小学校より就任、退職
一一	内田慶次郎	昭八・九・五	昭一二・八・三一	帷子小学校長より就任、退職
一二	山下　平吉	昭一二・八・三一	昭一七・三・三一	池上小学校長より就任、退職

一三	佐藤　京三	昭一七・三・三一	昭二四・四・一五	鴨居国民学校長より就任、都岡小学校長へ転任
一四	後藤　勇吉	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	岩崎小学校長より就任、退職
一五	岩崎雷太郎	昭三一・九・一		戸部小学校副校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
大一〇	一〇	四六八（八）	不詳	不詳	四九	二五
大一三	一三	五〇三（一一）	不詳	不詳	五一	二五
昭二	一七	五五四（不詳）	不詳	不詳	不詳	不詳
昭五	一七	六二七（不詳）	不詳	不詳	七九	二八
昭一〇	不詳	不詳（不詳）	不詳	不詳	一一〇	五九
昭一五	一九	不詳（不詳）	不詳	不詳	一〇八	一三二
昭一八	二〇	一、〇五〇（一七）	不詳	不詳	二四二	一〇九
昭二〇	不詳	一、二八七（不詳）	一五三	不詳	二三五	一六五
昭二二	二四	一、一四五（不詳）	二〇五	—	二〇九	—
昭二五	二九	一、二七九（二六）	二五三	—	一六二	—
昭三〇	三七	一、七一六（三四）	三四八	—	二八六	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
川島小学校教育後援会	昭二四・八・三一	PTAに発展的解散
川島小学校PTA	昭二四・九・一	会員一、二二五名

一一、その他

昭二〇・四・不詳	空襲激化のため学区内の禅導庵、随流院、杉山神社等で分散授業を行った
昭二六・一〇・二三	体育研究指定校として研究発表会を行った

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・三・一〇	給食調理室	二八・五	
昭二六・四・一	清和寮	三〇	健康教育の一還として、又常住坐臥師弟同行の教育として全日教育を施すための厚生施設、元裁縫室を改装して使用

横浜市立都っ岡（おか）小学校

横浜市保土ケ谷区下川井町三、四五一番地
電話　川井四番

一、設置状況

1　創立　明治二一年四月一日

2　開校　明治二一年四月一日

3　設置の際の概況

明治の初期寺小屋教育がこの地区では行われていたが、明治五年の学制に従つて明治六年二月一五日に第一大学区第九中学区第一六小学区に今宿学舎が今宿村本立寺（後清来寺、薬王寺と移る）に、続いて第一七小区（川井村、上川井村、下川井村）に川井学舎が下川井村福泉寺に開設された。両学舎とも年を追うて生徒数が増加したので、明治一二年七月十五日今宿学舎より白根学校が、更に明治一六年四月には川井学舎から上川井学校のそれぞれが分離独立するにいたつた。明治二一年四月に至り川井学舎、今宿学舎が合併し、新たに尋常高等萃英学校が創立された。これが本校のはじめである。

二、校名の変遷

明二一・四・一	都筑郡尋常高等萃英学校	
大一〇・四・一	都筑郡尋常高等都岡小学校	上川井白根の二小学校を合併して校名改称
大一二・四・一	都筑郡都岡尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市都岡尋常高等小学校	横浜市編入による改称
昭一六・四・一	横浜市都岡国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立都岡小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二一・四・一	都筑郡下川井村	約三〇〇坪、当時の旅館「たかさごや」を仮校舎として創立、私有地
明三三・八・二三	都筑郡下川井村	土地狭隘のため移転、下川井村桜井有平太氏より五六五坪、寄贈
大一一・三・不詳	都筑郡下川井村	都筑郡下川井村鈴木幸蔵、桜井仙七氏より七五〇坪借用して拡張、 昭和一四年一二月五日買収して市有地となる
昭五・四・不詳	都筑郡下川井村	都筑郡下川井町小川名義定氏より三九九坪借用
昭一四・四・一	横浜市保土ケ谷区下川井町三、四五一番地	横浜市編入により名称変更

総坪数　一、七一四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二一・四・一	借用	木造平屋建	一〇〇（約）	・旅館たかさごやを借用
明二一・四・一	借用	木造平屋建	不詳	・高等科を収容するため今宿町薬王寺を借用
明三三・九・三〇	新築	木造平屋建	不詳	・教室五、新校地に移転、爾後三回にわたり教室四増築
大一四・一一・一五	新築	木造平屋建	不詳	・教室五
昭二・一・二七	罹災			・校舎全焼、附近農家または寺院等を借用して新校舎落成まで分散授業
昭二・九・三〇	新築	木造二階建	五四二	・教室一六

総坪数　六〇六坪（教室一六、その他七）

五、分校、分教場の設置、廃止状況

大一〇・四・一	上川井小学校を統合したため、その校舎を上川井分教場として上川井町三五六番地に設置校舎坪数六〇坪、教室三、児童一六〇名
大一〇・四・一	白根小学校を統合したため、その校舎を白根分教場として白根町一、三七〇番地に設置、校舎坪数四〇坪、教室二
昭一四・四・一	上川井、白根分教場を横浜市編入により上川井、白根分校と改称
昭三一・三・三一	白根分校独立により廃止

六、統併合、分離、併設状況

不詳	萃英小学校附設実業補習学校
大一〇・四・一	都築郡都岡村立実業補習学校と改称
大一五・七・一	都岡村立青年訓練所併設
昭一〇・七・一	都岡村立青年学校を併設（青訓及び実業補習学校廃止）
昭二二・四・一	横浜市立都岡青年学校を廃止
昭二二・五・一	横浜市立都岡中学校併設
昭二四・八・一五	横浜市立都岡中学校廃止

七、学区及びその変遷

明二一・四・一	今宿、下川井、川井村
大一〇・四・一	上川井村、白根村を加へる
昭一四・四・一	今宿町、下川井町、川井町、上川井町、白根町、上白根町、横浜市へ編入
昭三一・四・一	白根小学校の独立により今宿町の一部、上白根町、白根町分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	瀬戸豊之助	明二一・四・一	明二四・三・三一	今宿学校より就任、退職
二	新川　鎌八	明二四・四・一	大一二・三・三一	程ヶ谷学校より就任、退職
三	荏原　盛房	大一二・四・一	大一四・一・三一	中山小学校長より就任、西前小学校教頭へ転任
四	唐戸　光造	大一四・二・一	昭　三・三・三一	新田小学校教頭より就任、川崎市幸町小学校訓導へ転任
五	白井　喜久	昭　三・四・一	昭二〇・三・二〇	二俣川小学校長より就任、山内国民学校長へ転任
六	土志田親治	昭二〇・三・二一	昭二三・一・三一	豊岡国民学校教頭より就任、退職
七	大矢　正純	昭二三・二・一	昭二四・四・一五	都田国民学校長より就任、退職
八	佐藤　京三	昭二四・四・一六	昭二四・五・二	川島小学校長より就任、退職
九	足立　進一	昭二四・七・一	昭二九・四・三〇	市沢小学校長より就任、退職
一〇	出口　大甚	昭二九・五・一	昭三一・七・一一	生麦小学校長より就任、死亡退職
一一	菊島　陽一	昭三一・九・一		上瀬谷小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者		
			尋常科	・高等科	尋常科	・高等科	
明二一	二	九〇（不詳）	不詳	｜	｜	｜	
明二一	一八	八〇一（不詳）	一三〇	八〇	一一四	六二	
昭　五	一八	八一〇（不詳）	一一六	九三	九一	七四	
昭一〇	一九	八六八（一八）	一三七	八五	一一五	五六	
昭一四	二三	八七四（一八）	一一五	七八	一二二	一〇二	横浜市編入
昭一五	二一	八六二（一八）	一二六	九一	一三一	七四	
昭一八	二六	九四四（一八）	一一五	九九	一一七	九八	
昭二〇	二六	一、二六九（不詳）	一六四	九二	一六六	一〇〇	
昭二三	二六	一、二二八（不詳）	一七四	一〇〇	一九〇	八八	
昭二五	二七	一、〇三〇（二三）	一九一	｜	一五八	｜	
昭三〇	三一	一、〇六六（二七）	二〇九	｜	一九〇	｜	

一一、学校協力団体

団体名	発足年月日	
都岡小学校ＰＴＡ	昭二五・四・一	会員約五〇〇名

一二、その他

昭　五・五・一	神奈川県都筑郡内小学校農場品評会に於て成績優秀につき表彰、同様昭和一〇年まで毎年表彰さる
昭二〇・六・二	空襲激化のため高等科は残留し、他は学区内神社民家等に分散教育
昭二〇・一二・二一	分散教育をとり止める
昭三〇・一・二九	横浜書道教育会主催全国書初展に於て団体賞第一位に入賞
昭三〇・一〇・一	横浜市教育委員会より健康優良学校として表彰される

一三、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
不詳	学校農場	三九〇	畑三四〇坪、田五〇坪
昭二二・四・一	学校図書館	一八	昭和三年一〇月一〇日、都岡村立図書館として創設、昭和一四年四月一日横浜市図書館都岡閲覧所となり、三一年五月三一日廃止
昭二二・一二・二三	給食室	一二	
昭三〇・九・一	放送室	四	ＰＴＡより建物を市へ寄附

横浜市立二俣川小学校

横浜市保土ケ谷区二俣川町四、三八二番地
電話 川井 二〇番の甲

一、設置状況

1 創立 明治六年
2 開校 明治六年
3 設置の際の概況

当時二俣川村二俣川一、九二三番地内田宗右ェ門氏の庭の小舎に内田賢造氏が、附近の子弟を集め宮沢学舎と称して教えていた。明治八年にその学舎を三仏寺に移し、正式に学制に基づいた学習をしたらしい。その後学舎が三仏寺、長昌寺、浄性院の三寺を四ヶ月交替に巡回していたが、当時の村長清水嘉親氏が有志と相談の上、二俣川村大数四、三八二に校地を決定、二教室を新築した。明治一四年五月に全部新校舎に移住したものである。

二、校名の変遷

明六・不詳	宮沢学舎	
明一四・五・五	橘樹郡二俣川村立二俣川学校	
明二五・四・一	橘樹郡二俣川村立尋常高等二俣川小学校	
大一二・四・一	橘樹郡二俣川尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市二俣川尋常高等小学校	横浜市編入による
昭一六・四・一	横浜市二俣川国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立二俣川小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・不詳	橘樹郡二俣川村字本村一、九二三	内田宗右ェ門氏庭内
明八・不詳	橘樹郡二俣川村字本村一、九二三	三仏寺、長昌寺、浄性院
明一四・五・五	橘樹郡二俣川村字本村四、三八二	三六坪、木造二教室
明二五・不詳	橘樹郡二俣川村字本村四、三八二	二三〇坪
明三九・九・二五	橘樹郡二俣川村字本村四、三八二	五一二坪、村有地買収
大六・三・二八	橘樹郡二俣川字本村四、三八二	六六〇坪
昭一五・五・三〇	横浜市保土ケ谷区二俣川町四三八二	四四九坪、私有地買収

総坪数 一、九八四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・不詳	借用			・内田宗右ェ門宅庭内
明八・不詳	借用			・三仏寺、長昌寺、浄性院
明一四・五・五	新築	木造平屋建	三六	・教室三
明二四・不詳	増築	木造平屋建	二八	・教室二
明三四・不詳	増築	木造平屋建	四五	・教室二
大六・三・二八	増築	木造二階建	一三四	・教室四
大一二・一二・不詳	改築	木造二階建	不詳	・震災により倒れたものを補修
昭五・四・二九	改築	木造二階建	二三六	・教室七
昭二五・三・二五	改築	木造平屋建	四五	・教室二
昭二七・三・二六	改築	木造平屋建	一〇五	・教室四

総坪数 六一五坪（教室一五、その他六）

五、分校の設置状況

昭二六・九・二〇	本宿分校を二俣川町二、一七一番地に設置、校舎坪数一九六坪、教室三、児童二一一名
昭二七・九・一	希望ケ丘分校を二俣川町七、一〇二番地に設置、校舎坪数一五七坪、教室四、児童一五二名
昭二八・二・一〇	本宿分校二教室を増築
昭三一・四・四	希望ケ丘分校四教室を増築

昭三一・四・一八　本宿分校二教室を増築
昭三二・四・一　希望ヶ丘分校は希望ヶ丘小学校として独立のため廃止

六、併設状況

明三九・三・二三　農業補習学校併設　明治四四年実業補習学校と改称
大一五・四・不詳　青年訓練所併設
昭一〇・七・一　二俣川青年学校を併設　青年訓練所実業補習学校廃止
昭二二・七・一七　二俣川青年学校は都岡青年学校に統合

七、学区及びその変遷

明一四・五・五　二俣川村全部、小高二二六―四七五
昭二八・不詳　保土ヶ谷区川島町二二一六を編入
昭三一・九・一　川島小学校鶴ヶ峰分校が開校されたため、保土ヶ谷区川島町二、二二一六を川島小学校区域に分離
昭三二・四・一　希望ヶ丘小学校が独立したため保土ヶ谷区二俣川町四六四六より四九一四、同五八六九より七四八九、同小高町二九四四より四〇〇を希望ヶ丘小学校区域に分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	土屋　嘉蔵	明一四・五・四	明二六・一二・不詳	今井小学校長より就任、共進小学校長へ転任
二	二宮　慶八	明二六・一二・不詳	大一四・三・三〇	退職
三	白井　喜久	大一四・三・三〇	昭　三・三・三一	二俣川小学校教諭より昇任、都岡小学校長へ転任
四	加藤　好松	昭　三・三・三一	昭一一・八・三一	都筑郡田奈小学校長より就任、中郡土屋小学校長へ転任
五	白井　模平	昭一一・八・三一	昭二七・四・三〇	中郡豊田小学校長より就任、子安小学校長へ転任
六	山本　逸義	昭二七・五・一	昭三〇・五・三一	桜岡小学校長より就任、退職
七	田村　三郎	昭三〇・六・一		日枝小学校副校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明　六	三	不　詳（不詳）	不詳	―
明一四	四	不詳（二）	不詳	不詳
大一〇	一〇	五一三（九）	一四〇	八七
大一三	一二	五七七（一一）	一三〇	一〇〇
昭　二	一四	五一七（一三）	一二八	一一二
昭　五	一二	四七一（一一）	一一三	一〇四
昭一四	一三	五六五（一一）	一二六	一三二
昭一五	一三	五七二（一一）	一三二	一三八
昭一八	一八	六三八（一五）	一四九	一二九
昭二〇	二三	一、〇六二（二〇）	一九四	二〇五
昭二二	二一	八七四（一八）	二三五	一四〇
昭二五	二五	一、〇五五（二二）	三三一	一四九
昭三〇	三八	一、五九四（三四）	五五六	二三四

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
二俣川小学校ＰＴＡ	昭二二・四・一	会員一、二四〇名
二俣川小学校建築委員会	昭二六・四・一五	増築促進協力のため

一一、その他

昭二〇・五・不詳　本宿下川社他五ヶ所に分散教育、教職員八名、児童五〇二名、昭二〇年九月復帰

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二二・一〇・不詳	給食室	一二	
昭二七・四・不詳	図書室	一六	蔵書数二、二〇〇冊、三〇年七月改造
昭三三・五・二一	防火貯水池		本宿分校に設置

横浜市立今（いま）井（い）小学校

横浜市保土ケ谷区今井町一六一番地
電話神奈川(4)三三九二番

一、設置状況

1 創立　明治一三年三月二五日

2 開校　明治一三年四月三〇日

3 設置の際の概況

明治一三年三月二五日都筑郡二俣川村市沢学校より分離し、今井字狐谷八六八番地の地蔵堂を修理増築し校舎に充て、同年四月三〇日開校した。

二、校名の変遷

明一三・三・二五	都筑郡今井学校	
明一九・四・一	都筑郡尋常今井学校	
大一二・四・一	都筑郡今井尋常小学校	
昭一四・四・一	横浜市今井尋常小学校	横浜市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市今井国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立今井小学校	

三、位置（校地）の変遷

明一三・三・二五	都筑郡二俣川村今井字狐谷八六八番地	一一七坪
明三二・五・一	都筑郡二俣川村今井字根下一六一番地	二九四坪、新築のため移転
昭　三・一二・一	都筑郡二俣川村今井字根下一六一番地	一一五坪を買収
昭二三・四・一	横浜市保土ケ谷区今井町一五一番地	二五五坪、校舎増築のため借地
昭二三・四・一	横浜市保土ケ谷区今井町一六一の一番地	一四坪、便所増築のため借地
昭二六・三・一	横浜市保土ケ谷区今井町一四九番地	二四二坪、運動場拡張のため買収市有地とした

総坪数　九〇三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明一三・三・二五	改築	木造平屋建	二三	・地蔵堂を修理
明三二・五・一	新築	木造平屋建	三四	・教室一
大九・四・一	借用	木造平屋建	一八	・養蚕組合飼育室を仮教室とした
昭三・一二・一	新築	木造平屋建	七七	・教室三、従来の校舎は撤去した
昭二三・四・一	増築	木造平屋建	六三	・教室三

総坪数一六七・一二五坪（教室六、その他二）

五、併設状況

大一五・六・三〇	都築郡二俣川村立青年訓練所今井支所併設
昭　二・一一・三〇	都築郡二俣川村立今井実業補習学校併設
昭一〇・四・一	都築郡二俣川村立今井青年学校併設（青年訓練所、実業補習学校廃止）
昭一〇・六・三〇	今井青年学校を廃して都築郡二俣川青年学校今井分教場となる
昭二一・二・一	二俣川青年学校今井分教場は廃止

六、学区及びその変遷

明一三・三・二五	二俣川村今井
昭一四・四・一	横浜市編入のため今井町となる

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	土屋　嘉蔵	明一三・三・六	明一四・五・四	二俣川小学校長へ転任

二	中丸　助蔵	明一四・五・四	明一八・三・三一	不詳
三	斉藤直次郎	明一八・四・一	明一八・八・三一	不詳
四	斉藤弁之助	明一八・八・三一	明一九・四・九	不詳
五	森　栄亮	明一九・四・九	明二六・七・一	二俣川小学校へ転任
六	小菅俣世雄	明二六・七・一	明二六・一一・一	不詳
七	森　栄亮	明二六・一一・一	昭二・三・一二	二俣川小学校より就任、死亡
八	汲本　太一	昭二・三・三一	昭二・五・一一	休職
九	下山　三郎	昭二・五・一一	昭二・九・三〇	退職
一〇	足立原　敏	昭二・九・三〇	昭五・三・三一	退職
一一	金子米次郎	昭五・三・三一	昭一三・三・三一	鎌倉郡鎌倉尋常高等小学校より就任、退職
一二	石原日の出	昭一三・三・三一	昭一四・八・三一	谷本小学校より就任、谷本小学校訓導へ転任
一三	清水　一作	昭一四・八・三一	昭一七・八・二五	帷子小学校より就任、桜岡国民学校長へ転任
一四	椎名邦三郎	昭一七・八・二六	昭二一・二・一九	東台国民学校より就任、峯国民学校長へ転任
一五	田中　義敏	昭二一・二・二〇	昭三一・八・三一	岩崎国民学校より就任、市沢小学校長へ転任
一六	土屋　八郎	昭三一・九・一		二谷小学校副校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明一三	一	三三（一）	不詳	不詳
大一〇	三	八七（二）	一六	一七
大一三	三	一一〇（二）	一七	一六
昭二	三	一一二（二）	一九	二〇
昭五	三	九二（二）	一四	一七
昭一〇	三	九六（二）	一九	一二
昭一五	四	一三一（三）	二八	一八
昭一八	四	一四四（三）	二四	二〇
昭二〇	六	二〇六（六）	二八	三九
昭二三	八	一八三（六）	三八	二九
昭二五	九	一七五（六）	二七	二六
昭三〇	八	一六八（六）	三八	三〇

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
今井小学校ＰＴＡ	昭二三・四・一	会員一五一名

一〇、その他

明三六・一〇・二五　教授用具を都筑郡教育品展覧会へ出品し、神奈川県知事より表彰

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二五・八・三一	給食室	七

横浜市立市（いち）沢（さわ）小学校

横浜市保土ヶ谷区市沢町七八一番地
電話神奈川⑷三八六四番

一、設置状況

1　創立　明治七年四月八日

2 開校　明治七年四日八日

3 設置の際の概況

校舎を都築郡市野沢村字神田に設け、今井村の矢部懋氏を師として今井村市野沢村の子弟を集め、教育を始めたのが本校の創立である。

二、校名の変遷

明七・四・八	市野沢学舎	
明八・四・一	市野沢学校	
明九・四・一	公立市野沢学校	
明一四・不詳	村立市野沢学校	
明二〇・不詳	公立市野沢学舎	
明二五・六・二九	尋常市野沢小学校	
大一二・四・一	都筑郡市野沢尋常小学校	
昭一四・四・一	横浜市市沢尋常小学校	横浜市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市市沢国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立市沢小学校	

三、位置（校地）の変遷

明七・四・八	都筑郡市野沢村字神田	
明一一・不詳	市野沢村金子谷戸長見寺境内	移転
明一八・五・四	市野沢村金子谷戸長見寺	二四〇坪を借用
大二・三・二三	市野沢字神田七八一	五一五坪へ移転
昭二四・七・二	市野沢字神田七二八	六一六坪を拡張
昭二四・一一・一	市野沢字神田七八四の二	一六七坪を借用
昭二八・一二・六	市野沢字神田七八四、七八六	四六九坪借用

総坪数　一、八一二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明七・不詳	不明	不詳	不詳	
明一八・五・四	借用	不詳	不詳	・長見寺の一部を借用
明二五・四・一〇	罹災	不詳	不詳	・火災のため全焼、小高新田の民家を借用
明二九・一二・一〇	借用	木造平屋建	三四	・長見寺境内
明四〇・三・二五	罹災			・火災のため全焼、附近民家を借用
大元・八・不詳	借用	木造平屋建		・台風で校舎倒潰のため大塚氏宅を借用
大二・三・二三	新築	木造平屋建	四六	・教室二
昭五・一・九	増築	木造平屋建	三二	・教室一
昭二二・一一・一	増築	木造平屋建	七八	・教室四
昭二六・六・三〇	新築	木造平屋建	八	・給食室
昭二八・四・六	改築	木造平屋建	六九	・教室四
昭二九・三・一七	増築	木造二階建	三五	・教室二

総坪数　三〇〇坪（教室七、その他五）

五、併設状況

不詳	二俣川村立市野沢実業補習学校を併設
大一五・四・不詳	二俣川村立青年訓練所市野沢支所を併設
昭一〇・七・一	二俣川村立青年訓練所市野沢支所及び市野沢実業補習学校を廃止し、二俣川青年学校市野沢分教場を併設
昭二二・三・三一	二俣川青年学校市野沢分教場廃止

六、学区及びその変遷

明七・不詳	都筑郡市野沢村、今井村
明一四・不詳	市野沢村、三反田村、小高新田
昭一四・四・一	横浜市編入により市沢町、三反田町、小高町となつた

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	矢部 懋	明七・不詳	不詳	不詳
二	須原・不詳	不詳	不詳	不詳
三	吉田・不詳	不詳	不詳	不詳
四	内田 建蔵	不詳	不詳	不詳
五	竹中 宮松	不詳	明一六・不詳	退職
六	松本 茂寿	明二四・八・不詳	明二五・一一・七	転任
七	田中幸次郎	明二六・一一・三〇	明二七・九・四	転任
八	小沢 松蔵	不詳	明二七・一一・二七	転任
九	河合和重郎	明二七・一二・一四	明二八・一〇・四	不詳
一〇	野沢 秀作	不詳	不詳	不詳
一一	山崎 良親	明二八・一二・一八	明三六・四・二七	退職
一二	山田 諦俊	明三六・五・二八	明三六・一二・二三	退職
一三	尾田 隆就	明三六・一二・二三	大 六・三・三一	退職
一四	曽根 清作	大 六・三・三一	大一一・三・三一	白根小学校より就任、二俣川小学校長へ転任
一五	斉藤 定雄	大一一・三・三一	大一四・三・三一	都岡小学校より就任、田奈小学校へ転任
一六	萩原高三郎	大一四・三・三一	大一五・三・三一	川島小学校より就任、二俣川小学校へ転任
一七	金子 林蔵	大一五・三・三一	昭一三・三・三一	川島小学校より就任、退職
一八	大谷 正次	昭一三・三・三一	昭二二・四・三〇	高田小学校長より就任、川島青年学校長へ転任
一九	足立 進一	昭二二・四・三〇	昭二四・六・三〇	都岡青年学校長より就任、都岡小学校長へ転任
二〇	福島 敏夫	昭二四・七・一	昭三一・八・三一	市沢小学校教頭より昇任、桜台小学校長へ転任
二一	田中 義敏	昭三一・九・一		今井小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明 七	一	不 詳（一）	—	—
明一八	一	不 詳（一）	不詳	不詳
明三五	一	六七（一）	一六	一七
大一〇	三	一一六（二）	二一	一三
大一三	三	一三二（二）	一八	一八
昭 二	三	一一八（二）	二三	一七
昭 五	四	一二九（三）	三二	二〇
昭一〇	四	一四八（三）	二九	三一
昭一四	四	一三六（三）	一四	二〇
昭一八	四	一二七（三）	一六	二三
昭二〇	七	二〇四（六）	四八	三八
昭二二	九	一六四（六）	二四	三〇
昭二五	八	一七八（六）	三〇	三三
昭三〇	八	一八二（六）	四一	二六

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
市沢小学校ＰＴＡ	昭二二・一〇・一	会員二三三名

一〇、その他

昭二七・六・二一　中央教材園連合協力園の指定を受けた

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・四・八	図書室	五	蔵書数五七二冊
昭二六・六・三〇	給食調理室	八	

横浜市立桜（さくら）台（だい）小学校

横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘一二七番地
電話神奈川(4)三三一九番

一、設置状況

1 創立 昭和三〇年四月一日
2 開校 昭和三〇年四月一日
3 設置の際の概況

保土ヶ谷小学校、岩崎小学校の二部授業の緩和策と、桜ヶ丘高校新築校舎建設の両面より当校増設の必要を感じ、建設促進会を設けて当校の誕生をみた。開校当時は高校と共同の学校生活であつた。

二、校名の変遷

昭三〇・四・一 横浜市立桜台小学校

三、位置（校地）の変遷

昭三〇・四・一 横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘一二七 四、八六一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭三〇・四・一	転用	木造平屋建	九一八	・教室二一、講堂一六二坪、桜ヶ丘高校移転により本校々舎として転用、但しその中十三教室及び講堂を桜丘高校新校舎が完成しないので貸与し、昭和三〇年四月一五日に五教室返還され、残りの八教室及び講堂は三一年三月三一日まで桜ヶ丘高校一年生が使用し、三一年四月に全部返還された。

総坪数 九一八坪（教室二一、その他七）

五、学区及びその変遷

昭三〇・四・一 月見台三一―四六、四九―一〇七、一一〇―一一一、二五七、二五八、一一七―一七四、二四六―二五五、二〇六―二一四、桜ヶ丘、花見台、霞台、岩崎町、帷子町、仏向町、初音ヶ丘の各所の一部

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中出 秀男	昭三〇・四・一	昭三一・八・三一	西前小学校副校長より就任、原小学校長へ転任
二	福島 敏夫	昭三一・九・一		市沢小学校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭三〇	二〇	七九八（一八）	二〇三	—
昭三一	二四	九九二（一八）	一八七	一二四

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
桜台小学校PTA	昭三〇・六・一	会員七六六名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭三一・五・二九	給食調理場	二四

横浜市立白根（しらね）小学校

横浜市保土ヶ谷区白根町一、三七〇番地
電　話　川　井　五　五　番

一、設置、廃止状況

1 創立　明治一三年七月一五日
2 開校　明治一四年七月　三日
3 廃校　大正一〇年三月三一日
4 復活　昭和三一年四月　一日
5 設置の際の概況

上下白根村は明治六年より今宿学校に通つていたが、明治一三年七月今宿学校から分れ、白根学校を創立下白根伊藤弥五左ヱ門氏宅にて勉強、翌一四年七月漸く新校舎に移り、大正一〇年三月まで独立校としての歩みを続けてきたが、以後は都岡小学校の分教場として昭和三一年三月三一日迄続けられてきた。然し戦後の人口増加通学不便等について地元の要望もあつて、ようやく昭和三一年四月一日横浜市立白根小学校として再び独立にいたつた。

二、校名の変遷

明一三・七・一五	白根学校	
明一四・四・一	村立白根学校	
明二〇・四・一	公立尋常白根学校	
明二五・四・一	尋常白根小学校	
大一〇・四・一	都岡小学校白根分教場	都岡村統合により校名改称
昭三一・四・一	横浜市立白根小学校	都岡小学校より分離、独立校となる

三、位置（校地）の変遷

明一四・七・三	都築郡下白根一三七〇番地	三三〇坪
昭二四・三・一	横浜市保土ヶ谷区白根町一、三六八番地	五八六坪を拡張
昭三〇・四・一	横浜市保土ヶ谷区白根町一、三六四番地	二、九七〇坪を拡張

総坪数　三、八八六坪

四、校舎の変遷

年　月　日	変遷類別	構　造	建坪	備　　考
明一四・七・三	新　築	木造平屋建	二一	・教室一
不　詳	増　築	木造平屋建	一四	・教室一
昭二四・三・一	増　築	木造平屋建	二八	・教室二
昭二九・八・三一	改　築	木造平屋建	七四	・教室三

総坪数　一三六坪（教室七、その他二）

五、学区及びその変遷

昭三一・四・一　上白根町、白根町、今宿町の一部

六、歴代校長

代	氏　名	就任年月日	転退職年月日	
一	内田作次郎	明一三・七・一五	明三三・一・一五	都筑郡高等新治小学校訓導へ転任
二	高橋新太郎	明三三・一・二三	明四一・一〇・不詳	不詳
三	横山　太郎	明四一・一一・二五	明四四・一〇・一二	西平沼小学校訓導へ転任
四	大矢助次郎	明四四・一〇・一二	大　四・三・三一	川島小学校長へ転任
五	三村　信吉	大　四・三・三一	大　五・三・三一	川島小学校長より就任、一本松小学校へ転任
六	田中　金作	大　五・三・三一	大　六・三・三一	尋常高等都田小学校へ転任
七	斎藤　定雄	大　六・三・三一	大一〇・三・三一	鴨居小学校長より就任、都岡小学校へ転任

八　大塚　健三　昭三一・四・一　二俣川小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

（創立より大正一〇年まで不詳）

（大正一〇年以降は都岡分校となり不詳）

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
昭二五	四	一六二（四）	不詳	—	不詳	—
昭三〇	七	二五〇（七）	四八	—	五一	—
昭三一	一〇	二八〇（八）	六五	—	—	—

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
都岡小学校白根分教場増改築推進委員会	昭二六・一一・三〇	会員二五〇名
白根小学校後援会	昭三一・五・五	会員二一五名
白根小学校ＰＴＡ	昭三二・四・二一	会員一八二名

横浜市立希望ヶ丘小学校

横浜市保土ヶ谷区二俣川町七、一〇二番地
電　話　瀬　谷　一　一　七　番

一、設置状況

1　創立　昭和三二年四月一日

2　開校　昭和三二年四月一日

3　設置の際の概況

二俣川小学校学区は横浜市郊外住宅地として急激に発展し、昭和二七年戸数一、三〇〇、児童数一、一〇〇名以上となり、既設の校舎のみでは収容できず、増築する余地もないので住民は二俣川小学校建設委員会を結成、分校設置を熱望し、二七年九月、希望ヶ丘の高台に校地三、三〇一・五五坪を有する二俣川小学校希望ヶ丘分校の設立が行われ、九月九日、二俣川小学校から一年より四年まで四学級一五二名の児童を収容して授業を開始した。以後学区域は住宅地として計画的、集団的に住宅建築が行われ、児童数も増加したので、三二年四月一日独立、一年より五年まで六九五名、一四学級を収容し、開校した。然し教室不足のため、五年二学級は二俣川小学校を借りて授業を行つた。

二、校名の変遷

昭三二・四・一　横浜市立希望ヶ丘小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二七・九・一　横浜市保土ヶ谷区二俣川町七、一〇二番地　三、三〇一・五五坪買収

総坪数　三、三〇一・五五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二七・九・一	新築	木造二階建	一五七	・教室四、その他三

昭二八・三・六	増築	木造平屋建	一〇	・給食調理室
昭三一・四・四	増築	木造二階建	一二四	・教室四、その他
昭三二・四・一	借用	木造二階建		・二俣川小学校二教室借用、五年生二学級使用

総坪数　二九一坪（教室八、その他三）

五、学区及び変遷

昭三一・四・一　保土ケ谷区二俣川町四、六四六―四、九一四、五、八六九―七、四八九、小高町二九四―四〇〇

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	北村　久治	昭三一・四・一	今井小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者
昭三一	一七	六九五（一四）	一四八

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
二俣川小学校希望ヶ丘分校独立促進委員会	昭三一・七・二八	会員六五五名、昭和三二年七月一日解散
希望ヶ丘小学校ＰＴＡ	昭三二・四・二七	会員五〇七名
希望ヶ丘小学校後援会	昭三二・七・一	会員一、〇〇〇名

横浜市立滝頭（たきがしら）小学校

横浜市磯子区丸山町一番地
電話長者町（3）〇三九八番

一、設置状況

１　創立　昭和三年四月一日
２　開校　昭和三年四月一日
３　設置の際の概況

関東大震災後本市復興計画により新設され、磯子、根岸両校の一部をさいて学区とした。開校当時は校舎落成に至らなかつたので、尋六、高等科を根岸校、尋五以下を磯子校に分割し職員二七名、児童男六五八名、女六二二名、計一二八〇名、学級二一をもつて授業を開始した。

二、校名の変遷

昭　三・四・一	横浜市滝頭尋常高等小学校
昭　八・四・一	横浜市滝頭尋常小学校
昭一六・四・一	横浜市滝頭国民学校
昭二二・四・一	横浜市立滝頭小学校

三、位置（校地）の変遷

昭　二・七・四	横浜市磯子区丸山町一番地	三、一八八坪、市有地
昭二二・五・六	横浜市磯子区丸山町一番地	二八八坪、市有地内の四五軒の民家強制疎開による拡張

総坪数　三、四七六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭　三・四・一	借用			・根岸、磯子両校を借用
昭　三・四・二三	新築	鉄筋三階建	一、二七二	・教室二八その他一〇、講堂

総坪数　一、二七二坪（教室二八、その他一一）

五、分校設置状況

昭二二・八・二二	横浜市立滝頭小学校岡村分教場を岡村町三五四番地に設置、校舎坪数一三四、教室四、児童一七二名
昭二三・四・一	横浜市立滝頭小学校岡村分教場を根岸中学校に貸与、（現岡村中学校講堂）
昭二九・七・三一	横浜市立滝頭小学校岡村分校を岡村町六八七番地に設置、校舎坪数二四五、教室六、児童三二七名

六、併設状況

昭一四・四・一	横浜市立滝頭青年学校を併設
昭二三・三・三一	滝頭青年学校を廃止

七、学区及びその変遷

昭　三・四・一　西根岸馬場町、滝頭町（字浜、字原を除く全部）丸山町、岡村町

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	松本丈太郎	昭　三・三・三一	昭　七・一・一九	大島小学校長より就任、死亡
二	二宮仲次郎	昭　七・四・一九	昭一九・一一・三〇	子安小学校長より就任、退職
三	大塚　光徳	昭一九・一一・三〇	昭二一・二・　四	末吉小学校長より就任、平沼小学校長へ転任
四	佐野　孝	昭二一・二・　四	昭二九・四・三〇	磯子小学校長より就任、元街小学校長へ転任
五	斎藤　通有	昭二九・五・　一	昭三一・八・三一	石川小学校長より就任、退職
六	倉沢　晟哉	昭三一・九・　一		浦島小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
昭　三	二七	一、二八〇（二一）	二四六	一一二	一一八	五四
昭　五	二七	一、五九〇（二六）	三〇七	九七	一六九	五五
昭一〇	二七	一、八〇二（二八）	三六一	―	二四一	―
昭一一	三七	二、一〇九（三四）	二九〇	―	三一二	―
昭二〇	三五	一、八三五（三三）	二八三	―	二七四	―
昭二五	四九	二、三二四（四二）	四四六	―	三一七	―
昭三〇	四七	一、九八九（三九）	三五三	―	三八六	―

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
滝頭小学校父母教師の会	昭二四・四・一	会員一、九七六名
滝頭小学校後援会	昭二四・四・一	発展的解消

一一、その他

昭一九・八・一七	神奈川県中郡秦野町へ、児童疎開、教職員二五名、児童四二〇名、残留者は分散し出張授業をする。
昭二七・二・二二	給食調理場の建設につき横浜市教育委員会より表彰を受く。
昭二七・四・三〇	交通安全週間につき横浜市より表彰を受く。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一八・八・二一	プール	七六	学校防火用として作成されたが不完全のため使用せず
昭二六・一〇・九	給食調理場	三五	
昭二二・一一・七	学校図書館	三〇	

横浜市立磯子（いそご）小学校

横浜市磯子区磯子町二九八番地
電話長者町（3）〇七六五番

一、設置状況

1　創立　明治六年五月一日
2　開校　明治六年五月一日
3　設置の際の概況

明治五年学制頒布より学校設置の機運が高まつてきたが、磯子区の属していた第二区三番組は各村の財政状態も豊かでなかつたため、森田学舎と本校の真照学舎の二校が設置された。当時の真照寺は境内二千坪を越え、梅林および牡丹の名所として広大な寺領を有していた。この庫裡を仮校舎として授業を開始するにいたつた。

明治九年五月の記録によると、就学児童男四四名、女一〇名、計五四名で不就学児童は男五四名、女八七名、計一四一名で不就学者の方が多かつた。

二、校名の変遷

明六・五・一	第一大学区第七中学区第四七番小学真照学舎	
明八・六・二九	第一大学区第七中学区内公立磯子学校	
明一三・四・一	公立磯子学校	
明一八・四・一三	久良岐郡磯子村磯子学校	
明二五・四・一	久良岐郡屏風ヶ浦村立尋常磯子小学校	
明四四・四・一	横浜市尋常磯子小学校	横浜市編入により校名改称
大一一・四・一	横浜市尋常高等磯子小学校	高等科併設により校名改称
大一二・四・一	横浜市磯子尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市磯子国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立磯子小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・五・一	久良岐郡磯子村字腰越四一六番地　真照寺庫裡、	坪数不詳	
明九・五・不詳	久良岐郡磯子村字腰越四一七番地の八号四一四番地	四〇〇坪	私有地買収
明三七・不詳	久良岐郡磯子村字腰越四一七番地の八号四一四番地	五〇坪	
大九・九・不詳	横浜市磯子区磯子町字広地二九八番地	一五六二坪	私有地買収
大一四・五・不詳	横浜市磯子区磯子町字広地二九八番地	七一八坪	私有地買収

総坪数二、二八〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・五・不詳	借用	木造平屋建	二八	・教室一
明九・五・不詳	新築	木造平屋建	八八	・教室二、移転新築
明三二・五・五	増築	木造平屋建	七八	教室三
明三七・四・八	増築	木造平屋建	二〇	・教室一
大九・九・不詳	新築	木造平屋建	五〇八	・教室二四、移転新築
大一二・九・一	罹災			・大震災により倒壊
大一二・一〇・一一	改築	木造平屋建	五〇八	・教室一三、震災により倒壊したので平屋建に改造
大一五・一・五	増築	木造二階建	七一八	・教室二九、二階建二棟増築
昭一二・六・不詳	改新築	木造平屋建	二八五	・教室一〇
昭一三・一一・不詳	改新築	木造平屋建	三七四	・教室一九
昭一九・不詳	貸与	木造平屋建	二五	・教室一、日本航空幼年工養成所に工作室貸与

昭二〇・不　詳	貸　与	木造平屋建	三七五	・教室一五、終戦処理事務に憲兵隊使用
昭二四・五・一	貸　与	木造平屋建	八五	・教室五、岡村中学校に貸用、同年六月三〇日返還

総坪数　一、三一七坪（教室三〇、その他五）

五、分校・分教場の設置廃止状況

明一五・一一・不詳	磯子学校岡村分校を横浜市磯子区岡村町八五六番地龍珠院隱居寺与楽庵に設置、校舎坪数四、教室一、児童数不詳
明一九・四・九	磯子学校岡村分校を廃止。
昭一五・四・一	横浜市磯子尋常高等小学校分教場を横浜市磯子区磯子町一六六六番に設置、校舎二四四坪、教室六・児童二五七名を収容、昭和一九年四月一日浜国民学校として独立のため同分教場を廃止。
昭二二・五・一	六三制実施に伴う学区統合のため根岸小学校を休校とし、横浜市立磯子小学校根岸分教場を横浜市磯子区中根岸町三ノ一五五番地（根岸小学校位置）に設置、校舎一二一坪、教室八、児童三八五名を収容す。昭和二五年一月一日独立のため同分教場を廃止。

六、統併合・分離・併設状況

大一四・四・一	附属夜間部を併設、昭和一八年三月三一日廃止
大一五・七・一	横浜市立日枝青年訓練所磯子分所併設
昭二・四・一	横浜市立磯子青年訓練所併設
昭一八・三・三一	滝頭青年学校に統合
昭一九・四・一	横浜市立浜国民学校置設により児童の一部を分離
昭二四・四・八	岡村中学校併設
昭二五・一・一	横浜市立根岸小学校設置により児童の一部を分離

七、学区及びその変遷

明六・五・一	磯子村、滝頭村、岡村
大九・一〇・不詳	磯子町、滝頭町、岡村町、根岸分田、原町
昭二・四・一	磯子町、滝頭町、岡村町、根岸分田、原町、堀之内町
昭三・四・一	滝頭小学校新設により、岡村町、滝頭町、堀之内の一部を分け、更に根岸小学校へ根岸分田、原町を分ける。
昭一九・四・一	浜国民学校設置により磯子町の字浜東、山手町会を分ける。
昭二二・五・一	根岸小学校統合により根岸町加わる。
昭二五・一・一	根岸小学校設置により根岸町を分離

八、歴代校長

代	氏　名	就任年月日	転・退職年月日	
	日比野　晃	明　六・不　詳	明　八・不　詳	
	光野　宣厚	明　八・不　詳	明一〇・不　詳	
	若菜　潤二	明一〇・不　詳	明一一・不　詳	
	木村七十郎	明一一・不　詳	明一三・不　詳	
	森　豊八	明一三・一一・不詳	明一八・四・不詳	
	河村安太郎	明一八・五・不詳	明一九・三・不詳	
	篠崎　庄作	明一九・四・不詳	明二七・五・不詳	
	加藤庄太郎	明二七・六・不詳	明三一・一一・不詳	
	沼　亀次郎	明三二・一・不詳	明三三・一一・一一	以上首座教員
一	沼　亀次郎	明三三・一一・一二	明四四・三・一六	久良岐郡尋常磯子小学校訓導より就任、退職
二	石井七之助	明四四・三・一六	明四五・三・二八	久良岐郡尋常高等森中原小学校長より就任、三浦郡西浦小学校長へ転任
三	松井亀四郎	明四五・四・一	大　二・四・一二	尋常高等第二日枝小学校長より就任、退職
四	小泉　健次	大　二・四・三〇	大　六・四・一七	尋常高等元街小学校訓導より就任、退職
五	大房　円吉	大　六・四・一九	大一〇・四・二	尋常太田小学校訓導より就任、退職
六	牧島金三郎	大一〇・四・一三	大一一・五・三一	長野県師範学校訓導より就任、退職

七	荒井 林蔵	大一一・六・一九	昭 四・四・三〇	尋常高等稲荷台小学校訓導より就任、大岡小学校長へ転任
八	森 富太郎	昭 四・四・三〇	昭一五・三・三一	大岡尋常小学校長より就任、南吉田小学校長へ転任
九	足立 直寿	昭一五・三・三一	昭二二・三・三一	平楽小学校長より就任、戸部小学校長へ転任
一〇	柳川 金麿	昭二二・四・三〇	昭二八・三・三一	南吉田小学校長より就任、退職
一一	相川安太郎	昭二八・四・一	昭三一・一・一七	北方小学校副校長より就任、休職
一二	市川孝之助	昭三一・三・一五		大島小学校副校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科	
明 六	不詳	不詳	不詳	—	不詳	—	
明一一	三	五四（二）	不詳	—	不詳	—	
明一八	四	一二四（四）	不詳	—	不詳	—	
大一一	二一	一、〇四五（一七）	二三一	—	一三四	六二	市域編入
昭 五	二六	一、四五五（二三）	不詳	不詳	不詳	不詳	
昭一五	四〇	二、〇五七（三二）	三三二	一七八	二四九	一四六	
昭一九	三一	六三三（不詳）	一八九	二四二	一三七	一六一	
昭二〇	三〇	一、三九六（二四）	二一九	不詳	一八二	一四七	疎開より復帰
昭二二	三九	六四二（一二）	二一二	—	三六七	—	
昭二五	二九	一、三二〇（二七）	三〇三	—	一五七	—	
昭三〇		一、六八六（三五）	三〇五	—	三〇一	—	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
磯子小学校教育奨励会	大 九・九・不詳	昭和二三年四月二三日解消
磯子小学校ＰＴＡ	昭二三・四・二四	会員一、一八六名
磯子小学校子供会	昭二九・七・一	地区代表一〇名、指導者七六名、児童一六五〇名より成る。

一一、その他

昭一七・一二・一	県の研究指定により報徳教育発表会を行う。
昭一九・八・一九	児童疎開により神奈川県中郡大根村へ教職員一九、児童三二〇名が疎開、昭和二〇年一〇月二三日全員引揚げ
昭二八・一一・一一	市教育委員会の指定を受け健康教育研究発表会を開く。
昭二九・二・一〇	文部省より理科教育振興法実施により研究指定を受ける。
昭二九・四・一〇	教育委員会より特殊学級研究の指定を受ける。
昭三〇・六・五	教育委員会より昭和三十年度体育研究の指定を受ける。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一四・四・不詳	洗心寮・家事室	七六	
昭一六・不詳	農園	六〇〇	
昭一八・一〇・不詳	給食場	二二	
昭二八・九・九	図書室	二〇	蔵書数二、五〇三冊

横浜市立浜（はま）小学校

横浜市磯子区磯子町一六六六番地
電話長者町(3)〇八二〇番

一、設置状況

1 創立 昭和一九年四月一日

2　開校　昭和一九年四月四日

3　設置の際の概況

昭和一五年九月一日横浜市磯子尋常高等小学校分教場として発足し昭和一九年四月一日横浜市浜国民学校として（児童四一七名、教職員五名、学級数八）横浜市磯子国民学校より独立開校した。

二、校名の変遷

昭一五・九・一	横浜市磯子尋常高等小学校分教場	
昭一六・四・一	横浜市磯子国民学校分教場	
昭一九・四・一	横浜市浜国民学校	分教場より独立により校名改称
昭二二・四・一	横浜市立浜小学校	

三、位置（校地）の変遷

昭一五・七・三一　横浜市磯子区磯子町字間坂一六六六番地　一七一二坪

総坪数　一、七一二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一五・九・一	新築	木造二階建	三五四	・教室六
昭一九・一一・一	貸与	木造二階建		・日本飛行機株式会社に三二四坪貸与
昭二〇・二・二	増築	木造二階建	三八八	・教室一〇
昭二〇・九・七	転用	木造二階建		・全校舎進駐軍使用
昭二一・四・一九	転用	木造		・横浜市聾唖学校に教室二、職員室一、使丁室一貸与する
昭二二・五・五	転用	木造		・横浜市立浜中学校に教室六、職員室一、応接室一、使丁室一、および渡廊下貸与する
昭二二・一二・不詳	増築	木造平屋建	一四	・便所一棟
昭二五・九・一二	改築	木造平屋建	不明	・教室一
昭二七・一一・一一	改築	木造平屋建	不明	・教室一

総坪数　七五四坪（教室一八、その他六）

五、併設状況

昭二一・四・一九	横浜市聾唖学校、児童六四名（七学級）を併設
昭二二・五・五	横浜市立浜中学校、生徒三〇五名（一年生）を併設
昭二三・九・二五	浜中学校移転
昭二四・六・九	聾唖学校移転

六、学区及びその変遷

昭一五・九・三	磯子町全部、滝頭町字浜、森町
昭一九・四・一	磯子町、山手町内会、浜西町内会
昭二二・四・一	旧町第一町内会を編入
昭二六・九・三〇	磯子町字峯、宮下、山田谷、山王谷、間坂、牛久保、紅取、浜の一部
昭二八・一・一〇	磯子町字山田谷、山王谷、入ノ谷、浜西北、浜西南
昭三〇・二・一〇	森第一地区を編入

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	細野　清作	昭一九・五・二〇	昭二四・四・一五	西前国民学校教頭より就任、栗田谷小学校長へ転任
二	村杉　貞子	昭二四・四・一五	昭三〇・五・三一	西前国民学校訓導より就任、太田小学校長へ転任
三	関谷　甚	昭三〇・六・一		蒔田小学校副校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭一九	九	四一九　（八）	八五	六四
昭二〇	一一	四〇五　（九）	五六	五〇

昭二二	一〇	五八九（一〇）	一一四	九六
昭二五	二〇	七四六（一六）	一三四	九三
昭三〇	二三	八三七（一七）	一四七	一四四

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
浜国民学校後援会	昭二一・三・一七	
浜国民学校母の会	昭二一・五・一〇	
浜小学校ＰＴＡ	昭二三・三・二一	会員六五〇名
浜小学校同窓会	昭二六・一一・一一	相互親睦会

一〇、その他

昭一九・八・一六　児童疎開、県下中郡北秦野村戸川、宝泉院、菩提公会堂、教職員二、寮母四、作業員三、児童七五名。

昭二〇・四・二二　戸川公会堂、教職二、寮母一、作業員一、児童一一二名。

昭二〇・六・三〇　戸川公会堂、児童九二名。

昭二〇・九・一　戸川公会堂、教職員四、寮母五、作業員四、児童三三名。

昭二六・不詳　新潟県南魚沼郡石川村上関小学校と「海と山との交歓会」を始め毎年続けている。

昭二九・三・一五　神奈川県、横浜市教育委員会より図書館コンクール賞受賞。

昭三〇・二・二二　学校図書館研究について全市に公開発表する。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・二・四	給食堂	一二	
昭二七・一一・一一	図書室	二〇	蔵書数二、九四〇冊

横浜市立杉田（すぎた）小学校

横浜市磯子区杉田町四〇番地
電話長者町(3)〇六四〇番

一、設置状況

1　創立　明治六年五月
2　開校　明治六年五月
3　設置の際の概況

学制に従い明治六年久良岐郡森公田村、森中原村、森雑色村、杉田村聯学区によって創立、校舎を森中原村三二番地梅照山願行寺内に仮設、森田学舎と称した。明治八年頃は就学者甚だ少く学令児童三〇〇人に対し五〇人内外の児童が就学しただけであった。

二、校名の変遷

明六・五・不詳	森田学舎	
明八・六・二九	森中原学校	
明九・不詳	公立森中原学校	
明一四・不詳	村立森中原学校	
明二五・四・一	久良岐郡屏風浦村立尋常森中原小学校	
明三七・四・三〇	尋常高等森中原小学校	高等科併設により校名改称
大一二・四・一	久良岐郡村立森中原尋常高等小学校	
昭二・四・一	横浜市中原尋常高等小学校	横浜市編入により校名改称
昭四・九・一	横浜市杉田尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市杉田国民学校	

昭二二・四・一　横浜市立杉田小学校

三、位置（校地）の変遷

明　六・五・不詳	神奈川県久良岐郡森中原村三二番地	森中原村願行寺内　一〇〇坪
明一〇・一二・二七	久良岐郡森中原村七二二番地	一五〇坪に移転
明四一・一・一一	久良岐郡森中原村七二八番地	七五〇坪に移転
昭　四・九・一	横浜市磯子区杉田町四〇番地	二三五七坪に移転
昭一六・不　詳	横浜市磯子区杉田町四〇番地	八一七坪を拡張

総坪数　三、一七四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　六・五・不詳	借用	木造平屋建	一五	・教室一、森中原村願行寺内借用
明一〇・一二・二七	新築	木造平屋建	四五	・教室四
明三〇・五・不詳	増築	木造平屋建	八	・教室数不詳
明三三・二・一一	増築	木造平屋建	一二	・教室一
明四二・一二・一	改築	木造平屋建	不詳	・教室八
大一一・四・不詳	増築	木造平屋建	不詳	・教室一〇
昭　四・六・一七	新築	木造二階建	九三一	・教室二二、その他八、講堂
昭一六・五・一	増築	木造二階建	八三	・教室四
昭二四・一〇・一五	増築	木造平屋建	二六	・給食室
昭三〇・二・六	焼失	木造二階建	八四九	・教室二三、その他六
昭三一・三・三一	新築	鉄筋三階建	九五〇	・教室二三、その他七

総坪数　一、一九一坪（教室二七、その他九）

五、分校設置状況

昭二六・一二・一〇　杉田分校を森町字白旗六四六番地に設置、校舎坪数三三〇、教室八、児童四七〇名

昭三一・三・三一　杉田分校は屏風浦小学校として独立のため廃止

六、併設状況

明二九・四・不詳	補習科を設置、明治三七年廃止
明三九・一・不詳	農業補習学校を併設
大　二・一・九	実業補習学校を併設
大　五・四・一〇	女子補習学校併設
昭一〇・一〇・一	横浜市立杉田青年学校を設置、昭和二三年三月三一日廃校

七、学区及びその変遷

明　六・五・不詳	久良岐郡、森公田村、森中原村、森雑色村、杉田村
昭　二・四・一	磯子区森町、杉田町、中原町、（村名変更）
昭　四・九・一	磯子区栗木町、上中里町、氷取沢町、（日下小学校の学区を編入）

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	山田　道忠	明　六・五・不詳	明一九・不　詳	久良岐郡金沢小学校長へ転任
二	島　房吉	明一九・不　詳	明二九・三・不詳	死亡退職
三	斎藤　宇吉	明二九・八・二三	明三四・二・二〇	横浜市第三高等小学校長へ転任
四	浅瀬　加門	明三四・二・二三	明三九・一一・二九	休職
五	島　房吉	明三九・一一・二九	明四二・三・二〇	尋常磯子小学校長へ転任
六	大島七之助	明四二・三・三一	明四四・三・一六	休職
七	角田　武夫	明四四・三・一八	大　六・一・一〇	金沢尋常高等小学校長へ転任
八	土屋　正造	大　六・一・二四	昭　二・三・三一	富岡尋常高等小学校より就任、日枝小学校長へ転任
九	小野　藤蔵	昭　二・三・三一	昭　四・六・一〇	第一日枝小学校長より就任、根岸小学校長へ転任
一〇	木村　政広	昭　四・六・一〇	昭　六・五・五	青木小学校長へ転任
一一	寿　金平	昭　六・五・五	昭一一・三・三一	

一二	柳下 荘一	昭一一・三・三一	昭一六・九・二七	杉田小学校訓導より就任、山元国民学校長へ転任
一三	横家 丑郎	昭一六・九・二七	昭一九・三・三一	中村国民学校より就任、岐阜市へ転任
一四	板倉 外雄	昭一九・三・三一	昭二一・二・二〇	杉田国民学校教頭より就任、西前国民学校長へ転任
一五	森 治三郎	昭二一・二・二〇	昭二七・九・二一	日下国民学校副校長より就任、戸部小学校長へ転任
一六	瀬戸 薫	昭二七・九・二一	昭三一・八・三一	杉田小学校副校長より就任、蒔田小学校長へ転任
一七	梅野 力哉	昭三一・九・一		青木小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明六	四	五〇（三）	不詳	—	不詳	—
明二六	四	一一二（四）	三一	—	一七	—
明三八	六	二六二（七）	七九	二三	五三	—
大一〇	九	五六四（八）	一五二	六三	一三四	六〇
昭二	一三	五八七（一三）	一三三	五三	一一三	四二
昭七	一八	八四五（一五）	二〇一	七六	一六四	六〇
昭一一	二四	一、〇二四（一八）	二四一	七六	一八六	七七
昭一五	二八	一、三八五（二二）	三三一	一一六	二三八	八五
昭一八	二七	一、五七一（二四）	三四五	九七	三三七	一〇四
昭二〇	三三	一、六八二（二七）	三三九	八七	三三〇	九九
昭二二	三五	一、九一七（三一）	三八四	—	三一五	—
昭二五	五二	二、三八七（四五）	四六二	—	二九二	—
昭三〇	六一	二、六八四（五二）	五二三	—	四五一	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
杉田小学校PTA	昭二二・五・三〇	会員三、三五〇名

一一、その他

昭一九・八・一七　児童疎開、県下中郡西秦野村、教職員一二名、児童初等科二五二名、宿舎は松屋、泉秋寺、桂林寺、黒木会館、蔵林寺

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭一九・不詳	防火用プール	二一
昭三一・三・三一	給食室	三六

横浜市立根（ね）岸（ぎし）小学校

横浜市磯子区中根岸町三丁目一五五番地
電話　港(8)六八七四番

一、設置・廃止状況

1 創立　明治六年
2 開校　明治六年五月一一日
3 休校　昭二二年五月一日
4 復活　昭二五年一月一日
5 設置の際の概況

明治五年学制頒布の翌年、神官・僧侶に小中学校の開設が許可され、久良岐郡根岸村字芝生の大聖院住職である飯田圭州外二名が教師となり附近の児童約三〇名を集めて、大聖院内に第一大学区第七中学区、第五小学区主敬学舎として開校するにいたつた。開校

記念日は明治十四年校舎新築し、移転した五月十一日と定めている。

二、校名の変遷

明　六・五・一一	第一大学区、第七中学区、第五小学区主敬学舎	
明　八・不　詳	根岸学校	
明　九・不　詳	公立根岸学校	
明一四・八・六	村立根岸学校	
明二〇・四・一	公立根岸学校	
明二五・四・不詳	久良岐郡根岸村立根岸尋常小学校	
明三〇・七・六	尋常高等根岸小学校	
明三八・四・一	横浜市根岸尋常小学校	小学校令により校名改称
明四五・四・一	横浜市根岸尋常高等小学校	高等科併置による校名改称
昭　八・四・一	横浜市根岸尋常高等小学校	
昭一六・四・一	横浜市根岸国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立根岸小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　六・不　詳	久良岐郡根岸村字芝生大聖院内		
明一五・五・一一	久良岐郡根岸村字芝生一一三三番地	四八坪	
明二一・六・一九	久良岐郡根岸村字芝生一一三三番地	三〇〇坪	私有地、運動場新設による買収
大　三・七・不詳	久良岐郡根岸村字芝生一一一九番地　他二筆		一七八坪拡張
大　六・四・不詳	久良岐郡根岸村字芝生一一一七　一一一八番地		一五三坪拡張
大一三・不　詳	久良岐郡根岸村字芝生一一一七・一一一八番地		八二六坪拡張
昭　二・九・不詳	横浜市磯子区西芝生一一三三		講堂及び運動場拡張
昭　七・九・一〇	横浜市磯子区中根岸町三ノ二八一番地	二、四〇〇坪	海岸埋立地を市より借用、臨海運動場、農園を開設、昭和二〇年米軍に接収

総坪数　一、六八三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明一四・五・一一	新築	木造平屋建	四八	・教室二
明三〇・三・一七	増築	木造二階建	二九	・教室四
明三三・不　詳	借用			・根岸村西芝生九九四、清水伊之助方借用、明治三五年三月廃止
明三五・三・不詳	増築	木造平屋建	四五	・不詳
明四四・一一・二五	改築	木造平屋建	不詳	
大　三・不　詳	増築	木造平屋建	四六	・不詳
大　六・七・二八	新築	木造二階建	不詳	・教室六
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により大部分倒壊、東側平屋八教室残る
大一三・一〇・三	改築	木造二階建	不詳	・教室一〇
昭　二・四・不詳	改築	木造二階建	一〇八	・教室八
昭　二・九・不詳	新築	木造平屋建	一二〇	・教室一
昭一六・九・不詳	改築	木造二階建	四四一	・教室二四
昭一九・一〇・不詳	貸与	木造二階建	七〇五	・教室三三、勤労動員宿舎として二〇年九月まで貸与
昭三〇・八	撤去	木造	不詳	・防火の必要上教室二取壊す

総坪数　一、一七六坪（教室三〇、その他一一）

五、統併合・分離・併設状況

大　七・四・一　尋常科夜間部併設、児童約四〇名

昭　四・　三・三一　尋常科夜間部廃止

昭一四・　九・　一　尋常科四、五年を間門小学校に、高等科を滝頭小学校に校舎改築のため約一年の間分離

六、学区及びその変遷

明　六・不　詳　明確なる学区なし

昭　三・　四・不詳　磯子小学校より父兄の要望により磯子区原町を加う

昭二五・　一・　一　中区根岸町三丁目、磯子区中根岸町一・二・三丁目、原町、西根岸下町、鳳町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	飯田　桂州	不　詳	不　詳	創立当時在職
	今川幸太郎	不　詳	不　詳	明治一四年頃在職
	島　安衛	不　詳	不　詳	明治一七年頃在職
	大島　重暢	不　詳	不　詳	明治一七年頃在職
一	橋本啓次郎	明一八・五・不詳	大一三・一〇・二	退職
二	相沢　次郎	大一三・一〇・三	昭　四・七・三〇	横浜小学校長へ転任
三	石黒　保義	昭　四・七・三一	昭　六・四・四	鵠沼小学校長より就任、退職
四	木村　政広	昭　六・五・五	昭一五・三・三〇	杉田小学校長より就任、退職
五	土屋輝太郎	昭一五・三・三一	昭一七・八・二五	石川小学校副校長より就任、退職
六	柏　貞二	昭一七・八・二六	昭二一・二・四	間門小学校副校長より就任、死亡退職
七	中田　仁平	昭二一・二・五	昭二三・四・三〇	下野谷小学校長へ転任
八	三宅　信夫	昭二五・五・一	昭三〇・二・四	末吉小学校副校長より就任、豊田小学校長へ転任
九	森　幸三	昭三〇・二・五		青木小学校副校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明　六	三	三〇（不詳）	不詳	｜	｜	｜
明三四	一三	五五〇（不詳）	不詳	不詳	五六	一五
大一三	二六	一、三九〇（二一）	不詳	不詳	一三六	四三
昭一〇	二七	一、三五〇（二四）	不詳	不詳	一六六	一三八
昭一五	三〇	一、五一八（二七）	不詳	不詳	一九三	一六七
昭二〇	不詳	不　詳（不詳）	不詳	不詳	一一〇	九三
昭二五	一六	六七二（一四）	一九七	｜	一一九	｜
昭三〇	三一	一、三三一（二七）	二四〇	｜	二一三	｜

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
根岸小学校教育奨励会	明四四・三・三	昭和二二年四月三〇日解散、会員六五〇名
根岸小学校復興会	昭二二・九・不詳	会員五〇〇名
根岸小学校ＰＴＡ	昭二五・一・不詳	会員一、三〇〇名
根岸小学校整備委員会	昭二五・三・不詳	会員三〇名

一〇、その他

昭　三・七・不詳	横浜市内小学校野球大会に優勝
昭　三・七・不詳	横浜市内小学校水泳大会に優勝
昭一九・八・一五	児童疎開により神奈川県中郡南秦野村へ教職員一二名、児童三三〇名が疎開、翌二〇・一〇・二八全員帰校
昭三〇・七・不詳	図画作品展（野毛山写生会で学校賞受領）

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一九・四・五	学校給食場	二〇	
昭二七・四・不詳	学校図書館	二五	蔵書数三、五〇〇冊

横浜市立屏風浦小学校

横浜市磯子区森町六四六番地
電話長者町(3)八五九〇番

一、設置状況

1　創立　昭和三一年四月一日
2　開校　昭和三一年四月一日
3　設置の際の概況

杉田小学校学区域は急速な人口増加のため四年生迄二部授業であつた。これが緩和のため杉田分校設立の運びとなり昭和二六年第一期工事完了とともに児童を収容した。昭和二七年に第二期工事完成、二八年に第三期完成を経て三一年四月一日分離独立した。

二、校名の変遷

昭二六・一二・一〇	横浜市立杉田小学校杉田分校
昭三一・四・一	横浜市立屏風浦小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二六・五・二六	横浜市磯子区森町六四六番地	一、六二二坪
昭二七・三・一八	横浜市磯子区中原町五九番地	一、三三七坪
昭二八・三・一一	横浜市磯子区中原町五〇番地	五七〇坪

総坪数　三、五二九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二六・一二・六	新築	木造平屋建	三三〇	・教室八、その他七
昭二七・五・一七	増築	木平屋建造	一四四	・教室四、その他一
昭二八・二・二四	増築	木造	一一〇	・教室三、その他一

総坪数　五八四・三坪（教室一五、その他九）

五、学区及びその変遷

昭三一・四・一　磯子区森町、中原町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	森上　太郎	昭三一・四・一	杉田小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭三一	一九	七八二（一六）	一七一	—

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
屏風浦小学校ＰＴＡ	昭三一・四・一四	会員九六三名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三一・四・一	学校図書館	一一	蔵書数一、五〇〇冊
昭三一・四・一	給食調理室	二〇	
昭三一・八・一五	体育用物置	六	

横浜市立富岡（とみおか）小学校

横浜市金沢区富岡町一四三一番地
電話金沢(7)九九九八番

一、設置状況

1　創立　明治七年六月
2　開校　明治七年六月
3　設置の概況

明治七年六月富岡町中部の持明院に附設創立され富岡学舎と称した。当時の生徒はわずか数人に過ぎず、土着民の子弟のみで登校は自由のようであった。僧侶が教師として指導に当り寺小屋式な学校であった。

二、校名の変遷

明　七・六・不詳	富岡学舎	
明一二・三・二二	富岡学校	
明二五・四・一	尋常富岡小学校	
明三八・五・三一	久良岐郡富岡村立尋常富岡小学校	
大一〇・四・一	金沢町立尋常高等富岡小学校	高等科併置による校名改称
大一二・四・一	金沢町立富岡尋常高等小学校	
昭一一・一〇・一	横浜市富岡尋常高等小学校	横浜市へ併合のため校名改称
昭一六・四・一	横浜市富岡国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立富岡小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　七・六・不詳	現横浜市金沢区富岡町一八九〇番地	四五〇坪	私有地
明一二・三・二二	現横浜市金沢区富岡町一九六〇番地	八〇〇坪	私有地、校舎新築のため移転
大　五・三・一七	現横浜市金沢区富岡町二〇九五番地	一四四一坪	に移転
昭二〇・九・一九	横浜市金沢区富岡町一四三一番地	四六七七坪	私有地に一九年二月二三日校舎火災のため移転

総坪数　四、六七七坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　七・六・不詳	不詳	木造平屋建	七〇	
明一二・三・二二	新築	木造平屋建	八〇〇	
大　五・三・一七	新築	木造平屋建	三五三	
昭一九・三・二三	罹災			・漏電による火災のため三教室を残し全焼、学区内の会館、寺院を使用して分散授業
昭二〇・九・一九	転用	木造二階建	三七六	・元海軍航空技術庁動員学徒寄宿舎を校舎として転用
昭二四・三・一七	増築	木造平屋建	五八一	・教室八
昭二五・三・三	改築	木造平屋建	四六〇	・二階建旧校舎は老朽のため平屋建に改築する
昭二九・一・一五	増築	木造平屋建	五八六	・富岡町結核療養所対策委員会より寄附
昭二九・八・二〇	改築	木造平屋建	五五二	
昭二九・八・三一	増築	木造二階建	八一一	・教室一八、その他四

総坪数　八一一坪（教室一八、その他四）

五、統併合・分離・併設状況

明四四・四・一	実業補習学校を併設
大一一・四・不詳	富岡補習実業学校と改称
昭　四・一〇・不詳	金沢町立富岡実業補習学校を金沢町立富岡実業専修学校と改称
昭一〇・七・一	富岡青年学校を併設する
昭一九・二・一	富岡青年学校は杉田青年学校へ併合

六、学区及びその変遷

昭二六・九・三〇　富岡町、堀口町、長浜町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	和田　慈明	不詳	不詳	
二	前田　国松	不詳	不詳	
三	落合　啓作	明二六・不詳	不詳	退職
四	古平　啓爾	大三・一二・二三	大七・三・三一	大岡川小学校長へ転任
五	荒井吉太郎	大七・三・三一	大九・三・三一	日野小学校より就任、大岡川小学校長へ転任
六	後藤　一以	大九・三・三一	不詳	金沢小学校より就任、西戸部小学校へ転任
七	大矢　晴栄	不詳	不詳	
八	小野　藤蔵	不明	昭二・三・三一	杉田小学校長へ転任
九	鶴見　浜良	昭二・四・一	昭一〇・三・三一	横須賀市船越小学校長より就任、退職
一〇	飯田　一好	昭一〇・四・一	昭一八・一一・二六	橘樹郡稲田第二小学校長より就任、日吉台国民学校長へ転任
一一	塚本　英時	昭一八・一一・二六	昭二二・九・三〇	滝頭国民学校教頭より就任、岸谷小学校長へ転任
一二	小林錠太郎	昭二二・九・三〇	昭二四・四・一五	鎌倉市御成小学校長より就任、幸ケ谷小学校長へ転任
一三	小森　隆平	昭二四・四・一五	昭三〇・五・三一	三ッ沢小学校副校長より就任、退職
一四	杉山　高蔵	昭三〇・六・一		六浦小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明七	不詳	不詳（不詳）	不詳	｜	不詳	｜
明二三	不詳	不詳（不詳）	不詳	｜	不詳	｜
明二八	不詳	六三（不詳）	二〇	｜	一四	｜
明三八	不詳	八三（不詳）	二三	｜	二三	｜
明四三	不詳	一三〇（不詳）	一九	｜	一四	｜
大二	不詳	一三六（不詳）	二五	｜	不詳	｜
大一〇	五	一六七（四）	二七	一八	五	｜
昭一一	一一	二六〇（八）	四七	二一	四六	四四
昭一六	一二	三八四（八）	六六	二五	五五	二七
昭二一	一六	三九八（一四）	五七	三一	四六	一四
昭二三	一七	五四二（一四）	九六	｜	六五	二三
昭三〇	二三	七八六（一八）	一四三	｜	一一九	｜

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
富岡小学校後援会	昭一〇・不詳	会員一一二名
富岡小学校ＰＴＡ	昭二三・四・二三	会員八七〇名

一〇、その他

昭一九・八・二一	学校火災のため初等科一八六名、高等科五四名、長昌寺、慶珊寺、田沼、横浜学園臨海学園、会館、持明院宝珠院等を借用分散授業を行う。
昭二〇・四・一三	児童疎開、中郡土沢村土屋、大乗院へ教職員二、児童四五名、中郡土沢村、吉沢延命寺へ教職員二、児童四五名を疎開、高等科生徒は富岡兵器へ勤労動員、初等科残留児童は各町内別に寺小屋式教育を行った。
昭二〇・八・七	空襲により疎開先第一分団大乗院全焼、教職員児童全員引揚げ本校に復帰

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二五・二・二〇	給食調理場	三〇

横浜市立金沢小学校

横浜市金沢区町屋町一六一番地
電話金沢(7)九〇三八番

一、設置状況

1　創立　明治六年五月
2　開校　明治六年五月二六日
3　設置の際の概況

明治五年学制頒布の翌六年五月第二大区、第七小区内の洲崎、町屋、寺前、谷津、泥亀新田の五ヶ村を学区として創設したもので校舎は洲崎の知足山竜華寺内の末院華蔵院、引摂院の二寺を借り、華蔵院を男生教場に引摂院を女生教場とし、校名を知足学舎と称した。

二、校名の変遷

明　六・五・二六　知足学舎
明　九・一一・二〇　金沢学校
明二五・四・一　久良岐郡尋常金沢小学校
明二六・四・一　久良岐郡尋常高等金沢小学校　高等科併置による校名改称
大一二・四・一　久良岐郡金沢尋常高等小学校
昭一一・一〇・一　横浜市金沢尋常高等小学校　横浜市編入による校名改称
昭一六・四・一　横浜市金沢国民学校
昭二二・四・一　横浜市立金沢小学校

三、位置（校地）の変遷

明　六・五・二六　第二大区第七小区内洲崎村家津良町三九四の一番地　知足山竜華寺内の二寺を借用
明　九・一一・二〇　久良岐郡寺前村西五九の三・五番地　六〇六坪、校舎新築のため移転
明四四・四・一　久良岐郡金沢村町屋字上町三一八番地　一、三〇五坪、校舎老朽につき新築のため移転
大一四・一一・二〇　久良岐郡金沢村町屋字町屋一七一番地　三、四八五坪、共有地及私有地、大震災により校舎倒潰のため移転
昭一一・一〇・一　横浜市磯子区町屋町一六一番地　横浜市編入のため町名変更

総坪数　三、四八五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　六・五・二六	借用	木造建	不詳	・華蔵院、引摂院の二寺を借用
明　九・一一・二〇	新築	木造平屋建	六〇八	・教室三
明二六・七・一〇	増築	木造平屋建	四二	・教室二
明二八・八・一九	増築	木造平屋建	四八	・教室二、その他一
明四四・五・二六	新築	木造二階建	四〇二	・教室一六、校舎老朽のため移転新築
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により二階建校舎の階下、職員室、応接室使丁室等を除いて全部倒壊する。学区内寺院、民家等を借用して授業
大一二・一一・不詳	増築	バラック	一二六	・教室八
大一四・一一・二〇	新築	木造平屋建 木造二階建	八二〇	・校地移転、教室二三
昭　二・六・不詳	増築	木造平屋建	三二	・手工室
昭　三・八・不詳	増改築	木造平屋建	三三	・講堂
昭一〇・五・三一	増築	木造二階建	二六四	・教室六
昭一一・四・不詳	増築	木造平屋建	二一	・音楽室

昭二〇・五・一〇	貸与			・横須賀航空技術廠へ七教室
昭二〇・六・二〇	貸与			・鹿島航空隊宿舎に八教室
昭一六・三・不詳	増築	木造二階建	二〇一	・教室六
昭一八・三・三一	増築	木造二階建 木造平屋建	三一五	・教室九
昭二八・八・不詳	撤去	木造平屋建	二三五	・教室八、老朽のため東側七教室、昇降口、二階一部教室撤去する。

総坪数　一、四八二坪（教室三四、その他五）

五、分校分教場の設置状況

明二七・五・一	町屋伝心寺を高等科教室にした。生徒五〇名、明治二八年八月一九日まで
明三五・二・一七	野島家庭教育場を設置、野島部落は昼間漁業に従事し不就学生徒が多いため夜間教授を行い、教場として野島染王寺があてられた児童七〇名、明治四一年三月まで実施
明四二・四・不詳	洲崎分教場を設置、教室二、児童一〇〇名、洲崎の民家がこれに当てられ、明四四年三月まで実施

六、統併合・分離・併設状況

明八・不詳	小柴学舎を統合
明二五・三・不詳	野島学校を統合
明三八・三・九	金沢実業補習学校を併設する。
昭二・不詳	金沢青年訓練所を併設する。
昭一〇・四・一	金沢青年訓練所、実業専修学校を廃し、金沢青年学校を併設
昭二三・三・三一	金沢青年学校廃止
昭二六・七・五	八景、文庫、両小学校新設のため児童一部を分離

七、学区及びその変遷

明六・五・二八	洲崎、町屋、寺前、谷津、泥亀新田の五ケ村
明八・不詳	柴村を編入
明二五・三・不詳	野島村を編入
昭二六・七・五	西柴町、片吹、谷津町、大川、泥亀町一―二五、寺前町、金沢町、柴町を分離、町屋町、洲崎町、平潟町乙舳町、野島町となる。

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	原　魯吉	明七・一二・不詳	明一三・一・不詳	不詳
	前田乙次郎	明一三・一一・不詳	明一四・四・不詳	不詳
	飯島　昇二	明一四・四・不詳	明一七・一〇・不詳	不詳
	平田　恒吉	明一八・一・不詳	明一八・一〇・二〇	不詳
一	山口寿之助	明二六・九・二〇	明二九・三・三一	不詳
二	島　房吉	明二九・三・三一	明三二・四・二七	不詳
三	大沢　喜平	明三二・四・二七	明四三・九・二九	退職
四	松平　弘	明四三・九・二九	昭二・三・三一	尋常高等青木小学校訓導より就任、退職
五	土屋　正造	昭二・三・三一	昭四・三・三一	金沢尋常高等小学校訓導より就任、退職
六	森田浪太郎	昭四・三・三一	昭一七・八・二六	橘樹郡中原尋常高等小学校長より就任、退職
七	布川　正作	昭一七・八・二六	昭二四・四・一四	金沢国民学校教頭より就任、日枝小学校長へ転任
八	原　嘉市	昭二四・四・一五		保土ケ谷小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明六	三	一八九（不詳）	不詳	―	―	―
明二二	不詳	二〇〇（不詳）	不詳	―	一〇	―
明二六	不詳	二四二（不詳）	不詳	不詳	一九	不詳

大一〇	一五	七八四（一四）	一〇六	四六	一〇〇	三二
大一三	一五	七九三（一四）	一二七	五五	一一一	四三
昭二	一六	七九九（一五）	一一二	六五	一一二	四四
昭五	一九	八〇七（一六）	一一二	七〇	一一五	四四
昭一〇	二五	一、〇一四（二一）	一二四	八九	一三三	六七
昭一五	三四	一、七六四（三〇）	一五二	一二五	二三六	一二七
昭一八	三九	二、二〇四（三三）	二九五	一四四	二七一	一一六
昭二〇	四二	一、四七八（三八）	三五二	一一九	二六三	一三二
昭二二	四七	二、四七八（四二）	二五六	｜	四一一	｜
昭二五	五六	三、一四八（六四）	四八六	｜	三〇二	｜
昭二七	三七	一、四七五（三二）	六六四	｜	二三〇	｜
昭三〇	三八	一、五八七（三三）	二八九	｜	二七三	｜

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
金沢小学校PTA	昭二三・六・一五	会員一、七〇〇名

一一、その他

昭一九・八・一四	児童疎開により、神奈川県中郡東秦野村へ児童五二五名を分散疎開さす。
昭二五・二・二三	社会科教育発表会を開き参加者市内外より多数集まる。以下各年度にわたつて、社会科、教科外、各科教育等の発表をした。
昭二八・一一・二〇	創立八十周年祝賀式を挙行する。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二四・一二・一	学校図書館	三四
昭二五・五・二〇	給食調理場	二八

横浜市立八景（はっけい）小学校

横浜市金沢区泥亀町七番地
電話金沢(7)九四一三番

一、設置状況

1　創立　昭和二六年七月五日
2　開校　昭和二六年七月五日
3　設置の際の概況

金沢区は戦後住宅地として急激に発展し、金沢小学校の児童数も増加して三千人をこえた。このため昭和二三年金沢小学校PTA町内有志の間に新設校設置の機運が起り、翌二四年金沢町称名寺境内の畑地が校地として指定されたが、同地は、文部省史蹟保存地であるので許可に至らなかつた。止むなく同年九月PTA総会に於て泥亀町七番地の日本製鋼所々有の空地が敷地として選定され、この獲得のため建設委員会が組織された。これと平行して金沢町寺前町柴町方面に於ても学校建設の声が起り仮称金沢第一小学校（本校）は泥亀町、金沢第二小学校（現在の文庫小学校）は寺前町に敷地が決定され同時に二校が設置された。

二、校名の変遷

昭二六・七・五　横浜市立八景小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二六・三・二八　横浜市金沢区泥亀町七番地　三四二五・七坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二六・七・二	新築	木造二階建	二八一	・教室七
昭二七・四・二一	増築	木造二階建	一八七	・教室六
昭二九・四・二三	増築	木造二階建	五七	・教室二
昭三〇・七・五	増築	木造二階建	一三七	・教室二

総坪数　六八一坪（教室一八、その他四）

五、学区及びその変遷

昭二六・七・五　西柴町、片吹、谷津町、大川、泥亀町一―二五、寺前町走川方面は文庫小学区であるが八景小学校に近接しているため自由学区となる。

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	新倉　繁二	昭二六・七・五	金沢小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二六	一一	三七三（九）	―	―
昭二八	二〇	七三二（一六）	一二九	一二二
昭三〇	二二	八五九（一九）	一七九	一三二

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
八景小学校ＰＴＡ	昭二六・七・二二	会員一、〇五〇名
八景小学校後援会	昭二九・五・不詳	会員五六一名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・七・二	給食調理室	二六

横浜市立文庫小学校

横浜市金沢区寺前町一九五番地
電話金沢(7)九四一四番

一、設置状況

1　創立　昭和二六年七月五日

2　開校　昭和二六年七月五日

3　設置の際の概況

金沢小学校の学区内は戦後、住宅地として急激に発展し、児童数も増加し、三千名をこえた。このためＰＴＡ、町内有志等より昭和二二年学校増設の機運が起り、仮称金沢第一小学校（現在の八景小学校）と共に本校は仮称金沢第二小学校として敷地も決まり同時に設置された。

二、校名の変遷

昭二六・七・五　横浜市立文庫小学校

学区内に北条氏創設による金沢文庫があり、これが爾来文教上つくした功績の顕著なのにちなんで、その名称を文庫小学校とした。

三、位置（校地）の変遷

昭二六・七・五　横浜市金沢区寺前町一九五番地　四、五八六坪、市有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二六・七・五	新築	木造平屋建	二六六	・教室六
昭二六・九・一五	新築	木造平屋建	一一四	・給食室
昭二六・五・二一	増築	木造平屋建	二八五	・教室八
昭二八・二・一三	増築	木造平屋建	一四九	・教室四
昭二九・三・三一	増築	木造平屋建	六〇	・教室二
昭三一・八・二〇	増築	木造平屋建	一一一	・教室二

総坪数　八八五・七坪（教室二三、その他八）

五、学区及びその変遷

昭二六・七・五　寺前町、金沢町、柴町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	山口　豊誠	昭二六・七・五	昭三一・八・三一	大島小学校副校長より就任、石川小学校長へ転任
二	志村　重正	昭三一・九・一		南吉田小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二六	一二	四八七（一〇）	一七七	一〇五
昭二七	二四	一、一二二（二三）	一六三	一七〇
昭三〇	二七	一、二〇七（二五）	二一九	二〇五

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
文庫小学校ＰＴＡ	昭二六・七・二三	会員一、五六八名

九、その他

昭二八・不詳　横浜市中央教材園連合協力園に指定

昭三〇・一一・一八　子供郵便局の成果により知事の表彰を受けた。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・九・一五	給食室	一四	
昭二九・四・二四	学校図書室	一四	蔵書数二、一一一冊

横浜市立六浦（むつうら）小学校

横浜市金沢区六浦町三五五三番地
電話金沢(7)九一三二番

一、設置状況

1　創立　明治六年五月二三日
2　開校　明治六年五月二三日
3　休校　昭和二二年五月一日
4　復活　昭和二二年一一月一五日
5　設置の際の概況

明治六年学制に従って第七中学区第七四番小学三分学舎として久良岐郡三分村字川の光伝寺内に創立した。学区は三分村の字瀬ケ崎、高谷、三艘、川、大道、六浦、瀬戸および峠村で生徒数は一五九名であった。

二、校名の変遷

明　六・　五・二三	第一大学区第七中学区第七四番小学三分学舎	
明一一・　五・二三	久良岐郡公立三分学校	
明二五・　四・二三	久良岐郡六浦荘村立三分小学校	
明二六・　四・二三	久良岐郡尋常三分小学校	
明三三・　四・　一	久良岐郡六浦荘村尋常高等三分小学校	
明三四・　四・　一	久良岐郡尋常高等三分小学校	
大一二・　四・　一	久良岐郡三分尋常高等小学校	
大一五・　二・一五	六浦荘村立六浦荘尋常小学校	釜利谷小学校と合併のため
昭一一・一〇・　一	横浜市六浦尋常高等小学校	横浜市編入による校名改称
昭一六・　四・　一	横浜市六浦国民学校	
昭二二・　五・　一	休校（校舎を六浦中学校に転用のため）	
昭二二・一一・一五	横浜市立六浦小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　六・　五・二三	久良岐郡三分村字川		光伝寺内
明一一・　五・二三	久良岐郡三分村字川	四三四坪	私有地買収移転
明三四・一二・不詳	久良岐郡六浦荘村三分字川	四六六坪	拡張のため私有地買収
明三八・　三・二九	久良岐郡六浦荘村三分字川	一三坪	相川文五郎氏寄付
明四一・　一・二四	久良岐郡六浦荘村三分	一五〇坪	拡張買収
大一一・　四・一九	久良岐郡六浦荘村三分	二四坪	拡張買収
大一五・　一・一五	久良岐郡六浦荘村三分西ヶ谷戸三五四三 三五七六番地	三、一二二坪	校舎移転のため私有地買収
昭一一・　五・二九	久良岐郡六浦荘村三分西ヶ谷戸	二三三坪拡張（借地）	
昭一四・一〇・　一	横浜市磯子区六浦町三五五三番地		横浜市編入による町名変更

総坪数　三、三五五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　六・　五・二三	借用	木造平屋建	五一	・光伝寺本殿一棟借用
明一一・　五・二三	新築	木造二階建	五三	・教室六、その他二
明二七・　三・不詳	改修	木造二階建		・教室四、その他二
明三五・　一・　七	増築	木造平屋建	六六	・教室二、その他二
明四一・　九・　五	改築	木造二階建	七四	・教室六、その他三
大　二・　五・二三	増築	木造平屋建	一五	・手工室
大一二・　九・　一	罹災			・関東大震災により全潰、学区内寺院、青年会場等四ヶ所で授業
大一三・　一・二八	修理	木造二階建	八二	・教室五、倒壊校舎一棟を修理
大一五・　五・不詳	新築	木造平屋建	九〇	・釜利谷分教場として新築教室三、（昭和一九年四月一日釜利谷小学校として独立）
大一五・　八・二四	新築	木造平屋建 木造二階建	三三三	・教室一四、その他四
大一五・一一・二二	増築	木造平屋建	一三五	・講堂、図画室
昭一一・　五・二九	増築	木造平建屋	一一五	・教室四
昭二三・　五・　一	転用			・六浦中学校として昭二二年一一月二五日まで。児童は大道小学校へ統合、本校は休校
昭二三・一一・二五	復帰			
昭二九・　七・一二	新築	木造二階建	六六	・教室三、瀬ヶ崎分校として建築（三〇年三月三一日瀬ヶ崎小学校として独立）

総坪数　一、〇三〇坪（教室二五、その他六）

五、分校・分教場の設置廃止状況

大一五・　五・　一　六浦荘村釜利谷に釜利谷分教場を設立校舎九〇坪、教室三、児童二二一名で発足、昭一九・四・一釜利谷小

	学校として独立により廃止
昭二九・七・一二	瀬ヶ崎分校を金沢区六浦町五九一番地に設立、校舎六六坪、教室三、児童二三九名をもって発足翌三〇年三月三一日瀬ヶ崎小学校として独立により廃止

六、統併合・分離・併設状況

明二五・四・一	補習科（二ヶ年制）を併設、明治三五年廃止
明三九・三・三一	実業補習学校を併設
大一五・六・三〇	六浦荘村立青年訓練所併設
昭一〇・七・一	六浦荘村立青年訓練所を廃止し六浦荘村立青年学校を併設
昭一九・四・一	釜利谷・大道両小学校の独立により児童の一部を分離
昭二二・五・一	本校々舎は中学校に転用されることになり、大道小学校へ児童を併合本校は休校となつた。
昭二三・一一・二五	中学校移転のため休校を復活し児童を大道小学校より分離
昭三〇・四・一	瀬ヶ崎小学校独立のため児童の一部を分離

七、学区及びその変遷

明六・五・二三	久良岐郡三分村の内、瀬ヶ崎、高谷、三艘、大道、六浦、瀬戸、峠村
明二〇・四・一	三分村字室ノ木を編入
大一五・二・一五	六浦荘村大字釜利谷の全域を編入
昭一一・一〇・一	六浦町、釜利谷町、朝比奈町、（横浜市編入により町名改称）
昭一九・四・一	六浦町八〇九―三五五〇番、三八六二―三九〇五番、朝比奈町を大道国民学校へ分離、釜利谷町を釜利谷国民学校へ分離
昭三〇・四・一	六浦町一五―八〇八、四八三一―四八四五番地を瀬ヶ崎小学校へ分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	佐藤　忠蔵	明六・五・二三	明一四・九・二八	退職
	前田乙次郎	明一四・九・二八	明一五・九・二九	退職
	多田峰次郎	明一五・九・二九	明一六・一一・一七	退職
	吉田　平三	明一六・一一・一五	明一九・一・九	降任
	平田　恒吉	明一九・一・九	明二六・四・一七	横須賀小学校長より就任（以上主任教員）
一	平田　恒吉	明二六・四・一七	大四・六・八	本校訓導より就任、死亡退職
二	長野　宏	大四・九・三	大六・四・六	都筑郡尋常高等新田小学校長より就任、津久井郡視学へ転任
三	三橋　藤蔵	大六・六・二九	大九・三・三一	足柄下郡千代小学校訓導より就任、足柄下郡小田原第一小学校長へ転任
四	古平　敬爾	大九・三・三一	大九・六・三〇	本校訓導より就任、久良岐郡視学へ転任
五	内田　孝平	大九・七・一九	大一二・三・三一	久良岐郡釜利谷小学校長より就任、退職
六	遠藤安太郎	大一二・三・三一	大一五・三・三一	鎌倉郡尋常高等正修小学校訓導兼神奈川県師範学校訓導より就任・足柄上郡中村尋常高等小学校長へ転任
七	小泉　金助	大一五・四・八	昭二一・三・三一	本校訓導より就任、退職
八	柳下　荘一	昭二一・一〇・一二	昭二三・四・三〇	山元国民学校長より就任、釜利谷小学校長へ転任
	松本　源治	昭二三・五・一	昭二三・一一・一五	休校中大道小学校長の校長事務取扱（兼任）となる
九	杉山　高蔵	昭二三・一一・一八	昭三〇・五・三一	大道小学校教頭より就任、富岡小学校長へ転任
一〇	須田　栄吉	昭三〇・六・一		港北小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者		
			尋常科	高等科	尋常科	高等科	
明六	四	一五九（不詳）	一五九	―	不詳	―	
明一八	四	一五九（不詳）	不詳	―	七	―	
明四一	七	四〇六（七）	不詳	―	三九	一四	
大一五	二〇	八〇六（一八）	一〇三	六八	一〇四	六一	釜利谷小学校を統合

昭二	二〇	八三〇（一八）	一〇五	八四	七五	六八	
昭五	二〇	八六六（一八）	一四一	八三	九九	六七	
昭一〇	二四	九九七（二二）	一二六	九〇	一四九	六九	
昭一一	二五	一、〇五三（二二）	一五八	一〇三	一四六	八二	横浜市編入
昭一五	二七	一、三六〇（二五）	一九一	一一五	一八六	九〇	
昭一八	三五	一、九四六（三〇）	三二九	一二八	二四三	一〇七	
昭一九	二三	一、〇〇三（一九）	一〇一	一六〇	一〇三	一〇三	釜利谷、大道両国民学校の独立
昭二二	二四	一、〇七四（二〇）	二二〇	—	一七一	—	
昭二五	三〇	一、三四八（二六）	二四四	—	一五三	—	
昭二九	三七	一、六二六（三二）	四〇七	—	二五五	—	
昭三〇	二九	一、一五三（二五）	一九二	—	一三二	—	瀬ケ崎小学校独立

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
六浦小学校父母と先生の会	昭二三・三・五	会員約一、二〇〇名、PTA発足により解消
六浦小学校PTA	昭二八・三・五	会員一、四〇〇名

一一、その他

明四二・二・一一	学校の成績優良なので神奈川県知事より奨励旗を授与された。
大一五・一一・一五	久良岐郡児童競技大会に尋常科高等科共に優勝額を受けた。
昭二〇・四・二六	児童疎開により中郡北秦野村国民学校をはじめ四ケ所に合宿教職員一四名、児童一九八名が疎開、高等科生徒は全員勤労動員されたが同年一〇・二〇全員復校す。
昭二六・九・二九	全国唱歌コンクールの横浜コンクール、神奈川県コンクールに優秀校として入賞
昭二七・二・五	学校給食優良につき神奈川県教育委員会より表彰された。
昭二七・五・五	関東地方ローマ字教育研究大会を本校において開催
昭二八・三・三一	食品衛生法の趣旨により優良校として横浜市長より表彰された。
昭二九・五・二〇	視聴覚教材の利用ついての研究を横浜市教育委員会より指定をうけた
昭三〇・一〇・二九	視聴覚教材利用の研究発表会を開催

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
大一五・二・一五	貯水池	一五	
昭二五・八・三一	給食施設	二〇	
昭二七・九・一	学校図書室	一六	蔵書数三、四五〇冊
昭三〇・五・一	映写教室	一八	
昭三〇・七・一	放送室	三	

横浜市立釜利谷小学校

横浜市金沢区釜利谷町八七七番地
電話金沢(7)九三二三番

一設状・廃止置況

1 創立 明治六年五月二六日
2 開校 明治六年五月二六日
3 廃校 大正一五年二月一五日 六浦荘村六浦荘尋常高等小学校と併合
4 復活 昭和一九年四月一日
5 設置の際の概況

明治六年五月二六日学制に基き、地元有志が相はかつて校舎を満蔵院に仮設し、児童七〇名をもつて第七中学区、第七二番赤井学舎として創立した。大正一五年二月一五日に至り三分小学校と併合し六浦荘尋常高等小学校の分教場となり、昭和一九年四月一日六

浦国民学校より独立し、再び釜利谷国民学校として発足するに至った。

二、校名の変遷

明　六・　五・二六	第七中学区第七二番赤井学舎
明　七・　三・　五	第七中学区第七二番小学釜利谷学校
明二五・　六・　五	六浦荘村立尋常釜利谷小学校
大一五・　二・一五	六浦荘村立六浦荘尋常高等小学校分校　三分、釜利谷両小学校併合し、その分校となった。
昭一九・　四・　一	横浜市立釜利谷国民学校
昭二二・　四・　一	横浜市立釜利谷小学校

三、位置（校地）の変遷

明　六・　五・二六	久良岐郡六浦荘村釜利谷三、九四二番地　私有地借用、満蔵院に仮設
明一一・　九・　二	久良岐郡六浦荘村字地前田七四二番地に移転
明二三・不　詳	右同番地で運動場拡張
明四三・　三・一〇	右同番地　一二〇坪　私有地は借用
昭　四・不　詳	久良岐郡六浦荘村（現在御仲井の公園跡）六浦荘尋常高等小学校分校として校舎移転
昭一九・　四・　一	横浜市磯子区釜利谷町八七七番地　坪数不詳　分校独立のため新築移転
昭二三・不　詳	横浜市金沢区釜利谷町八七七番地　坪数不詳　運動場拡張

総坪数　三、九二三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　六・　五・二六	借　用	木造平屋建	不詳	・村内満蔵院を借用
明一一・　九・　二	新　築	木造平屋建	不詳	・教室二
明四一・　四・　一	借　用	木造平屋建	不詳	・満蔵院に分教場設置
明四三・　三・一〇	借　用	木造平屋建	不詳	・金蔵院に分教場設置
明四四・　七・　六	増　築	木造平屋建	不詳	・教室四
大一二・　九・　一	罹　災	木造平屋建		・関東大震災のため全校舎倒壊、学区内寺院民家等五ヶ所に分散授業
昭　四・不　詳	新　築	木造平屋建	不詳	・六浦荘尋常高等小学校分校として新築
昭一九・　四・　一	新　築	木造平屋建	一一一	・校地移転、教室六
昭二四・　七・一八	増　築	木造平屋建	一五九	・教室六
昭二六・　四・一〇	増　築	木造二階建	一三五	・教室四
昭二六・一〇・二〇	増　築	木造平屋建	六	・校長室
昭三一・　三・　六	増　築	木造二階建	六九	・教室二

総坪数　五九八・八坪（教室一八、その他一〇）

五、分校・分教場の設置廃止状況

明四一・　四・　一	六浦荘村立尋常釜利谷小学校分教場を満蔵院に設置
明四三・　三・一〇	六浦荘村立尋常釜利谷小学校分教場を金蔵院に設置
明四四・　七・　六	前二分教場を廃止

六、統併合・分離・併設状況

明二五・　六・　五	補習科釜利谷夜学会を併設
大　三・　一・不詳	実業補習学校を併設
大一五・　二・一五	三分釜利谷両校が併合して六浦荘尋常高等小学校となる。
昭一九・　四・　一	六浦国民学校より独立し釜利谷国民学校となる。

七、学区及びその変遷

明　六・　五・二六	不詳だが現在と同じであつたと思われる。
昭一九・　四・　一	釜利谷町

八、歴代校長

代　氏名	就任年月日	転・退職年月日
天野　恵乗	明一六・　三・二四	明一七・　九・二二

	飯島　昇三	明一七・九・二二	明三三・二・一二	（以上首座教員）
一	飯島　昇三	明三三・二・一三	大五・三・三一	本校首座教員より就任、退職
二	伊谷　生三	大五・三・三一	大七・三・三一	足柄下郡大窪小学校長へ転任
三	内田　幸平	大七・三・三一	大九・七・二二	三分小学校より就任、三分小学校長へ転任
四	小泉　金助	大九・七・二三	大一五・二・一五	三分小学校より就任、六浦荘尋常高等小学校長へ転任
五	高橋　明三	昭一九・五・一八	昭二二・四・三〇	中川尋常高等小学校長より就任、日下小学校長へ転任
六	柳下　荘一	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一五	六浦国民学校長より就任、退職
七	丸山　四郎	昭二四・四・一五	昭二七・四・三〇	北方小学校教頭より就任、岩崎小学校長へ転任
八	室田　哲	昭二七・五・一	昭三〇・五・三一	三ッ沢小学校長より就任、退職
九	三橋　利男	昭三〇・六・一		本校副校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明六	二	七〇（不詳）	七〇	二
明一五	三	七一（不詳）	不詳	二一
明二二	三	六六（不詳）	不詳	不詳
明三〇	三	一二〇（不詳）	不詳	二〇
明三五	三	一二六（不詳）	不詳	三〇
明四〇	四	一四四（不詳）	不詳	三〇
大二	七	一九三（不詳）	不詳	不詳
昭一九	八	不詳（八）	不詳	不詳
昭二二	一五	三二二（一二）	八七	八〇
昭二五	一八	七一一（一六）	一三五	一一二
昭二八	二一	八三四（一七）	一四五	一三一
昭三〇	二六	一、〇二四（二一）	二一七	一五四

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
釜利谷小学校後援会	昭一九・四・一	PTA発足とともに解消
釜利谷小学校父母と先生の会	昭二四・四・一	会員七一四名
釜利谷小学校講堂建設促進委員会	昭三一・一・三〇	

一一、その他

昭二〇・五・五	児童疎開により、学区内正法院満蔵院、金蔵院に分散し授業を行う。（昭和二〇年九月六日まで）
昭二二・一二・二三	横浜市会議長、市長より、街の清掃に協力した功績により感謝状を受けた。
昭二三・三・一九	神奈川県知事より学校給食優良校として表彰状を受けた。
昭二六・七・七	神奈川県教育委員会及び神奈川県歯科医師会神奈川新聞社より良い歯の優良校として表彰された。
昭二八・九・一	日本放送協会より、学校放送に協力したことにより感謝状を受けた。
昭二九・三・不詳	日赤神奈川県支部長より、学習と実践に努力したことを持つて表彰状を受けた。
昭二九・一一・不詳	横浜市長及び市衛生局より夏季休暇中部落清掃に尽力した功績により表彰状を受けた。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・一・不詳	温室	一	
昭三一・七・一八	プール		二五米×七米×一米

横浜市立大道（だいどう）小学校

横浜市金沢区六浦町二四五五番地
電話金沢(7)九二三七番

一、設置状況

1 創立　昭和一九年四月一日
2 開校　昭和一九年四月一日
3 設置の際の概況

横浜市六浦国民学校は、学区内の戸数及び児童数の急激な増加により収容不可能となり、一校増設が必要とされ、六浦町二四五五番地に横浜市大道国民学校の創立を見るにいたつた。校舎は桜岡青年学校の一部及び愛憐小学校を解体移築されたが開校当時は未完成のため六浦国民学校を借用して開校した。

二、校名の変遷

昭一九・四・一　横浜市大道国民学校
昭二二・四・一　横浜市立大道小学校

三、位置（校地）の変遷

昭一九・四・一　横浜市磯子区六浦町二四五五番地
昭二三・五・一五　横浜市金沢区六浦町二四五五番地　金沢区制施行のため
総坪数　三、九〇二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一九・四・一	移築	木造平屋建	二一四	・教室一〇
昭二一・六・三	借用	木造二階建	二一九	・教室一四、旧海軍工員寮を財務局より借用、昭和二六年六月二五日まで
昭二二・五・一	借用	木造二階建	一〇三	・教室一二、六浦中学校より借用、昭和二二年一一月二五日まで
昭二四・三・一六	増築	木造二階建	一一五	・教室六、旧海軍航空廠の建物を移築
昭二四・八・一六	増築	木造平屋建	二四	・校長室、その他
昭二五・五・三〇	増築	木造二階建	二七	・教室二
昭二六・二・二〇	増築	木造二階建	一二七	・教室八
昭二六・一一・二六	新築	木造平屋建	一九	・給食室
昭二七・四・三	増築	木造二階建	三〇	・教室四
昭三〇・二・二五	増築	木造二階建	五九	・教室四
昭三一・三・一九	撤去	木造平屋建	七七	・教室四

総坪数　九五四坪（教室二八、その他七）

五、分校・分教場の設置廃止状況

昭二二・五・一　横浜市立大道小学校六浦分教場を横浜市金沢区六浦町三五四三番地に設置、但し当時六浦中学校校舎を借用
教室一二、児童七八七名
昭二二・一一・二五　六浦小学校復活により廃止

六、統併合・分離状況

昭二二・五・一　横浜市立六浦小学校休校となりこれを統合
昭二二・一一・二五　横浜市立六浦小学校開校にともない分離する。教職員二五名、児童一一八三名

七、学区及びその変遷

昭一九・四・一　六浦町八〇九―三五五〇、三八六二―三九〇五、朝比奈町全部
昭二二・五・一　六浦町、朝比奈町（六浦小学校統合のため）

昭二二・一一・二五　六浦小学校分離のため創立当時の学区となる

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	松本　源治	昭一九・三・三一	昭二四・四・一五	六浦国民学校訓導より就任、退職
二	長谷川利一	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	日枝小学校長より就任、桜岡小学校長へ転任
三	塚本　英時	昭三一・九・一		桜岡小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭一九	一二	六八一（一二）	一二六	一一一
昭二〇	一二	四三三（一二）	一〇一	一二四
昭二二	二〇	一、一七三（三一）	二七五	一九三
昭二三	三四	一、二六六（二九）	二七六	一八七
昭二五	三六	一、四九六（三三）	三三三	一五一
昭三〇	四三	一、九二〇（三八）	三四六	三二四

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大道小学校後援会	昭一九・四・八	昭和二三年四月二五日解散、会員五八四名
大道小学校母の会	昭二一・一二・四	会員五二三名
大道小学校ＰＴＡ	昭二三・四・二五	会員二、一二五名

一一、その他

昭二〇・六・八　児童疎開により神奈川県足柄上郡上中村篠窪地、福寺寮、赤田青年会館、篠窪、赤田へ教職員一二、児童二一六名が疎開、同一〇月一五日全員帰校

昭二六・七・七　第二回よい歯のコンクールで最優良校として県教育委員会より表彰された。

昭二八・三・三一　食品衛生優良校として市長より表彰された。

昭三一・三・三一　体育科経営優良のため県体育研究会より表彰された。

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・六・一	図書室	二〇	蔵書数一、五三三冊
昭二六・一一・二六	給食調理場	一九	

横浜市立瀬（せ）ケ（が）崎（さき）小学校

横浜市金沢区六浦町五九一番地
電話金沢(7)九五九四番

一、設置状況

1　創立　昭和三〇年四月一日

2　開校　昭和三〇年四月一日

3　設置の際の概況

昭和二七年六浦小学校学区の瀬ヶ崎内川、高谷の地元の有志及ＰＴＡは児童を交通禍より守るため分校設立促進委員会を組織し、分校建設陳情を行つた。昭和二八年三教室の建設が決定され、昭和二九年七月一二日六浦小学校瀬ヶ崎分校が設置されたが、昭和三〇年四月一日に至り瀬ヶ崎小学校として独立発足した。

二、校名の変遷

昭三〇・四・一　横浜市立瀬ヶ崎小学校

三、位置（校地）の変遷

昭三〇・四・一　横浜市金沢区六浦町五九一番地　五、二四二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二九・六・三〇	新築	木造平屋建	一二二	・教室三
昭三〇・四・二五	増築	木造平屋建	一七五	・教室六
昭三一・四・三〇	増築	木造平屋建	二一〇・八	・教室七

総坪数　五〇二坪（教室一四、その他二）

五、学区及びその変遷

昭三〇・四・一　金沢区六浦町のうち室の木、瀬ケ崎、内川、高谷

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	北方恒一	昭三〇・四・一	蒔田小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭三〇	一八	七四三（一七）	一三三	一二五

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
瀬ケ崎小学校建設促進委員会	昭三〇・四・一	会員一、二〇二名
瀬ケ崎小学校ＰＴＡ	昭三〇・五・二四	会員一、四七九名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三一・四・一	学校図書室	一八・二	蔵書数五二三冊
昭三一・四・三〇	給食室	二五	

横浜市立城郷小学校

横浜市港北区鳥山町八一四番地
電話　小机　四二番

一、設置状況

1 創立　明治三三年六月二六日
2 開校　明治三三年六月二六日
3 設置の際の概況

本校は明治三三年六月二六日城郷村（小机、鳥山、岸根、六角橋、片倉、神大寺、三枚、菅田、羽沢）を学区とし村立高等城郷小学校として創立した。当時城郷村には本校のほか小机、岸根、菅田、神橋、の四尋常小学校が存在していたが、大正九年一一月三〇日四校とも本校に統合された。

附記○旧小机小学校の沿革……明治九年六月一日小机学校として創立、校地は小机九六六番地二四五坪、通学区域は小机一円、大正九年一一月三〇日城郷小学校に統合

○旧菅田小学校の沿革……明治九年五月二五日菅田学校として創立、校地は下菅田一六七七番地一四六坪、通学区域は下菅田、羽沢、三枚橋、片倉、大正九年一一月三〇日城郷小学校に統合

○旧岸根小学校の沿革……明治九年一一月三日岸根学校として創立、校地は岸根三九二番地一七四坪、通学区域は鳥山、岸根、神大寺、六角橋、大正九年一一月三〇日城郷小学校に統合

○旧神橋小学校の沿革……現神橋小学校の項を参照

二、校名の変遷

明三三・六・二六　橘樹郡村立高等城郷小学校
明四一・四・一　橘樹郡村立尋常高等城郷小学校

大一二・四・一	橘樹郡村立城郷尋常高等小学校	
昭　二・四・一	横浜市城郷尋常高等小学校	横浜市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市立城郷国民学校	
昭二一・四・一	神奈川県師範学校女子部代用附属横浜市立城郷国民学校	
昭二二・四・一	神奈川県師範学校女子部代用附属横浜市立城郷小学校	
昭二五・四・一	横浜国立大学学芸学部代用附属横浜市立城郷小学校	学制改革により校名改称

三、位置（校地）の変遷

明三三・六・二六	橘樹郡城郷村鳥山二一七番地	六四二坪	
大一一・一〇・三〇	橘樹郡城郷村鳥山八一四番地	二、八〇四坪	
昭　二・四・一	横浜市神奈川区鳥山町八一四番地		横浜市編入により町名改称
昭一四・四・一	横浜市港北区鳥山町八一四番地		港北区新設により編入

総坪数　二、八〇四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三三・六・二六	新築	木造平屋建	八〇	・教室四
明四一・四・一	増築	木造平屋建	一六	・教室一
大一一・一〇・三〇	改築	木造平屋建	五一二	・教室一八
昭　三・七・不詳	増築	木造平屋建	一七六	・教室三、講堂
昭三〇・四・三〇	改築	木造二階建	一二六	・教室四

総坪数　八一二坪（教室一七その他五）

五、分校・分教場の設置廃止状況

大　九・一一・三〇	神橋分教場を六角橋宮前八七〇番地に設置、菅田仮教室を下菅田に設置、校舎六六坪
昭　二・四・一	神橋分教場は神橋尋常小学校として独立、菅田仮教室は池上尋常小学校として独立

六、統併合・分離・併設状況

大　九・一一・三〇	菅田、小机、岸根、神橋の四尋常小学校を統合
大一〇・一・不詳	城郷尋常高等小学校附設実業補習学校併設
大一五・七・一	城郷青年訓練所併設
昭　二・四・一	横浜市立城郷青年訓練所、（横浜市編入により改称）
昭一〇・七・一	横浜市立青年訓練所を廃止して、横浜市立青年学校併設
昭二三・三・三一	横浜市立青年学校を廃止

七、学区及びその変遷

明三三・六・二六	六角橋、小机、鳥山、岸根、片倉、神大寺、三枚、菅田、羽沢
昭　二・四・一	鳥山町、小机町、岸根町、下三枚町（尋常科のみ）神橋分教場、菅田の仮教場が独立、学区変更となる。高等科は従来通り
昭二二・五・一	高等科廃止により前記の尋常科のみの学区となる。

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	小泉美弥次	明三三・一〇・一	明三八・四・二二	橘樹郡生見尾小学校長へ転任。
二	服部　兼吉	明三八・八・二二	明四一・二・一八	退職
三	吉浜　成三	明四一・四・三〇	明四四・八・二六	神奈川県女子師範学校長へ転任
四	堤　平蔵	明四四・九・一	大　九・三・三一	橘樹郡尋常玉川小学校長へ転任
五	久保田順作	大　九・三・三一	大一一・三・三一	県視学より就任、第一町田小学校長へ転任
六	森田浪太郎	大一一・三・三一	大一三・四・三〇	県立工業学校へ転任
七	小川　真次	大一三・四・三〇	昭　二・三・三一	高座郡旭尋常小学校長へ転任
八	吉山　金松	昭　二・三・三一	昭　七・四・一九	退職
九	斎藤　惟一	昭　七・四・一九	昭一八・八・二一	横浜市授産所長より就任、退職
一〇	高松良太郎	昭一八・八・二五	昭二一・二・二〇	田奈小学校長より就任、退職

一一	八島　長寿	昭二一・二・二〇	昭二二・四・三〇	附属小学校より就任神奈川県女子師範附属小学校主事へ転任
一二	小林　鶴蔵	昭二二・四・三〇	昭二三・二・二一	本校訓導より昇任、神奈川県視学へ転任
一三	村杉　武夫	昭二三・三・三一	昭二四・一・一五	田奈小学校より就任神奈川県教育委員会教職員課勤務へ転任
一四	柿沢八代吉	昭二四・一・一五	昭二七・四・三〇	長津田小学校長より就任、中山小学校長へ転任
一五	伊沢新一郎	昭二七・五・一	昭三〇・二・一	上瀬谷小学校長より就任、本町小学校長へ転任
一六	横溝　清七	昭三〇・二・二		山下小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明四一	四	一九四（四）	六三	四五	六〇	二六
大一〇	一八	九一六（一七）	七一八	七一	九〇	三七
大一三	二一	一、〇一五（一七）	一三四	七七	一一一	六七
昭二	二三	一、一四四（二二）	一九五	九五	一二九	七一
昭五	一五	三二六（一二）	九三	八六	六一	七〇
昭一〇	一九	七一五（一五）	八五	一〇一	六三	一〇〇
昭一五	一九	七三六（一六）	八二	一〇一	八六	九五
昭一八	一八	八二六（一六）	一〇六	一一九	八七	九七
昭二〇	二一	九三九（一八）	一〇七	九三	一〇三	九三
昭二五	二一	七七七（一七）	一四三	—	九九	—
昭三〇	二一	八三八（一八）	一三七	—	一四二	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
城郷小学校父母と先生の会	昭二三・五・一	会員七八七名
城郷小学校校舎改築委員会	昭二九・九・六	会員九六六名

横浜市立大綱（おおつな）小学校

横浜市港北区太尾町一一〇番地
電話　綱島　六〇〇番

一、設置状況

1　創立　明治三三年四月一日
2　開校　明治三三年四月一日
3　設置の際の概況

創立当時は橘樹郡大綱村には小学校は大綱第一（篠原）大綱第二（大曽根）大綱第三（綱島）の三校があったが高等小学校はなく、隣接村の新田の高等小学校まで、鶴見川をこえて通学する状況で大変不便であった。そこで当時大綱村長の椎橋宗輔氏が中心となって高等小学校の設置をすすめ、明治三三年四月一日大綱村役場を仮校舎として、橘樹郡高等大綱小学校として創立した。

二、校名の変遷

明三三・四・一	橘樹郡高等大綱小学校	
大　五・五・一	橘樹郡尋常高等大綱小学校	
昭　二・四・一	横浜市立大綱尋常高等小学校	横浜市編入による校名改称
昭一六・四・一	横浜市大綱国民学校	

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・七・一五	給食調理室	一八
昭二八・九・不詳	図書室	二〇

昭二二・四・一　横浜市立大綱小学校

三、位置（校地）の変遷

明三三・四・一	橘樹郡大綱村太尾五番地	前川繁造氏宅を仮校舎とする
明三四・七・一六	橘樹郡大綱村大豆戸三九番地	五四〇坪に移転
大一二・五・一	橘樹郡大綱村太尾一一〇番地	一八七一坪に移転
昭二七・一二・一	七五七坪を拡張	

総坪数　二、六二八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三三・四・一	借用	木造平屋建	不詳	・前川繁造氏宅を仮校舎として使用
明三四・七・一六	新築	木造平屋建	不詳	・教室三、校地移転
大一二・五・一	新築	木造平屋建	不詳	・教室七、校地移転
大一二・九・一	罹災			・関東大震災により大部分倒壊する
大一三・四・一	改築	木造平屋建	不詳	・教室一六
昭　三・四・一	増築	木造二階建	不詳	・教室四
昭二〇・五・二五	罹災			・戦災により二教室農具舎を残し焼失
昭二三・三・三	新築	木造平屋建	三九四	・教室一八
昭二六・五・一一	罹災	木造平屋建	八一	・物置より発火して職員室、物置等焼失
昭二七・五・一六	改築	木造二階建	六六	・教室四
昭二八・三・二	改築	木造二階建	一〇一	・教室六
昭二九・五・二二	増築	木造二階建	一一八	・教室六、その他二
昭三〇・三・二四	増築	木造二階建	二四	・教室一、その他二
昭三一・四・四	増築	木造二階建	六九	・教室四・

総坪数　七八三坪（教室二一その他四）

五、分校・分教場の設置廃止状況

大　五・五・一　綱島分教場（旧大綱第三小学校）を港北区南綱島町六二一番地に設置、教室二、児童一八五名

大　五・五・一　大曽根分教場（旧大綱第二小学校）を港北区大曽根町七一四番地に設置、校舎坪数一〇〇、教室五、児童二〇〇名

大一二・九・不詳　大曽根分教場は震災により倒潰し廃止

大一三・四・一　篠原分教場（旧大綱第一小学校）を港北区篠原町二五〇四番地に設置、教室六、児童三七九名

昭一一・六・一八　篠原分教場は白幡小学校創立により廃止

昭二〇・五・二五　綱島第二分教場を南綱島町一一三九東京園に、大豆戸分教場を大豆戸町陸軍バラック兵舎に、菊名分教場を菊名町菊名幼稚園に設置

昭二〇・一二・二三　師岡分教場を、港北区師岡町に設置、校舎坪数六〇、教室三、児童三二九名

昭二三・三・三　綱島第二、大豆戸、菊名、各分教場廃止（本校々舎復旧のため）

昭二五・一〇・一七　綱島第二分教場を港北区南綱島町一八一番地に設置、校舎坪数一五九坪教室三、児童三三一名

昭二六・三・三一　綱島第二分教場、綱島小学校創立に伴い廃止

昭二七・五・一七　師岡分教場廃止（本校々舎復旧のため）

六、統併合・分離・併設状況

大　五・五・一　大綱第二、第三小学校を統合

大　五・五・一　実業補習学校を併設

大　八・九・一　女子実業補習学校を併設

大一三・四・一　大綱第一小学校を統合

大一五・七・一　青年訓練所を併設

昭一〇・九・三〇　青年訓練所を廃止

昭一〇・一〇・一　実業補習学校を大綱青年学校に改称

昭二三・三・三一　青年学校を廃止

七、学区及びその変遷

明三三・四・一	大綱村全域（篠原、菊名、大豆戸、太尾、大曽根、樽、北綱島、南綱島）
明四四・四・一	白幡を編入
昭　三・四・一	師岡町を編入、白幡を分離、篠原町の一部が神橋小学校へ分離
昭一一・六・二五	篠原町、菊名町の各一部を白幡小学校へ分離
昭二四・七・一九	篠原町、菊名町の各一部を港北小学校へ分離
昭二六・四・一	南綱島町、北綱島町を綱島小学校へ分離
昭二六・九・一	篠原町、菊名町の残部、大豆戸町の大部分を菊名小学校へ分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	近藤　正治	明三三・四・一	不　詳	
二	小田倉謙太郎	不　詳	不　詳	
三	石井政五郎	明四二・一〇・四	大一五・六・八	退職
四	霧生鶴太郎	大一五・六・三〇	昭　三・三・三一	高座郡旭尋常高等小学校長へ転任
五	鈴木　勝	昭　三・四・七	昭　三・九・一九	退職
六	矢部清一郎	昭　三・九・一九	昭　八・八・一四	三ッ沢小学校長へ転任
七	横山　恒徳	昭　八・八・一四	昭一三・八・一五	退職
八	竹内喜代次郎	昭一三・八・一五	昭二一・二・二〇	大岡小学校首席訓導より就任、退職
九	小永井直治	昭二一・二・二〇	昭三〇・五・三一	旭小学校長より就任、退職
一〇	島村志計雄	昭三〇・六・一		市場小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明三三	不詳	不　詳（不詳）	不　詳		不　詳	

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
大一〇	一〇	五〇四　（九）	不　詳		不　詳	
大一三	一七	八五一（一五）	不　詳		不　詳	
昭　二	二一	八七三（一九）	不　詳		不　詳	
昭　五	二四	九九三（二〇）	不　詳		不　詳	
昭一〇	二二	一、一四七（二〇）	不　詳		不　詳	
昭一五	二五	一、二八八（二二）	不　詳		不　詳	
昭一八	二七	一、四五三（二四）	不　詳		一九四	九五
昭二〇	三五	一、一一七（二四）	二七三	九八	三二八	九七
昭二二	三七	二、〇六八（三六）	四一一	―	三三五	―
昭二四	四五	二、一五一（四一）	四四九	―	三二八	―
昭二六	五三	二、二五五（四六）	四三七	―	二五四	―
昭三〇	二八	一、一八七（二四）	二四四	―	一八一	―

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大綱小学校教育後援会	不　詳	昭和二三年解散
大綱小学校ＰＴＡ	昭二三・一〇・不詳	会員八六八名
大綱小学校復興建設助成会	昭二七・一・不詳	戦災校舎の復興及び校地拡張のため、昭和二八年一二月一〇日解散

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・三・一〇	給食調理室	一三	
昭二七・一一・三	大綱こども図書室	一八	蔵書数一、七〇〇冊

横浜市立綱島小学校

横浜市港北区南綱島町一八一番地
電話　綱島五番

一、設置状況

1　創立　昭和二六年四月一日
2　開校　昭和二六年四月一日
3　設置の際の概況

昭和二五年一〇月大綱小学校の綱島第二分教場として設置されたのが、昭和二六年四月一日綱島小学校として分離独立し、児童約七六八名をもつて開校した。

二、校名の変遷

昭二六・四・一　横浜市立綱島小学校

三、位置（校地の変遷）

昭二六・四・一　港北区南綱島町一八一番地　四八四九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二五・一〇・一五	新築	木造二階建	一六一	・教室三
昭二六・六・一六	新築	木造二階建	二七七	・教室九
昭二八・二・一三	増築	木造二階建	一四四	・教室四
昭三〇・四・一六	増築	木造二階建	五二	・教室二

総坪数　六三五坪（教室一七、その他七）

五、分校の設置廃止状況

昭二六・四・一　綱島分校を南綱島町六二一番地に設置、校舎坪数六四坪、教室二、児童一八一名
昭三〇・三・三一　綱島分校廃止

六、学区及びその変遷

昭二六・四・一　港北区南綱島町北綱島町、綱島町全部、樽町の内一八八八番地

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	飯田　忠三	昭二六・四・一	昭二九・四・三〇	大綱小学校副校長より就任、都田小学校長へ転任
二	稲毛　大蔵	昭二九・五・一		長津田小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二六	一九	七六八（一七）	一三九	一〇五
昭三〇	二三	八八八（一九）	一六〇	一二五

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
綱島小学校建設会	昭二四・一一・三	綱島小学校建設助成のため、会員七一〇名、昭和三〇年八月一〇日解散
綱島小学校父母と先生の会	昭二六・五・一二	会員六七八名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三一・九・三〇	講堂兼体育館	一三〇	総工費五二〇万円

横浜市立日吉台小学校

横浜市港北区日吉本町一八〇七番地
電話　日吉　二〇四二番

一、設置状況

1　創立　明治六年六月二四日
2　開校　明治六年六月二四日
3　設置の際の概況

学制以前には村田駒林金蔵寺において駒林、矢上、駒ヶ橋の三部落を一区域として清林学舎と称し、寺小屋教育を施していた。明治六年六月二四日学制に従い駒林学舎と称し金蔵寺の一部を借り開校した。

二、校名の変遷

明　六・六・二四	駒林学舎	
明　八・四・一	駒林学校	
明二五・一〇・一	尋常駒林小学校	小学校令の改正により校名改称
大一二・四・一	駒林尋常小学校	
昭　七・四・一	日吉台尋常小学校	地名の変更により校名改称
昭一二・四・一	横浜市日吉台尋常高等小学校	日吉村と分村横浜市に編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市日吉台国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立日吉台小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　六・六・二四	橘樹郡日吉村駒林字村田金蔵寺内
明一一・六・不詳	橘樹郡日吉村駒林字堂中二一〇五番地
明四二・四・一	橘樹郡日吉村駒林字北原一八〇七番地
昭　七・四・一	校地拡張し二六三八坪となる
昭一四・四・一	横浜市編入により港北区日吉本町一八〇七番地となる
昭一五・九・三〇	港北区日吉本町一八〇七番地二二六九坪に縮少

総坪数　二、二六九坪

四、校舎の変遷

年　月　日	変遷類別	構　造	建坪	備　考
明　六・六・二四	借　用	木造平屋建	三〇	・金蔵寺
明一三・六・不詳	新　築	木造平屋建	不詳	・教室三
明四二・四・不詳	新　築	木造平屋建	不詳	・教室五
昭一五・九・三〇	新　築	木造二階建	八三四	・教室一七
昭一九・九・一〇	貸　与			・海軍省第八分室
昭二〇・四・一五	罹　災			・戦災により全焼
昭二〇・九・二八	借　用			・金蔵寺、保福寺矢上神社宮前クラブを借用
昭二二・五・二五	改　築	木造二階建	二四六	・教室八
昭二三・二・一六	増　築	木造二階建	二九三	・教室九
昭二九・三・三〇	増　築	木造二階建	七一	・教室二
昭三一・四・一九	増　築	木造二階建	一〇〇	・教室四

総坪数　七九七坪（教室二三その他七）

五、併設状況

大一五・四・一	青年訓練所併設
昭一〇・一〇・一	青年学校併設、昭和二三年三月三一日廃止

六、学区及びその変遷

明六・六・二四	橘樹郡日吉村全部
昭七・五・一	日吉村の一部（北加瀬、南加瀬）が川崎市日吉小学校の創立により分離
昭一四・四・一	日吉本町、日吉町、下田町、箕輪町、（横浜市編入による町名変更）

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	小泉慎太郎	不詳	不詳	
二	栗原直吉	不詳	不詳	
三	小島兵九郎	不詳	不詳	
四	川田融	不詳	昭五・三・三一	退職
五	岩本正義	昭五・三・三一	昭八・一〇・三	高座郡寒川小学校長より就任、瀬谷小学校長へ転任
六	陶観光	和八・一〇・三	不詳	死亡退職
七	小坂太司	不詳	不詳	退職
八	飯田一好	昭一八・一一・二六	昭二四・五・一	富岡国民学校より就任、退職
九	安藤民三	昭二四・五・一	昭二五・五・一〇	金沢中学校長より就任、鉄小学校長へ転任
一〇	千葉勝夫	昭二五・五・一〇	昭三〇・五・三一	寺尾中学校長より就任、東台小学校長へ転任
一一	神田重教	昭三〇・六・一		川和小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	・高等科	尋常科	・高等科
明六	二	一六（一）	不詳		不詳	
昭二二	一九	七六七（一六）	一一一		一三七	
昭二五	二四	九五五（二〇）	二〇〇		一一六	
昭三〇	三〇	一、二六〇（二六）	二四三		二〇九	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
教育後援会	昭二〇・一〇・一	昭和二八年三月三一日廃止
父母と先生の会	昭二四・四・二五	会員八八〇名
災害校舎復旧委員会	昭二四・九・一	キティ台風被害復旧のため、同年一二月廃止

一〇、その他

昭一九・八・一九	児童疎開を港北区高田町、下田町、日吉本町、箕輪町、日吉台小学校にする。教職員一七名、児童一一七名
昭二八・五・五	郵政局長より子供郵便局成績優秀により表彰を受けた。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・五・一〇	給食調理室	一八
昭三〇・三・二〇	図書館	五〇

横浜市立港北小学校

横浜市港北区菊名町籠久保五七番地
電話　子安（49）八四九三番

一、設置状況

1 創立　昭和二四年四月一五日
2 開校　昭和二四年七月一八日

3　設置の際の概況

篠原地区に於ては大綱小学校篠原分教場が震災後廃校となつてから児童は白幡小学校或いは東横電車を利用して大綱小学校、青木小学校等に通学し、また西寺尾の児童は徒歩で三粁余の子安小学校に通学するという状況で、人口も一万数千と増加し、地元民としては小学校建設は多年の宿望であつた。昭和二三年一〇月校地として岩田吉博氏所有の六、八一五坪を借用、地元負担で整地し翌二四年二月校舎の建築に着手した。昭和二四年四月一五日港北小学校として創立し七月一八日、子安小学校、白幡小学校、大綱小学校より児童を分離、職員一七名にて開校式をあげた。

二、校名の変遷

昭二四・四・一五　横浜市立港北小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二三・一〇・三一　横浜市港北区菊名町籠久保五七番地　六八一五坪　私有地借用

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二四・七・二五	新築	木造二階建	三四〇	・教室一〇、その他二
昭二五・四・一七	増築	木造二階建	一三六	・教室二、その他五
昭二六・八・一〇	増築	木造二階建	一七六	・教室六
昭二九・四・五	増築	木造二階建	八九	・教室二
昭三〇・四・八	増築	木造二階建	一二〇	・教室四

総坪数　九五一坪（教室二四その他七）

五、学区及びその変遷

昭二四・六・六　港北区菊名町籠久保一－二五六、一一〇九－一一一九、港北区篠原町富士塚谷一八一八－二一七六、同町表谷二六八一－二七三四、同町榎本谷七五六－九五一、一五八二－一八一七、同町仲手原四七五－四九七、五八八、神奈川区西寺尾町内路八六八－一一五二、同町西谷三五七－七一三、七三四－八六七、同町芋久保三四七、三四八

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	須田　栄吉	昭二四・四・一五	昭三〇・五・三〇	日吉台小学校副校長より就任、六浦小学校長へ転任
二	山野井繁徳	昭三〇・六・一		菊名小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二四	一七	七六九（一五）	七六九	—
昭二五	二二	九八九（一九）	一九七	一〇六
昭三〇	三三	一、五一四（二九）	三一九	二四二

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
港北小学校ＰＴＡ	昭二四・八・一〇	会員一、八九四名

九、その他

昭二五・一一・一三	算数、体育研究発表会
昭二六・六・六	算数教育研究指定校（市教委）
昭二八・六・二〇	最もよい歯の学校として県教委より表彰された。
昭二八・一〇・一八	Ｎ・Ｈ・Ｋ全国唱歌ラジオコンクール入選
昭三〇・六・二七	情操教育研究指定校（市教委）

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・七・二五	給食調理室	一四	昭和三〇年九月三〇日一四坪拡張二八坪となる
昭二八・八・二一	図書館	七六	蔵書数五、八三七冊

横浜市立菊名（きくな）小学校

横浜市港北区菊名町五九〇番地
電話神奈川⑷四四二三番

一、設置状況

1　創立　昭和二六年九月一日
2　開校　昭和二六年九月二〇日
3　設置の際の概況

大綱小学校は校舎老朽に加えて児童数多く二部授業に悩まされていたので新設校の必要は菊名地区の人々の要望であつた。地元有志が昭和二五年七月三日、市当局に第一回の学校建設陳情を行い、続いて再三の陳情に及び、地元として校地の選定並びに整地を負担する熱意を示したので、市当局も新設校の必要と地元民の熱意を認めて学校新設は決定された。更に地元有志は菊名小校学建設助成会を作り昭和二十五年一二月一七日にその結成式を挙げ、募金と整地作業に全力を傾注した。昭和二六年八月三一日、校舎建築第一期工事を竣工し、同年九月一日をもつて創立され、九月二〇日、大綱小学校より児童を分離し開校するに至つた。

二、校名の変遷

昭二六・九・一　横浜市立菊名小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二六・九・一　港北区菊名町五九〇番地　五五三〇坪　私有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二六・八・三一	新築	木造二階建	二一八	・教室六
昭二七・四・四	増新築	木造二階建	二八二	・教室九
昭二七・七・一七	増築	木造二階建	二三〇	・教室五

総坪数　七三〇坪（教室二〇その他五）

五、学区及びその変遷

昭二六・九・一　菊名町、篠原町、大豆戸町、鶴見区北寺尾町上の宮

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	真壁虎次	昭二六・九・一	東小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二六	一九	七八九（一六）	七八九	一一六
昭三〇	二六	九九八（二二）	一八四	一四七

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
菊名小学校建設助成会	昭二五・一二・一七	
菊名小学校先生と父母の会	昭二六・九・二七	会員七六七名

九、その他

昭三〇・六・二〇　第六回よい歯のコンクールにおいて最もよい歯の学校として表彰を受ける。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・八・三一	給食室	二七
昭二八・五・二三	プール	二五米×七米×一米
昭三一・一〇・一三	放送室	六

横浜市立新田（にった）小学校

横浜市港北区新吉田町三二三四番地
電話　綱島　一〇六番

一、設置状況

1　創立　明治二六年四月一日
2　開校　明治二六年四月一日
3　設置の際の概況

明治五年の学制頒布以前は寺小屋が新羽村に二塾と吉田村に三塾があつた。それが学制頒布により新羽二塾が合併して新羽久保谷戸二五八三番地に新羽学校、吉田三塾が合併して倉部谷戸四二一九番地に吉田学舎がそれぞれ創立された。明治二四年三月新羽、吉田、高田村が合併して新田村となり、二六年四月両校を合併して尋常新田小学校と称した。尚五月一日校舎落成まで旧新羽、吉田両校を使用して授業を行つた。開校記念日は校舎落成の五月一日と定めている。

二、校名の変遷

明二六・四・一	尋常新田小学校	新羽村、吉田村、高田村が合併して新田村となり、新羽小学校、吉田小学校が合併して新田小学校となる。
明二八・四・一	都筑郡新田村立尋常高等新田小学校	高等科併置
大一二・四・一	都筑郡新田尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市新田尋常高等小学校	横浜市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市新田国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立新田小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二六・五・一	都筑郡新田村吉田三二三四番地	三一五坪
明三二・四・一	都筑郡新田村吉田三二三三番地	一四〇坪校舎増築のため拡張
明四〇・一〇・一	都筑郡新田村吉田三三三六番地	四九五坪運動場拡張
明四四・四・一	都筑郡新田村吉田三二三七番地	三五〇坪校地拡張
大　七・六・一	都筑郡新田村吉田三一〇〇番地	三五〇坪校地拡張
大　八・五・一	都筑郡新田村吉田三一〇四番地	二四五坪校地拡張
昭一四・四・一	横浜市港北区新吉田町三、二三四番地	市編入により地番変更

総坪数　一、八九五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考	
明二六・五・一	新築	木造平屋建	九九	・教室三	
明三二・四・一	増築	木造平屋建	三六	・教室一	
明四三・六・不詳	増築	木造平屋建	四五	・教室二	
大　八・五・不詳	新築	木造平屋建	一四五	・教室五	一棟新築
大　八・一〇・不詳	改築	木造平屋建	一八〇	・教室六	
大一二・九・一	罹災	木造平屋建	一〇三	・教室四	関東大震災により倒壊
大一三・九・一	改築	木造平屋建	一〇三	・教室四	倒壊校舎復旧
昭　四・七・不詳	新築	木造二階建	六五三	・教室一九	従来の一二〇坪の建物を除き二階建新校舎を新築
昭二二・五・五	貸与	木造	二四四	・教室一〇	横浜市立新田中学校に貸与、昭和二六年一一月一五日返還
昭二九・七・不詳	改築	木造	一〇〇	・教室四	旧校舎修理

総坪数　八六二坪（教室二〇その他六）

五、分校・分教場の設置廃止状況

昭　七・四・不詳　高田分教場を新田村高田東原一七七四番地に設置、校舎坪数一一六五坪、教室四、児童一二三名

昭二五・二・一　高田分教場は横浜市立高田小学校として独立のため廃止

六、併設状況

明三九・一二・一　農業補習学校を併設

昭一〇・七・一　新田村立青年学校を併設、昭二三年三月三一日廃止

七、学区及びその変遷

明二六・四・一　新羽村、吉田村

明二八・四・一　高等科併置により高等科のみ高田村を追加

昭七・四・一　高田小学校併合により新羽、吉田、高田となる

昭二五・二・一　高田小学校独立により高田町分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	塩田武三郎	明二六・四・一	明三八・五・一五	退職
二	井汲　勝雄	明三八・六・一	明四五・七・二五	都筑郡尋常高等第一山内小学校長より就任、都筑郡視学へ転任
三	長野　宏	大一・八・三一	大四・八・三一	都筑郡中里小学校長より就任、久良岐郡三分小学校長へ転任
四	小島伊三郎	大四・八・三一	大一四・三・三一	橘樹郡高津小学校長より就任、退職
五	永塚桂太郎	大一四・三・三一	昭二・三・三一	三浦郡北下浦小学校長より就任
六	青木　竜助	昭二・三・三一	昭七・一・四	鎌倉郡瀬谷小学校長より就任、鎌倉郡中和田小学校長へ転任
七	野路　当作	昭七・一・四	昭一三・八・三一	都筑郡都田小学校訓導より就任、三浦郡大楠小学校長へ転任
八	花田　祐信	昭一三・八・三一	昭一七・八・二六	女子師範学校訓導より就任、栗田谷国民学校長へ転任
九	槇田　静見	昭一七・八・二六	昭二四・四・一五	日野国民学校教頭より就任、旭小学校長へ転任
一〇	平野　誠也	昭二四・四・一五	昭二七・四・三〇	宮谷小学校教頭より就任、中和田小学校長へ転任
一一	鈴木　良助	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	港北小学校副校長より就任、鶴見小学校長へ転任
一二	斎藤止女男	昭三一・九・一		永野小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科	
明二六	三	二一五（三）	六〇	—	一七	—	
明二八	六	二七九（四）	八八	五七	七三	六	高等科併置
大一〇	一〇	五一五（九）	八八	四二	四八	二八	
大一三	一四	五六三（一三）	七四	四五	七一	四一	
昭二	一三	五八七（一三）	七七	六二	九四	五六	
昭五	一五	五五九（一三）	八〇	六四	六五	五九	
昭七	一七	六八九（一四）	一一〇	七一	九三	五一	高田小合併
昭一〇	二一	七〇九（一六）	九六	五七	九九	六一	
昭一四	二七	七六〇（一九）	一二四	八一	九八	七八	横浜市編入
昭一八	二二	九一四（一九）	一二一	八二	一三三	六五	
昭二〇	三六	一、〇二八（一九）	一二四	八二	一〇九	八一	
昭二三	一九	一、一九四（一七）	一四三	—	一四〇	—	
昭二五	一八	七七〇（一六）	一四一	—	七六	—	高田分校独立
昭三〇	二〇	七三三（一七）	一四二	—	一一二	—	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
新田小学校後援会	昭二二・九・一	昭和二四年三月三日PTAに発展解消
新田小学校母の会	昭二二・九・一	同右
新田小学校PTA	昭二四・三・三	会員八三五名

一一、その他

昭二〇・五・八　太平洋戦争激化のため学区内寺院（正福寺、蓮花寺、円応寺）神社（杉山神社）産業組合事務所等に分散授業

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一九・一〇・一	貯水池兼プール	一三	
昭二四・九・一	給食調理場	一三	
昭二七・八・一	図書室	二〇	講和独立記念図書一、〇〇〇冊

横浜市立高田小学校

横浜市港北区高田町一七七四番地
電話綱島七〇〇番

一、設置状況

1 創立　明治七年三月
2 開校　明治七年八月一日
3 設置の際の概況

明治七年三月、興禅寺の一室を借受け、高田学舎と称して、高田部落の子弟を教育することになり、同年八月一日開校した。しかし児童数も少く、昭和七年四月一日に新田小学校の分教場となり、昭和二五年に及び漸く独立するにいたつた。

二、校名の変遷

明七・三・不詳	高田学舎
明八・不詳	高田学校
明二五・四・一	尋常高田小学校
大一二・四・一	高田尋常小学校
昭七・四・一	新田尋常高等小学校高田分教場
昭一四・四・一	横浜市新田尋常高等小学校高田分教場（横浜市編入のため校名変更）
昭一六・四・一	横浜市新田国民学校高田分教場
昭二二・四・一	横浜市立新田小学校高田分教場
昭二五・二・一〇	横浜市立高田小学校

三、位置（校地）の変遷

明七・三・不詳	都筑郡高田村興禅寺		
明一二・三・三〇	都筑郡高田村一七九九番地		
大一二・七・不詳	都筑郡新田村高田字東原一七七四番地	八五一坪	
昭二五・一・二八	横浜市港北区高田町一七七四番地	三三〇坪	国有地
昭二八・三・二七	横浜市港北区高田町一七七九番地	一六〇坪	私有地

総坪数　一、三三一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明七・三・不詳	借用			・興禅寺
明一二・三・三〇	新築	木造平屋建	不詳	
明四一・六・不詳	増築	木造平屋建	二四	
大一三・一二・二六	新築	木造平屋建	一二三	・教室七、（校地移転）
昭二五・二・二八	増築	木造平屋建	七八	・教室三
昭二七・一一・不詳	移築	木造平屋建	七一	・教室四、大一三年建築校舎の二分の一を移築
昭二八・三・二七	改築	木造平屋建	一三五	・教室三

総坪数　二九三坪（教室六その他六）

五、統併合・分離・併設状況

明三九・二・二五　農業補習学校を併設

大一五・六・二五	青年訓練所を併設
昭七・四・一	新田小学校に高田小学校高田分教場となる
昭二五・二・一〇	高田分教場は高田小学校として独立

六、学区及びその変遷

明七・三・不詳	都筑郡高田村
昭七・四・一	高田小学校が新田小学校に統合のため新田小学校の学区となる。
昭二五・二・一〇	港北区高田町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	佐々竹　某	明七・三・不詳	明一〇・三・不詳	
	矢沢　次良	明一〇・四・不詳	明一二・三・不詳	
	田代　某	明一二・三・不詳	明一三・三・不詳	
	木村　富弥	明一三・四・不詳	明一九・四・不詳	
	雲井　法海	明一九・四・不詳	明二六・三・不詳	
	田丸良太郎	明二六・四・二〇	大三・四・二三	橘樹郡千年小学校へ転任
	志村　次良	大三・四・二三	大四・三・三一	折本小学校より就任、病気休職
	金子米次郎	大四・三・三一	昭四・三・三一	新田小学校より就任、都筑郡今井小学校長へ転任
	荻原　太郎	昭四・三・三一	昭七・三・三一	元街小学校より就任、潮田小学校訓導へ転任
一	石田　桂一	昭二五・二・一〇	昭三一・八・一四	新田小学校より就任、死亡退職
二	斎藤　保	昭三一・九・一		岩崎小学校より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明四〇	三	八〇（一）	不詳	一四
大一〇	三	一四一（不詳）	二四	一八
大一三	三	一三九（不詳）	二三	二〇
昭二	四	一三四（三）	二五	二三
昭五	四	一二五（三）	一九	一七
昭二五	八	一八六（六）	三五	二五
昭三〇	八	二二九（六）	四三	四〇

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
高田小学校PTA	昭二五・二・一〇	会員二六〇名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・一〇・一	給食場	八
昭三〇・六・四	貯水槽	四四立方米

横浜市立中川小学校

横浜市港北区大棚町二五四番地
電話　大棚　四　番

一、設置状況

1　創立　明治七年四月一〇日

2 開校 明治七年四月一〇日

3 設置の際の概況

明治五年の学制に基き、山田村、勝田村、大棚村、牛久保村、茅ヶ崎村の五村が協議し学校を設置することになつた。明治七年大棚村清林寺を仮校舎として、第一大学区第九中学区第五四番小学公立大棚学舎が創立され、四月一日より授業を開始した。

二、校名の変遷

明　六・一二・一二	大棚学舎	
明　八・不　詳	大棚学校	
明二五・不　詳	都筑郡中川村立尋常高等中川小学校	
大一二・四・一	都筑郡中川尋常高等小学校	
大一四・四・一	横浜市中川尋常高等小学校	横浜市編入により改称
昭一六・四・一	横浜市中川国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立中川小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　七・四・不詳	都筑郡大棚村清林寺	
明一一・五・不詳	都筑郡大棚村字鵜の目二五五番地へ移転	
明一八・七・不詳	大棚村二五六番地、二五七番地	三三五坪　明治三〇年に一八六坪、明治三五年に一八九坪、明治四二年に一四一坪、大正九年に六九〇坪をそれぞれ拡張
昭一四・四・一	横浜市港北区大棚町二五四番地	横浜市編入による町名変更

総坪数　一、五四一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　七・四・一〇	借用	不詳	不詳	・清林寺
明一一・五・不詳	新築	木造平屋建	四〇	
明一八・七・不詳	増築	木造二階建	一八	
明二七・四・不詳	増築	木造平屋建	一二	・教室一
明三〇・一二・不詳	増築	木造平屋建	三二	
明四三・六・二六	新築	木造二階建	一一〇	・教室一〇
明四三・一一・不詳	撤去		五七	・明治一一年一八年建築校舎を撤去
明四三・一一・不詳	改築			・明治三〇年建築校舎を改築
大　七・三	増築		一〇	・教具室
大一二・九・一	罹災	木造二階建	一一〇	・関東大震災により半壊
大一三・五・一	改築			・教室六、関東大震災による倒壊校舎再建
昭二二・五・一	貸与			・中川中学校に貸与、昭和二五年四月五日移転
昭二三・六・五	新築	木造平屋建	七五	・教室三
昭二七・五・一四	改築	木造二階建		・教室四、明治四三年建築校舎を改築
昭二九・六・五	改築	木造二階建		・教室九、明治四三年、大正一三年建築校舎を改築
昭三〇・八・一三	新築	木造平屋建	五六	・講堂

総坪数　六一五坪（教室一五その他七）

五、併設状況

明三九・一〇・二三　附設農業補習学校を併設
大一五・七・一　青年訓練所を併設
昭一〇・七・一　中川村立青年学校を併設、昭和二三年三月三一日廃止
昭二二・五・一　中川中学校を併設、昭和二五年四月五日まで

六、学区及びその変遷

明　七・四・一〇　都筑郡山田村、勝田村、牛久保村、大棚村、茅ヶ崎村
昭一四・四・一　横浜市編入により港北区南山田町、北山田町、東山田町、勝田町、牛久保町、大棚町、中川町、茅ヶ崎町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	日野 教宣	明 六・一二・一二	明 九・六・不詳	退職
二	川村 碩造	明 九・七・不詳	明一二・三・不詳	退職
三	長嶋 格	明一八・六・一	明二〇・一・不詳	退職
四	日野 順海	明二〇・六・二九	明三三・七・一六	程ヶ谷小学校長へ転任
五	小島 牧治	明三四・三・二五	明四〇・三・三一	中里小学校訓導より就任、義胤小学校長へ転任
六	小山 清亮	明四〇・三・三一	大 七・八・二七	中川小学校訓導より就任、都筑郡視学へ転任
七	持田福太郎	大 七・九・二七	大一二・一二・一六	中原小学校長より就任、橘樹郡高津小学校長へ転任
八	安藤 為次	大一三・一・二三	昭一二・八・三一	中川小学校訓導より就任、都田小学校長へ転任
九	田野倉俊男	昭一二・八・三一	昭一四・一二・三一	鴨居小学校長より就任、退職
一〇	高橋 明三	昭一四・一二・三一	昭一九・五・二〇	下野谷小学校訓導より就任、釡利谷国民学校長へ転任
一一	栗原 恵吉	昭一九・五・二〇	昭二〇・一二・三一	中川国民学校訓導より就任、退職
一二	小形 幹夫	昭二〇・一二・三一	昭三一・八・三一	新田国民学校より就任、西寺尾小学校長へ転任
一三	大久保正治	昭三一・九・一		山内小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明二二	四	一六一 （四）	五四	二二	二三	七
大一〇	一一	六五三（一〇）	九二	三六	五六	二三
大一三	一五	七一〇（一三）	一〇一	四二	七一	三九
昭 二	一六	七一四（一四）	九九	五六	八三	四三
昭 五	一六	六九六（一四）	九七	五六	八六	四三
昭一〇	一六	七四二（一四）	一〇六	六〇	八一	五四
昭一五	一七	七〇一（一六）	八二	六九	八七	六三
昭一八	一七	六三六（一六）	九九	八六	九八	七一
昭二〇	一七	九五五（一六）	一一三	八三	一〇三	八二
昭二三	一六	六八四（一二）	一一九	—	一一八	—
昭二五	二〇	六六八（一五）	一二六	—	九四	—
昭三〇	一七	六七二（一四）	一三一	—	一一四	—

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
教育後援会	昭一六・一・一五	昭和二四年四月二二日、PTAに発展解消
中川小学校父母と先生の会	昭二四・四・二二	昭和二八年四月一日教育振興会に組織変更
中川教育振興会	昭二八・四・一	

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭 二・不 詳	給食施設	一二	
昭三〇・五・二四	防火用貯水池		
昭三〇・八・一三	図書館	五七	講堂兼図書館、蔵書数一、一七八冊

横浜市立山内小学校

横浜市港北区元石川町二〇七九番地
電話（山の内）三番

一、設置状況

1 創立 昭和一二年四月一日
2 開校 昭和一二年四月一日
3 設置の際の概況

本校の創立以前山内村には山内第一尋常高等小学校、山内第二尋常小学校があつたが、昭和一二年に両校が合併して新たに山内尋常高等小学校が創立され、第一・第二の小学校はそれぞれ第一分校・第二分校となつた。

附記〇山内第一尋常高等小学校の沿革……明治一〇年一一月都筑郡石川村の中央に校舎を新築して石川学校として創立開校した。明治一三年九月一四日の暴風のため校舎は倒潰したので休校、明治一四年二月に村内の不動堂、薬師堂を校舎に授業再開、明治二〇年八月一日二ケ所を併せて陳願堂を仮校舎とし、当時の生徒数四五名、教員二名であつた。明治三五年八月尋常高等第一山内小学校と改称、同三七年山内村石川三一一九番地に校舎を新築、児童数二七八名となつた。

昭和一二年四月一日山内第二小学校と合併して山内尋常高等小学校となつた。

〇旧山内第二尋常小学校の沿革……明治六年七月都筑郡荏田村の観福寺を仮校舎として創立された。同七年四月同村の真福寺に移転、明治二五年尋常荏田小学校と改称、更に同三五年四月尋常第二山内小学校と改称された。同三七年六月山内村荏田五三五番地に校舎を新築、昭一二年四月一日山内第一小学校と合併、山内尋常高等小学校となつた。

二、校名の変遷

昭一二・四・一 都筑郡山内尋常高等小学校
昭一四・四・一 横浜市山内尋常高等小学校 横浜市編入による校名改称
昭一六・四・一 横浜市山内国民学校
昭二二・四・一 横浜市立山内小学校

三、位置（校地）の変遷

昭一二・四・一	都筑郡山内村石川二〇七九番地	二、五八九坪	
昭一二・四・一	都筑郡山内村石川三一一九番地	九一五坪	第一分校の校地
昭一二・四・一	都筑郡山内村荏田五三五番地	七六二坪	第二分校の校地
昭一四・四・一	横浜市編入により港北区元石川町二、〇七九番地		第一分校は港北区元石川町三、一一九番地 第二分校は港北区荏田町五三五番地と町名変更

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一二・四・一	新築	木造二階建	二八〇	・教室一四
昭一二・四・一	転用	木造平屋建	一一〇	・教室三、旧山内第一小学校々舎
昭一二・四・一	転用	木造平屋建	九八	・教室三、旧山内第二小学校々舎
昭二七・七・不詳	改築	木造平屋建	一〇六	・第二分校々舎

総坪数 本校二八〇坪（教室一四、その他三）第一分校一一〇坪（教室三、その他一）第二分校一〇六坪（教室三、その他一）

五、分校・分教場の設置状況

昭一二・四・一 都筑郡山内村石川三一一九番地に山内尋常高等小学校第一分校を設置、校舎坪数一一〇坪、教室三、児童一三七名
昭一二・四・一 都筑郡荏田町五三五番地に山内尋常高等小学校第二分校を設置、校舎坪数九八坪、教室三、児童一二三名

六、統併合・分離・併設状況

昭一二・四・一 山内村立青年学校を併設
昭一四・四・一 横浜市立山内青年学校を併設
昭二一・二・二八 横浜市立山内青年学校分離

七、学区及びその変遷

昭一二・四・一 都筑郡山内村の全区域

昭一四・四・一　港北区元石川町、荏田町の全区域、牛久保町一七七八—一九七七、中川町一六四七—二三四一

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	原　政雄	昭一二・三・三一	昭一四・三・三一	山内第一尋常高等小学校長より就任、中郡豊田小学校長へ転任
二	原　政吉	昭一四・三・三一	昭二〇・三・二〇	中郡豊田小学校長より就任、東国民学校長へ転任
三	白井　喜久	昭二〇・三・二〇	昭二二・一・三一	都岡国民学校長より就任、都田国民学校長へ転任
四	吉村宇左衛門	昭二二・一・三一	昭二四・四・一五	山内国民学校教頭より就任、退職
五	大久保正治	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	山内小学校副校長より就任、中川小学校長へ転任
六	加藤　岩雄	昭三一・九・一		中川小学校副校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
昭一二	一六	六五三（一四）	九五	六五	一〇四	五九
昭一五	一九	六八六（一六）	一〇四	六七	九一	六三
昭一八	一九	六〇五（一六）	九五	七七	九五	四九
昭二〇	一七	一、〇五六（一六）	一三一	九七	一二二	七七
昭二五	二〇	六七五（一五）	一一三	—	一〇八	—
昭三〇	一八	六三七（一六）	一三二	—	八五	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
山内小学校先生と父母の会	昭二三・四・不詳	会員四二〇名、昭和三〇年九月三〇日教育振興会に組織変更
山内教育振興会	昭三〇・一〇・一	会員六七八名

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・一一・二七	給食調理場	
昭三一・五・一五	防火用貯水槽	九

横浜市立鉄（くろがね）小学校

横浜市港北区鉄町一一二〇番地
電話　市ケ尾　一六番

一、設置状況

1　創立　明治五年五月一日
2　開校　明治五年五月一日
3　設置の際の概況

学制に従い明治六年鉄、大場、黒須田、成合の四ケ村を学区として鉄村の堂宇を校舎に充て鉄学舎と称した。明治八年に寺家、鴨志田の二ケ村を学区とした。寺家学舎を併合し現校地に校舎を新築した。

二、校名の変遷

明　六・五・一	鉄学舎	
明　八・五・一	鉄学校	
明二五・四・一	都筑郡中里村立尋常鉄小学校	
大一二・四・一	都筑郡鉄尋常小学校	
昭一四・四・一	横浜市鉄尋常小学校	市編入により校名改称

昭一六・四・一	横浜市鉄国民学校
昭二二・四・一	横浜市立鉄小学校

三、位置（校地）の変遷

明六・五・不詳	都筑郡鉄村	
明八・五・不詳	都筑郡鉄三ツ郷一三八八番地	二六七坪
明二八・五・不詳	都筑郡鉄三ツ郷一三八八番地	五六坪　運動場を拡張
明四一・四・不詳	都筑郡鉄三ツ郷一一二〇番地	一六〇坪　運動場を拡張
明四五・三・不詳	都筑郡鉄三ツ郷一一二〇番地	七一八坪　校舎建築のため拡張
昭九・五・一五	都筑郡鉄一一二〇番地	八〇〇坪　校舎建築のため拡張
昭一四・四・一	横浜市港北区鉄町一一二〇番地	横浜市編入により町名変更

総坪数　二、〇九一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明六・五・不詳	借用	木造平屋建	不詳	
明八・五・不詳	新築	木造平屋建	不詳	
明四一・四・一	増築	木造平屋建	二〇	・教室一
明四一・四・一	借用	木造平屋建	二〇	・民家の蚕室借用
明四五・八・一	新築	木造平屋建	二一一	・教室八
昭一三・一・一五	新築	セメント瓦ぶき二階	三一七	・教室八
昭一七・三・一	移築	木造平屋建	五〇	・谷本小学校より移築

総坪数　三六七坪（教室一一その他四）

五、統併合・分離・併設状況

明八・五・不詳	寺家学舎を併合
明二四・四・一一	下谷本小学校の上谷本分校を統合
大五・一一・二六	鉄実業補修学校併設、大正一〇年四月一日中里村立鉄実業補習学校と改称
大一五・六・三〇	中里村立青年訓練所併設
昭一〇・七・一	中里村立鉄青年学校併設、昭和一四年四月一日横浜市立鉄青年学校と改称
昭一九・一・三一	鉄青年学校は谷本青年学校に統合

六、学区及びその変遷

明六・五・不詳	都筑郡鉄村、黒須田村、大場村、成合村
明八・五・不詳	鉄村、黒順田村、大場村、成合村、寺家村、鴨志田村
明二四・一一・一	上谷本を編入
昭一四・四・一	横浜市港北区、鉄町、黒須田町、大場町、成合町、寺屋町、鴨志田町、上谷本町（横浜市編入のため）

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	井上清之助	明六・五	明八・三	退職
二	秋山　義邦	明八・五	明一二・三	退職
三	広瀬辰太郎	明一二・四	明一三・二	不詳
四	佐野　教通	明一三・四	明一三・七	不詳
五	諏訪　瀬徳	明一三・九	明一六・一	不詳
六	斎藤　雅記	明一六・二	明一六・五	不詳
七	富樫甲太郎	明一六・六	明一六・七	不詳
八	伊津野勇彦	明一六・七	明一六・一〇	不詳
九	唐崎　竜蔵	明一六・一一・一	明一八・一	不詳
一〇	小路岩之丞	明一八・四	明一九・三	不詳
一一	瀬戸亀太郎	明一九・四	明二〇・五	不詳
一二	古田　恕	明二〇・八	明二一・七	不詳
一三	大沢　喜平	明二一・一一	明三一・四	本牧小学校へ転任

一四	松本　茂寿	明三二・七・不詳	明三三・四・一〇	都筑郡下麻生小学校訓導より就任、橘樹郡川崎小学校訓導へ転任
一五	越水　晋八	明三三・七・八	明四一・三・三一	橘樹郡菅生小学校訓導より就任、西戸部小学校訓導へ転任
一六	村田　柳蔵	明四一・三・三一	大六・三・三一	谷本小学校訓導より就任、鴨居小学校長へ転任
一七	岩瀬　正	大六・四・一	大一一・三・三一	中川小学校訓導より就任、浦島小学校訓導へ転任
一八	野村　一	大一一・四・四	大一四・三・三一	都田小学校訓導より就任、谷本小学校長へ転任
一九	藤本　悌武	大一四・三・三一	昭二・三・三一	山内第二小学校長より就任、高津小学校長へ転任
二〇	山中穐三郎	昭二・三・三一	昭三・三・三一	田奈小学校訓導より就任、田奈小学校長へ転任
二一	山中　善応	昭三・四・一	昭二三・一〇・七	山内第二小学校長より就任、退職
二二	久保田隆司	昭二三・一〇・七	昭二五・五・三一	城郷小学校訓導より就任、都田小学校長へ転任
二三	安藤　民三	昭二五・五・三一	昭二七・四・三〇	日吉台小学校長より就任、旭小学校長へ転任
二四	柳下　俊	昭二七・五・一		都田中学校教諭より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明六	二	一〇〇（二）	不詳	―	不詳	―
明二二	三	九四（三）	一三	―	七	―
明三〇	四	一四六（四）	一四	―	一六	―
大六	五	二〇四（五）	三九	―	一五	―
大一〇	六	二八〇（六）	四二	―	二五	―
大一五	六	二九〇（六）	五三	―	三六	―
昭二	六	三〇三（六）	五五	―	三六	―
昭五	六	三一七（六）	六三	―	三九	―
昭一四	八	三二五（六）	五六	―	五三	―
昭一五	八	三〇六（六）	四八	―	五一	―
昭一八	一〇	三九〇（八）	五三	五三	五五	四四
昭二〇	一〇	四二〇（八）	四六	四六	五五	四九
昭二三	一二	四一六（一〇）	六八	―	七五	―
昭二五	一三	三九三（一〇）	六七	―	六一	―
昭三〇	一二	三七四（一〇）	七四	―	六九	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
鉄小学校愛育会	昭二四・三・三	会員三七〇名

横浜市立谷本小学校

横浜市港北区下谷本町一六七四番地
電話　市ヶ尾　九番

一、設置状況

1 創立　明治六年五月二五日
2 開校　明治六年五月二五日
3 設置の際の概況

明治六年五月二五日学制に従い、下谷本の安養寺を仮校舎に充て谷本学舎と称して創立した。設立区域は下谷本、上谷本、市ヶ尾、恩田成合の四字とし、生徒八〇余名であつた。

二、校名の変遷

明六・五・二五	谷本学舎	
明八・不詳	谷本学校	
明二五・四・一	尋常谷本小学校	
大一二・四・一	谷本尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市谷本尋常高等小学校	市編入により改称
昭一六・四・一	横浜市谷本国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立谷本小学校	

三、位置（校地）の変遷

明六・五・二五	都筑郡下谷本寺谷戸二五三番地	安養寺借用
明七・五・二九	都筑郡下谷本一六七四番地	坪数不詳
明一三・三・二五	都筑郡下谷本一六七四番地	一六二坪　拡張
明四四・四・一	都筑郡下谷本一六七四番地	二二〇坪　拡張
大七・九・二四	都筑郡下谷本一六七四番地	九〇〇坪　拡張
大一四・二・不詳	都筑郡下谷本一六七四番地	一、二一六坪　拡張
昭一四・四・一	横浜市港北区下谷本町一六七四	横浜市編入による町名改称

総坪数　一、二一六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明七・五・二九	借用	木造平屋建	不詳	・安養寺
明一一・九・二五	新築	木造平屋建	不詳	・上谷本に分校設置
明一四・八・一	新築	木造平屋建	六四	
明四一・四・一	借用	不詳	不詳	・中里小学校の一室を大正三年九月一五日迄分教室とした。
大三・九・一五	増築	不詳	不詳	
大七・三・三	借用	木造平屋建		・改築のため東福寺本堂を大正七年九月二四日迄
大七・九・二四	改増築	木造平屋建	八二	・教室三
大一二・九・二五	修理			・大震災により校舎破損、使用不能となつたので応急修理
昭一三・一・一五	改築	木造二階建	一六二	・教室八
昭一九・一〇・一四	貸与	木造平屋建	四八	・白幡小学校集団疎開のため教室二、昭和二〇年九月二九日迄
昭二〇・四・二一	貸与	木造平屋建	八二	・運輸省へ教室三
昭二〇・五・九	貸与	木造二階建		・陸軍の拓、富士両部隊へ教室七
昭二三・五・一	貸与	木造二階建	不詳	・谷本中学校へ教室七、昭和二四年六月一三日迄

総坪数　三四五坪（教室八、その他四）

五、分校設置廃止状況

明一一・九・一	上谷本分校を上谷本八幡谷九五五に設置、教室一
明二三・一一・不詳	上谷本分校を廃止

六、併設・分離状況

大五・七・一	実業補習学校併設
大一五・六・三〇	中里村立青年訓練所を併設
昭一〇・四・一	谷本青年学校を併設、昭二三・三・三一廃止
昭二二・五・一	谷本中学校を併設
昭二四・六・一三	谷本中学校移転分離

七、学区及びその変遷

明六・五・二五	下谷本村、上谷本村、恩田成合村、市ヶ尾村

明二三・一一・一　上谷本尾崎全部と原は鉄学区となり恩田成合は田奈学区となる。

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	吉浜恭三郎	明　六・五・二五	明一八・五・三一	不詳
二	瀬戸亀太郎	明一八・六・一	明二一・七・三一	鉄小学校長へ転任
三	志村澄雄	明二一・八・一	明二五・一・不詳	退職
四	坂田惣十郎	明二五・三・不詳	明二九・三・九	退職
五	小里頼正	明二九・三・九	明三三・七・一	横浜小学校より就任、都筑郡豊永小学校長へ転任
六	雲井法海	明三三・八・一	明三八・二・二八	退職
七	米山義教	明三八・四・一一	明四〇・三・三一	寿小学校長へ転任
八	飯田柳蔵	明四〇・三・三一	明四一・三・三一	鉄小学校長へ転任
九	飯田邦治	明四一・三・三一	大　四・九・一	川島小学校より就任、高等中里小学校長へ転任
一〇	白井隆資	大　四・九・一	大一二・三・三一	中里小学校長より就任、山内第一尋常高等小学校長へ転任
一一	飯田邦治	大一二・三・三一	大一四・三・三一	中里小学校長より就任、山内第二尋常小学校長へ転任
一二	曽根清作	大一四・三・三一	大一五・三・三一	中山小学校長より就任、中山尋常高等小学校長へ転任
一三	野村一	大一五・三・三一	昭一四・三・三一	鴨居小学校長より就任、程ヶ谷尋常高等小学校長へ転任
一四	角井元次郎	昭一四・三・三一	昭二一・二・二〇	中山小学校長より就任、退職
一五	和田義男	昭二一・二・二〇	昭三一・八・三一	大綱国民学校教頭より就任、浦島小学校長へ転任
一六	牛窪全浄	昭三一・九・一		星川小学校副校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明六	不詳	八〇	不詳	不詳
明七	不詳	九〇	不詳	不詳
明三二	不詳	不詳	不詳	二五
大一〇	四	二三三（四）	四五	二三
大一三	八	三三二（七）	四二	五四
昭二	九	三二六（八）	一〇九	八一
昭五	九	三二九（八）	九五	九五
昭一〇	一〇	三七五（九）	一〇四	一〇二
昭一五	一二	四二六（一〇）	一三二	一二五
昭一八	一三	三七一（九）	九六	一〇四
昭二〇	一四	四九七（九）	一二五	一〇〇
昭二二	一一	三三一（八）	六三	五七
昭二五	一〇	三〇二（六）	四六	五八
昭三〇	九	三一五（七）	五七	五八
昭三一	九	三二六（七）	五八	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
谷本小学校愛育会	昭二二・八・七	会員三三名
谷本小学校ＰＴＡ	昭二四・四・一	会員三一〇名

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・七・一	給食調理室	八
昭二七・四・一五	植物園	九〇

横浜市立山下（やました）小学校

横浜市港北区北八朔町一七八〇番地
電話　川和　五　九　番

一、設置状況

1　創立　明治五年七月
2　開校　明治五年七月
3　設置の際の概況

明治五年七月西八朔宮前の観照院観音堂に於て西八朔、北八朔、十日市場を区域とし犬塚治三郎氏が教授し、中村学舎と称した。

二、校名の変遷

明　五・七・不詳	中村学舎	
明二五・四・一	尋常中村小学校	
明四一・四・一	都筑郡尋常中村小学校	
大一二・四・一	都筑郡中村尋常小学校	
昭一四・四・一	横浜市山下尋常小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市山下国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立山下小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　五・七・不詳	西八朔宮前観照院	
明一七・七・七	北八朔山下に移転	現在の宮田氏宅地
明二七・八・不詳	北八朔一七六九―一七七二番地	二一九坪に新築移転
明四一・五・五	北八朔一七六九―一七七二番地	九〇坪　拡張
昭一四・不詳	北八朔一七七五番地	六二五坪　拡張
昭一六・九・四	北八朔一七八二番地	一四五坪　拡張

総坪数　一、〇七九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　五・七・不詳	借用	木造平屋建	不詳	・観照院観音堂
明一七・七・七	借用	木造平屋建	不詳	・民家を借用
明二七・八・不詳	新築	木造平屋建	六〇	・教室三、その他一
明三六・一一・一七	増築	木造平屋建	五二	・教員住宅
明四三・四・一	改築	木造平屋建	不詳	・教室三
大九・一〇・一七	増築	木造平屋建	二七	・教室一
昭八・九・不詳	新築	木造平屋建	四四	・裁縫室その他一
昭一七・六・一〇	増築	木造二階建	一六八	教室六、その他一
昭二一・七・一六	改築	木造平屋建	三五	・物置
昭二六・一二・不詳	増築	木造平屋建	七	・給食調理室
昭二八・二・不詳	改築	木造平屋建	五七	・教室二その他二

総坪数　三九〇坪（教室八その他四）

五、統併合・併設状況

大　五・七・三〇	実業補習学校を併設
昭一〇・四・一	山下青年学校を併設
昭一九・一・二四	山下青年学校は谷本青年学校に統合

六、学区及びその変遷

明　五・七・不詳　西八朔、北八朔、十日市場

明一七・七・七　小山、青砥を編入し、十日市場を分離

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	犬塚治三郎	明　五・七・不詳	明三五・三・不詳	退職
二	森　定次郎	明三五・三・二五	明三九・九・七	退職
三	前田政次郎	明四〇・六・二四	大　三・七・二	栃木県宇都宮女子師範学校へ転任
四	保田平之助	大　三・七・六	大　四・九・三〇	中山小学校訓導へ転任
五	高橋　明三	大　四・九・三〇	大　七・九・三〇	大綱小学校長へ転任
六	鈴木　恭平	大　七・九・三〇	大一〇・三・三一	山内第二小学校より就任、静岡県へ転任
七	土志田清与	大一〇・三・三一	大一二・三・三一	田奈小学校より就任、退職
八	曽根　清作	大一二・三・三一	大一四・三・三一	二俣川小学校より就任、谷本小学校長へ転任
九	村田　柳蔵	大一四・三・三一	昭　五・三・三一	退職
一〇	鈴木　寿	昭　五・三・三一	昭二〇・三・三一	都田小学校より就任、退職
一一	井上　敬三	昭二〇・三・三一	昭二二・四・二九	中山国民学校より就任、瀬谷小学校長へ転任
一二	横溝　清七	昭二二・四・三〇	昭三〇・二・一	三吉小学校より就任、城郷小学校長へ転任
一三	石井　清	昭三〇・二・二		新治小学校より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明　五	一	不詳（一）	不詳	―
明四〇	二	一三四（二）	三九	二一
大一〇	三	一九四（三）	三七	三三
大一三	四	一八七（三）	三〇	二六
昭　二	四	一九〇（四）	三四	三三
昭　五	五	二一七（五）	四一	二八
昭一〇	七	二三五（六）	四一	三九
昭一五	七	二五二（六）	四一	三八
昭一八	七	二五五（六）	三九	四三
昭二〇	八	三一三（六）	五一	五九
昭二二	八	三一七（六）	五六	五〇
昭二五	一二	三二一（九）	五七	五三
昭三〇	九	二八三（七）	六一	四九

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
山下小学校ＰＴＡ	昭二三・四・一	会員三四九名
山下小学校母の会	昭二三・五・一	会員三〇二名
山下小学校後援会	昭　八・三・不詳	昭和二七年四月二二日、ＰＴＡに合流のため解散

一〇、その他

昭二七・七・一五　よい歯のコンクール入賞県教委より表彰された。（昭和二七年より三一年まで連続表彰）

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・一二・不詳	給食調理室	七

横浜市立川和小学校

横浜市港北区川和町一二三四番地
電話 川和七五番

一、設置状況

1 創立 昭和二三年五月一五日
2 開校 昭和二三年五月一五日
3 設置の概況

戦後、川和町内就学児童の増加に伴い、地元父兄に小学校独立の機運が起り、川和小学校建設促進委員会が組織され、校舎は既設の川和分教場（大正五年以来都田小学校川和分教場）に、更に校地も拡張し三教室及び附属施設の増築が計画され、昭和二三年五月一五日に落成、開校式をあげた。

二、校名の変遷

昭二三・五・一五 横浜市立川和小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二三・五・一五 港北区川和町一二三三番地 六五四坪（私有地松野啓三氏所有五五三坪、市有地一〇一坪）
昭三〇・八・一 港北区川和町一四六三番地 三、一五八坪 川和分校地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二三・五・一五	転用	木造平屋建	一一七	・教室三、川和分教場
昭二三・五・一五	新築	木造平屋建	七二	・教室三
昭三〇・八・一	新築	木造平屋建	九五	・教室二

総坪数 本校一八九坪（教室六、その他一）分校九五坪（教室二、その他一）

五、分校の設置状況

昭三〇・八・一 川和小学校川和分校を港北区川和町一四六三番地に設置、校舎坪数九五坪、教室二、児童一〇五名

六、学区及びその変遷

昭二三・五・一五 港北区川和町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	山口 義雄	昭二三・五・一五	昭二四・四・一五	間門小学校副校長より就任、芦穂崎小学校長へ転任
二	神田 重教	昭二四・四・一五	昭三〇・五・三一	田奈小学校副校長より就任、日吉台小学校長へ転任
三	井上 敬三	昭三〇・六・一		田奈小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二三	八	三二〇（六）	五八	五一
昭二五	八	二九七（六）	五三	五〇
昭三〇	九	二九八（七）	五五	五〇

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
川和小学校PTA	昭二三・六・一五	会員三三〇名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二三・五・一五	給食調理場	九	
昭二八・四・一	学校図書室	一六	蔵書数四七九冊

横浜市立都田（つだ）小学校

横浜市港北区池辺町二八三一番地
電話　川　和　四　九　番

一、設置状況

1　創立　大正五年四月一日
2　開校　大正五年四月一日
3　設置の際の概況

都筑郡都田村には川和小学校、池辺小学校、折本小学校の三校があつたが明治二九年四月、川和小学校と池辺小学校が合併し、新たに豊永小学校を設立し、同年六月に高等都田小学校が新たに設けられた。明治四一年四月高等都田小学校を豊永小学校に移し尋常高等豊永小学校と改め、都田小学校を仮教場としたため紛議が起り、同四二年五月に分離して、旧に復し、同四四年に池辺地区の尋常科児童を高等都田小学校に収容し川和佐江戸地区の尋常科児童を収容するため大正二年二月再度合併し、豊永小学校を廃した。その後折本小学校も併せて大正五年統合され一校二分教場となり創立された。

二、校名の変遷

大　五・四・一	都筑郡尋常高等都田小学校	
大一二・四・一	都筑郡都田尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市都田尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市都田国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立都田小学校	

三、位置（校地）の変遷

大　五・四・三〇	都筑郡都田村池辺二七一二番地	（旧都田小学校々地）
	都筑郡都田村佐江戸二一〇二	（旧　豊永小学校々地）
	都筑郡都田村東方六四〇	（旧　折本小学校々地）
大　六・四・三〇	都筑郡都田村池辺二八三一	一、七七八坪　本校々地新築移転
大　六・四・三〇	都筑郡都田村川和一二三四	四一九坪　第一分教場、昭和二三年五月一日川和小学校々地となる
大　六・四・三〇	都筑郡都田村折本一四七八	四〇〇坪　第二分教場、昭和二五年四月一日折本小学校々地となる
大一五・四・三〇	都筑郡都田村池辺二八三一	一、〇六七坪　本校々地拡張
昭一四・四・一	横浜市港北区池辺町二八三一番地	横浜市編入により町名改称

総坪数　二、八四五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大　五・四・不詳	転用	木造平屋建	三二八	・旧都田小学校、豊永小学校、折本小学校を使用
大　六・四・不詳	新築	木造平屋建	三五二	・本校教室一二
大　六・四・不詳	新築	木造平屋建	一〇六	・第一分教場教室三
大　六・四・不詳	新築	木造平屋建	一〇一	・第二分教場教室三
大　八・四・不詳	増築	木造平屋建	一六	・第一分教場
大一三・四・不詳	倒壊	木造平屋建	五五	・第一分教場、教室二
昭　二・四・不詳	増築	木造平屋建	三三三	・本校教室一一
昭　二・四・不詳	増築	木造平屋建	六五	・第一分教場
昭一四・四・不詳	増築	木造平屋建	二一	・本校
昭二六・九・三	増築	木造平屋建	一一	・給食場
昭二八・四・二	改築	木造二階建	一八四	・教室二
昭二九・五・四	改築	木造二階建	三〇三	・教室一〇

総坪数　八六〇坪（教室二一その他九）

五、分教場の設置廃止状況

大　五・一〇・一〇	第一分教場を都田村川和一二三四番地に設置、校舎坪数一〇六坪、教室三
大　五・一〇・一〇	第二分教場を都田村折本一四七八番地に設置、校舎坪数一〇一坪、教室三
昭二三・　五・一五	第一分教場は川和小学校として独立のため廃止
昭二五・　四・　一	第二分教場折本は小学校として独立のため廃止

六、統併合・分離・併設状況

大　五・　四・　一	折本小学校を併合
大　六・不　　詳	実業補習学校附設
大一五・　七・　一	青年訓練所併設
大一五・　七・一五	実業補習校併設
昭一〇・　七・　一	青年学校併設
昭一八・　九・不詳	都田戦時保育園併設（昭和二〇年廃止）
昭二三・　三・三一	都田青年学校廃止
昭二三・　五・一五	第一分教場分離独立し川和小学校となる。
昭二五・　四・　一	第二分教場分離独立し折本小学校となる。

七、学区及びその変遷

大　五・　四・　一	都田村川和、佐江戸、池辺、川向、東方、折本、大熊
昭　九・　一・　一	川和町川和、佐江戸、池辺、川向、東方、折本、大熊（都田村は町制施行で川和町となる）
昭一四・　四・　一	港北区川和町、佐江戸町、池辺町、川向町、東方町、折本町、大熊町（港北区制施行）
昭二三・　五・一五	川和小学校設置のため川和町分離
昭二五・　四・　一	折本小学校設置のため折本町、大熊町分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	梅沢　玉吉	大　五・　三・三一	大　七・　八・　六	都筑郡視学より就任、退職
二	井上　幸八	大　七・　八・三一	大一二・　四・三一	高座郡田名小学校長より就任、不詳
三	岩崎　晴吉	大一二・　五・三一	昭　二・　三・三一	高座郡六合小学校長へ転任
四	池田　初蔵	昭　二・　三・三一	昭　五・　九・　九	高座郡六合小学校長より就任
五	霧島　新七	昭　五・　九・　九	昭一二・　八・三一	県社会事業主事より就任、藤沢第三小学校へ転任
六	安藤　為次	昭一二・　八・三一	昭一五・　九・三〇	中川小学校長より就任、二谷小学校長へ転任
七	大谷　正純	昭一五・　九・三〇	昭二二・　一・三一	白幡小学校長より就任、都岡国民学校長へ転任
八	白井　喜八	昭二二・　一・三一	昭二五・　五・一〇	山内国民学校長より就任、退職
九	久保田隆司	昭二五・　五・一〇	昭二九・　四・三〇	鉄小学校長より就任、退職
一〇	飯田　忠三	昭二九・　五・　一		綱島小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
大　五	一六	八〇〇（一七）	一一五	五二	八三	三九
大一〇	一九	九〇九（一七）	一七一	六五	八四	四一
大一三	二〇	一、〇一三（一九）	一四二	八六	一一九	七一
昭　二	二三	一、〇〇〇（二一）	一五四	九六	一二三	六三
昭　五	二二	一、〇二二（一九）	一五五	八七	一二一	七二
昭一〇	二四	一、〇五四（二〇）	一六八	八八	一四八	七六
昭一五	二五	一、一六三（二三）	一六五	一〇四	一六六	一〇七
昭一八	二七	一、一七一（二三）	一六八	一二八	一五四	一一二
昭二〇	三三	不　詳		不詳	二〇二	一二一
昭二一	三〇	一、五九〇（二八）	二二五	一四六	一九三	一二六
昭二二	二六	一、二五六（二四）	二三五	―	一九〇	―

昭二三	二二	九一四（一八）	一六五	—	一五二	—	川和小分離
昭二四	二〇	八八七（一八）	一四五	—	一三七	—	
昭二五	一五	六六三（一三）	一二一	—	一二二	—	折本小分離
昭三〇	一八	六八三（一五）	一二三	—	一一〇	—	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
都田学校後援会	昭二二・八・二八	昭和二四年四月小学校、中学校別に分離
都田小学校後援会	昭二四・四・三〇	会員七一一名
都田小学校ＰＴＡ	昭二三・三・二〇	会員四七〇名
都田小学校整備推進委員会	昭二七・三・一〇	委員　二五名

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一九・一〇・一〇	学校プール	八四	八米×二〇米×一米
昭二六・九・四	給食室	一二	
昭二八・四・二	図書館	一〇	蔵書数一、三五九冊
昭三〇・二・九	校長住宅	一四	（大正一五年建築のもの）

横浜市立折本小学校

横浜市港北区折本町一四七八番地
電話　小机　一一三の甲番

一、設置状況

1　創立　昭和二五年四月一日

2　開校　昭和二五年四月一日

3　設置の際の概況

都田村折本には明治年間、折本小学校が存在していた。大正五年都田村の学校統一が図られ、折本小学校は廃止され、都田小学校の分校となり、大正六年現在地に都田小学校第二分教場として校舎が新築された。昭和二五年四月一日都田小学校より分離し、折本小学校として独立した。

二、校名の変遷

昭二五・四・一　横浜市立折本小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二五・四・一	折本町西原一四七八番地	六三六坪
昭二七・不詳	折本町西原一四七三番地	三九六坪を拡張

総坪数　一、〇三二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大六・四	新築	木造平屋建	一〇〇	・教室三

昭二四・五・一三	新築	木造平屋建	五八	・教室二
昭二五・三・二〇	改築	木造平屋建	一四	・教室一、元裁縫室、使丁室を一教室に改造
昭二五・五・二三	増築	木造平屋建	八	・給食調理室、使丁室
昭二七・一一・一二	撤去	木造平屋建	五四	・教室二
昭二八・三・五	改築	木造平屋建	一二一	・教室三
昭二九・三・三〇	改築	木造二階建	五五	・教室一
昭二九・一一・一二	撤去	木造平屋建	一四	・教室一
昭三〇・一・一九	改築	木造平屋建	一五	

総坪数　二七二坪（教室六その他五）

五、学区及びその変遷

昭二五・四・一　港北区折本町、大熊町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	西ヶ谷輝夫	昭二五・四・一	昭二七・四・三〇	谷本小学校副校長より就任、池上小学校長へ転任
二	大沼　敬吉	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	中山小学校長より就任、退職
三	小宮　督	昭三一・九・一		神橋小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二五	九	二二三（六）	三七	三〇
昭三〇	八	一六六（六）	四五	二七

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
折本小学校ＰＴＡ	昭二五・四・一	会員一〇八名
折本小学校後援会	昭二五・四・一	会員一八〇名
折本小学校教育振興会	昭三一・四・一	会員一八〇名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二五・五・二二	給食調理室	四

横浜市立鴨居小学校

横浜市港北区鴨居町一一八六番地
電話　川和　六二番

一、設置状況

1　創立　明治七年九月
2　開校　明治七年九月
3　設置の際の概況

本校の前身は大川熊太郎氏の家塾をそのまま学舎としたもので当時は弟子が百名に達していた程で鴨居村は勿論のこと本郷村、下猿山村、上菅田村をはじめ南は羽沢村、下中菅田、東は池辺、西は中山、白根、上猿山方面からも通学していた。位置は鴨居村邸橙二一八七番地にあつた。明治七年九月学制に従い鴨居村、本郷村、下猿山村、上菅田村、新井、新田の連合学区で鴨居学舎と称して創立した。

二、校名の変遷

明七・九・不詳	鴨居学舎
明八・六・不詳	鴨居学校
明一三・四・不詳	公立小学鴨居学校

明三四・四・不詳	都筑郡新治村立尋常鴨居小学校	
明四一・四・不詳	都筑郡尋常鴨居小学校	
大一二・四・一	都筑郡鴨居尋常小学校	
昭一四・四・一	横浜市鴨居小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市鴨居国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立鴨居小学校	

三、位置（校地）の変遷

明七・九・不詳	都筑郡鴨居邨嶝二一八七	一七〇坪	大川熊太郎氏宅
明一一・九・不詳	都筑郡鴨居村字東通六八八	二一六坪	校舎新築
明四一・四・不詳	都筑郡新治村鴨居中里一一六一	五八四坪	校舎移転
大一一・一二・不詳	都筑郡新治村鴨居一一八六	九五〇坪	校舎移転

総坪数　一、三一二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明七・九・不詳	借用	木造平家建	三六	・大川氏宅借用
明一一・九・不詳	新築	木造平屋建	三八	・教室四
明四一・四・不詳	移転増築	木造平屋建	一〇三	・教室五
大一一・一二・不詳	新築	木造平屋建	一二五	・教室五
昭三一・不詳	増築	木造平屋建	一七七	・教室七、その他二

総坪数　三〇二坪（教室八その他三）

五、併設状況

明二六・不詳　実業補習学校を併設
大一五・四・不詳　東部青年訓練所を併設
昭一〇・一〇・四　青年学校を併設、昭和二三年三月三一日廃止

六、学区及びその変遷

明七・不詳　鴨居村、本郷村、猿山村、上菅田村、新井新田
明二五・不詳　上猿山村を編入
明四一・不詳　中山小学校尋常科設置のため上猿山村分離
昭二八・四・一　上菅田町の南部は川島小学校学区となる

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	大川熊太郎	明七・九・不詳	昭一〇・一一・不詳	退職
一	曲淵　晃	明一〇・一二・不詳	明二五・八・不詳	退職
二	金子　理二	明二五・九・不詳	明三九・六・不詳	退職
三	佐伯　毅一	明三九・六・不詳	明四二・三・三一	退職
四	斎藤　定雄	明四二・四・一	大六・三・三一	白根小学校長へ転任
五	村田　柳蔵	大六・三・三一	大一四・三・三一	鉄小学校より就任、中村小学校長へ転任
六	野村　一	大一四・三・三一	大一五・三・三一	鉄小学校長より就任、谷本小学校長へ転任
七	国守　慶治	大一五・三・三一	昭二・三・三一	田奈小学校より就任、退職
八	白井　模平	昭二・三・三一	昭九・五・三	高津小学校より就任、中郡豊田小学校長へ転任
九	田野倉俊男	昭九・五・三	昭一二・八・三一	川尻小学校長より就任、中川小学校長へ転任
一〇	佐藤　京三	昭一二・八・三一	昭一七・三・三一	瀬谷小学校訓導より就任、川島国民学校長へ転任
一一	曽我　鶴雄	昭一七・三・三一	昭二七・四・三〇	都田国民学校より就任、退職
一二	槇田　静見	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	旭小学校長より就任、退職
一三	吉永菊次郎	昭三一・九・一		山内中学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者

明七	一	七二（一）	不詳	｜
大一三	六	二五〇（五）	四〇	二七
大二〇	六	二七二（六）	四二	四五
昭二	六	二六二（六）	四五	四六
昭五	六	二七八（六）	四七	四五
昭一〇	七	二九二（六）	五七	四四
昭一五	九	三〇一（六）	四八	五六
昭一八	一一	二八九（九）	四〇	四三
昭二〇	一一	四五六（八）	四九	四六
昭二二	九	三三一（六）	七一	六三
昭二五	一一	三三四（九）	五四	三九
昭三〇	九	三一〇（七）	五七	五四

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
鴨居小学校後援会	昭一四・七・一	会員三二〇名
鴨居小学校ＰＴＡ	昭二四・一〇・一	会員一九三名

一〇、その他

昭二〇・五・一　児童疎開、東本郷町クラブ、東観寺、白山町、白山神社、上菅田八幡社、教職員五、児童三八六名

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	
昭一九・一二・八	プール	二一	五米×一五・三米×一米
昭二七・六・一二	給食調理室	七	
昭二八・三	図書室	二四	蔵書数五七三冊

横浜市立中山小学校

横浜市港北区中山町九一五番地
電話　川和四七番

一、設置状況

1　創立　明治二五年九月七日
2　開校　明治二五年九月七日
3　設置の際の概況

旧新治村には西に旭小学校（現在の新治小学校）東に鴨居小学校があり、中央の中山には大蔵寺に旭小学校の分教場が置かれ、一二年生はここへ通学し三・四年生になると旭小学校の本校へ通学した。明治二五年九月七日高等新治小学校が同じく大蔵寺に創立されてからは旭、鴨居両小学校を終えた児童を収容した。これが本校の創立である。

二、校名の変遷

明二五・九・七	都筑郡新治村立高等新治小学校	
明四一・四・一	都筑郡尋常高等中山小学校	
大一二・四・一	都筑郡中山尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市中山尋常高等小学校	横浜市編入による
昭一六・四・一	横浜市中山国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立中山小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二五・九・七	都筑郡新治村中山六六六番地	三九坪	大蔵寺
明四二・九・一九	都筑郡新治村中山一五〇番地	六〇〇坪	校地移転

大 二・四・一	都筑郡新治村中山一五〇番地	一五坪 拡張
大一三・六・不詳	都筑郡新治村中山九五番地	一九二三坪に移転
昭二五・九・不詳	横浜市港北区中山町一五五番地	一六一坪 借用拡張
昭二七・一・不詳	横浜市港北区寺山町一〇〇一番地	三七〇坪 借用拡張

総坪数 二、四五三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二五・九・七	借用	木造平屋建	三九	・大蔵寺
明四二・九・一九	新築	木造平屋建	七二	・教室三
大 二・九・一	増築	木造平屋建	四三	・教室二
大 三・四・一	増築	木造平屋建	三二	
大一五・三・二〇	増築	木造平屋建	五六	・教室二
昭 三・四・一	増築	木造平屋建	七五	・教室三
昭一九・一二・一	改築	木造平屋建	一〇	・職員室、物置
昭二〇・四・不詳	貸与			・軍隊に教室六
昭二三・五・不詳	貸与			・中山中学校に教室五、二三年九月一五日まで
昭二六・五・一三	増築	木造二階建	一三四	・教室四
昭二七・七・一七	増築	木造二階建	一一七	・教室四
昭二九・六・一	増築	木造二階建	一三八	・教室四
昭二九・一二・二一	撤去		一一四	・教室五
昭三〇・四・一六	増築	木造二階建	一三四	・教室四
昭三〇・八・一	増築	木造平屋建	二八	・図書室

総坪数 七三九坪（教室一九、その他三）

五、分離・併設状況

大 四・一一・二五 新治村立中山実業補習学校併設
大一五・六・三〇 新治村立中部青年訓練所併設
昭一〇・四・一 中山青年学校併設、昭和二三年三月三一日廃止
昭二二・五・五 横浜市立中山中学校併設
昭二三・九・一五 中山中学校移転分離す

六、学区及びその変遷

明二五・九・七 新治村全域
明四一・四・一 尋常科（新治村台、寺山、中山、上猿山）高等科（新治村全域）
昭二一・四・一 高等科の学区は尋常科と同一となる

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	関 忠四郎	明二五・九・一五	明三三・一二・一七	旭小学校訓導より就任、退職
二	内田作次郎	明三三・一二・一八	大 七・一二・二〇	高等新治小学校訓導より就任、退職
三	山口 太司	大 八・二・一四	大一〇・三・三一	津久井郡串川小学校訓導より就任、浦島小学校訓導へ転任
四	荏原 盛房	大一〇・三・三一	大一二・三・三一	中山小学校訓導より就任、都岡小学校長へ転任
五	加藤 好松	大一二・三・三一	大一五・三・三一	都岡小学校訓導より就任、田奈小学校長へ転任
六	曽根 清作	大一五・三・三一	昭 二・三・三一	二俣川小学校訓導より就任、退職
七	加藤三五郎	昭 二・三・三一	昭 四・三・三一	旭小学校長より就任、退職
八	武藤 春夫	昭 四・三・三一	昭一〇・四・三〇	小田原第一小学校訓導より就任、上郡金田小学校長へ転任
九	角井元三郎	昭一〇・四・三〇	昭一四・三・三一	横須賀市田戸小学校訓導より就任、谷本小学校長へ転任
一〇	中村 隆三	昭一四・三・三一	昭二〇・八・八	上郡宮城野小学校長より就任、死亡退職
一一	熊沢 金造	昭二〇・一〇・二五	昭二四・五・四	中和田小学校長より就任、退職
一二	大沼 敬吉	昭二四・六・三〇	昭二七・四・三〇	大岡小学校教頭より就任、折本小学校長へ転任

一三　柿沢八代吉　昭二七・五・一　城郷小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明二五	三	四八（不詳）	｜	四八	｜	六
明四一	五	一五七（四）	三一	三六	五	一〇
大一〇	六	二四四（五）	二八	四九	二二	四三
大一三	六	三一三（五）	二八	七四	二三	五五
昭二	九	三三五（八）	三一	九三	四〇	五五
昭五	一〇	二八五（八）	三一	五〇	三一	五三
昭一〇	一一	三六九（九）	三三	八六	二九	六一
昭一四	一二	四五四（一〇）	五一	九四	四五	八一
昭一八	一四	五二〇（一一）	七〇	八七	六三	九〇
昭二〇	二〇	七五四（一六）	八九	九九	八〇	六三
昭二三	一五	六一一（一二）	一一二	｜	九五	｜
昭二五	一九	六八四（一六）	一三七	｜	七四	｜
昭三〇	二一	八六四（一八）	一五六	｜	一四八	｜

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
中山小学校児童育友会	昭二三・四・一	ＰＴＡに発展解消
中山小学校父母と先生の会	昭二四・四・一	会員五六〇名
中山小学校後援会	昭二四・一二・一	校舎増築促進のため

一〇、その他

昭二五・一二・一二　県知事より子ども銀行表彰をうけた

昭三一・五・五　公衆衛生優良のため市長より表彰された

昭三一・七・一四　よい歯のコンクールに表彰された

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・三・二三	給食調理室	九	
昭三〇・八・一	図書室	二八	蔵書数一、九一一冊

横浜市立新治（にいはる）小学校

横浜市港北区新治町六二五番地

電話川和六一番

一、設置状況

1　創立　明治二二年

2　開校　明治二二年

3　設置の際の概況

明治二二年都筑郡新治村榎下五二四番地の民家を借用し新治村、台寺山、中山、十日市場、榎下、久保、上猿山を学区として創立し、中山に分教場を設けた。

二、校名の変遷

明二二・不詳　都筑郡新治村区立尋常旭小学校

大一二・四・一　都筑郡新治村旭尋常小学校

昭一四・四・一　横浜市新治尋常小学校　横浜市編入とともに校名改称

昭一六・四・一　横浜市新治国民学校
昭二二・四・一　横浜市立新治小学校

三、位置（校地）の変遷

明二二・不詳	都筑郡新治村榎下五二四番地	民家を借用
明二六・九・不詳	都筑郡新治村榎下二四七番地	寺院を借用
明四二・五・一五	都筑郡新治村榎下六二五番地	一一〇四坪に新築移転
昭一四・四・一	横浜市港北区新治町六二五番地	横浜市編入による町名変更
昭二三・一〇・三〇	横浜市港北区新治町六二五番地	一八九坪拡張

総坪数　一、二九三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二二・不詳	借用	木造平屋建	不詳	・民家借用
明二六・九・不詳	羅災			・火災により焼失
明二六・九・不詳	借用	木造平屋建	不詳	・寺院借用
明四二・四・一	新築	木造平屋建	一三八	・教室六、新築移転
昭二三・一〇・三〇	増築	木造平屋建	八四	・教室一
昭二四・一〇・五	増築	木造二階建	一〇一	・教室四

総坪数　二九四坪（教室一一その他六）

五、分教場の設置廃止状況

明二二・不詳　中山の大蔵寺に中山分教場設置
明四一・四・一　中山分教場学区変更のため廃止

六、併設状況

大四・四・一　新治村立旭農業補習学校併設
大一〇・四・一　新治村立旭実業補習学校併設
昭一〇・四・一　新治村立旭青年学校併設
昭一四・四・一　新治青年学校と校名変更、昭和二三年三月三一日廃止

七、学区及びその変遷

明二二・不詳　都筑郡新治村、（台、寺山、中山、上猿山、十日市場、榎下、久保）
明二五・不詳　鴨居小学校に上猿山を分離
明四一・四・一　中山小学校に台、寺山、中山を分離
昭一四・四・一　市編入により十日市場、榎下、久保が十日市場町、新治町、三保町となる。

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	関　倉三郎	明二二・不詳	明三〇・八・不詳	退職
二	尾田　隆就	明三〇・一〇・不詳	明三六・一二・不詳	退職
三	市川浅次郎	明三七・一・二二	明三八・六・三	本校訓導より就任、山内第一尋常高等小学校長へ転任
四	加藤三五郎	明三八・六・三	昭　二・一〇・三一	本校訓導より就任、中山尋常高等小学校長へ転任
五	篠原善太郎	昭　二・一〇・三一	昭一八・七・一四	中山尋常高等小学校より就任、退職
六	飯島又右ェ門	昭一八・八・二五	昭二三・四・二七	谷本国民学校教頭より就任、退職
七	田川　貢	昭二三・五・一五	昭二四・四・一五	稲荷台小学校長より就任、退職
八	重田　俊一	昭二四・四・一五	昭二九・四・三〇	岸谷小学校副校長より就任、岸谷小学校長へ転任
九	細野　清作	昭二九・五・一		二谷小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明三一	不詳	不詳（不詳）	不詳	二六
明三八	不詳	二〇九　（六）	不詳	四六

明四二	不詳	二四七（六）	不詳	一六
大一〇	不詳	二三七（六）	不詳	二八
大一三	五	二三四（六）	三三	三三
昭二	五	二二一（六）	三〇	四三
昭五	七	二三五（六）	三二	三一
昭一〇	七	二六二（六）	四八	四五
昭一四	八	二五三（六）	四〇	三八
昭一五	九	二五六（六）	四三	四七
昭一八	九	二五六（六）	四六	三九
昭二〇	九	三八三（一一）	六五	七〇
昭二二	一一	三九三（一一）	九六	六九
昭二五	一五	三五二（一一）	七〇	四八
昭三〇	一三	三六七（一〇）	七二	七〇

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
新治小学校教育後援会	昭一四・四・一	会員四一〇名
新治小学校ＰＴＡ	昭二三・四・二九	会員二三五名

一一、その他

昭二八・一二・八	県知事より子供郵便局表彰
昭二九・三・三一	市長より給食施設の表彰
昭三〇・一〇・一七	子供郵便局成績優秀により大蔵大臣、日本銀行総裁より表彰された

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二七・二・一七	給食室	八

横浜市立長津田（ながつた）小学校

横浜市港北区長津田町一四一六番地
電話　長津田四五番

一、設置廃止状況

1　創立　明治六年六月二五日
2　開校　明治六年六月二五日
3　廃校　大正九年三月三一日　第一、第二、第三田奈小学校三校合併のため、田奈小学校第一分教場となる
4　復活　昭和二〇年一一月一日
5　設置の際の概況

安政四年、埼玉県人関根範十郎が塾生一九名を集めて都筑郡長津田村岡部谷戸虚空蔵堂内に江林塾をひらいたのが本校の始めで、明治六年学制に従い第一大区第九中学区第二九番小学長津田学舎となり、明治三三年第二田名小学校と改称された。

大正九年四月一村一校の趣旨により第一、第二、第三田奈小学校は合併し本校は田奈小学校第一分教場となつた。以後引続いて分教場であつたが、戦後児童教の激増のため地元に独立の要望が高まり分教場を増築して昭和二〇年一一月一日長津田国民学校として独立した。

二、校名の変遷

明　六・　六・二五	小学公立長津田学舎
明　八・不　詳	小学公立長津田学校
明三三・　九・一七	尋常第二田奈小学校
大九　・　四・　一	田奈村立尋常高等田奈小学校第一分教場
昭二〇・一一・　一	横浜市長津田国民学校
昭二二・　四・　一	横浜市立長津田小学校

三、位置（校地）の変遷

明　六・　六・二五	都筑郡長津田村中村引田新左ェ門宅地
明　七・　四・不詳	都筑郡田奈村大林寺境内
大一四・　九・不詳	都筑郡田奈村長津田一、四一六番地
昭一四・　四・　一	横浜市港北区長津田町一、四一六番地　横浜市編入のため町名変更
昭二三・　四・　一	校地三〇〇坪拡張

総坪数　一、六四〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　六・　六・二五	借用	木造平屋建	不詳	・引田氏宅
明　七・　四・不詳	買収	木造平屋建	不詳	・大林寺衆寮堂
明一九・　九・二八	借用	木造平屋建	不詳	・随流院
明三一・一二・　五	新築	木造平屋建	不詳	
大一四・　九・不詳	移築	木造平屋建	一五六	・教室五、校地移転
昭二〇・一一・　六	増築	木造平屋建	一〇七	・教室三
昭二四・　七・一七	増築	木造平屋建	五一	・教室三
昭二七・　七・不詳	増築	木造二階建	七九	・教室三
昭三一・一〇・不詳	新築	木造二階建	二八一	・長津田分校、教室五

総坪数　本校四五四坪（教室一三、その他三）分校二八一坪（教室五、その他六）

五、分教場の設置状況

明一九・　九・二八	長津田分教場を長津田村随流院に設置、教室一、児童三〇名
明二三・　一・不詳	長津田分教場を廃止（本校新築のため）
昭三一・　九・　一	長津田分校を長津田町二、三三五番地に設置、校地三、〇二六坪、校舎坪数二八一坪、教室五、児童二五六名

六、統併合、併設状況

明三九・一二・　一　農業補習学校を併設、昭和一〇三月三一日廃止

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	関根範十郎	明　六・　六・二五	明一〇・　三・不詳	不詳
二	木村　承平	明一〇・　三・不詳	明一〇・　七・不詳	不詳
三	木村　茂吉	明一一・　四・不詳	明一二・　四・不詳	不詳
四	関根啓三郎	明一三・　三・不詳	大　九・　三・三一	不詳
新一	柿沢八代吉	昭二〇・一一・　一	昭二四・　一・一四	田奈国民学校教頭より就任、城郷小学校長へ転任
二	稲毛　大蔵	昭二四・　一・一五	昭二九・　四・三〇	長津田小学校副校長より就任、綱島小学校長へ転任
三	小島　保	昭二九・　五・　一		長津田小学校副校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明三三	一	一三五（一）	不詳	不詳
昭二〇	一四	五八九（一二）	九五	九一
昭二三	一四	四九九（一二）	一〇〇	九九
昭二五	一九	六七一（一五）	一三三	一〇〇
昭三〇	二二	九七〇（一九）	一九二	一六九

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
長津田小学校ＰＴＡ	昭二三・　五・　三	会員七五〇名
長津田小学校後援会	昭二七・一二・　一	会員一、二〇〇名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・一・二	学校図書室	六	蔵書数一、八〇〇冊

横浜市立田奈小学校

横浜市港北区恩田町四〇九五番地
電話　長津田九番

一、設置状況

1 創立　明治六年六月二四日
2 開校　明治六年六月二五日
3 設置の際の概況

学制頒布以前に万福寺、徳恩寺、福昌寺の三院の僧侶が近所の子供を集めて教授をしたが、学制の頒布と同時に恩田村中央の民家を借り入れて第一大学区第九中学区第四〇番小学公立恩田学舎を創立した。

二、校名の変遷

明　六・六・二五	第四〇番小学公立恩田学舎
明　八・四・一	第四〇番小学公立恩田学校
明二五・五・三〇	尋常高等恩田小学校
明三三・一二・不詳	都筑郡尋常高等第一田奈小学校
大一二・四・一	都筑郡田奈尋常高等小学校
昭一四・四・一	横浜市田奈尋常高等小学校
昭一六・四・一	横浜市田奈国民学校
昭二二・四・一	横浜市立田奈小学校

三、位置（校地）の変遷

明　六・六・二五	都筑郡恩田村四〇九一番地	二三〇坪
明一二・一〇・二〇	都筑郡恩田村四〇九二番地	二七一坪を借用拡張
大　九・五・三〇	都筑郡田奈村恩田四〇九三番地	三三七坪を借用拡張
昭　二・五・一五	都筑郡田奈村恩田四〇九五番地	一、五〇九坪を借用拡張
昭一四・四・一	横浜市港北区恩田町四、〇九五番地に町名地番を改正	

総坪数　二、三三七坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　六・六・二五	借用	木造平屋建	三七	・民家を借用
明一二・一〇・三一	新築	木造平屋建	一二六	・借用民家を撤去し校舎を建築、教室六
大一四・五・二〇	増築	木造平屋建	九二	・教室九
昭　四・七・三〇	増築	木造二階建	三〇三	・教室一〇
昭一七・三・三〇	増築	木造二階建	二三一	・教室一六

総坪数　六二六坪（教室一三、その他八）

五、分教場の設置状況

大　九・四・一	田奈小学校第一分教場を長津田一四一六番地に設置、校舎坪数一〇六坪、教室四、児童一九〇名
大　九・四・一	田奈小学校第二分教場を奈良一〇四二番地に設置、校舎坪数五〇、教室二、児童八四名
昭二〇・一一・一	第一分教場は長津田小学校として独立のため廃止
昭二八・四・一	第二分教場は奈良小学校として独立のため廃止

六、統併合、併設状況

大　三・一二・一　都筑郡田奈実業補習学校を併設
大一五・　七・一　都筑郡田奈村青年訓練所を併設
昭一〇・　四・一　都筑郡田奈村青年学校を併設（青年訓練所廃止、実業補習学校を統合）
昭二二・　四・一　市立田奈中学校を併設
昭二五・　一・七　市立田奈中学校分離

七、学区及びその変遷

明　六・　六・二五　都筑郡恩田村
大　九・　四・一　都筑郡田奈村（長津田村、奈良村、恩田村を合併、田奈村となる）
昭二〇・一一・一　長津田小学校設置のため長津田町を分離
昭二八・　四・一　奈良小学校設置のため奈良町を分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	飯田　伴蔵	明一〇・六・三〇	明四一・一〇・四	退職
二	柳下　太信	明四一・一〇・五	大　三・七・一〇	第一田奈小学校訓導より就任、戸部小学校訓導へ転任
三	鶴野佐七郎	大　三・七・二六	大　六・三・三〇	西浦小学校訓導より就任、
四	上島源治郎	大　六・三・三一	大一〇・三・三一	寒川小学校長より就任、退職
五	守屋　貫雅	大一〇・三・三一	大一三・一一・三〇	師範学校訓導より就任、津久井郡視学へ転任
六	国守　慶治	大一三・一一・三〇	大一五・三・二四	神奈川県属より就任、鴨居尋常小学校長へ転任
七	加藤　好松	大一五・三・三一	昭　三・三・三〇	中山尋常高等小学校長より就任、二俣川尋常高等小学校長へ転任
八	中山穐三郎	昭　三・三・三一	昭一〇・四・二九	本校訓導より昇任、退職
九	永井　福治	昭一〇・四・三〇	昭一一・四・一六	金田尋常高等小学校長より就任、神奈川県視学へ転任
一〇	名川　俊蔵	昭一一・五・三一	昭一三・三・三一	相川尋常高等小学校長より就任、退職
一一	高松良太郎	昭一三・四・九	昭一八・八・二四	中和田尋常高等小学校長より就任、城郷国民学校長へ転任
一二	兵頭　政志	昭一八・八・二五	昭二一・二・一九	三沢国民学校長より就任、井土ケ谷国民学校長へ転任
一三	村杉　武夫	昭二一・二・二〇	昭二三・三・三〇	斎藤分国民学校教頭より就任、城郷小学校長へ転任
一四	原　政吉	昭二三・三・三一	昭二五・五・九	田奈青年学校長より就任、瀬谷小学校長へ転任
一五	井上　敬三	昭二五・五・一〇	昭三〇・五・三一	瀬谷小学校長より就任、川和小学校長へ転任
一六	北村　侃	昭三〇・六・一		中川中学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明　六	一	二五（一）	二五	—	—	—
大一〇	一六	七三七（一五）	一二一	六〇	七五	四八
大一三	一七	八〇一（一六）	一〇九	七〇	一〇〇	五三
昭　二	一八	八四三（一七）	一三二	八三	一一三	七三
昭　五	一九	八一八（一八）	一一七	七二	八九	八〇
昭一〇	一九	八六六（一八）	一一五	八〇	一〇三	八七
昭一四	一九	九二九（一八）	一二七	九一	一一八	九七
昭一五	一九	一、〇〇六（一八）	一二六	九七	一一七	八九
昭一八	二三	一、一四八（二一）	一四二	一一八	一五二	一〇五
昭二〇	一五	六九〇（一三）	九四	九二	七七	一〇八
昭二三	一五	五二六（一二）	一〇五	—	八二	—
昭二五	一八	六三三（一五）	一〇六	—	九六	—
昭二八	一一	三四九（九）	六一	—	七〇	—
昭三〇	一一	三四七（九）	六四	—	五一	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
田奈小学校父母と先生の会	昭二四・五・三〇	会員六八五名

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
明三八・四・一	学校植林地	一、〇六一	
昭二四・五・三一	給食室	六	
昭二五・六・三〇	調理室	四	

横浜市立奈良（なら）小学校

横浜市港北区奈良町一〇四二番地

一、設置状況

1 創立 昭和二八年四月一日

2 開校 昭和二八年四月一日

3 設置の際の概況

奈良町には大正九年以来田奈小学校の第二分教場があったが、五年以上の児童は田奈小学校に通学していた。しかし通学距離が非常に遠くかねて地元民の問題とされていたが、児童数の増加と共に独立への関心が高まり、交渉委員会を組織し、市教育委員会に対し促進した。このため昭和二八年四月一日をもって本校が創立された。

二、校名の変遷

昭二八・四・一 横浜市立奈良小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二八・四・一 奈良町一〇四二番地 一〇六八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二八・四・一	転用	木造平屋建	一七五	・田奈小学校第二分教場校舎
昭二九・七・七	増築	木造平屋建	五四	・教室二

総坪数 二三〇坪（教室六、その他六）

五、学区及びその変遷

昭二八・四・一 奈良町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	岡部 勇蔵	昭二八・四・一	谷本小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数	入学者	卒業者
昭二八	八	二〇八	三二	三七
昭三〇	八	二〇六	三六	四三

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
奈良小学校PTA	昭二八・四・一	会員二〇八名

九、その他

昭二九・一二・二三　子供銀行優良校として神奈川県知事賞を受けた。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪教
昭二八・四・一	給食場	八

横浜市立本郷（ほんごう）小学校

横浜市戸塚区中野町一三四一番地
電話大船三〇〇一番

一、設置状況

1　創立　明治二五年一〇月五日
2　開校　明治二五年一〇月五日
3　設置の際の概況

明治九年、鎌倉郡本郷六ヶ村のうち上野村、中野村、鍛治ヶ谷村を合せて、上野村に東本郷学校、公田桂村に南本郷学校、小菅ヶ谷村、笠間村及び豊田村の飯島を合せて、小菅ヶ谷村に三和学校が設立されたが、明治二一年市町村制が公布され、翌二二年に六ヶ村が合併して本郷村となつたため三校を合せて明治二五年一〇月五日現在の場所に尋常高等本郷小学校が設立された。

二、校名の変遷

明二五・一〇・五	鎌倉尋常高等本郷小学校	
大一二・四・一	鎌倉郡本郷尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市本郷尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市本郷国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立本郷小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二五・一〇・五	鎌倉郡本郷村シビレ一三四一番地	五四五坪
明四四・五・一〇	鎌倉郡本郷村シビレ一三四一番地	四七二坪を拡張

大一四・九・不詳	鎌倉郡本郷村シビレ一三四一番地	一九五一坪を拡張
昭一四・四・一	横浜市戸塚区中野町一三四一番地	横浜市編入により町名変更

総坪数　二、九六八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二五・一〇・五	新築	木造平屋建	一四四	・教室六
明四二・四・八	増築	木造平屋建	三六	・教室二
明四四・五・一〇	増築	木造平屋建	八六	・教室三
大五・三・二五	改築	木造平屋建	一〇〇	・教室四
大一二・不詳	改築		五二	・教室三
大一二・九・一	倒潰	木造平屋建	一一二	・大震災により二棟倒潰
大一三・不詳	増築	木造二階建	一二七	・教室四
大一四・九・不詳	増築	木造二階建	二六六	・教室七
昭二四・八・三一	倒潰	木造平屋建	五二	・キティ台風のため老朽一棟倒潰、昭和二四年一一月一日撤去
昭二四・一二・一〇	新築	木造平屋建	三三	
昭三一・三・三一	撤去		五二	・老朽一棟、教室二を撤去

総坪数　四八六坪（教室一一、その他六）

五、分校分教場の設置廃止状況

明二五・一〇・五	上郷分教場を鎌倉郡上野村光明寺を借用設置、校舎坪数二四坪、教室一、児童一、二年一二名
昭二〇・九・二〇	中野分校を横浜市戸塚区中野町一番地に設置、校舎坪数七三五坪、教室一〇、児童四八一名
昭二七・七・二二	西分校を横浜市戸塚区小菅ケ谷町一八〇一に設置、校舎坪数一五一坪、教室四、児童一、二年一三二名
昭二九・一二・三	中野分校を横浜市戸塚区中野町一六番地に改築設置、校舎坪数二四四坪、教室五、児童三〇二名
昭三〇・三・三一	上郷分教場（横浜市戸塚区上郷町九六八番地）を廃止
昭三一・三・三一	西分校は西本郷小学校として独立のため廃止

六、分離併設状況

明三九・二・二〇	農業補習学校併設
大五・三・三一	女子実業補習学校併設
大一三・三・三一	農業補習学校と女子実業補習学校を合併し、本郷村立実業補習学校を併設
昭一〇・七・一	実業補習学校を改め、本郷村立青年学校を併設、昭和二三年三月三一日廃止
昭二二・五・五	本郷中学校併設（教室六貸与）
昭二三・九・一	本郷中学校新築分離

七、学区及びその変遷

明二五・一〇・五	鎌倉郡本郷村（高等科は本郷村のほか日下、日野、豊田、川上、長尾、玉縄、小坂の七ケ村より通学）
昭一四・四・一	戸塚区笠間町、小菅ケ谷町、桂町、公田町、鍛治ケ谷町、中野町、上郷町（横浜市編入のため上記六ケ町に改称）
昭三一・四・一	戸塚区笠間町、小菅ケ谷町は西本郷小学校設置のため分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	菊地久次郎	明二五・一〇・一三	明二七・二・二八	不詳
二	桐山　準一	明二七・三・二六	明二七・一二・二四	不詳
三	山崎　敏行	明二八・一一・一	明三五・六・二	不詳
四	角田　寅治	明三五・六・二	明三九・九・一一	不詳
五	山田　輝雄	明三九・九・一一	大五・三・三一	深沢小学校長より就任、阿久和小学校長へ転任
六	角田　春吉	大五・三・三一	大七・三・三一	小坂小学校訓導より就任、共進小学校長へ転任
七	中川　与七	大七・三・三一	大九・四・三〇	大野小学校長より就任、退職
八	塩脇　菊松	大九・六・一二	大一二・三・三一	戸塚小学校訓導より就任、鎌倉小学校訓導へ転任
九	箕崎　鐘	大一二・三・三一	昭八・九・三〇	鎌倉小学校訓導より就任、退職
一〇	杉山　清茂	昭八・一〇・三	昭二一・二・二〇	本郷小学校訓導より就任、大正国民学校長へ転任

一一	中垣　隆治	昭二一・二・二〇	昭二二・八・三〇	川上国民学校教頭より就任、横浜市視学へ転任
一二	北井　保孝	昭二二・九・三〇	昭二四・四・一五	戸塚小学校副校長より就任、岡津小学校長へ転任
一三	中垣　隆治	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	横浜市視学より就任、戸塚小学校長へ転任
一四	岩本　正義	昭三一・九・一		井土ヶ谷小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明二五	六	二九九（　六）	—	—	不詳	—
大一〇	一二	六〇一（一一）	九六	四五	七七	四二
大一三	一六	六〇九（一四）	七五	六五	八八	五〇
昭　二	一七	五五八（一四）	八二	七三	七五	五四
昭　五	一八	六〇三（一五）	八〇	五五	七六	六四
昭一〇	一九	七三九（一六）	九六	八七	七八	五三
昭一四	二〇	七八三（一七）	九八	七一	一一四	七七
昭一五	一八	八二六（一七）	一三〇	八三	一〇六	七一
昭一八	二一	九三〇（一八）	一六〇	九一	一一一	七二
昭二〇	二七	一、一七九（二三）	一六二	八四	一五三	七三
昭二二	二四	一、一一九（二三）	二三五	—	一五四	—
昭二五	三一	一、二七三（二六）	二五七	—	一六七	—
昭三〇	三五	一、四〇四（三一）	二六〇	—	二五六	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
本郷小学校ＰＴＡ	昭二三・三・一	会員七六八名
本郷小学校分校建設委員会	昭二六・九・二九	昭和二八年廃止
西分校後援会	昭二八・一・一八	昭和三一年廃止
中野分校改築促進委員会	昭二八・四・七	昭和三〇年廃止

一一、そ　の　他

昭二八・二・二七　第一回県公立学校図書館コンクールで教育委員会より賞状を授与された

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・一二・一〇	給食調理室	三〇	
昭二五・九・一七	図書館	二五	蔵書数一、二八〇冊

横浜市立豊田（とよだ）小学校

横浜市戸塚区下倉田町六九七番地
電話　戸　塚　二　七　五　番

一、設置状況

1　創立　明治二五年五月
2　開校　明治二五年五月
3　設置の際の概況

明治五年学制頒布後上倉田地区では林宗寺を一時校舎にあてたが、明治九年上倉学校を新築し、下倉田地区は明治五年二月創立された竜队学舎を、長沼地区は長徳寺、飯島地区は光長寺及び般若院を一時校舎としたが後、隣村笠間地区、小菅ケ谷地区を合併して三和学校を設立した。明治一一年下倉田は同所脇谷に倉田学校を新設、明治一二年長沼はこれに合併、後明治二一年になり上倉田も

合併した。明治二五年三月長沼、下倉田の境界の県道に面した地点に尋常豊田小学校を新設し、倉田学校三和学校を廃止して旧豊田村地域の全児童を教育した。

二、校名の変遷

明二五・五・不詳	鎌倉郡尋常豊田小学校	
大四・四・一	鎌倉郡尋常高等豊田小学校	
大一二・四・一	鎌倉郡豊田尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市豊田尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市豊田国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立豊田小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二五・八・不詳	鎌倉郡豊田村下倉田六九七番地	二三一坪借用
明三四・一・不詳	鎌倉郡豊田村下倉田六九七番地	一九三坪拡張寄附及び購入
明四四・四・不詳	鎌倉郡豊田村下倉田六九七番地	三八〇坪拡張購入及び借用
大五・不詳	鎌倉郡豊田村下倉田六九七番地	六四四坪拡張
昭二八・三・八	鎌倉郡豊田村下倉田六九七番地	八八七坪埋立拡張

総坪数　二、三三四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二五・五・不詳	新築	木造平屋建	七七	・教室二
明二五・八・不詳	新築	木造平屋建	七七	・創立早々火災のため全焼再建
明二八・四・不詳	増築	木造平屋建	二八	・教室一
明四四・六・不詳	増築	木造平屋建	八三	・教室三
大五・不詳	増築	木造平屋建	九七	・教室三
大一四・三・不詳	増築	木造平屋建	四八	・教室二
昭二・三・不詳	増築	木造平屋建	一四四	・教室五
昭二七・六・七	改築	木造平屋建	六〇	・教室三
昭二九・八・二〇	改築	木造二階建	二一二	・教室五

総坪数　五一六坪（教室一四、その他六）

五、分校、分教場の設置状況

大大・四・一	田谷分教場（旧長尾村尋常千秀小学校）を鎌倉郡豊田村田谷一六六二番地に設置、校舎坪数三七坪、教室一 児童四五名（現在の田谷分校）
昭二三・八・不詳	田谷分校を改築二教室とする

六、併設状況

明二九・五・不詳	補習科を併設、明治三四年三月廃止
明三九・一〇・不詳	実業補習学校を併設、昭和二〇年四月廃止
大一五・四・一	青年訓練所を併設、昭和一〇年三月廃止
昭一〇・四・一	青年学校を併設、昭和二三年三月三一日廃止

七、学区及びその変遷

明二五・五・不詳	上倉田、下倉田、長沼、飯島
大四・四・一	金井、田谷、長尾台が豊田村に合併のため編入

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	安香忠三郎	昭三五・五・二六	明三九・五・四	鎌倉郡長尾村尋常千秀小学校長より就任
二	山口市太郎	明三九・五・四	大五・三・三一	退職
三	金子浦吉	大五・三・三一	大一一・三・一	戸塚小学校訓導より就任、死亡退職
四	大井昇治	大一一・三・八	大一二・三・三〇	浦賀小学校訓導へ転任

五	山本　軍治	大一二・三・三一	大一二・一二・一六	長崎県諫早中学校教諭へ転任
六	柳沢　静雄	大一二・一二・三一	大一五・一・二〇	鎌倉郡大正小学校長より就任、退職
七	飯島　喜市	大一五・二・二八	昭一三・八・三一	南吉田第一尋常高等小学校訓導より就任、茅ケ崎第三小学校長へ転任
八	波多野　肇	昭一三・八・三一	昭一六・五・一六	平塚第二尋常高等小学校訓導より就任、退職
九	田辺喜太郎	昭一六・五・一六	昭一九・一・一九	本町小学校訓導より就任、退職
一〇	川崎太一郎	昭一九・一・二〇	昭一九・三・二八	下野谷国民学校教頭より就任、退職
一一	大木仙太郎	昭一九・五・二〇	昭二二・一・三一	蒔田国民学校教頭より就任、退職
一二	上原　連	昭二二・一・三一	昭三〇・二・一	小田原市新玉国民学校より就任、豊岡小学校長へ転任
一三	三宅　信夫	昭三〇・二・二		根岸小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
明二五	二	九八（二）	―	―	―	―
大二	五	三〇一（五）	不詳	―	不詳	―
大一〇	一一	四五九（八）	六〇	二七	五九	二〇
大一三	一二	四六六（九）	五八	二五	四〇	二七
昭二	一三	四八五（一〇）	六一	四四	五八	四三
昭五	一二	四七七（九）	六〇	四五	五九	二九
昭一〇	一二	五三七（九）	五九	四七	五九	三〇
昭一五	一七	五七三（一四）	六八	七五	七七	四四
昭一八	一九	六三一（一六）	七九	七九	八一	五〇
昭二〇	一八	七四九（一八）	一〇〇	九〇	一〇一	七七
昭二三	一八	五九九（一四）	一〇三	―	一〇五	―
昭二五	一八	六〇六（一四）	一〇八	―	一一一	―
昭三〇	一八	五八〇（一五）	一〇三	―	一〇〇	―

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
豊田小学校ＰＴＡ	昭二三・四・一	会員七〇二名
校庭拡張委員会	昭二四・五・七	昭和二年八月二八日廃止
増改築協力委員会	昭二八・四・一	昭和二九年九月一〇日廃止
田谷分校増改築協力委員会	昭三〇年四月一日	

一一、そ　の　他

昭二六・九・二〇	地域社会学校研究指定校
昭二八・一・一二	全国作文コンクール神奈川県予選学校賞をうけた

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
大一五・二・不詳	校長住宅	二一	
昭二三・四・不詳	給食室（本校）	一〇	
昭二三・四・不詳	給食室（分校）	五	
昭二九・八・一〇	体育器具室	一〇	ＰＴＡの寄付

横浜市立戸塚小学校

横浜市戸塚区戸塚町一三二番地
電話　戸塚　四九番

一、設置状況

1　創立　明治六年六月一日
2　開校　明治六年六月一日
3　設置の際の概況

明治六年学制に従い富塚学舎と称して鎌倉郡戸塚町戸塚四〇〇一番地旧問屋場跡に校舎を建築して創立した。

二、校名の変遷

明　六・六・一	富塚学舎	
明　八・六・二九	戸塚学校	
明　九・一二・一八	公立戸塚学校	
明二二・九・二九	鎌倉郡戸塚町公立戸塚学校	
昭一四・一〇・一二	鎌倉郡戸塚町立小学戸塚学校	
明二五・四・一	鎌倉郡戸塚町戸塚区立尋常高等戸塚小学校	
大一二・四・一	鎌倉郡戸塚尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市戸塚尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市戸塚国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立戸塚小学校	

三、位置（校地）の変遷

明　六・六・一	鎌倉郡戸塚町四〇〇一番地	
明　九・七・一三	鎌倉郡戸塚町一七七番地に移転	
大　二・九・九	鎌倉郡戸塚町一一六番地	一九五一坪に移転
昭　二・六・一	鎌倉郡戸塚町一三二番地	四四二八坪に移転
昭一九・一二・九	鎌倉郡戸塚町一三二番地	一〇〇〇坪を戸塚高等女学校の運動場として借用中のものを本校用地として買収

総坪数　五、四二八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明　六・六・一	借用	木造平屋建	不詳	
明　九・七・一三	新築	木造平屋建	九八	
明三五・九・一四	増築	木造平屋建	不詳	
明四四・一・不詳	借用	木造平屋建	不詳	・旧郡役所の建物を仮用
大　二・九・九	新築	木造平屋建	不詳	・校地移転
大一二・九・一	罹災		不詳	・校舎全潰
大一二・一〇・五	借用	木造平屋建	不詳	・京浜電力戸塚変電所倉庫
大一三・一・一五	罹災		不詳	・上棟五日後地震により倒潰
大一三・二・一	新築	木造平屋建	不詳	・教室七、仮教場を廃止
大一四・四・一	新築	木造平屋建	不詳	・教室七
昭　二・六・一	新築	木造平屋建	一、二〇〇	・教室二七
昭二〇・三・九	貸与	木造平屋建	不詳	・教室一、講堂を警備隊へ
昭二〇・四・二〇	貸与	木造平屋建	五〇〇	・教室二〇、海軍艦政本部、護東部隊へ
昭二〇・八・二五	貸与	木造平屋建	五四九	・海軍病院、横浜臨時憲兵隊へ

昭二〇・一〇・一五　返　還　　　　　・軍関係いずれも移転

昭二三・三・三　転　用　一一二　・教室四、戸塚高女校舎を転用

昭二二・五・五　貸　与　二五〇　・戸塚中学校へ教室一〇、昭二三年一一月二六日まで

総坪数　一、三三二坪（教室三一、その他一一）

五、分教場の設置状況

明三五・四・一　尋常高等戸塚小学校分教場（旧矢部吉田区立尋常明允小学校）を戸塚区矢部町に設置、大正二年廃止

六、統併合、分離、併設状況

明三五・四・一　矢部吉田区立尋常明允小学校を統合

大　五・四・一　戸塚町立実業補習学校併設

大一五・七・一　戸塚町立青年訓練所併設

昭　三・四・一　戸塚町立実科高等女学校併設

昭　八・四・一　町立公民学校併設（実業補習学校を改称）

昭　九・五・一　戸塚幼稚園併設

昭一〇・一〇・一　戸塚町立戸塚青年学校併設

昭二三・三・三一　青年学校廃止

昭二六・一〇・一〇　横浜市立東戸塚小学校独立のため児童七六五名分離

七、学区及びその変遷

明　六・六・一　戸塚町全域

明一七・九・四　矢部町、吉田町、上倉田村、下倉田村、長沼村、長尾台村、田谷村、小雀村、金井村、原宿村、深谷村、汲沢村を高等科学区に編入

明三五・四・一　矢部町、吉田町を明允小学校合併のため編入

昭一五・四・一　戸塚区汲沢町（但し一〜一四七〇、一六二二〜一六六五、一六六九〜一六七〇、一七〇一〜一九六八を除く）

昭二六・一〇・一〇　吉田町、矢部町全域及び上矢部町、坂本、鳥谷、戸塚町一〜一五、七八〜八八、五一三一〜五一五五、五〇四三〜五〇四五、五〇四八〜五〇五九を東戸塚小学校設置のため分離

昭二七・四・一　矢部町の一部（一四九九〜二〇七〇）を編入

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	小谷　茂美	明　六・六・一	明　九・一・不詳	不　詳
二	本多　重房	明　九・一・不詳	明　九・八・不詳	不　詳
三	佐野　未力	明　九・八・不詳	明一〇・二・不詳	不　詳
四	鈴木　安遷	明一〇・二・不詳	明一〇・五・不詳	不　詳
五	森　長四郎	明一〇・五・不詳	明一一・三・不詳	不　詳
六	貴船　勇意	明一一・三・不詳	明一三・一・不詳	不　詳
七	和田　日寧	明一三・一・不詳	明一七・三・不詳	不　詳
八	中川孝之助	明一七・三・不詳	明一八・七・不詳	不　詳
九	多田　寅吉	明一八・七・不詳	明二三・二・不詳	不　詳
一〇	加藤直次郎	明二三・二・不詳	明二三・八・不詳	不　詳
一一	山崎　敏行	明二三・八・不詳	明二八・一〇・不詳	不　詳
一二	分部　寅吉	明二九・一・不詳	明三〇・三・二七	小田原小学校長へ転任
一三	安斉　泰治	明三〇・六・不詳	明三三・一二・不詳	船越小学校長へ転任
一四	山田　輝雄	明三三・一二・不詳	明三七・八・一三	深沢小学校長へ転任
一五	松本　元八	明三七・八・一三	大　四・三・三一	三浦郡南下浦小学校長へ転任
一六	石井七之助	大　四・三・三一	大　七・一二・二七	退　職
一七	井汲　勝雄	大　八・一・一七	大一四・一・五	退　職
一八	森久保敬次	大一四・三・三一	昭二一・二・二〇	津久井郡協心小学校長より就任、退職
一九	花田　祐信	昭二一・二・二〇	昭三一・八・三一	栗田谷小学校長より就任、退職

二〇	中垣　隆治	昭三一・九・一	本郷小学校長より就任

九、児童、教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明六	一	五九（一）	不詳	—	—	—
明二三	五	一七五（四）	不詳	不詳	一八	八
大一〇	一六	七三九（一四）	不詳	不詳	一〇九	四一
大一三	一八	八四二（一六）	不詳	不詳	一〇八	三四
昭二	二三	八四〇（一九）	不詳	不詳	一〇八	四五
昭五	二一	九四八（一九）	不詳	不詳	九五	五〇
昭一〇	二三	一、二三七（二一）	不詳	不詳	一五七	六一
昭一四	二八	一、五五八（二五）	不詳	不詳	二〇三	九七
昭一五	三〇	一、六七六（二七）	不詳	不詳	二二八	一〇三
昭一八	三四	一、九五三（三〇）	不詳	不詳	二四八	八六
昭二〇	三四	一、六三三（三一）	不詳	不詳	二九五	一〇九
昭二三	三八	二、一八三（三五）	不詳	不詳	三八九	—
昭二五	五八	二、七二五（五二）	五四〇	—	三一七	—
昭二六	四一	二、〇七八（三八）	四二九	—	二七七	—
昭三〇	四一	一、九二六（三七）	三八七	—	三二〇	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
戸塚小学校PTA	昭二三・七・六	会員一、六一三名

一一、その他

昭四・四・一二	東京中央放送局「子供の時間」に本校児童の唱歌放送をした
昭一九・八・二四	児童疎開を戸塚区下飯田町、下和泉町、中田町、上飯田町に実施、教職員八名、児童一五五名
昭二〇・四・二〇	本興寺疎開分団寮へ初等科三年四五名入寮
昭二〇・五・二一	戸塚町下郷西寺立へ教職員三名
昭二〇・六・一	舞岡町長福寺へ教職員三名
昭三〇・六・二五	東京郵政局長より子供郵便局の成績優秀に就き感謝状を授与された
昭三一・六・一一	学校給食調査に就て文部大臣より表彰された

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・八・二七	給食調理室	一七	昭和二六年九月五日七坪拡張
昭二七・四・一	防火貯水槽	四二立方米	
昭二九・五・一	特殊学級室	二五	

横浜市立東(ひがし)戸(と)塚(つか)小学校

横浜市戸塚区吉田町八八番地
電話戸塚一八八八番

一、設置状況

1 創立　昭和二六年一〇月一〇日
2 開校　昭和二六年一〇月一〇日
3 設置の際の概況

昭和二五年三月末日、戸塚教育対策委員会を組織し小学校設置について、陳情書を市会をはじめ各関係方面へ提出した。市教育委員会及び文教委員会の土地視察により戸塚ＰＸグランドが最適と決定し、ＰＸに対し土地払下の陳情を行い、許可を得て昭和二六年一月一一日戸塚第二小学校仮称（整備）協力委員会が結成され、各方面の協力により昭和二六年一〇月一〇日設置された。

二、校名の変遷

昭二六・一〇・一〇　横浜市立東戸塚小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二六・一〇・一五　戸塚区吉田町八八番地　八、〇三三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二六・一〇・一五	新築	木造二階建	四六七	・教室一二
昭二七・六・二三	増築	木造二階建	一〇八	・教室六
昭三一・一〇・二二	増築	木造二階建	七一	・教室四

総坪数　六五九坪（教室二二、その他七）

五、学区及びその変遷

昭二六・一〇・一〇　吉田町、矢部町、上矢部町の坂本、鳥ケ谷、戸塚町一～一五、七八～八八、五、一三一～五、一五五、五〇四三、五〇四五、五〇四八～五〇五九

昭二七・四・一　矢部町の一部（谷矢部）を編入

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	山本　宗一	昭二六・一〇・一〇	本郷小学校副校長より就任

七、児童、教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二六	一九	七七六（一七）	一〇二	一二二	谷矢部児童編入
昭二七	二二	九七〇（一九）	一〇九	一五七	
昭三〇	二六	一、一九一（二三）	二四〇	二〇五	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
東戸塚小学校ＰＴＡ	昭二六・九・一	会員　八五八名

九、その他

昭二七・六・二四　食品衛生取扱い、施設改善について市長より表彰された。

昭二九・一二・二二　踏切の安全確保に協力のため東京鉄道管理局長津田弘孝氏より感謝状を受けた。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭三〇・八・三〇	学校図書館	二〇

横浜市立大正（たいしょう）小学校

横浜市戸塚区原宿町二〇二番地
電話　戸塚　二八三番

一、設置状況

1　創立　大正五年三月三一日

2　開校　大正五年四月六日

3　設置の際の概況

大正四年八月一五日富士見村（原宿深谷、汲沢）俣野村（俣野、東俣野、山谷）長尾村の一部（小雀）を合併し大正村が出来た。そこで一村一校の建前から大正五年三月三一日村の中央である原宿中荒句二〇二番地を校地とし尋常大正小学校が創立した。当時まだ本校舎なく旧富士見小学校を第一仮校舎とし旧鳳翔小学校を第二仮校舎として四月六日より授業を開始した。当時の児童数三九六名、学級数七、職員九名であつた。

二、校名の変遷

大　五・三・三一	鎌倉郡尋常大正小学校	
大　七・四・一五	鎌倉郡尋常高等大正小学校	
大一二・四・一	鎌倉郡大正尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市大正尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市大正国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立大正小学校	

三、位置（校地）の変遷

大　五・三・三一	鎌倉郡大正村深谷セドヤト七三〇	五〇六坪　第一仮校舎
大　五・三・三一	鎌倉郡大正村山谷一四四	四九坪　第二仮校舎
大　七・三・三一	鎌倉郡大正村原宿中荒向二〇五	二八九一坪
大一五・四・一	鎌倉郡大正村原宿中荒向二〇二	四四三坪を拡張

総坪数　三、三三六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大　五・三・三一	転用	木造平屋建	一〇二	旧富士見小学校（第一仮校舎）
大　五・三・三一	転用	木造平屋建	五三	旧鳳翔小学校（第二仮校舎）
大　七・四・二七	新築	木造平屋建	一四九	・教室七
大一三・四・一七	移築	木造平屋建	五四	・第二仮校舎を本校々地に移築、教室二
大一三・四・一七	移築	木造平屋建	二〇	・第一仮校舎のうち二〇坪を移築、他は撤去
大一五・二・二八	新築	木造平屋建	二八五	・教室七
昭二七・六・二二	改築	木造平屋建	五二	・大正一三年移築のもの
昭二八・一・二九	増築	木造平屋建	二三	・教室一
昭二九・二・二〇	撤去	木造平屋建	二〇	・大正一三年移築のものを老朽のため
昭二九・四・二七	改築	木造二階建	一九四	・教室六

総坪数　五七九坪（教室一六、その他四）

五、分校の設置廃止状況

大　五・三・三一	第一仮校舎を大正村深谷セドヤト七三〇番地に設立、校舎坪数一〇二坪、教室四、児童二三七名
大一三・四・一	同分校廃止
大　五・三・三一	第二仮校舎を大正村山谷一四四番地に設置、校舎坪数六一坪、教室三、児童一五九名
大一三・四・一	同分校廃止

六、併設状況

大　六・四・一	大正村立実業補習学校併設	昭和一〇年七月一日廃止
大一五・六・三〇	大正村立青年訓練所併設	昭和一〇年七月一日廃止
昭一〇・七・一	大正青年学校併設	昭和二三年三月三一日廃止

七、学区及びその変遷

大　五・四・一	大正村（原宿、深谷、汲沢、上俣野、東俣野、影取、小雀）
昭一五・四・一	汲沢町の一部、戸塚小学校へ分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	霧生鶴太郎	大五・三・三一	大八・三・三一	県師範学校訓導より就任、麻溝小学校長へ転任
二	山田輝雄	大八・三・三一	大一一・三・三一	阿久和小学校長より就任、退職
三	柳沢静雄	大一一・三・三一	大一二・一二・三一	藤沢小学校訓導より就任、豊田小学校校長へ転任
四	江端襲郎	大一二・一二・三一	大一五・四・一〇	村岡小学校長より就任、県女子師範学校訓導へ転任
五	小島実	大一五・六・一五	昭二・七・三一	半原実業補習学校長より就任、退職
六	根本直輔	昭二・八・二二	昭四・三・三一	鎌倉第二小学校訓導より就任、三崎小学校訓導へ転任
七	山田三郎	昭四・三・三一	昭一〇・八・三一	正修小学校訓導より就任、松林小学校長へ転任
八	立木茂	昭一〇・八・三一	昭一五・六・一一	県師範学校訓導より就任、大楠小学校長へ転任
九	野地当作	昭一五・六・一一	昭一七・八・三一	大楠小学校長より就任、市場青年学校長へ転任
一〇	黒川銃三	昭一七・八・三一	昭二一・二・四	栗田谷国民学校教頭より就任、幸ヶ谷国民学校へ転任
一一	杉山清作	昭二一・二・四	昭二二・四・三〇	本郷国民学校長より就任、中和田青年学校長へ転任
一二	宮原久四郎	昭二二・四・三〇	昭三〇・五・三一	栗田谷小学校長より就任、退職
一三	福部喜四郎	昭三〇・六・一		太田小学校長より就任

九、児童、教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者		卒業者	
			尋常科	高等科	尋常科	高等科
大五	九	三九六（七）	七五	―	五八	―
大一〇	一一	五四三（九）	八二	三九	五六	三七
大一三	一三	五八三（一二）	九八	六九	六六	三九
昭二	一五	五九五（一三）	九〇	五四	六九	三三
昭五	一五	六一七（一三）	九一	六四	七四	三六
昭一〇	一六	六二三（一三）	八三	六八	八四	四五
昭一四	一八	六九一（一四）	一〇一	七七	九〇	七七
昭一五	一九	六八四（一六）	八八	六四	八三	六七
昭一八	一八	七〇一（一六）	九四	七一	九三	五五
昭二〇	二一	八四四（一九）	一三二	七二	一一五	六九
昭二三	一七	六六五（一二）	一一六	―	一一八	―
昭二五	一五	六八六（一三）	一三九	―	一一五	―
昭三〇	一九	七五七（一七）	一四七	―	一二六	―

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大正小、中学校後援会	昭二二・五・五	会員六三〇名、昭和二三年六月八日廃止
大正小、中学校PTA	昭二三・六・八	会員六四五名、昭和二六年九月三〇日小、中学校分離
大正小学校PTA	昭二六・九・三〇	会員四九五名

一一、そ の 他

昭二〇・五・一	児童疎開を戸塚区深谷町、汲沢町、俣野町、東俣野町、小雀町へ教職員一〇名、児童六〇七名
昭二五・五・一九	子供銀行成績優良につき県信用農業組合連合会より表彰
昭三一・四・二五	交通安全につき県公安委員会より表彰

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
大一五・一〇・二四	職員住宅	四六	
昭一八・一〇・四	防火貯水池	二一	
昭二六・七・二	給食室	九	
昭二八・三・三一	図書室	八	蔵書数五八七冊

横浜市立中和田（なかわだ）小学校

横浜市戸塚区和泉町三七二一番地
電　話　戸　塚　五　八　一　一　番

一、設置状況

1　創立　明治二五年五月一七日
2　開校　明治二五年五月一七日
3　設置の際の概況

明治二三年六月頃一村一校の建議があり、時の村長清水源右ェ門氏が之を村会にはかり村民の意見を徴し、官の許可を得て、飯田学校、和泉学校、中田学校を合併し、本校と三分教場とし、明治二四年八月校舎改築を起工し十二月末完成、明治二五年一月十五日より旧校生徒の組織を解き尋常科生徒の通学区域を現今のように改め、新教場に於て授業を開始した。明治二五年五月七日、三校を廃し即日尋常中和田小学校として開校した。

二、校名の変遷

明二五・五・一七	尋常中和田小学校	
明四一・四・一	尋常高等中和田小学校	
大一二・四・一	中和田尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市中和田尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市中和田国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立中和田小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二五・五・一七	鎌倉郡中和田村和泉地蔵原	一、〇四八坪
大八・不詳		三〇〇坪を拡張
大一四・九・不詳	和泉新宿三七二一番地外三三筆	六、四六五坪に移転
昭一四・四・一	横浜市戸塚区和泉町三、七二一番地と町名改正	

総坪数　六、四六五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二五・一・一五	新築	木造平屋建	七七	
明二九・八・不詳	新築	木造平屋建	二六	
明三〇・九・九	罹災	木造平屋建	五八	大暴風により倒潰
明三一・一〇・不詳	新築	不詳	不詳	不詳
明四三・三・不詳	新築	不詳	不詳	教室三
大五・一〇・二五	新築	木造平屋建	七五	教室三
大一五・一〇・一五	新築及び移築	木造平屋建	一、二三七	三棟を新築、旧校舎二棟を移築、教室二一

総坪数　一、二三七坪（教室一九、その他七）

五、分校、分教場設置廃止状況

明二五・五・一七	東部分教場を中田に設置、校舎坪数九坪、教室一、児童四名
明二五・五・一七	北部分教場を上飯田大塚に設置、校地四五六坪、校舎九坪、教室一、児童一九名
明二五・五・一七	南部分教場を和泉に設置、校地二九〇坪、校舎九坪、教室一
明二九・八・不詳	北部及び南部分教場はそれぞれ校舎九坪を増築
明三四・一二・不詳	東部分教場は増築し三二坪、二教室となる
明三九・九・不詳	東部分教場は一六坪増築し四八坪、三教室となる
大七・六・二〇	北部分教場改築し七七坪、教室二となる
大一〇・六・二八	南部分教場は校地を和泉赤坂九八八番地七三一坪に移転、校舎を移築八七坪、二教室と職員住宅となる。

昭 三・一〇・ 二	東部分教場は校舎新築六三坪となり旧校舎は撤去
昭一八・ 一・二六	北部分教場は火災のため全焼、和泉町民家三及び日枝神社を仮校舎とした。
昭二一・ 六・一五	北部分教場校舎新築九四坪、二教室職員住宅となる
昭二三・不　 詳	南分校は校地一、二三八坪を拡張一、九六九坪となる
昭二三・不　 詳	北分校は校地一、〇九〇坪を拡張一、五四六坪となる
昭二三・ 四・一五	東分校は旧桑原部隊兵舎に移転
昭二五・ 四・一五	南分校は七一坪増築、一五八坪となる
昭二六・ 七・一六	北分校は七一坪増築、一六五坪となる
昭二六・ 九・ 一	東分校は中田小学校として独立のため廃止

六、併設状況

明三九・一一・二七	農業補習学校併設	昭和一〇年七月一日廃止
大一〇・ 四・ 一	実業補習学校併設	昭和一〇年七月一日廃止
大一五・ 六・三〇	中和田村立青年訓練所併設	
昭一〇・ 七・ 一	中和田青年学校併設	昭和二三年三月三一日廃止

七、学区及びその変遷

明二五・ 五・一七	中和田村（上飯田、下飯田、和泉、中田）
昭一四・ 四・ 一	上飯田町、下飯田町、和泉町、中田町（横浜市編入のため町名改正）
昭二六・ 九・ 一	中田町は中田小学校設置のため分離

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	山田　専成	明二五・ 五・一七	大 三・ 三・二五	飯田学校より就任、退職
二	山田豊次郎	大 三・ 三・二五	昭 六・一二・三一	中和田小学校首席訓導より就任、退職
三	青木　竜助	昭 七・ 一・ 四	昭 九・ 九・二九	新田小学校長より就任、死亡退職
四	高松良太郎	昭 九・ 九・三〇	昭一三・ 四・ 九	永野小学校長より就任、田奈小学校長へ転任
五	草柳　良蔵	昭一三・ 四・ 九	昭一七・ 三・三一	平塚第二小学校長より就任、上秦野国民学校長へ転任
六	上原　連	昭一七・ 三・三一	昭一八・ 八・三一	小田原市大窪国民学校より就任、退職
七	熊沢　金造	昭一八・ 八・三一	昭二〇・一〇・二五	川上国民学校教頭より就任、中山国民学校長へ転任
八	重久　祐麿	昭二〇・一〇・二五	昭二七・ 四・三〇	西大口国民学校長より就任、退職
九	平野　誠也	昭二七・ 五・ 一		新田小学校長より就任

九、児童、教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
明二五	六	三八七（五）	—	—	五〇	四
大一〇	一七	九一八（一六）	一四八	六八	一一六	四五
大一三	一九	九九三（一七）	一五五	七七	一二五	六五
昭二	二二	一、〇一六（一九）	一四二	九一	一四七	六九
昭五	二四	九七八（二一）	一二七	九九	一一四	八〇
昭一〇	二二	一、〇三三（一九）	一四七	九九	一二四	八四
昭一五	二五	一、一二七（二三）	一八二	一〇三	一四二	九七
昭一八	二七	一、〇一五（二四）	一五九	一一五	一六六	一〇六
昭二〇	三四	一、五六一（二九）	一八四	一三九	二三七	一二〇
昭二三	三〇	一、三二二（二六）	二四七	—	二三七	—
昭二五	三五	一、三五〇（三二）	二五〇	—	一六七	—
昭二六	三五	八三七（二一）	一三八	—	一三八	—
昭三〇	二四	八〇六（二一）	一三七	—	一三六	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日

中和田教育後援会	昭二二・一〇・一	
中和田教育振興会	昭二二・不　詳	
中和田小学校ＰＴＡ	昭二四・二・一	会員八五〇名

一一、そ の 他

昭二〇・五・一　学区域内神社、寺院に児童疎開を行つた

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一八・九・不詳	防火用貯水槽	六〇立方米	本校
昭二八・四・不詳	防火用貯水槽	二〇立方米	南分校
昭二九・九・不詳	防火用貯水槽	二〇立方米	北分校

横浜市立中田（なかだ）小学校

横浜市戸塚区中田町一〇一七番地
電　話　戸　塚　四　二　九　番

一、設 置 状 況

1　創立　昭和二六年九月一日
2　開校　昭和二六年一〇月一日
3　設置の際の概況

中田町には以前より中和田小学校東部分教場があつて学童のうち一、二年生を収容していた。終戦後当地に駐屯していた海軍陸上部隊が廃止されて間もなく昭和二二年四月、その兵舎跡に中和田中学校が開校し、中和田小学校東部分教場も又、ここに仮教室を増設して三年以下の学童約三〇〇人を収容した。その後、昭和二六年九月、中和田中学校が他に校舎を新築して移転したのでその跡に中田町全学童約六〇〇名を収容し、中和田小学校より分離独立して校名を横浜市立中田小学校と称し発足した。

二、校 名 の 変 遷

昭二六・九・一　横浜市立中田小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二六・九・一　戸塚区中田町一〇一七番地　八八六四坪（国有地）

四、校 舎 の 変 遷

年 月 日	変遷類別	構 造	建坪	備 考
昭二六・九・一	借 用	木造平屋建	六六二	・仮兵舎を転用
昭二七・二・八	新 築	木造平屋建	一一	・給食調理室
昭二八・四・三〇	改 築	木造二階建	二六一	・教室六
昭二九・五・二九	改 築	木造二階建	二〇三	・教室六
昭三〇・一〇・一五	撤 去	木造平屋建	六四六	・国有財産であつたため関東財務局で競売
昭三〇・一一・一〇	新 築	木造平屋建	一〇	・体育用具室としてＰＴＡにて建て市に寄附

総坪数　五〇一坪（教室一六、その他四）

五、学区及びその変遷

昭二六・九・一　中田町

六、歴 代 校 長

代	氏 名	就任年月日	
一	小島　美作	昭二六・九・一	中和田小学校副校長より就任

七、児童、教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二六	一三	五九五（一二）	八五	九八
昭三〇	一八	六九〇（一五）	一二八	一〇八

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
中田小学校建設促進会	昭二六・四・八	会員数約七五〇名、昭和三一年五月一五日解散
中田小学校ＰＴＡ	昭二六・九・一〇	会員四五二名

九、その他

昭二八・一二・八　子ども貯金優良校として神奈川県貯蓄推進会長より表彰状を受く

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三一・五・一五	学校林	八〇〇	学校敷地の一部に松苗三〇〇〇本の植付、篤志家の寄付による。

横浜市立瀬（せ）谷（や）小学校

横浜市戸塚区瀬谷町四二二五一番地
電話　瀬谷　二五番

一、設置状況

1　創立　明治二三年一一月一五日
2　開校　明治二三年一一月一五日
3　設置の際の概況

明治六年旧瀬谷村旧二ッ橋村は各々一校を建て、旧宮沢村は旧阿久和村と合して一校を建てた。通学区域が広いため児童の通学に不便を感じ上瀬谷地域に若宮学校を、下瀬谷地域に新道学校を建てた。明治二〇年若宮、新道の両校は徳善寺を本校とし統合した。更に明治二三年市町村制の実施により旧瀬谷村、旧二ッ橋村、旧宮沢村を合せて一村となつた為、二ッ橋学校を廃し宮沢を阿久和組合より分離して瀬谷村字相沢四二五一番地に瀬谷学校を創立、上瀬谷は妙光寺に、下瀬谷は勢至堂に分教場を設けた。

二、校名の変遷

明二三・一一・一五	瀬谷学校	
明二五・四・一	鎌倉郡尋常高等瀬谷小学校	
大一二・四・一	鎌倉郡瀬谷尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市瀬谷尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市瀬谷国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立瀬谷小学校	

三、位置（校地）の変遷

明二三・不詳	鎌倉郡瀬谷村四二五一番地	八一五坪
大一〇・不詳	鎌倉郡瀬谷村四二五一番地	一、一三〇坪を拡張
昭八・五・不詳	鎌倉郡瀬谷村四二五一番地	六〇〇坪を拡張
昭九・五・不詳	鎌倉郡瀬谷村四二五一番地	一、〇七〇坪を拡張
昭一四・四・一	戸塚区瀬谷町四二五一番地	横浜市編入により町名改正

総坪数　三、五〇〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二三・一一・一五	新築	木造平屋建	不詳	・教室三、その他二
明二八・不詳	増築	木造平屋建	不詳	・教室一
大一〇・一一・不詳	改築	木造平屋建	一九三	・教室六、その他二
大一一・不詳	改築	木造平屋建	一七〇	・教室七
昭三・一〇・不詳	増築	木造平屋建	一五〇	・教室四、講堂
昭三・一〇・不詳	増築	木造平屋建	一一〇	・教室四
昭二五・三・不詳	罹災	木造平屋建	一九三	・火災により焼失
昭二六・三・不詳	新築	木造二階建	五四	・教室三、その他二
昭二八・三・不詳	増築	木造二階建	八二	・教室四
昭二九・三・不詳	増築	木造二階建	一二七	・教室八
昭三一・七・二七	増築	木造二階建	四一	・教室二

総坪数一、〇一一坪（教室三四、その他三）

五、分校、分教場の設置廃止状況

明二三・一一・一五	上瀬谷分教場を瀬谷村六九一三番地妙光寺境内に設置、教室一
明二三・一一・一五	下瀬谷分教場を瀬谷村二一四番地勢至堂に設置、教室一
明二五	上瀬谷分教場、校舎増築坪数五〇、教室二となる

明二五・不詳	下瀬谷分教場、校舎増築坪数四〇、教室二
昭一九・三・不詳	下瀬谷分教場は宮沢部落児童を原小学校へ分離のため廃止
昭二三・九・一	上瀬谷分教場、横浜市上瀬谷小学校として独立のため廃止
昭三〇・五・一	下瀬谷分校を瀬谷町一〇九三番地に設置、校舎坪数一六四、教室三、児童二七七名
昭三一・八・三	下瀬谷分校五四坪増築

六、統併合、分離、併設状況

明二三・一一・一五	若宮、新道両学校を瀬谷学校に統合す
明三九・六・八	農業補習学校併設
大六・三・不詳	女子実業補習学校併設
大一三・三・不詳	農業補習学校と女子実業補習学校を統合し瀬谷実業補習学校として併設す、昭和一〇年四月一日廃止
大一五・七・不詳	青年訓練所併設、昭和一〇年四月一日廃止
昭一〇・四・一	瀬谷村立青年学校併設、昭和二三年三月三一日廃止

七、学区及びその変遷

明二三・一一・一五	瀬谷村	
昭一四・四・一	戸塚区瀬谷町、二ッ橋町、宮沢町	（横浜市編入による町名改正）
昭一九・三・一	宮沢町は原小学校区となり分離	
昭二三・九・一	瀬谷町一部上瀬谷小学校学区となる	

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中丸　助蔵	明三九・九・一	明四二・六・三〇	退職
二	梅沢登喜三	明四二・一二・一	明四四・一一・一	退職
三	仙田四五郎	明四五・六・一八	大七・五・三一	退職
四	古谷　専三	大七・九・三〇	大八・九・三〇	本校訓導より昇任、退職
五	青木　竜助	大八・一〇・三一	昭二・三・三〇	本校訓導より昇任、新田小学校へ転任

六	長塚兵次郎	昭二・三・三一	昭八・九・三〇	退職
七	岩本　正義	昭八・九・三〇	昭一四・九・不詳	日吉台小学校長より就任、平塚市須賀小学校長へ転任
八	井上芳之助	昭一四・九・不詳	昭二二・五・不詳	平塚市大田小学校長より就任、退職
九	井上　敬三	昭二二・五・不詳	昭二五・五・一〇	山下小学校長より就任、田奈小学校長へ転任
一〇	原　政吉	昭二五・五・一〇	昭二九・四・三〇	田奈小学校長より就任、二谷小学校長へ転任
一一	柿沢　精一	昭二九・五・一		都岡小学校より就任

九、児童、教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
明二三	四	一三九（　四）	不詳	不詳
明三〇	七	四〇七（　六）	不詳	不詳
明四〇	一一	五六五（一一）	不詳	不詳
大　六	一四	六一〇（一二）	不詳	不詳
昭　二	一九	七四四（一六）	不詳	不詳
昭一一	一九	八二四（一六）	不詳	不詳
昭一五	一九	八三〇（一七）	不詳	不詳
昭二五	二四	八二一（二〇）	一一九	八六
昭三〇	三一	一、五四二（二八）	二九六	三二一

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
瀬谷小学校ＰＴＡ	昭二二・五	会員一、一〇〇名
瀬谷小学校舎増築促進委員会	昭二五・四	

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・三	給食室	二二	

横浜市立瀬谷（せや）小学校二ツ橋分校

横浜市戸塚区二ツ橋町四七〇番地
電話瀬谷四八の甲番

一、設置状況

1　創立　昭和二三年一二月二五日

2　開校　昭和二三年一二月二九日

3　設置の際の概況

昭和二三年一二月二五日、横浜市二ツ橋学園条例が公布施行され、本市学校児童中の結核患者を収容して適正な診療並びに保護を行う施設として横浜市二ツ橋学園が設置された。当学園は児童を寄宿舎に収容し治療と共に小学校教育も併せ行うこととなり、瀬谷小学校二ツ橋分校が開設された。当時は五、六学年児童のみを収容し、定員八〇名。収容期間六カ月（四月から九月までを前期、一〇月から翌年三月までを後期とする）である。

二、校名の変遷

昭二三・一二・二五　横浜市立瀬谷小学校二ツ橋分校

三、位置の変遷

昭二三・一二・二五　戸塚区二ツ橋町四七〇番地　一六、五五四坪市有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二三・一二・二五	新築	木造平屋建	四七二	・教室五
昭二八・六・一五	新築	木造平屋建	二一六	・児童宿舎
昭二九・五・五	新築	木造平屋建	二一三	・児童宿舎
昭三〇・一〇・二四	撤去	木造平屋建	一四三	・前記児童宿舎を新築したので老朽した宿舎を撤去した。

総坪数　七五九坪（教室五、その他一六、病室二〇）

五、学区及びその変遷

昭二三・一二・二五　横浜市全区域

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	井上　敬三	昭二三・一二・二五	昭二五・五・一〇	山下小学校長より就任、田奈小学校へ転任
二	原　政吉	昭二五・五・一〇	昭二九・四・三〇	田奈小学校長より就任、二谷小学校へ転任
三	柿沢　精一	昭二九・五・一		都岡小学校より就任

七、歴代園長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	本荘栄太郎	昭二三・一二・二五	昭二九・九・七	退職
二	渡部　光雄	昭二九・九・七		本園医師より昇任

八、児童、教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）前期	児童総数（学級数）後期	入学者 前期	入学者 後期	修了者 前期	修了者 後期
昭二三	三	―	四三（三）	―	四三	―	四三
昭二五	三	八三	七二（三）	八三	七二	八三	七二
昭三〇	四	九八	七一（四）	九八	七一	九八	七一

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二三・一二・二五	食堂及び炊事室 医療室	五四 二六	
昭二八・六・一五	児童宿舎	一二四	
昭二九・五・五	児童宿舎	一二四	

横浜市立上（かみ）瀬（せ）谷（や）小学校

横浜市戸塚区瀬谷町七一四〇番地
電話　瀬谷四七番

一、設置状況

1　創立　昭和二三年九月一日
2　開校　昭和二三年九月一日
3　設置の際の概況

上瀬谷には学制頒布の頃より若宮学校があり、明治二三年瀬谷学校に合併し旧校舎は瀬谷学校の分教場となり、妙光寺域内にあつ

た。昭和二二年九月、上瀬谷分教場移転促進委員会が結成され、現在地に移転され、旧海軍施設の改築をはかつた。つづいて上瀬谷分教場独立促進委員会をつくり、目的達成につとめ、二三年三月移転改築が完成し、四月一五日落成式を挙行、昭和二三年九月一日横浜市立上瀬谷小学校として開校した。

二、校名の変遷

昭二三・九・一　横浜市立上瀬谷小学校

三、位置（校地）の変遷

昭二三・四・一　戸塚区瀬谷町七一四〇　六、〇八五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二三・四・一	改築	木造平屋建	二〇一	・教室六
昭二六・一〇・二三	新築	木造平屋建	一〇	・給食調理場
昭二七・九・二	新築	木造平屋建	一〇	・作業員室
昭二七・一〇・四	改築	木造平屋建	四八	・衛生室、資料室、図書室、閲覧室
昭二八・二・一〇	改築	木造平屋建	一八	・職員室
昭二八・一〇・八	改築	木造平屋建	不詳	・講堂

総坪数　三四六坪（教室六、その他九）

五、学区及びその変遷

昭二三・四・一　瀬谷町のうち中屋敷、竹村、上瀬谷、五貫目

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	伊沢新一郎	昭二三・九・一	昭二七・四・三〇	子安小学校教頭より就任、城郷小学校長へ転任
二	菊島陽一	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	都岡小学校長へ転任
三	白井勳二	昭三一・九・一		原小学校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二三	八	二二一（六）	四三	三七
昭二五	九	二三〇（六）	三九	三五
昭三〇	八	一八七（六）	三八	三二

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
上瀬谷小学校父母と先生の会	昭二三・九・一	会員二五〇名
給食調理室便所増築促進委員会	昭二四・四・一	昭和二七年九月一日廃止
創立五周年記念事業委員会	昭二八・五・一	昭和二八年一〇月八日解散

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二六・一〇・二三	給食調理場	一〇

横浜市立原（はら）小学校

横浜市戸塚区阿久和町三四〇〇番地
電話　新橋局　二〇番

一、設置状況

1　創立　昭和一八年一〇月一九日
2　開校　昭和一八年一〇月一九日
3　設置の際の概況

昭和一八年八月二七日、横浜市岡津国民学校の分校として開校した。当時既に原国民学校として独立することは明瞭であつたが市参事会の開催の時期の関係で独立の運びには到らなかつた。同年一〇月一九日にいたり、横浜市立原国民学校として認可され、一〇月二七日、創立記念式及び祝賀大運動会が盛大におこなわれた。

二、校名の変遷

昭一八・八・二七　横浜市岡津国民学校阿久和分校
昭一八・一〇・一九　横浜市原国民学校
昭二二・四・一　横浜市立原小学校

三、位置（校地）の変遷

昭一八・八・二七　戸塚区阿久和町三四〇〇　四七五三坪市有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一八・八・二七	新築	木造二階建	一五七	・教室七
昭二〇・一二・一〇	移築	木造平屋建	二八二	・旧岡津国民学校阿久和分教場を移築
昭二二・五・五	転用	木造二階建	一五七	・教室七、原中学校へ転用
昭二四・五・一六	新築	木造二階建	二九〇	・教室九、二階建校舎を中学校とし、中学校として建設した本校舎を小学校とした

総坪数　三二二坪（教室九、その他四）

五、分校の設置廃止状況

昭三〇・五・一　原小学校三ツ境分校を戸塚区阿久和町四五三〇に設置、校舎坪数一一六坪、教室四、児童四〇三名、昭和三一年三月三一日、三ツ境分校は横浜市立三ツ境小学校として独立のため廃止

六、学区及びその変遷

昭一八・一〇・一九　阿久和町、宮沢町
昭三一・四・一　阿久和町のうち四〇〇三、四〇〇四、四〇〇七の一、四〇〇八—四〇三九、四四三七—四四七八、四四八五—四六七〇は三ツ境小学校設置のため分離

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	金子　芳蔵	昭一八・一〇・一九	昭二〇・五・三一	岡津国民学校教頭より就任、岡津国民学校長へ転任
二	白井　勳二	昭二〇・五・三一	昭三一・八・三一	本校教頭より就任、上瀬谷小学校長へ転任
三	中出　秀男	昭三一・九・一		桜台小学校長より就任

八、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
昭一八	九	三〇〇（七）	二三九	六一	三八	三〇
昭二〇	一〇	三四〇（八）	五五	二九	五四	三一
昭二二	一〇	三一九（八）	七一	—	五三	—

昭二五	一二	三二一（九）	六四	―	四七	―
昭三〇	一三	三五六（一〇）	五四	―	六五	―

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
原小学校PTA	昭二三・四・一	会員三一一名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二〇・四・三〇	牛舎	一五
昭二五・八・一七	貯水池	
昭二七・六・一九	給食調理室	一〇

横浜市立岡津（おかず）小学校

横浜市戸塚区岡津町二三一一番地
電話　新橋　四番

一、設置状況

1 創立　大正一〇年四月一日
2 開校　大正一〇年四月一日
3 設置の際の概況

本校は大正一〇年四月一日、旧尋常高等共進小学校を第一仮校舎とし、旧尋常岡津小学校を第二仮校舎とし旧尋常阿久和小学校を第三仮校舎として開校した。同年八月中川村岡津二、三一一番地に新校舎を建設、九月一日より仮校舎を廃して新校舎に児童を収容阿久和の第三仮校舎を第四学年以下を二学級に編成して分教場とした。

二、校名の変遷

大一〇・四・一	鎌倉郡中川村立尋常高等小学校	
大一二・四・一	鎌倉郡中川尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市岡津尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市岡津国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立岡津小学校	

三、位置（校地）の変遷

大一〇・二・一六	鎌倉郡中川村岡津二三一一番地外	四五五五坪
大一〇・九・一	鎌倉郡中川村阿久和二六五三番地外	九二五坪、阿久和分校敷地、昭和一八年一一月二六日原国民学校として独立
昭二〇・一一・三	横浜市戸塚区新橋町一四〇七番地外	五五八三坪、戦災により校舎焼失のため日本火工青年学校校舎を買収移転
昭二四・四・二〇	横浜市戸塚区岡津町二三一一番地外	四五五五坪、新校舎建設のため移転

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一〇・四・一	転用	木造平屋建	一七〇	・旧共進小学校々舎
			四五	・旧岡津小学校々舎
			一二〇	・旧阿久和小学校々舎
木一〇・八・三一	廃止	大造平屋建		・旧共進岡津小学校々舎は廃止 ・旧阿久和小学校は分教場として残存
大一〇・八・三一	新築	木造平屋建	四二五	・教室一四

昭二・四・一二	新築	木造平屋建	一〇〇	・教室四
昭七・九・五	新築	木造平屋建	二五	・教室一
昭一二・三・八	新築	木造平屋建	一〇〇	・教室四
昭二〇・四・二三	罹災	木造平屋建	六五〇	・戦災により焼失
昭二〇・一〇・九	借用	木造平屋建	二八	・名瀬町の兵舎
昭二〇・一一・二一	借用	木造一部二階建	五四五	・新橋町の日本火工青年学校々舎を借用教室一〇
昭二一・四・一五	移築	木造平屋建	七二	・名瀬町に元兵舎を移築
	移築	木造平屋建	九五	・戦災焼跡に元兵舎を移築
昭二一・八・三〇	買収	木造一部二階建	五四五	・借用中の日本火工青年学校々舎を買収
昭二二・五・一	貸与			・講堂及附属室を岡津中学校へ
昭二三・四・一	貸与			・教室二を岡津中学校へ
昭二四・四・二〇	新築	木造平屋建	三九八	・校地移転、教室一一
昭二四・四・二〇	転用	木造一部二階建	五四五	・旧校舎を岡津中学校へ（既貸与分を含めて）
昭二四・四・二〇	借用	木造平屋建	一六一	・岡津中学校より講堂及び附属室を借用、昭和二六年五月八日まで
昭二五・六・七	移築	木造平屋建	四六	・名瀬分教場を移築物置とする
昭二六・五・八	増築	木造平屋建	五八	・教室二

総坪数　六一九坪（教室一六、その他五）

五、分教場の設置廃止状況

大一〇・九・一	阿久和分教場を中川村阿久和二六三五番地に設置、校舎坪数一二〇坪、教室三、児童八二名
昭一八・一一・二六	阿久和分教室原国民学校として独立廃止
昭二〇・一〇・九	名瀬分教場を戸塚区名瀬町七二二番地に設置、校舎坪数二八坪、教室二、児童六八名
昭二一・四・一五	岡津分教場を戸塚区岡津町二三一一番地に設置、校舎坪数九五坪、教室三、児童一二九名
昭二四・四・二〇	名瀬分教場を本校に収容し廃止
昭二四・四・二〇	岡津分教場を廃止し本校々舎として使用
昭二四・四・一	新橋分教場を戸塚区新橋町一四〇七番地に設置、校舎坪数一六〇坪、教室三、児童一五二名
昭二六・三・三一	新橋分教場本校舎増築により廃止

六、分離・併設状況

大一〇・四・一	中川村立実業補習学校併設
大一五・六・三〇	中川村立青年訓練所併設
昭一〇・四・一	中川村立青年学校併設
昭一八・一一・二一	阿久和分教場は原国民学校として独立のため分離
昭二二・五・一	岡津中学校併設
昭二四・四・二〇	同中学校分離

七、学区及びその変遷

大一〇・四・一	中川村（阿久和、岡津、上矢部、名瀬、秋葉
昭一四・四・一	阿久和町、新橋町、岡津町、名瀬町、上矢部町（横浜市編入により町各変更）
昭一八・一一・二六	新橋町、岡津町、名瀬町、上矢部町

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	鈴木　茂八	大一〇・三・三一	大一二・一・一〇	共進小学校長より就任、大島小学校訓導へ転任
二	金坂　倜衛	大一二・一・二〇	昭　二・三・三一	鎌倉小学校訓導より就任、退職
三	小川　兵造	昭　二・三・三一	昭　八・三・三一	深沢小学校長より就任、正修小学校長へ転任
四	亜雁　清八	昭　八・三・三一	昭二〇・四・一一	中原小学校長より就任、死亡退職
五	金子　芳蔵	昭二〇・五・三一	昭二二・四・三〇	原国民学校長より就任、岡津中学校長へ転任
六	石井　直吉	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一五	星川小学校長より就任、退職
七	北井　保孝	昭二四・四・一五		本郷小学校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者 尋常科	入学者 高等科	卒業者 尋常科	卒業者 高等科
大一〇	一五	七一〇（一五）	一〇四	四二	九六	四二
大一三	一六	七五二（一五）	一〇一	七三	九五	六九
昭二	一八	七五四（一六）	一〇三	六七	一一三	六一
昭五	二〇	七五一（一八）	一〇五	六一	七七	六三
昭一〇	二四	八〇〇（一九）	一〇九	七四	一〇四	六七
昭一五	二三	八六〇（一九）	一一四	八三	一一六	七五
昭一八	二四	八五七（一九）	一一一	七六	一一八	七三
昭二〇	二七	八二三（二〇）	一一四	七〇	一一六	七一
昭二三	二三	七二三（一八）	一一五	七八	一一七	—
昭二五	二三	七六二（一七）	一四九	—	一〇〇	—
昭三〇	一九	七七〇（一七）	一五一	—	一三九	—

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
岡津学区教育振興会	昭二三・三・一	昭和三〇年三月三一日廃止
岡津小学校ＰＴＡ	昭二三・四・一	会員七三九名

一一、その他

昭二〇・五・五　児童疎開を学区内観音寺、西林寺、弘導寺、大善寺、妙法寺、西蓮寺、農業会に行つた。教職員二一名、児童八二二名

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二四・四・一五	給食室	一〇・五坪
昭二五・一一・一〇	防火貯水池	一二

横浜市立川上（かわかみ）小学校

横浜市戸塚区柏尾町六三七番地
電話　戸塚　二七七番

一、設置状況

1　創立　明治三六年一二月一日
2　開校　明治三六年一二月一日
3　設置の際の概況

明治三六年以前すでに村内に正進、敬譲小学校等があつたのを合して一校とし尋常高等川上小学校と称した。なお正進小学校を南部、敬譲小学校を北部分教場とした。

二、校名の変遷

明三六・一二・一	鎌倉郡尋常高等川上小学校	
大一二・四・一	鎌倉郡川上尋常高等小学校	
昭一四・四・一	横浜市川上尋常高等小学校	市編入により校名改称
昭一六・四・一	横浜市川上国民学校	
昭二二・四・一	横浜市立川上小学校	

三、位置（校地）の変遷

明三六・一二・一	鎌倉郡川上村下柏尾六三七番地	
大一五・一〇・一〇	鎌倉郡川上村下柏尾六三七番地	校地拡張し二、一一二坪となる
昭二九・五・九	横浜市戸塚区柏尾町六三七番地	二六〇坪を拡張

総坪数　二、三七二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明三六・一二・一	改築	木造二階建	一八〇	・教室八
明四四・四・一	増築	木造平屋建	七一	・教室二
大一一・二・三	増築	木造二階建	一三二	・教室五
大一二・九・一	罹災	木造二階建	一一八	・大震災で罹災
大一五・三・一〇	新築	木造二階建	一九〇	・教室五
昭八・四・一	増改築	木造二階建	三七七	・教室一二
昭二九・五・九	増改築	木造二階建	一〇七	・教室四

総坪数　七九三坪（教室一五、その他八）

五、分校・分教場の設置廃止状況

明三六・一二・一　南部分教場（旧尋常正進小学校）を川上村、舞岡三五四五番地に設置、校舎坪数二八坪、教室一、児童三七名。（現在の南分校）

北部分教場（旧尋常敬譲小学校）を川上村平戸七二五番地に設置、校舎坪数三六坪、教室一、児童四一名。（現在の北分校）

六、併設状況

大一〇・四・一	川上実業補習学校を併設
大一五・六・三〇	川上村立青年訓練所を併設
昭一〇・七・一	川上村立青年学校を併設
昭二三・三・三一	川上青年学校廃止

七、学区及びその変遷

明三六・一二・一	川上村（舞岡、下柏尾、上柏尾、前山田、後山田、平戸、品濃）
昭一四・四・一	舞岡町、柏尾町、上柏尾町、前田町、川上町、平戸町、品濃町
昭一五・四・一	秋葉町、を編入

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	榊原敬太郎	明三六・一一・二六	大四・九・一五	阿久和小学校へ転任
二	永野房吉	大四・九・一五	大一〇・一一・一五	退職
三	三橋正太郎	大一〇・一一・一五	昭三〇・二・一	退職
四	鈴木亮一	昭三〇・二・二		山元小学校副校長より就任

九、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者
大一〇	一四	五二六（一二）	一一六	一〇八
大一三	一四	五三六（一二）	一〇四	一〇七
昭二	一五	五三五（一三）	一一三	一一四
昭五	一五	五四七（一三）	一二九	一一〇
昭一四	一五	六〇五（一三）	二一七	一五〇
昭一五	一五	五八三（一三）	一七六	一四〇
昭一八	一七	六六四（一五）	一一五	一三四
昭二〇	二二	一、〇〇五（一九）	一一一	一七九
昭二二	一八	八七七（一五）	一二〇	一二七
昭二五	二二	六五三（一九）	一五四	一一一
昭三〇	二二	八七九（一九）	一八一	一五四

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
川上小学校ＰＴＡ	昭二二・七・二五	会員七六八名

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・五・二〇	給食調理室	二四	
昭三〇・三・三一	図書館		蔵書数四〇一冊

横浜市立西本郷（にしほんごう）小学校

横浜市戸塚区小菅ヶ谷町一八〇五番地
電話　大船二五五九番

一、設置状況

1 創立　昭和三一年四月一日

2 開校　昭和三一年四月二日

3 設置の際の概況

横浜市立本郷小学校はその通学区域の中央部に元海軍燃料廠が設けられていたため学区域が分断されていた。学童数の激増、教室不足により、笠間町方面に一校新設する必要があり、昭和一四年その決定がなされ、敷地の買収もすんだが、時局の切迫により、止むなく中止となり、昭和二七年三月、分校建設委員会が組織され同年九月二〇日、戸塚区小菅ヶ谷町に敷地を得て四教室を新築し、本郷小学校西分校として開校した。その後、二八・二九両年度に更に四教室増築し、独立を目的として西分校後援会を結成、施設内容の整備につとめ、昭和三一年四月一日、分校開校以来四年を経て独立校として開校した。

二、校名の変遷

昭三一・四・一	横浜市立西本郷小学校	地元民から校名のアンケートをとり、本郷地区の西部に位するため

三、位置（校地）の変遷

昭二七・九・二二	戸塚区小菅ヶ谷町一、八〇五番地	三〇二五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二七・九・二二	新築	木造二階建	一四六	・教室四
昭二八・三・一一	増築	木造二階建	一一三	・教室二
昭二八・四・六	増築	木造平屋建	二四	・給食場
昭三〇・五・四	増築	木造二階建	七三	・教室二

総坪数　三六六坪（教室八、その他六）

五、学区及びその変遷

昭三一・四・一　戸塚区笠間町、小菅ヶ谷町（但し一一三五・二一二九、二四二七―二六五六、二七〇一、二七〇二を除く）

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	角田　実	昭三一・四・一	八景小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）
昭三一	一四	五二〇（一二）

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
西本郷小学校PTA	昭三一・五・三	会員四一〇名
西本郷小学校後援会	昭三一・六・九	会員八九〇名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二八・四・六	給食調理場	二四

横浜市立三（み）ツ（つ）境（きょう）小学校

横浜市戸塚区阿久和町四五三〇番地
電話　戸塚　四　二　番

一、設置状況

1　創立　昭和三一年四月一日

2　開校　昭和三一年四月一日

3　設置の際の概況

昭和三〇年一月一二日、瀬谷小学校三ッ境方面校として起工式を挙行、同年五月一日横浜市立原小学校三ッ境分校として児童を原小学校より二八名、瀬谷小学校より三七五名計四〇三名を迎えて開校し、昭和三一年四月一日、原小学校より分離、横浜市立三ツ境小学校として独立開校した

二、校名の変遷

昭三一・四・一　横浜市立三ッ境小学校

三、位置（校地）の変遷

昭三〇・一・一二	戸塚区阿久和町四五三〇番地	三三一〇坪
昭三〇・八・二	戸塚区阿久和町四四五二番の一	一四三一坪を拡張

総坪数　四、七四一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭三〇・五・一	新築	木造二階建	一一六	・教室五、その他二
昭三一・三・一五	改築	木造平屋建	一五	・大綱小学校旧校舎を払い下げて改築
昭三一・七・三一	新築	木造二階建	九六	・教室六
昭三一・七・三一	新築	木造平屋建	二八	・給食室と外廊下

総坪数　四二二坪（教室一一その他三）

五、学区及びその変遷

昭三一・四・一　阿久和町四〇〇三、四〇〇四、四〇〇七ノ一、四〇〇八―四〇三九、四四三七―四四七八、四四八五―四六七〇

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	広瀬　亘	昭三一・四・一	原小学校副校長より就任

七、児童・教職員数

年度	教職員数	児童総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭三一	一七	六三三（一四）	一八二	―	五年生以下

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
三ツ境小学校建設委員会	昭三〇・三・五	同年九月一日後援会に発展解消
三ツ境小学校ＰＴＡ	昭三一・四・一	会員四五〇名
三ツ境小学校後援会	昭三一・四・一	会員九五〇名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭三一・七・三一	給食室	二四
昭三一・一二・二四	プール	二五米×七米×一米

新学制により廃校になつた小学校

横浜市鶴見（つるみ）国民学校

創立　昭和一〇年一〇月一日
廃校　昭和二一年二月二〇日

本校は高等科教育が重視されたため高等科を一校にまとめて設備を充実して教育するようになり、豊岡、市場、潮田、下野谷の各小学校の高等科の生徒を収容して、昭和一〇年一〇月一日横浜市鶴見高等小学校として創立した。校地は鶴見町一、二三七番地三、三一六坪、校舎の第一期工事は同年一二月二七日建坪六三五坪が完成、一一年六月三〇日に第二期工事六四四坪が完成、更に一五年三月二七日に一一一坪、一六年二月一四日二〇三坪を増築、総建坪一、六〇二・五坪となつた。

昭和一六年四月一日横浜市鶴見国民学校と改称、昭和二〇年五月二九日の空襲により校舎は焼失し、学区の大部分を焼失したので生徒数も激減し、昭和二一年二月二〇日下野谷国民学校に統合された。

歴代校長は　矢部門三（昭一〇・一一・二五栗田谷小学校長より就任、昭二一・二・二〇老松国民学校長へ転任）

横浜市神奈川（かながわ）国民学校

創立　明治八年六月一日
廃校　昭和二一年二月二〇日

明治六年学制に従い、当時浦島町の筆学所、仲木戸の筆学所、神明町の筆学所を神奈川学舎として統合し、同時に新校舎の建築が計画され、明治八年五月三十日神奈川町字御殿八一三番地に校舎が落成した。建坪は九八坪、平屋建四教室であつた。同年六月一日開校式を挙げ、これを本校の創立とした。同年六月二九日神奈川学校と改称、同一二年神奈川町、青木町、芝生村をもつて学校組合とし

た。同一七年九月に設置区域を神奈川町青木町に更正された。同二五年四月橘樹郡神奈川町立尋常高等神奈川小学校と改称、同時に在来の青木学校、同三ッ沢分教場、益進学校、芝生学校を廃してそれぞれ本校の分教場とした。同三三年には在籍児童一、五六〇名に激増したので木造二階建八教室、建坪六八坪を増築した。

明治三四年四月一日神奈川町は横浜市編入となり本校の学区は神奈川町、青木町、浅間町、岡野町となつた。三八年市立第六高等小学校が新設されたので高等科を廃止、同年一一月一五日青木分教場を廃止した。三九年六月一日尋常第一神奈川小学校と校名改称、青木分教場が第二神奈川小学校となつた。同時に三ッ沢、軽井沢、芝生、の三分教場は第二神奈川小学校の分教場に転属した。

明治四一年四月一日尋常神奈川小学校と改称、同年八月三一日神奈川字神明町七五八番地に校舎を新築し（校地一、三九九坪、建坪四四九坪、教室一九）同年九月三日移転した。

明治四三年九月一日神奈川実業補習学校を併設、大正一一年四月一日高等科を併置、大正一二年四月一日神奈川尋常高等小学校と改称、同年九月一日の大震災により屋内体操場理科室を残し校舎倒潰。

大正一三年二月及び六月に新増築し、一四年に一、四六六坪、昭和元年七五八坪と敷地を拡張し、昭和三年一〇月一日新校舎建築が落成した。（鉄筋コンクリート三階建一、三〇七坪、教室三一）

昭和五年三月三一日高等科を廃止したので神奈川尋常小学校と改称、昭和一六年四月一日神奈川国民学校と改称した。

昭和二〇年五月二九日空襲により校舎内部全部焼失し、児童二三五名は同年五月三〇日、津久井郡川尻村、三沢村に集団疎開した。終戦により校舎は同年九月四日、駐留軍により接収され、疎開より復帰した児童は子安国民学校三階四教室を借用して授業したが、昭和二一年二月児童は浦島国民学校に統合され、本校は廃校となつた。

歴代校長は　田沼易簡（明六・六・二三就任、明一〇・八・二九退職）花井知誠（明一〇・八・二九就任、退職月日不詳）坂本小金吾、折原義質、鈴木友三郎、野本由五郎、荒　梅次郎、小林房太郎、北村包直、大房円吉（以上首座訓導、就任、退職年月日不詳）矢野正高（明三二・四・二八就任、明三七・三・二九退職）志賀親友（明三七・三・二九就任、明三八・三・三一転任）斎藤三郎（明三八・三・三一就任、明四一・一・一〇転任）千代延咸三郎（明四一・一・一〇就任、大五・二・二三退職）斎藤三郎（大五・三・一八就任昭四・四・一五退職）井上幸八（昭四・四・一五就任、昭九・三・三一元街小学校長へ転任）亀ヶ谷春吉（昭九・三・三一就任、昭一五・六・一一元街小学校長へ転任）本荘栄太郎（昭一五・六・一一就任、昭一八・五・五退職）大矢雄次（昭一八・五・五中郡成瀬国民学校長より就任、昭二一・二・二〇浦島国民学校長へ転任）

昭和三二年一月一〇日にようやく接収解除となり同年二月一日浦島小学校神奈川分校として開校現在に至つている。

横浜市立栗田谷（くりたや）小学校

創　立　昭和三年三月三一日
廃　校　昭和二四年七月五日

横浜市復興計画の一つとして昭和三年三月三一日設立認可があり、位置を青木町字栗田谷一、一三〇番地三、四二三坪に指定され、同年六月校舎建築に起工、翌四年五月三〇日校舎落成、（鉄筋コンクリート三階建一、四四九坪、教室二八、その他一〇、講堂）七月一日より青木、二谷両小学校より児童一、四六八名を収容して授業を開始した。

学区は青木町の字広台、太田町、松本、中丸、栗田谷、下反町、斎藤分の一部、二本松の一部であつた。昭和一二年一一月松本町、松ヶ丘の一部を三ッ沢小学校に分離、昭和一七年四月斎藤分国民学校の設置により斎藤分町、中丸を分離した。

昭和二〇年五月二九日の戦災により二谷、斎藤分の両校焼失のため校舎を貸与したが、昭和二一年一月二八日二谷国民学校を統合し更に昭和二二年四月三〇日斎藤分小学校を統合した。

昭和二二年四月一日横浜市栗田谷小学校と改称し、昭和二四年七月五日校地を旧二谷小学校校地に移転して二谷小学校となつた。校舎は栗田谷中学校々舎に転用現在にいたつている。

歴代校長は　矢部門三（昭四・四・三〇太田小学校より就任、昭一〇・一一・二五鶴見高等小学校長へ転任）亀井幸之助（昭一〇・一一・二五就任、昭一四・八・三一県視学へ転任）猪俣操（昭一四・八・三一就任、昭一七・八・二六退職）花田祐信（昭一七・八・二六就任、昭二一・二・五戸塚国民学校長へ転任）宮原久四郎（昭二一・二・二〇、二谷国民学校より就任、昭二二・四・三〇、大正小学校長へ転任）北村嘉代吉（昭二二・四・三〇、岡野小学校より就任、昭二四・四・一五、保土ヶ谷小学校長へ転任）細野清作（昭二四・四・一五、浜小学校長より就任、昭二四・七・五、二谷小学校長となる）

横浜市立斎藤分（さいとうぶん）小学校

創立　昭和一九年一月三一日
廃校　昭和二二年四月三〇日

国民学校令の施行に伴い、本市における最初の新設国民学校として栗田谷、神橋、二谷の各国民学校の二部授業を緩和するため昭和一七年一月三一日設置された。校地は神奈川区斎藤分町八一番地（二、九八一坪）校舎は木造二階建、教室九、その他七、計一六室で同年四月一日より教職員一五名、児童を栗田谷、神橋、二谷の三校より五五〇名を収容して開校した。

学区は西神奈川町五丁目、斎藤分町南部、同北部、中丸、六角橋南町の一部

昭和一九年七月一三日空襲激化により学童（一三〇名）を港北区小机町本法寺、三会寺に集団疎開（昭和二〇年一〇月三〇日まで）本校は特に疎開教育について研究を行い神奈川県の疎開教育のモデル校となつた。

同年一〇月一日に本校に横浜市健民修練所を併設した（教室五を使用）昭和二〇年五月二九日空襲により全校舎を焼失し、同年一一月一日疎開より復帰した児童は栗田谷国民学校を借用して授業を行つた。新学制発足により昭和二二年四月三〇日栗田谷小学校に統合され、校地は六角橋中学校敷地となつた。

歴代校長は　遠藤要（昭一七・一・三一幸ケ谷国民学校より就任、昭和二〇・五・一五、横浜市視学へ転任）佐藤之一（昭二〇・五・二八、日吉台国民学校より就任、昭二二・四・三〇、六角橋中学校長へ転任）

昭和三二年一〇月一日、旧校地にあつた六角橋中学校が移転したため、その校舎に二谷小学校及び神橋小学校の斎藤分分校が設置された。

横浜市西大口（にしおおぐち）国民学校

創立　昭和一七年一月三一日
廃校　昭和二一年一月三一日

当時の国民学校に於ては初等科、高等科併設が大部分であり、児童の年令の差違が甚しく心理的にも肉体的にも影響があるとされ、教育効果が充分得られなかつた。当時本市に於ては高等科のみの学校は鶴見国民学校外二校に過ぎず、そのため本校がその四番目の学校として昭和一七年一月三一日創立し、学区は神奈川の各国民学校区域として、児童四五四名をもつて同年四月一日開校した。

校地は神奈川区西大口町一二〇番地三、九七四坪で校舎は木造二階建、教室一〇、その他三、計一三室、昭和一八年に四教室、一九年に一教室を増築した。昭和一八年度より学徒動員として児童は市内の日産自動車会社外四工場に於て作業に従事した。

昭和二〇年五月二九日の空襲により校舎を全焼し、同年一〇月より一二月迄白幡国民学校の四教室を借用して授業を行つたが、昭和二一年一月三一日児童は子安、浦島両国民学校に統合され、本校は廃校となつた。

歴代校長は　重久祐麿（昭一七・一・三一、大岡国民学校教頭より就任、昭二〇・一〇・二五、中和田国民学校長へ転任）

横浜市立岡野（おかの）小学校

創立　大正九年一一月二〇日
廃校　昭和二二年四月三〇日

本校は尋常高等岡野小学校として大正九年一一月二〇日の創立で、位置を岡野町一一四番地一、六四七坪に指定され、校舎は木造二階建四二〇坪で同月二二日児童を収容し開校した。同年一二月一日には岡野工業補習学校を併設し、一一年一一月隣接地三二七坪を買収拡張、一二年四月一日岡野尋常高等小学校と改称、同年九月一日の大震災により校舎は全焼した。同年一〇月より西平沼小学校の一部を借用して授業を行つたが、一三年仮校舎五二九坪を建築、一四年に隣接地六四〇坪を買収拡張し、昭和元年三月仮校舎を更に一二〇坪増築した。

昭和四年二月二日本市復興計画の一つとして鉄筋コンクリート三階建、教室二九、その他八、計三七室の新校舎が竣工した。

昭和五年三月高等科を西平沼小学校に分離したため校名を岡野尋常小学校と改称、九年三月併設の市立岡野工業専修学校を廃止、昭和一〇年一〇月一日市立岡野青年学校を併設、昭和一六年四月一日岡野国民学校と校名改称、昭和一九年七月平沼小学校が古河電線会社寮となつたため本校に併設となり、同年八月一七日学童集団疎開により教職員一三、児童四一二名は足柄下郡湯ケ原町に疎開した。昭和二〇年一月平沼小学校は校舎が接収解除となつたので本校より移転した。昭和二二年四月一日新教育法により横浜市立岡野小学校となつたが、同四月三〇日校舎が岡野中学校として転用されることになつたので本校は平沼小学校に統合され廃校となつた。

歴代校長は　久能竜蔵（大九・八・一四、就任、大一三・六・一三、稲荷台小学校長へ転任）桃井忠義（大一三・七・二二、就任、大一五・九・二二、死亡退職）並木常蔵（大一五・九・三〇、就任、昭和一三・八・三一、元街小学校長へ転任）井上幸八（昭一三・八・三一、就任、昭一七・一二・一四、横浜国民学校長へ転任）神崎三治（昭一七・一二・一四、就任、昭二〇・五・一五、退職）北村嘉代吉（昭二〇・五・一五、就任、昭二二・四・三〇、栗田谷小学校長へ転任）

横浜市立西戸部（にしとべ）小学校

創立　明治三八年四月一日
廃校　昭和二二年四月三〇日

本校は明治三八年四月一日横浜市立第五高等小学校として創立され、校地として指定された西戸部町字西前一、〇〇一番地一、一一六坪に同年五月二七日校舎新築工事を起し翌年三月、木造平屋一六教室が竣工された、その間授業は戸部小学校を借用して行つた。同年四月一一日開校式を挙行、当時は学級数一四、児童七〇〇名であつた。明治四一年四月一日単独の高等小学校を改め尋常小学校として、校名も尋常西戸部小学校と改称された。

明治四五年五月二二日附属夜間部を設置し、五・六年児童を収容した。

大正一二年四月一日西戸部尋常小学校と校名を改称、同年九月一日の大震災により校舎焼失し、一時稲荷台小学校を借用して授業したが、同年一二月仮校舎を建築、翌一三年六月三日校地内にあつた避難バラックを仮校舎に改築した。昭和二年四月一日高等科を併置し同年五月九日区画整理のため西戸部町西前一、〇六四番地に校地移転し仮校舎を新築、昭和三年九月二日伊勢町二ノ一一七番地旧戸部小学校仮校舎を借用、更に昭和五年二月三日には西戸部町字池の坂九八二番地二、四三二坪に新校舎鉄筋コンクリート三階建、建坪一、二一九坪が竣工したので移転した。昭和一〇年七月一日町名地番改正により中区西戸部町三ノ二八六番地となつた。

昭和一六年四月一日西戸部国民学校と校名を改称、昭和一九年八月二四日県下箱根町に教職員八名、児童二二五名が集団疎開をし、昭和二〇年一〇月二四日復帰した。昭和二二年四月一日新学制により横浜市立西戸部小学校となつたが四月三〇日校舎は西中学校校舎として転用されることになつたので児童は西前小学校に統合され、廃校となつた。

歴代校長は　竹内米吉（明三八・三・三一、戸部小学校より就任、明四一・三・三一、戸部小学校長へ転任）小原春三郎（明四一・三・三一戸部小学校より就任、大六・三・三一、退職）上田清（大六・三・三一、横浜小学校より就任、大八・三・三一、岐阜県大垣小学校へ転任）石黒保義（大八・四・二八、本校訓導より就任、大一〇・三・三一、第一南吉田小学校長へ転任）川戸今吉（大一〇・三・三一、第一南吉田小学校長より就任、大一一・一二・三一退職）斎藤兵馬（大一二・一・四、横浜商業補習学校より就任、昭四・四・三〇、退職）伊藤三之助（昭四・四・三〇、戸部小学校より就任、昭一四・四・一一、本牧小学校長へ転任）三浦幹雄（昭一四・四・一一、根岸小学校より就任、昭一六・九・二九、芦穂崎国民学校長へ転任）浅葉政五郎（昭一六・九・二九、宮谷国民学校長より就任、昭一九・三・三一、退職）河原満治（昭一九・五・二五、太田小学校より就任、昭二二・四・三〇、城郷中学校長へ転任）

横浜市立老松（おいまつ）小学校

創立　明治六年四月三日
廃校　昭和二二年四月三〇日

明治五年の学制頒布に従い明治六年四月三日創立されたもので、第一大学区第七中学区第九番小学敬業学舎と称し野毛大聖院（現在の市立図書館の下）を仮校舎とした。明治七年一〇月自彊学舎（戸部小学校の前身）を合併して敬業自彊学舎として宮川町一〇六号地に校舎を新築し、明治八年六月学舎を学校と改め、明治九年七月野毛町三七一号地に移転、同一一年三月老松学校と改称して分校を戸部においた。同一二年神奈川県師範学校が野毛山に移つたので、その附属小学となり明治二三年一月七日師範学校が焼失し鎌倉に明治二五年三月新築移転するまで続いた。

明治二五年四月一日横浜市立尋常高等老松小学校と校名改称、当時の学区は老松町、宮川町、野毛町、福島町、宮崎町、月岡町、花咲町の七ケ所、三一年一月校舎を新築した。同年四月一日老松幼稚園を併設、園児六〇名、保姆二名、三二年四月二階建木造一棟を増築、三八年四月高等小学校が設置されたので高等科を廃止、四三年三月老松町一ノ一野毛町四ノ四七番地を校地に追加指定され、大正三年九月老松町一ノ三〇番地を更に追加された。大正一二年四月一日老松尋常小学校と校名改称、同年九月一日の大震災により校舎全焼、一〇月一五日より校庭に於て野外授業を開始、一一月一〇日より天幕授業を行つた。翌一三年三月一〇日、旧十全病院敷地（野毛町）に建坪三二九坪の仮校舎（九教室）を新築し移転した。一四年には幼稚園の仮校舎落成、昭和二年四月一日高等科併置により老松尋常高等小学校と改称、昭和三年三月三〇日本校の位置を老松町一一、一二番地に変更指定された。昭和四年一月九日校舎新築工事の

ため本町小学校、東小学校を借用して授業を行つた。昭和四年七月八日鉄筋コンクリート三階建一、二七九坪の新校舎が竣工した。

昭和一六年四月一日老松国民学校と改称、昭和一九年八月一八日箱根湯本に教職員三二名、児童三三二名が集団疎開を行つた。高等科は貯金局、病院等に勤労動員された。昭和一九年九月二〇日校舎が横浜市役所に転用されたので本校は本町小学校に移転した。昭和二二年四月一日横浜市立老松小学校となり、同月三〇日本町小学校に統合された。附属幼稚園も同日をもつて廃止された。

歴代校長は　古谷伝（明一六・一七年頃在職）川原実也（明一八年在職）二宮直方、吉見友兄、浦守謹吾（明二二年在職）須田辰次郎、末永伝、小清水金蔵、原田吉次郎、三好昌直（以上就任、退職年月日不詳）中村一義（明二九・五、就任、明三二・二、退職）大塚大五郎（明三二・一〇、就任、明三七・三・二六、休職）清水福松（明三七・三・二七、就任、大八・四・二三、死亡退職）大山政和（大八・五・五、立野小学校長より就任、昭六・五・五、退職）蓑島兵蔵（昭六・五・五、本校訓導より就任、昭七・三・三一、寿小学校長へ転任）北河得助（昭七・三・三一、市視学より就任、昭一六・七・二四、退職）古平敬爾（昭一六・九・二四、共進国民学校長より就任、昭二一・二・二〇、退職）矢部門三（昭二一・二・二〇、鶴見国民学校長より就任、昭二二・四・三〇、老松中学校長へ転任）

横浜市立吉田（よしだ）小学校

創立　明治六年
廃校　昭和二二年四月三〇日

学制に従い明治六年（月日不詳）長者町九丁目第五五二号地に第一大学区、第七中学区、第一八小学区存心学舎と称して創立した。明治八年浪花町一、〇四八号地に移転し吉田学校と称した。明治一〇年山田町に移転し石川学校を合併して吉川学校と称し元神奈川県裁判所建物を校舎とした。明治一三年六月石川学校が分離したので再び浪花町に移転し吉田学校となつた。二〇年校舎類焼、二五年四月一日横浜市尋常高等吉田小学校と校名改称、二六年駿河町に分教場を設置、二七年九月校舎新築、三二年横浜大火の際全焼し、三四年一二月校舎を新築、この日を本校の開校記念日とした。三五年四月尋常高等を二校に分離して、尋常吉田小学校、高等吉田小学校となつたが、三八年四月一日市費支辧の高等小学校が設置されたので、高等吉田小学校は廃止となり、尋常第一吉田小学校となつた。同年九月駿河町の分教場も廃止された。四一年四月一日単独の高等小学校が廃止となり本校にも高等科が併置されたので尋常高等吉田小学校となつたが、四二年また高等科を廃止した。大正八年四月一日吉田商業補習学校を併設、大正一一年校舎を増改築し高等科を併置した。大正一二年四月一日横浜市吉田尋常高等小学校と改称、同年九月一日の大震災により校舎全焼、一三年校地を一二二坪買収拡張し、仮校舎建坪六〇九坪を新築、大正一五年併設の吉田商業補習学校を吉田商業専修学校と改称、また同年七月一日吉田青年訓練所を開設した。昭和二年校舎建築のため南吉田小学校仮校舎を借用、昭和三年三月校地を拡張二、一七五坪となり同年七月五日新校舎鉄筋コンクリート三階建一、三三二坪が竣工した。

同年蒔田町の高台に林間教室六〇坪、農事実習園七〇〇坪を設けた。昭和四年家事実習室二五坪を建築、同年九月高等科生徒一七八名は老松小学校の四教室を借用して昭和五年三月三一日まで授業、昭和一〇年四月一日吉田商業専修学校は吉田商業専修青年学校となり、一五年吉田青年学校と改称した。昭和一六年四月一日吉田国民学校と改称、昭和一九年八月一八日空襲激化のため県下足柄下郡温泉村堂ヶ島温泉に教員七名、児童二五〇名が学童疎開した。昭和二〇年五月二九日空襲により雨天体操場と家事室を焼失。同年一〇月二二日疎開より復帰。横浜国民学校が校舎を駐留軍に接収されたため横浜国民学校に貸与、同じく私立横浜女子商業学校にも貸与、昭和二一年に至り横浜国民学校を統合した。昭和二二年四月三〇日新学制により校舎は吉田中学校として転用されることになり本校は本町小学校に統合され廃校となつた。

歴代校長は　荒井寛敏（明一六年首座教員）花井平蔵（明一七・一八年在職）三留喜之（退職）稲葉某、矢崎某、小野権次郎（大七・八退職）内田常次郎（大七・八就任、大一二・三・一五死亡退職）川井太一郎（大一二・三就任、大一三・三死亡退職）宮川仁三（大一三・三・三一太田小学校長より就任、昭一九・一・一八死亡退職）原嘉市（昭一九・二・二七潮田小学校長より就任、昭二一・二・二〇保土ケ谷小学校長へ転任）清水進（昭二一・二・二〇寿小学校長より就任、昭二二・四・三〇南吉田小学校長へ転任）

横浜市横浜（よこはま）国民学校

創立　明治六年三月六日
廃校　昭和二一年一月三一日

明治六年三月六日学制に従い北仲通三丁目に第一大学区、第七中学区、第一番小学壮行学舎として創立、明治八年七月に第二番小学如春学舎（明治六年五月元弁天の官舎に創設）第三番小学同文学舎（明治六年六月住吉町に創設）を併合して元浜町一丁目に移転横浜

学校と改称した。

明治九年二月木造二階建校舎を北仲通六丁目七二七号地二、四五四坪に新築移転、一部を神奈川県第一号師範学校に貸与し、四月二日同時に開校式を挙行した。明治九年六月師範学校は野毛修文館に移転、明治一八年七月附属幼稚園を併設、同二五年四月横浜市立尋常高等横浜小学校と改称、二七年一月増築して女子部を分ける。三一年五月二九日男子部校舎九七〇坪を新築、三八年三月三一日高等小学校の設置により高等科を廃止し尋常横浜小学校となり、同年一二月運動場敷地として九六三坪を拡張、四一年四月一日尋常本町小学校と校名改称、四二年三月一日再び尋常横浜小学校と改称、四三年七月五日私立横浜実業学校に教室貸与（昭和五年三月三一日廃止）大正七年一〇月一九日横浜市立教員補習所を併設、大正一二年四月一日横浜市横浜尋常小学校と校名改称、同年九月一日大震災により全焼、同一三年二月一一日仮校舎を建設、建坪五六六坪、昭和二年四月一日高等科を併置、昭和三年三月三〇日位置を山下町二四一番地に変更指定され、同年四月六日新校舎鉄筋コンクリート三階建一、二七一坪が竣工。昭和五年四月一日高等科を廃止、昭和一六年四月一日横浜市横浜国民学校と改称、昭和一九年九月一日箱根湯本へ児童三四九名、教職員一一名集団疎開、昭和一九年一二月一日寿国民学校へ校舎一部貸与、昭和二〇年九月一日駐留軍に校舎接収され本校は吉田国民学校校舎を借用、寿国民学校は南吉田国民学校へ移転した。昭和二一年二月一日吉田国民学校へ統合となり本校は廃校となつた。

歴代校長は　隅谷琢（明八・七・二八就任）大沢行（明九・九就任）大橋清助（明一一・七・二〇就任）窪田久作（明一五・六就任）原政矩（明二五・五就任）三島豊三郎（明二七・二就任、以上退職年月日不詳）元泉久吉（明三五・三就任、明三八・三・三一横浜市第一高等小学校へ転任）志賀親友（明三八・四・一神奈川小学校より就任、大元・五・一一死亡退職）山本盛太郎（大元・一〇・四千葉県師範学校より就任、昭七・三・三一退職）相沢次郎（昭七・四・一北方小学校より就任、昭一七・一一・三〇退職）井上幸八（昭一七・一二・一四岡野国民学校より就任、昭二一・一・三一退職）

本校舎は昭和二二年九月横浜市立第一女子商業学校（現在の港高等学校の前身）が使用し、昭和二三年九月同校は横浜商業学校へ移転し、その後に昭和二三年四月北方小学校より移転した港中学校が使用、現在に至つている。

横浜市寿（ことぶき）国民学校

創立　明治一三年八月九日

廃校　昭和二一年二月二〇日

明治一〇年吉田、石川の両校が合併して山田町の旧横浜裁判所跡に吉川学校が設置されたが、同一三年六月吉田、石川は分離してそれぞれ吉田学校、石川学校となつた際に、寿町外六ヶ町は寿町三丁目五番地に仮校舎を設けて公立寿学校として創立、八月九日開校した。当時は教員六名、児童二一名であつた。明治一七年九月一五日暴風雨により校舎全潰し、万代町の元役場を仮校舎とし、教室数に不足したので初めて二部授業を行つた。一八年仮校舎を増築して本校舎とした。二五年四月横浜市立尋常高等小学校と改称、校舎新築計画のため翁町四丁目一三八番地五〇〇坪を指定され、さらに二七年三月一六〇坪を拡張、三二年二月二六日新校舎木造二階建二六五坪が竣工移転した。三八年四月一日高等小学校が設置されたので高等科を廃止。大正八年埋地大火により全焼、翌九年一二月一五日横浜市において最初の鉄筋コンクリート二階建校舎が竣工した。大正一〇年四月一日高等科を併置、一一年四月一日横浜市立寿商業補習学校を併設、一二年四月一日横浜市立寿小学校と校名改称、同年九月一日の大震災により校舎内部全焼のため一四年二月一九日復旧工事完成、一五年併設実業補習学校は寿商業専修学校と改称、昭和二年敷地四三二坪を買収拡張。昭和一六年四月一日横浜市寿国民学校と改称、昭和一九年八月二二日足柄下郡湯本町へ教職員一〇名、児童三一八名集団疎開、本校は同年一二月一日横浜国民学校を借用移転、更に二〇年九月一日横浜国民学校が接収されたので南吉田国民学校へ移転し昭和二一年二月一日南吉田国民学校に統合された。

なお本校校舎も昭和二〇年九月駐留軍に接収された。

歴代校長は　小松将麓（就任、退職年月日不詳）植山寿一郎（明一八・一・二一就任）中島亀次郎（明一九・五・四就任）花井平蔵（明二〇・二・一〇就任）金子直吉（明二二・九就任）武智良夫、清水福松（明二五・五就任）西岡畠蔵（明二六・九就任）田沢忠松（明二九・六・一六就任、以上退職年月日不詳）小野権次郎（明三一・八・一二就任、明三八・三・三一南吉田小学校へ転任）武林宇三郎（明三八・四・一就任、大六・九・一六死亡退職）和田奈々吉（大六・一〇・五就任、大九・一二・一台北市視学へ転任）服部富太郎（大九・一二・八就任、昭四・四・三〇退職）桜井叻（昭四・九・六就任、昭七・三・三一北方小学校へ転任）蓑島兵蔵（昭七・三・三一就任、昭一五・六・一一寿商業専修学校長へ専任）清水進（昭一五・六・一一就任、昭二一・二・二〇吉田小学校長へ転任）

横浜市立本牧（ほんもく）小学校

創立　明治六年四月二五日
廃校　昭和二二年四月三〇日

学制に従い明治六年四月本牧本郷村字宮原天徳寺を仮校舎とし第一大学区、第七中学区二七番小学洗心学舎として創立した。明治八年本牧学校と改称、一三年一〇月一三日久良岐郡本牧本郷原に校舎を新築、明治二五年四月久良岐郡本牧村立尋常本牧小学校と改称、二七年高等科を併置、三四年四月本牧村が横浜市編入のため横浜市立となり位置も本牧町一、一八九番地と改正、三八年四月高等小学校設置により高等科を廃止、大正三年一月本牧町字天徳寺六八二番地一、二〇〇坪に新校舎木造二階建建坪三〇一坪を建築移転した。大正一二年四月一日横浜市立本牧尋常小学校と改称、九月一日大震災により校舎倒潰一一月仮校舎を建設、大正一四年七月校地拡張して二、六九五坪となる。又新校舎建設のため仮校舎を取払いのため、この年の四月より大鳥、北方、立野の三校を借用して授業を行つた。大正一五年六月三日新校舎鉄筋コンクリート三階建一、二八六坪を竣工、大正一五年高等科を併置、昭和八年本牧町三丁目七九〇番地と地番改正、昭和一二年四月一日横浜市立本牧青年学校を併設、一六年四月一日本牧国民学校と改称、一九年一月三一日本牧青年学校は大鳥青年学校に統合、九年八月一九日足柄下郡宮城野村強羅健民寮に教職員八名、児童三〇〇名が集団疎開、同年一〇月校舎は警備隊に翌二〇年一〇月まで貸与、同年一〇月児童は疎開より復帰、昭和二一年五月一五日県立横浜第三中学校へ教室を貸与、昭和二二年四月三〇日本校は間門小学校に統合され、児童は大部分は間門小学校へ、一部は大鳥小学校に収容された。本校校舎は駐留軍に接収されアメリカンスクールとして現在に至つている。

歴代校長は　岩崎秀夫、室野寛爾（以上就任、退職年月日不詳）守屋（就任年月日不詳、明二三・六退職）磯崎正太郎（明二三・七就任、明二五・七・八退職）大島義命（明二五・一〇・二五就任、明二七・七・二一大根小学校長へ転任）辻村得一（明二七・七・二七就任、明二七・九・二〇退職）岸寅吉（明二七・八・三〇就任、退職年月日不詳）大沢喜平（明三一・七・二五就任、明三二・四金沢小学校長へ転任）島房吉（明三二・四・二四金沢小学校長より就任、明三八・三・三一休職）松前喜一郎（明三八・三・三一本校訓導より就任、明四〇・八・一六死亡退職）手塚弐三（明四〇・八・二三第四高等小学校より就任、大六・四・四退職）人見鹿太郎（大六・四・六本町小学校より就任、昭六・五・五退職）千葉清治（昭六・五・五横浜市講師より就任、昭一二・一〇・一一寿商業専修青年学校へ転任）杉山彦一郎（昭一二・一〇・一一本校訓導より就任、昭一四・四一一神奈川県視学へ転任）伊藤三之助（昭一四・四・一一西戸部小学校長より就任、昭一五・六・一一退職）田村宗順（昭一五・六・一一中村高等小学校長より就任、昭二一・二・二〇退職）丸茂長栄（昭二一・二・二〇元街国民学校教頭より就任、昭二二・四・三〇南太田中学校長へ転任）。

横浜市立三吉（みよし）小学校

創立　明治四二年四月二二日
廃校　昭和二二年四月三〇日

明治四二年四月二二日南吉田町字南四ッ目八二六番地に横浜市立第三尋常南吉田小学校と称して創立した。校地は一、一三四坪、校舎は木造二階建三〇七坪九教室であつた。大正八年一二月一日南吉田町字南四ッ目八四六番地二、五〇一坪に校地を移転して校舎木造二階建五七七坪を新築、同時に高等科を併置尋常高等第三南吉田小学校と改称、九年四月一日附属夜間部を設置。一二年四月一日第三南吉田尋常高等小学校と改称、同年九月一日の大震災により校舎全焼、中村町石油倉庫跡に仮校舎を建設、大正一五年四月一日旧位置に新校舎鉄筋コンクリート三階建一、二五四坪が竣工移転、校名も横浜市立三吉尋常高等小学校と改称、同年七月七日南吉田青年訓練所三吉支所を併設、翌昭和二年三月三一日三吉青年訓練所となる。昭和二年一〇月一日区制施行により横浜市中区浦舟町二ノ三三番地となり、昭和三年七月三吉青年訓練所を廃止。昭和一三年四月一日高等科を廃止、昭和一六年四月一日横浜市三吉国民学校と改称。昭和一九年八月一三日足柄下郡湯本町に教職員一三名、児童二八五名が集団疎開、同日横浜医科専門学校が校舎を使用。昭和二〇年一〇月疎開より復帰し、昭和二二年四月三〇日南吉田小学校へ統合され本校は廃校となつた。校舎は現在横浜医科大学校舎となつている。

歴代校長は　森豊八（明四二・三・二九就任、明四四・二・一六転任）五十川民蔵（明四四・三・二八就任、大六・四・四退職）河野高三郎（大六・四・一二就任、大一三・二・二一死亡退職）星野政蔵（大一三・三・三一就任、昭二〇・三・三一退職）斎藤通有（昭二〇・三・三一就任、昭二二・四・三〇石川小学校長へ転任）

横浜市立共進（きょうしん）小学校

創立　明治四四年四月一日
廃校　昭和二二年四月三〇日

明治四四年四月一日横浜市立尋常高等第二日枝小学校として創立した。当時は尋常科は第三南吉田小学校に、高等科は第一南吉田小学校に収容して授業を開始した。同年一二月二二日南吉田町字南七ツ目八五番地一、三二八坪に新校舎木造四一五坪が落成し、同二七日移転した。大正八年四月一日第二日枝工業補習学校を併設、大正一二年四月一日横浜市第二日枝尋常高等小学校と改称、九月一日の大震災により校舎全焼し、一〇月一六日より露天及び天幕授業を開始し、翌一三年一月一〇日仮校舎三二〇坪を新築した。大正一五年四月一日併設の日枝工業補習学校は日枝工業専修学校と改称。昭和三年一月二九日火災のため一〇教室焼失し、五年生以上は南吉田小学校、東小学校に一時収容して授業した。同年三月三〇日校地を南吉田町字西川外二一番地（現在の南区共進町一丁目七番地）二、三六九坪に変更指定され校舎の建築に着手した。昭和四年九月一日横浜市共進尋常高等小学校と改称し、同時に併設の工業専修学校も共進工業専修学校と改称した。

翌五年三月一四日新校舎鉄筋コンクリート三階建一、七六五坪が落成した。昭和一三年四月一日高等科を廃止し、昭和一六年四月一日共進国民学校と改称、一九年一〇月九日足柄下郡仙石原村に教職員一二名、児童三六五名が集団疎開、二〇年九月一〇日疎開より復帰、同月市立第一女子商業学校に校舎を貸与、又中村高等小学校、中村女子青年学校も本校舎を使用することになつた。昭和二二年四月一日本校は日枝小学校校舎に移転し四月三〇日に至り日枝小学校に統合され本校は廃校となつた。

なお本校校舎は共進中学校校舎として転用されて現在に至つている。

歴代校長は　松井亀四郎（明四四・四・一就任、明四五・四・一磯子小学校長へ転任）山口寿之助（明四五・四・一就任、大五・二・二五退職）川井太一郎（大五・三・二就任、大一二・四・二五吉田小学校長へ転任）並木常蔵（大一二・四・二三横浜小学校より就任、大一五・九・三〇岡野小学校長へ転任）古平敬爾（大一五・九・三〇吉田小学校より就任、昭一六・九・二四老松国民学校長へ転任）堀江政三（昭一六・九・二四共進国民学校より就任、昭二〇・一〇・二四退職）島津為三（昭二〇・一〇・二五青木小学校より就任、昭二二・四・三〇寺尾中学校長へ転任）

横浜市立平楽（へいらく）小学校

創立　明治四四年四月一日
廃校　昭和二二年四月三〇日

明治四四年四月一日横浜市立尋常平楽小学校と称して創立した。当時は石川小学校を借用して授業を行つたが、大正元年一月一一日中村町字平楽一一八番地一、三三七坪に校舎木造二階建三三四坪を新築した。大正一二年四月一日平楽尋常小学校と改称、同年九月一日の大震災により校舎全焼、同一三年七月一日仮校舎建坪三五〇坪を新築、更に校地一、〇二〇坪を買収、一四年四月一日高等科を併置し平楽尋常高等小学校と校名改称、同年更に校地二五七坪を買収、昭和二年四月一六日新校舎鉄筋コンクリート三階建一、四〇八坪が落成、昭和一六年四月一日平楽国民学校と改称し、昭和一八年一二月一日南区新設により横浜市南区平楽一番地となる。昭和一九年八月一三日箱根強羅に教職員一〇名、児童三〇〇名が集団疎開、昭和二〇年一〇月疎開より復帰、昭和二二年四月一日横浜市立平楽小学校と改称したが、昭和二二年四月三〇日新学制により石川小学校に統合となり校舎は横浜市立平楽中学校として転用され現在に至つている。

歴代校長は　荒井貞継（明四四・五・六就任、昭六・五・五退職）足立直寿（昭六・五・五就任、昭一五・三・三一磯子小学校長へ転任）矢部清一郎（昭一五・三・三一就任、昭二一・二・二〇退職）兵頭政志（昭二一・二・二〇就任、昭二二・四・三〇井土ケ谷小学校長へ転任）

横浜市中村（なかむら）国民学校

創立　昭和一二年四月一日
廃校　昭和二二年四月三〇日

昭和一二年四月一日高等科のみの小学校として横浜市中区中村町四丁目二二一番地四、〇七四番地に横浜市立中村高等小学校と称して創立した。昭和一四年六月一日横浜市立中村青年学校を併設、昭和一六年四月一日横浜市中村国民学校と校名改称、昭和一九年一〇月共進国民学校が集団疎開したので共進国民学校に移転し本校々舎は資材倉庫に転用されたが昭和二〇年四月一五日の空襲により全焼した。昭和二二年四月三〇日日枝小学校に統合され廃校となつた。

歴代校長ば　田村宗順（昭一二・四・一就任、昭一五・六・一一本牧小学校長へ転任）北村嘉代吉（昭一五・六・一一就任、昭二〇・五・一五岡野国民学校長へ転任）長谷川唯一（昭二〇・五・一五大岡小学校教頭より就任、昭二〇・四・三〇浦島小学校長へ転任）

横浜市宮田（みやた）国民学校

創立　昭和一四年三月一〇日
廃校　昭和二二年三月三一日

昭和一四年三月一〇日高等科のみの小学校として平沼、保土ヶ谷、峰、宮谷の各小学校の高等科を収容して横浜市宮田高等小学校と称して創立した。これよりさき昭和一三年五月二六日保土ヶ谷区宮田町一丁目一〇〇番地三、二七六坪に校舎建築に着工し、創立当時は未完成であつたので授業は平沼、保土ヶ谷、峰、宮谷の各小学校に分れて行つていた。

昭和一四年五月一日新校舎木造二階建が落成した。翌一五年九月一日増築し総坪数一、一二二坪となつた。昭和一六年四月一日宮田国民学校と改称、昭和一九年一〇月六日宮谷国民学校三階教室を借用移転し、本校校舎は日産重工業に貸与した。昭和二〇年五月二九日の空襲により本校校舎全焼した。昭和二一年一月一五日児童は宮谷、岡野、星川、保土ヶ谷の各国民学校に分割収容され本校は休校となり、以後宮谷国民学校で事務処理を行つた。更に昭和二二年三月三一日新学制の発足に当り廃校となつた。

歴代校長は　林弥太郎（昭一四・三・一〇保土ヶ谷小学校より就任、昭一七・八・三一退職）南雲正策（昭一七・八・三一帷子国民学校より就任、昭二一・二・二〇芦穂崎国民学校長へ転任）

中学校の部

横浜市立市場中学校

横浜市鶴見区市場町一、三九〇番地
電話鶴見(5)四一二五番

一、設置・廃止状況

1　創立　昭和二二年四月一日

2　開校　昭和二二年五月五日

3　設置の際の概況

横浜市立市場小学校の校舎のうち八教室を借用して発足した。しかし設備極めて不充分で机、腰掛等もなく、小学校の破損した物を借りうけ各教室に配置して授業を始めた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立市場中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二三・三・三一　横浜市鶴見区市場町一、三九〇　五、二三〇坪、市場町埋田の私有地買収契約成立、八月二〇日横浜市へ寄附

昭三〇・八・九　横浜市鶴見区市場町一、四〇〇　一、二一四坪、校庭に隣接した横浜アセチレン工場移転跡を市で買収、総坪数六、四三四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	借用	木造二階建	不詳	・市場小学校八教室借用、昭和二五年十月六日ま

で

昭二四・六・一五	新築	木造二階建	四一三・五	・教室一三
昭二五・一・二四	増築	木造二階建	二五〇	・教室七
昭二五・一〇・七	増築	木造二階建	二一七	・教室四
昭二九・七・一三	増築	木造二階建	一八四	・教室六
昭三〇・七・七	増築	木造二階建	八七・二四	・教室二
昭三一・八・六	増築	木造二階建	一一八	・教室二

総坪数　一、二八一坪（教室三四、その他一三）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・三〇　市場町、平安町、菅沢町、栄町の一部、矢向町、江ヶ崎町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	小泉作三	昭二二・四・三〇	末吉小学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	八	三七九（七）	三七九	
昭二五	三一	一、〇五九（二三）	三七九	三六九
昭三〇	四六	一、六九八（三五）	六一一	四八九

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
横浜市立市場中学校PTA	昭二三・二・一一	会員一、一九〇名

九、その他

昭二七・一一・二九　「特別教育活動」の研究発表

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・三・一五	厚生寮（梅田寮）	二八・五	全日制教育の場として市社会教育課によつて設置、八畳二間、ホール一、調理場、浴室、洗面所、便所、管理人室、納戸各一

横浜市立鶴見中学校

横浜市鶴見区鶴見町一、二五三番地
電話鶴見(5)二三九七番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日
2 開校　昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年三月三一日、教育基本法及び学校教育法の二法律が公布され、六三制実施により同年四月一日、横浜市立豊岡中学校として豊岡小学校六教室を借用して開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立豊岡中学校	豊岡小学校の教室を借用して開校したので小学校と同名を呼称
昭二六・七・一〇	横浜市立鶴見中学校	昭和二六年四月一六日、第三期校舎建設工事完成。その位置が鶴見区の中央でもあり、ここに校名変更の必要を認め、鶴見区の「鶴見」をとつて、昭和二六年七月一〇日「横浜市立鶴見中学校」と校名を変更

三、位置（校地）の変遷

昭二四・二・二五	鶴見区鶴見町一、二四〇番地	四〇四坪	閉鎖機関整理委員会に申出返還してもらう
昭二四・六・一	鶴見区鶴見町一、二五一番地外二筆	五〇六坪	
昭二四・一一・九	鶴見区鶴見町一、二五三番地	二九四坪	大阪府吹田市営前町八八四、松田氏より購入
昭二四	鶴見区鶴見町一、二五四番地	一二七坪	天王院、生方氏より借地
昭二四	鶴見区鶴見町一、二四〇番地外一三	二、九〇八坪	閉鎖機関整理委員会より返還

総坪数　四、二四〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・三〇	借用	木造二階建		・豊岡小学校六教室借用、昭和二五年二月一九日まで
昭二五・二・二〇	新築	木造二階建	三一一	・教室九
昭二五・六・二一	増築	木造二階建	五八	・教室二
昭二五・八・九	増築	木造二階建	四九	・教室二
昭二六・四・一六	増築	木造二階建	一六〇	・教室四、四教室増築のうち特別教室二（裁縫室、理科室）
昭二九・七・二七	増築	木造二階建	八二	・教室二
昭三〇・七・九	増築	木造二階建	七八	・教室二、調理室、音楽室の二教室

総坪数　七三八坪（教室二一、その他八）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・三〇　（鶴見町豊岡第一―第三、佃野、諏訪坂、寺谷第一、寺谷二、上町、仲町、下町二、下町三、東町）

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	立石　実信	昭二二・四・三〇	昭二三・一〇・二四	三ッ沢青年学校長より就任、西中学校長へ転任
二	南雲　正策	昭二三・一〇・二五	昭三一・八・三一	鶴見区役所教育課長より就任、宮田中学校長へ転任
三	斎藤　新作	昭三一・九・一		都田中学校より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一二	二六八（五）	二六八	
昭二五	二三	八七六（一九）	二八〇	三一一
昭三〇	二九	九三二（二二）	二九四	二六九

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
豊岡中学校ＰＴＡ	昭二二・一〇・一一	会員六五二名
豊岡中学校教育後援会	昭二二・七・一四	

九、その他

昭二八・九・二八　昭和二八年三月卒業者の就職状況優良につき神奈川県知事内山岩太郎氏より表彰状を授与された

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・九・一	学校図書館	三〇	蔵書数一、六五四冊

横浜市立末吉中学校

横浜市鶴見区下末吉町六六番地
電話鶴見(5)六四一九番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

昭和二二年三月に学校教育法が公布され、六三制実施により新制中学校の設置となる。鶴見区内を六学区とし、末吉、寺尾、生麦市場、汐田、豊岡の六中学校とし、本校は横浜市立末吉小学校に設置され、同年五月末吉小学校五教室を借用して発足した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立末吉中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五	横浜市鶴見区上末吉町一、五四五	横浜市立末吉小学校内、教室四、職員室一
昭二三・一二・二四	横浜市鶴見区下末吉町六六	三、〇一六坪、新設
昭二六・七・三一	横浜市鶴見区下末吉町六六	二、六三八坪、校地拡張

総坪数　五、六五四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	借用	木造平屋建	一一五	・教室四、横浜市立末吉小学校五教室（職員室を含む）
昭二三・五・五	借用	木造二階建	一七五	・教室七、横浜市立末吉小学校八教室（職員室を含む）
昭二四・七・一〇	新築	木造二階建	六三七	・教室一八、他に職員室一、校長室一、作業員室一、宿直室一、便所二
昭二八・四・三	新築	木造二階建	一〇三	・教室二、理科室、裁縫室
昭二九・七・八	新築	木造二階建	一三三	・教室四
昭三〇・七・三〇	新築	木造平屋建	一二	・教室二、物置（現在体育用室として使用）
昭三〇・七・九	増築	木造二階建	九二	・教室二、音楽室、工業室、非常階段
昭三一・八・二一	増築	木造二階建	一一一	・教室二、図画室、調理室、便所

総坪数　一、〇七八坪（教室三〇、その他八）

五、学区及びその変遷

昭二二・五・五　横浜市鶴見区下末吉町、上末吉町の全部、駒岡町の一部

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	椎名邦三郎	昭二二・四・三〇	昭三〇・五・三一	峯小学校長より就任、戸塚中学校長へ転任
二	池田嘉一	昭三〇・六・一		市場中学校副校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	七	一九八（四）	一九八	―
昭二五	二五	七五四（一六）	二六一	一九四
昭三〇	三九	一、三二四（二八）	四七九	三九九

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
横浜市立末吉中学校後援会	昭二二・六・二一	昭和二四年八月三〇日、ＰＡＴに引継ぎ発展的に解消

横浜市立末吉中学校両親と先生の会	昭二二・一一・八	昭和二四年六月三日、末吉中学校P・T・Aに事務引継ぎ発展的に解消
横浜市立末吉中学校建設期成会	昭二三・五・二二	末吉中学校建設の運動を目的として発足し、昭和二四年八月三〇日、一切の事業を終り末吉中学校P・T・Aに事務引継ぎ発展的に解消
横浜市立末吉中学校P・T・A	昭二四・六・三	会員数一、二七六名

九、その他

昭二七・五・二三　昭和二六年度卒業者の就職状況優良につき、神奈川県知事内山岩太郎より表彰状並びに記念品を授与された

昭二七・一一・二九　五周年記念研究発表会開催（主題・各教科の基礎的学習指導）

昭二九・五・一四　横浜市教育委員会より昭和二九年度科学教育研究指定校に委嘱された。昭和三〇年前年度に引続き委嘱された。

昭三〇・一〇・二六　科学教育研究発表会開催（主題、実験を中心とした理科教育）

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・五・八	防火貯水池	八米×五米×一米	
昭二九・一二・一五	古代住居趾	一六	市教育委員会より保存費三〇、〇〇〇円補助さる
昭三〇・一〇・五	樋門竣工		消火用水源として非常の場合、川崎市水道末吉配水場より給水される

横浜市立寺尾中学校

横浜市鶴見区北寺尾町一、三五一番地
電話鶴見(5)六四三〇番

一、設置状況

創立　昭和二二年四月一日
開校　昭和二二年五月五日
設置の際の概況

独立校舎がないため横浜市立東台小学校の一部校舎を借用、仮校舎にて開校する。昭和二四年七月三〇日、現在地に新校舎が竣工したので移転、初めて独立校舎を持つようになつた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立寺尾中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二三・八・一六　横浜市鶴見区北寺尾町一、三五一　五、〇〇二坪、前記の内八三三坪は借用地

昭二七・一〇・一〇　横浜市鶴見区北寺尾町一、三五一　二、八九三坪、運動場として農地を購入する

総坪数　七、八九五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二四・七・二九	新築	木造二階建	五三五	・教室一四
昭二五・九・三〇	増築	木造二階建	二六〇	・教室七
昭二九・八・二四	増築	木造二階建	一二五	・教室四

昭三一・八・三一　増築　木造二階建　一九九　・教室四

総坪数一、一六九坪（教室二九、その他五）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　東寺尾町、生麦町岸第一、第二、鶴見下町、北寺尾町、馬場町、駒岡町一部、獅子ヶ谷町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	島津　為三	昭二二・四・三〇	昭二二・九・二九	共進小学校長より就任、横浜市南区教育課長へ転任
二	千葉　達夫	昭二二・九・三〇		県立鶴見中学校（旧制）より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一〇	二五〇（五）	二五〇	
昭二五	二七	九〇五（一九）	三三四	二八一
昭三〇	三九	一、三四五（二八）	四九三	四一五

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
横浜市立寺尾中学校奨学会	昭二二・六・一七	教育事業援助を目的とする。会員数二五〇、昭和二三年六月一二日廃止
横浜市立寺尾中学校建設期成会	昭二三・二・一五	新校舎建設のために会を組織する。会員数二五〇、昭和二三年六月一二日廃止
横浜市寺尾中学校PTA	昭二三・六・一二	教育事業援助を目的として発足する。会員五四五名

九、その他

昭二七・五・二三　神奈川県知事より昭和二六年度職業斡旋優良校として表彰される

昭二七・五・二四　横浜市教育委員会より学習指導法の研究校として指定を受ける

昭二七・一一・二九　学習指導法について研究発表を行う

昭二八・六・八　横浜市教育委員会より教育課程と学習指導について研究校として指定を受ける

昭二八・一一・二二　教育課程と学習指導についての研究発表を行う

昭三一・五・二一　横浜市教育委員会より視聴覚教育についての研究校として指定を受ける

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・三・一	物置	一三・五	二階建、自転車置場と兼用、PTAにて建築
昭二七・一一・二七	更衣室	一二	半分更衣室、半分体操用具室、PTAにて建築

横浜市立生麦（なまむぎ）中学校

横浜市鶴見区生麦町二、〇〇四番地
電話鶴見(5)六三七五番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日

2　開校　昭和二二年五月五日

3　設置の際の概況

昭和二二年学制改革による新制中学校の発足にあたり、当初、横浜市立岸谷小学校を中学校々舎と予定したが、いろいろな事情で不可能となつたので、とりあえず生麦、岸谷両小学校々舎を借用することになり、一年生は生麦、岸谷両小学校の区域、すなわち生麦町全部、東寺尾町、白幡町の一部を学区とし、二年生は鶴見区全区域を学区として収容することになり、昭和二二年五月五日開校をみた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立生麦中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・三〇	横浜市鶴見区生麦町七〇七番地	生麦小学校々舎一部借用
昭二三・四・三〇	横浜市鶴見区生麦町二、〇〇四番地	岸谷小学校々舎一部借用
昭二三・三・一五	横浜市鶴見区生麦町二、〇〇四番地	四七八四坪、横浜市公園課子安台公園用地
昭二五・一二・二五	横浜市鶴見区生麦町二、〇〇四番地	一、五〇〇坪、駐留米軍のため接収さる
昭二九・一・一八	横浜市鶴見区東寺尾町六五二の一番地	八一坪、東京電力株式会社より購入
昭三一・二・一五	横浜市鶴見区生麦町二、〇〇四番地	九六五坪、接収一部解除

総坪数　四、三三一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・三〇	借用	木造二階建		・教室一二、横浜市立生麦小学校校舎借用
昭二三・四・三〇	借用	木造二階建		・教室七、横浜市立岸谷小学校校舎借用
昭二四・二・一〇	新築	木造二階建	二六〇	・教室八
昭二四・七・二一	増築	木造二階建	四〇	・教室二
昭二四・七・二一	新築	木造二階建	二四三	・教室一〇
昭二五・八・一一	新築	木造二階建	二〇三	・教室三
昭二八・二・二三	改築	鉄筋平屋建	二八	・教室一
昭二九・八・八	増築	木造二階建	七八	・教室二
昭三〇・七・一五	増築	木造二階建	九五	・教室三

総坪数　九四七坪（教室二七、その他一〇）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・三〇	第一学年は生麦町全部と東寺尾及び白幡の一部、第二学年は鶴見区全域
昭二三・五・一五	汐田地区の三年生汐田中学校に移る、変更理由その他、横浜市立汐田中学校創設のため
昭二四・四・一	生麦、岸谷小学校区域となる、鶴見区各中学校校舎充実のため自然に学区縮少

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	渡辺　未雄	昭二二・四・三〇	昭二三・五・一四	豊岡小学校長より就任、汐田中学校長へ転任
二	野川　義蔵	昭二三・六・二六	昭三一・八・三一	神奈川師範附属小学校長より就任、南中学校長へ転任
三	坪井良之助	昭三一・九・一		港南中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二二	一七	九〇六（一七）	九〇六		
昭二三	二九	九六八（二〇）	三二〇	三五八	三年生一部汐田中に分離
昭二五	二八	九一七（一九）	三一二	二八九	
昭三〇	三九	一、三一九（二八）	四五一	三八七	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
生麦中学校教育後援会	昭二二・六・一二	生麦中学校の教育振興をはかる、昭和二三年四月二三日、ＰＴＡ創設に伴い発展的解消、会員九五〇名
生麦中学校建設委員会	昭二三・一二・五	生麦中学校々舎建設、昭二四年一〇月二四日廃止
生麦中学校ＰＴＡ	昭二三・四・二五	昭二五年三月二〇日廃止
生麦中学校教育振興会	昭二五・三・二八	生麦中学校の教育振興をはかる。会員、一、三七三名

九、その他

昭二七・一一・二九　科学教育（理科を中心として）の研究を行う

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・二・二三	学校図書館	二八	鶴見区文化センターを移築、蔵書数二、五九二冊

横浜市立潮田（うしおだ）中学校

横浜市鶴見区向井町三丁目一八〇番地
電話鶴見(5)四八二一番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日
2 開校　昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年三月、学校教育法が公布されて昭和二二年四月一日、六三制実施により新制中学校の設置となり、下野谷小学校五教室を借用して開校した。一、二年五学級、三年一学級を編成、教室不足のため、横浜市立鶴見工業高等学校一教室を借用し、間仕切り二教室とし、主として三年が使用。職員室は一教室、その一部に衛生室をとる。作業員室、宿直室もなく、階段下を臨時宿直室として使用する状態であった。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立潮田中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一	横浜市鶴見区下野谷町二の四九	横浜市立下野谷小学校々舎一部を借用
昭二三・三・五	横浜市鶴見区向井町三の一八〇	四、〇六六坪、横浜市立下野谷小学校より移転する
昭三〇・六・一五	横浜市鶴見区寛政町	四、三〇〇坪、横浜市立第二潮田中学校（仮称）新設敷地決定

総坪数　四、一三六坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	借用	木造		・教室七、横浜市立下野谷小学校々舎一部借用
昭二四・二・一二	新築	木造二階建	二〇九	・教室八
昭二四・八・一五	新築	木造二階建	一九〇	・教室六
昭二五・三・一五	新築	木造二階建	一九〇	・教室六
昭二五・九・二五	新築	木造二階建	四〇二	・教室六
昭二六・四・二〇	新築	木造二階建	二〇五	・教室四
昭二九・一一・八	借用	木造・鉄筋	三七九	・教室六、横浜市立下野谷小学校汐入分校を借用 現在借用中

総坪数　一、一九六坪（教室三四、その他一）

五、併設状況

昭二五・四・一　横浜市立鶴見工業高等学校汐田分校（定時制―夜間）被服科、木工科、電気科、珠算科を併設
昭二八・四・一　横浜市立鶴見工業高等学校汐田分校（夜間）被服科、木工科、電気科、珠算科を廃止、自動車科をおく。昭和三一年三月三一日廃校となる

六、学区及びその変遷

昭二二・四・一　本町通一―四丁目、下野谷町一―四丁目、仲通一丁目、汐入町一丁目、小野町、末広町一目丁、仲通三丁目汐入町二―三丁目、朝日町一丁目、弁天町、末広町二丁目、浜町、寛政町、安善町、潮田町二―四丁目、朝日町二丁目、向井町一―四丁目、栄町一―三丁目、仲通二丁目、大東町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	下地　恵常	昭二二・四・一	昭二三・三・三一	横浜市立高等女学校教諭より就任、退職
二	渡辺　未雄	昭二三・五・一五		生麦中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一六	五三三（八）	五三三	六五

昭二五	四二	一、二八六（二七）	三九八	四九〇
昭三〇	五四	一、九七〇（四〇）	六五〇	六五二

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
潮田中学校ＰＴＡ	昭二二・五・三〇	会員二、一六〇名

一〇、その他

昭二四・四・一	横浜市教育委員会より科学教育研究指定校となる（二ケ年）
昭二七・五・二三	卒業生就職斡旋優良に付、神奈川県知事より表彰
昭二七・一一・二九	創立五周年記念理科、職業、家庭科研究発表会開催
昭二八・四・三〇	産業教育調査優秀に付、文部大臣より表彰された
昭三〇・一・二七	日本職業指導協会研究指定校として職業、家庭科研究発表会開催
昭三〇・一一・二八	健康教育優良学校として神奈川県教育委員会、朝日新聞社より連続三年表彰された

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三一・七・一六	放送室	四	ＰＴＡの寄付

横浜市立神奈川中学校

横浜市神奈川区西大口一四一番地
電話神奈川⑷四七七〇番

一、設置状況

1 創立　昭和二四年一〇月一日

2 開校　昭和二四年一〇月八日

3 設置の際の概況

昭和二三年、横浜市立浦島丘中学校分校として計画が立てられ、廃校となつた西大口高等小学校跡に二三年五月一三日浦島丘中学校分校として第一期工事にかかつたが、同年秋台風のため倒壊し、相当長期間放置されていた。翌二四年になり第二期工事が漸く開始され、同年八月二七日工事が完成し、一〇月七日浦島丘中学校より分離して、六四〇名の生徒を収容し、翌一〇月八日開校式が挙行されるに至つた。

二、校名の変遷

昭二四・四・一五	横浜市立西大口中学校
昭二四・一〇・一	横浜市立神奈川中学校

昭和二四年一〇月八日開校の運びとなるや、工事途中台風のため倒壊、その他の事項もあり、むしろ校名も変更した方がよいとの意見が教育委員会の方から出たので、一〇月一日にさかのぼり、校名を横浜市立神奈川中学校と決定、市公報に校名変更が公示された

三、位置（校地）の変遷

昭二三・五・一三	横浜市神奈川区西大口一四一	四、三四三坪、横浜市立西大口高等小学校（廃校）校地利用
昭二八・一〇・一	横浜市神奈川区西大口一四一	六三六坪、横浜造船車輌株式会社所有地借用

総坪数　四、九七九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二四・八・二七	新築	木造二階建	二八六	・教室一〇
昭二四・一一・二一	新築	木造二階建	四九〇	・教室一五
昭二八・二・二六	新築	木造平屋建	六三	・教室二
昭二九・八・三一	新築	木造二階建	二〇六	・教室六
昭三一・三・一四	新築	木造平屋建	五四	・教室一

総坪数　一、〇九九坪（教室三四、その他三）

五、学区及びその変遷

昭二四・一〇・八　神奈川区西寺尾町、神ノ木台、神ノ木町、神ノ木通、大口仲町、大口通一八以上（第一、第二町内の）西大口、白幡町、白幡仲町、白幡向町、白幡上町、白楽九〇以上、港北区篠原町、仲手原全部、台町一八〇以上、榎本七五六―九五一、一五八二―一八一七、富士塚一八一八―一八三〇、一八四二―一八四五、菊名町一―八五、九九―一一〇、一一〇九―一一一九

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	山本伊津雄	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	県立鶴見高等学校より就任、日吉台中学校長へ転任
二	中島　義正	昭三一・九・一	金沢中学校長より就任	

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二四	一九	六四〇（一三）	六四〇	
昭二五	二七	一、〇七五（二一）	四四七	三四三
昭三〇	五四	一、八六七（三九）	六二一	六〇〇

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
神奈川中学校PTA	昭二四・一二・一〇	会員五六九名
神奈川中学校後援会	昭二五・一・二七	教育施設の整備拡充のため創立、昭和二六年三月三一日解消、会員五六四名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二八・六・二六	防火用貯水槽	八米×五米

横浜市立栗田谷中学校

横浜市神奈川区栗田谷七番地
電話神奈川(4)四一八〇番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

設立の当初は幸ケ谷小学校の三階の二教室を与えられ、一〇名の職員と五一八名の生徒を収容し、主として講堂を利用して授業を開始した。

二、校名の変遷

昭二二・四・三〇　横浜市立青木中学校

昭二四・七・四　横浜市立栗田谷中学校　前、栗田谷小学校校舎に移転したため

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・六　横浜市神奈川区幸ヶ谷一六　二八〇坪、横浜市立幸ヶ谷小学校の五教室及び講堂を借用

昭二四・七・四　横浜市神奈川区栗田谷七　三、二九三坪、前栗田谷小学校に移転

昭二八・一二・二四　横浜市神奈川区栗田谷五〇ノ二、五一、五一ノ一　一、四八八坪、運動場僅少のため隣接地を本校運動場拡張予定地として買収した

総坪数　四、七八一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・六	借用	鉄筋三階建	二八〇	・横浜市立幸ヶ谷小学校の五教室及び講堂を使用した
昭二二・五・一四	借用	鉄筋三階建		・幸ヶ谷小学校の六教室を使用（講堂を返還）
昭二四・七・四	転用	鉄筋三階建	一、二四八	・教室三一、前栗田谷小学校々舎に移転

総坪数　一、二四八坪（教室三〇、その他九）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・三〇　幸ヶ谷町、栄町、金港町、大野町、山内町、青木通、宮前町、棉花町、浜町、橋本町、星野町、神奈川通一丁目―四丁目、御殿町、飯田町、東神奈川町、旭ヶ丘、二本榎町、白楽一―八九、西神奈川町一丁目―四丁目、二ッ谷町、平川町、広台太田町、斉藤分町六五―一六四、中丸、松ヶ丘、沢渡、泉町、高島台、上反町、桐畑、台町、鶴屋町、栗田谷、松本町、反町、三ッ沢上町、三ッ沢中町、三ッ沢下町、三ッ沢西町（但し三ッ沢西町一三六を除く）三ッ沢東町、三ッ沢南町、西区北軽井沢四、保土ヶ谷区峰沢町、岡沢町

昭二八・四・一　松本町一四―四五、七一―八三、松ヶ丘、泉町、栗田谷二五以上、三ッ沢上町、三ッ沢中町、三ッ沢下町、三ッ沢西町（但し三ッ沢西町一三六を除く）三ッ沢東町、三ッ沢南町、保土ヶ谷区峰沢町、岡沢町

変更理由、新設松本中学校に分離のため

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	鈴木　直吉	昭二二・四・三〇	昭三〇・五・三一	蒔田小学校々長より就任、港中学校長へ転任
二	大島　昌静	昭三〇・六・一		共進中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二二	一〇	五一八（一〇）	五一八		
昭二五	四三	一、五五六（三〇）	五五九	四三六	
昭二八	四一	一、二六九（二九）	四九八	五六四	松本中学に分離
昭三〇	五一	一、六〇三（三四）	五一〇	四九九	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
栗田谷中学校PTA	昭二四・四・一	会員一、七三二名

九、その他

昭二五・八　市民水泳大会男女総合第二位

昭二五・八　NHKラヂオ唱歌コンクール県第二位

昭二六・五　春季市内中学校バレーボール大会女子優勝

昭二六・一二　神奈川県中学校唱歌コンクール第一位優勝、昭和二七年二位入賞

昭二七・五　春季市民バレーボール大会中学の部女子優勝

昭二七・六　就職開拓優良校として県知事より表彰さる

昭二七・八	市民水泳大会男子総合第二位
昭二七・八	県主催水泳大会男子総合第二位
昭二七・一一	全日本学生音楽コンクール東日本大会第三位、昭和二八年二位入賞
昭二八・四	春季市民バレーボール大会中学の部男子優勝
昭二八・四	春季市内中学校バレーボール大会優勝
昭二八・八	市民水泳大会男女綜合優勝
昭二八・八	県主催水泳大会男女綜合第二位、男子綜合優勝
昭三〇・一〇	ラヂオ唱歌コンクール県第二位
昭三一・八	全日本通信競技神奈川県大会第二位

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
	プール	一五〇	二五米×七・五米×一米、前栗田谷小学校々舎に移転した際既設されていた

横浜市立浦島丘中学校

横浜市神奈川区白幡東町一七番地
電話神奈川(4)五一〇九番

一、設置状況

1 創立 昭和二二年四月一日
2 開校 昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年学制改革により新制中学校として浦島小学校を借用して開校

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立浦島丘中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・一	横浜市神奈川区浦島ヶ丘一六番地	横浜市立浦島小学校に併置
昭二七・二・二八	横浜市神奈川区白幡東町一七番地	五、八三九坪、独立校舎の建設は学校、父兄、地元民の熱望であつたが、県有地を市が買収し本校敷地となつた
昭三一・五・二六	横浜市神奈川区白幡東町一七番地	九九一坪、運動場隣接県有地を買収、整地拡張す

総坪数 六、八三〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	借用	鉄筋三階建		・教室二三、新学制施行により浦島小学校に併置二二教室を借用して開校
昭二七・二・二八	新築	木造二階建	四八五・六六	・教室二三

昭二八・　六・二三　増　築　木造二階建　八五・九三　・教室四
昭二九・　九・　七　増　築　木造二階建　一〇九・六九　・教室六
昭三一・　三・一四　増　築　木造平屋建　八九・七五
総坪数　一、三六六・四七坪（教室三四、その他一四）

五、分　離　状　況

昭二四・一〇・　六　神奈川中学校新設により一、二年生六四〇名分離

六、学区及びその変遷

昭二二・　五・　一　神奈川区立町、鳥越、富家町、神明町、宇屋町、神奈川通五丁目―九丁目、稲荷町、亀住町、浦島ヶ丘、七島町、白幡東町、白幡西町、白幡南町、千若町、新浦島町、出田町、子安通一丁目―三丁目、子安台、新子安、入江町一、二丁目、恵比須町、宝町、大口通神の木町、神の木台、神の木通、西寺尾、白幡町、白幡上町、白幡向町、白幡仲町、西大口、白楽九〇以上、港北区篠原町一八〇―仲牛原、榎木七五六―九五一、一五八二―一八一七、富士塚一八一八―一八三〇、一八四二―一八四五、菊名一―八五、九九―一一〇、一一〇九―一一一九

昭二四・一〇・　六　大口通、神ノ木町、神ノ木台、神ノ木通、西寺尾、白幡町、白幡上町、白幡向町、白幡仲町、西大口、白楽九〇以上、港北区篠原町一八〇、仲手原、榎木七五六―九五一、一五八二―一八一七、富士塚一八一八―一八三〇、一八四二―一八四五、菊名一―八五、九九―一一〇、一一〇九―一一一九

七、歴　代　校　長

代	氏　名	就任年月日	転・退職年月日	
一	宮原　信夫	昭二三・四・三〇	昭二七・四・三〇	県立工業学校教諭より就任、横浜市立根岸中学校長へ転任
二	関戸　小一	昭二七・五・一	六浦中学校長より就任	

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二三	三一	一、〇四〇（二一）	一、〇四〇	七四	
昭二四	五四	二、〇四六（四一）	五三八	六五七	昭和二四年一〇月六日、神奈川中学校創立により六四〇名減少
昭二五	三三	一、一五六（二三）	三九〇	三七九	
昭三〇	五二	一、八七七（三九）	六二二	五七五	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
浦島丘中学校整備後援会	昭二二・六・二八	本校の設備の充実を図り、教育経営に協力することを目的として発足したが、昭和二七年三月、浦島丘中学校ＰＴＡに事務引継ぎ、発展的に解消
浦島丘中学校ＰＴＡ	昭二三・四・二五	会員一、九〇二名
浦島丘中学校整備協力会	昭二六・六・二〇	新校舎建設に当り校舎内外の整備に協力することを目的として発足、昭和二七年七月二三日、発展的に解消

一〇、そ　の　他

昭二五・　五・二三　特設学級（夜間授業）三学級設置、本校一、子安東浜一、子安西浜一
昭二九・　二・一七　教科学習に於ける基礎学力の研究発表
昭三〇・　六・二一　教科学習に於ける基礎学力の研究発表

横浜市立六角橋中学校

横浜市神奈川区斉藤分町八一番地
電話神奈川(4)三一五五番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日
2 開校　昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

横浜市立神橋小学校内に九教室を借用して創立、神橋小学校の学区の生徒を主体として、池上小学校一部の学区域生徒を併せ収容して開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立六角橋中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・一　横浜市立神橋小学校内
昭二三・一一・四　横浜市神奈川区斉藤分町八一番地
昭二四・四・一〇　第二期工事竣工
昭三一・九　横浜市神奈川区神大寺町二〇　五、二六八坪、六角橋分校々地
総坪数　本校二、九八一坪坪　分校五、二六八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二三・一一・四	新築	木造二階建	三四八	・教室一一
昭二四・五・四	新築	木造二階建	三三五	・教室一〇
昭三一・九	新築	鉄筋三階建	六九二	・教室一六

総坪数　本校六八三坪（教室二一、その他六）分校六九二坪（教室一六、その他四）

五、分校の設置状況

昭三一・九・一　横浜市立六角橋中学校分校を神奈川区神大寺二〇に設置、生徒数七二二名収容

六、学区及びその変遷

神橋小学校の学区、六角橋、片倉町、斉藤分町一—六五、神奈川区西神奈川通五丁目、港北区篠原町一—一七九、九五二—一五八一、三〇四九—三一三二

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	佐藤之一	昭二二・四・三〇	昭二八・三・三一	斉藤分小学校長より就任、幸ケ谷小学校教諭へ転任
二	倉林知恵	昭二八・四・一		大島中学校副校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一二	四二四（八）	三二三	
昭二五	二九	七六二（一七）	二七二	二八六
昭三〇	三五	一、〇二一（二二）	三四五	三三九

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
六角橋中学校PTA		
六角橋中学校校舎建設委員会	昭二八・三	新校舎の敷地買収のため
六角橋中学校校舎建設学区委員会	昭二八・六	校舎敷地買収のため

横浜市立松本（まつもと）中学校

横浜市神奈川区三ッ沢下町二九番地
電話神奈川⑷四〇五〇番

一、設置状況

1　創立　昭和二八年四月一日

2　開校　昭和二八年四月一日

3　設置の際の概況

昭和二七年二月一日、横浜市教育委員会において、松本方面校の設置の必要を認め、神奈川区三ッ沢下町二九番地の地を五、四三四坪買収整地を開始、昭和二七年五月一日松本方面小学校長として横浜市立北方小学校副校長相川安太郎氏内命さる。昭和二七年五月二二日第一期工事起工、八月二〇日完成し、二七年八月二〇日校長相川安太郎氏任命、九月一五日副校長岡田清一氏任命さる。小学校として発足するはずであつたが、学区も児童もなく廃校となり、そのあとに横浜市立松本中学校が創立される。

二、校名の変遷

昭二八・四・一　横浜市立松本中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二七・八・二〇　横浜市神奈川区三ッ沢下町二九　五、四三四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二七・八・二〇	新築	木造二階建	二一九	・教室六
昭二八・四・四	増築	木造二階建	一八三	・教室六
昭二八・七・四	増築	木造二階建	一七九	・教室四
昭三〇・八・一七	増築	木造二階建	六四	・教室三

総坪数　八五四坪（教室一九、その他九）

五、学区及びその変置

昭二八・四・一　栗田谷二五以上、松本町一四―四五、七一―八三、泉町、三ッ沢上町、三ッ沢中町、三ッ沢下町、三ッ沢東町、三ッ沢西町、三ッ沢南町、保土ヶ谷区峰沢町、岡沢町、常盤台町一四

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	井上　高三	昭二八・四・一		栗田谷中学校副校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二八	一五	六二五（一一）	二四二	一八〇	栗田谷中学校より二、三年三八三名転入
昭三〇	二六	八七四（一九）	二八九	二六四	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
松本中学校父母と先生の会	昭二八・五・一〇	会員八七八名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・一二・二七	防火用貯水槽	一一・五	貯水槽は市費であるが、ＰＴＡ費にて配管工事と噴水工事をし、更に大沢康雄氏より樹木の寄贈を受け美観を施す

横浜市立岡（おか）野（の）中学校

横浜市西区岡野町一一四番地
電話神奈川(4)三六四四番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日
2 開校　昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和三年一二月二五日、岡野小学校として新築落成して使用していたのを引継いだ。然しながら昭和二〇年の横浜市空襲の際に、三階の大部分は被害を受け焼失して使用に耐えず、極めて困難な状況の下に開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立岡野中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五　横浜市西区岡野町一一四番地　二、六二〇坪
昭二三・一・三一　横浜市西区岡野町一四一番地　三一九坪
総坪数二、九三九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷別類	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	貸与			・教室三、平沼小学校が駐留軍に一部接収されたため本校の二教室を貸与、総坪数四〇・四坪
昭二三・六・一五	改築			・昭和二三年二月二七日、三階教室修理着工し、六月一五日完成す、教室三〇、講堂

総坪数一、一一九坪（教室三〇、その他一〇）

五、学区及びその変遷

昭二二・五・五　平沼町、西平沼町、高島町通り、表高島町、岡野町、南浅間町（以上平沼小学校学区域）北幸町、浅間町、楠町、南軽井沢町、北軽井沢町、宮ヶ谷、浅間台、南幸町、釜谷町（以上宮ヶ谷小学校の学区域）

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	長谷川雷助	昭二二・四・三〇	昭三〇・五・三一	戸部小学校長より就任、退職
二	石井安正	昭三〇・六・一	日吉台中学校より就任	

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二二	一八	九〇一（一七）	九〇一		一、二年入学
昭二五	四一	一、二九〇（二七）	四四四	四二三	
昭三〇	四九	一、六二七（三四）	五六五	五三七	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
岡野中学校後援会	昭二二・六・二八	
岡野中学校ＰＴＡ	昭二二・一〇・四	会員一、四七五名

九、その他

昭二九・一一・三　神奈川県より図書館の設備優秀なため表彰される

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・四・一	図書館	二二	蔵書数二、五〇〇冊

横浜市立西（にし）中学校

横浜市西区西戸部町三丁目二八六番地
電話長者町(3)〇五一一三番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日

2 開校　昭和二二年五月五日

3 設置の際の概況

六三制実施にともない設置されたもので、当初西区内を三学区とし、老松、岡野、西戸部の三小学校が廃校になり、その校舎に中学校を設置することになつた。本校は西戸部小学校の校地校舎をそのまま引継いで開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立西中学校　西区名をそのまま本校校名とした

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一　横浜市西区西戸部町三ノ二八六　二、四三二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	転用	鉄筋三階建	一、二一九	・教室二八、開校当初より水道局が校舎一、二階及び講堂を使用、昭和二三年五月二四日、音楽室を除いた校舎一、二階を、又二四年三月三〇日、講堂及び音楽室がそれぞれ返還され、校舎を全面的に使用出来るようになつた

総坪数　一、二一九坪（教室二九、その他一四）

五、分校、分教場の設置、廃止状況

昭二八・一一・三〇　岩井原分校を生徒数増加のため保土ヶ谷区岩井町三〇八に設置、木造二階建を新築、校舎坪数二〇六・一坪 教室六、生徒三二五名

昭二九・三・三一　岩井原分校独立のため廃止

六、学区及びその変遷

昭二二・四・一　西区、浜松町、西前町、杉山町、扇田町、西戸部町二丁目一五一—一八九、三丁目二五二—三一〇、藤棚町一丁目一—一七六、藤棚町二丁目一九八—二二九、石崎町二丁目、紅梅町二丁目二七—四三、天神町二丁目伊勢町三丁目一一八—一二七、一三三—一四〇、九〇、九三、九七—一二〇、東久保町、元久保町四—四九保土ヶ谷区、岩井町（東海道線）西久保町（一部）、西前小学校稲、荷台小学校の学区を本校の学区とする

昭二九・四・一　西区、久保町、藤棚町一丁目一—九、一四、一五、二五—二七、三七、三八、四〇—一七六、藤棚町二丁目一九八—二二九、境之谷五四—八三、八六—八八、九〇、九三、九七—一二〇、東久保町、元久保町四—九四、保土ヶ谷区、岩井町、西久保町、岩井原中学校独立による

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	和田　悌三	昭二二・四・三〇	昭二三・八・三一	戸塚高等女学校長より就任、退職
二	立石　実信	昭二三・一〇・二五	昭三一・八・三一	豊岡中学校長より就任、平楽中学校長へ転任
三	飯田　翅夫	昭三一・九・一		大綱中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二二	九	四五六（八）	四五六	六二	開校時の数
昭二五	四七	一、四〇七（二九）	五一八	四五八	
昭二八	四九	一、六八九（三四）	六六七	四八八	

昭二九	三六	一、二九八（二七）	三九八	五一二	岩井原分校独立のため減少
昭三〇	三六	一、一四六（二四）	三四九	三三一	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
西中学校後援会	昭二二・七・二三	昭和二三年PTAに事務引続き発展的に解消、会員五〇〇名
西中学校PTA	昭二三・二・七	会員一、二〇〇名
西中学校同窓会	昭二七・五・五	会員三、二九一名

一〇、その他

昭二五・五・一	特設学級併設（夜間学級）学級数一、第一学年二三、第二学年三一、第三学年一〇、計六四
昭二六・二・九	第一回西中学校教育研究発表会を行う（全教科カリキュラムの研究）
昭二六・一一・二四	第二回西中学校教育研究発表会を行う（全教科及び特別教育活動の研究）
昭二八・四・一	昭二八、二九年度文部省産業教育指定校に指定される
昭三〇・一一・七	文部省指定神奈川県公立中学校産業教育研究合同発表会を開催

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・一一・二八	学校図書館	八六	蔵書数三、〇二四冊

横浜市立老松中学校

横浜市西区老松町二七番地
電話長者町(3)四六六一番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日

2 開校　昭和二二年五月五日

3 設置の際の概況

新学制が実施されることになり「西区新学制実施準備協議会」を結成し、区内に予定している三中学校を如何にするかを協議した。その際、区内を老松、西、岡野の三ブロックにわけ、ブロック毎に具体案を練ることになつた。老松ブロックは老松、一本松、東、戸部の四校であつた。老松小学校は、本町小学校に併設されていたので、これを廃校とし、老松中学とすることにした。当時、校舎を市役所が庁舎として使用していたので、東小学校に併設、五月五日開校のはこびとなつた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立老松中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一	横浜市西区東ケ丘五九番地	横浜市立東小学校に併設
昭二五・一一・二一	横浜市西区老松町二七番地	二、〇六〇坪、旧老松小学校地に移転

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	借用	鉄筋三階建	四〇三	・教室一四、横浜市立東小学校校舎三階を借用
昭二四・五・一四	増築	木造二階建	一六八	・教室二〇、校舎狭小のため東小学校校地内に新

昭二五・一一・二一　転用　鉄筋三階建　一、二七九　築　・教室二九、市庁舎としての使用解除により、旧老松小学校に移転

総坪数　一、二七九坪（教室二九、その他九）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　西区、境の谷一—五三、藤棚町二丁目一七七—一九七、西戸部町一丁目一—二四、三一—五三、七六—一一六、西戸部町二丁目一一七—一五〇、一九〇—二五一、西戸部町三丁目三一一—三一八、伊勢町一、二丁目伊勢町三丁目一二八—一三三、一四一—一四八、石崎町一丁目、紅梅町一丁目、天神町一丁目、戸部町、御所山、東ケ丘、霞ケ丘一—一一〇、赤門町二丁目、中区、赤門町一丁目、伊勢佐木町五—七丁目、初音町一—三丁目、英町、黄金町、日の出町二丁目、末吉町一—四丁目、曙町三丁目三二、四〇—四一

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	矢部　門三	昭二二・四・一	昭三〇・二・一	老松小学校長より就任、退職
二	小島　歩	昭三〇・二・二		谷本中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	二五	五五三（一二）	五五三	
昭二五	三五	一、二三八（二五）	三七一	四一九
昭三〇	四三	一、五〇四（三二）	四八九	四六五

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
老松中学校後援会	昭二二・五・三一	昭和二三年六月五日、両親と教師の会に事務引継ぎ発展的に解消
老松中学校両親と教師の会	昭二三・二・一三	会員一、五〇〇名

九、その他

昭二八・四・一　神奈川県より昭和二八年度、二九年度統計教育研究校の指定をうける

昭三〇・四・一　神奈川県より昭和三〇、三一年度社会福祉事業協力教育研究校の指定をうける

昭三〇　横浜市教育委員会より「野外訓練の指導」の研究指定をうけた

横浜市立岩井原中学校

横浜市保土ケ谷区岩井町三〇六番地
電話長者町(3)五八八七番

一、設置状況

1　創立　昭和二九年四月一日

2　開校　昭和二九年四月一日

3　設置の際の概況

昭和二二年四月、新学制発足により西区内に岡野中、老松中、西中の三中学校が誕生した。以来、区内の生徒数は逐年増加、特に西中学の生徒数増加は著しかつた。これが為昭和二七年度に至つて西区内関係者（小中学校長、西区PTA連絡協議会）により新たに中学一校を設立しようとする気運が高まり、二八年一一月三〇日、第一期校舎竣工と同時に西中学岩井原分校として発足、同年一二月一五日授業開始、二九年四月一日、横浜市立岩井原中学校として創立された。

二、校名の変遷

昭二九・四・一　横浜市立岩井原中学校　今からおよそ四百年前、文明時代の回国雑記に道興准后が江戸を立

ち鎌倉に向かう途中、今の帷子を通つて「岩井の原を過ぐるとて」「すさまじく岩井の原をよそにみてむすぶぞ草の枕なりける」と詠んでいる。この土地に学校が建てられたので、この深い歴史的意味を考えて校名とした。

三、位置（校地）の変遷

昭二九・四・一　横浜市保土ヶ谷区岩井町三〇八番地　四、二二二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二八・一一・三〇	新築	木造平屋建	二、〇六一	・教室六
昭二九・七・三	増築	木造平屋建	三〇九・四	・教室七
昭三〇・一一・一七	増築	木造平屋建	四八一	・教室一〇
昭三一・七・一四	増築	木造平屋建	八四・五	・教室二

総坪数　一、〇八一坪（教室二五、その他一六）

五、学区及びその変遷

昭二九・四・一　西区、久保町、藤棚町一丁目―九、一四、一五、二五―二七、三七、三八、四〇―一七六、藤棚町二丁目一九八―二二九、境ノ谷五四―八三、八六―八八、九〇、九三、九七―一二〇、東久保町、元久保町四―九四保土ヶ谷区、岩井町（東海道線東側）

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	峰尾　正次	昭二九・四・一	西中学校副校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二九	二〇	七四九（一六）	七四九		創立年度三年生を欠く
昭三〇	三四	一、一五九（二五）	四一〇	三二六	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
岩井原中学校父母と教師の会	昭二九・四・一四	会員一、一六〇名
岩井原中学校施設整備後援会	昭三〇・六・二四	岩井原中学校施設充実のために協力する、会員八五四名
岩井原中学校同窓会	昭三一・五・二七	会員三一六名

九、その他

昭三〇・六・二七　横浜市教育委員会より校内現職教育の指定を受けた

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・八・一〇	気象観測施設		
昭三〇・一〇・四	学校図書館	一八・五	一般特別教室を充当、蔵書数生徒用一、六八二冊、教師用二四五冊

横浜市立吉田（よしだ）中学校

横浜市中区羽衣町三丁目八四番地
電話港(8)〇五九三番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日
2 開校　昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年三月、学校教育法が公布され、六三制実施により新制中学校の設置し、吉田小学校を廃し、その校舎を転用して開校した。校舎は戦災者収容所であつたため、ひどく荒発していた。本校創立後も教育的環境とはほど遠く、眼にあまるものであつた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立吉田中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一　横浜市中区羽衣町三丁目八四番地　二、七三二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	転用	鉄筋三階建	一、一五一	
昭二二・四・一	貸与	鉄筋三階建	一七	・教室一、横浜市立本町小学校に貸与、二三年三月三日返還
昭二二・四・一	貸与	鉄筋三階建	六六	・教室四、私立横浜女子商業学園に貸与、二七年一一月四日返還
昭二八・四・一〇	貸与	鉄筋三階建	九九	・教室六、横浜市立商業高校に貸与、二九年三月三一日返還
昭二九・四・七	貸与	鉄筋三階建	九九	・教室六、横浜市立高等学校に貸与、昭和三〇年三月一四日返還

総坪数　一、一五一坪（教室二九、その他一〇）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　中区、花咲町一―三丁目、桜木町一―三丁目、日の出町一丁目、宮崎町、宮川町一、二丁目、長者町、羽衣町、末広町、吉田町、野毛町一―四丁目、曙町一―四丁目、弥生町一―四丁目―伊勢佐木町一―四丁目、日本大通、本町、蓬来町、弁天通、常盤町、太田町、尾上町、若葉町、海岸通、吉浜町、山吹町、北仲通、真砂町、南仲通、住吉町、福富町、港町、相生町、新港町、元浜町、西区、西戸部一丁目二五―三〇、五四―七五、老松町、花咲町四―七丁目、橘町、内田町、長住町、緑町、宮崎町、桜木町四―七丁目、紅葉丘、入船町

昭二三・四・一　南区、永楽町、万世町、真金町、高根町、浦舟町一―二丁目、白妙町一―二丁目、中区、弥生町三、四、五丁目、曙町四丁目（一―四四、四七―四九、五四―五七、五九以上）五丁目（一―六四、六四一六七、七二以上）伊勢佐木町五丁目―七丁目、初音町、英町、日の出町二丁目、赤門一丁目、末吉町、黄金町、曙町三丁目三二、四〇―四一、四丁目四五―四六、五〇―五三、五八、若葉町二、三丁目、曙町五丁目

南吉田小、東小、学一区部編入

昭二九・四・一　大平台、大芝台、塚越、根岸台、旭台、寺久保、西竹之丸、山元町一―四丁目、山手町（二七九―二八八）箕沢、平楽中学へ分離

昭三〇・四・一　南区、中村町一丁目、中区、石川町三、四、五丁目、打越町、山手町（二〇三―二〇五）石川小学校学区一部編入

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	村上 泰助	昭二二・四・三〇	昭二七・四・三〇	県立商工実習学校長より就任、戸塚中学校長へ転任
二	斉藤 高治	昭二七・五・一	昭三〇・五・三一	潮田中学校副校長より就任、岡村中学校長へ転任
三	天野丑之進	昭三〇・六・一		鶴ケ峯中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	二四	七二二（一六）	七二二	六九
昭二五	二三	六九七（一五）	二二四	二二四
昭三〇	三七	一、二四七（二七）	五〇五	三六二

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
吉田中学校後援会	昭二二・五・三〇	昭二三年三月二日愛育会に事務引継ぎ発展的に解消、会員六三三名
吉田中学校愛育会	昭二三・三・三	新教育の充実発展を目的とする、二九年二月四日、PTAに事務引継ぎ発展的に解消、会員一、三三二名
吉田中学校PTA	昭二九・二・四	
吉田中学校後援会	昭二九・六・二二	講堂建設促進並び諸施設充実を後援の目的とする、会員七六二名

九、その他

昭二八・六・三〇	昭和二八年度及び二九年度文部省産業教育研究指定校となる
昭三〇・二・八	産業教育研究の成果を全国的に発表
昭三一・四・一	横浜市教育委員会より特殊学級（遅進児の指導）研究指定を受く

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三・二・七	貯水槽	八六	二・五米×五・五米×一米

横浜市立大鳥（おおとり）中学校

横浜市中区本牧四丁目地先
電話本局(2)四五〇〇番

一、設置状況

1 創立 昭和二三年四月一日
2 開校 昭和二三年四月一日
3 設置の際の概況

横浜市中区諏訪町二九番地北方小学校内に創立、同校三階一一教室を借用し、運動場を共有として発足す。

二、校名の変遷

昭二三・四・一	横浜市立大鳥中学校	将来大島地区に校舎を建設することを想定して、その地域の名を取つた

三、位置（校地）の変遷

昭二三・四・一	横浜市中区諏訪町二九番地	一、五四三坪、北方小学校三階借用
昭二三・一一・一七	横浜市中区本牧町一丁目二五一	二、七一〇坪、北方小学校移転、大島小学校三階借用
昭二四・四・二〇	横浜市中区山下町二三一番地	二、〇三三坪、港高校校舎に移転、全校舎借用
昭三〇・三・一八	横浜市中区本牧四丁目地先	二、九八三坪

総坪数二、九八三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二三・四・一	借用	鉄筋三階建	二三七	・教室一一、北方小学校の三階を借用して発足、

				講堂、便所等は共用
昭二三・一一・一七	借用	鉄筋三階建	二三一	・教室一〇、大島小学校の三階に移転、借用講堂便所等は共用
昭二四・四・二〇	借用	鉄筋三階建	一、一一五	・教室二七、女子専修学校廃校跡に移転、初めて本来の校舎を持つ、校舎が学区域外にあるため全生徒が市電により通学
昭三〇・三・一八	新築	鉄筋三階建	一、一七三	・教室一八、旧本牧国民学校校舎を売却、六三制整備国庫の補助等を受けて新築

総坪数　一、一七三坪（教室一八、その他一四）

五、学区及びその変遷

昭二三・四・一	本郷町一、二、三丁目、本牧町一、二、三、四丁目、小港町一、三丁目、本牧三ノ谷、本牧大里町、本牧元町、本牧満坂、本牧緑ヶ丘、間門一、二丁目、本牧荒井、池袋、矢口台、仲尾台、豆口台、加曽台、滝の上
昭二五・四・一	根岸一、二丁目、追加、根岸中に収容施設がなかつたため
昭二八・三・三一	根岸一、二丁目、除外、根岸中の施設が完備し、通学距離を考慮
昭三〇・四・一	根岸一、二丁目、追加、独立の新校舎が落成し、父兄も要望し、通学距離も短かくなつたため

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	小野口正市	昭二三・三・三一	昭二四・四・一四	港南中学校教諭より就任、南太田小学校長へ転任
二	原田　寿夫	昭二四・四・一五		神奈川師範学校教諭より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二三	一五	四七六（八）	三〇五		四月二七日、三年六五名吉田中へ転校
昭二五	三四	九四九（二一）	二九七	三〇〇	
昭三〇	三五	一、一八八（二五）	三九七	三五一	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大島中学校PTA	昭二三・四・一	会員一、一二五名
大島中学校建設後援会	昭二九・四・一	会員一、三五四名、昭和三〇年四月一日廃止

九、その他

昭二四・一一・三	市内中学校科学展に学校賞を受領、昭和二五年再度受賞
昭二五—二六年度	横浜市教育委員会より科学教育委員会より科学教育研究指定校として指定された
昭二九・六・一九	口腔衛生優良校として表彰された
昭三一—三二年度	横浜市教育委員会より生徒指導研究指定校として指定された

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・三・一八	学校図書館	六九・八	蔵書数一、八八三冊

横浜市立港（みなと）中学校

横浜市中区山下町二四一番地
電話 港(8)七四〇四番

一、設置状況

1 創立 昭和二二年四月一日
2 開校 昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年の新教育制度により三年間の義務教育校として発足した。間門、大鳥、本牧、北方、元街各小学校第六学年卒業者を以て第一学年を組織し、更にその中の本牧、北方、大鳥の各尋常高等小学校の高等科第一学年修了者を勧招して第二学年とし、第三学年を編成せず、当時太平洋戦争終結直後の物心共に困窮した時で机、椅子等の校具、教具が極端に不足し、北方、元街其の他の小学校の援助によりようやく開校するに至つた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立北方中学校	
昭二三・四・一	横浜市立港中学校	横浜市立北方小学校三階より旧横浜市立横浜小学校（休校）校舎へ移転し、更に横浜市立大鳥中学校を分離したため、旧名称は実状に適しないとの意見により港都横浜を表現するような校名という意味で、学校独自の立場より変更

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五	横浜市中区諏訪町二九番地	横浜市立北方小学校三階及び二階一部（一三教室）を借用
昭二三・四・一	横浜市中区山下町二四一番地	一、九八五・一坪、旧横浜市立横浜小学校校地、校舎を全面的に使用

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	借用	鉄筋三階建		・教室一三、横浜市立北方小学校校舎三階及び二階一部を借用
昭二三・四・一	転用	鉄筋三階建	三五七	・教室三六、旧横浜市立横浜小学校校舎、太平洋戦争終結直後、米国進駐軍の兵舎として接収され、相当模様変えを行われ、その後市立第一女子商業学校が使用していたのを同校が横浜市立吉田中学校へ移転後全面的に使用するに至つた
昭二六・七・二〇	復旧	鉄筋平屋建	一八二	・戦災のため炎焼大破していた講堂をＰＴＡの協力により復旧工事完成、講堂兼雨天体操場並びに後方の一部を調理室として使用する

総坪数 五三九坪（教室二九、その他一一）

五、分離状況

昭二三・四・一	横浜市立大鳥中学校	大鳥、間門小学校区域生徒二年七三名、三年二八名を分離

六、学区及びその変遷

昭二二・五・五	中区、千代崎町、山手町、北方町、新山下町、諏訪町、本郷町、本牧町、本牧満坂、小港町、池袋、本牧元町、本牧和田、本牧十二天、本牧大里、本牧三谷、本牧荒井、根岸加増台、根岸一、二丁目、間門町、本牧四丁目、上野町、豆口台、大和町、矢口台、立野町、鷺山、麦田町、元町、石川町、山下町、西の谷、柏葉花咲町、妙香寺台、竹の丸
昭二三・四・一	中区、千代崎町、山手町、北方町、新山下町、諏訪町、上野町、大和町、立野町、鷺山、麦田町、元町、石川町一、二丁目、山下町、西の谷、柏葉、妙香寺台、竹の丸、横浜市立大鳥中学校分離により縮少する

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	板倉 外雄	昭二二・四・三〇	昭二二・九・一一	西前小学校長より就任、中区教育課長へ転任

二	鴨志田栄作	昭二二・九・三〇	昭三〇・五・三一	宮谷小学校長より就任、岩崎中学校長へ転任
三	鈴木　直吉	昭三〇・六・一		栗田谷中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一二	六二四（一二）	六二四	
昭二五	三五	一、一二三（二五）	三八八	三八四
昭三〇	四七	一、六七六（三五）	五三三	五五二

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
北方中学校後援会	昭二二・五・二八	昭和二三年北方中学校後援会は港中学校PTAに事務引継ぎ発展的に解消
港中学校PTA	昭二三・五・三	会員一、五二二名
港中学校同窓会	昭二四・四・二九	会員二、九七三名

一〇、その他

昭二六・一〇・一七	港中学校子供郵便局、貯蓄の成績優秀につき大蔵大臣より賞状をうけた
昭二七・五・二三	昭和二七年度卒業者の職業斡旋に協力し、優秀なので県知事より感謝状を受けた
昭二七・一一・二三	昭和二七年度健康優良学校審査において優良校として県教育委員会、神奈川県、朝日新聞社より表彰された
昭二八・二・二七	第一回神奈川県公立学校図書館コンクールにおいて賞状を受けた

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二三・五	図書室	四八・一	はじめ一教室を図書室として使用し、翌年現在の室に移転、昭和二五年には研究発表会を開く。昭和二九年度に四・五坪の事務室を増築、蔵書も年々増加し現在七、〇〇〇冊をこえている
昭二六・七・二〇	給食調理室	二五・五	講堂裏の調理室も大破していたものを講堂修理とともに改修使用

横浜市立平（へい）楽（らく）中学校

横浜市南区平楽一番地
電話本局(2)二二一三番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

昭和二二年四月一日、旧平楽小学校の校舎に創立、一年四八三名（八学級）二年二八二名（五学級）計七六五名（一三学級）を以つて発足した。職員は校長外一三名（定員一九名、欠員五名）平楽小学校は石川小学校に統合されたが、その生徒のうち五九三名が石川分校の名目の下に同一校舎内に併設されて、一部教室をその年の九月まで使用した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立平楽中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一　横浜市南区平楽一番地　二、六一三坪、市有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	転用	鉄筋三階建	一、三〇七	・教室二九、旧平楽小学校より新制中学発足によりひきつぐ
昭二二・五・五	貸与			・石川小学校に昭和二二年九月一日まで貸与

総坪数　一、三〇七坪（教室二九、その他一一）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　平楽小、石川小、三吉小の全部、南吉田小の一部をもつて学区として発足した。

昭二四・七・九　山元小学校、本校の学区に入る、その町名左の通り。中区、大平町、大芝台、塚越、根岸台、寺久保、西竹の丸、山元町一―五丁目、箕沢、山元小学校は吉田中、港中と通学していたが、通学区域が遠いため父兄の希望によつて近い本校に学区の変更を市教育委員会に願い、通学するようになる

昭二九・三　南区、高根町（三丁目を除く）白妙町（三、四、五丁目を除く）永楽町、万世町、真金町、千歳町、三吉町松影町、不老町、富士見町、寿町、山田町、万大町、翁町、長者町一―四丁目、中村町三、四、五丁目、山谷町、八幡町、中村町一、二丁目、平楽、唐沢、中区、石川町三、四、五丁目、打越町、山手町二〇三―二二三、大平町、大芝台、塚越、根岸台、旭台、寺久保、西竹の丸、山元町一―五丁目、箕沢

昭三〇・四・一　石川小学校学区の一部吉田中学校へ変更、その町名次の通り、中区、石川町三、四、五丁目、打越町、山手町、南区、中村町一丁目

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	大島正七郎	昭二二・四・一	昭三一・八・三一	県立横浜第二中教諭より就任、退職
二	立石　実信	昭三一・九・一		西中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一四	七六五（一三）	四八三	三八
昭二五	三二	一、二〇九（二三）	四七七	三七〇
昭三〇	四七	一、五六九（三四）	四七四	五〇六

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
平楽中学校後援会	昭二二・六・二八	昭和二三年四月一五日、PTAに事務引継ぎ発展的解消、会員六四五名
平楽中学校PTA	昭二三・四・一五	会員八二六名

九、その他

昭二三・九・一	市内の中学校にさきがけてホームルームシステムを実施
昭二七・一〇・二五	創立五周年記念式校歌、校旗制定
昭二九・二・一〇	道徳教育研究発表
昭二九・一一・二六	社会福祉研究合同発表会に参加

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三一・四・一	図書室	二九	被服教室を転用、蔵書数二、一〇八冊

横浜市立共（きょう）進（しん）中学校

横浜市南区共進町一丁目七番地
電話長者町(3)七一八八番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

昭和二二年三月学校教育法が公布され、同年四月一日、六三制実施により新制中学校の設置となる。共進中学校は旧共進小学校の校舎を引継ぎ開校した。本校がこれを引継ぐ以前から既に中村高等小学校、中村女子青年学校、市立女子商業学校がそれぞれ分割使用をし、その上、食料品統制組合が教室を借り受けて営業していた。しかし、二二年三月末に中村高等小学校は廃校となり、その後、前記の諸学校並びに営業所は漸次他に移り、二四年の春には共進中学のみの校舎となつた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立共進中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一　横浜市南区共進町一丁目七番地　二、六六九坪

昭二三・五・三一　九三三坪、校地狭小のため、松下忠一氏所有の隣接地を校地拡張期成会の尽力により買収し、現在運動場として使用（市有地）

総坪数　三、六〇二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	転用	鉄筋三階建	一、一三二	・教室三〇、旧共進尋常高等小学校校舎を転用
昭二二・四・一	貸与	鉄筋三階建		・市立女子商業学校が昭和二〇年頃より使用、昭和二二年九月一七日移転
昭二二・四・一	貸与	鉄筋三階建		・食糧品統制組合が昭和一九年頃より使用、昭和二三年六月一三日移転
昭二二・四・一	貸与	鉄筋三階建		・市立港高校理容科に貸与、昭和二四年四月一一日移転
昭二八・三・四	改築	木造平屋建	二〇	・旧共進小学校当時からの建物で、物置並びに金工室として使用されたものを大修理を加えて調理室に改造した

総坪数　一、三五二坪（教室三一、その他七）

五、併設状況

昭二五・五・一二　横浜市立商業高等学校共進分校（定時制）を併設、一教室使用、昭和二九年三月三一日廃止

昭二五・六・五　横浜市成人学校（夜間）を併設、本校校舎一部を使用

六、学区及びその変遷

昭二二・四・一　日枝町、南吉田町、山王町、吉野町、新川町、二葉町、高砂町、共進町一、宮元町一、睦町、東蒔田町、堀ノ内町、南太田町、井土ヶ谷下町、清水ヶ丘（五番地以上）高根町三、四丁目、白妙町三、四、五丁目、浦舟町三、四、五丁目

昭二五・四・一　南太田町、井土ヶ谷下町を蒔田中学校学区とし、蒔田中学校学区であつた伏見町、庚台、三春台、西仲町、前里町、白金町を共進中学校学区とする

昭三〇・四・一　堀ノ内町、清水ヶ丘五一番地以上を蒔田中学校学区とする、生徒の増加を緩和するため

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	大島　昌静	昭二二・四・三〇	昭三〇・五・三一	星川青年学校長より就任、栗田谷中学校長へ転任
二	木田鉄太郎	昭三〇・六・一		中山中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一二	三九八（九）	三九八	
昭二五	四一	一、四四九（三一）	四五一	四八七
昭三〇	四七	一、六五三（三五）	四八三	五四七

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
共進中学校後援会	昭二二・七・八	教育事業を後援し、その向上発展を図り、併せて学校、家庭、学区の連絡を緊密にする、昭和二三年ＰＴＡに事務引継ぎ発展的に解消

共進中学校PTA　、　昭二三・三・四　会員一、四五〇名

一〇、その他

昭二七・一二・六	優秀青少年会として三春台青少年会、市公安委員会より表彰を受けた
昭二九・三・一五	第二回県下学校図書館コンクールに入賞、表彰を受けた
昭三〇・一二・五	生徒会郵便局、郵政省貯金局長より表彰を受けた

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一七・不詳	プール		旧共進小学校当時、防火用水を兼ねて建設したもの
昭二二・不詳	学校図書室	三〇	蔵書数五、四〇二冊

横浜市立港（こう）南（なん）中学校

横浜市南区笹下町一九四九番地
電話長者町(3)六四八八番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

南区中里町六四番地の旧南青年学校校舎を転用し、桜岡、日野、日下、永野の四小学校学区を以つて開校す。しかし教室不足のため、更に隣接桜岡小学校の四教室を借用して授業を行う

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立港南中学校	
昭二四・九・一	横浜市立第一港南中学校	第二港南中学校創立のため、中里校舎を分校として授業を続けたが、学区が広く二校舎分離する様に命ぜられ、笹下校舎を第一港南中学校として坪井氏が校長に就任する
昭二五・九・一	横浜市立港南中学校	新築第二期工事が完成し、第二港南中の生徒全員を笹下の新校舎に統合す

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五	横浜市南区中里町六四番地	二、一七〇坪、現南小学校の場所にあつた旧南青年学校校舎を転用開校す
昭二四・六・二	横浜市南区笹下町一、九四九番地	一、九八八坪、新築第一期工事完成
昭二五・	横浜市南区笹下町一、九四九番地	九四四坪、第一回校舎増築のため
昭三〇・	横浜市南区笹下町一、九四九番地	六一坪
昭三〇・	横浜市南区笹下町一九四番地	四〇二坪

総坪数四、一四五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	転用	木造平屋建	四四八	・教室一二、旧南青年学校校舎を転用して開校した。校舎四棟
昭二二・五・七	借用	鉄筋三階建		・教室四、桜岡小学校を借用、七月一日まで
昭二三・四・六	借用	鉄筋三階建		・桜岡小学校を昭和二四年六月まで借用
昭二四・六・二	新築	木造二階建	三九九	・教室一〇、笹下町に新築移転のためし第一期工事として二棟完成

昭二五・七・一八	増築	木造二階建	三八六	・教室一二、第二期工事として第一期工事の一棟につぎ足しと別に一棟増築
昭三〇・九・二六	増築	木造二階建	二一〇	・教室四、第三期工事として別に一棟増築

総坪数　一、二〇九坪（教室二九、その他一二）

五、統併合、分離、併設状況

昭二二・五・一　南青年学校を港南中学校に併設

昭二四・九・一　中里校舎を第二港南中学校として分離

昭二五・九・一　笹下校舎の増築工事完成により第一、第二を統合して再び港南中学校に復す

六、学区及びその変遷

昭二二・五・五　大岡町（藤ノ木、千保）中里町、別所町、最戸町、大久保町、上大岡町、笹下町、日野町、野庭町、上永谷町、下永谷町、創立に当り桜岡、日野、日下、永野小学校の学区全部を港南中学校学区と定められる

昭二四・九・一　第二港南中学校創立のため分離

昭二六・四・一　中里町、南中学校学区に変更されたため

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	坪井良之助	昭二二・四・三〇	昭三一・八・三一	県立横須賀工業学校教頭より就任、生麦中学校長へ転任
二	原田金之助	昭三一・九・一		岡津中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一三	五二一（一一）	二四五	七〇
昭二五	三五	九九二（二二）	二九八	三一八
昭三〇	三七	一、三二九（二七）	四八五	三八〇

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
港南中学校後援会	昭二二・六・二	昭和二四年五月一日、PTAに事務引継ぎ発展的に解消
港南中学校PTA	昭二四・五・一	会員一、一〇五名
河川変更委員会	昭二五・六・六	校舎と校舎の間に川が流れていて危険であるため、校舎の裏側に新河川を掘り、旧河川を埋立てることを目的として発足、昭和二九年七月一七日、工事完成と共に解消

一〇、その他

昭二四・三・四　職業科トライアウトの研究発表会

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二九・七・一七	自転車置場	一五	自転車通学者多数のため

横浜市立南（みなみ）中学校

横浜市南区六ッ川町東下一四番地
電話長者町(3)一二八三番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日

2　開校　昭和二二年五月五日

3　設置の際の概況

昭和二二年四月、新学制の施行とともに、大岡小学校の学区域の大岡町、若宮町、中島町、大橋町、通町を学区とする中学校として発足した。当時、本校の学区域には中学校としての適当な校地もなく、既存の建物で校舎として利用できるものもなかつたので、やむなく市立横浜商業高校の一部六教室を借用して、どうやら開校式をあげることができた。しかしその教室も、空襲による爆撃のあとが生々しく、天井からは青空がのぞけ、机、腰掛もなく、なんにちか生徒を床にすわらせて授業をするというようなありさまだつた。

独立校舎設置に対する念願が、昭和二四年になつてようやく実を結び、六ッ川町一四番地に校名も南太田中学校から南中学校と改称して、自分達の校舎、自分達の運動場を獲得することができた。しかし、新校地には戦災者住宅三棟、九百坪があつて、その撤去には相当の努力を要したが、昭和二八年八月ようやく解決した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立南太田中学校	南区南太田町の横浜商業高等学校の校舎の一部を借用して発足したため
昭二四・七・四	横浜市立南中学校	校名を決定するまでに大岡中学校、六ッ川中学校等、学校所在地名をとるという案があつたが、市教育委員会としては南中学校でどうかとの案がなされ、満場一致で可決した

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一	横浜市南区南太田町二丁目一二八番地	市立横浜商業高等学校の一部教室を借用
昭二四・七・四	横浜市南区六ッ川町東下一四番地	三、三一四・〇一五坪、校地を市有地である前記地番に移転
昭二六・八・二六	横浜市南区六ッ川町東下一四ノ一番地	三二〇・一九九坪、学校隣接地をＰＴＡが買収
昭二九・一〇・一	横浜市南区六ッ川町二番地の四号地	六〇・九一坪、学校隣接地をＰＴＡが買収（昭和三〇年二月、市に譲渡）

総坪数　三、四五九坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	借用	鉄筋三階建		・教室六、市立横浜商業高等学校の一部教室を借用
昭二三・四・一	借用	鉄筋三階建		・教室一三、市立横浜商業高等学校の一部教室を借用
昭二四・七・四	新築	木造二階建	七三八・三	・教室二一、独立校舎として新築
昭二六・三・九	増築	木造二階建	一三一・八	・教室四
昭二八・五・一八	増築	木造二階建	一四〇	・教室四
昭二九・六・三	増築	木造二階建	一一九・六	・教室四
昭三〇・七・三	増築	木造二階建	一一一・三	・教室二

総坪数　一、二四一坪（教室三五、その他一一）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一	大橋町、中島町、通町、弘明寺町、井土ヶ谷中町一ー四二、四六、五七、五九ー一一五、若宮町、大岡町二七一ー一一九、一八〇五ー一九八八、二二二〇ー二二三三、二三〇五ー二三一〇、二三一六ー二三一九、二三三一ー二三三三、二三五二
昭二四・九・一	六ッ川町、市教育委員会規則第二号により追加
昭二五・四・一〇	中里町、市教育委員会規則第二号により追加
昭二七・二・九	永田町一四二三番地以上、市教育委員会規則第二号により追加

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	丸茂　長要	昭二二・四・三〇	昭三一・八・三一	本牧小学校長より就任、金沢中学校長へ転任
二	野川　義蔵	昭三一・九・一		生麦中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一〇	二五三（六）	二五三	—
昭二五	三一	一、一三四（二二）	四六二	三〇一
昭三〇	五一	一、八八七（四〇）	六二五	六〇五

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
南太田中学校教育振興会	昭二二・五・一八	南太田中学校の教育全般にわたり後援するため発足、会員二五三名、昭和二三年三月一四日解消
南太田中学校母の会	昭二二・七・一八	教育振興会とともに母の立場から同校教育後援のため発足、会員二〇七名、昭和二三年三月一四日発展的解消
南太田中学校父母と生生の会	昭二三・三・一四	校名変更により昭和二四年七月四日南中学校父母と先生の会となる、会員一、八七三名

九、その他

昭二四・一二・二三	横浜市科学教育実験学校に指定さる
昭二五・九・二九	科学教育研究発表会を開く
昭二五・一〇・八	昭和二五年度全国唱歌ラジオコンクール中学校の部、神奈川県コンクールにおいて優秀第一位に入賞
昭三一・五・二一	昭和三一年度横浜市研究指定校を委嘱された（教育評価）

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・七・四	学校図書館	一六・三	蔵書数五、〇〇〇冊、司書一名、教室を転用

横浜市立蒔田中学校

横浜市南区花ノ木町二丁目四五番地
電話長者町(3)三七三四番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日

2 開校　昭和二二年五月五日

3 設置の際の概況

昭和二二年三月三一日公布の教育基本法ならびに学校教育法にもとずき、旧横浜市立蒔田小学校の校地、校舎をそのまま転用し、太田、蒔田、井土ヶ谷三小学校の出身児童を収容し、開校した。これより先、文部省の指示に基き南区各小学校（十五校）から教員代表として、校長および教官一名、父兄代表二名計四名ずつを選出して、南区新学校制度実施準備協議会が設置され、新学制による小学校、中学校の設置に関する協議が進められ、南区内の小、中学校を決定して、これを横浜市新学校制度実施準備会に答申した。横浜市新学校制度実施準備会はこの議をいれて、県の協議会に答申し、ここに確定をみた。本校はそのうちの一校として設立されたものである。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立蒔田中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一	横浜市南区花ノ木町二丁目四五番地	二、五七一・三四坪、旧横浜市立蒔田小学校の校地全部
昭二六・四・一	横浜市南区花ノ木町二丁目四七番地	一九九・七九坪、私有地を借入れる
昭二七・五・一五	横浜市南区花ノ木町二丁目四〇番地	二七八・八一坪、私有地借地契約成立、昭和二九年六月二九日買収
昭二七・一二・二三	横浜市南区花ノ木町二丁目三九番地	八三七・一八坪、私有地買収

昭二七・一二・二五	横浜市南区花ノ木町二丁目四二番地	一七六・三三坪、私有地買収
昭三〇・二・一五	横浜市南区花ノ木町二丁目四一番地	三四七・三五坪、買収契約成立
	横浜市南区花ノ木町二丁目四四番地	二五六・五六坪、私有地借地契約成立
昭三一・二・一六	横浜市南区花ノ木町二丁目四三番地	五〇坪、私有地買収
昭三一・二・一六	横浜市南区花ノ木町二丁目三三番地	六六・八九坪、私有地（運動場として整地使用）
昭三一・四・二一	横浜市南区花ノ木町二丁目四六番地	五五・八五坪、私有地買収

総坪数　四、八四〇・一〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	転用	鉄筋三階建	一、三〇八・八七	・教室二八、横浜市立蒔田小学校を廃して、本校に転用
昭二三・五	貸与	鉄筋三階建		・日枝小学校に教室四、および準備室一を貸与、昭和二六年四月一日返還
昭二九・八・一六	増築	木造二階建	八七	・教室二、旧蒔田小学校木造校舎の跡に建築
昭三〇・九・一五	増築	木造二階建	二八九	・教室六
昭三一	増築	木造二階建	二七五・五七	・教室三

総坪数　一、六六三坪（教室三九、その他一八）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　永田町、六ツ川町、井土ヶ谷上町の全部、井土ヶ谷中町のうち四三、四五、四七―五六、五八、一一七―一六三番地、花ノ木町、宿町、蒔田町、榎町の全部、宮元町のうち七―一一、一七―二〇番地を除く全部、共進町のうち一丁目二二番地より二、三丁目、堀ノ内町二丁目全部、白金町、前里町、西仲町、三春台、伏見町、庚台の全部、清水ヶ丘のうち一九―二二、一六三番地以上、創立当初において蒔田、井土ヶ谷、太田の旧三小学校の卒業生を収容したので、通学区域も前記三校の通学区域をそのまま学区とした

昭二三・四・一　宮元町、榎町、共進町、堀ノ内の各一部を共進中学校へ分離

昭二五・四・一　清水ヶ丘のうち保土ヶ谷に通ずる大通りの北側、共進町一丁目全部、榎町一丁目のうち一―一六、二七―三四番地、榎町二丁目のうち四八―五九、七三―八九番地、堀ノ内二丁目、白金町、前里町、西仲町、三春台伏見町、庚台の全部、南区中学校学区調整の結果、共進中学校へ分離

昭二五・四・一　六ツ川町の全部、永田町のうち一四二三番地以上、南中学校へ分離

昭二五・四・一　南太田町の全部、井土ヶ谷下町のうち従来区域であつた残りの全部、共進中学校より本校に編入

昭三〇・四・一　堀ノ内町、清水ヶ丘五一番地以上、学区調整のため、当分の間共進中学校の区域を本校の学区に編入

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	三橋　嘉一	昭二二・四・一	昭三〇・五・三一	太田小学校長より就任、退職
二	村杉　武夫	昭三〇・六・一		岩崎中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	二六	八〇〇（一六）	八〇〇	八九
昭二五	四三	一、二〇七（二六）	四四六	三七七
昭三〇	五二	一、七九六（三七）	六七八	五三六

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
蒔田中学校後援会	昭二二・五・五	会員八〇〇名
蒔田中学校PTA親校会	昭二三・三・六	会員一、〇〇九名
蒔田中学校々地拡張対策委員会	昭二七・六・九	昭和二五年十月より校地拡張運動を始め、米軍より接収解除の通知を受け、対策委員会を結成、昭和三一年三月校地拡張整地完了と共に解消
蒔田中学校同窓会	昭二四・五・五	会員三、二二一名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二三・四・一	学校図書館	二、二七四	蔵書数四、三二八冊

横浜市立保土ヶ谷中学校

横浜市保土ヶ谷区釜台町八〇番地
電話神奈川⑷三二九五番

一、設置状況

1 創立 昭和二二年四月一日
2 開校 昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年四月学制改革にともない、神奈川県立第二中学校（現在の神奈川県立翠嵐高等学校）の西側一棟のうち一階六教室と講堂（四教室に間仕切り）を借用して開校した。しかし戦災による校舎の荒廃はすさまじく、窓といつても窓枠もなくことに講堂は雨もりがひどく雨の日は傘をさして授業を続けるという有様だつた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立保土ヶ谷中学校	創立開校場所が県立横浜第二中学校で神奈川区のため、保土ヶ谷区の中学であることを明示するために保土ヶ谷中学校の名称を用いた。

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五	横浜市神奈川区三ッ沢南町一番地	二〇一坪	県立横浜第二中学校（県立翠嵐高等学校）を仮校舎として借用
昭二三・五・七	横浜市保土ヶ谷区上星川町六一一番地	二六六五坪	始めは一五六五坪だつたが昭和二四年一〇月二四日に第二運動場一、一〇〇坪を増設
昭二八・八・二一	横浜市保土ヶ谷区釜台町八〇番地	五一八〇坪	

総坪数 五、一八〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	考考
昭二二・五・五	借用	木造二階建	二〇一	・教室一〇、県立横浜第二中学校の最西端の一棟の階下と講堂を借用
昭二三・五・七	改築	木造二階建	五六六	・教室二四、旧関東電気工業川島分工場倉庫を買収し改築したもので三棟
昭二八・四・二三	新築	木造二階建	二二三	・教室八、本校々舎が使用に耐えないので釜台分校として新築
昭二九・八・二一	増築	木造二階建	三三九	・教室一六、昭和二九年五月八日着工
昭三〇・九・二一	増築	木造二階建	一二八	・教室四、昭和三〇年三月一八日着工

総坪数 一、二六四坪（教室二八、その他一二）

五、分校の設置廃止状況

昭二八・四・二六	横浜市立保土ヶ谷中学校釜台分校を保土ヶ谷区釜台町八〇番地に設置、校舎坪数四二一坪、教室八、生徒三一六名、保土ヶ谷第二中学校として改築分を釜台分校として設置し三年生のみ収容
昭二九・九・五	同校本校々舎の増築完了と同時に上星川六一一番地の校舎を引揚げ本校として分校廃止

六、学区及びその変遷

昭二二・四・一	宮田町、天王町、峯岡町、川辺町、星川町、仏向町、坂本町、和田町、釜台町、上星川町、川島町、上菅田町、新井町、市沢町、小高町、三反田町、常盤台町
昭二四・三・三一	宮田町、天王町、星川一丁目、峯岡町一・二丁目、川辺町 宮田中学校創立により分離

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中島満洲夫	昭二二・四・三〇	昭二七・五・一	神奈川県立横浜第二中学校教諭より就任、宮田中学校長へ転任

二	内田　吉郎	昭二七・五・一	昭三一・九・一	鶴ヶ峯中学校副校長より就任、大綱中学校長へ転任
三	池上　秀雄	昭三一・九・一		日吉台中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二二	一四	四八八（一〇）	四四五	四三	九月より三年生四三名収容
昭二四	三三	一、二四〇（二四）	三一五	四一五	昭二四・三・三一、宮田中学校創立により分離
昭二五	三四	一、二〇八（二三）	三八三	四五〇	
昭三〇	四六	一、五〇八（三二）	五一二	四七一	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
保土ヶ谷中学校五月会	昭二二・五・五	学校教育の後援と独立校舎の建設、教育施設の整備拡充を目的とし、会員四四〇名、昭和二四年五月三〇日廃止
保土ヶ谷中学校ＰＴＡ	昭二四・五・三〇	会員一、〇九〇名

一〇、その他

昭二九・一一・一〇　就職率百パーセントにより県教育委員会より表彰された。

昭三〇・一一・一七　生徒指導研究発表会を行つた。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・一二・二九	貯水槽	一二	卵形貯水槽、貯水量四〇立方米

横浜市立岩崎中学校

横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘二八二番地
電話神奈川(4)四三〇〇番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日

2　開校　昭和二二年五月五日

3　設置の際の概況

新学制（六三制）実施にあたり創設された。校舎は神奈川県青年師範学校を借用し、岩崎小学校の一部四教室も借用して、開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立岩崎中学校

三、位置（校名）の変遷

昭二二・五・五	横浜市保土ヶ谷区権太坂一〇〇番地	三、五一六坪、神奈川県青年師範学校の一部（六教室）を借用
昭二二・五・五	横浜市保土ヶ谷区岩崎町二三番地	一、八一九坪、横浜市立岩崎小学校の一部（四教室）借用
昭二三・一〇・一	横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘二八二番地	四、二〇〇坪、独立新校舎完成により移転、市有地
昭二六・二・一六	横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘二五二番地	五八三坪、拡張買収

総坪数　四、四九二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	借用	木造二階建	八三	・教室六、青年師範学校校舎の階下を借用

昭二二・五・五	借用	木造二階建	九〇	・教室四、岩崎小学校の階下を借用
昭二三・四・五	借用	木造二階建	二四七	・教室一一、岩崎小学校二階建校舎を借用
昭二三・一〇・一	移築	木造二階建	二六七	・教室一六、旧戸塚日本光学の建物の一部を移築
昭二五・二・二四	増築	木造平屋建	二一五	・教室八
昭二六・五・一二	増築	木造平屋建	四九	・教室一、理科特別教室
昭二七・五・二	増築	木造平屋建	一一三	・教室二
昭二八・二・二六	増築	木造平屋建	六〇	・教室二、図工特別教室及び普通教室
昭二九・六・五	増築	木造二階建	五一	・教室二
昭三〇・八・二五	増築	木造二階建	五一	・教室四、音楽、図工、調理、被服の四特別教室

総坪数　八〇四・四坪（教室三四、その他一二）

五、学区及びその変遷

昭二二・五・五　岩井町、帷子町、月見台、神戸町、西久保町、岩間町、瀬戸ヶ谷町、狩場町、藤塚町、初音丘、権太坂、岩崎町、法泉町、霞台、境木町、保土ヶ谷町、今井町、桜ヶ丘、天王町

昭二六・一〇・一　宮田町二丁目（但し二一五—二二一、二二二を除く）三丁目を加える、帷子小学校開校による学区変更

昭二九・四・一　岩井町（東海道線東側）を岩井原中学校に分離

昭三〇・四・一　花見台一（県営アパート）を桜台小学校開校により学区変更

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	笠原　武夫	昭二二・四・三〇	昭二四・一・三一	県立第二中学校教諭より就任、退職
二	村杉　武夫	昭二五・二・一	昭三〇・五・三一	神奈川県教育委員会事務局より就任、蒔田中学校長へ転任
三	鴨志田栄作	昭三〇・六・一		港中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一八	四六四（一〇）	四六四	
昭二五	四〇	一、二七五（二四）	四四四	四〇八
昭三〇	四八	一、七四八（三六）	五七七	五三七

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
岩崎中学校父兄会	昭二二・五・一八	教育後援の任務完遂、昭二三年四月一日に名称変更
岩崎中学校ＰＴＡ	昭二三・四・一	会員一、八二五名

九、その他

昭二五・二・一五　全教科研究発表会、テーマ「具体化学習」

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二四・五・一	図書室	一七	蔵書数二、五〇四冊

横浜市立鶴（つる）ケ（が）峯（みね）中学校

横浜市保土ケ谷区今宿町九五五番地
電話　川井　一　七　番

一、設置状況

1 創立　昭和二四年八月一八日
2 開校　昭和二四年八月一八日
3 設置の際の概況

昭和二三年五月五日、本校の前進である都岡（校長天野丑之進）二俣川（校長津田利平）両中学が新学制の制定とともに発足し、都岡小学校二俣川小学校の校舎の一部を借用し、授業を開始した。昭和二三年三月一七日両校合同による新校舎建設運動を展開、既設の両中学校建設委員会の合同会議を数度開き、協議の結果同年八月二三日現在校地を敷地の候補地として対市、対地主交渉に移り十二月一日譲渡交渉成立し、八月一八日横浜市立鶴ヶ峯中学校として発足、同時に都岡、二俣川両中学校は廃校となつた。

二、校名の変遷

昭二四・八・一八　横浜市立鶴ヶ峯中学校

本校所在地は通称鶴ヶ峯と称し、畠山重忠戦死の地として有名であり、学区内には万騎原古戦場などもある。よつてこの由緒ある地名をとつて校名とした。

三、位置（校地）の変遷

昭二六・二・一〇	横浜市保土ケ谷区今宿町九五五番地	四七四一坪	鶴ヶ峯中学校建設委員会より寄附
昭三〇・一・二五	横浜市保土ケ谷区今宿町九五五番地	四四六坪	校舎増設予定地として隣接地を購入

総坪数　五、九六五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二四・八	新築	木造二階建	二三一	・教室六
昭二四・一〇	増築	木造二階建	一九四・二五	・教室六
昭二五・二	増築	木造二階建	二〇六	・教室六
昭二六・八	増築	木造平屋建	九七	・教室二
昭二九・八	増築	木造二階建	五二	・教室二
昭三二・八	増築	木造二階建	一九四、七	・特別教室四

総坪数　九七四・九五坪（教室二一、その他七）

五、学区及びその変遷

昭二四・八・一八　保土ケ谷区二俣川町、今宿町、川井町、上川井町、下川井町、上白根町、白根町旧都岡中学校、及び二俣川中学校の学区をそのまま ひきついだのである。

昭二九・二・一〇　前記学区の外に、小高町二二六―四七五番地、川島町二二一六番地を加える。

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	天野丑之進	昭二四・八・一八	昭三〇・五・三一	都岡中学校長より就任、吉田中学校長へ転任
二	高田　四郎	昭三〇・六・一		岡村中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二四	二五	八四二（一八）	二六六	二六三
昭二五	二五	八六五（一八）	三一六	二六五
昭三〇	三二	一、一一一（二四）	三五五	三六五
昭三一	三五	一、一六五（二五）	四〇六	三九九
昭三二	三五	一、二〇八（二五）	三八六	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
鶴ヶ峯中学校建設委員会	昭二三・三・一七	昭和三〇年八月一九日廃止

鶴ヶ峯中学校ＰＴＡ　昭二四・八・一八　会員一、〇六九名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二六・五	山林	七、八〇〇	借用
昭三〇・四・一	畑地	七七八	借用、実際は開校と同時に都岡小学校より譲りうけ使用していたもの

横浜市立宮田中学校

横浜市保土ヶ谷区宮田町一丁目一〇〇番地
電話神奈川(4)三二四六番

一、設置状況

1　創立　昭和二四年四月一日

2　開校　昭和二四年四月一日

3　設置の際の概況

横浜市保土ヶ谷区宮田町一の一〇〇番地、旧市立宮田国民学校（戦災にて焼失、廃校）跡に新学制による市立宮田中学校創立と決定、昭和二四年一月一〇日新校舎の起工式を挙行、学区は保土ヶ谷中学校、岩崎中学校の一部分を学区域として発足した。

二、校名の変遷

昭二四・四・一　横浜市立宮田中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二四・四・一　横浜市保土ヶ谷区宮田町一の一〇〇番地　三、二三三坪、市有地
昭二五・九・二一　横浜市保土ヶ谷区宮田町一の九二三番地　一〇〇坪
昭二六・三・二四　横浜市保土ヶ谷区宮田町一の九七八番地　五五〇坪
総坪数　三、八七三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二四・六・一八	新築	木造二階建	二三七	・教室五
昭二五・八・五	増築	木造二階建	四二四	・教室九
昭二六・六・一八	増築	木造二階建	一六九	・教室四

総坪数　八三〇坪（教室一九、その他一一）

五、学区及びその変遷

昭二四・三・三一　保土ヶ谷区宮田町一、二、三丁目（但し二丁目二一〇―二二九、三丁目二三〇―二八二を除く）峰岡町一、二丁目、川辺町、岡沢町二二六―二七九、鎌谷町、天王町一、二、三丁目、星川町一丁目

昭二五・三・三一　西区浅間台下旧東海道山添（浅間町三丁目）岡野中学校生徒数緩和のため、学区の一部本校に編入

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	中島満洲夫	昭二四・三・三一	昭二四・四・一四	宮田中学校長事務取扱（保土ヶ谷中学校長）
一	村田　恒彦	昭二四・四・一五	昭二七・四・三〇	港高等学校教諭より就任、金沢高等学校教諭へ転任
二	中島満洲夫	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	保土ヶ谷中学校長より就任、根岸中学校長へ転任
三	南雲　正策	昭三一・九・一		鶴見中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二四	一〇	一九〇（五）	一九〇	—	
昭二五	二〇	四一六（一二）	二一七	—	
昭二六	二三	六〇八（一五）	一九四	一九八	第一回卒業生
昭三〇	三一	九五九（二一）	三二三	二五六	

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
宮田中学校ＰＴＡ	昭二四・五・三〇	会員一九八名
青少年不良化防止対策委員会	昭二五・五・一〇	青少年指導のため組織され、後に、青少年指導対策委員会と改称
教具整備募金委員会	昭二八・五・一八	教具整備費募金のため発足、昭和二八、二九、三〇年度の三ヶ年継続事業とした

九、その他

昭二九・六・一　特殊学級研究指定校となり、同年九月一三日松尾学級開設

昭三〇・一〇・一五　文部省産業教育指定校となる

横浜市立根（ね）岸（きし）中学校

横浜市磯子区中根岸町三丁目地先
電話港(8)〇五九一番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日

2 開校　昭和二二年五月五日

3 設置の際の概況

横浜市立根岸小学校を休校とし、横浜市立根岸中学校を創立開校した。岡村町古泉に分校をおいた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立根岸中学校　校名は所在地の地名を採用

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五　横浜市磯子区中根岸町三丁目一五五番地　一、二一二坪、根岸小学校内に創立

昭二六・一〇・一二　横浜市磯子区中根岸町三丁目地先　四、二〇二坪、海岸を埋立、独立校舎新築

総坪数　四、二〇二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	転用	木造二階建	一、二一二	・教室二五、根岸小学校建物を借用、一棟
昭二六・一〇・一二	新築	木造二階建	五九〇	・教室一二、海岸を埋立、独立校舎二棟新築
昭二九・七・八	増築	木造二階建	九〇	・海岸よりに二教室増築
昭三一・八・二〇	増築	木造二階建	二〇四	・教室五

総坪数　八〇四坪（教室一九、その他一二）

五、分校、分教場の設置、廃止状況

昭二二・五・五　横浜市立根岸中学校岡村分校として横浜市磯子区岡村町古泉に設置、校舎坪数一六〇坪、教室四、生徒一六〇名

昭二四・三・三一　横浜市立根岸中学校岡村分校独立のため廃止さる

六、学区及びその変遷

昭二二・五・五　中区根岸町、磯子区中根岸町、原町、西根岸下町、西根岸坂下町、磯子町、滝頭町、丸山町、岡村町

昭二四・四・一　磯子町、滝頭町、丸山町、岡村町は岡村中学校独立により分離

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	高村　利義	昭二二・四・三〇	昭二四・七・二〇	鶴見工業高等学校教頭より就任、横浜市教育委員会第二教育課長へ転任
二	宮寺　大助	昭二四・八・二	昭二七・四・三〇	根岸中学校教頭より就任、大正中学校長へ転任
三	宮原　信夫	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	浦島中学校長より就任、六浦中学校長へ転任
四	中島満洲夫	昭三一・九・一		宮田中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二二	三〇	九九八（一九）	九九〇	七三	
昭二四	三五	一、二〇五（二六）	四一〇	四五五	
昭二五	二四	六二二（一五）	一八五	二三二	岡村分校分離独立
昭三〇	二一	七二一（一五）	二四一	二四四	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
根岸中学校後援会	昭二二・五・一一	会員九九〇名、昭和二三年五月二〇日廃止
根岸中学校父母と教師の会	昭二三・五・二〇	会員一、二五〇名
根岸中学校々舎建設促進委員会	昭二五・二・二四	校舎建設、施設整備のため発足、昭和二六年十月新校舎建設の所期の目的が達成されたため、昭和二七年三月二〇日解散した

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二三・四・五	図書室	二〇	蔵書数二、〇〇〇冊

横浜市立浜（はま）中学校

横浜市磯子区杉田町長作一七一二番地
電話長者町(3)七八九〇番

一、設置状況

1　割立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

昭和二二年学制改革にともない浜小学校の教室（六教室）を借用し開校した。独立校舎がないため、校舎建設をめざして後援会は努力を続け、昭和二二年十二月ようやく杉田町長作一七一二番地の日飛所有地を買収、これを市に寄付、ようやく新校舎建設の念願を達成することができた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立浜中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五	横浜市磯子区磯子町一六六六番地	一二〇坪、浜小学校の一部六教室を借用、第一学年のみ
昭二三・四・一	横浜市磯子区杉田町四〇番地	一四〇坪、杉田小学校の一部七教室借用、第一学年のみ収容、第二学年は浜小学校に収容
昭二三・九・二四	横浜市磯子区長作一七一二番地	四、八〇二・四三坪、後援会にて買収、横浜市に寄付
昭二八・三・三一	横浜市磯子区長作一七一二番地	六六六・一七坪、市費にて購入
昭二九・八	横浜市磯子区長作一七一二番地	三八五・二〇坪、市費にて購入

総坪数　五、七六四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	借用	木造二階建		・教室六、開校にともない横浜市立浜小学校内の二階一部を借用
昭二三・四・一	借用	木造二階建		・教室七、昭和二三年度第、一学年約三四〇名入学につき横浜市立杉田小学校校舎の一部を借用
昭二三・九・二四	新築	木造二階建	六二九	・教室二七、横浜市磯子区杉田町長作一七一二番地に新築移転
昭二七・八・二八	増築	木造二階建	二一七	・教室四、特別教室四
昭二九・八・一二	増築	木造二階建	六七・五	・教室二
昭三一・八・一三	増築	木造二階建	一八一・八八	・教室四

総坪数　一、〇七五坪（教室三一、その他九）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　磯子町のうち山田谷、山王谷、八谷、浜西北、浜西南、森町、中原町、杉田町、栗木町、上中里町、氷取沢町、田中町、矢部野町

昭二九・八　南区日野町のうち臼杵、峯を港南中学校区域より本校に編入

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	岡　尊	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一四	大島青年学校長より就任、退職
二	荒井　東司	昭二四・四・一五	昭二九・四・三〇	県立平沼高等学校教諭より就任、病気休職、昭和三二年四月三〇日自然退職
三	金子　芳蔵	昭二九・五・一		岡津中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一〇	三〇五（六）	三〇五	―
昭二五	二八	九九三（二〇）	三四〇	三〇四
昭三〇	四二	一、四一二（三〇）	四八〇	四二三

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
浜中学校後援会	昭二二・五・二二	独立校舎建設運動推進のため、会員約三五〇名、昭和二三年一二月解散
浜中学校PTA	昭二三・一二・一	会員約二二一〇名

九、その他

昭三〇・五・二三　横浜市教育委員会から「教科学習における基礎学力」の研究指定をうけた

昭三〇・五　神奈川県教育委員会から「統計教育研究校」の指定をうけた

横浜市立岡村中学校

横浜市磯子区岡村町三五四番地
電話長者町(3)三一四〇番

一、設置状況

1 創立 昭和二四年三月三一日
2 開校 昭和二四年四月一日
3 設置の際の概況

横浜市磯子区岡村町にある市有地三、八五一坪を敷地とし、戦時中（昭和一九年）工場の建物を移築して、滝頭小学校分校がおかれたが、戦後、学制改革とともに横浜市立根岸中学校岡村分校として発足し、昭和二四年四月、横浜市立岡村中学校として独立開校した。当時の教室は講堂の様な建物を仕切つた四教室のみで、同年七月一日新校舎完成まで、一年生と三年生は磯子小学校の五教室を借用して授業を開始した。

二、校名の変遷

昭二四・三・三一　横浜市立岡村中学校　学校所在地名をとつて校名とした

三、位置（校地）の変遷

昭二四・三・三一　横浜市磯子区岡村町三五四番地　三、八五一坪、市有地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	転用	木造平屋建	一六〇	・教室四、昭和一九年滝頭国民学校岡村分校として工場建物を移築、昭和二二年新学制発足により根岸中学校岡村分校とした。教室は講堂間仕切のもの
昭二四・四・七	借用	木造二階建	三三一	・教室九、教室不足のため磯子小学校の一部を借用
昭二四・七・一	新築	木造二階建	三七七	・教室一〇
昭二四・一二・五	増築	木造二階建	五〇五	・教室五
昭二六・二・一〇	増築	木造二階建	七八四	・数室五
昭二九・四・一	改築	木造平屋建	七八四	・教室一、管理室を教室に改造
昭二九・八・五	増築	木造二階建	九〇八	・数室四、昭和二九年三月二三日着工、一部棟続き一部は第二棟
昭三〇・九・一六	撤去	木造平屋建	八五八	・最初の校舎を撤去
昭三〇・九・一六	増築	木造二階建	一、〇〇八	・昭和三〇年五月六日着工、第二棟に棟続き
昭三一・八・六	増築	木造二階建	一、〇九九	

総坪数　一、〇九九坪（教室三〇、その他一一）

五、学区及びその変遷

昭二四・一二・二七　西根岸町（馬場町、上町）丸山町、滝頭町、岡村町、磯子町（禅馬、広地、腰越、浜東）学区確定にともない昭和二五年一月一三日に横浜市立根岸中学校より一五八名の生徒を転入

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	高村 利義	昭二四・三・三一	昭二四・四・一四	岡村中学校長事務取扱（根岸中学校長）
一	高田 四郎	昭二四・四・一五	昭三〇・六・一	横浜工業高等学校教諭より就任、鶴ケ峯中学校長へ転任
二	斉藤 高治	昭三〇・六・一		吉田中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二四	一八	五一二（一〇）		
昭二五	二九	九〇五（一九）	三三二	二七八
昭三〇	四三	一、三五六（二九）	四七四	四二五

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
岡村中学校PTA	昭二四・五・一五	会員一、三四三名
岡村中学校完成期成同盟会	昭二五・四・八	岡村中学校の完成を期する、会長一、副会長一、会計二、理事三〇、計三四で組織

九、その他

昭二四・八・二九	磯子区小、中学校の変更について岡村中学校廃校案が出された
昭二四・一二・二七	学区問題解決、岡村中学校存続と決定
昭二五・二・二五	新校舎落成式挙行

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・四・一	図書室	一八	蔵書数二、七二二冊

横浜市立金沢中学校

横浜市金沢区釜利谷町四四三番地
電・話 金沢(7)九三一二番

一、設置状況

1 創立 昭和二二年四月一日
2 開校 昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

横浜市金沢区富岡町一四三一番地富岡小学校の一角にあつた徴用工員宿舎の食堂を間仕切り、教室として横浜市立富岡中学校の名称のもとに昭和二二年五月五日開校式を挙行した。しかし教室とは名ばかりで、机、腰掛はもちろんのこと、窓硝子一枚もなく、あまりひどいので開校式当日にして父兄のなかには早速生徒を他に転校させるものが多数でた。その上通学距離等の問題もあり、町民父兄の熱烈な校舎建設運動は、同年一一月になつてようやく実を結び、金沢区六浦町四六四六番地の旧海軍航空技術廠の建物を校舎として使用することになり、新たなる発足を見るに至つた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立富岡中学校	所在地にちなんでつけられたものである
昭二二・一一・一五	横浜市立金沢中学校	校舎移転による校名改称

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・三〇	横浜市磯子区富岡町一、四三一番地	横浜市立富岡小学校を借用
昭二二・一一・一五	横浜市磯子区六浦町四、六四六番地	横浜市立六浦中学校を借用
昭二三・一〇・一一	横浜市金沢区釜利谷町四四三番地	一六、六六一坪、独立校舎建築
昭二三・一二	横浜市金沢区釜利谷町四四三番地	一、七〇三坪、市営住宅に敷地分譲したため校地減少

総坪数　一四、九五七坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・三〇	借用	木造		・富岡小学校借用
昭二二・一一・一五	借用	木造		・六浦中学校借用
昭二三・一〇・一一	新築	木造二階建	五七三	・教室一八、昭和二三年四月、軍施設を移築着工
昭二五・八・二五	増築	木造二階建	三九一	・教室一〇
昭二九・七・二二	増築	木造二階建	一一二	・教室四
昭三〇・八・一〇	増築	木造二階建	二〇〇	・教室四

総坪数　一、二七五坪（教室三六、その他一三）

五、併設状況

昭二六・四・一〇	横浜商業高等学校金沢分校が、不良化防止の一環として開校される、生徒数三四名
昭二八・三・一五	横浜商業高等学校金沢分校廃校となる

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中島　義正	昭二二・四・三〇	昭三一・八・三一	矢向小学校長より就任、神奈川中学校長へ転任
二	丸茂　長要	昭三一・九・一		南中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一四	四八四（一〇）	二九一	三五
昭二五	四〇	一、二四二（二七）	四三二	三八二
昭三〇	五一	一、七三八（三七）	六〇四	五一三

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
施設後援会	昭二二・七・五	昭和二三年五月二〇日廃止
金沢中学校ＰＴＡ	昭二三・四・二〇	会員一、八七二名

九、その他

昭二五・一一・八	神奈川県健康優良校として表彰された
昭二五・一一・一五	「環境整備の上に立つ生活指導」という題目で研究発表会を開く
昭二八・二・二一	神奈川県公立中学校第一回図書館コンクールで優良校として表彰された

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・七・二〇	学校図書室	二〇	当初、生徒の寄付による古本をもって発足
昭二八・八・三一	学校図書館	三七	新図書館をつくる、蔵書数三、二〇〇冊

横浜市立六浦中学校

横浜市金沢区六浦町四六四六番地
電話金沢(7)九一一三番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日

2　開校　昭和二二年五月五日

3　設置の際の概況

昭和二二年四月、学制改革にともない、六浦小学校を休校とし大道小学校に統合し、六浦小学校々舎を六浦中学校として転用することとなつた。しかし、早急に六浦中学校々舎を他に求めて六浦小学校の独立をはかるようにし、旧六浦小学校の生徒は六浦中学校の一部を使用した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立六浦中学校	所在地六浦町の町名をとつて校名とした

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・一	横浜市磯子区六浦町三五四三番地	三、三五五坪、六浦国民学校を六浦中学校に転用して設置
昭二二・一一・二〇	横浜市磯子区六浦町四、六四六番地	五、六一〇坪、旧海軍航空技術廠内の横浜市立大学予定地に移転
昭二三・五・一五	横浜市金沢区六浦町四、六四六番地	磯子区より独立して金沢区となる

総坪数　五、六一〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	転用	木造二階建	八五三	・教室二四、六浦国民学校校舎を転用
昭二二・一一・二〇	転用	木造平屋建	七七二	・教室六
昭二九・八・一三	新築	木造平屋建	六四	・教室二、生徒数増加のため金沢高等学校地内に新築

総坪数　六四七坪（教室二四、その他七）

五、分校、分教場の設置、廃止状況

昭三一・三・一五　六浦中学校塩場分校を六浦町四〇一七番地に設置、校舎坪数五九三坪、教室一二、生徒五九二

六、併設状況

昭二六・四・一　金沢高等学校が創立されたので、昭和二六年一二月一〇日まで併設

七、学区及びその変遷

昭二二・五・一　六浦町、朝比奈町、釜利谷町

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中島　利信	昭二二・四・三〇	昭二二・八・三一	石川小学校長より就任、磯子区教育課長へ転任
二	関戸　小一	昭二二・九・三〇	昭二七・四・三〇	栗田谷中学校副校長より就任、浦島丘中学校長へ転任
三	田中権之丞	昭二七・五・一	昭三一・八・三一	中和田中学校副校長より就任、岡津中学校長へ転任
四	宮原　信夫	昭三一・九・一		根岸中学校長より就任

九、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	二二	四二三（一〇）	四二三	二二
昭二五	三六	一、〇九九（一五）	三八一	三六九
昭三〇	四九	一、六七五（三五）	五七一	五一一

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
六浦中学校教育後援会	昭二二・六・九	昭和二三年二月八日PTA発足と同時に発展的解消
六浦中学校PTA	昭二三・二・八	会員七五二名

横浜市立日吉台中学校

横浜市港北区日吉本町一二六五番地
電話日吉二一八三番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日
2 開校　昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年四月、学制改革にともなう新制中学校として、横浜市港北区日吉本町一、八〇七番地、横浜市立日吉台小学校の校舎の一部、四教室を借用して、当時の高等科第一、二学年一二四名を収容して発足した。しかし独立校舎建設の要望が高まり、敷地獲得のためには地元民のなみなみならぬ努力があつた。こうして昭和二五年九月一八日、新校舎の竣工をみた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立日吉台中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・一　横浜市港北区日吉本町一、八〇七番地　日吉台小学校々舎一部借用
昭二五・九・一八　横浜市港北区日吉本町一、二六五番地　五、八三五坪に移転

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	借用	木造二階建		・日吉台小学校々舎、教室四を借用
昭二五・九・一八	新築	木造二階建	二二一	・教室九
昭三〇・八・二九	新築	木造平屋建	二七	・体育器具室

総坪数　四二七坪（教室一〇、その他五）

五、区及びその変遷

昭二二・五・一　日吉本町、日吉町、箕輪町、下田町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	秋山　義一	昭二二・四・三〇	昭二三・四・二七	子安青年学校長より就任、退職
二	池上　秀雄	昭二三・五・一五	昭三一・八・三一	六浦中学校副校長より就任、保土ヶ谷中学校長へ転任
三	山本伊津雄	昭三一・九・一		神奈川中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	五	一二四（三）	一二四	—
昭二五	一四	二六七（六）	九八	九六
昭三〇	一四	三六五（九）	一二三	一一一

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
日吉台中学校後援会	昭二二・六・五	会員二〇八名、昭和三一年三月三一日に発展解散
日吉台中学校PTA	昭二三・五・二八	会員四二五名

九、その他

昭二八・一二・七　健康教育研究指定校として研究発表

横浜市立大綱中学校

横浜市港北区太尾町六一一番地
電話綱島二六五番

一、設置状況

1 創立　昭和二四年四月一五日

2 開校　昭和二四年四月一五日

3 設置の際の概況

昭和二二年新学制施行にともない現大綱学区は新田中学校区域に包含され、暫定的に新田小学校の一校舎を借用していたので、生徒は約一時間の徒歩通学をし、しかも尚教室不足のため一部女生徒は私立大倉山女子中学校に委託していた状態だつた。又大綱地区は新住宅地として発展し次第に人口増加をきたし、新田中学校だけでは到底収容できなくなつた。昭和二三年六月一日、大綱中学校建設会が組織され、そして翌昭和二四年四月新校舎落成、私立武相中学校に委託されていた一部の男生徒、私立大倉山女子中学校に委託されていた二年生女子の委託制を解除し、大綱学区の生徒は全員大綱中学校へ収容した。

二、校名の変遷

昭二四・四・一五　横浜市立大綱中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二四・四・一五　横浜市港北区太尾町六一一番地　七、二三二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二四・四・一五	新築	木造平屋建	五一七	・教室一四、三棟のうち一棟は移築校舎
昭二六・七・二〇	増築	木造平屋建	一五〇	・特別教室三
昭二八・七・一五	増築	木造平屋建	一五七	・特別教室三
昭二九・七・二〇	増築	木造平屋建	一三八	・教室四
昭三一・七・七	増築	木造平屋建	一四三	・特別教室二

総坪数　一、一〇五坪（教室二八、その他一三）

五、併設状況

昭二五・四・一　横浜市立鶴見工業高等学校分校併設、生徒数三二、昭和三一年三月三一日廃校

六、学区及びその変遷

昭二四・四・一五　港北区篠原町表谷、同富士塚谷、菊名町、篠原町、大豆戸町、師岡町、大曽根町、太尾町、樽町、北綱島町、南綱島町

昭二六・九・八　鶴見区北寺尾町上宮を編入

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	飯田　趣夫	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	新田中学校長より就任、西中学校長へ転任
二	内田　吉郎	昭三一・九・一		保土ケ谷中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二四	一六	四七三（一〇）		
昭二五	二五	六七六（一四）	二八八	一七三
昭三〇	四〇	一、三二四（二九）	四六八	四〇五

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大綱中学校建設会	昭二三・六・一	会員二三〇〇名、昭二五・二・二六助成会結成

のため発展発解消

大綱中学校PTA	昭二四・五・一九	会員四四五名
大綱中学校施設助成会	昭二五・二・二六	会員一、三五〇名、昭和二八年五月一九日解散
大綱中学校同窓会	昭二五・一一・五	会員四八八名

一〇、その他

昭二七・四・一　文部省産業教育指定校となる、昭和二七年四月一日より昭和二九年三月三一日までの二ヶ年間

昭二八・六・二〇　神奈川県歯科医師会、神奈川新聞社より県下でもつともよい歯の学校として表彰され、以後昭和三一年七月一四日まで計四回良い歯の学校として入賞している。

和二八・一一・二七　文部省産業教育指定校として第一回研究発表

和三〇・六・九　文部産業教育指定校として第二回研究発表

横浜市立城（しろ）郷（さと）中学校

横浜市港北区小机町三二五番地
電話小机四三番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日

2 開校　昭和二二年五月五日

3 設置の際の概況

昭和二二年学制改革により、新制中学校の設置を迫られ、港北区六・三制準備委員会の決定にもとづき、横浜市立城郷小学校の学区域を主とする新制中学校として、城郷小学校の一部校舎六教室を借用して開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立城郷中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二四・七・一　横浜市港北区小机町二四六二番地外九筆　三、二七〇坪　整地工事で地元民延三万人の勤労奉仕による。昭和三〇年一月一〇日市財産として寄付

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	借用	木造平屋建	不詳	・教室六、城郷小学校の一部使用
昭二四・七・一	新築	木造平屋建	一三三	・教室四、小机町三二五に新築、三年生のみ移転収容
昭二五・九・一八	増築	木造二階建	二二六	・教室九、小机町三二五番地に増築二階建二棟完成、一・二・三年生とも収容

総坪数　四八七坪（教室一二、その他八）

五、学区及びその変遷

昭二二・五・五　港北区小机町、東本郷町、鳥山町、岸根町、三年生のみは新治地区を編入

昭二三・六・一　神奈川区羽沢町、菅田町、三枚町を加える。池上小学校学区近接のため編入

昭二九・四・一　神奈川区羽沢町一部保土ヶ谷中学区として分離

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	河原　満治	昭二二・四・三〇	昭三一・八・三一	西戸部小学校長より就任、都田中学校長へ転任
二	神谷　巖	昭三一・九・一		港中学校より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	七	二六九　（五）	二六九	四三
昭二五	一四	四三三　（九）	一三一	一四九
昭三〇	一八	五四六（一二）	一九六	一六九

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
城郷中学校建設会	昭二二・九・二	城郷中学校建設のための団体、会員一、四二三名
城郷中学校後援会	昭二二・九・一	城郷中学校教育の援助、昭和二三年九月一日、ＰＴＡ発足と同時に発展的解消
城郷中学校ＰＴＡ	昭二三・九・一	会員二五〇名

横浜市立新田中学校

横浜市港北区新吉田町一一五六番地
電話綱島三二四番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

昭和二二年四月、学制改革にともない新制中学校が設置されることになり、同年五月一日、とりあえず、大綱地区と新田地区を学区域とする横浜市立新田中学校が創立され、新田小学校の校舎の一部を借用して開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立新田中学校

三、位置（校地の変遷）

昭二二・五・一　横浜市港北区新吉田町三三三四番地　一、八九五坪　新田小学校の校舎一部借用
昭二六・一一・一六　横浜市港北区新吉田町一一五六番地　四、〇〇〇坪　地元で買収、横浜市に校地として寄付
昭二六・四・二〇　横浜市港北区新吉田町一一五六番地　六五坪　道路用として地元で買収し横浜市に寄付
総坪数　四、〇六五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	借用	木造二階建	二四四	・新田小学校教室八を借用
昭二六・一一・一六	新築	木造二階建	三三六	・教室五その他五
昭二九・六・二五	増築	木造二階建	四八	・教室二

総坪数　六二八坪（教室九、その他七）

五、分離状況

昭二四・四・三〇　大綱中学校新設のため生徒二七〇名分離

六、学区及びその変遷

昭二二・五・五　北綱島町、南綱島町、樽町、師岡町、大曽根町、太尾町、大豆戸町、篠原町、菊名町、新吉田町、高田町、新羽町
昭二四・五・一　大綱中学校設置のため新吉田町、高田町、新羽町となる。

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	飯田　赳夫	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一四	豊岡青年学校長より就任、大綱中学校長へ転任

二	岡田　義祐	昭二四・四・一五	昭三〇・五・三一	汐田中学校教頭より就任、田奈中学校長へ転任
三	村上　泰助	昭三〇・六・一		戸塚中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二三	一六	四七〇（九）	四七〇	七六	
昭二四	一〇	二九二（七）	八二	八九	
昭二五	一二	三三二（八）	一二五	一一〇	大綱中学校を分離
昭三〇	一四	三七八（九）	一一二	一三〇	

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
新田中学校建設委員会	昭二四・五・二五	昭和二八年五月一五日、目的を達成して解散
新田中学校ＰＴＡ	昭二三・六・一	会員三四五名

一〇、その他

昭二五・七・七　昭和二五年度よい歯の学校として受賞

昭二五・一一・二五　横浜市庁舎移転祝賀駅伝大会に優勝

昭二六・二・一〇　第一回横浜市中学校駅伝大会に優勝以下第二回第三回ともに優勝（連続三年）

横浜市立中川中学校

横浜市港北区大棚町二四〇番地
電話　大棚　二四番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日

2　開校　昭和二二年五月五日

3　設置の際の概況

昭和二二年四月公布の新学制にもとづいて港北区大棚町二五四番地（中川小学校内）に設置され校舎は中川小学校の七教室を借用開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立中川中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・一	横浜市港北区大棚町二四〇番地	一、九三三坪	本校地は中川青年学校々舎建設地として予定されていたものを青年学校の廃止にともない本校の校地としたものである。
昭二四・七・六	横浜市港北区大棚町二四〇番地	二八五坪	私有地を借用

総坪数　二、二一八坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	借用	木造二階建、同平屋	一〇五	・中川小学校より教室七借用

昭二五・四・五　新築　木造二階建　三五五　・新校舎建設移転

総坪数　三五五坪（教室九、その他五）

五、学区及びその変遷

昭二二・五・一　港北区南山田町、北山田町、東山田町、勝田町、牛久保町（一七七八―一九七七を除く）、大棚町、中川町（一六四七―二三四一を除く）、茅ヶ崎町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	吉田　健蔵	昭二二・四・三〇	昭二四・五・三一	三ッ沢青年学校より就任、昭和二四年五月二〇日病気のため休職
二	北村　侃	昭二四・六・一	昭三〇・五・三一	日吉台中学校副校長より就任、田奈小学校長へ転任
三	岩沢　滝蔵	昭三〇・六・一		城郷中学校副校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	八	一九六（五）	八七	三六
昭二五	一四	三一一（七）	一〇六	一〇九
昭三〇	一四	三一〇（八）	九八	一〇二

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
中川教育後援会	昭二二・五・五	会員六〇〇名、昭和二三年四月五日廃止
中川中学校父母と先生の会	昭二三・四・五	賛助会員三三〇名、中川教育振興会に発展的解消
校舎建設実行委員会	昭二四・六・一〇	昭和三一年四月一五日解散
中川教育振興会	昭二八・四・五	中川小・中学校、中川農業協同組合学校の事業を後援するとともに一般社会成人教育をさかんにして広く中川地区における教育の振興をはかることを目的として生れた。会員六一〇名

九、その他

昭二八・一二・八　中川中学校生徒協同組合の運営することも銀行の成績優良のため神奈川県知事（内山岩太郎）から表彰された。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三〇・八・一三	学校図書館	三五	中川小学校創立八十周年記念事業の一つとして中川小学校校舎解体し改築、蔵書数一、四一六冊

横浜市立都田（つだ）中学校

横浜市港北区池辺町二八一八番地
電話　川和　四五番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日

2　開校　昭和二二年五月一日

3　設置の際の概況

横浜市立都田中学校は学制改革にともなう新制中学校として横浜市立都田小学校の上段校舎（教室八、職員室一）校庭一五〇坪を借用して発足した。校舎、運動場ともせまいながら小学校とは上下にわかれていたため独立校舎となんらかわりなくさしたる問題もなく開校することができた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一	横浜市立都田中学校	旧都田村が学区であるため都田中学校と名づけられた。

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一	横浜市港北区池辺町中入所谷戸二八三二番地外六筆	一、〇五一坪	都田小学校上段校舎敷地及び運動場借用
昭二三・七・二四	横浜市港北区池辺町中入所谷戸二八一八番地外一六筆	五、八八一坪	第一次、第二次校舎建設の敷地及び校庭として私有地を買収
昭二八・二・一	横浜市港北区池辺町中入所谷戸二七六七番地外六筆	四四四坪	第三次建設校舎の敷地
昭二八・二・一	横浜市港北区池辺町中入所谷戸二七五七ノ二番地外二筆	三五四坪	運動場用地として市が買収
昭二九・五・三〇	横浜市港北区池辺町中入所谷戸二七五六番地	一二三坪	運動場用地として市が買収

総坪数　七、七五三坪

四、校舎の変遷

年　月　日	変遷類別	構　造	建坪	備　考
昭二二・四・一	借　用	木造平屋建	三〇九	・横浜市立都田小学校高等科で使用していた校舎教室八を借用
昭二四・三・一七	新　築	木造平屋建	一一七	・教室四、予算外工事として地元都田振興会で建設、市に貸与
昭二七・六・一九	増　築	木造二階建	二三四	・教室三、その他職員室等
昭二八・七・一	増　築	木造二階建	一一一	・教室二、その他宿直室、使丁室等、都田小学校に三教室を返還
昭二九・六・九	増　築	木造二階建	四八	・教室二、増築にともない都田小学校に教室二を返還、昭和三一年三月三一日さらに二教室を返還するも現在なお一四五坪借用している。

総坪数　六六五坪（教室一二、その他九）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　港北区川和町、佐江戸町、川向町、東方町、折本町、大熊町

六、歴代校長

代	氏　名	就任年月日	転・退職年月日	
一	飯田　一寿	昭二三・四・三〇	昭二四・四・一四	川和青年学校長より就任、池上小学校へ転任
二	斎藤　新作	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	鶴見工業高等学校教諭より就任、鶴見中学校長へ転任
三	河原　満治	昭三一・九・一		城郷中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二三	一二	二九一（七）	二九一	二一
昭二五	一八	五二〇（一二）	一七九	一五七
昭三〇	一九	五二一（一二）	一六六	一七九

八、学校協力団体

団　体　名	発足年月日	
都田中学校後援会	昭二二・八・二八	会員一、二四三名
都田教育振興会	昭二三・二・一六	会員一、四八五名
都田中学校ＰＴＡ	昭二三・四・一五	会員四〇二名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘　要
昭二五・一・六	潤心寮	二〇	学校々地内の池辺町二七六五番地内にあつて宅地六〇坪木造平屋建で都田教育振興会が樋口五郎氏より買収し横浜市教育委員会に市内の生徒の家として寄附したものである。
昭三〇・五・一七	防火貯水槽		校庭の一角に市費により設置、貯水量四〇立方米

横浜市立山内（やまうち）中学校

横浜市港北区元石川町八一六九番地
電話山内三〇番

一、設置状況

1 創立 昭和二二年四月一日
2 開校 昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年四月一日新学制により横浜市立山内小学校と同一の学区域とする新制中学校として誕生した。しかし校地も校舎もないため、山内小学校の一部教室を借用、机、腰掛、事務机もすべて借用して授業を開始した。教科書もないため担当教師は自らの手で教科内容を作成し教えるといつたありさまだつた。一方独立校舎建設の協議は進められ、山内中学校校舎建設委員会が組織され数十回に及ぶ協議の結果、元、溝ノ口演習場廠舎及び敷地の一部を借用することに決定、大改築し昭和二四年八月四日山内小学校より現在地へ移転した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一 横浜市立山内中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五 横浜市港北区元石川町二〇七九番地外 二、五八九坪 山内小学校用地借用
昭二四・八・四 横浜市港北区元石川町八一六九番地 九、七二九坪 国有地借用 移転
総坪数 九、七九二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	借用	木造二階建	一一七	・山内小学校々舎の一部五教室借用移転
昭二三・四・五	借用	木造二階建	一九	・生徒数増加により更に山内小学校より一教室借用
昭二四・八・四	転用	木造平屋建	二九四	・教室一一、元溝ノ口演習場兵舎を改築転用
昭二九・七・九	増築	木造平屋建	二五	・教室一

総坪数 三一九坪（教室七、その他三）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一 元石川町、荏田町、中川町一六四七―二三四一、牛久保町一七七八―一九七七

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	金子 兵造	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一四	山内青年学校長より就任、退職
二	吉永菊次郎	昭二四・四・一五	昭三一・八・三一	中山中学校教諭より就任、鴨井小学校長へ転任
三	高橋 源次	昭三一・九・一		末吉中学校副校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	七	二二一（五）	二二一	三三
昭二五	一二	三一八（七）	一一二	一〇三
昭三〇	一三	三三六（九）	一〇七	一一二

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
山内中学校父母の会	昭二二・九・二〇	会員一七〇名、昭二四年三月一八日父母と先生の会に改称
山内中学校建設委員会	昭二二・九・二一	昭和三一年九月二九日解散
山内中学校父母と先生の会	昭二四・三・一八	会員二九〇名、昭和三〇年一〇月一日廃止
山内教育振興会	昭三〇・一〇・一	学校事業を後援すると共に一般社会人教育を盛んにし広く山内地区における教育の振興をはかる。会員七二〇名

横浜市立谷（や）本（もと）中学校

横浜市港北区下谷本町一六七八番地
電話　市ヶ尾・八番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年五月一日

2　開校　昭和二二年五月五日

3　設置の際の概況

昭和二二年四月新学制により横浜市立谷本小学校、鉄小学校、山下小学校の学区域を学区とし谷本小学校の一部校舎を借用して谷本中学校が開校された。地元に於ては中里教育振興会が創設され、会長に谷本善吉氏が推され谷本中学校独立校舎の建設運動が起り、独立校舎設立敷地として、明治二三年小学校令改正当時の区立明倫小学校跡と中里村立中里高等小学校跡の二つが候補地としてあげられたが、結局後者をえらび昭和二四年四月一〇日横浜市立谷本小学校の一部、木造平屋建を解体し第一期工事として六八坪三教室を落成し移転した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立谷本中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・一	横浜市港北区下谷本町一六七四番地	谷本小学校を借用
昭二四・一・三一	横浜市港北区下谷本町一六七八番地	四四一一坪を本校々地として私有地借用

総坪数　四、四一一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	借用	木造二階建	二一二・五	・谷本小学校々舎の一部、教室七、職員室一を借用
昭二四・四・一〇	改築	木造平屋建	六七	・教室三、谷本小学校々舎を解体
昭二四・六・三	増築	木造平屋建	一四三	・教室三、その他四
昭二五・二・九	改築	木造平屋建	二八	・谷本小学校一五教室を解体移築
昭二五・二・九	増築	木造平屋建	八六	・教室三

総坪数　三二四坪（教室一〇、その他三）

五、学区及びその変遷

昭二二・五・一　港北区鉄町、寺家町、成合町、鴨志田町、上谷本町、黒須田町、大場町、市ヶ尾町、下谷本町、北八朔町、青砥町、小山町、西八朔町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	小島　歩	昭二二・四・三〇	昭三〇・二・一	谷本青年学校長より就任、老松中学校長へ転任
二	大谷福三郎	昭三〇・二・二		谷本中学校副校長より就任

七生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	九	三四三（七）	三四三	六四
昭二五	一六	四四五（一二）	一四一	一四三
昭三〇	一七	四八〇（一二）	一五二	一五五

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
谷本中学校育友会	昭二三・四・一〇	会員六三〇名
中里教育振興会	昭二三・一〇・二一	教育の振興と六三制完全実施にともなう独立校舎の建設を目的、昭和二五年一一月二三日に解散

九、その他

昭二五・一一・二一	こども銀行の模範として大蔵大臣より表彰された。
昭二五・一一・二一	こども協同組合の組織と協力が他の手本として日本銀行総裁より表彰された。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二七・四・一	中央教材園連合園	一、七〇五	中央教材園の機能のうち博物館性格を他の八校と協力する組織
昭二八・四・一	中央教材園分園		中央教材園の教材配布その他の使命を遂行していく組織

横浜市立田奈中学校

横浜市港北区長津田町一七四〇番地
電話長津田六五番

一、設置状況

1 創立　昭和二二年四月一日

2 開校　昭和二二年五月五日

3 設置の際の概況

昭和二二年四月学制改革により新制中学校の設置が迫られ、六・三制実施準備委員会が区長を中心として結成され、旧町村単位に一校づつ設置されることに決定した。こうして田奈中学校は田奈小学校内に設置されることになつた。しかし校舎がないので、地元に於ても田奈中学校建設委員会が組織され、地元民の協力により敷地も長津田町一七四〇番地に決定し昭和二四年一二月二八日新校舎は落成した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立田奈中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一	横浜市港北区恩田町四〇九五番地	田奈小学校々舎の一部借用
昭二四・四・一六	横浜市港北区長津田町一七四〇番地	四、四五四坪

総坪数　四、四五五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	借用	木造二階建		・田奈小学校々舎教室九借用
昭二四・一二・二八	新築	木造二階建	三一三	・教室九
昭二六・八・一五	増築	木造二階建	一七九	・教室六
昭三一・七・二四	増築	木造平屋建	一〇四	・教室三

総坪数　五九六坪（教室一六、その他六）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　港北区長津田町、恩田町、奈良町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	小山　唯治	昭二二・四・三〇	昭二五・四・二〇	田奈青年学校長より就任、病気のため休職
二	原　寿次	昭二五・五・一〇	昭三〇・五・三一	田奈中学校副校長より就任、中山中学校長へ転任
三	岡田　義祐	昭三〇・六・一		新田中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	七	三三二（七）	三三二	五四
昭二五	一六	四六七（一一）	一五五	一四五
昭三〇	二一	六九一（一五）	二六一	二〇一

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
田奈中学校建設委員会	昭二二・七・九	
田奈中学校後援会	昭二二・五・二七	
田奈中学校ＰＴＡ	昭二三・五・一〇	会員六五〇名

横浜市立中山（なかやま）中学校

横浜市港北区中山町九二五番地
電話　川和一〇八番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

新制中学校発足と同時に設置、校舎は中山小学校の一部と同番地にあつた旧役場、約百米離れた新治農協の会議室一を借用し、校長以下職員九名生徒二四〇名（六学級）をもつて開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立中山中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・一　横浜市港北区中山町九五番地　中山小学校校舎一部借用
昭二三・九・一五　横浜市港北区中山町九二五番地　二、六九二坪

昭二六・四・一　横浜市港北区中山町九五五番地　二四〇坪
昭二八・一・二五　横浜市港北区中山町九五六番地　二六二坪
総坪数　三、一九四坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	借用	木造平屋建	一四六	・教室四、横浜市立中山小学校借用、一棟
昭二二・五・一	借用	木造平屋建	二一	・教室一、旧役場借用
昭二二・五・一	借用	木造二階建	三〇	・教室一、新治農業協同組合借用
昭二三・九・一五	新築	木造平屋建	二六二	・教室七
昭二四・五・五	増築	木造平屋建	一六〇	・教室五
昭三〇・四・三〇	新築	木造平屋建	一八	・教室一、書庫、図書閲覧室に使用

総坪数　四四一坪（教室一二、その他五）

五、学区及びその変遷

昭二二・五・一　十日市場町、新治、三保町、台村町、青山町、中山町、上山町、白山町、鴨居町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	木田鉄太郎	昭二二・四・三〇	昭・三〇・五・三一	中山青年学校長より就任、共進中学校長へ転任
二	原　寿次	昭三〇・六・一		田奈中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	九	二四〇（六）	二四〇	〇
昭二五	一九	五一二（一二）	一七二	一七〇
昭三〇	一九	五九八（一三）	一九三	一八八

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
中山中学校後援会	昭二二・六・一〇	学校備品の整備補充をはかる。
中山中学校校舎建設委員会	昭二二・九・三〇	
中山中学校父母と先生の会	昭二三・四・二〇	会員五三四名

横浜市立戸塚中学校

横浜市戸塚区矢部町一四六番地
電話（戸塚）三六九番

一、設置状況

1 創立 昭和二二年四月一日
2 開校 昭和二二年五月五日

昭和二二年四月学校教育制度改正により戸塚小学校々舎の一部（十教室）と戸塚高等学校校舎の一部（四教室）を借用し開校した。昭和二二年九月に戸塚区矢部町旧日本光学工場を買受け戸塚中学校々舎に改造するため着工、翌年一一月改築完了全校生徒新校舎に収容することができた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一 横浜市立戸塚中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・一	横浜市戸塚区戸塚町一三二番地	一、五〇〇坪	戸塚小学校一部借用
昭二二・五・一	横浜市戸塚区矢部町一三六番地	八〇〇坪	戸塚高校借用
昭二三・九・一	横浜市戸塚区矢部町一四六番地	五、一二九坪	日本光学工場一部を買収
昭三〇・一二・一	横浜市戸塚区舞岡町二二六番地	四、三〇〇坪	東分校設置
昭三一・一二・一	横浜市戸塚区戸塚町四五四二番地	七〇二坪	戸塚分校設置

総坪数 一〇、一三一坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・一	借用	木造平屋建	一八〇	・教室九、戸塚小学校一〇教室借用
昭二二・五・一	借用	木造二階建	六二	・教室四、戸塚高等学校四教室借用
昭二三・九・一	転用	木造二隔建	四〇〇	・教室一五、旧日本光学工場建物を買収、改築し戸塚中学校独立校舎建設
昭二三・一一・二六	転用	木造二階建	四四四	・教室一三、同第二期工事完了
昭二五・八・三一	新築	モルタル二階建	一一〇	・教室二、特別教室
昭三〇・一二・一	新築	木造二階建	三一六	・教室九、東分校設置により新築
昭三一・一二・一	新築	木造二階建	三八七	・教室一一、戸塚分校設置により新築

総坪数 一、〇三二坪（教室一五、その他八）分校 七〇三坪（教室一九、その他五）

五、分校設置状況

昭三〇・一二・一 東分校を戸塚区舞岡町二二六番地に設置、校舎坪数三一六坪、教室九、生徒数四七六
昭三一・一二・一 戸塚分校を戸塚区戸塚町四五四二番地に設置、校舎坪数三八七、教室一一、生徒数五三七

六、学区及びその変遷

昭二二・四・一 戸塚町、汲沢町一部、吉田町、矢部町、上倉田町、下倉田町、長沼町、柏尾町、舞岡町、上柏尾町、品濃町、川上町、平戸町、秋葉町、前田町

七、歴代校長

代 氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一・岩本 正義	昭二二・四・三〇	昭二七・四・二九	井土ヶ谷小学校長へ転任

二　村上　泰助　昭二七・四・三〇　昭三〇・五・三一　吉田中学校長より就任、新田中学校長へ転任
三　椎名邦三郎　昭三〇・六・一　末吉中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	二四	六五四（一三）	六五四	三七
昭二五	四〇	一、四〇三（二八）	四六五	四八七
昭三〇	四八	一、七四五（三六）	五六八	四四二

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
戸塚中学校PTA	昭二二・五・一	会員一、四七二名

一〇、その他

昭二五・二・一一　第一回戸塚区中学駅伝大会に優勝以後二・三・五・六・七回大会に優勝
昭二五・九・二〇　社会科研究発表会研究テーマ「社会科の教育課程の構成と基盤」
昭二七・三・三〇　職業あつ旋優良校として表彰された。（神奈川県）
昭二八・四・　市教委より「基礎学力について」の研究指定校となる。
昭三一・六・一八　第一回横浜市中学校親善野球大会に優勝

横浜市立本郷中学校

横浜市戸塚区小菅ケ谷町一番地
電話（大船）四七七番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

昭和二二年新学制の実施に伴い、その準備協議会の決定により本郷中学校が設置されることになつた。当時校舎として適当な施設がなく、とりあえず本郷小学校中野分教場（旧海軍山本部隊兵舎）の一部八教室を借用して五月五日開校式及び入学式を挙行することができた。しかし独立校舎建設への学区民の念願は強く、本舎として旧海軍燃料廠工員養成所の建物払下について大蔵省国有財産局に陳情同年一一月一九日その許可をえた。二三年三月、養成所建物の改造に着手、八月一五日完了、本校舎として使用することになつた。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立本郷中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五　横浜市戸塚区中野町一番地　旧海軍山本部隊兵舎を本郷小学校が分教場として使用中のものを一部借用、国有地
昭二三・九・一　横浜市戸塚区小菅ケ谷町一番地　四、六三三坪に移転、国有地
総坪数　四、六三三坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考

昭二二・五・五	借用	木造		・本郷小学校分教場校舎一部借用
昭二三・九・一	転用	木造二階建	六二八	・教室一〇、旧海軍燃料廠工員養成所を転用
昭二九・六・二五	新築	木造二階建	三七	・教室二
昭三一・七・九	新築	木造二階建	五九	・教室二

総坪数　七一四（教室一三、その他七）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一　戸塚区上郷町、中野町、鍛冶ケ谷町、桂町、公田町、小菅ケ谷町、笠間町、飯島町、長尾台

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	勝井万治郎	昭二二・四・三〇	昭二五・五・一〇	市視学より校長事務取扱就任（昭二二・九・四校長就任） 退職
二	神田重夫	昭二五・五・一〇	昭二九・八・三一	平楽中学校副校長より就任、退職
三	中村正雄	昭二九・九・一		保土ケ谷中学校副校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	八	二九六（六）	二九六	四〇
昭二五	一七	四六五（一一）	一五三	一二五
昭三〇	二二	六五八（一五）	二一八	二一七

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
本郷中学校PTA	昭二三・一・二四	会員六五〇名

横浜市立岡津中学校

横浜市戸塚区新橋町一四〇七番地
電話横浜（新橋）一一四番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日

2　開校　昭和二二年五月五日

3　設置の際の概況

昭和二二年新学制の実施に伴い新学制実施準備協議会で協議の結果、戸塚区内に七つの新制中学校設置を決定しその一として横浜市立岡津中学校が誕生した。校舎は岡津小学校の一部を借用して授業を開始した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立岡津中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一	横浜市戸塚区新橋町一四〇七番地	五、五八三坪	
昭二五・一・七	横浜市戸塚区新橋町一四〇九の一番地	五一六坪	運動場拡張のため追加
昭二五・一・七	横浜市戸塚区新橋町一四〇八番地	一六六坪	運動場拡張のためPTA買収、市へ寄附

総坪数　六、二六五坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	借用	木造平屋建	一六一	・岡津小学校講堂を間仕切り四教室とし更衣室を

昭二三・四・一	借用	木造平屋建	四五	普通教室、浴場を職員室に改造
昭二四・四・二〇	転用	木造二階建	二七五	・岡津小学校より教室二借用 ・岡津小学校より保管転換（借用分を含めて）
昭二四・四・二〇	貸与	木造平屋建	一六一	・講堂を岡津小学校へ貸与、昭二六・五・八まで

総坪数　四三五（教室一〇、その他一一）

五、学区及びその変遷

昭二二・四・一	新橋町、岡津町、上矢部町、名瀬町
昭二五・三・二〇	上矢部町の一部藤井を戸塚中学校へ分離

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	金子　芳蔵	昭二二・四・三〇	昭二九・四・三〇	岡津小学校長より就任、浜中学校長へ転任
二	原田金之助	昭二九・五・一	昭三一・八・三一	平楽中学校副校長より就任、港南中学校長へ転任
三	田中権之丞	昭三一・九・一		六浦中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	八	一六五　（五）	七八	一六
昭二五	一二	二九二　（六）	九七	一〇〇
昭三〇	一三	三四七　（九）	一一三	一二〇

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
岡津学区義務教育後援会	昭二二・五・五	
岡津学区教育振興会	昭二三・三・一	昭和三一年三月三一日廃止
岡津中学校PTA	昭二三・三・一四	
岡津中学校移築促進委員会	昭二九・二・二七	

九、その他

昭二八・九・二二	昭和二八年度卒業生完全就職について神奈川県知事より感謝状受領
昭二九・三・一五	神奈川県公立学校図書館コンクールにおいて模範校として表彰状受領
昭二九・一一・二六	神奈川県指定社会福祉教育研究発表会（於明倫高等学校）
昭二九・一二・二四	岡津中学校子供郵便局神奈川県知事より表彰
昭三一・二・八	市指定学校図書館教育研究発表会開催

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・九・八	自転車置場	八	
昭三〇・四・	学校図書館	二〇	蔵書数二、五〇〇冊

横浜市立大正中学校

横浜市戸塚区原宿町一九七番地
電話（戸塚）二九三番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

昭和二二年四月学制改革にともない新制中学校が設置されることになり本校が創立された。校舎は旧海軍衛生学校の建物一棟を六

・三制実施に備えてかねてから獲得しておかれたもので、その校舎たるや屋根に瓦なく窓に窓枠さえなく風雨にさらされていた。そんな状態のなかで大正小学校の学区全部と豊田小学校のうち田谷町、金井町とを学区として開校した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立大正中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五　横浜市戸塚区原宿町一九七番地　六、四〇〇坪　国有地

総坪数　六、四〇〇坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	転用	木造平屋建	四五〇・五	・教室一三、旧海軍衛生学校々舎を転用
昭二八・五・二九	新築	木造二階建	二八六	・教室五
昭二八・七・八	撤去	木造平屋建	四五〇	・旧校舎が老朽のため
昭二九・七・一四	増築	木造二階建	八一	・教室二
昭三〇・七・一三	増築	木造二階建	一一二	・教室三

総坪数　四七九坪（教室一一、その他一〇）

五、併設状況

昭二五・五・一　戸塚高等学校大正分校併設

昭二九・三・三一　右分校廃止

六、学区及びその変遷

昭二四・四・一　戸塚区原宿町、深谷町、汲沢町、俣野町、東俣野町、影取町、小雀町、田谷町、金井町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	山口　俊	昭二二・四・三〇	昭二三・一一・二八	瀬谷青年学校長より就任、死亡退職
二	小沢　達蔵	昭二四・一・五	昭二七・四・三〇	南太田中学校より就任、日野小学校長へ転任
三	宮寺　大助	昭二七・五・一		根岸中学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	一一	二〇六（六）	二〇六	一四
昭二五	一四	三四一（八）	一〇三	一一二
昭三〇	一四	三四〇（九）	一一二	一〇九

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
大正中学校後援会	昭二二・五・五	
大正中学校ＰＴＡ	昭二六・九・三〇	昭和二三年六月八日横浜市立大正小・中学校としてすでに発足していたが二六年になつて小学校ＰＴＡと分離独立、会員一五〇名

一〇、その他

昭二九・五・一八　昭和二九年度横浜市教育研究指定校となる。研究課題「教育課程と学習指導について」

昭二九　理科教育振興法による指定校及び学校図書館法による指定校となる。

昭三〇　社会福祉研究指定校及び産業教育研究指定校となる。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・七・八	学校図書館	一一	蔵書数四五四冊

横浜市立中和田（なかわだ）中学校

横浜市戸塚区和泉町四〇六二番地
電話（戸塚）五四二番

一、設置状況

1 創立 昭和二二年四月一日
2 開校 昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年学制改革により誕生した本校は旧海軍施設桑原部隊の兵舎を校舎として転用、開校した。校舎といっても名ばかりで窓もなく、長い兵舎の両隅に中和田小学校から借用した机をならべ、ほとんど教具の整わないまま授業を開始した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一 横浜市立中和田中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・五・五 横浜市戸塚区中田町一〇二三番地 一一、九八六坪
昭二六・九・一 横浜市戸塚区和泉町四〇六二番地 四、九七五坪 校舎新築移転、借用地

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・五・五	転用	木造平屋建	一、一一八	・旧海軍桑原部隊兵舎を転用
昭二六・九・一	新築	木造二階建	四八九	・旧校舎老朽荒廃のため新築移転、教室一一
昭二九・八・一二	増築	木造二階建	七五	・教室二

総坪数 五六四坪（教室一三、その他六）

五、学区及びその変遷

昭二二・五・五 戸塚区中田町、和泉町、上飯田町、下飯田町

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中野 美貞	昭二二・四・三〇	昭三〇・八・六	死亡退職
二	清水 孝夫	昭三〇・九・一		原中学校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二三	一四	三五八（八）	一九五	三二
昭二五	一九	五〇五（一二）	一六八	一七六
昭三〇	二一	五九三（一三）	二〇五	一八七

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
中和田中学校PTA	昭二三・三・一五	会員五七六名

九、その他

昭二六・二・一四 職業教育研究指定校となり研究発表会を開催
昭二九・六 再び職業教育指定校となる。

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数
昭二九・四・一一	防火用貯水槽	一二・五
昭三一・三・八	倉庫	二二・五
昭三一・三・八	自転車置場	一四

横浜市立瀬谷中学校

横浜市戸塚区瀬谷町二五四〇番地
電話（瀬谷）四六番

一、設置状況

1 創立 昭和二二年四月一日
2 開校 昭和二二年五月五日
3 設置の際の概況

昭和二二年三月六・三制準備委員会が結成され新制中学校設置の努力が続けられ、とりあえず瀬谷小学校々舎の一部を借用して開校した。その後も同委員会の活動によつて資金が集められ専用教室四の完成をみた。しかし独立校舎建設への地元民の念願はつよく前記委員会は独立校舎建設委員会に組織変更され昭和二五年九月、現在の地に新校舎の設立をみたのである。

二、校名の変遷

昭二二・四・一 横浜市立瀬谷中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・三〇	横浜市戸塚区瀬谷町四二五一番地	横浜市立瀬谷小学校の一部借用
昭二五・四・一	横浜市戸塚区瀬谷町二五四〇番地	八、二七三坪（国有地二六七五、市有地五五九八坪）

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・三〇	借用	木造二階建		・瀬谷小学校々舎六教室借用
昭二三・三・一〇	新築	木造平屋建	一三七	・教室四
昭二五・九・二五	新築	木造二階建	四〇〇	・新校地に独立校舎落成、教室九
昭二八・四・四	増築	木造二階建	一〇六	・教室二
昭二九・八・九	増築	木造二階建	一三四	・教室四
昭三〇・八・二六	増築	木造二階建	一七二	・教室四

総坪数 八一二坪（教室一九、その他一一）

五、学区及びその変遷

昭二五・四・一 戸塚区瀬谷町（五貫目、上瀬谷、竹村、本郷、中郷、橋戸、北村新道、下瀬谷、相沢、瀬谷住宅）二ツ橋町
昭二六・五・七 阿久和町三ツ境住宅を追加

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	大矢 雄次	昭二二・四・三〇	昭三〇・二・一	浦島小学校長より就任、退職
二	中山 紀正	昭三〇・二・二		蒔田中学校副校長より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	七	二四〇（六）	二四〇	三五
昭二五	一六	四一三（九）	一五一	一三一
昭三〇	二四	七八一（一七）	二六二	二四八

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
瀬谷教育後援会		昭和二四年五月二六日解散
六・三制準備委員会	昭二二・三・二七	独立校地校舎の建設、昭和二四年一二月二一日名称変更
瀬谷中学校PTA	昭二二・九・一	会員七五五名
独立校舎建設促進委員会	昭二四・一二・二一	校地整備と独立校舎建設、昭和二六年八月三〇日名称変更

増築促進委員会　昭二六・八・三〇　生徒増加にともなう校舎増築の推進運動を展開する。委員数五三

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二八・四・四	図書室	七・二	
昭二九・四・一	図書室	七・二	拡張、計一四・四坪、蔵書数二、三〇〇冊

横浜市立原（はら）中学校

横浜市戸塚区阿久和町三四〇〇番地
電話横浜新橋四四番

一、設置状況

1　創立　昭和二二年四月一日
2　開校　昭和二二年五月五日
3　設置の際の概況

新学制施行にあたり横浜市六三制準備委員会は該当生徒僅少にもかかわらず地域の特殊性と父兄の熱望をいれて阿久和町、宮沢町を学区とする新制中学校として設置を決定した。校舎は横浜市立原小学校の木造平屋建一一二坪の一棟を借用した。

二、校名の変遷

昭二二・四・一　横浜市立原中学校

三、位置（校地）の変遷

昭二二・四・一　横浜市戸塚区阿久和町三四〇〇番地　四、七五四坪　市有地、原小学校と共用
昭三一・八・一　横浜市戸塚区阿久和町四一二三番地　三、二八七坪　市有地、原分校設置

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二二・四・一	借用	木造平屋建	一一三	・教室三、旧岡津国民学校阿久和分校々舎を昭一八年移築したもの
昭二四・五・九	借用	木造二階建	三〇六	・原小学校々舎教室七を借用
昭三一・八・一	新築	木造二階建	一四七	・教室四、分校設置のため新築

総坪数　本校三〇六坪（教室七、その他三）分校一四七坪（教室三、その他三）

五、分校設置状況

昭三一・八・一　原分校を戸塚区阿久和町四一二三番地に設置、一四六坪、教室四、生徒数一三八

六、学区及びその変遷

昭二二・四・一　戸塚区阿久和町、宮沢町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	白井勲二	昭二二・四・三〇	昭二四・四・一四	原小学校長兼務
二	清水孝夫	昭二四・四・一五	昭三〇・八・三一	大正中学校副校長より就任、中和田中学校長へ転任
三	五十川省吾	昭三〇・九・一		大正中学校副校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二二	四	九三（三）	九三	
昭二五	一〇	一九一（六）	六七	六〇
昭三〇	一一	一八二（六）	五八	六四

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
原中学校PTA	昭二三・四・一	会員三五〇名
原中学校教育振興会	昭二三・九・一	会員三五〇名、昭和三一年七月三一日廃止
原中学校建設委員会	昭三〇・九・一	委員一二〇名

一〇、その他の施設

設置年月日	施設名	摘要
昭二四・九・一	学校図書館	蔵書数七五〇冊

高等学校
特殊学校の部

Y

横浜市立横浜商業（よこはましょうぎょう）高等学校（通常課程）

横浜市南区南太田町二丁目一二八番地
電話長者町　(3)　三〇六七三番
　　　　　　　　三三二六番

一、設置状況

1　創立　明治一五年三月二〇日
2　開校　明治一五年三月二〇日
3　設置の際の概況

横浜は安政六年六月二日の神奈川条約によつて、一漁村から一躍貿易港となり、わが国文化の向上、産業の発達の上に重要な役割を演じたわけであるが、明治初年外国貿易の実権は多く外国人によつて独占されていたので、これを邦人の手に修めるには先ず第一に洋式商業教育を施すことが必要であつて、開港場横浜においてはそのことが特に痛感されていた。ここにおいて本校は横浜商家の子弟に対し商業及び貿易実務のたゆに必要な学術を教授することを以て設立の趣旨とし、明治一五年二月七日、小野光景・茂木惣兵衛・木村利右衛門・馬越恭平・朝田又七・戸塚千太郎・来栖惣兵衛の七氏が創立委員となり、慶応義塾塾頭、福沢諭吉翁の推薦による美沢進氏を招聘して学則その他教務上必要な諸規則編成のことを同氏に一任し、校舎の新築、経営の資金等のことに関しては割当委員がそれぞれ分担することにして、三月一三日、神奈川県庁に対し、横浜商法学校創設の伺書を提出した。三月二十日本県庁の認可を得たのでここにわが国における第五番目の商業学校としての本校の設立をみたのである。

二、校名の変遷

明一五・三・二〇	横浜商法学校	
明二一・二・一四	横浜商業学校	商法の制定により、名称の混同をさけるため
明二五・四・	横浜市本町外一三ケ町立横浜商業学校	設立計画者であつた横浜貿易商組合より本町外一三ケ町に移管のため

大六・四・一	横浜市立横浜商業学校	横浜市の経営に移管のため
昭二三・四・一	横浜市立商業高等学校	新制高等学校発足による

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名	
明一五・三・二〇	商業	予科	・修業年限二ヶ年入学資格小学校高等科卒業程度、明治三七年四月廃止
明一五・三・二〇	商業	本科	・修業年限三ヶ年入学資格予科修了者
明二七・三			・明三七年四月、修業年限を五年、予科第一学年予備級設置の件許可、横浜市公立小学校高等科卒業生の無試験編入許可
明二八・六	別科	清語科	・修業年限二ヶ年、毎夜三時間授業、明治三八年一二月、横浜商業補習学校に移管
大九・一二	商業	予科	・修業年限二ヶ年、大正一三年四月一日廃止、入学資格尋常小学校卒業程度
大九・一二	商業	本科	・修業年限五ヶ年、入学資格本科予科修了者、大正一三年四月一日改正、入学資格尋常小学校卒業程度
大一三・四・一	商業	専修科	・修業年限二ヶ年、入学資格中学校卒業程度、昭和三年三月三〇日廃止、横浜市立横浜商業専門学校に昇格
昭二三・四・一	商業	商業科	・学制改革に依り学則改正、新制高等学校となる。（定員五五〇名）
昭二四・四・一	家庭	家庭科	・横浜市立港高等学校統合に依る。
	普通		・学則改正（商業課程を含めて定員一二〇〇名）
	別科	理容科	・定員八〇名、昭和二八年四月一日理容美容科と改称

四、位置（校地）の変遷

明一五・三・二〇	本町一丁目五番地町会所内		
明一五・一一・二七	北仲通六丁目六八番地		校舎新築落成
明二一・三・一八	本町六丁目八四番地		旧生糸改会社内に火災類焼のため移転
明二二・一二	花咲町外五ヶ所内	一、九七六坪	横浜貿易商組合と本町外一三ヶ町区との間に共有分処分に関し協定された。共有物公有案により本校基本財産として本校に附属された
明二二・一二	北仲通六丁目七六番地		仮校舎落成
明二六・五	宮内省第一御料地	一、五〇〇坪	体操練習場として使用
明二七・五	北仲通六丁目	二三七坪	整地拡張のため逓信省附属地と福富町所在本校附属地とを交換
明三〇・七	北仲通六丁目七八番地		校舎新築落成
明三七・七	南太田町字清水耕地		七九〇五坪に移転、北仲通六丁目七八番地の本校校舎並びに敷地一切を横浜市に売渡し、上記敷地を購入
大三・七	南太田町清水耕地	一七〇坪	区会において横浜市道路用地として本校敷地の内、上記坪数の土地の議可決された。総坪数一一、四六〇坪

五、校舎の変遷

年日月	変遷類別	構造	建坪	備考
明一五・三・二〇	借用	不詳	不詳	・町会所楼上
明一五・一一・二七	新築	木造	不詳	・町会所楼上
明二一・三・一八	罹災	不詳	不詳	・隣地駅逓局普請市場より出火類焼
明二一・三・一八	借用	不詳	不詳	・本町六丁目八四番地、旧生糸改会社内
明二二・一二・一二	新築	木造平屋建		・仮校舎
明三〇・七	新築	不詳		・北仲通に移転
明三四・二・一八	増築	木造二階建		・北仲通に移転
明三八・九	新築	木造平屋建	一、一一一	・南太田字清水耕地に移転
明四三・七	新築	不詳		・雨天体操場
明四四・一二	新築	不詳		・簿記教室
大五・一二	新築	不詳		・大礼記念文庫
大一二・九・一	罹災		一、二〇六	・震災のため御大典記念文庫雨天体操場、柔道場の三棟、計一六〇坪及び倉庫一棟を残して全部倒潰す

大一五・一二・一五	新築	鉄筋三階建	五〇七	・本館校舎、教室三五
昭　三・	新築	鉄筋三階建	二一六	・講堂
昭　三・	新築	木造平屋建	八五〇	・武道道場、雨天体操場
昭二〇・四・五	撤去	木造平屋建	八五〇	・武道道場（三二八坪）雨天体操場（五二二坪）強制疎開のため取壊す
昭二〇・六	貸与		二九〇	・教室八、昭二一年八月まで横浜病院に貸与
昭一九・五	貸与		二一五	・昭和二三年六月まで講堂下生徒控室を食糧営団に貸与
昭二二・五・五	貸与		一四五	・教室七、昭和二四年七月四日まで横浜市立南太田中学校（現南中学校）に貸与
昭二七・二・四	増築	木造二階建	九〇	・教室六、港高校統合、普通科・家庭科併置等に伴い生徒の定員増加、教室不足のため

総坪数　一、九二二坪（教室三九、その他一五）

六、分校の設置状況

昭二四・三・三一	港分校を中区山下町二三一に設置、生徒数一一〇〇、（港高等学校を統合し、その夜間部を分校とした。）昭和二五年三月三一日、港分校が港高等学校として独立
昭二五・四	金沢分校を金沢区釜利谷町下小泉四四三に設置、教室二、生徒数四〇、夜間・定時制高校、職業課程を置く。昭和二九年三月三一日廃止
昭二五・四	共進分校を南区共進町二ノ七に設置、教室一、生徒数二〇、職業課程を置く、昭和二九年三月三一日廃止
昭二八・四・一〇	吉田分校を中区羽衣町三ノ八四に設置、教室六、生徒数三〇八、普通科一年生収容のため吉田中学校の一部校舎を借り、分校とす。昭和二九年三月、吉田分校は南高等学校として新たに発足することになり、本校は普通科の募集を停止

七、統併合・分離・併設状況

明一五・三・二五	横浜商法学校夜学部併設、明治二一年二月一四日、横浜商業学校夜学部と校名改正
明二八・三	本町外十三ケ町立横浜商業補習学校分離、夜学部発展のため分離独立
昭一七・五・五	横浜市立第二商業学校併設、夜間部として開校
昭一九・四	横浜市立第二商業学校分離、横浜市立専修商業学校に併合
昭二三・四・一	横浜市立横浜商業高等学校併設中学校併設、学制改革による
昭二三・四・一	横浜市立専修商業学校を統合、本校夜間部とする
昭二四・三・三一	横浜市立港高等学校を統合、男女共学実施、港高等学校夜間部は本校分校とした。昭和二五年三月三一日、横浜市立港高等学校として独立

八、学区及びその変遷

昭二三・三・三	神奈川県新学制に伴い、県下全域を学とした
昭二四・四	普通科の学区は南中学校、共進中学校、蒔田中学校、港南中学校通学区、昭和二九・四・一港高校設置のため廃止

九、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	美沢　進	明一五・三・二〇	大一二・九・一七	三菱商業学校より就任、死亡退職。
	唯野　真琴	大一二・九・一八	大一三・九・一九	本校教諭、校長事務取扱兼任
二	星野　太郎	大一三・九・一九	大一五・六・三〇	東京商科大学専門部教授より就任、退職
	森本　泉	大一五・六・三〇	大一五・七・一三	横浜市助役校長事務取扱兼任
三	矢田長之助	大一五・七・一三	昭　四・一二・二五	シャム公使より校長事務取扱、退職
	橋岡　徹	昭　二・一・一〇	昭　二・一一・二六	横浜市助役、矢田校長事務取扱欧米視察旅行中、校長事務取扱代理
	大西　一郎	昭　四・一二・二五	昭　五・三・五	横浜市助役、校長事務取扱兼任
四	武田　英一	昭　五・三・五	昭　七・七・二五	台北高等商業学校長よりY専校長兼本校校長事務取扱

五	前田幸太郎	昭七・七・二五	昭一六・四・一六	山口高等商業学校教授よりY専校長兼本校校長、兼任解かる
六	木村 元治	昭一六・四・一六	昭一九・三・一〇	Y専教授より就任、京華商業学校へ転任
七	荒木 直	昭一九・三・一〇	昭二二・七・一四	Y専教授より就任、文部省視学官へ転任
	石井 一作	昭二二・七・一四	昭二三・一二・二〇	本校教諭、校長事務取扱兼任
八	杉田 正人	昭二三・一二・二〇		東京都立芝商業高等学校長より就任

一〇、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
明一五	五	四（一）	四	
明三四	不詳	一七〇（五）	不詳	三九
大一〇	不詳	四六六（九）	不詳	七六
大一三	不詳	三七〇（七）	不詳	一四八
昭二	不詳	五八五（一一）	不詳	一〇一　内専修科一六
昭五	三六	六六二（一三）	不詳	一〇七
昭一〇	不詳	四二七（八）	二六四	一三九
昭一五	六二	九五九（一九）	二八七	二四三
昭一八	三七	一、一五九（二三）	二七三	二五七
昭二〇	二七	一、二〇〇（二四）	三一三	一三三
昭二三	三四	九〇〇（一八）	—	二一〇
昭二四	七三	一、〇四五（二二）	三五二	九七　港高校統合年度
昭二五	六〇	一、七七三（三三）	二八三	三四三
昭三〇	六七	一、四七九（二九）	四一六	六五七

一一、学校協力団体

団体名	発足年月日	
横浜市立横浜商業学校後援会	昭和二三年PTAに事務引継ぎ発展的に解消	
横浜市立横浜商業学校PTA	昭二三・五・一五	会員七三六名

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
大　五・一二	大礼記念文庫	二〇	図書館、大正天皇御即位記念として建設、蔵書数四、四二二（昭和三一年八月三一日現在）

別科理容美容科の沿革

所在地　横浜市磯子区西根岸上町一八番地　電話港(8)七三四〇番

昭和一八年理容術営業者の就業年限（満一八才以上六〇才未満）の制限により、その補充対策として女子のみを対象として青年学校令による理容専修科が南区中村町四ノ二二一中村高等小学校内中村青年学校に設置された。

昭和二一年共進中学校四教室に移転、昭和二三年四月一日青年学校廃止により港高等学校の別科理容科となつた。更に昭和二四年四月一日港高等学校は横浜商業高等学校と統合され横浜商業高等学校別科理容科となり、大鳥小学校の五教室を借用、昭和二八年四月一日理容師美容師法の改正により理容美容科と改称、校舎を旧市立盲学校校舎（現在地）に移転し現在に至る。

横浜市立横浜商業（よこはましょうぎょう）高等学校（定時制課程）

横浜市南区南太田町二丁目一二八番地
電話長者町　(3)　（〇六七三番　三三二六番）

一、設置状況

1　創立　明治一五年三月二五日

2　開校　明治一五年三月二五日

3　設置の際の概況

本校は現在の昼間部の前身である横浜商法学校の夜間部として開校し、昼間業務に従事して就学することの出来ない者に商業上必要な知識技能を授けることを目的とした。当初の生徒一四名で学科目は簿記と英語の二科目とし、修業年限を五ヶ年とした。

二、校名の変遷

明一五・三・二五	横浜商法学校夜間部	
明二一・二・一四	横浜商業学校夜間部	商法の制定による、名称の混同をさけるため
明二八・三	本町外一三ヶ町立横浜商業補習学校	夜間部発展の機運に伴なう実業補習学校規程制定による
大五・九・二九	横浜市立横浜商業補習学校	横浜市の経営に移管のため
大一四・三	横浜市立横浜商業専修学校	
昭八・三・三一	横浜市立専修商業学校	文部大臣認可により夜間甲種商業学校となる
昭二三・四・一	横浜市立横浜商業高等学校定時制	学制改革により昼間部併設定時制高等学校となる

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名	
明一五・三・二五	商業	簿記科 英語科	
明二八・一〇・一		清語科	・前期・後期高等科英語専修部、高等科法制経済専修科修業年限二ヶ年
大一四・三・三一		本科 専攻科商科 専攻科英語科	
昭二・四・一			・本科の修業年限を五ヶ年とし、専攻科の修業年限を商科・英語科各一ヶ年
昭八・三・三一			・四年課程の商業学校として認可専攻科廃止
昭二三・四・一	商業		・学制改革により新制高等学校となる
昭二四・四・一	普通		・新制高等学校制度施行に当り普通課程を併置

四、位置（校地）の変遷

明一五・三・二五	本町一丁目五番地		
明一五・一一・二七	北仲通六丁目六八番地		
明二一・三・一八	本町六丁目八四番地		
明二三・一二	北仲通六丁目七六番地		
明三〇・六	北仲通六丁目七八番地		
大一二・一一・一〇	神奈川桐畑三六		関東大震災により校舎焼失のため青木小学校々舎を借用
大一三・一	北仲通六丁目六四番地		本町小学校々舎を借用
昭二・六・二三	山下町二丁目三一番地	一、一一〇坪	（現在の港高校）
昭一九・四・一	南区南太田町二丁目二八	一一、四六〇坪	

五、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明一五・三・二五	借用	木造二階建	不詳	
明一五・一一・二七	新築	木造二階建	不詳	
明二一・三・一八	借用	木造二階建	不詳	・火災のため校舎焼失、旧生糸会社樓上借用
明二一・三・一八	借用	木造二階建	不詳	
明二三・一二	新築	木造平屋建	不詳	
明三七・	新築	木造二階建	不詳	
大一二・九・一	罹災	木造二階建	不詳	・関東大震災による
大一二・一一・一〇	借用	木造二階建	不詳	・青木小学校の校舎一部を借用
大一三・一	借用	木造平屋建	不詳	・本町小学校バラック校舎一部を借用
昭二・六・二三	新築	鉄筋三階建	一、一四〇	・独立校舎落成
昭一九・四・一	移転	鉄筋三階建	二、四〇〇	・現在の校舎横浜商業学校内に移転

六、統併合・分離・併設状況

大一五・六	青年訓練所併設
昭二・四	女子高等専修学校、横浜市教育講習所を併設
昭一九・四・一	女子高等専修学校分離、市立第二商業学校統合

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	美沢　進	明一五・三・二五	大一二・九・一六	三菱商業学校より就任、死亡退職
二	中川　直亮	大一三・二	昭一〇・一・一九	市教育課長として校長事務取扱となり、昭和四年四月二四日、専任校長となる
三	金子　馨	昭一〇・一・二九	昭一七・三・三一	元街小学校長より就任、県立横須賀中学校長へ転任
四	宮田直次郎	昭一七・三・三一	昭一九・四・一	市教学課長、校長事務取扱兼任、昭和一七年一月七日、専任校長兼横浜女子高等専修学校長となる。女子高等専修学校専任校長へ転任
五	荒木　直	昭一九・四・一	昭二三・七・一四	横浜市立経済専門学校教授より横浜商業学校長並びに本校校長に就任、文部省事務官へ転任
	森　源蔵	昭二三・七・一四	昭二三・四・一	本校主事として校長事務取扱に就任
六	杉田　正人	昭二三・四・一		東京都立芝商業高等学校長より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
明一五	五	一四（二）	一四	
大一三	一九	三四二（一二）	一五六	二六
昭二	二八	六八二（一七）	三七〇	二四
昭五	三〇	一、一三三（一八）	四一二	七五
昭一〇	二五	七六三（一六）	二二六	一四二
昭一五	二三	八五三（一五）	二三六	一六二
昭一八	二八	八〇一（一六）	二〇二	一八四
昭二〇	二五	三一八（一一）	三二	九八
昭二二	二五	八七二（一九）	二二九	三八
昭二五	二七	八七〇（一九）	三八一	四〇
昭三〇	三六	一、二五〇（二四）	三六六	二五三

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
本校夜間部後援会	昭二三・五・	会員八五〇名、ＰＴＡに発展的に解消
本校夜間部ＰＴＡ	昭二六・四・	会員八七〇名

一〇、その他

昭六・一・二三　優良実業補習学校として指定される。

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
大五・一二	図書館	四五	昼間部と共用、蔵書数四、四二一冊
昭二六・二	食物調理場	九	

横浜市立鶴見工業高等学校（通常課程）

横浜市鶴見区下野谷町四丁目一四六番地
電話鶴見(5)二〇五五番

一、設置状況

1 創立 昭和一一年三月一二日
2 開校 昭和一一年四月一三日
3 設置の際の概況

京浜地帯の工業発展の実態及び横浜市の現状より見て工業教育の重要さが増加しつつある時鶴見区民の切なる要望により昭和一〇年一二月九日市会で設立の件が議決され、昭和一一年三月一二日文部省の設立認可を得た（尋常小卒三ヶ年制の乙種工業）校長事務取扱として当時の横浜高等工業学校教授鈴木京平氏が任ぜられ、職員組織等、開校の準備を進め、昭和一一年四月一三日横浜市立下野谷尋常小学校の教室を借用して第一回の入学式を挙行した。

二、校名の変遷

昭一一・三・一二	横浜市立鶴見工業実習学校	小卒を入学資格とする三ヶ年制乙種工業学校
昭一五・四・一	横浜市立鶴見工業学校	甲種工業となる。（高小卒を入学資格とする三ヶ年制）
昭二三・三・三〇	横浜市立鶴見工業高等学校	学制改革による新制高等学校となり、校名改称

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名	
昭一一・四・一	工業	機械科	・第一本科（小卒三年乙種工業）定員五〇
昭一一・四・一	工業	電気科	・第一本科（小卒三年乙種工業）定員五〇
昭一四・四・一	工業	工業化学科	・増設定員五〇名
昭二四・四・一	工業	建設科	・増設定員五〇名
昭二五・四・一	普通		・併設定員一五〇名
昭二七・四・一	別科	機械科	・会社工場の養成工委託授業（昼間）
昭三〇・四・一	普通		・廃止

四、位置（校地）の変遷

昭一一・三・一二	横浜市鶴見区下野谷町四の一四六番地	二、四八五坪	私有地、学校設立につき借用（戦後物納により市有地となる）
昭一二・七・二〇	横浜市鶴見区下野谷町三の九〇番地	二、六九六坪	私有地を運動場として買収
昭二六・四・二六	横浜市鶴見区下野谷町三の九〇番地	一、二九二坪	運動場隣接地を光明産業より買収
昭二七・六・一五	横浜市鶴見区下野谷町三の九〇番地	二五〇坪	市有地、運動場側道路廃道となり校地となる
昭二八・四・三	横浜市鶴見区下野谷町三の九〇番地	一二一坪	私有地を買収

総坪数 六、八四四坪

五、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭一一・一〇・二〇	新築	木造二階建	五五三	・校舎四棟、教室七、特別教室三、実験室七
昭一四・一〇・二五	増築	木造平屋建	一五一	・講堂及び鋳物工場
昭一五・一・一八	増築	木造二階建	一三九	・教室三、化学実験室二
昭一五・一〇・三〇	増築	木造二階建	一五五	・教室二、化学実験室一
昭二六・九・一五	新築	木造平屋建	四〇	・教室二
昭二七・一一・一五	新築	木造平屋建	七二	・製図教室、材料実験室
昭三〇・一二・一〇	新築	鉄筋二階建	一〇五	・一階水理実験室、二階製図室

総坪数 一、五〇六坪（教室三九、その他一九）

六、併設状況

昭一三・四・一 横浜市鶴見工業専修学校併設、四〇名（一年）昭和一六年三月三一日廃止

昭一六・四・一　横浜市立鶴見第二工業学校併設、二四〇名（一・二年機械、電気科六学級）
昭二二・四・一　横浜市立鶴見工業併設中学校併設、二・三年機械、電気、工業化学科四三七名
昭二三・四・一　横浜市立鶴見工業高等学校定時制併設

七、学区及びその変遷

昭一一・四・一三　神奈川県全域
昭二五・四・一　普通科設置につきその学区を鶴見区東部地区（本町通、下野谷、仲通、汐入町、汐田、小野町、末広町、朝日町、浜町、寛政町、安善町、向井町、弁天町、栄町通一―三丁目、大東町、生麦町の一部）とした。昭和三〇年四月一日廃止

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	鈴木　京平	昭一一・四・一	昭一二・四・二三	横浜工業高等学校教授、校長事務取扱を兼任
一	阿部　巽	昭一二・四・二四	昭一三・一二・二九	東京府立実科工業学校教諭より就任、死亡退職
	永峯　尚次	昭一四・一・一七	昭一四・三・三一	本校教諭、校長事務取扱を兼任
二	森田　敬治	昭一四・三・三一		宮城県工業学校教諭より就任

九、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭一一	九	一〇〇（二）	一〇〇	〇
昭一三	二三	三一二（六）	一〇〇	九二
昭一五	三八	五五七（一三）	二七八	四四
昭一六	三八	六七三（一四）	二七九	八五
昭一八	三八	七九六（一四）	三二七	一三八
昭二〇	三八	八六七（二一）	二二四	一七七
昭二二	四八	八八九（二五）	一九九	三四一
昭二三	五二	六〇八（一七）	二四〇	三〇八
昭二五	六八	六七九（一七）	三二三	一五〇
昭三〇	七一	一、〇六二（二七）	三一七	三三五

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
鶴見工業高等学校ＰＴＡ	昭二四・四・二〇	会員約一、〇〇〇名
鶴見工業高等学校後援会	昭二八・四・一	会員約九〇〇名

一一、その他

昭一八・七・一〇　勤労動員、約三百名港北地区の農家に食糧増産のため二週間
昭一八・九・一〇　勤労動員、延七百名港北区長津田在の田奈部隊兵器関係の作業一ヶ月
昭一九・二・一五　勤労動員、本科一年生若干名を残して全校あげて会社工場へ（東芝鶴見、京町工場、石川島、芝浦タービン、旭硝子、日東化学、日本電線、宇山カーボン、学校工場）
昭二〇・八・一六　勤労動員令解除、帰校
昭二五・八・二〇　関東民事部主催関東地区高等学校図書館コンクール入選「コンプトン百科辞典」獲得
昭二九・八・一　野球部神奈川県大会に優勝、甲子園に出場

一二、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二九・五・一八	プール		二五米プール

横浜市立鶴見工業高等学校（定時制課程）

横浜市鶴見区下野谷町四丁目一四六番地
電話鶴見(5)二〇五五番

一、設置状況

1 創立 昭和一三年四月一日
2 開校 昭和一三年四月一日
3 設置の際の概況

昼間、会社工場等に勤務する青年に対し工業関係教科を専修する青年学校として鶴見工業地帯の中心地にある横浜市立鶴見工業実習学校に併設された。

二、校名の変遷

昭一三・四・一	横浜市鶴見工業専修学校	工業関係教科を専修する青年学校として横浜市立鶴見工業実習学校に併設され、昭和一六年三月三一日廃校
昭一六・四・一	横浜市立鶴見第二工業学校	横浜市立鶴見工業学校に併設された甲種実業学校（夜間授業）
昭二三・四・一	横浜市立鶴見工業高等学校	学制改革による工業高等学校（定時制）

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名	
昭一三・四・一	工業	機械科	・定員四〇名
昭一三・四・一	工業	電気科	・定員四〇名
昭一四・四・一	工業	工業化学科	・増設、定員四〇名
昭一九・四・一	工業	電気通信科	・増設、定員四〇名
昭二一・四・一	工業	土木科	・増設、定員四〇名
昭二五・四・一	工業	建設科	・土木科を改称、定員三〇名

四、位置（校地）の変遷

前記鶴見工業高等学校（通常課程）と同じ

五、校舎の変遷

前記鶴見工業高等学校（通常課程）と同じ

六、分校・分教場の設置廃止状況

昭二五・四・一 汐田分校を鶴見区向井町三の一八〇番地に産業教育振興のため設置、（市立汐田中学校校舎借用）教室二、生徒四〇、昭和三一年三月三一日市教委計画により廃止

昭二五・四・一 大綱分校を港北区太尾町六一一番地、市立大綱中学校々舎借用、修業年限一年、教室三、生徒八〇、昭和三一年三月三一日、市教委計画により廃止

七、併設状況

昭二二・四・一 鶴見第二工業併設中学校、学制改革による併設中学校（夜間授業）

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
	鈴木 京平	昭一一・四・一	昭一二・四・二三	横浜工業高等学校教授、校長事務取扱兼任
一	阿部 巽	昭一二・四・二四	昭一三・一二・二九	東京府立実科工業学校教諭より就任、死亡退職
	永峯 尚次	昭一四・一・一七	昭一四・三・三一	本校教諭、校長事務取扱兼任
二	森田 敬治	昭一四・三・三一		宮城県工業学校教諭より就任

九、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭一三	三	八〇（二）	八〇	〇
昭一五	七	二五七（九）	一五五	一七
昭一六	八	二一八（六）	一一七	〇
昭一八	一四	四一九（一二）	一二八	九〇

昭二〇	一六	三八〇（一四）	一三八	五八
昭二二	一六	四三五	一八〇	六五
昭二三	二四	五二九（一六）	二七二	五五
昭二五	二六	五一八（一八）	一九三	一〇五
昭三〇	三〇	七一七（二〇）	二二五	一七二

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
鶴見工業高等学校ＰＴＡ	昭二四・四・二	会員八九〇名

横浜市立戸塚高等学校（通常課程）

横浜市戸塚区矢部町一三六番地
電話　戸塚　三〇一番

一、設置状況

1　創立　昭和三年三月六日
2　開校　昭和三年四月一日
3　設置の際の概況

大正中期以後の教育施設拡充の波にのつて県下の数地区に中等学校が逐次設置されてきた。又この頃の実学主義的傾向を反映して女子中等学校には実科を重んずる風が強く、実科女学校が次々に設立された。当時の鎌倉郡には中等学校を全く欠いたので、この時代の風潮と住民の要望とによつて郡行政の中心地戸塚町に町立実科女学校の設置をみることになつたのである。しかし当初の構想はきわめて小規模でとりあえず定員二〇〇名として発足することになつた。

二、校名の変遷

昭　三・四・一	鎌倉郡戸塚町立実科高等女学校	
昭一四・四・一	横浜市立戸塚実科高等女学校	横浜市に編入による校名改称
昭一八・四・一	横浜市立戸塚高等女学校	中等学校令施行により校名改称
昭二三・四・一	横浜市立戸塚高等学校	学制改革により校名改称

三、課程及び学科名の変遷

年月日	課程名	学科名
昭二三・四・一	普通	・定員三〇〇名

四、位置（校地）の変遷

昭　三・四・一	神奈川県鎌倉郡戸塚町一三二番地	
昭一四・四・一	横浜市戸塚区戸塚町一三二番地	横浜市編入のため
昭二三・四・一	横浜市戸塚区矢部町一三六番地	校舎移転のため

総坪数　三、二九〇坪

五、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭　三・四・一	借用	木造平屋建	五〇	・教室二、他の特別教室は小学校と共用
昭　四・一・八	新築	木造平屋建	一九六	・教室四、特別教室三
昭二二・四・一	転用	木造平屋建	一、一三五	・教室一二、特別教室一四

総坪数　九三四坪（教室一九、その他二〇）

六、併設状況

昭二三・四・一　横浜市立戸塚高等学校定時制併設

七、学区及びその変遷

昭二五・四・一　戸塚、本郷、岡津、大正、中和田、原の六中学校の学区域

昭二六・四・一　原中学校、希望ヶ丘高等学校の学区に変更

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	森久保敬次	昭三・三・六	昭一九・六・八	戸塚小学校長より就任、退職
二	和田悌三	昭一九・六・八	昭二三・四・三〇	市立高等女学校教諭より就任、西中学校長へ転任
三	葛野重雄	昭二三・四・三〇		横浜市視学より就任

九、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭三	四	五九	五九	〇
昭五	五	一二五	三四	二七
昭一〇	六	一八八	五五	四七
昭一五	六	二三六	六七	五六
昭一八	六	二〇〇	五八	五四
昭二〇	六	二〇〇	一〇〇	五二
昭二三		二〇五	〇	六七
昭二五	二八	三九二	二〇〇	六六
昭三〇	二八	五九九	二一七	一八三

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
戸塚高等学校父母と先生の会	昭二三・七・一五	会員六一〇名

横浜市立戸塚高等学校（定時制課程）

横浜市戸塚区矢部町一三六番地
電話戸塚三〇一番

一、設置状況

1　創立　昭和二三年四月一日

2　開校　昭和二三年四月一日

3　設置の際の概況

戦後の学制改革により新制高等学校が設置されることになり、横浜市立戸塚高等女学校を母胎として戸塚高等学校が昭和二二年四月一日設けられた。この際、高等学校教育を広く勤労青年にも門戸を開放して、就学の便宜を与える必要を感じ、定時制課程が併設されることになり本校夜間部の創設をみるに至つた。戸塚地区は地形上一地域をかくしており他地区への通学は困難であるため本校夜間部の設置は地区内在住者ならびに在勤の勤労青年には大きな福音となつた。

二、校名の変遷

昭二三・四・一　横浜市立戸塚高等学校定時制

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名	
昭二三・四・一	普通		・定員三二〇

四、位置（校地）の変遷

昭二三　四・一　横浜市戸塚区矢部町一三六番地

五、校舎の変遷

前記の戸塚高等学校通常課程と同じ

六、分校の設置廃止状況

昭二五・五・一　横浜市立戸塚高等学校大正分校を二五、一、生徒数一一、昭二九・三・三一、廃校

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	葛野　重雄	昭二三・四・一	横浜市視学より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二三	一〇	一一〇（三）	一一〇	〇
昭二五	二〇	一八八（七）	七八	〇
昭三〇	二一	二四三（七）	七八	五〇

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
戸塚高等学校父母と先生の会	昭二三・七・一五	会員二七八名

横浜市立桜ケ丘高等学校（通常課程）

横浜市保土ケ谷区桜ケ丘三一二番地
電話神奈川 ⑷ 七一三七番

一、設置状況

1 創立　大正一五年一一月三〇日
2 開校　昭和二年四月八日

3 設置の際の概況

当時程ケ谷町には女子実業補習学校と称する女子教育の特設機関があり、校舎は程谷小学校に隣接していた。関東大震災後、程ケ谷町の復旧をはかる程谷町振興会が組織され、町長吉田淳一氏、助役間部与平次氏の尽力のもとに教育機関の整備についても種々考慮した結果、当時の程ケ谷町立程谷小学校長斉藤元近氏の進言により実科高等女学校設置の運びとなり大正一五年一一月尋常小学校卒業者を入学資格とする四ケ年制実業学校令による実科高等女学校の設立認可があり、斉藤元近氏が校長事務取扱となつた。翌昭和二年四月一日程ケ谷町が横浜市に合併と同時に横浜市に移管され四月八日開校式挙行。場所は横浜市保土ケ谷区神戸町九四〇番地（のち町名変更、桜ケ丘となる）で校地三千坪、校舎一棟四教室、生徒一年四五名、二年四〇名、を募集し二学級を編成、教職員は専任七名であつた。なおこれより先、大正元年十月十日設立された程谷町立女子補習学校（小学校卒業者を入学資格とする二ケ年制）八名、兼は同時に本校に併設された。

二、校名の変遷

大一五・一一・三〇	程ケ谷町立実科高等女学校	
昭　二・五・三一	横浜市立実科高等女学校	橘樹郡程谷町が横浜市に併合すると同時に市に移管、校名変更
昭　九・四・一	横浜市立高等女学校	高等女学校令による五ケ年制に学則変更
昭二三・四・一	横浜市立桜ケ丘高等学校	学制改革により校名改称

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名
昭　二・五・三一	普　通	・四ケ年制定員一〇〇名、他に家政科五〇名
昭　九・四・一	普　通	・五ケ年制定員一五〇名、他に家政科一〇〇名
昭二三・四・一	普　通	・三ケ年制（新制高等学校）定員三〇名

四、位置（校地）の変遷

昭　二・四・八	横浜市保土ケ谷区神戸上町九四〇の二外一四筆　三、〇六五坪	
昭二三・一一・三	横浜市保土ケ谷区桜ケ丘一二七番地	（現在桜台小学校校地）

昭二九・三・一三　横浜市保土ケ谷区桜ケ丘三一二番地　一〇、六一〇坪　現校地（うち九〇〇坪は私有地）

総坪数　一〇、六一〇坪

五、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二・四	新築	木造平屋建	一五六	
昭三・四・八	増築	木造平屋建	一四四	・九〇
昭一一・一一・二	増築	木造二階建	一、二六〇	・教室一六、特別教室一〇
昭二〇・五・二九	罹災			・空襲により講堂、音楽室を残し焼失
昭二〇・一〇・一八	借用		不詳	・岩崎小学校借用
昭二〇・一二・八	借用		不詳	・平沼小学校三階全部
昭二三・一一・三	新築	木造二階建	五四〇	・教室一二、特別教室四、洲野辺にある旧陸軍工場払下げにより焼跡に建設
昭二六・一・二七	増築	木造二階建	一一七	・教室四
昭二七・六・一〇	増築	木造二階建	五八	・教室二
昭二八・四・一六	増築	木造平屋建	三三	・作法室
昭二九・七・三〇	新築	木造二階建	二四五	・教室八、新校地に新築
昭三〇・四・二三	増築	木造二階建	二九九	・教室一一
昭三一・二・八	増築	木造二階建	二九四	・本館
昭三一・四・一七	増築	木造二階建	一八二	・教室四

総坪数　一、〇九八坪（教室二五、その他一七）

六、分校・分教場の設置廃止状況

昭二五・六・一　横浜市立桜ケ丘高等学校幸ケ谷分校を横浜市立幸ケ谷小学校内に別科一ケ年制として設置、教室数四、生徒数一〇〇、昭三一年三月三一日廃校

七、併設状況

昭二・四・八　横浜市立保土ケ谷家政女学校を併設、保土ケ谷町立女子実業補習学校が校名改称、本校に併設

昭一〇・四・一　公立青年学校神奈川県横浜市保土ケ谷家政学校を併設、青年学校令公布により校名改称

昭一一・四・一　横浜市立高等家政女学校を併設、学則変更により改称、昭和一七年三月三一日廃校

八、学区及びその変遷

昭二五・一・一一　横浜市立岩崎中、保土ケ谷中、鶴ケ峯中、瀬谷中の学区

昭二五・二・一六　宮田中学校新設により更に宮田中を加える。

昭二六・三・八　岩崎中、宮田中の学区、県立希望ケ丘高等学校保土ケ谷に移転のため

昭二八・二・二四　右学区はこの年度に限り県立希望ケ丘高校通学区域と相互に包括する。

昭二九・三・五　岩崎中、宮田中の学区となり更に南区の一部を加える。

九、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	斉藤　元近	大一五・一一・三〇	昭二・五・二六	程ケ谷町立小学校長兼任
二	高田　文哉	昭二・五・二六	昭五・六・二二	保土ケ谷小学校兼任
三	大地　義治	昭五・六・二一	昭二四・四・一五	横浜市視学より就任
四	森　要之助	昭二四・四・一五		港高等学校長より就任

一〇、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者	
昭二	一五	八五（二）	八五		
昭八	二一	三一九（八）	一〇〇	一二〇	
昭一一	二七	六八二（一四）	一五〇	一三三	
昭一五	二八	七八〇（一六）	二〇〇	一九〇	五ケ年制となる
昭一九	三六	九四二（一八）	二〇〇	一四五	

昭二〇	三四	四三〇（一四）	二〇〇	四年卒一九三 五年卒二二〇	罹災により半減
昭二三	三五	六一二（一四）	—	一六六	桜ケ丘高等学校となる
昭二七	三七	九四一（一八）	三一五	二五一	
昭三〇	三七	九一四（一八）	三一三	三一五	

一一、学校協力団体

団体名	発足年月日	
桜ケ丘高等学校振興会	昭一九・一・一五	昭二八年六月一七日廃止
桜ケ丘高等学校ＰＴＡ	昭二五・一・二八	会員九二〇名
桜ケ丘高等学校同窓会	昭 六・五・三〇	会員五、〇五七名
桜ケ丘高等学校並びに仮称桜ケ丘小学校校舎建設促進会	昭二九・二・一五	桜ケ丘高等学校、岩崎小学校、保土ケ谷小学校、三校のＰＴＡ会員をもつて組織、昭和三〇年一二月八日解散

一二、その他

昭二八・一一・二二	毎日新聞社主催全日本学生音楽コンクールにて全国優勝、文部大臣賞受賞
昭二九・一一・二一	毎日新聞社主催全日本学生音楽コンクールにて全国優勝、文部大臣賞受賞
昭三〇・一一・二〇	毎日新聞社主催全日本学生音楽コンクールにて全国優勝、文部大臣賞受賞
昭三〇・一一・二三	朝日新聞社主催全日本合唱コンクールにて全国優勝、文部大臣賞受賞

一三、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭一五・一〇・七	プール	九八	後援会で作り市に寄附

横浜市立金沢高等学校（通常課程）

横浜市金区沢六浦町四七三〇番地
電話金沢（7）九四三三番

一、設置状況

1 創立 昭二六年四月一日
2 開校 昭二六年四月五日
3 設置の際の概況

金沢区六浦町にあつた神奈川県立希望ケ丘高等学校が保土ケ谷区希望ケ丘の地に移転するにおよび、横浜市南部磯子、金沢区に公立の高等学校が一つもなくなるという事情から新校創設の必要が痛感されるに至つた。ここに地元有志、高等学校設置期成同盟会の要望もあつて横浜市教育委員会の手により当地区に普通科の高等学校を新設する運びとなつた。そのため金沢区六浦町にあつた旧海軍航空技術廠跡の一万余坪の土地を校地とし第一期工事を立案、金沢全区と磯子区の半分を学区として昭二六年三月生徒一年生のみを募集し、四月より横浜市立金沢高等学校が開校された。開校当時には新校舎が出来上つていないため、横浜市立六浦中学校の校舎の一部を仮校舎とし北川若松氏を校長事務取扱いとして発足した。

二、校名の変遷

昭二六・四・一 横浜市立金沢高等学校

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名
昭二六・四・一	普通	・定員一学年につき二五〇名

四、位置（校地）の変遷

昭二六・四・一 横浜市金沢区六浦町四七三〇番地 一〇、四九七坪

五、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二六・四・一	借用	木造平屋建	一〇〇	・六浦中学校校舎の一部借用
昭二六・一二・一	新築	木造二階建	四三六	・第一期工事
昭二七・一一・一三	増築	木造二階建	一七九	・第二期工事
昭二八・一〇・二八	増築	木造平屋建	一、二八八	・第三期工事
昭三〇・四・二二	増築	木造平屋建	一、〇二五	・第四期工事

総坪数　八四六坪（教室二〇、その他一二）

六、学区及びその変遷

昭二六・四・一　金沢区全域及び磯子町の一部（三六七—一六八六番地まで）、森町、中原町、杉田町、栗木町、上中里町、氷取沢町、峯町、田中町、矢部野町

七、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	今井　行雄	昭二六・四・一〇	横浜国立大学教授より就任

八、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二六	一〇	二八二　（五）	二八二	
昭三〇	三六	七三三（一五）	二六三	二二九

九、学校協力団体

団体名	発足年月日	
高等学校設置期成同盟	昭二五・四・	昭和二六年七月三日解散
金沢高等学校ＰＴＰ	昭二六・五・一九	会員七五四名

横浜市立横浜（よこはま）工業（こうぎょう）高等学校（定時制課程）

横浜市南区大岡町二二三三番地
電話長者町(3)一一〇三番

一、設置状況

1　創立　大正一一年四月一日
2　開校　大正一一年四月一日
3　設置の際の概況

旧横浜高等工業学校の校長鈴木達治氏は当時の日本の工業教育界において実業補習学校がいかに必要であるかを痛感され、時の横浜市長久保田政周氏にその必要を説き市立の工業補習学校が設置されることになり、横浜高等工業学校内に市立大岡工業補習学校として実業補習学校令に基づき高小卒を入学資格とする修業年限二ヶ年制の中等部を設け機械工学科及び応用化学科の二科を設置して大正一一年四月二四日第一回入学式を挙行した。

二、校名の変遷

大一一・四・一	横浜市立大岡工業補習学校	実業補習学校令によつて創立
大一二・三・三一	横浜市立横浜工業専修学校	他の多くの補習学校とは内容が異るため、校名改称
昭一〇・一〇・一	公立青年学校神奈川県横浜市横浜工業専修学校	昭和十年三月三〇日青年学校令公布により改称
昭一五・四・一	横浜市立横浜工業学校	実業学校令工業学校規程に基く学校に組織変更のため
昭二三・四・一	横浜市立横浜工業高等学校	学制改革により校名改称

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名	
大一一・四・一	中等部	機械工学科、応用化学科	・創設、高小卒を入学資格とする修業年限二ヶ年
大一三・四・一	高等部	機械工学科、応用化学科	・新設、中等部卒を入学資格とし修業年限二ヶ年
大一四・四・一	中等部	電気工学科	・増設
大一五・四・一	中等部	建築工学科	・増設
昭 二・四・一	高等部	電気工学科	・増設
昭 三・四・一	高等部	建築工学科	・増設
昭一〇・四・一	本科、機械工学、応用化学、電気工学、建築工学科 青年学校令によって中等部、高等部の別を廃止し本科は修業年限四ヶ年となる。		
昭一五・四・一	本科、機械科、応用化学科、電気科、電気通信科、建築科 実業学校令工業学校規程に従う学校に組織変更し学科名を前記のように、改称旧電気工学科を二分して電気科と電気通信科とした。		
昭一七・四・一	本科	造船科、航空科	・増設
昭一七・四・一	本科	工業化学科	・応用化学科を改名
昭二一・三・三一	本科	航空科	・終戦により廃止、在科生は機械科に吸収
昭二一・四・一	本科	土木科	・増設
昭二八・三・三一	本科	土木科	・志願者少なく校舎もせまいため廃止、在科生は建築科に吸収し、建築課程とし建築コース、土木コースに分けた。

四、位置（校地）の変遷

大一一・四・一　横浜市南区大岡町二二三三番地　二八、九七六坪　官立横浜高等工業学校（現在の横浜国立大学工学部）内に設立され今日に至る

五、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一一・四・一	借用	木造平屋建	不詳	・官立横浜高工の校舎を借用現在に至る
昭 六・四・一	借用	鉄筋		・横浜高工鉄筋コンクリート建校舎一部完成
昭三〇・四・一	借用	木造	八六二	・二八
昭三〇・四・一	借用	鉄筋	一七二	・七

総坪数　八〇七坪（教室二六、その他一八）

六、分校・分校場の設置廃止状況

大一四・四・一　横浜市立横浜工業専修学校西前分教場を横浜市西区杉山町三ノ八八番地横浜市立西前小学校内に設置、中等部、機械工学科、造船工学科の二科を設け各一学級宛置く、分教場は専ら横浜船渠会社の委託生を入学させた。

昭一三・四　私立三菱重工横浜ドック青年学校として校舎落成し独立、同分教場廃止

七、統併合・併設状況

大一五・七・一　横浜市立横浜工業専修青年訓練所を併設

昭一〇・四・一　青年訓練所は青年学校令によって統合して青年学校となる。

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	鈴木　達治	大一一・四・一	昭一〇・三・三一	横浜高工校長兼任、退職
二	富山　保	昭一〇・三・三一	昭一五・三・三〇	横浜高工校長兼任、退職
三	鈴木　京平	昭一五・四・一	昭一六・三・三一	主事より就任、東京高等工芸学校長へ転任
四	富山　保	昭一六・四・一	昭二〇・八・一五	横浜工専校長兼任、退職

五	安川数太郎	昭二〇・八・一五	昭二三・四・三〇	横浜工専教授より就任、市立大学教授へ転任
六	梶谷 忠吉	昭二三・四・三〇	昭二四・三・三一	校長代理、戸塚高等学校教諭へ転任
七	長谷川光次	昭二四・三・三一	昭二四・六・三〇	校長代理
八	富山 保	昭二四・六・三〇	昭二四・七・一五	横浜国立大学学長兼任、退職
九	斎藤 輝治	昭二四・七・一五	昭三一・三・三〇	横浜工業専門学校教授より就任、退職
一〇	長谷川光治	昭三一・四・一		横浜工業高等学校副校長より就任

九、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
大一一	二	三〇（二）	三〇	〇
大一三	二	一四九（六）	八九	一五
昭二	二	四九三（一三）	一五六	九一
昭五	五	五二一（一六）	三五七	二五〇
昭一〇	八	六二八（一六）	二五六	一九七
昭一五	一二	九三八（二四）	二四八	一一一
昭一八	二四	九四四（二八）	三七四	二一五
昭二二	三四	一、〇六七（三〇）	三七一	一四八
昭二五	四七	一、〇五三（三二）	三六一	二〇〇
昭三〇	四六	九〇四	二九三	二〇七

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
横浜工業学校後援会	昭二二・四・一	昭二九年六月三〇日ＰＴＡ発足に伴い発展的解消
横浜工業高等学校ＰＴＡ	昭二九・六・三〇	会員九七一名

一一、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭二五・四・一	学校図書館	二八	蔵書数三、〇〇〇冊

横浜市立港（みなと）高等学校（定時制課程）

横浜市中区山下町二三一番地
電話港(8)一〇七五番

一、設置状況

1 創立 昭和 三 年三月三一日
2 開校 昭和 三 年四月 一 日
3 廃校 昭和二四年三月三一日
4 復活 昭和二五年四月 一 日
5 設置の際の概況

当時、横浜市には、女子のための補習教育機関がなく、女学校を卒業して尚勉学を希望する者は東京迄出なければならないという不便な事情にあつたため、これに備えて昭和三年三月三一日、横浜市立女子専修学校として高等小学校及び女学校卒業程度を以て入学資格とする商業・家政及び家庭の専門教育を施す目的を以てここに本校が創立された。

二、校名の変遷

昭 三・三・三一	横浜市立女子専修学校	
昭一一・四・一	横浜市立女子高等専修学校	職業学校規程、昭和一一年三月三一日の認可による。
昭一九・四・一	横浜市立第一女子商業学校	商業教育を主とするため

昭二三・四・一	横浜市立港高等学校	学制改革による
昭二四・四・一	横浜市立商業高等学校へ統合のため廃校夜間部は旧校舎に残り港分校となる	
昭二五・三・三一	横浜市立港高等学校	港分校が分離独立

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名	
昭三・三・三一	本科	商業科	・二ケ年制度、五〇名（小学校高等科卒業）
昭三・三・三一	本科	家政科	・二ケ年制度、五〇名（小学校高等科卒業）
昭三・三・三一	高等科		・一ケ年制度、五〇名（女学校卒業）
昭三・三・三一	専修科	和裁科	
		洋裁科	
		割烹科	
		華道科	
		家事科	
		茶道科	・茶道科の三〇名を除いて他の科はそれぞれ五〇名。六ケ月修了週二回
昭一一・四・一	本科	一部	・四ケ年制、一〇〇名（小学校六年卒業）
		二部	・二ケ年制、商業五〇名、家政五〇名（小学校高等科卒業）
昭一九・四・一	専攻科	分析科	
		製図科	
		経営実務科	・一ケ年修了、各学科三〇名（女学校卒業）
昭二〇	専攻科		・一ケ年修了、五〇名（女学校卒業）
昭二〇	本科		・四ケ年制度、四〇〇名（小学校六年卒業）
昭二三・三・三一	普通 商業		・新制高等学校
昭二三・三・三一	別科	理髪科	・一ケ年制度、五〇名（高等小学校卒業）
昭二五・三・三一	普通 商業		・横浜商業高等学校より再度独立

四、位置（校地）の変遷

昭三・三・三一	横浜市中区山下町二三一番地	一、一一〇坪
昭二〇・九	横浜市南区共進町一ノ七番地	共進中学校へ戦災のため移転
昭二二・九	横浜市中区山下町二四一番地	一、八五〇坪、旧横浜国民学校校舎（現在の港中学校）へ移転
昭二三・九	横浜市中区山下町二三一番地	旧校舎へ接収解除により移転

総坪数　二、二七九坪

五、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭三・三・三一	新築	鉄筋三階建	四二三	・教室三四 ・特別教室七、洋裁室、作法室、工作室、割烹室等に充てた。
昭五・四	新築	木造二階建	六五	
昭二〇・五	罹災			・戦災により木造校舎及び本校舎一部を焼失
昭二〇・九	借用			・共進中学校々舎を借用
昭二二・九	転用			・旧横浜国民学校（現在港中学校）を転用
昭二三・九	移転			・旧校舎接収解除により移転復帰

総坪数　九七五坪（教室二四、その他一三）

六、分校・分教場の設置状況

昭二三・三・三一　港高等学校別科を南区共進町一の七（共進中学校内）に設置、教室三、生徒理容科五〇、美容科五〇

昭二四・四・一　港高等学校別科は港高校が横浜商業高校に統合したので、横浜商業高校別科となる。

七、併設状況

昭一九・四・一　横浜市立第二女子商業学校（夜間）を併設

昭二三・四・一　新制高等学校発足のため第一女子商業学校と共に港高等学校となる。

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	中川　直亮	昭　三・五・二	昭一一・三・	横浜市教育課長より就任、退転
二	金子　馨	昭一一・三・	昭一七・三・三一	元街小学校長より就任、県立横須賀中学校長へ転任
三	宮田直次郎	昭一七・三・三一	昭二〇・五・	横浜市教育部教学課長より就任、県立第三中学校長へ転任
四	森　要之助	昭二〇・五・二三	昭二四・三・三一	横浜市講師兼視学より就任、市立商業高校へ転任
五	黒沢　信吾	昭二五・四・一		横浜商業高等学校教諭より就任

九、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数	入学者	卒業者
昭　三	一六	一三四	一三四	七六
昭二一	二七	五四七	一七九	—
昭二五	三四	八九〇	二九〇	一〇九
昭三〇	三六	九五〇	三〇〇	二二一

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
港高等学校PTA	昭二三・四	会員九一七名

横浜市立南（みなみ）高等学校（通常課程）

横浜市中区山下町二三一番地
電話港(8)六九二五番

一、設置状況

1　創立　昭和二九年五月一日

2　開校　昭和二九年五月一日

3　設置の際の概況

昭和二八年四月一日、横浜市立横浜商業高等学校普通科一年生三一八名は校舎狭隘のため、横浜市中区羽衣町三の八四横浜市立吉田中学校内の分校に移り、横浜市立横浜商業高等学校吉田分校として発足した。しかし昭和二九年度に至り実業教育拡張のため横浜市立横浜商業高等学校普通科は廃止され、新たに普通科の高等学校が設置されることになり、こゝに横浜市立南高等学校の創立をみることになつた。

二、校名の変遷

昭二九・四・一　横浜市立港高等学校普通科
昭二九・四・三〇　横浜市立港高等学校普通科廃止
昭二九・五・一　横浜市立南高等学校と改称　（区民の要請による）

三、課程並びに学科名の変遷

年月日	課程名	学科名
昭二九・五・一	普通	

・定員昭和二九年度一年三〇〇名、昭和三〇年度一年三〇〇名、二年三〇〇名、昭和三一年度一年三五〇名、二年三〇〇名、三年三〇〇名

四、位置（校地）の変遷

昭二九・四・一　横浜市中区羽衣町三の八四　吉田中学校内
昭二九・五・一　横浜市中区山下町二三一　二、二七九坪　市立港高等学校校地

五、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
昭二九・四・一	借用			・吉田中学校一部を借用
昭二九・五・一	借用	鉄筋三階建	一、一四一	・教室一二、市立港高等学校校舎を借用

総坪数　二、二七九坪（教室二四、その他一三）

六・分校・分教場の設置廃止状況

昭二九・四・一　港高等学校吉田分教室を中区羽衣町三の八四を吉田中学校内に設置、校舎坪数一一四一坪、教室六、生徒三一八、昭和二九年四月三〇日廃止

七、学区及びその変遷

昭二九・五・一　南区日枝町、南吉田町、山王町、吉野町、新川町、高砂町、睦町、東蒔田町、共進町、二葉町、庚台、三春台、前田町、西仲町、伏見町、白金町、清水ヶ丘一—五〇、南太田町、井土ヶ谷下町、井土ヶ谷中町、宮元町、堀の内、榎町、蒔田町、花ノ木町、宿町、大橋町、中島町、通町、弘明寺町、若宮町、大岡町、日野町、笹下町、上永谷町、野庭町、大久保町、上大岡町、最戸町、別所、中里町、高根町三丁目・四丁目、白根町三—五丁目、浦舟町三—五丁目

八、歴代校長

代	氏名	就任年月日	
一	黒沢　信吾	昭二九・五・一	港高等学校長兼任

九、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者	卒業者
昭二九	一四	三一八（六）	三一八	
昭三〇	二八	六二三（一二）	三〇九	

一〇、学校協力団体

団体名	発足年月日	
南高等学校父母と教員の会	昭二九・五・一	会員九五〇名
南高等学校建設後援会	昭二九・一〇・一	会員五、〇〇〇名
南高等学校体育振興会	昭三〇・七・一	会員九五〇名

横浜市立盲（もう）学校

横浜市神奈川区西寺尾町芋久保一三〇番地
電話神奈川(4)一六二〇番

一、設置状況

1　創立　明治二一年五月
2　開校　明治二二年
3　設置の際の概況

眼科医浅水十明氏は当時の盲人の悲惨な状態を見聞し、これを教育によつて救済しようと、盲人数十名を中区真砂町の仮校舎に集め鍼治揉按医術講習学校を開いた。明治二二年七月二五日県より設立認可され校舎を宮川町に新築した。

二、校名の変遷

明二一・九　鍼治揉按（しんじじゅうあん）医術講習学校

眼科医浅水十明自宅に盲人を集め和洋医学を教えていたが、これを学校組織とし前記の校名とつけ明治二二年七月二五日県より認可された。

明四〇・四	横浜盲人学校	校名改称
大　五・四	財団法人横浜盲人学校	学校組織を財団法人改変による校名改称
昭二五・四・一	横浜市立盲人学校	財団法人横浜盲人学校の一切を市に移管したので校名改称

三、位置（校地）の変遷

明二二・九	横浜市真砂町三丁目	山本勇信氏の私宅を借用し仮校舎とした。
明二三・七	横浜市宮川町二七番地に移転	
明二五・一一	横浜市野毛町二の六〇番地に移転	
明二九・七	横浜市住吉町四の七二番地に移転	
明三二・一一・三	横浜市羽衣町一の五番地に移転	
明三五・	横浜市浪花町（地番不明）に移転	
明四五・一〇	横浜市南吉田町（日本橋通り）に移転、借地	
大一三・七	横浜市西根岸上町一八番地	二九三坪を購入し新校舎を建て移転
昭二七・七・五	横浜市神奈川区西寺尾町芋久保一三〇番地	一、三二四坪を購入、新築移転
昭二八・六・一六	横浜市神奈川区西寺尾町一三〇番地	六四八坪を拡張
昭二八・一〇・一六	横浜市神奈川区西寺尾町一三〇番地	八〇〇坪を拡張

総坪数　二、七七二坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
明二三・七・二二	新築	木造平屋建		・詳細不明、開校以来、明治三九年までに七回移転しているが（校地変遷の項参照）校舎の詳細についてはいずれも不明
明四五・一〇	新築	木造二階建	七〇	
大一二・九・一	罹災			・関東大震災のため校舎全焼、同地に仮校舎を建て教育を続けた
大一三・一二・	新築	木造二階建	一五二	・校地移転（含寄宿舎四四坪）
昭二七・一〇・	新築	木造平屋建	一八三	・校地移転、教室九、その他七
昭二八・二・	増築	木造平屋建	九三	・教室五
昭二九・六・	増築	木造平屋建	一〇一	・教室六、その他三

総坪数　三七六坪（教室二〇、その他九）

五、分校・分教場の設置廃止状況

明二六・五・　鍼治揉按医術講習学校横須賀分校を横須賀市旭町一〇番地に設置、生徒総数一六、大正二年六月独立、私立横須賀盲学校となり、ついで大正十四年七月横須賀市に移管市立盲学校となつたが昭和一九年五月戦争のため授業停止の命あり（文部省より）同年一一月廃校となつた。

六、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	浅水十明	明二二・七・	大六・二・	退職
二	三橋菱之助	大六・二・	昭九・四・	退職
三	小島金次郎	昭九・四・	昭二五・三・	退職
四	靏見明音	昭二五・四・一		東京教育大学附属盲学校教官より就任

七、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）		入学者	卒業者
明四五	五	三五		不詳	
大一三	七	六〇（五）		不詳	
昭二五	一三	七八（一〇）	小学部 中等部 高等部	一八 一〇 二四	三 七 四
昭三〇	二七	一四三（一六）		一一 一三 三八	九 一 一

八、学校協力団体

団体名	発足年月日	
横浜市立盲学校信光会	昭二五・九・一五	会員一四一名

九、その他の施設

設置年月日	施設名	坪数	摘要
昭三一・八・三一	給食調理室	五	
昭三〇・六	図書室	五	蔵書数一、三二四冊

横浜市立聾（ろう）学校

横浜市南区南太田町二丁目一二四番地
電話長者町 (3) 七〇三三番

一、設置状況

1 創立　大正一五年三月一五日
2 開校　大正一五年四月　一日
3 設置の際の概況

山崎善次郎、浅野寺三郎、久保田馬太郎、袴田果義氏等の篤志家が相図つて私立横浜聾話学院を創立し、市社会課の補助を受けて三五名の聾児を収容し、教員三名で当時西戸部町小松原の横浜市第五隣保館内において授業を開始した。

二、校名の変遷

大一五・三・一五	私立横浜聾話学院	創立者の要請により前記の校名をつける。
昭二・四・一	本町尋常高等小学校特別学級	横浜市教育課がこれを継承して経営することになつた。
昭二・一二	本町尋常高等小学校聾部	
昭八・三・三一	横浜市立聾話学校	独立し盲学校及び聾唖学校令に基き設立
昭二四・四・一	横浜市立聾学校	

三、位置（校地）の変遷

大一五・三・一五	横浜市西戸部町小松原	横浜市第一隣保館内
昭二・一二	横浜市中区花咲町五	本町尋常高等小学校内に移転
昭九・一〇・一九	横浜市中区宮川町二ノ五九	二七〇坪　旧横浜女子商業学校校舎に移転
昭一九・五	横浜市中区宮川町二ノ五九	八三坪を拡張
昭二一・五・一	横浜市磯子区間坂一六六三	浜国民学校校舎の一部借用
昭二四・六・九	横浜市南区井土ヶ谷下町一一〇	二、六四二坪　旧横浜市立経済専門学校校舎に移転
昭三〇・一一	横浜市保土ヶ谷区常盤台一四四	四、五四五坪　本校新校地
昭三一・四	横浜市南区南太田町二ノ一二四	町名地番改正により変更

総坪数　七、一八七坪

四、校舎の変遷

年月日	変遷類別	構造	建坪	備考
大一五・四・一	借用	木造平屋建		・大室貞太郎氏宅を市第五隣保館が使用、その一部を借用
昭二・一二	新築	木造		
昭九・一〇	転用	木造二階建	三一〇	・旧横浜女子商業学校校舎に移転
昭二一・一・一五	借用	木造平屋建		・教室四、滝頭国民学校分教場に移る
昭二一・四	借用	木造二階建		・教室四、浜国民学校校舎の一部を使用
昭二四・六・九	転用	木造二階建	六三五	・教室二三、旧横浜経済専門学校校舎に移転
昭二五・一一・二五	増築	木造二階建	一〇二	・教室三、一棟増築、一部寄宿舎に転用
昭三一・四	新築	木造二階建	二〇四	・保土ヶ谷区常盤台新校地に第一期工事完了、小学部低学年移転

附載資料

総坪数　九四一坪（教室三二、その他三二）

五、歴代校長

代	氏名	就任年月日	転・退職年月日	
一	秋山兵三郎	昭　八・　三・二一	昭一〇・　三・三一	本町尋常高等小学校長、本校校長を兼任
二	横田重次郎	昭一〇・　四・一三	昭一九・一二・一一	本校教諭より就任、死亡退職
三	森　義章	昭二〇・　三・三一		奈良県王子女学校教諭より就任

六、生徒・教職員数

年度	教職員数	生徒総数（学級数）	入学者 小	入学者 中	入学者 高	卒業者 小	卒業者 中	卒業者 高
大一五	五	三五（三）	三五					
昭二	五	五一（四）	二〇					
昭五	一一	七〇（八）	二〇					
昭一〇	一〇	九五（七）	一二			一三		
昭一五	一三	九〇（一〇）	二五	六		一七		
		昭和一五年九月二四日、職業補導部新設二ケ年						
昭一八	一七	一〇七（一一）	二〇	一四		一九	八	
昭二〇	一一	六四（七）	八	六		九	一二	
昭二三	一一	六六（六）	九	二		一〇	五	
		学制改革により補導部が中学部と改められる。						
昭二五	二五	一五二（一七）	三三	二四	九	七		
		昭和二四年四月一日、高等部新設により小・中・高の三部が設置される。						
昭三〇	三三	一九七（二三）	二四	二三	五	二三	一四	二

七、学校協力団体

団体名	発足年月日	
横浜市立聾学校ＰＴＡ	昭二二・　四	会員二〇六名

教育附属機関

横浜市図書館

横浜市西区老松町一番地
電話長者町(3)一三〇四番

本館の創立は大正一〇年六月五日図書館令により設立認可を受け、横浜公園内に仮閲覧所を創設した。大正一二年九月一日の大震災により全館焼失し中村町石油倉庫跡にバラック建の仮閲覧所を設けた。

昭和二年七月二三日老松町一番地に鉄筋コンクリート造本館三階建、書庫四階建、延五九九・九坪を新築、同年八月一五日より閲覧を開始した。昭和一四年四月一日都岡・田奈・瀬谷の三閲覧所を開始した。

昭和二〇年三月三一日横浜聯隊区司令部に転用されたので本館業務は戸部小学校へ移転し、更に同年九月一五日横浜市教育会館へ移転した。昭和二二年八月二七日にいたり、復帰した。しかし一・二階は市建設局で使用、三階のみ図書館業務に使用し、九月一日より閲覧を開始した。

昭和二五年一〇月一三日横浜市図書館設置条例が制定され、同月一八日市建設局は反町新庁舎へ移転したので、本館を全館使用することになつた。

歴代館長は初代、伊東平蔵（自大一〇・六・五、至大一五・一二・二三）二代、早川友三（自大一五・一二・二三、至昭九・三・二〇）三代、鈴木保太郎（自昭九・三・二〇、至昭一四・三・二）四代、鵜沢忠（自昭一四・一二・一二、至昭二〇・一一・一一）五代、岡本孝正（自昭二〇・一一・一二、至二九・九・七）六代、草野徳義（自昭二九・九・八、至三〇・八・九）七代、島津為三（自三〇・八・一〇、至現在）

現在職員は館長以下二六名（内司書一四名、司書補二名）図書冊数一〇三、八〇二冊、閲覧者は年間約二〇万人で一日平均六五〇人に利用されている。このほか視聴覚教育、広報活動などの文化事業を行い、又文化的集会にも施設を一般に開放している。

横浜市教育研究所

横浜市神奈川区幸ケ谷一六番地
電話神奈川(4)六九一六番

本市教育の進歩と向上のため教職員の指導力を充実し、現場の研究教育活動を活発にし、又研修機関として機能を発揮する目的をもつて本市教育委員会は昭和二二年一〇月二七日、横浜市南区中村町一ノ六六石川小学校内に横浜市立教育研究所として開設し、初

代所長には杉山彦一郎氏就任した。昭和二五年九月石川小学校児童の増加により、神奈川区幸ヶ谷一六幸ヶ谷小学校内に移転した。昭和三一年一月一日杉山所長の退職により、現所長井上庄平氏就任、昭和三一年教育委員会法の改正に基き一〇月四日横浜市教育研究所条例が定められ、横浜市教育研究所として設置、及び組織が確立された。現在所員は所長以下八名、各年度に研究課題を設け、その結果を内外に報告し、教育の向上に、教員の研修に努めている。

横浜市婦人会館

横浜市西区宮崎町二番地
電話長者町(3)一五〇六番

本館は昭和二年五月五日横浜市の多数婦人の協同により創設され、横浜市連合婦人会館と称し、市内婦人団体の総合的運動の場として開館した。（二階建、延坪二三三坪、会議室・研究等一三室）その後婦人団体の一本化のため連合婦人会は発展的解消を遂げ大日本婦人会へ統合となり、婦人会館は横浜市に寄附されることになり、昭和一七年二月二五日市会に於て受納された。

市に移管後も各種の婦人の事業に利用されていたが、戦争の激化により部隊が駐屯し、又終戦後も駐留軍要員宿舎とされた。

昭和二六年九月漸く返還され、翌二七年四月一日より市民局主管で再び横浜市婦人会館として開館した。同年一〇月一日市機構改革により横浜市教育委員会の所管となり、館長山本義胤氏就任、（昭三一・八・三一退職）現在館長は社会教育課長の兼任で、職員は五名である。本館は市民生活の向上と文化の普及を目的として各種の行事、講習会、展示会、各種婦人の集会、結婚式等に年間約一、七七〇回七万六千人の多くの市民に利用されている。又家庭生活の向上のため一般婦人を対象として市民研修室を開催、料理、洋裁、編物等を昼夜に分けて行つている。

横浜市中央教材園

横浜市南区中村町一丁目六六番地

石川小学校わきの山谷埋立地を昭和二年七月より整地開墾し、昭和四年四月二七日、石川小学校の校舎落成式と同時に開園式を行い、一、二五〇坪の教材園を開園した。当時は植物教材の配付、温室による観察等に機能を発揮していたが、昭和一九年八月以後は戦争がはげしくなつたので、農業指導所（経済局所管）になり、温室等もとり払われて、食糧増産園となつた。

昭和二六年六月に至り再開されることになり、運営委員会も組織され温室も再建され、花壇、薬草園、蜜蜂園等も年を追つて充実を重ねて観察用、研究用、又は教材の配付に活動している。

また中央教材園の活動を地域的に助けるため、大鳥小、鶴ヶ峯中、本郷中、金沢中、杉田小、潮田中、六角橋中、富士見台小、市立商業高、谷本中、谷本小に分園が置かれている。

連合協力園として間門小、根岸中、浜小、杉田小、文庫小、市沢小、新治小がある。

学校厚生寮

青少年の善導については学校教育、社会教育を問わず道徳教育の必要が痛感され、児童・生徒・教師一体の人間的接触を図る二四時間の全日教育を実施して生活指導を行うため、本市教育委員会は次の様な五施設を設置した。

夏季を利用して児童、生徒の宿泊全日教育を中心として運営され、年間を通じて児童、生徒の宿泊全日教育、地域青少年団体の宿泊、その他研修会、子供会、生徒会等の各種行事集会、県外の学生、教員等の宿泊にも利用されている。

名称	設置年月日	坪数
梅田寮（市場中学校内）	二七・三・一五	（二八・五坪）
双葉寮（石川小学校内）	二六・四・一	（二七坪）
潤心寮（都田中学校内）	二五・一・六	（二〇坪）
洗心寮（磯子小学校内）	二五・四・一	（七五坪）
清和寮（川島小学校内）	二六・四・一	（三〇坪）

歴代教育委員一覧

氏名	選出別	就任年月日	退任年月日
高田三郎	公選	二三、一一、一	二七、一〇、四
佐藤栄七	公選	二三、一一、一	三一、九、三〇
吉本道観	公選	二三、一一、一	三一、九、三〇
林知義	公選	二三、一一、一	三一、九、三〇
飛島田喜一	市会	二三、一一、一	二四、五、二六
田上松衛	市会	二四、六、二五	二五、七、四
山本新三郎	市会	二五、七、四	二六、五、二一
梶木泰一	市会	二六、五、二一	二八、五、二七
足立直寿	公選	二七、一〇、五	三一、九、三〇
石橋志う	市会	二八、五、二八	二九、六、五
小杉芳蔵	市会	二九、六、五	三〇、四、二九
牛頭伊之松	市会	三〇、五、二八	三一、九、三〇
堀江勝巳	任命	三一、一〇、一	
長谷川雷助	任命	三一、一〇、一	
渡辺富三郎	任命	三一、一〇、一	
飯田九一	任命	三一、一〇、一	
茂手木知貞	任命	三一、一〇、一	

横浜市教育行政機構の変遷

年度	局部名及び局部長名	課名	課長名	係名	備考
明三五年		教育課	林観吾		一一月七日新設により就任
明四一年		〃	筧保	学務、学籍、経理	六月七日就任
明四二年		〃	三宅成城	〃	四月一日就任
大五年		〃	平野象一	〃	六月二三日就任
大七年		〃	矢作徳三郎	〃	三月二九日就任
大八年		〃	児崎為槌	〃	一一月二七日就任
大一一年		〃	中川直亮	〃	五月一九日就任
昭四年		〃	水島藤吉		五月二二日就任
昭九年		〃	纐纈準		一二月就任
昭一一年		（教育課	（纐纈準	学務、視学	九月一五日現在
		（社会教育課	（和田正雄		
昭一四年	教育部 纐纈準（四・一就任）	庶務課	星野秀雄		四月一日機構改革
		学務課	川口武男	職員、視学	
		社会教育課	鈴木文夫	社会教育、青年学校	
昭一五年	教育部 纐纈準	教学課	川口武男		五月現在
		学務課	鈴木文夫		
		体育課	坂元清剛		
		社会教育課	濃沼政夫		
昭一六年	教育部 伊藤爽哉	学務課	小田切忠之助		五月現在

年度	局部名及び局部長名	課名	課長名	係名	備考
		教育課	宮田直次郎		
		社会教育課	濃沼政夫		
		体育課	川口武男		
昭一六年	教育部 和田正雄	学務課	小田切忠之助	庶務、用地、職員	十月現在
		教学課	宮田直次郎		
		社会教育課	横江勝美	社会教育、青年教育	
		体育課	今島益造	学校体育、市民体育	
昭一七年	教育部 和田正雄	学務課	小田切忠之助	庶務、職員、用地	五月現在
		教学課	宮田直次郎		
		青年教育課	横江勝美		
		体育課	今島益造		
昭一八年	教育部 和田正雄	教学課	早川徳次	学務、職員、施設、指導	一月現在 尚一九年度より係制がなくなつた。
		青年教育課	横江勝美		
		体育課	今島益造	学校体育、市民体育	
昭二〇年	教育部 和田正雄	庶務課	芹沢勇		二月二〇日機構改革
		教学課	早川徳次		
		錬成課	今島益造		
昭二〇年	学事厚生部 和田正雄	庶務課	武藤孝		六月機構改革
		教学課	早川徳次		
		健民課	竹内守之輔		
		清掃課	鈴木敏樹		
昭二〇年	学事厚生部 和田正雄	社会教育課	武藤孝		十月二十二日機構改革
		教学課	芹沢勇		
		健民課	竹内守之輔		
		清掃課	鈴木敏樹		
昭二一年	文教部 和田正雄	教学課	芹沢勇		一月一〇日機構改革
		社会教育課	海老沢廉		
		生活課	吉田仁吉		
昭二一年	文教部 和田正雄	庶務課	金井徳治		五月三十一日機構改革
		学務課	芹沢勇		
		社会教育課	海老沢廉		
昭二一年	文教部 横江勝美 （七・一一就任）	庶務課	板橋英二		七月一一日機構改革
		学務課	芹沢勇		
		社会教育課	海老沢廉		
昭二一年	文教部 海老沢廉 （一一・一六就任）	庶務課	板橋英二		十一月一六日異動
		学務課	芹沢勇		
		社会教育課	部長事務取扱		二二年二月星野秀雄、社会教育課長に就任、五月二一日玉岡三男同課長に就任
昭二二年	教育局 彦由亀一 （五・二一就任）	庶務課	板橋英二		八月二日機構改革
		初等教育課	北川若松		
		高等教育課	芹沢勇		
		社会教育課	玉岡三男		

年度	局部名及び局部長名	課名	課長名	係名	備考
昭二三年	教育委員会 事務局 教育長 彦由 亀一	庶務課	山本 義胤	庶務係、給与係	十一月一日発足
		調査課	遠藤 要	審議、調査統計	
		学務課	北川 若松	小学校、中学校、高等学校養護教育	
		施設課	板橋 英二	企画係、管理係、用地係	
		社会教育課	玉岡 三男	情報、成人、婦人、少年	
昭二四年	教育長 彦由 亀一 総務部長 板橋 英二 教育部長 北川 若松	秘書室	設部 正		七月二〇日機構改革 二五年五月一〇日、施設課長、鈴木春吉、第一教育課長板倉外雄就任
		調査課	遠藤 要	庶務、審議、調査統計	
		職員課	柏木 和夫	第一人事、第二人事、給与	
		施設課	板橋部長兼任	建設、管理	
		第一教育課	北川部長兼任		
		第二教育課	高村 利義		
		保健厚生課	山本 義胤	保健、厚生	
		社会教育課	玉岡 三男	情報、成人、婦人少年	
昭二六年	教育長 彦由 亀一 総務部長 浅井 勝美 教育部長 北川 若松	庶務課	塩田 光雄	秘書、経理	一〇月八日機構改革
		職員課	柏木 和夫	人事、厚生、給与	
		施設課	鈴木 春吉	建設、管理	
		調査課	遠藤 要	審議、調査統計	
		学校教育課	高村 利義		
		社会教育課	玉岡 三男	成人教育、青少年教育、情報	
		健康教育課	山本 義胤	保健、給食	
昭二七年	教育長 横江 勝美 教育次長 浅井 勝彦	調査指導室	北川 若松	調査統計係	十月一日機構改革
		庶務課	塩田 光雄	秘書、経理	
昭二九年	教育長 板橋 英二（10・三就任）	職員課	柏木 和夫	第一人事、第二人事、給与	一月一日機構改革 二月健康教育課にスポーツ係新設、四月、社会教育課文化係を企画調査係に改めた
		施設課	鈴木 春吉	建設、用地、保繕	
		学務課	高村 利義	学事、給食	
		社会教育課	遠藤 要	成人教育、青少年教育、文化管理、調査企画、健民、	
		健康教育課	青木 近衛	学校保健体育	
		指導室	北川 若松	事務	
		学事調査課	高村 利義	調査統計、学事、給食	
昭三〇年	教育長 板橋 英二 教育次長 福原 富宮 〃 北川 若松（三一・七退職）	指導室	北川次長兼務		八月異動
		庶務課	鈴木 春吉		
		職員課	板倉 外雄		
		施設課	伊東 武雄		
		学事調査課	高村 利義		
		社会教育課	遠藤 要		
		健康教育課	柏木 和夫		
昭三一年		健康教育課	朝倉 政之		九月一日異動、他課は変らず
昭三二年	教育長 大砂 吉雄（一〇・七就任）	指導室長	福原次長兼任		十月異動 他課変らず 健康教育課の係を学校体育学校保健、健民社会体育に変更
		庶務課長	伊東 武雄		
		施設課長	岡本 角太郎		

児童生徒数教職員数年度別表

（小学校）

年次	公立								私立							
	学校数	学級数	児童数			教員数			学校数	学級数	児童数			教員数		
			総数	男	女	総数	男	女			総数	男	女	総数	男	女
明治22年	14	…	3,235	1,943	1,292	161	…	…	38	…	3,673	1,979	1,694	86	…	…
23年	14	…	3,301	1,981	1,320	153	…	…	41	…	3,394	1,750	1,644	87	…	…
24年	7	…	3,644	2,146	1,498	87	…	…	31	…	3,912	2,161	1,751	56	…	…
25年	7	…	4,094	2,390	1,704	82	…	…	33	…	4,212	2,292	1,920	69	…	…
26年	7	…	4,514	2,686	1,828	94	…	…	32	…	3,451	1,824	1,627	63	…	…
27年	7	…	5,183	2,970	2,213	109	…	…	30	…	3,695	1,936	1,759	60	…	…
28年	7	90	5,471	3,285	2,186	107	93	14	30	54	2,678	1,334	1,344	56	53	3
29年	7	113	9,446	5,161	4,265	136	108	28	27	55	840	451	389	52	42	10
30年	7	138	10,625	5,988	4,637	145	118	27	22	47	832	443	389	47	38	5
31年	7	148	11,409	5,917	5,492	155	122	33	20	47	864	462	402	38	34	4
32年	7	160	12,791	6,979	5,812	163	123	40	14	33	854	451	403	30	25	5
33年	7	212	13,638	7,357	6,281	173	133	40	13	30	770	417	353	31	27	4
34年	12	248	14,309	7,766	6,543	334	250	84	13	30	1,915	1,001	914	42	33	9
35年	12	288	16,352	8,764	7,588	344	257	87	12	37	2,342	1,180	1,162	37	32	5
36年	14	276	16,445	8,781	7,664	338	248	90	13	45	2,573	1,290	1,283	46	37	9
37年	14	286	16,845	8,950	7,895	302	221	81	13	45	2,758	1,380	1,378	46	31	15
38年	18	311	19,966	10,755	9,211	342	239	103	6	21	1,214	587	627	19	14	5
39年	19	346	21,868	11,774	10,094	390	267	123	5	17	1,029	515	514	18	13	5
40年	19	385	23,685	12,681	11,004	413	279	134	5	17	931	463	468	14	10	4
41年	19	441	25,023	13,249	11,774	468	301	166	5	14	856	428	428	14	11	3
42年	21	472	26,993	14,246	12,747	505	313	192	5	13	764	391	373	13	10	3
43年	21	496	27,711	14,622	13,089	528	236	192	4	12	686	357	329	13	9	4
44年	30	551	29,780	15,756	14,024	646	424	222	4	13	668	347	321	12	8	4
大正元年	30	579	31,003	16,375	14,628	686	452	234	4	13	701	359	342	13	8	5
2年	30	596	31,750	16,963	14,783	695	440	255	4	12	635	333	302	12	9	3
3年	30	621	33,315	17,665	15,650	717	456	261	4	11	629	327	302	13	9	4
4年	30	630	34,725	18,426	16,299	730	453	277	4	12	648	350	298	13	9	4
5年	30	648	36,729	19,482	17,247	714	434	280	4	12	644	363	281	13	7	6
6年	30	661	39,949	21,147	18,802	749	444	305	5	13	662	373	289	14	11	3
7年	30	681	42,471	22,547	19,924	762	462	300	5	15	766	398	368	14	10	4
8年	31	710	44,703	23,717	20,926	803	477	326	5	14	756	380	376	13	10	3
9年	32	759	47,960	25,385	22,575	854	510	344	5	16	749	360	389	14	9	5
10年	36	827	52,944	27,818	25,126	949	597	352	…	…	…	…	…	…	…	…
11年	36	863	52,434	27,367	25,067	968	609	359	…	15	625	288	337	18	13	5
12年	36	706	47,002	24,434	22,568	839	542	297	…	18	627	298	329	18	9	9
13年	36	773	48,246	24,999	23,247	845	530	315	3	72	395	185	210	17	9	8
14年	36	836	49,507	25,705	23,802	879	561	318	4	14	436	247	189	20	12	8
昭和元年	36	886	51,292	26,624	24,668	942	597	345	4	12	391	227	164	18	11	7
2年	56	1,239	71,542	37,136	34,406	1,362	898	464	4	14	462	242	220	20	13	7
3年	58	1,295	75,699	39,217	36,482	1,386	931	455	4	13	454	224	230	16	9	7

（小学校のつづき）

年次	公立								私立							
	学校数	学級数	児童数			教員数			学校数	学級数	児童数			教員数		
			総数	男	女	総数	男	女			総数	男	女	総数	男	女
昭和 4年	63	1,350	78,127	40,440	37,687	1,493	1,026	467	4	12	411	244	167	19	10	9
5年	65	1,380	81,651	42,038	39,613	1,524	1,065	464	3	12	423	247	176	18	9	9
6年	65	1,431	85,313	44,034	41,279	1,545	1,081	464	3	12	417	235	182	19	10	9
7年	65	1,511	89,811	46,232	43,579	1,611	1,112	489	3	12	440	255	185	16	8	8
8年	66	1,559	93,213	47,925	45,288	1,657	1,334	523	3	12	409	228	181	22	11	11
9年	67	1,609	9,675	49,674	46,801	1,719	1,180	539	3	12	396	212	184	21	9	12
10年	68	1,663	110,403	51,784	48,619	1,774	1,208	566	2	7	186	121	65	15	7	8
11年	73	1,791	101,644	54,851	51,793	1,910	1,290	620	2	7	188	123	65	16	7	9
12年	76	1,855	111,786	57,446	54,340	2,027	1,351	676	2	7	196	116	80	9	3	6
13年	76	1,922	115,782	59,453	56,329	2,106	1,389	727	2	7	205	115	90	8	2	6
14年	97	2,303	136,172	70,109	66,063	2,517	1,579	938	1	6	183	86	97	39	…	…
15年	97	2,378	137,174	70,770	66,404	2,714	1,643	1,071	1	6	187	87	100	40	…	…
16年	98	2,422	141,223	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
17年	99	2,441	142,948	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
18年	99	2,385	139,335	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
19年	99	2,412	135,936	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
20年	83	496	15,599	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
21年	83	1,577	83,848	42 510	41,338	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
22年	82	1,716	93,533	47,439	46,094	1,779	745	1,034	3	13	386	45	341	23	8	15
23年	84	1,911	99,793	50,765	49,028	2,164	929	1,235	3	13	477	87	390	26	7	19
24年	86	2,089	107,660	54,586	53,074	2,387	1,048	1,339	3	15	632	100	532	33	9	24
25年	92	2,338	115,399	58,695	56,704	2,702	1,184	1,518	5	23	886	195	691	58	22	36
26年	95	2,485	122,298	62,206	60,092	2,709	1,209	1,500	5	31	1,106	254	852	64	17	47
27年	(24) 104	2,522	122,495	62,282	60,213	2,774	1,248	1,526	6	37	1,305	327	978	83	27	56
28年	(23) 108	2,522	125,479	63,893	61,586	2,924	1,329	1,595	8	46	1,624	479	1,145	91	30	61
29年	(28) 108	2,712	135,124	69,124	66,000	3,114	1,469	1,645	9	53	1,945	633	1,312	96	33	63
30年	(26) 112	2,945	141,463	72,227	69,236	3,318	1,589	1,729	9	60	2,218	737	1,481	111	39	72
31年	(20) 119	2,964	146,693	75,098	71,595	3,460	1,612	1,848	9	65	2,389	820	1,569	115	41	74
32年	(22) 120	3,091	152,704	78,390	74,314	3,544	1,647	1,897	11	72	2,611	907	1,704	135	44	91

明治22年～42年は12月末現在数による

明治43年～昭和18年は年度末現在数による

昭和19年～21年は４月末現在数による

昭和22年以後は５月１日現在数による

学校数（　）は分校数

（中 学 校）

年次	公立							
	学校数	学級数	児童数			教員数		
			総数	男	女	総数	男	女
昭和22年	43	389	18,850	10,455	8,395	718	599	119
23年	44	601	29,157	16,102	13,055	953	742	211
24年	48	765	37,509	20,509	17,000	1,151	873	278
25年	48	838	39,618	21,584	18,034	1,298	902	396
26年	47	836	39,665	21,696	17,969	1,229	910	319
27年	48	880	42,289	22,825	19,464	1,246	927	319
28年	48	953	45,882	24,755	21,127	1,367	1,018	349
29年	(1) 49	1,117	52,610	28,267	24,343	1,553	1,133	420
30年	(1) 49	1,210	56,038	30,075	25,963	1,679	1,213	466
31年	(2) 49	1,281	59,678	31,898	27,780	1,769	1,264	505
32年	(5) 49	1,232	57,569	30,777	26,792	1,727	1,235	492

年次	私立							
	学校数	学級数	児童数			教員数		
			総数	男	女	総数	男	女
昭和22年	…	…	…	…	…	…	…	…
23年	1	2	112	…	112	16	7	9
24年	26	206	13,704	3,929	9,775	603	372	231
25年	26	219	11,302	3,859	7,443	710	438	272
26年	26	208	10,675	3,719	6,956	675	403	272
27年	27	193	9,923	3,297	6,626	761	487	274
28年	27	215	11,020	4,007	7,013	706	439	267
29年	27	224	11,784	4,170	7,614	733	443	290
30年	27	227	11,802	4,217	7,585	725	420	305
31年	27	223	11,726	4,205	7,521	761	438	323
32年	27	219	11,493	4,110	7,383	754	418	336

各年度5月1日現在数による。　　学校数（　）は分校数

横浜市教育費累年比較表

各年度決算額による

年次	横浜市一般会計総額	教育費	比率	年次	横浜市一般会計総額	教育費	比率
明22	…	…	…	13	7,357,623	1,272,035	17.28
23	44,473	…	…	14	14,984,272	1,427,221	9.53
24	70,409	…	…	昭元	10,911,599	1,689,044	15.48
25	65,258	…	…	2	19,114,189	2,527,974	13.23
26	72,469	…	…	3	16,139,054	2,728,523	16.91
27	84,605	135	0.16	4	15,841,028	2,537,762	16.02
28	88,598	223	0.25	5	16,671,428	2,601,070	15.60
29	117,765	200	0.17	6	15,182,861	2,246,961	14.80
30	199,278	273	0.14	7	16,540,066	2,244,424	13.57
31	154,547	212	0.14	8	18,799,462	2,335,495	14.42
32	209,010			9	15,245,520	2,811,327	18.44
33	632,486	138	0.02	10	15,234,468	2,941,054	19.31
34	489,387	26,445	5.40	11	15,938,499	3,295,250	20.67
35	828,046	10,294	1.24	12	15,106,091	3,511,373	23.24
36	1,124,332	13,460	1.20	13	17,195,654	4,113,118	23.92
37	714,271	11,319	1.58	14	19,731,155	4,187,321	21.22
38	846,282	61,271	7.24	15	17,536,466	3,500,697	19.96
39	3,735,228	66,871	1.79	16	24,804,839	4,120,445	16.61
40	1,682,590	73,279	4.36	17	26,810,736	4,030,655	15.03
41	1,908,784	215,965	11.31	18	38,811,064	4,379,933	11.29
42	1,865,490	234,764	12.53	19	48,406,745	3,416,021	7.06
43	2,120,363	245,596	11.58	20	55,759,543	3,380,514	6.06
44	2,550,601	282,028	11.07	21	129,025,498	12,938,850	10.03
大元	2,176,050	326,562	15.01	22	465,353,945	56,377,550	12.12
2	2,379,626	340,563	14.31	23	1,901,381,530	266,682,116	14.03
3	2,115,258	351,851	16.63	24	3,134,534,986	400,056,088	12.76
4	1,999,115	360,590	15.31	25	4,441,149,356	613,803,555	13.82
5	2,220,529	358,121	16.13	26	5,725,507,681	718,961,470	12.56
6	2,175,026	420,244	19.32	27	7,391,450,958	852,403,150	11.53
7	3,229,103	516,498	16.00	28	9,391,331,187	910,655,878	9.70
3	5,221,165	803,537	15.39	29	9,305,967,520	1,171,042,335	12.58
9	7,071,269	1,176,706	16.64	30	10,471,418,501	1,190,093,739	11.37
10	11,035,427	1,337,362	12.12	31	10,850,451,538	1,401,867,145	12.92
11	9,726,069	1,413,263	14.53				
12	5,738,887	1,340,539	23.36				

横浜市教育年表

年月日	事項
安政 6・6・2	横浜の港が開港した。
文久 2・7	幕府は横浜在留官吏の子弟のため運上所前の官舎に英学校を設けた。（明治元年廃校）
文久 3・11	ヘボン博士が英語塾開設。
元治 2・7	フランスのアキス・ウートレーが海岸通二丁目にフランス語講習所を建設。（辨天学校）
慶応 元・4	幕府は野毛下（今の横浜税務署のあるところ）に文学所を設け修文館と名づけ、幕府役人の子弟を教育。
慶応 元	聖心教会派の宣教師は洲干町に仏和学校を開き日本人にフランス語の教授をした。生徒数五〇人。
明治 2・5	辨天武術講習所（北仲通）と、英学校及び修文館を合併、皇・漢・洋の三科を設けて教授。（明・3・5・書法・数学の二科を加えた。）
明治 2 9	アメリカから派遣されたメレー・キダによつて英語塾が開設された、これがフェリス女学校の起りである。
明治 4・5	ヘボン博士が自宅内に婦人女子学校を設立、英語、刺繡、編物を教授。
8 28	アメリカ人のプライン・クロスビー・ピヤソンの三女史が山手にミッションホームを設立（共立女学校の前身）
8	郷学校規則が定まつた、これは明治五年学制頒布令までの過渡的教育方針の具体的なあらわれで、校舎、課目、学則、休日などを定めてある。
12 19	高島嘉衛門が市学校（高島学校藍謝堂）を伊勢山下（第一校舎）と入船町（第二仮校舎）に創立。洋学、漢学を教授した時勢の急務に順応した教育であつたので評判がよく一時七〇〇名の生徒を数え、幾多の人材を出した。
明治 5・8・3	学制が頒布された。
明治 6・1	高島嘉衛門が私立の市学校を県へ寄附を申出たので修文館と合併することにし、三井八郎右衛門その他の寄附で相生町六丁目角に西洋造三階建の校舎を建設、横浜市学校（市中共立修文学校）と改称。
2	県では小学校規則を設け就学奨励を命じた。
2	児童就学規則が制定。
3	北仲通に荘行学舎（のち横浜学校と政称）長者町に有心学舎（のちの吉田学校）などが創立。
明治 6・4	野毛の林光寺に啓蒙学舎（のちの老松学校）大聖院に自彊学舎（のちの戸部学校）が創立。
4	県は学区取締を任命して学事振興に関し布達。
12・5	ブラウンが山手の自宅に塾を開いて英語、歴史、数学、物理、神学の教授を始めた。（明治九年頃迄つゞいた）
明治 7・5	神奈川県教員養成所（啓行堂）を本町六丁目に設立、同年九月神奈川県師範学校と改称。
9	フランス人サン・マチルダ女史が山手にダーム・サンモール学校を設立した。
12	野毛の敬業学舎と戸部の自彊学舎が合併。
明治 8・2	県下の各教員養成所を神奈川県師範学校と改称し、横浜を第一号、日野宿を第二号、羽鳥を第三号、浦賀を第四号と定めた。
6・29	学舎を学校と改称した、荘行舎（横浜学校）存心学舎（吉田学校）立志学舎（大田学校）養賢学舎（石川学校）三到学舎（元街学校）等。
明治 9・6	修文館を廃して神奈川県師範学校に改め、野毛に移転。
11	神奈川県二号―四号師範学校を一号師範学校に合併して横浜師範学校と改称し定則を定めた。
12・18	県から通達して小学校の校名の上に公立の二字を加えることゝした。
明治 10	敬業、自彊の両校が合併して老松学校と称した。
明治 11・5	野毛の横浜師範学校内に教育博物所が設置され、縦覧を許した。
12・23	横浜師範学校内に中学校を設けた。
明治 12・3・3	老松小学校が横浜師範附属小学校となつた。
4	神奈川県学務課編纂の「神奈川県小学生心得」が錦港堂から出版された。
5・15	横浜師範学校を神奈川県師範学校と改称。
9・29	政府は学制を廃止し、教育令を制定。
10・1	山手の二二一番の旧聖経女学校の構内に横浜市学校（メッジスト神学校）が開校、またメソジスト天安堂の構内に美会神学校が創設。（青山学院の前身）
明治 13・1	佐藤庄兵衛が野毛町一丁目佐藤学舎を、高須葛女が石川仲町に高須学校を、上野宏三郎が神奈川に光風館をそれぞれ設立。
1・5	政府は学務委員公選令を定め、来る二十日迄に公選すべき旨布達した。
2・23	政府は学事学則を定めた。
5・10	政府は小学校訓導以下の名称、等級を廃し一般に小学校教員と称することにし以後小学校教員の雇入は学事概則第十九条によることを告示した、これにより教員の進退は町村当事者にゆだねらることになつた。
7・27	横浜師範学校内の中学校廃止。
8	県、布達により従来の小学校組合を設置、区域

を学区と称することになり学区番号の称をやめた。

明治13・10・28　アメリカの婦人宣教師ハリエット・ジーブリテンが山手居留地に家塾ブリテンスクールを開いた。（横浜英和女学校の起源）

10　阿部風樹が相生町に相生学校、岸千津が岸根学校、菊池勘右衛門が不老町に菊池学校、渡辺藤助が渡辺学校、白井万策が松庵学校を設けた。

12・28　教育令が改正。

明治14・8・3　本牧本郷に三協学校を創立。

10　小学校教則を制定、公立を町村立と改定。

明治15・2　商業学校創設の目的のため小野光影、茂木惣兵衛、木村利右衛門、馬越恭平、朝田又七、戸塚千太郎、来栖壮兵衛の七名が創立委員となつて教則その他諸規則を定めた

3・20　横浜商法学校が横浜町会所内に開校、校長は美沢進で小野光景ほか創立委員が招へいしたものである。

3・25　横浜商法学校に夜間部が設けられた。

4　守屋光が中村に貧困労働者の子弟を教育する目的で恵華学院を創立。

11・27　北仲通六丁目に横浜商法学校校舎が新築し移転した。当時の学科目は商業、英語、漢書の三科目で修業年限は五ヶ年であつた。（二年―予科、三年―本科）

明治16・1　神奈川県師範学校速成科廃止、七月同校綏養科廃止。

6　女教員と女生徒の風習奇異に流れないよう注意を達した。

9　大日本教育会発足。

明治17・8　山手に聖経女学校を創立。

10・6　宣教師ベンネットが伝道者養成の目的で神学校を自宅に設けた。

明治18・1　三協学校が廃止。

明治19・1・25　政府は小学校教則を改正、各校は一ヶ年を一学期とし、全学期を八ヶ年に改めた。

5・25　小学校の学科及び程度が規定された。（尋常小学校修業年限四年、高等小学校修業年限四年で、尋常の学科は修身、読書、作文、習字、算術、体操）

明治20・10　神奈川県教育会成立。

10・1　アメリカ人ブラウン女史が山手に家塾を開いた。横浜女学校といゝ、今の捜真女学校の前身。

10　県では布達して明治二十年春期試験終了後から従来の町村立学校を公立と改称するよう命じた。

明治21・2　横浜市教育会発足。

2・14　横浜商法学校が横浜商業学校と改称。

3・18　横浜商業の夜間部が類焼。

明治22・4・21　市制が施行された。戸数二二五、八四九、人口一一六、一九三

7　鍼治揉按医術講習学校開校。

明治23・12　神奈川師範学校焼失。

9　小学校令が改正公布。

10・31　教育勅語が発布。

10・31　サンモール修道院の寄附で日本人信者のため教会堂と小学校（明道小学校）を創立。

明治24・9　アメリカ人ドレーパ博士夫人が石川に盲人福音会を創立。（横浜基督教訓盲院の起源）

9　市内公私学校一覧

公立八校　横浜学校、商業学校、老松学校、吉田学校、元街学校、石川学校、寿学校、太田学校

私立三二校　相生、住吉、岸、真砂、三省、渡辺、永井、三好、菊池、警醒、暁星、郁文、山内、明教、長者　里見、桜井、末吉、時習、共成、自牧、愛隣、静修、立正、篠崎、榊、育材専育、千葉、先進、三育、成立

11　小学校教則大綱が頒布。

12　市内の小学区を定め、各区独立経済として区内小学校を維持することになつた。

明治25・3・10　神奈川県尋常師範学校が野毛から鎌倉雪の下に移転。

4・1　改正小学校令が実施、修業年限尋常四ヶ年、高等二ヶ年（三ヶ年、又は四ヶ年）

明治25・4・1　小学校名を横浜市立尋常高等〇〇小学校と改称

5・6　美沢進が横浜本町外十三ヶ町立商業学校長となつた。

明治26・2・1　常盤町に横浜英学校を創立。

政府は御真影、勅語の奉置方を各郡役所学校に通達。

5　宮内省から横浜第一御料地一、五〇〇坪を横浜商業学校体操場として使用を許可された。

明治28・3　横浜商業夜間部が独立して横浜商業補習学校と改称

明治29・4・1　小学校男子教員の服装が洋服に定められた。

8　学令未満の児童就学取締が県より達せられた。

明治30・4・21　神奈川尋常中学校が戸太町に開校。（五月三日から授業が開始された）

5　地方視学が置かれることになつた。

10・6　師範教育令が公布。（三一・四・一実施）

明治31・4　老松小学校に附属幼稚園を設置。

4　平沼専蔵が駿河町に私立平沼学校を創立。

4　各小学校に校医が置かれた。

明治32・1・26　中村正義が日の出町二丁目に横浜女学校を創立。（二月一一日開校、三八年四月一日横浜高等女学校と改称）

明治32・2 原善三郎が教育奨励のため市内小学校へ一万円、県師範学校及び中学校へ各三千円を寄附。
2・6 中学校令改正、実業学校令、高等女学校令が公布。
3・13 町村立小学校樹栽規程が県の訓令で定まつたので、小学校はそれ〴〵施行した。
8・13 在来の外人経営の学校はすべて私立学校令によつて認可をえた。
10・2 ロマン・カトリック系フランスサンモール修道会が山手に横浜紅蘭女学校を創立。
明治33・8・18 小学校令が改正。
10 保土谷町岡野新田に神奈川県高等女学校が創立。
10 戸部に愛隣女学校が創立。
10 盲人福音会が横浜基督教訓盲院と改称。
明治34・3 本市に設置すべき小学校（一四）及び位置が定められた。（四・一〇施行）
3 県立高等女学校内に師範学校講習所を附設（女子師範の前身）
4・1 第一次市域拡張により久良岐郡戸太町、中村、本牧村、根岸村、橘樹郡神奈川町、保土谷町の岡野新田、久保山大谷、大丸の一部が横浜市に編入し、市人口二九九、二〇二名となつた。神奈川、戸部、北方、本牧、根岸の各小学校が横浜市に編入。

明治35・4 市内私立学校一〇校を尋常小学校に代用。
11 市役所第二課で行われた教育事務は新設教育課で行うことになつた。
明治36・4 戸部に横浜裁縫女学校が創立。
6 横浜キリスト青年会が私立横浜英語学校を譲受け、同会の附属とした。
6 末吉町に横浜外国語学校が設立。
明治37・4 国定教科書を全国に採用させることになつた。
9・20 フォン・シープルブがドイツ国費で横浜ドイツ学校を創立。
11・27 横浜漢学校が野毛町に設立。
明治38・2・15 太田小学校が焼失。
3・31 北仲通に横浜第一高等学小校校（現在の本町小）南吉田町に第三高等小学校（南吉田小）南太田町に第二高等小学校（東小）第四高等小学校（元街小）第五高等小学校（西戸部小）第六高等小学校（二谷小）が設立。
4・1 これまで各学区経営の高等小学校と小学校高等科を廃止し、校名を変更した。全市の十二小学校が尋常小学校にあらためられ、六高等小学校が設置された。
明治29・1 森中原小学校に農業補習学校が附設。
6・1 第二神奈川小学校（青木小学校）が創立。
明治39・10・27 第二戸部小学校（現在の平沼小学校）が創立。
12 神奈川県教員互助会（教員共済会の前身）創設。

明治40・1・11 県立女子師範学校が設立。
3・21 小学校令が改正（義務教育年限六ヶ年、高等小学校を一―三年とした）実施は四一年四月より。
明治41・3・21 尋常小学校に高等科が併置されることになり、市立第一―第六の各高等小学校を廃止。
4・1 横浜女子商業補習学校（横浜女子商業の前身）設立。
4・1 青木小学校（現在の宮谷小学校）が創立。
明治42・4・22 第三南吉田小学校（後の三吉小学校）が創立。
明治43・8・1 海老塚徳三郎、大谷幸兵衛、岡部菊太郎が本町小学校に図書館を開設（横浜における図書館のはじめ）
9・1 神奈川町立実業補習学校が設立。
明治44・4・1 子安、大岡、磯子の各小学校が横浜市に編入。
4・1 橘樹郡子安村の一部、保土谷町の一部、久良岐郡屏風ヶ浦村の一部、大岡川村の一部が市に編入。
4・1 日枝、西前、平楽、第二日枝、立野、一本松の各小学校が開校。
5・10 神奈川県立工業学校が設立。
明治45・4 石川、吉田、北方、太田、西戸部、青木の小学校に夜間部を設置。
大正2・8・18 旭小学校に女子高等裁縫補習学校が併設。
大正3・4・2 佐藤善次郎が横浜実科女学校を吉田町に設立。

10・15 木村担が私立隣徳小学校を設立。
大正5・7 戸部裁縫女学校（戸部高等実践女学校が）創立
大正6・4・1 横浜商業学校が市立に変更。
10 吾国最初の全国小学校女教員大会ひらく。
大正7・3・27 市町村義務教育費国庫負担法が公布。
10 市立教員講習所が横浜小学校内に設立
大正8・1・8 中学関東学院が創立。
2 杉本春樹（救世軍士官）が南太田町に貧困不就学児童教育のため明徳学園を設立。
3・31 元街小学校附属元街商業補習学校が創立。
4・1 吉田小学校附属商業補習学校が創立。
4・1 戸部小学校附属商業補習学校が創立。
4・1 第二日枝小学校附属工業補習学校が創立。
大正9・1・1 浦島小学校が創立。
3・20 県立商工実習学校が創立。
3・20 私立浅野綜合中学校が創立。
11・20 岡野小学校が創立。
大正10・3・15 南太田小学校が創立。
4・1 江吾田（現在の山元）大鳥、稲荷台の各小学校が創立。
大正10・4・8 県立実業補習学校教員養成所（青年学校教員養成所）が創立。
6 横浜市連合青年修養団結成。
7 市立図書館横浜公園内にて閲覧開始。
11・24 横浜千才裁縫女学校が創立。

大正11・4・1　横浜高等工業学校内に市立大岡工業補習学校（後の横浜工業学校）を創立。
4・1　市立寿商業補習学校を創立。
9　第一回図画手工協議会が設立。
大正12・1・20　県立横浜第三中学校を創立。
3・9　私立本牧中学校を創立。
4・1　小学校の名称が横浜市〇〇尋常高等小学校と改称。
4・16　日の出女学校（富士見丘女学校）を創立。
4・26　横浜家政女学校（明倫高等女学校）を創立。
9・1　関東大震災
10・15　市内の各小学校、高等小学校が一斉に授業を開始。
11　横浜市連合婦人会結成。
12・16　横浜図書館閲覧所が仮設され、閲覧開始した。
大正13・9　横浜市震災記念館開館。
10　第一回市民体育大会開催。
10　横浜市児童体育大会（陸上競技中心）横浜商業学校校庭にて開催。
10　社会事業図書館開館。
大正14・2　横浜市青年連合団結成。
4　鶴見高等女学校が創立。
11　第二回市民体育大会開催。
12　横浜市体練会が発足した。
大正15・2　西戸部女子青年会発足、以後各方面に設置を見るに至る。
大正15・4　震災により一時中止した市立教員養成所は寿小学校を仮校舎として再び開所した。（昭和二年横浜商業専修学校内に移転）
4・1　横浜聾唖学院（市立ろう唖学校）が創立された。
7　市内に一五ヶ所の青年訓練所と一分所を設立。
11・13　下野谷小学校が創立。
11　横浜市児童籠球大会開催。
11　小学校長会を開き、翌年三月迄に女子青年団設置の議を定めた。
昭和2・4・1　池上小学校、神橋小学校を創立。
4・1　第三次市域拡張により橘樹郡鶴見町、旭村、大綱村、城郷村、保土谷町の残部、西谷村、久良岐郡日下村、大岡川村の残部、屏風ヶ浦の残部が市に編入。生麦、豊岡、潮田、下野谷、市場、旭、鶴見（現在の東台）、桜岡、日下、日野、保土ヶ谷、帷子、峯、星川、川島、杉田、城郷、大綱の各小学校が横浜市に編入。
4・8　保土ヶ谷町実科高女が開校。（五月三一日市立となる）
5・5　横浜市連合婦人会館（現在の婦人会館）が中区宮崎町に落成した。
7　市立図書館落成。
10・1　横浜市区制施行（鶴見区、神奈川区、中区、保土ヶ谷区、磯子区）

昭和3・2　横浜音楽協会発足。
2　横浜市映画研究会発足。
3・31　市立女子専修学校を創立。
4・1　滝頭、蒔田小学校を創立。
4　横浜市職業指導研究委員会発足。
6・30　浜町小学校が創立。
8　震災紀念館落成。
8　第一回市民水泳大会開催（横浜第二中学校プールで）
10　横浜市補習教育研究会発足。
11・30　幸ヶ谷小学校が創立。
12　児童遊園地、運動場、水泳場落成
昭和4・3　横浜公園野球場完成。
3・31　栗田谷尋常小学校が創立。
4・27　市立中央教材園が中村町に開設。
4・1　市立鶴見実業補習学校が東台実業補習学校と改称。
7・2　間門尋常小学校を開校。
8・26　末吉尋常小学校を創立。
昭和5・4・1　岩崎小学校が創立。
7　横浜市女教員会発足。
8　第一回横浜市小学校児童水泳大会。
昭和6・1・10　芦穂崎尋常小学校が開校。
2　市立児童研究所及び相談部設置。
昭和7・2・9　横浜市学校歯科医会設置。
4　全市の小学校後援会は授業料徴収反対運動を開始した。
7・25　市立小学校の授業料を月額二〇銭と定めた。
11　「横浜市史稿」教育編が刊行。
昭和8・6・15　横浜市女子青年連合会設置。
昭和9・3　三ッ沢尋常小学校が創立。
6　市立小学校全体に少年団結成。
10・1　横浜市教員会発会式。
10　井土ヶ谷小学校を創立。
昭和10・10・1　市立聾唖学校が市立本町尋常小学校内に移転。
10・1　市立の各青年訓練所、専修学校、補習学校および保土ヶ谷家政女学校、女子専修学校をそれぞれ青年学校と改称
10・1　青年学校の学則が定められた。
昭和11・2・10　鶴見高等小学校を創立。
4・1　県立横浜第二高女を創立。
4・1　久良岐郡金沢町、六浦荘村、鎌倉郡永野村が市に編入。永野、富岡、金沢、六浦の各小学校が市に編入された。
4・1　市立鶴見工業実習学校が開校。
6・25　市立高等家政女学校が開校。
昭和12・1　白幡小学校を創立。
1　横浜市学校看護婦会が結成。
1　橘樹郡日吉村の一部を市に編入。日吉台小学校

が市に編入された。

昭和12・1　中村高等小学校を創立。

9　新山下町のヨットハーバーが落成した。

10・4　中区紅葉坂に市教育会館が完成。

10・13　平安小学校を創立。

12　大日本国防婦人会横浜連合会支部結成。

昭和13・4・1　平沼小学校、鶴見工業専修学校（鶴見工業実習小学校）山元学校に青年学校が併設。

6　六角橋水泳場設立。

昭和14・3・10　宮田高等小学校を創立。

4・1　鎌倉郡戸塚町、川上村、豊田村、大正村、中和田村、中川村、瀬谷村、本郷村、都筑郡都岡村、二俣川村、新治村、田奈村、中里村、川和町、新田村、中川村、山内村が市に編入され、港北区、戸塚区が新設された。

4・1　本郷、豊田、戸塚、大正、中和田、瀬谷、岡津、川上、都岡、二俣川、市沢、今井、新田、中川、山内、鉄、谷本、山下、都田、鴨居、中山、新治、田奈の各小学校及び戸塚実科高等女学校が横浜市に編入された。

4・1　新たに編入された町村の区域にある小学校、青年学校の名称が市立に改められた。

4・1　鶴見工業青年学校が鶴見高等小学校に、滝頭青年学校が滝頭小学校に併設。

4　横浜市は教育部を設置（教育課、社会教育課の二課）

5・1　宮田高等小学校が開校。

6・1　星川、北方、末吉各小学校に青年学校が併設。

8　体力検定実施。

4・1　市立鶴見工業実習学校は甲種となり市立鶴見工業学校と改称。

昭和16・1・14　岸谷小学校を創立。

4・1　国民学校令が公布され、小学校がそれぞれ国民学校と改称。

4・1　鶴見工業専修学校は甲種となり市立鶴見第二工業学校と改称。

6　横浜海洋協会発足。

9　横浜市学校教職員報国団の発団式。

昭和17・3・31　市立高等家政女学校を廃止。

5・5　第二横浜商業学校（夜間）が開校。

8・21　中学校四年、高等学校二年と各一年短縮。

9　横浜市市民博物館開館。

昭和18・6・18　矢向国民学校を創立。

10・19　原国民学校を創立。

12・1　南区制施行。

昭和19・1・31　斎藤分国民学校を創立。

2・16　政府は国民学校令等戦時特例を公布、就学義務一二才まで、中等学校も四年卒業等を定める。

2・17　師範教育令を改正、青年学校教員養成所を廃止し、青年師範学校を設置。

昭和19・4・1　市立横浜商業専門学校が経済専門学校と改称。

4・1　市立第二横浜商業学校を廃し、市立専修商業学校に併合。

4・1　市立女子高等専修学校を市立第一女子商業学校と改称、市立女子第二商業を設置（夜間部）

4・1　横浜市立医学専門学校が浦舟町に開校。

4・1　釜利谷、浜、大道の各国民学校を創立。

4・1　市立鶴見第二工業学校が浦島丘に移転。

4・1　西区制施行。

6　政府は一般疎開の促進と共に、国民学校初等科児童の疎開を強度に促進することになつた。

7　横浜市の児童の集団疎開始まる。

8　工場、事業場への中等学校及び国民学校高等科の勤労動員に関する学校勤労令が公布され、教職員および学徒をもつて学校報国隊が組織されることになつた。

昭和20・3・18　政府は「決戦教育措置要綱」を決定、国民学校初等科を除き、学校における授業を四月から一年間停止することになつた。

4・15　空襲により鶴見区の芦穂崎、潮田、平安、浜町、鶴見、保土ケ谷区の帷子、峯の各国民学校を焼失。

5・22　戦時教育令を公布、学校ごとの学徒隊、地域ごとの連合体を組織し、戦時訓練に従わせることになつた。

昭和20・5・29　横浜大空襲により市街地は廃墟と化した。焼失校二七校、半焼、大破は一二校に上つた。

6・18　横浜市教育部は学事厚生部と名称変更。

8・15　大東亜戦争終戦。

9・26　政府は疎開児童の復帰に関して指示。

10・5　「戦時教育令」を廃止。

10・20　横浜の疎開学童第一陣帰る。

10・22　総司令部は日本教育制度に対する管理政策を指令。

11・1　長津田小学校が復活。

昭和21・1・10　横浜市学事厚生部は文教部と名称変更。

2・21　横浜市教員組合は県立第一高女で教員大会を開催。

2・22　「国民学校令等戦時特例」を廃止。

3・14　アメリカ教育使節団来日、報告書を提出（発表は四月七日）

4　学校給食を開始。

5・3　横浜市児童の学力調査を二〇校、五、〇〇〇名に行つた結果によると、学力の低下率は農村の残留組が最も高く次に市街地の残留組、農村の縁故疎開、市街地の集団疎開、最もよいのが市街地の縁故関係となつている。

昭和22・3・31　教育基本法及び学校教育法を公布。（国民学校令、中等学校令、大学令等は廃止）

4・1　青年学校は休校となつた。

昭和22・4 六三制の新学制を実施のため、県、市、区新学制実施準備協議会が発足。
4・30 市内新制中学校長四三名が任命された。
4・30 新制中学校に校舎を転用されたゝめ、小学校の統廃合が行われた。
5・5 新制中学校が一斉に授業を開始。
8・22 横浜市図書館が教育会館より野毛坂に復帰、開館は九月一日。
8 横浜市文教部は教育局と名称変更。
9・1 区に教育課が新設。
9 戦災孤児、引揚げ児童、生活困窮者の子弟を対象として金沢区富岡町に富岡学園を設置。（二五年一月教育委員会から市民生局へ移管）
10・27 横浜市教育研究所が石川小学校内に設置された。
11・11 文部省は視学制度を廃し、指導主事の設置を通告。
昭和23・1・9 新制中学の校舎難解決のため、県では二三年度内に県下に七九校を目標として新設計画をすゝめたが、国庫補助が予定の半額となつたゝめ第一次、第二次と分け、第一次を三月までに完工させることゝなつた。
3・31 青年学校を廃止した。
3・31 大鳥中学校が新設。
4・1 新制高等学校が発足。

昭和23・5・15 金沢区制を施行。（磯子区より分離）
5・15 川和小学校が新設。
7・13 教育委員会法が公布された。
9・1 上瀬谷小学校が新設。
10・5 第一回横浜市教育委員選挙施行（佐藤、高田、吉本、林の四氏が当選）
10・25 区の教育課を廃止、教育出張所となつた。
11・1 横浜市教育委員会が発足。（事務局は庶務、調査、学務、社会教育、施設の五課に指導室）
11・15 青木小学校が復活した。
12・16 横浜市立高等学校の授業料を一〇月分から全日制一五〇円（一〇〇円）定時制一〇〇円（七〇円）に値上げを決定した。
12・18 横浜市臨時文教部が発足。
12・25 瀬谷小学校二ッ橋分校（二ッ橋学園）設置。
昭和24・1・12 「教育公務員特例法」が公布。
2・9 横浜市立大学（商学部のみ）及び同医科大学の設立認可がなされた。四月一日開校。尚、昭和二七年四月、医学部、文理学部が増設され、三学部となつた。
3・31 港高等学校は廃止され、横浜商業高等学校に統合された。
4・1 宮田、大綱、岡村の各中学校を新設。
4・15 西大口中学校、港北小学校を新設。
6・10 社会教育法が公布。

昭和24・8・1 市教委は教育施設使用規則を制定。
8・15 鶴ヶ峰、二俣川の両中学校を合併し、鶴ヶ峰中学校を設置。
11・11 朝鮮人学校を青木小学校沢渡分校、下野谷小学校小野分校として設置。
11・30 高等学校小学区制実施について県・市共同声明が発表された。
12・15 私立学校法が公布。
昭和25・1・1 根岸小学校が復活。
2・10 高田小学校を新設。
2・10 県市教委の話合でア・テストを実施することになつた。但しア・テストは結果だけをみて入学を左右しないことになつた。
4・1 折本、西寺尾、入船の各小学校を新設。
4・1 生活保護法の改正により教育補助が実施されることになつた。
4・1 横浜市P・T・A連絡協議会が結成。
4・1 港高等学校が設置。
4・30 図書館法が公布。
5・5 市教委は成人学校を共進中学校に開設。
7 横浜市は完全給食を実施することになつた。
10・13 横浜市奨学条例を制定、横浜市図書館設置条例を制定。
11・10 第二回教育委員選挙施行（吉本、林の両氏当選）
11・18 三ッ沢小学校が火災。

昭和26・4・1 金沢高等学校を創立。
4・1 綱島、上末吉、蒔田の各小学校を設置。
6・11 産業教育振興法が公布。
6 横浜市中央教材園運営委員会を設置。
7・5 文庫、八景の両小学校を新設。
8 横浜市社会教育委員を委嘱。
9・1 中田、菊名の両小学校を新設。
9・10 中村小学校を新設。
10・8 帷子、東戸塚小学校を新設。
10・8 横浜市教育委員会事務局事務分掌規則制定。
昭和27・4・1 太田、一本松の両小学校が復活。
4 横浜市学校給食委員会は横浜市学校給食会として発足。
7・1 下末吉小学校を新設。
8・8 義務教育費国庫負担法が公布。
8・20 松本小学校が設置された。
10 市民局にあつた健民体育課及び文化課は教育委員会に移管された。
10・5 第三回教育委員選挙施行（足立、佐藤両氏当選）
昭和28・3・31 松本小学校を廃止。
4・1 富士見台、奈良の両小学校、松本中学校を新設。
4・1 横浜市産業教育綜合計画第一次案が発表。
4・1 横浜市婦人会館条例を制定。
5 横浜市婦人団体連絡協議会が結成。

昭和28・7　理科教員最低設備調査委員会を設置。
8・8　理科教育振興法が制定された。
11　各区に設置されていた教育出張所は廃止。
12・9　神橋小学校が火災になつた。
昭和29・2　横浜市立小、中学校の区学域規則を制定。
3・21　保土ケ谷小学校が火災になつた。
4・1　岩井原中学校を新設。
4・15　南高等学校を設置。
6　教育二法案が実施。
6　横浜市社会協力委員会規則が定められた。
6　学校給食法が公布。
7・1　公職選挙法の改正により教育委員の任期は二年延長された。
10・20　横浜市立学校文書取扱規則が定められた。
昭和30・2・6　杉田小学校火災により二三教室焼失。
4・1　寺尾、瀬ケ崎、桜台、大口台の各小学校を新設。
9・1　南小学校を新設。
10・30　第一〇回国民体育大会秋季大会を神奈川県に於て開催（横浜市は陸上競技外八種目を開催）
昭和31・4・1　小学校二部授業中学校不正常授業解消のための五ケ年計画が実施。
4・1　横浜市図書館規則を制定。
4・1　浅間台、立野、白根、西本郷、屏風浦、三ツ境の各小学校を新設。
6・29　五大市体育大会を本市において開催、男子綜合優勝をとげた。
昭和31・6・30　地方教育行政の組織及び運営に関する法律を公布。
9・30　教育委員会法を廃止。
10・1　任命制による新教育委員の就任（長谷川、渡辺堀江、飯田、茂手木の五氏就任）
10・4　横浜市教育研究所条例を制定

編集後記

本書は昭和三十二年の新学制発足十周年記念事業の一つとして企画、刊行されたものであります。

この編集を終つてその経過をふりかえつて見ると、昭和三十年に各方面より本書の刊行が要望されて企画されたのが始まりで、同年は基礎資料を集めることのみにとゞめました。

昭和三十一年二月にいたり市立学校校長会の協力を得て、編集委員会が組織され、編集の具体的方針、内容、刊行方法等について検討いたしました。

実際の資料の蒐集は同年七月よりとりかゝり、各学校に編集委員会において決定された一定様式により資料の提出を求めた。しかし資料の蒐集については各学校とも戦争、疎開、戦災、終戦、接収等のめまぐるしい変化により諸資料が焼失、又は散逸し、その作成には大変御苦労をおかけしましたが、一応九月末日までには提出され、その整理には翌三二年三月までかゝりました。

このころようやく予算的な見通しもあり、関係者も刊行について一安心した。だが短時日の期間に資料を整理したので印刷中もしば〱内容を訂正するような難航を続けたがこゝにようやく粗雑ではあるが完成をみたのであります。

当初の計画からみると学校沿革誌編に重点をおいて編集したのではあるが、これが予想外に頁数が増え予算上の制約をうけ横浜市の教育概要と各種の資料を充実することが出来なかつたことは誠に残念であり、この間、本書の刊行に当つて終始その進捗状況を心配された編集委員諸氏、また刊行間際に転任された板橋前教育長には深く御詫び申し上げます。

また不備な点などについても教育関係者の皆様に十分な御批判を御願いすると共に、郷土教育の参考の一助になれば幸いです。

尚、本書の題字を揮毫された横浜市長平沼亮三氏を始め編集に当つて御甚力をいたゞいた編集委員諸氏、その他関係された方々、教育委員会各課関係者諸氏に対して深く感謝の意を表します。

昭和三十二年十二月一日

学事調査課長　髙村利義

編集関係者氏名 （順不同）

編集顧問

前教育委員　足立直寿
〃　佐藤栄七
〃　林知義
〃　吉本道観
〃　牛頭伊之松
現教育委員　堀江勝巳
〃　長谷川雷助
〃　渡辺富三郎
〃　飯田九一
〃　茂手木知貞
前教育長　板橋英二
現教育長　大砂吉雄
前教育次長　北川若松
現教育次長　福原富治

編集委員

千葉達夫　菊島陽一
安達英雄　島村志計雄
関谷甚　渡辺末雄
飯田忠一　天野丑之進
山本宗一　河原満治
江藤正一　金子芳蔵
田島純熈　丸茂長栗
新倉繁二　黒沢信吾
石井清　高村利義
松岡秋節夫　中島利信
高橋達　故出口大甚

編集協力者

遠藤要　板倉外雄
伊東武雄　朝倉政之
鈴木春吉　柏木和夫
岡本角太郎　島津為三
足立勇三　井上庄平
松川文太　葛野重雄
原嘉市　石井光太郎
青木虹二　江島文雄
井桁留吉　林進治
蒲原静美　我妻迪雄
草柳卓二

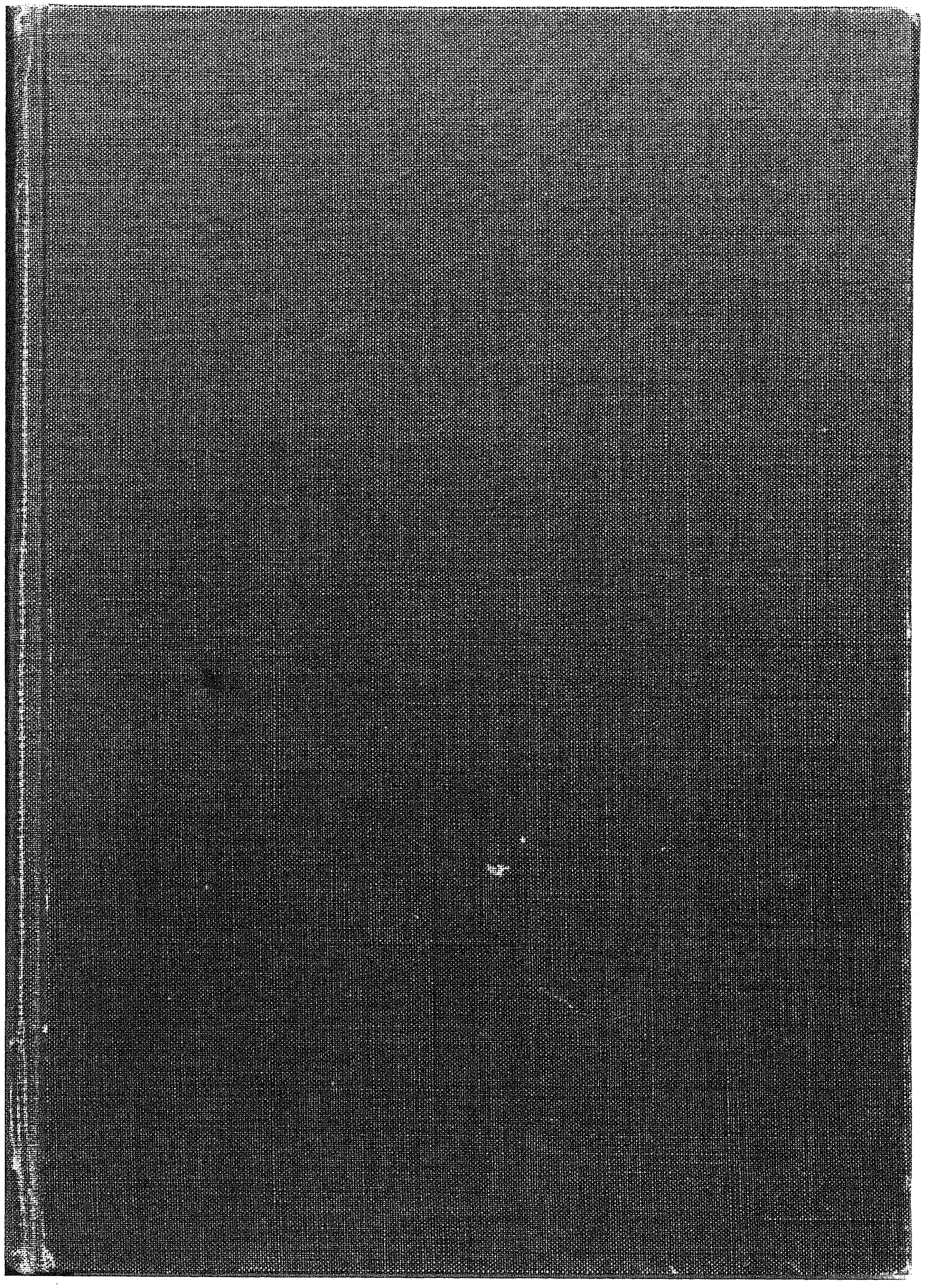
編集担当者

二宮徹　秋葉俊英
村上勝之助　内藤よし江
山田好男　原茂
北田稔　安本忠勝
小谷野美代子　末田隆史

28184
昭和 33.4.12
横濱市圖書館

横浜市学校沿革誌

昭和三十二年十二月一日印刷
昭和三十二年十二月二〇日発行

編集兼発行　横浜市教育委員会
横浜市神奈川区反町二六番地
印刷所　善友印刷株式会社
横浜市南区宮元町四ノ八三